



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

RoomOS 10.3
4 月 2021


アプリケーション プログラミング インターフェイス (API) リファレンス ガイド

RoomOS を実行する Cisco Webex Devices 向け10.3



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

このガイドの内容

トップメニューバーと目次に記載されている項目はすべて、ハイパーリンクが適用されています。各項目をクリックすると対象の項目に移動できます。

定期的に当社のウェブサイトアクセスして、ユーザドキュメントの更新版を入手することをお勧めします。

リンク: <https://www.cisco.com/go/telepresence/docs>

Table of Contents

はじめに	3	HTTP 経由でのデバイスからのフィードバック	25
このガイドについて	4	フィードバックの登録	25
RoomOS 10.3 の新機能	5	ターミナルモードから XML への変換	26
API について	9	すべきこととしてはいけないこと	27
Cisco 利用規約	10	xConfiguration コマンド	28
API の基礎	11	xConfiguration コマンドの説明	29
API に接続する	11	xCommand コマンド	194
SSH	11	xCommand コマンドの説明	195
HTTP/HTTPS	11	xStatus コマンド	327
WebSocket	11	xStatus コマンドの説明	328
RS-232 / シリアル接続	12	付録	445
イーサネットポート	13	サポートされているコマンドの表	446
ユーザーの役割	13	起動スクリプト	496
パスフレーズ	13	SystemTools コマンド	497
API 出力	14	切断原因タイプ	499
コマンド回線を使用する	15	Cisco Web サイトのユーザドキュメント	500
API コマンド	15		
その他のコマンド	15		
コマンド 回線 ショートカット	16		
検索	16		
値のタイプと形式	16		
複数行のコマンド	18		
同期 API 呼び出し	19		
イベント	20		
フィードバックメカニズム	21		
フィードバック式	21		
端末接続	22		
HTTP XMLAPI 認証	23		
HTTP XMLAPI セッション認証	23		
状況と構成を取得する	24		
コマンドと設定を送信する	24		



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

第 1 章

はじめに



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

このガイドについて

このガイドでは、RoomOS ソフトウェアのアプリケーション プログラミング インターフェイス (API) について紹介し、コマンド ライン コマンドのリファレンス ガイドとしての役割を果たします。

このガイドでは、オンプレミスで登録されているビデオ会議デバイス (CUCM、VCS) および Cisco のクラウド サービスに登録されているデバイス (Cisco Webex) の API について説明しています。

使用できるコマンドは、製品、バックエンド (オンプレミス、クラウド)、およびローカル ユーザのユーザ ロール (admin, audit, integrator, roomcontrol, user) によって異なります。

コマンドの概要については、「[サポートされているコマンドの表、ページ 446](#)」を参照してください。

このガイドは以下の製品を対象にしています。

- Room シリーズ:
 - Room Kit
 - Room Kit Mini
 - Codec Plus ¹
 - Codec Pro ²
 - Room 55
 - Room 55 Dual
 - Room 70
 - Room 70 G2
 - Room Panorama
 - Room 70 Panorama
- Desk シリーズ:
 - Desk 限定版
 - Desk Pro
- Webex Boards:
 - Webex Board 55 および 55S
 - Webex Board 70 および 70S
 - Webex Board 85S

ユーザドキュメントのダウンロード

Cisco Collaboration 製品のユーザドキュメントは、次の場所から入手できます。

▶ <https://www.cisco.com/go/telepresence/docs>

製品シリーズを選択します。

▶ [Cisco Webex Board シリーズ](#)

▶ [Cisco Webex Desk シリーズ](#)

▶ [Cisco Webex Room シリーズ](#)

API ガイドを検索するには、[リファレンスガイド > コマンドリファレンス](#)の順に選択します。

Cisco Webex 登録済みデバイスについては、次の場所に移動します: ▶ <https://help.webex.com>

ナビゲーション ガイドラインは付録に含まれています。

¹ Room Kit Plus および Room Kit Plus Precision 60 に含まれるもの

² Room Kit Pro および Room Kit Pro Precision 60 に含まれるもの



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

RoomOS 10.3 の新機能

この章では、新規および変更されたデバイス設定の概要、新機能、ソフトウェア バージョン CE9.15 と比較した場合の改善点について説明します。

詳細については、ソフトウェア リリース ノート (RoomOS 10) を参照してください。

▶ <https://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/desktop-collaboration-experience-dx600-series/tsd-products-support-series-home.html>

▶ <https://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/spark-room-kit-series/tsd-products-support-series-home.html>

▶ <https://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/spark-board/tsd-products-support-series-home.html>

RoomOS 10.3 の新機能と改善

新製品

- Cisco Webex Desk 限定版

ホワイトボードの図形のサポート

(Desk Pro, Desk 限定版, Boards)

ホワイトボード機能を備えたデバイスでは、描画を開始する前に [図形] ボタンをタップして図形モードを有効にします。これにより、ホワイトボードは正方形、円形、三角形、長方形などの基本的な図形を認識し、描画しながらアウトラインを調整できるようになります。

通話中にウェブ アプリを共有する

(Codec Pro, Codec Plus, Room Kit, Room Kit Mini, Room USB, Room 55, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Desk Pro, Desk Limited Edition, Boards)

ウェブ エンジンをサポートするデバイスで、通話中にウェブ ビューを共有できるようになりました。プレゼンタは、インタラクションをサポートするデバイスで、通話中に共有ウェブ ビューを操作できます。共有する前に通話中にウェブビューをプレビューすることはできません。

ミーティングで挙手する

(Codec Pro, Codec Plus, Room Kit, Room Kit Mini, Room 55, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Desk Pro, Desk Limited Edition, Boards)

3 人以上のミーティング中にデバイス画面の新しい [挙手] ボタンをタップして、ミーティングの主催者と共同主催者に、事実上挙手したことを通知できます。同じボタンをタップすると、通知が削除されます。この機能を使用するには、CMS 3.2 以降が必要です。

室内予約 (すべての製品)

Room デバイスが Webex Edge for Devices でクラウドにリンクされていて、カレンダー サービスを使用している場合、室内予約を使用して、現在のミーティングを延長したり、任意のミーティングのために会議室を予約したりできるようになりました。

タッチコントローラ Touch 10 または Room Navigator を使用すると、空いている会議室を予約できます。Webex Assistant が有効な場合、音声コマンドを使用して会議室を予約できます。

イマーシブ共有 (Desk Pro, Desk 限定版)

没入型共有を使用すると、コンピュータ上の任意のコンテンツの上に自分自身を配置することによって、プレゼンテーションに集中できます。プレゼンテーションとビデオはコンテンツストリームに送信されるため、共有を停止するまで集中できます。

タッチ インターフェイスからの PII ログを有効にする (すべての製品)

タッチ インターフェイスから直接、個人を特定できる情報 (PII) ログを有効にできるようになりました。「PII ログ モード」は、[問題と診断] の [設定] メニューから利用できます。

ウェブインターフェイスの会議室分析ダッシュボード

(すべての製品)

Cisco Webex デバイスで任意の会議室分析機能を有効にすると、デバイスのウェブ インターフェイス ホーム ページに [会議室分析 (Room Analytics)] ダッシュボードが表示されます。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

RoomOS 10.3 での xConfiguration の変更

新しい xConfigurations

RoomAnalytics ReverberationTime Interval *(すべての製品)*RoomAnalytics ReverberationTime Mode *(すべての製品)*Video Output Webcam USBMode *(Room Kit Mini)*

削除された xConfigurations

None

変更される xConfiguration

Audio KeyClickDetector Enabled *(Desk Pro)***旧:** デフォルト: True**新:** デフォルト: False音声出力ライン [1] チャンネル *(Room 70 G2, Room 70 Panorama)***旧:** デフォルト: Left**新:** デフォルト: MonoAudio Output Line [2] Channel *(Room 70 G2, Room 70 Panorama)***旧:** デフォルト: Right**新:** デフォルト: MonoCameras Background Enabled *(Desk Pro)***旧:** デフォルト: False**新:** デフォルト: TrueProximity Services ContentShare ToClients *(すべての製品)***旧:** Disabled/Enabled**新:** Disabledビデオ出力コネクタ [1..3] CEC モード *(会議室/パノラマ)***旧:** Off/On**新:** On



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

RoomOS 10.3 での xCommand の変更

新しい xCommands

Conference LowerAllHands (すべての製品)

Conference Participant LowerHand (すべての製品)

削除された xCommands

None

変更された xCommands

音声ローカル入力追加コネクタ (Room Panorama, Room 70 Panorama)

旧: ConnectorType: ARC/HDMI/Microphone/WebView

新: ConnectorType: ARC/Ethernet/HDMI/Microphone/WebView

Audio LocalInput RemoveConnector (Room Panorama, Room 70 Panorama)

旧: ConnectorType: ARC/HDMI/Microphone/WebView

新: ConnectorType: ARC/Ethernet/HDMI/Microphone/WebView

音声 VuMeta 開始 (Boards, Codec Plus, Codec Pro, Desk Pro, Room 55, Room 55 Dual, Room 70 Dual, Room 70 G2, Room 70 Single, Room 70 Panorama, Room Panorama, Room Kit, Room Kit Mini)

新: ソース: AfterAEC/BeforeAEC, デフォルト: BeforeAEC

Audio VuMeter Start (Room Panorama)

旧: ConnectorId: 整数(1..8)

新規: ConnectorId: 整数(1..24)

旧: ConnectorType: HDMI/マイク

新機能: コネクタタイプ: イーサネット/HDMI/マイク

Audio VuMeter Stop (Room Panorama)

旧: ConnectorId: 整数(1..8)

新: ConnectorId: 整数(1..24)

旧: コネクタタイプ: HDMI/マイク

新機能: コネクタタイプ: イーサネット/HDMI/マイク

Call DTMFSend (すべての製品)

新機能: フィードバック: 音声/サイレント, デフォルト: 音声

Cameras Background ForegroundParameters Set (Desk Pro)

新: Composition: Blend/CameraPip/VideoPip

周辺機器接続 (すべての製品)

旧: Type: AudioAmplifier/AudioMicrophone/Byod/ControlSystem/Other/TouchPanel

新: Type: AudioAmplifier/AudioMicrophone/Byod/ControlSystem/Other/RoomScheduler/TouchPanel

周辺機器リスト (すべての製品)

旧: Type: All/AudioAmplifier/ControlSystem/ISDNLink/Other/TouchPanel

新: Type: All/AudioAmplifier/AudioMicrophone/ControlSystem/ISDNLink/Other/TouchPanel

プロビジョニング サービスの取得 (すべての製品)

旧: URL: 文字列(0, 128)

新: URL: 文字列(0, 2048)

UserInterface Branding Fetch (すべての製品)

新規: CustomId: 文字列(0, 128), デフォルト: ""

ユーザ インターフェイス ブランディングのアップロード (すべての製品)

新規: CustomId: 文字列(0, 128), デフォルト: ""

Video ActiveSpeakerPIP Set (すべての製品)

旧: Position: CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight/UpperCenter/UpperLeft/UpperRight

新: Position: CenterLeft/CenterRight/DockCenterLeft/DockLowerLeft/LowerLeft/LowerRight/UpperCenter/UpperLeft/UpperRight

ビデオプレゼンテーション PIP セット (すべての製品)

旧: Position: CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight/UpperCenter/UpperLeft/UpperRight

新: Position: CenterLeft/CenterRight/DockCenterLeft/DockLowerLeft/LowerLeft/LowerRight/UpperCenter/UpperLeft/UpperRight

ビデオセルフビューセット (すべての製品)

旧: PIPPosition: CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight/UpperCenter/UpperLeft/UpperRight

新: PIPPosition: CenterLeft/CenterRight/DockCenterLeft/DockLowerLeft/LowerLeft/LowerRight/UpperCenter/UpperLeft/UpperRight



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

RoomOS 10.3 での xStatus の変更

新しい xStatuses

Audio Input Connectors Ethernet [n] Mute *(Room 70 Panorama, Room Panorama)*ブッキングの空き状況 *(すべての製品)*Bookings Availability TimeStamp *(すべての製品)*RoomAnalytics ReverberationTime LastRun *(すべての製品)*RoomAnalytics ReverberationTime Middle RT60 *(すべての製品)*RoomAnalytics ReverberationTime Octaves [n] CenterFrequency *(すべての製品)*RoomAnalytics 残響時間 オクターブ [n] RT60 *(すべての製品)*SystemUnit Hardware HasWifi *(すべての製品)*UserInterface Branding CustomId Background *(Codec Plus, Codec Pro, Desk Pro, Room 55, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Room Kit, Room Kit Mini, Room Panorama, Room 70 Panorama)*UserInterface Branding CustomId Branding *(すべての製品)*UserInterface Branding CustomId HalfwakeBackground *(すべての製品)*UserInterface Branding CustomId HalfwakeBranding *(すべての製品)*ビデオ出力ウェブカメラ モード *(Desk Pro, Room Kit Mini)*Video Output Webcam Status *(Desk Pro, Room Kit Mini)*WebEngine の機能 WebRTC *(すべての製品)*

削除された xStatuses

None

変更された xStatuses

Call [n] プロトコル *(すべての製品)*

旧: H320/H323/SIP/Spark/Unknown

新: H320/H323/SIP/Spark/Unknown/WebRTC

Diagnostics Message [n] Type *(すべての製品)*

値空間に追加: CallProtocolInvalidCloudProv/DigitalMicrophoneStatus/KioskMode

Peripherals ConnectedDevice [n] タイプ *(すべての製品)*

旧: AudioAmplifier/AudioMicrophone/Byod/Camera/ControlSystem/Headset/ISDNLink/ InputDevice/Other/SpeakerTracker/TouchPanel

新: AudioAmplifier/AudioMicrophone/Byod/Camera/ControlSystem/Headset/ISDNLink/ InputDevice/Other/RoomScheduler/SpeakerTracker/TouchPanel

Video ActiveSpeaker PIPPosition *(すべての製品)*

旧: CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight/UpperCenter/UpperLeft/UpperRight

新: CenterLeft/CenterRight/DockCenterLeft/DockLowerLeft/LowerLeft/LowerRight/ UpperCenter/UpperLeft/UpperRight

ビデオプレゼンテーション PIPPosition *(すべての製品)*

旧: CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight/UpperCenter/UpperLeft/UpperRight

新: CenterLeft/CenterRight/DockCenterLeft/DockLowerLeft/LowerLeft/LowerRight/ UpperCenter/UpperLeft/UpperRight

Video Selfview PIPPosition *(すべての製品)*

旧: CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight/UpperCenter/UpperLeft/UpperRight

新: CenterLeft/CenterRight/DockCenterLeft/DockLowerLeft/LowerLeft/LowerRight/ UpperCenter/UpperLeft/UpperRight



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

第 2 章

API について



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

Cisco 利用規約

Cisco ソフトウェアおよびクラウドサービスの利用は、これらの [利用規約に従うものとします](#)。お客様による Cisco API の使用は、[Cisco Webex 開発者利用規約の対象となります](#)。

スケジュール済みミーティング参加体験に向けて許可されている商用利用

さらに、次の使用例では、商用目的での使用には個別の許可が必要です：スケジュールされたミーティングに似た、ワンプッシュで参加できるエクスペリエンスの提供。これには、この機能を提供するために外部ソースからのカレンダーデータでデバイスを更新する API の使用が含まれます。例えば、“xCommand Bookings Put” または、以前のプライベート API の “bookingsputxml” などです。さらに、他の API を使用して同じ機能を実現する場合、商用利用の許可も必要になります。

スケジュールされたミーティングへの参加エクスペリエンスを提供する場合、許可されている商用利用規約に従うか、非商用目的で使用する必要があります。非商用利用とは、社内での事業運営のみを目的とした使用であり、直接的か間接的かを問わず、収入を生み出すサービスや製品の一部または促進するための API の使用を伴う活動ではないと定義されています。

スケジュール済みミーティングの参加体験を提供する目的で、非商用目的での使用の対象とならない使用については、Cisco からの個別の許可が必要です。

Cisco の独自の裁量により、あなたの使用が不正な商用目的である、または Webex 開発者サービス利用規約に違反すると判断した場合、Cisco は API を使用するためのライセンスを取り消す権利を留保します。API の意図された使用が許可されているかどうか、または許可の取得について質問がある場合は、devsupport@webex.com までお問い合わせください。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

API の基礎

この章には、デバイス API でサポートされるメカニズムの最上位ビューが含まれています。

ここでは、API へのアクセス方法、コマンド回線の使用方法、および API の異なる部分の使用方法について読むことができます。この章では、デバイスで利用可能なフィードバック機能の使用方法についても説明します。

API は 4 つの主要なグループで構成されています。

- ・ コマンド
- ・ 設定
- ・ ステータス
- ・ イベント

これらの 4 つのグループは階層的に編成されているため、関連する機能を見つけやすくなっています。すべてのコマンド、設定、ステータスの一覧については、以降の章で確認できます。

メモ: コマンドが返す値は、デバイスがサードパーティシステムと対話する方法に影響を与える可能性があります。これらはリリースごとに変更される可能性があり、文書化されていません。

API に接続する

デバイス API にアクセスするには、いくつかの方法があります。

- ・ SSH
- ・ HTTP/HTTPS
- ・ WebSocket
- ・ シリアル接続¹

選択する方法に関係なく、API の構造は同じです。用途に最も適した接続方法を選択してください。すべてのメソッドがすべての製品で利用できるわけではないことに注意してください。

開始する前に、異なる方法に関するこのセクションをお読みください。一部の方法は、有効にする前に追加の設定変更が必要な場合があります。パスワード以外の構成は、ウェブインタフェースの [構成] メニューまたはコマンド回線インタフェースから設定できます。例はコマンド回線インタフェースのものです。

SSH

SSH は安全な TCP/IP 接続であり、デバイスではデフォルトで有効になっています。無効にできます。SSH 経由で API にアクセスするには、PuTTY などの SSH クライアントが必要です。

```
xConfiguration NetworkServices SSH Mode:
<Off,On>
```

HTTP/HTTPS

HTTP/HTTPS はコネクションレス型のプロトコルであるため、持続的な接続はありません。HTTP 経由で API と通信するにはいくつかの方法があります。

HTTP および HTTPS サービスを有効または無効にするには、デバイスで次の設定を構成します。

```
xConfiguration NetworkServices HTTP Mode:
<Off, HTTP+HTTPS, HTTPS>
```

接続中

ウェブブラウザでデバイスの IP アドレスまたはホスト名を入力することにより、API を検査することができます。これによりウェブインタフェースが開きます。API ドキュメントはメニューセクション [\[インテグレーション \(Integration\)\]](#) > [\[開発者 API \(Developer API\)\]](#) で見つけることができます。HTTP POST および GET メソッドは、コマンドを実行し、デバイスからフィードバックを取得するために使用されます。これについては、このドキュメントの [「HTTP を使用する、ページ 23」](#)で説明しています。

WebSocket

WebSocket は、クライアントとデバイスの API 間の全二重通信チャンネルを提供するプロトコルです。API コマンドは、WebSocket で送信される前に JSON-RPC オブジェクトに埋め込まれます。

WebSocket の使用を有効または無効にするには、以下の設定を構成します。WebSocket は HTTP と連携しているため、WebSocket を使用する前に HTTP または HTTPS を有効にする必要があります。

```
xConfiguration NetworkServices WebSocket:
<Off, FollowHTTPService>

xConfiguration NetworkServices HTTP Mode:
<Off, HTTP+HTTPS, HTTPS>
```

JSON-RPC オブジェクトで API コマンドを WebSocket 経由で伝える方法については、[「xAPI over WebSocket」](#)ガイドを参照してください。

¹ シリアル接続経由の API アクセスは Room 55 Dual または Room 70 では利用できません。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

RS-232 / シリアル接続

以下の目的で、デバイスへのシリアル接続をセットアップすることができます。

- ・ デバイスの API へのアクセス

API アクセスのシリアル接続は、端末のタイプによって USB-A または COM ポート (D-SUB 9 または 3 ピン ユーロブロック) 経由でセットアップします。³

- ・ メンテナンスとサービス

障害状態から回復するために、デバイスへのシリアル接続が必要な場合があります。詳細については、製品の管理者ガイドを参照してください。

シリアル通信は、IP アドレス、DNS、またはネットワークなしで使用できます。

シリアル通信はデフォルトで有効になっていますが、シリアルポートモードを Off に設定することで無効にすることができます。⁴

```
xConfiguration SerialPort Mode: <Off/On>
```

ボーレートおよびその他のシリアルポートパラメータ

表を参照して、各デバイスタイプのコネクタタイプとシリアルポートパラメータを見つけてください。

デバイスタイプによっては、幅広いボーレートに対応しています。⁵ デバイスからのフィードバックが多いため、できるだけ高いレートで接続を維持することをお勧めします。長いケーブルを使用する場合など、一部の状況では、ビットエラーを避けるために低いレートが使用される場合があります。

```
xConfiguration SerialPort BaudRate:
<9600/19200/38400/57600/115200>
```

新しいボーレートは、デバイスの再起動後に有効になります。

ログインとパスワード

セキュリティ上の理由から、パスワードのプロンプトはデフォルトで On になっていますが、必要に応じて Off にすることができます。

```
xConfiguration SerialPort LoginRequired: <Off/On>
```

デバイスタイプ	コネクタの種類	ボーレート (bps)	その他のパラメータ
Room Kit Mini Room Kit Room 55 Codec Plus Desk Pro	USB-A + RS-232 アダプター	115200	データビット: 8 パリティ: なし ストップビット: 1 ハードウェアフロー制御: Off
Codec Pro Room 70 G2 Room Panorama Room 70 Panorama	COM (ユーロブロック、3 ピン) 推奨 USB-A + RS-232 アダプター	9600、19200、38400、57600、または 115200 (デフォルト)	
Board 55, 70 Board 55S, 70S, 85S Room 55 Dual, Room 70	使用不可		

API アクセスのためのシリアル接続

³ シリアル接続経由の API アクセスは Room 55 Dual または Room 70 では利用できません。

⁴ Webex Board 55 および 70 (第 1 世代の Board) ではシリアル通信が常に有効になっています。無効にすることはできません。

⁵ デバイスの API へのアクセスに使用されるポートにのみ適用されます。メンテナンス専用ポート (micro USB) は常にデフォルトのボーレートを使用します。

⁶ 初期ブートシーケンス中、デバイスは設定されているボーレートに関係なく、38400 bps のボーレートを使用します。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

イーサネットポート

メインのネットワークポートであるネットワークポート 1 は、常に LAN 接続用に予約されています。⁷ これは、すべてのデバイスに該当します。

一部のデバイスには複数のネットワークポートがあります。追加のポートは、カメラ、Touch 10 などの周辺機器に使用できます。

このようなネットワークポートに接続されているデバイスは、ビデオ会議デバイスからローカル IP アドレスを取得するため、企業ネットワークの一部ではありません。

- Cisco デバイスには、デバイスには、次の範囲で動的 IP アドレス(DHCP)を割り当てることができます: 169.254.1.41 ~ 169.254.1.240
- Cisco 以外のデバイスには、次の動的 IP アドレス(DHCP)を割り当てることができます: 169.254.1.30
- **メモ:** 動的 IP アドレスを取得できるのは、一度に 1 台の Cisco 以外の端末のみです。
- Cisco 以外のデバイスには、次の範囲で静的 IP アドレスを割り当てることができます: 169.254.1.241 ~ 169.254.1.254

この方法は、SSH でデバイスに接続するためにも使用できます。この場合、IP アドレス 169.254.1.1 を使用できます。

Power over Ethernet (PoE)

以下の製品には、PoE を提供する 1 つ以上のイーサネットポートがあります。

- Codec Plus, Room Kit Mini, Room 55, Room 55 Dual, Room 70(タッチコントロールのシンボルが記されています)
- Codec Pro, Room 70 G22 ポート: 1 つにはタッチコントロールのシンボルが記されています、もう 1 つは「PoE」の文字が記されています)

ユーザーの役割

ユーザアカウントは 1 つのユーザロール、または複数のユーザロールを保持します。デフォルトの admin ユーザーのようなフルアクセス権限を持つユーザアカウントには、管理者、ユーザー、監査のロールが必要です。

以下がユーザーロールです。

管理者: このロールを持つユーザーは、新規ユーザーの作成、ほとんどの設定の変更、発信、連絡先リストの検索ができます。ユーザーは監査証明書をアップロードできず、セキュリティ監査設定を変更できません。

ユーザー: このロールを持つユーザーは、発信と連絡先リストの検索ができます。ユーザーは、着信音の音量の調整、日時の形式の設定など、いくつかの設定を変更することができます。

監査: このロールを持つユーザーは、セキュリティ監査設定を変更し、監査証明書をアップロードできます。

ルーム管理: このロールを持つユーザーは、カスタマイズされた UI パネル (例えば室内コントロール)を作成することができます。ユーザーは、UI 拡張機能エディターおよび関連する開発ツールにアクセスできます。

インテグレータ: このロールを持つユーザーは、高度な AV シナリオをセットアップし、当社のデバイスをサードパーティの機器と統合するために必要な設定、コマンド、ステータスにアクセスできます。このようなユーザーは、カスタマイズされた UI パネルを作成することもできます。

パスフレーズ

デバイスには、全権限を持つ既定のユーザーアカウントが付属しています。ユーザー名は *admin* です。初期設定では、デフォルトユーザーのパスフレーズは設定されていません。

デバイス設定へのアクセスを制限するために、*admin* ユーザーのパスフレーズの設定は必須です。さらに、同様の資格情報を持つ他のユーザーのパスフレーズを設定する必要があります。

パスフレーズはデバイスのウェブインターフェイスで設定できます。ウェブブラウザを開き、アドレスバーにデバイスの IP アドレスを入力してログインします。右上隅にある自分のユーザー名をクリックし、ドロップダウンメニューの *[パスフレーズの変更 (Change passphrase)]* を選択します。

⁷ デバイスに応じて、ネットワーク ポート 1 は数字の 1、ネットワーク記号 (🌐)、またはその両方でマークされます。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

API 出力

xPreferences は、RS-232、telnet、SSH セッションの基本設定を行うために使用されます。

出力モードは以下の通りです。

ターミナル: 回線ベースのコントロールシステムで使用する回線ベースの出力

XML: XML を認識するコントロールシステムで使用する XML 出力です。

JSON: JSON 形式はウェブベースのシステムと統合する場合に便利です。

デフォルトの出力モードは **ターミナル** です。これを変更するには、各セッションの設定を個別に定義する必要があります。このガイドに記載されている例はターミナルモードで表示されています。

出力モードを XML に設定するには、次のコマンドを発行します:

```
xPreferences outputmode xml
```

ターミナルモードに戻すには、次のコマンドを発行します:

```
xPreferences outputmode terminal
```

例: ターミナルモードのコマンド

```
xCommand Audio Volume Set Level: 50
```

例: XML モードのコマンド

```
<コマンド>
<音声>
<音量>
  <Set command="True">
    <レベル>50</レベル>
  </Set>
</音量>
</音声>
</コマンド>
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

コマンド回線を使用する

ヘルプ

RS-232, Telnet または SSH (Example 1) を使用してデバイスに接続した後、サポートされているすべての最上位コマンドのリストを取得するには、[?](#) または [help](#) を入力します。

終了

bye コマンドを入力してコマンド 回線 インターフェイスを閉じます。

API コマンド

xConfiguration

構成とは、デバイス名やネットワーク設定などのデバイス設定のことです。これらは再起動後も維持されます。[構成、ページ 17](#) を参照してください。

xコマンド

コマンドは、番号のダイヤルや電話帳の検索などのアクションを実行するようにデバイスに指示します。[コマンド、ページ 17](#) を参照してください。

xStatus

ステータスには、接続されたコール、ゲートキーパー登録のステータス、接続された入力と出力ソースなど、デバイスの現在の状態が含まれます。[ステータス、ページ 17](#) を参照してください。

xフィードバック

Feedback コマンドを使って、設定とステータスの階層のどの部分を監視するかを指定します。フィードバックは、指定された RS-232, telnet, SSH セッションでのみ発行されます。複数のセッションでデバイスに接続している場合、各セッションに対して個別にフィードバックを定義する必要があります。[フィードバックメカニズム、ページ 21](#) を参照してください。

例 1:

?

- ユーザコマンド -

```

help          xcommand      xconfiguration  xevent          xfeedback
xgetxml       xpreferences  xstatus         bye             echo
log           systemtools
OK

```

xPreferences

xPreferences コマンドを使用すると、RS-232, Telnet および SSH セッションのユーザー設定を行うことができます。[API 出力、ページ 14](#) を参照してください。

Echo <on/off>

エコーが [On] に設定されている場合、コマンドラインインタフェースにテキストを入力するときにキー入力が表示されます。

エコーが Off に設定されている場合、コマンドラインインタフェースにテキストを入力する際にユーザ入力は表示されません。

xEvent

xEvent コマンドは、どのイベントがフィードバック可能なかを返します。[イベント、ページ 20](#) を参照してください。

xGetxml

xGetxml リクエストは、リクエストに添付されたロケーションパラメータに基づいて XML ドキュメントを返します。式に一致する要素 (またはドキュメント全体) が返されます。[フィードバックメカニズム、ページ 21](#) を参照してください。

その他のコマンド

システムツール

systemtools コマンドは、管理コントロールと診断のためのコマンド回線ツールのセットです。これらのコマンドは、Cisco テクニカル サポートと共に高度なトラブルシューティングに使用できます。Systemtools は、プログラミング API の一部ではありません。[SystemTools コマンド、ページ 497](#) を参照してください。

対数

log コマンドを使って詳細ログを有効にします。デバイスのデバッグにのみ使用されます。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

コマンド 回線 ショートカット

クライアントがサポートしている場合、時間を節約するショートカットがいくつかあります:

- ・ タブ補完でコマンドと引数を完了できます。
- ・ 上矢印および下矢印キーを使ってコマンド履歴を移動します。
- ・ <CTRL-a>: 行の先頭に移動します。
- ・ <CTRL-e>: 行末に移動します。
- ・ <CTRL-r>: コマンド履歴を増分検索します。
- ・ <CTRL-w>: 現在の行を消去します。

検索

// を使用して、ステータスまたは構成階層の任意の要素を検索できます (例 1)。

複数の // を組み合わせることもできます (例 2)。

注意: 検索ショートカットは API の調査には適していますが、アプリケーションでは使用しないでください。新しいファームウェアリリースにアップグレードするとき、コマンドのあいまいさを避けるために、常に完全なパスを使用することをお勧めします。

例 1:

OUT と HDMI で始まる語句を含むすべての構成を一覧表示します。

```
xconfiguration//out//hmdi
*c xConfiguration Audio Output HDMI 1 Level: 0
*c xConfiguration Audio Output HDMI 1 Mode: On
*c xConfiguration Audio Output HDMI 2 Level: 0
*c xConfiguration Audio Output HDMI 2 Mode: Off
** end
```

例 2:

入力と出力の両方について、接続されているすべてのソースの解像度の幅を取得します。

```
xStatus //vid//res//wid
*s Video Input Source 1 Resolution Width: 1920
*s Video Input Source 2 Resolution Width: 0
*s Video Input Source 3 Resolution Width: 0
*s ビデオ入力ソース 4 解像度 幅: 0
*s ビデオ出力コネクタ 1 解像度 幅: 1920
*s ビデオ出力コネクタ 2 解像度 幅: 1280
*s ビデオ出力コネクタ 3 解像度 幅: 1280
** end
```

値のタイプと形式

デバイスは、次の値の種類をサポートしています。

- ・ **整数値:** <x.. y>
整数入力の有効範囲を指定します。x = 最小値、y = 最大値。
- ・ **リテラル値:** <X/Y/./Z>
指定された構成で可能な値を定義します。
- ・ **文字列値:** <S: x, y>
この設定の有効な入力、最小 x 文字、最大 y 文字の文字列であることを指定します。文字列には、形式と長さをさらに指定するルールを含めることができます。

スペースを含む入力値は引用符で囲む必要があります

スペースを含む設定およびコマンドの値は引用符で囲む必要があります。スペースのない値には引用符は必要ありません。

例:

```
正: xCommand dial number: "my number contains spaces"
正: xCommand dial number: 12345
誤: xCommand dial number: my number contains spaces
```

大文字と小文字の区別

すべてのコマンドで大文字と小文字は区別されません。以下のすべてのコマンドが機能します。

```
XCOMMAND DIAL NUMBER: foo@bar.org
xcommand dial number: foo@bar.org
xCommand Dial Number: foo@bar.org
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

コマンド

コマンドは、番号のダイヤルや電話帳の検索などのアクションを実行するようにデバイスに指示します。すべてのコマンドは、プレフィックス `xCommand` で始まり、その後にコマンドパスが続きます。

コマンドラインに `xCommand ?` と記述すると、すべての最上位コマンドが一覧表示されます。

コマンドとパラメータの完全な一覧を表示するには、コマンド回線に `xCommand ??` と記述します。

コマンド引数はキーと値のペアです。

`xCommand` を発行する場合、コマンドは 1 つの引数と 1 つの必須パラメータで構成されます。このドキュメントでは、すべての `xCommands` に対するコマンドの使用方法が、必須およびオプションのパラメータと共に記載されています。オプションのパラメータは大括弧で囲まれています。

例:

```
xCommand Dial Number: 123
```

`xCommand` はコマンドのプレフィックスです。実行されるコマンドは `Dial` です。

この例には 1 つの引数、`Number: 123` が含まれています。`Number` がキーで `123` が値です。キーと値のペアは「:」で区切ります。

構成

構成は起動を越えて持続するデバイス設定です。コマンドと同様に、構成も階層構造になっています。

コマンドラインに `xConfiguration ?` と記述すると、すべての最上位の構成が一覧されます。

`xConfiguration ??` と記述すると、すべての構成とその値空間が一覧されます。

`xConfiguration` と記述すると、すべての構成とその現在の値が一覧されます。`xConfiguration` を記述し、その後に構成パスの一部または複数の部分が続けることで、一部の構成のみを一覧表示します。

例: H323 エイリアス ID の設定

タイプ:

```
xConfiguration H323 プロファイル 1 H323 エイリアス
ID: "changed@company.com"
```

例: H323 エイリアス ID の取得

タイプ:

```
xConfiguration H323 プロファイル 1 H323 エイリアス ID
結果:
*c xConfiguration H323 Profile 1 H323Alias ID:
"changed@company.com"
** end
```

ステータス

ステータスには、接続されたコール、ゲートキーパー登録のステータス、接続された入力と出力ソースなど、デバイスの現在の状態が含まれます。

コマンドラインに `xStatus ?` と記述すると、すべての上位レベルのステータスが一覧されます。

`xStatus` と記述すると、すべてのステータスとその現在の値が一覧されます。

ステータスの一部のみを一覧表示するには、`xstatus` の後にステータスパスの関連部分 (アドレス式) を記述します。

```
xStatus <address expression>
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

複数行のコマンド

複数行のコマンドは、1 行のコマンドよりも大量の入力をサポートします。使用例には、室内制御の定義、ブランディング画像(base64 エンコード)、マクロ、ウェルカムバナー、セキュリティ証明書の入力などがあります。

複数行のコマンド構文:

```
xCommand <command path> <enter>
<payload> <enter>
.<enter>
```

他の xAPI コマンドと同様に、複数行のコマンドを入力します。しかし、コマンドはユーザーが入力としてコマンドペイロードを提供するのを待ってから実行します。ペイロードの形式はコマンドによって異なります。改行を含めることができます。

ピリオドと改行のみを含む行を入力すると、このコマンドが実行されます。

コマンドが正常に実行されたかどうかに応じて、返される結果は OK または ERROR です。

複数行のコマンドは、本ガイドのコマンド説明でそのように記されています。

例: ウェルカムバナーテキストのセットアップ

コマンド:

```
xCommand SystemUnit WelcomeBanner Set
Hello!
This is the second line of text.
This is the third.
Thank you!
.
```

コマンドの結果:

```
OK
*r WelcomeBannerSetResult (status=OK):
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

同期 API 呼び出し

API は非同期に機能します。これは、コマンドが発行されたのと同じ順序でコマンド応答が到着する保証がないことを意味します。デバイスの変更により、デバイスは、ステータスの変更またはイベントの形式で、リクエストと応答の間にフィードバックを返すこともあります。

一部のアプリケーションでは、リクエストとレスポンスを一致させることが重要です。そのため、API は応答タグメカニズムをサポートしています。

このメカニズムは、xcommand、xconfiguration、xstatus のすべてのコマンドタイプで機能します。これの一般的な使用法は、アプリケーションでコマンドキューを作成し、デバイスに送信されるすべてのコマンドに一意の ID を割り当てることです。その後、リスナはデバイスからのすべてのフィードバックを聞き、応答の ID をコマンドキュー内の対応する ID と照合します。これにより、元のリクエストを特定のレスポンスと照合できます。

例:

```
xcommand Video Layout Add | resultId="mytag_1"
OK
*r VideoLayoutAddResult (status=OK):
LayoutId: 1
** resultId: "mytag_1"
** end
```

XML モードでは、resultId が属性として最上位の XmlDocument タグに追加されます。

```
xgetxml /Configuration/Video/Layout/Scaling | resultId="mytag_2"
<XmlDoc resultId="mytag_2">
<Configuration item="1">
  <Video item="1">
    <Layout item="1">
      <Scaling item="1" valueSpaceRef="...">Off</Scaling>
    </レイアウト>
  </Video>
</Configuration>
</XmlDoc>
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

イベント

Event はフィードバック可能なイベントに関する情報を返します。この概要では、API で利用できるイベントの例を紹介します。

サポートされているイベントの概要を取得するには:

- [xEvent](#) - 最上位イベントを一覧します
- [xEvent <top level category>](#): そのカテゴリの使用可能イベントを一覧表示します
- [xEvent *](#): デバイスで使用可能なすべてのイベントを一覧表示します

イベントの結果は、デバイスの状態によって異なります。

例 1: 発信コール表示

発信コール表示は、発信コールがダイヤルされる直前に報告されるイベントです。通話に割り当てられた CallId を返します。

```
*e OutgoingCallIndication CallId: x
** end
```

例 2: 通話の切断

通話の切断は、通話が切断されたときに報告されるイベントです。切断された通話の CallId と通話が切断された理由を返します。

```
*e CallDisconnect CallId: x CauseValue: 0
CauseString: "" CauseType: LocalDisconnect
OrigCallDirection: "outgoing"
** end
```

例 3: 通話の成功

通話の成功は、通話が正常に接続されたとき、つまりすべてのチャンネルがアップおよび確立されたときに報告されるイベントです。

```
*e CallSuccessful CallId: 132 Protocol: "h223"
Direction: "outgoing" CallRate: 768 RemoteURI:
"h223:integratorHQ@company.com" EncryptionIn:
"Off" EncryptionOut: "Off"
** end
```

例 4: FECC アクション要求

FECC アクション要求は、遠端が FECC コマンドを送信するときに報告されるイベントです。

```
*e FeccActionInd Id: 132 Req: 1 Pan: 1
PanRight: 1 Tilt: 0 TiltUp: 0 Zoom: 0 ZoomIn: 0
Focus: 0 FocusIn: 0 Timeout: 300 VideoSrc:
0 m: 0
** end
```

例 5: TString メッセージの受信

TString メッセージの受信は、遠端が TString メッセージを送信したときに報告されるイベントです。

```
*e TString CallId: 132 Message: "ee"
** end
```

例 6: SString メッセージの受信

SString メッセージの受信は、遠端が SString メッセージを送信したときに報告されるイベントです。

```
*e SString String: "ee" Id: 132
** end
```




はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

フィードバックメカニズム

アプリケーションとデバイス間の状態を同期して確実に維持できるソリューションを構築するために、デバイスの状態の変更を報告するように通知システムをセットアップできます。

API は次の通知をサポートします。

- ・ 設定変更
- ・ ステータス変更
- ・ イベント通知

これらの通知は、デバイスに明示的に指示しない限り送信されません。フィードバック式を登録することでフィードバックを登録することができます。フィードバック式の登録方法は、使用する接続方法によって異なります。

HTTP を使用する場合、フィードバックを処理する方法は、このセクションで示されているものとは若干異なります。詳細については、[HTTP 経由でのデバイスからのフィードバック](#)、[ページ 25](#)を参照してください。

警告: デバイスは、特にコールが接続された場合と切断された場合、大量のフィードバックを出す可能性があります。必要なフィードバックのみを購読してください。

xFeedback register /Status を発行して、すべてのステータスフィードバックに登録しないでください。これにより、コントロールアプリケーションに処理できるデータが多すぎる可能性があります。その結果、動作が遅くなったり、予期しない動作が発生したりする場合があります。

フィードバック式

フィードバックを登録する際に使用される式は、XPath 言語のバリエーションです。XPath 言語は、XML/JSONドキュメントからノードを選択する方法を規定しています。ソフトウェアには、3 つの主要なフィードバックドキュメントが含まれています。

マニュアル	API コマンド	パス
ステータス	xStatus	/Status
設定	xConfiguration	/Configuration
イベント	xEvent	/Event

フィードバック登録の構文は次のとおりです: xFeedback register <path>

xFeedback register /Status を発行して、すべてのステータスフィードバックに登録しないでください。

設定変更はそれほど頻繁には行われなため、全ての設定変更は xFeedback register /Configuration を使って登録することは安全です。

いくつかの例を通して、フィードバックの式を構築するためにこの情報をどのように使用できるかを見ることができます。式を確認する良い方法は、ブラウザに <http://<ip-address>/getxml?location=path> を指定するか、ターミナルから xgetxml <path> を実行し、出力がフィードバックが必要なノードと一致することを確認します。

例 1: マイクのミュート状況

ターミナルクエリ

```
xStatus Audio Microphones Mute
*s Audio Microphones Mute: Off
** end
```

同等のフィードバック式

```
xFeedback register /Status/Audio/Microphones/Mute
```

例 2: すべてのビデオ入力コネクタの名前

ターミナルクエリ

```
xConfiguration Video Input Connector Name
*c xConfiguration ビデオ入力コネクタ 1 名前: "NameA"
*c xConfiguration Video Input Connector 2 Name:
"NameB"
*c xConfiguration Video Input Connector 3 名前:
"NameC"
*c xConfiguration Video Input Connector 4 名前:
"NameD"
*c xConfiguration Video Input Connector 5 Name:
"NameE"
** end
```

同等のフィードバック式

```
xFeedback register /Configuration/Video/Input/
Connector/Name
```

例 3: ビデオ入力コネクタ 3 の名前

ターミナルクエリ

```
xConfiguration Video Input Connector 3 Name
*c xConfiguration Video Input Connector 3 名前:
"NameC"
** end
```

同等のフィードバック式

```
xFeedback register /Configuration/Video/Input/
Connector[@item='3']/Name
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

端末接続

フィードバックの登録を管理する

フィードバック表現の登録、一覧表示、登録解除には xFeedback コマンドと対応するサブコマンドを使用します。

登録された式は、現在アクティブな接続に対してのみ有効です。2 つの telnet セッションを開き、一方のセッションのフィードバックを得るために登録した場合、もう一方のセッションではフィードバックを受け取りません。これは、セッションから切断した場合、再接続後にすべての式を登録し直す必要があることも意味します。

最大 38 件の式を登録することができます。

フィードバック出力

フィードバック出力は、xConfiguration および xStatus コマンドを使用してデバイスを照会するときに取得するものとまったく同じです。例えば、コマンドラインで xStatus Standby Active コマンドを発行した場合、結果は次のようになります：

```
*s Standby Active: On
** end
```

ステータスの変更に関するフィードバックを登録した場合、デバイスがスタンバイ モードになったときに受け取るフィードバックはまったく同じになります。

```
*s Standby Active: On
** end
```

これは、デバイスに対してプログラミングしているときに、1 つの形式のみを処理する必要があることを意味します。

例: フィードバック登録を管理する

A: フィードバック表現を登録します。

書き込み先: xFeedback register /Status/Audio

結果: ** end

OK

書き込み先: xFeedback register /Event/CallDisconnect

結果: ** end

OK

書き込み先: xFeedback register /Configuration/Video/
メインビデオソース

結果: ** end

OK

B: 現在登録されている式をリストアウトする

書き込み先: xFeedback list

結果: /Configuration/Video/MainVideoSource

/Event/CallDisconnect

/Status/Audio

** end

OK

C: フィードバック式を登録解除する

書き込み先: xFeedback deregister /Event/CallDisconnect

結果: ** end

OK

書き込み先: xFeedback deregister /Status/Audio

結果: ** end

OK

D: 新しいフィードバック式を一覧表示する

書き込み先: xFeedback list

結果: /Configuration/Video/MainVideoSource

** end

OK



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

HTTP を使用する

デバイスは、HTTP および HTTPS 経由でのコマンドと設定の送信をサポートしています。この方法で構成とステータスを取得することも可能です。このインターフェイスはコマンド回線と同じ API を露出しますが、XML 形式です。

HTTP XMLAPI 認証

ユーザーが XMLAPI にアクセスするには、「管理者」ロールを持つユーザーとして HTTP 基本アクセス認証を使用して認証する必要があります。未認証のリクエストは、基本アクセス認証チャレンジを含む 401 HTTP レスポンスを結果として出します。HTTP Basic アクセス認証の使用法は、使用している HTTP ライブラリまたはツールによって異なります。

アプリケーションが API を通じて複数のコマンドを発行する場合、セッション認証を使用することを強くお勧めします（下記を参照）。標準の基本認証はリクエストごとに完全な再認証を行います。これはアプリケーションのパフォーマンスに影響を与える可能性があります。

HTTP XMLAPI セッション認証

API リクエストごとにユーザー名とパスワードの組み合わせを使用して認証すると、一部のユースケースで遅延が大きくなりすぎる場合があります。これを軽減するために、API はセッションベースの認証メカニズムをサポートしています。

セッションを開くには、<http://<ip-address>/xmlapi/session/begin> に基本アクセス認証で POST を発行します。応答は、後続の要求で使用できる SessionId-cookie を設定します。

API セッション認証を使用する場合、完了したらセッションを明示的に閉じることが重要であることに注意してください。それを怠ると、デバイスのセッションが枯渇する可能性があります。これは、利用できる同時セッションの数が限られているためです。また、自動的にタイムアウトは発生しません。

URL チートシート

API over HTTP にアクセスする際に使う主な URL を次の表に示します。

方法	URL	説明
GET	<a href="http://<ip-address>/status.xml">http://<ip-address>/status.xml	完全なステータス文書
GET	<a href="http://<ip-address>/configuration.xml">http://<ip-address>/configuration.xml	完全な構成文書
GET	<a href="http://<ip-address>/command.xml">http://<ip-address>/command.xml	完全なコマンド文書
GET	<a href="http://<ip-address>/valuespace.xml">http://<ip-address>/valuespace.xml	完全な値スペース文書
GET	<a href="http://<ip-address>/getxml?location=<path>">http://<ip-address>/getxml?location=<path>	パスに基づいてドキュメントを取得する
POST	<a href="http://<ip-address>/putxml">http://<ip-address>/putxml	HTTP 本文の設定と命令

例: HTTP XMLAPI セッションを開始する

リクエスト:

```
POST /xmlapi/session/begin HTTP/1.1
Authorization: Basic <Base64 encoded authentication string>
```

レスポンス:

```
HTTP/1.1 204 No Content
Server: nginx/1.8.0
Connection: keep-alive
Set-Cookie: SessionId=f08102c8ce5aaf8fba23a7238cc2ef464b990e18bfbb7fb048820c0e28955c54; Path=/; HttpOnly
```

このセッションは、デバイスの同時セッション制限に対してカウントされます。

開いているセッションで、SessionId クッキーを次のリクエストに提供します。ツール/ライブラリがこれを自動的に行う場合があります。

例: HTTP XMLAPI セッションを使用する

リクエスト:

```
GET /configuration.xml HTTP/1.1
Cookie: SessionId=f08102c8ce5aaf8fba23a7238cc2ef464b990e18bfbb7fb048820c0e28955c54
```

レスポンス:

```
HTTP/1.1 200 OK
Server: nginx/1.8.0
Content-Type: text/xml; charset=UTF-8
Content-Length: 43549
Connection: keep-alive
```

```
<Configuration product="Cisco Codec"
version="ce8.2.0" apiVersion="4">...
```

使用後にセッションを閉じるには、提供されたクッキーと共に <http://<ip-address>/xmlapi/session/end> に POST を発行します。

例: HTTP XMLAPI セッションを閉じる

リクエスト:

```
POST /xmlapi/session/end HTTP/1.1
Cookie: SessionId=f08102c8ce5aaf8fba23a7238cc2ef464b990e18bfbb7fb048820c0e28955c54
```

レスポンス:

```
HTTP/1.1 204 No Content
サーバ: nginx/1.8.0
Connection: keep-alive
Set-Cookie: SessionId=; Max-Age=0; Path=/; HttpOnly
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

状況と構成を取得する

例 1: デバイスのすべての状況エントリを取得する

```
http://<ip-address>/getxml?location=/Status
```

例 2: 端末の音声ステータスのみを取得する

```
http://<ip-address>/getxml?location=/Status/Audio
```

例 3: デバイスのすべての構成を取得する

```
http://<ip-address>/getxml?location=/Configuration
```

例 4: デバイスのすべてのビデオ設定を取得する

```
http://<ip-address>/getxml?location=/
Configuration/Video
```

コマンドと設定を送信する

HTTP POST を使用する

設定とコマンドをデバイスに送信する場合、HTTP ヘッダーのコンテンツタイプが text/xml に設定されていることが重要です (例: [Content-Type: text/xml](#))。POST の本文には XML コンテンツを含める必要があります。

例 1: デバイス名を変更する

要求

```
POST /putxml HTTP/1.1
Content-Type: text/xml
```

```
<Configuration>
  <SystemUnit>
    <Name>newName</Name>
  </SystemUnit>
</Configuration>
```

例 2: カメラ位置の設定

要求

```
POST /putxml HTTP/1.1
Content-Type: text/xml
```

<コマンド>

<カメラ>

```
<PositionSet command="True">
  <CameraId>1</CameraId>
  <Pan>200</Pan>
  <Tilt>200</Tilt>
</PositionSet>
</Camera>
</Command>
```

応答

```
HTTP/1.1 200 OK
Content-Type: text/xml
コンテンツの長さ: 91
```

<コマンド>

```
<CameraPositionSetResult item="1" status="OK"/>
</コマンド>
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

HTTP 経由でのデバイスからのフィードバック

API 状態の変更について、デバイスに http フィードバックメッセージ (Webhook と呼ばれます) をポストさせることができます。例えば、ステータス、イベント、設定の更新などです。HTTP POST フィードバックメッセージは指定された ServerURL に送信されます。XML または JSON 形式のいずれかで投稿されるイベントを選択できます。最大 15 の異なるフィードバック式を登録することで、API の複数の部分の変更を登録できます。

フィードバックの登録

登録のためのコマンドは xCommand HttpFeedback Register です。このコマンドと引数の構文はこのセクションで説明されています。

HttpFeedback Register の構文:

```
xCommand HttpFeedback Register
FeedbackSlot: <1..4>
ServerUrl(r): <S: 1, 2048>
Format: <XML/JSON>
Expression: <S: 1, 255>
Expression: <S: 1, 255>
式: <S: 1, 255>
式: <S: 1, 255>
式: <S: 1, 255>
式: <S: 1, 255>
式: <S: 1, 255>
式: <S: 1, 255>
式: <S: 1, 255>
式: <S: 1, 255>
式: <S: 1, 255>
式: <S: 1, 255>
式: <S: 1, 255>
式: <S: 1, 255>
```

HttpFeedback 登録の引数:

フィードバックスロット: デバイスは HTTP フィードバックを要求するサーバーを最大 4 スロットまで登録できます。それらの一つに登録を設定します。

注: Cisco TelePresence Management Suite (TMS) が使用されている環境でのフィードバックスロット 3 の使用は避けてください。TMS はこのフィードバックスロットを使って式を登録するためです。

ServerUrl: デバイスが HTTP フィードバックメッセージを送信する先の HTTP サーバーの URL です。

形式: HTTP サーバーからのフィードバックの形式を XML または JSON に設定します。

式 1-15: XPath 式は、ステータス、設定、またはイベントドキュメントのどの部分を監視するかを指定します。1 から 15 個の XPath 式をもつことができます

フィードバックを希望する式を登録します。式の形式に関する詳細は、[フィードバックメカニズム、ページ 21](#) を参照してください。

例: 設定の変更、切断イベント、通話状況の変更に関するフィードバックを登録する。

```
POST /putxml HTTP/1.1
Content-Type: text/xml
```

<コマンド>

```
<HttpFeedback>
  <Register command="True">
    <FeedbackSlot>1</FeedbackSlot>
    <ServerUrl>http://127.0.0.1/
      myhttppostscripturl</ServerUrl>
    <Format>XML</Format>
    <Expression item="1">/Configuration</
      Expression>
    <Expression item="2">/Event/
      CallDisconnect</Expression>
    <Expression item="3">/Status/Call</
      Expression>
  </Register>
</HttpFeedback>
</Command>
```

フィードバック出力

デバイスが変更について登録された HTTP サーバーに通知するとき、本体には、投票時と同じ XML が含まれます。ただし、1 つだけ小さな違いがあります。ルートノードには、通知が発信されたデバイスを指定する子を持つ [Identification](#) ノードが含まれます。これは、単一の HTTP サーバー URI で複数のデバイスを処理できることを意味します。

例: 音声の音量が変更された。

```
<Configuration xmlns="http://www.company.com/XML/
CUIL/2.0">
  <Identification>
    <SystemName>My Device Name</SystemName>
    <MACAddress>00:00:de:ad:be:ef</MACAddress>
    <IPAddress>192.168.1.100</IPAddress>
    <ProductType>Cisco Codec</ProductType>
    <ProductID>Cisco Codec Pro</ProductID>
    <SWVersion>RoomOS 10.3.1.3 d425380c40d</
      SWVersion>
    <HWBoard>101401-5 [08]</HWBoard>
    <SerialNumber>PH00000000</SerialNumber>
  </Identification>
  <Audio item="1">
    <音量 item="1">60</音量>
  </音声>
</Configuration>
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ターミナルモードから XML への変換

コマンドを変換中

XML コマンドは、ターミナル コマンドと同じ構造を維持しますが、階層を記述するために、親子関係を使用します。この構造は以下の例で見ることができます。

例 1: 通話の設定

ターミナル

```
xCommand ダイヤル番号: "12345" プロトコル: H323
```

XML

```
<コマンド>
  <Dial command="True">
    <Number>12345</Number>
    <Protocol>H323</Protocol>
  </Dial>
</Command>
```

例 2: 音量を指定する

ターミナル

```
xCommand Audio Volume Set Level: 50
```

XML

```
<コマンド>
  <音声>
    <音量>
      <Set command="True">
        <レベル>50</レベル>
      </Set>
    </音量>
  </音声>
</コマンド>
```

設定を変換する

xConfiguration から XML への変換はコマンドに似ていますが、配列のインデックスを指定するための特別な属性 item="NN" が追加されています。

例: ビデオ入力コネクタ 2 の入力ソースタイプを設定する

ターミナル

```
xConfiguration Video Input Connector 2
InputSourceType: camera
```

XML

```
<Configuration>
  <Video>
    <Input>
      <Connector item="2">
        <InputSourceType>camera</InputSourceType>
      </Connector>
    </Input>
  </Video>
</Configuration>
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

すべきこととしてはいけないこと

Cisco API をプログラミングする際のベスト プラクティスを以下に示します。

リモートコントロールのエミュレーションを避ける

xCommand UserInterface OSD Key Click および xCommand UserInterface OSD Key Press の使用は避けてください。コマンドは引き続き API で使用できますが、インテグレーションの下位互換性を確保するため、直接コマンドの使用をお勧めします。Onスクリーンディスプレイではなく、デバイスに対してプログラムしてください。

完全なコマンドを使用する

プログラミング中は常に完全なコマンドを使用する必要があります。つまり、xconf vid の代わりに xConfiguration Video を常に使用してください。ショートカットは、コマンド回線の API での検索に使用できますが、プログラミングには使用できません。これは、API にコマンドが追加されると、あいまいなコードになる可能性があるためです。

不必要なフィードバックを登録しないでください

フィードバックの登録が多すぎると、コントロールアプリケーションが混雑する場合があります。フィードバックの量は現在のバージョンでは問題ないように見えるかもしれませんが、フィードバックの量は今後のリリースで増える可能性があります。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

第 3 章

xConfiguration コマンド



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration コマンドの説明

この章では、xConfiguration コマンドの完全なリストを見ることができます。

音声設定	36	xConfiguration 音声マイクミュート有効	47
xConfiguration Audio DefaultVolume	36	xConfiguration Audio Microphones PhantomPower	47
xConfiguration Audio Input ARC [n] Mode	37	xConfiguration Audio Output ARC [n] Delay DelayMs	48
xConfiguration 音声入力 HDMI [n] レベル	37	xConfiguration Audio Output ARC [n] Delay Mode	48
xConfiguration Audio Input HDMI [n] Mode	38	xConfiguration Audio Output ARC [n] Mode	49
xConfiguration Audio Input HDMI [n] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo	38	xConfiguration Audio Output ConnectorSetup	49
xConfiguration 音声入力マイク [n] チャンネル	39	xConfiguration Audio Output Ethernet [n] Mode	50
xConfiguration 音声入力マイク [n] EchoControl モード	39	xConfiguration Audio Output HDMI [n] Delay DelayMs	51
xConfiguration Audio Input Microphone [n] EchoControl Dereverberation	40	xConfiguration Audio Output HDMI [n] Delay Mode	51
xConfiguration Audio Input Microphone [n] EchoControl NoiseReduction	40	xConfiguration Audio Output HDMI [n] Level	52
xConfiguration 音声入力 マイク [n] イコライザー ID	41	xConfiguration Audio Output HDMI [n] Mode	52
xConfiguration 音声入力 マイク [n] イコライザー モード	41	xConfiguration Audio Output InternalSpeaker Mode	53
xConfiguration Audio Input Microphone [n] Level	41	xConfiguration Audio Output Line [n] Channel	53
xConfiguration 音声入力マイク [n] モード	42	xConfiguration Audio Output Line [n] Delay DelayMs	54
xConfiguration Audio Input Microphone [n] MuteOverride	42	xConfiguration Audio Output Line [n] Delay Mode	54
xConfiguration Audio Input Microphone [n] PhantomPower	43	xConfiguration Audio Output Line [n] Equalizer ID	55
xConfiguration Audio Input Microphone [n] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo	43	xConfiguration 音声出力回線 [n] イコライザーモード	55
xConfiguration Audio Input Microphone [n] VideoAssociation VideoInputSource	44	x構成 音声出力回線 [n] レベル	55
xConfiguration Audio Input MicrophoneMode	44	xConfiguration 音声出力回線 [n] モード	56
xConfiguration 音声入力 USBC [n] レベル	45	xConfiguration Audio Output Line [n] OutputType	56
xConfiguration Audio Input USBC [n] Mode	45	xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingTone	57
xConfiguration 音声入力 WebView [n] モード	45	xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingVolume	57
xConfiguration Audio KeyClickDetector Attenuate	46	xConfiguration Audio Ultrasound 最大音量	57
xConfiguration Audio KeyClickDetector Enabled	46	xConfiguration 音声 USB モード	58
xConfiguration Audio Microphones AGC	46		
xConfiguration Audio Microphones NoiseRemoval Mode	47		



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

Bookings configuration	58
xConfiguration Bookings ProtocolPriority	58
BYOD の設定	59
xConfiguration BYOD HidForwarding Enabled	59
xConfiguration BYOD TouchForwarding Enabled.....	59
CallHistory の構成	60
xConfiguration CallHistory モード	60
カメラ設定	60
xConfiguration Cameras Background Enabled	60
xConfiguration Cameras Background UserImagesAllowed	61
xConfiguration Cameras Camera [n] AssignedSerialNumber	61
xConfiguration Cameras Camera [n] Backlight DefaultMode	62
xConfiguration Cameras Camera [n] Brightness Mode.....	62
xConfiguration Cameras Camera Brightness Mode	63
xConfiguration Cameras Camera [n] Brightness DefaultLevel.....	63
xConfiguration Cameras Camera Brightness DefaultLevel.....	64
xConfiguration カメラ カメラ露出補正レベル	64
xConfiguration Cameras Camera [n] Flip.....	64
xConfiguration Cameras カメラ [n] フォーカス モード	65
xConfiguration Cameras Camera [n] Gamma Mode	65
xConfiguration Cameras Camera [n] ガンマレベル.....	66
xConfiguration Cameras Camera [n] Mirror.....	66
xConfiguration Cameras Camera [n] Whitebalance Mode.....	67
xConfiguration Cameras Camera [n] Whitebalance Level.....	67
xConfiguration Cameras Camera Framerate	68
xConfiguration Cameras PowerLine Frequency	68
xConfiguration Cameras PresenterTrack CameraPosition Pan.....	69
xConfiguration Cameras PresenterTrack CameraPosition Tilt.....	69
xConfiguration Cameras PresenterTrack CameraPosition Zoom	69
xConfiguration Cameras PresenterTrack Connector	69
xConfiguration Cameras PresenterTrack Enabled.....	70

xConfiguration カメラ PresenterTrack PresenterDetectedStatus.....	70
xConfiguration Cameras PresenterTrack TriggerZone	71
xConfiguration Cameras SpeakerTrack Mode.....	71
xConfiguration Cameras SpeakerTrack Closeup	72
xConfiguration Cameras SpeakerTrack TrackingMode.....	72
xConfiguration カメラ SpeakerTrack Connector 検出モード.....	73
xConfiguration Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection CameraLeft	73
xConfiguration Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection CameraRight	74
xConfiguration Cameras SpeakerTrack Whiteboard Mode.....	74
会議設定	75
xConfiguration Conference AutoAnswer Mode	75
xConfiguration Conference AutoAnswer Mute	75
xConfiguration Conference AutoAnswer Delay	75
xConfiguration Conference DefaultCall Protocol	76
xConfiguration Conference DefaultCall Rate	76
xConfiguration Conference DoNotDisturb DefaultTimeout	77
xConfiguration 会議暗号化モード	77
xConfiguration Conference FarEndControl Mode.....	78
xConfiguration Conference FarEndControl SignalCapability	78
xConfiguration Conference FarEndMessage Mode.....	78
xConfiguration Conference MaxReceiveCallRate.....	79
xConfiguration Conference MaxTransmitCallRate.....	79
xConfiguration Conference MaxTotalReceiveCallRate.....	80
xConfiguration Conference MaxTotalTransmitCallRate.....	80
xConfiguration Conference MicUnmuteOnDisconnect Mode.....	81
xConfiguration 会議マルチポイントモード	81
xConfiguration Conference MultiStream Mode	82
施設サービスの構成	82
xConfiguration FacilityService Service [n] Type.....	82
xConfiguration FacilityService Service [n] Name	83
xConfiguration FacilityService Service [n] Number.....	83
xConfiguration FacilityService Service [n] CallType.....	84



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

GPIO の設定.....	84
xConfiguration GPIO ピン [n] モード.....	84
H323 の設定.....	85
xConfiguration H323 認証モード.....	85
xConfiguration H323 Authentication LoginName.....	86
xConfiguration H323 認証パスワード.....	86
xConfiguration H323 通話設定モード.....	86
xConfiguration H323 暗号化キーサイズ.....	86
xConfiguration H323 ゲートキーバーアドレス.....	87
xConfiguration H323 H323Alias E164.....	87
xConfiguration H323 H323Alias ID.....	87
xConfiguration H323 NAT モード.....	88
xConfiguration H323 NAT アドレス.....	88
HttpClient 設定.....	89
xConfiguration HttpClient Mode.....	89
xConfiguration HttpClient AllowHTTP.....	89
xConfiguration HttpClient AllowInsecureHTTPS.....	90
xConfiguration HttpClient UseHttpProxy.....	90
HttpFeedback 設定.....	91
xConfiguration HttpFeedback TlsVerify.....	91
xConfiguration HttpFeedback UseHttpProxy.....	91
ロギングの設定.....	92
xConfiguration Logging CloudUpload Mode.....	92
xConfiguration Logging External Mode.....	92
xConfiguration Logging External Protocol.....	92
xConfiguration Logging External Server Address.....	93
xConfiguration Logging External Server Port.....	93
xConfiguration Logging External TlsVerify.....	93
xConfiguration Logging Internal Mode.....	94

マクロ 設定.....	94
xConfiguration マクロモード.....	94
xConfiguration Macros AutoStart.....	95
xConfiguration Macros UnresponsiveTimeout.....	95
ネットワークの設定.....	95
xConfiguration ネットワーク [n] DNS DNSSEC モード.....	95
xConfiguration Network [n] DNS Domain Name.....	96
xConfiguration Network [n] DNS Server [m] Address.....	96
xConfiguration Network [n] IEEE8021X Mode.....	97
xConfiguration ネットワーク [n] IEEE8021X TlsVerify.....	97
xConfiguration Network [n] IEEE8021X UseClientCertificate.....	98
xConfiguration Network [n] IEEE8021X アイデンティティ.....	98
xConfiguration ネットワーク [n] IEEE8021X パスワード.....	98
xConfiguration Network [n] IEEE8021X AnonymousIdentity.....	99
xConfiguration Network [n] IEEE8021X Eap Md5.....	99
xConfiguration Network [n] IEEE8021X Eap Tls.....	100
xConfiguration Network [n] IEEE8021X Eap Tls.....	100
xConfiguration Network [n] IEEE8021X Eap Peap.....	101
xConfiguration Network [n] IPStack.....	101
xConfiguration Network [n] IPv4 の割り当て.....	102
xConfiguration ネットワーク [n] IPv4 アドレス.....	102
xConfiguration ネットワーク [n] IPv4 ゲートウェイ.....	102
xConfiguration ネットワーク [n] IPv4 サブネットマスク.....	103
xConfiguration Network [n] IPv6 Assignment.....	103
xConfiguration Network [n] IPv6 Address.....	104
xConfiguration Network [n] IPv6 ゲートウェイ.....	104
xConfiguration Network [n] IPv6 DHCPOptions.....	104
xConfiguration Network [n] IPv6 InterfacelIdentifier.....	105
xConfiguration Network [n] MTU.....	105
xConfiguration Network [n] QoS Mode.....	106
xConfiguration Network [n] QoS Diffserv Audio.....	106
x構成 ネットワーク [n] QoS Diffserv ビデオ.....	107
xConfiguration Network [n] QoS Diffserv Data.....	107



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Network [n] QoS Diffserv Signalling.....	108
xConfiguration Network [n] QoS Diffserv ICMPv6	108
xConfiguration ネットワーク [n] QoS Diffserv NTP	109
xConfiguration Network [n] RemoteAccess Allow.....	109
xConfiguration ネットワーク [n] 速度	110
xConfiguration ネットワーク [n] VLAN 音声モード	110
xConfiguration Network [n] VLAN Voice VlanId.....	111
NetworkServices 構成	111
X 構成 ネットワークサービス CDP モード	111
xConfiguration NetworkServices H323 Mode	111
xConfiguration NetworkServices HTTP モード.....	112
xConfiguration NetworkServices HTTP プロキシ ログイン名.....	112
xConfiguration NetworkServices HTTP プロキシ パスワード	112
xConfiguration NetworkServices HTTP Proxy Mode	113
xConfiguration NetworkServices HTTP プロキシ URL	113
xConfiguration NetworkServices HTTP プロキシ PACUrl	113
xConfiguration NetworkServices HTTPS Server MinimumTLSVersion	114
xConfiguration NetworkServices HTTPS StrictTransportSecurity.....	114
xConfiguration NetworkServices HTTPS VerifyClientCertificate.....	114
xConfiguration NetworkServices NTP モード.....	115
xConfiguration NetworkServices NTP サーバ [n] アドレス	115
xConfiguration NetworkServices NTP サーバ [n] キー	116
xConfiguration NetworkServices NTP サーバー [n] KeyId.....	116
xConfiguration NetworkServices NTP Server [n] KeyAlgorithm.....	117
X 構成 ネットワークサービス SIP モード.....	117
X 構成 ネットワークサービス SMTP モード.....	117
xConfiguration NetworkServices SMTP サーバ	118
xConfiguration NetworkServices SMTP ポート	118
xConfiguration NetworkServices SMTP ユーザ名	118
xConfiguration NetworkServices SMTP パスワード	118
xConfiguration NetworkServices SMTP From	119
xConfiguration NetworkServices SMTP セキュリティ.....	119
X 構成 ネットワークサービス SNMP モード	120
xConfiguration NetworkServices SNMP CommunityName	120

xConfiguration ネットワークサービス SNMP システム連絡先.....	120
xConfiguration NetworkServices SNMP SystemLocation	121
X 構成 ネットワークサービス SSH モード	121
xConfiguration NetworkServices SSH HostKeyAlgorithm	121
xConfiguration NetworkServices UPnP モード.....	122
xConfiguration NetworkServices Websocket	122
xConfiguration NetworkServices WelcomeText.....	122
xConfiguration NetworkServices Wifi Allowed	123
周辺機器の設定	123
xConfiguration 周辺機器 InputDevice モード.....	123
xConfiguration Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing.....	124
xConfiguration Peripherals Profile Cameras	124
xConfiguration Peripherals Profile ControlSystems.....	125
xConfiguration Peripherals Profile TouchPanels	125
電話帳の設定	126
xConfiguration 電話帳サーバ [n] ID	126
xConfiguration Phonebook Server [n] ページネーション.....	126
xConfiguration Phonebook Server [n] TlsVerify	127
xConfiguration 電話帳サーバ [n] タイプ	127
xConfiguration 電話帳サーバ [n] URL.....	128
プロビジョニングの構成	128
xConfiguration Provisioning Connectivity	128
xConfiguration Provisioning CUCM CallManagementRecords CallDiagnostics	129
xConfiguration Provisioning ExternalManager Address.....	129
xConfiguration Provisioning ExternalManager AlternateAddress	130
xConfiguration Provisioning ExternalManager Protocol.....	130
xConfiguration Provisioning ExternalManager Path.....	130
xConfiguration Provisioning ExternalManager Domain	130
xConfiguration Provisioning Mode	131
xConfiguration Provisioning LoginName	131
xConfiguration プロビジョニングパスワード	131
xConfiguration Provisioning TlsVerify.....	132



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Provisioning WebexEdge	132
Proximity の設定	133
xConfiguration Proximity AlternatePort Enabled	133
xConfiguration 近接通信モード	133
xConfiguration 近接通信サービス通話制御	134
xConfiguration Proximity Services ContentShare FromClients	134
xConfiguration Proximity Services ContentShare ToClients	134
RoomAnalytics 設定	135
xConfiguration RoomAnalytics AmbientNoiseEstimation Interval	135
xConfiguration RoomAnalytics 周囲ノイズ推定モード	135
xConfiguration RoomAnalytics PeopleCountOutOfCall	135
xConfiguration RoomAnalytics PeoplePresenceDetector	136
xConfiguration RoomAnalytics 残響時間間隔	136
xConfiguration RoomAnalytics 残響時間モード	136
RoomCleanup の構成	137
xConfiguration RoomCleanup AutoRun ContentType WebData	137
xConfiguration RoomCleanup AutoRun ContentType Whiteboards	137
xConfiguration RoomCleanup AutoRun HourOfDay	137
RoomScheduler 設定	138
xConfiguration RoomScheduler Enabled	138
セキュリティ設定	138
xConfiguration セキュリティ監査ログモード	138
xConfiguration Security Audit OnError Action	139
xConfiguration セキュリティ監査サーバアドレス	139
xConfiguration セキュリティ監査サーバポート	139
xConfiguration セキュリティ監査サーバのポート割り当て	140
xConfiguration セキュリティ Fips モード	140
xConfiguration Security Session FailedLoginsLockoutTime	141
xConfiguration Security Session InactivityTimeout	141
xConfiguration Security Session MaxFailedLogins	141

xConfiguration Security Session MaxSessionsPerUser	141
xConfiguration Security Session MaxTotalSessions	142
xConfiguration Security Session ShowLastLogon	142
シリアルポートの構成	142
xConfiguration SerialPort Mode	142
xConfiguration SerialPort BaudRate	143
xConfiguration SerialPort LoginRequired	143
SIP の設定	144
xConfiguration SIP ANAT	144
xConfiguration SIP 認証ユーザ名	144
xConfiguration SIP 認証パスワード	144
xConfiguration SIP DefaultTransport	144
xConfiguration SIP DisplayName	145
xConfiguration SIP Ice DefaultCandidate	145
xConfiguration SIP Ice モード	145
xConfiguration SIP ListenPort	146
xConfiguration SIP MinimumTLSVersion	146
xConfiguration SIP プロキシ [n] アドレス	146
xConfiguration SIP TlsVerify	147
xConfiguration SIP Turn Server	147
xConfiguration SIP Turn UserName	147
xConfiguration SIP Turn Password	148
xConfiguration SIP URI	148
スタンバイ構成	148
xConfiguration Standby BootAction	148
xConfiguration スタンバイコントロール	149
xConfiguration スタンバイ遅延	149
xConfiguration スタンバイサイネージ音声	149
xConfiguration スタンバイ サイネージ インタラクション モード	149
xConfiguration Standby Signage Mode	150
xConfiguration Standby Signage RefreshInterval	150
xConfiguration Standby Signage Url	150



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Standby StandbyAction	150
xConfiguration Standby WakeupAction	151
xConfiguration Standby WakeupOnMotionDetection	151

SystemUnit 設定 152

xConfiguration SystemUnit Name	152
xConfiguration SystemUnit CrashReporting Mode	152
xConfiguration SystemUnit CrashReporting Url	152
xConfiguration SystemUnit CustomDeviceId	153

時間設定 153

xConfiguration Time TimeFormat	153
xConfiguration Time DateFormat	153
xConfiguration タイムゾーン	154

ユーザーインターフェイス設定 156

xConfiguration UserInterface Accessibility IncomingCallNotification	156
xConfiguration UserInterface Assistant Mode	156
xConfiguration UserInterface Bookings Visibility Title	156
xConfiguration UserInterface Branding AwakeBranding Colors	157
xConfiguration UserInterface ContactInfo Type	157
xConfiguration UserInterface CustomMessage	158
xConfiguration UserInterface Diagnostics Notifications	158
xConfiguration UserInterface KeyTones Mode	158
xConfiguration ユーザインターフェイス機能 通話終了	158
xConfiguration ユーザインターフェイス機能 通話キーパッド	159
xConfiguration UserInterface Features Call JoinWebex	159
xConfiguration UserInterface Features Call MidCallControls	159
xConfiguration UserInterface Features Call MusicMode	159
xConfiguration UserInterface Features Call Start	160
xConfiguration UserInterface Features Call VideoMute	160
xConfiguration UserInterface Features HideAll	160
xConfiguration UserInterface Features Share Start	160

xConfiguration UserInterface Features Whiteboard Start	161
xConfiguration UserInterface Language	161
xConfiguration UserInterface OSD EncryptionIndicator	161
xConfiguration UserInterface OSD HalfwakeMessage	162
xConfiguration UserInterface OSD Mode	162
xConfiguration UserInterface OSD Output	163
xConfiguration UserInterface Phonebook Mode	163
xConfiguration UserInterface Proximity Notifications	163
xConfiguration ユーザインタフェースセキュリティモード	164
xConfiguration ユーザーインタフェース設定メニューモード	164
xConfiguration UserInterface SettingsMenu Visibility	165
xConfiguration UserInterface SoundEffects Mode	165
xConfiguration UserInterface UsbPromotion	165
xConfiguration UserInterface WebcamOnlyMode	166
xConfiguration UserInterface Whiteboard ActivityIndicators	166

UserManagement 設定 167

xConfiguration UserManagement LDAP Admin Filter	167
xConfiguration UserManagement LDAP Admin Group	167
xConfiguration ユーザ管理 LDAP 属性	167
xConfiguration UserManagement LDAP BaseDN	168
xConfiguration UserManagement LDAP Encryption	168
xConfiguration UserManagement LDAP MinimumTLSVersion	168
xConfiguration UserManagement LDAP Mode	169
xConfiguration UserManagement LDAP Server Address	169
xConfiguration UserManagement LDAP Server Port	169
xConfiguration UserManagement LDAP VerifyServerCertificate	170
xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumDigits	170
xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumLength	171
xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumLowercase	171
xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumSpecial	172
xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumUppercase	172
xConfiguration UserManagement PasswordPolicy MaxLifetime	173



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration UserManagement PasswordPolicy ReuseLimit 173

ビデオの設定 174

xConfiguration ビデオ DefaultMainSource 174

xConfiguration Video Input Connector [n] CameraControl Camerald 174

xConfiguration Video Input Connector [n] CameraControl Mode 175

xConfiguration ビデオ入力コネクタ [n] CEC モード 175

xConfiguration ビデオ入力コネクタ [n] HDCP モード 176

xConfiguration Video Input Connector [n] InputSourceType 176

xConfiguration Video Input Connector [n] Name 177

xConfiguration Video Input Connector [n] PreferredResolution 177

xConfiguration Video Input Connector [n] PresentationSelection 178

xConfiguration ビデオ入力コネクタ [n] 品質 179

xConfiguration Video Input Connector [n] RGBQuantizationRange 179

xConfiguration Video Input Connector [n] Visibility 180

xConfiguration Video Monitors 180

xConfiguration ビデオ出力コネクタ [n] CEC モード 181

xConfiguration Video Output Connector [n] Location HorizontalOffset 182

xConfiguration Video Output Connector [n] Location VerticalOffset 183

xConfiguration Video Output Connector [n] MonitorRole 184

xConfiguration Video Output Connector [n] Resolution 184

xConfiguration Video Output Connector [n] RGBQuantizationRange 185

xConfiguration Video Output Webcam USBMode 186

xConfiguration Video Presentation DefaultSource 186

xConfiguration Video Presentation Priority 186

xConfiguration Video Selfview Default FullscreenMode 187

xConfiguration Video Selfview Default Mode 187

xConfiguration Video Selfview Default OnMonitorRole 188

xConfiguration Video Selfview Default PIPPosition 188

xConfiguration Video Selfview OnCall Mode 189

xConfiguration Video Selfview OnCall Duration 189

音声コントロールの構成 189

xConfiguration VoiceControl ウェイクワード モード 189

Web エンジンの構成 190

xConfiguration WebEngine MinimumTLSVersion 190

xConfiguration ウェブエンジンモード 190

xConfiguration WebEngine RemoteDebugging 190

xConfiguration WebEngine UseHttpProxy 191

Webex の設定 191

xConfiguration Webex CloudProximity GuestShare 191

xConfiguration Webex CloudProximity Mode 192

xConfiguration Webex CloudUpgrades モード 192

xConfiguration Webex Meetings 参加プロトコル 193



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ソフトウェアバージョン: RoomOS 10.3.2

対象製品:

- CodecPro
- CodecPlus
- Room70G2
- Room70/Room55D
- Room55
- RoomKit
- RoomKitMini
- RoomPanorama/Room70Panorama
- DeskPro/DeskLE
- ボード

音声設定

xConfiguration Audio DefaultVolume

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

スピーカーのデフォルトの音量を定義します。ビデオ会議デバイスの電源を入れるか再起動すると、音量はこの値に設定されます。ユーザインターフェイス上のコントロールを使用して、実行中に音量を変更します。API コマンド(xCommand Audio Volume)を使用すると、デバイスの実行中に音量を変更したり、デフォルト値にリセットしたりすることもできます。

使用方法:

xConfiguration Audio DefaultVolume: DefaultVolume

値は次のとおりです。

DefaultVolume:

整数 (0..100)

範囲: 1 から 100 までの値を選択します。これは、-34.5 dBから15 dBまでのdB範囲に対応し、0.5 dBのステップで増減します。0 に設定すると、音声が無音になります。

デフォルト値:

50 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/
Room70Panorama DeskPro/DeskLE]

70 [ボード]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Audio Input ARC [n] Mode

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

各 HDMI 出力には、関連する音声リターンチャンネルがあります。ARC を使用して、HDMI 出力に接続されている画面または TV の音声をビデオ会議デバイスに送信することができます。各 HDMI 出力コネクタ (n) について、音声送信を許可するかどうかを個別に決定することができます。

使用方法:

xConfiguration Audio Input ARC [n] Mode: Mode

値は次のとおりです。

n: ARC 入力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..1 [*CodecPlus*]

範囲: 1..3 [*CodecPro*]

範囲: Room 70 Dual G2 の場合は 3..3、Room 70 シングル G2 の場合は 2..3 [*Room70G2*]

範囲: 3..3 [*RoomPanorama/Room70Panorama*]

Mode:

Off/On

Off: HDMI 出力 n の ARC チャンネルを無効にします (音声はビデオ会議デバイスに送信されません)。

On: HDMI 出力 n の ARC チャンネルを有効にします (音声はビデオ会議デバイスに送信されます)。

デフォルト値:

On

xConfiguration 音声入力 HDMI [n] レベル

適用対象: *RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

HDMI 入力コネクタのゲインを設定します。ゲインは 1 dB 刻みで調整できます。

使用方法:

xConfiguration 音声入力 HDMI [n] レベル: レベル

値は次のとおりです。

n: HDMI 入力を識別する一意の ID です。

範囲: 2..3 [*CodecPlus Room70/Room55D*]

範囲: 1..5 [*CodecPro*]

範囲: 1..1 [*RoomKit RoomKitMini DeskPro/DeskLE*]

範囲: 1..2 [*Room55*]

範囲: 2..5 [*Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

レベル:

整数 (-24..0)

範囲: 利得をデシベル (db) で選択します。

デフォルト値:

0



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Audio Input HDMI [n] Mode

適用対象: *RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

HDMI 入力コネクタの音声を有効にするかどうかを定義します。

使用方法:

xConfiguration 音声入力 HDMI [n] モード: モード

値は次のとおりです。

n: HDMI 入力を識別する一意の ID です。

範囲: 2..3 [*CodecPlus Room70/Room55D*]

範囲: 1..5 [*CodecPro*]

範囲: 1..1 [*RoomKit RoomKitMini DeskPro/DeskLE*]

範囲: 1..2 [*Room55*]

範囲: 2..5 [*Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

Mode:

Off/On

Off: HDMI 入力の音声を無効にします。

On: HDMI 入力で音声を有効にします。

デフォルト値:

On

xConfiguration Audio Input HDMI [n] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo

適用対象: *RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

この設定を使用して、接続されたプレゼンテーションソースが画面に表示されていない場合にその音声再生を停止するか、またはプレゼンテーションソースが接続されている限り常に音声を再生するかを決定します。

使用方法:

xConfiguration Audio Input HDMI [n] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo:
MuteOnInactiveVideo

値は次のとおりです。

n: HDMI 入力を識別する一意の ID です。

範囲: 2..3 [*CodecPlus Room70/Room55D*]

範囲: 1..5 [*CodecPro*]

範囲: 1..2 [*Room55*]

範囲: 2..5 [*Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

範囲: 1..1 [*RoomKit RoomKitMini*]

MuteOnInactiveVideo:

Off/On

Off: プレゼンテーションソースが接続されている限り、音声はローカルと相手の両方で再生されます。HDMI 入力ソースを提示する必要はありません。

On: 接続されたプレゼンテーションソースが画面に表示されている場合にのみ、音声はローカルと相手側で再生されます。

デフォルト値:

On [*RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D*]

HDMI [1,2]: Off HDMI [3,4,5]: On [*CodecPro*]

HDMI [2]: Off HDMI [3,4,5]: On [*Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration 音声入力マイク [n] チャンネル

適用対象: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

マイク入力の信号がモノラルかマルチチャンネル信号の一部かを定義します。

使用方法:

xConfiguration 音声入力マイク [n] チャンネル: チャンネル

値は次のとおりです。

n: マイク入力を識別する一意の ID。

範囲: 1..8

チャンネル:

左/モノラル/右

左: マイク入力信号はステレオ信号の左チャンネルです。

モノラル: マイク入力信号はモノラル信号です。

右: マイク入力信号はステレオ信号の右チャンネルです。

デフォルト値:

Mono

xConfiguration 音声入力マイク [n] EchoControl モード

適用対象: *RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

エコーキャンセラは、会議室の音声特性に合わせて継続的に調整し、音声環境で検出した変更を補償します。音声状態の変化が大きい場合、エコーキャンセラが再調整するのに 1.2 秒かかる場合があります。

使用方法:

xConfiguration 音声入力マイク [n] EchoControl モード: モード

値は次のとおりです。

n: マイク入力を識別する一意の ID。

範囲: 1..8 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

範囲: 1..3 [*CodecPlus Room70/Room55D*]

範囲: 2..3 [*RoomKit Room55*]

Mode:

Off/On

Off: エコーコントロールをOffにします。外部エコー キャンセリングまたは再生機器を使用する場合に推奨。

On: エコーコントロールをOnにします。一般に、相手側が自分の音声を聞くことを防ぐ場合に推奨されます。選択すると、エコーキャンセリングは常に有効になります。

デフォルト値:

On



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Audio Input Microphone [n] EchoControl Dereverberation

適用対象: *RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

ビデオ会議端末には、会議室の残響を軽減するための信号処理機能が内蔵されています。残響除去では、音声入力マイク [n] EchoControl モードが有効になっている必要があります。

使用方法:

xConfiguration 音声入力マイク [n] EchoControl 残響除去: 残響除去

値は次のとおりです。

n: マイク入力を識別する一意の ID。

範囲: 1..8 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

範囲: 1..3 [*CodecPlus Room70/Room55D*]

範囲: 2..3 [*RoomKit Room55*]

残響除去:

Off/On

Off: 残響除去をOffにします。

On: 残響除去をOnにします。

デフォルト値:

Off

xConfiguration Audio Input Microphone [n] EchoControl NoiseReduction

適用対象: *RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

ビデオ会議デバイスにはノイズ軽減機能が内蔵されており、例えば、空調システムや冷却ファンなどの静止した背景ノイズを除去します。さらに、ハイパスフィルタ(Humfilter)は超低周波ノイズを除去します。ノイズ除去を使用するには音声入力マイク [n] EchoControl モードが有効になっている必要があります。

使用方法:

xConfiguration Audio Input Microphone [n] EchoControl NoiseReduction:
NoiseReduction

値は次のとおりです。

n: マイク入力を識別する一意の ID。

範囲: 1..8 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

範囲: 1..3 [*CodecPlus Room70/Room55D*]

範囲: 2..3 [*RoomKit Room55*]

NoiseReduction:

Off/On

Off: ノイズ除去をOffにします。

On: ノイズ除去をOnにします。低周波ノイズがある場合に推奨。

デフォルト値:

On



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration 音声入力 マイク [n] イコライザー ID

適用対象: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

マイク入力に接続されているソースのイコライザー ID を選択します。

使用方法:

xConfiguration 音声入力マイク [n] イコライザー ID: ID

値は次のとおりです。

n: マイク入力を識別する一意の ID。

範囲: 1..8

ID:

整数 (1..8)

イコライザ ID を設定します。

デフォルト値:

1

xConfiguration 音声入力 マイク [n] イコライザー モード

適用対象: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

マイク入力に接続されたソースのイコライザー モードを定義します。

使用方法:

xConfiguration Audio Input Microphone [n] Equalizer Mode: Mode

値は次のとおりです。

n: マイク入力を識別する一意の ID。

範囲: 1..8

Mode:

Off/On

Off: イコライザーを使用しません。

On: マイク入力に接続されているソースのイコライザーを有効にします。

デフォルト値:

Off

xConfiguration Audio Input Microphone [n] Level

適用対象: *RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

マイク入力コネクタのゲインを設定します。ゲインは、接続されている音声ソースの出力レベルに合うように調整する必要があります。ゲインは 1 dB 刻みで調整できます。

ゲインの設定が高すぎる場合、音声信号がクリップされます。ゲインの設定が低すぎると、音声の S/N 比が低下します。しかし、これは通常、クリッピングよりも望ましい状態です。

未処理の音声信号には通常、大きなレベル変動が含まれるため、十分な信号ヘッドルームを確保することが非常に重要であることに注意してください。

0 dB ゲイン時の最大入力レベルは製品によって異なります: -18 dBu(Room Kit, Codec Plus, Room 55, Room 70, Room 55 Dual), 24 dBu(Codec Pro, Room 70 G2)。

例: マイクの最大出力レベルが -44dBu で、かつ Codec Pro に接続されている場合、ゲインを 24dBu - (-44dBu) = 68dB に設定します。

使用方法:

xConfiguration 音声入力マイク [n] レベル: レベル

値は次のとおりです。

n: マイク入力を識別する一意の ID。

範囲: 1..8 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

範囲: 1..3 [*CodecPlus Room70/Room55D*]

範囲: 2..3 [*RoomKit Room55*]

レベル:

整数 (0..26) [*RoomKit Room55*]

整数 (0..24) [*CodecPlus Room70/Room55D*]

整数 (0..70) [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

範囲: 利得をデシベル (db) で選択します。

デフォルト値:

14 [*RoomKit CodecPlus Room55 Room70/Room55D*]

58 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration 音声入力マイク [n] モード

適用対象: *RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

マイク コネクタの音声を無効または有効にします。

Room Kit, Room 55: マイク [1] はデバイスの内部マイクです。

使用方法:

xConfiguration 音声入力マイク [n] モード: モード

値は次のとおりです。

n: マイク入力を識別する一意の ID。

範囲: 1..8 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

範囲: 1..3 [*RoomKit CodecPlus Room55 Room70/Room55D*]

Mode:

Off/On

Off: 音声入力マイクコネクタを無効にします。

On: 音声入力マイクコネクタを有効にします。

デフォルト値:

On

xConfiguration Audio Input Microphone [n] MuteOverride

適用対象: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

この設定は、Codec Pro のアナログ マイク入力専用です。

マイク入力を構成して、システムのメインのミュート状態(例: 通常のミュート ボタンで制御されるもの)をオーバーライドします。

これにより、マイク入力をミュート解除し、アクティブなビデオ入力中にプレゼンテーション音声などを送信するための回線入力として使用することができます。

マイクが非アクティブなビデオ入力に関連付けられており、非アクティブなビデオ入力でミュートに設定されている場合、マイクはミュートされたままになることに注意してください。

例えば、アナログソースからの音声を提供する必要がある場合、一部のマイク入力を回線入力として転用する必要があります。

[ミュートオーバーライド] がない場合、プレゼンテーションの再生中にプレゼンタがマイクをミュートすると、これらのプレゼンテーションソースからの音声は無音になります。

使用方法:

xConfiguration Audio Input Microphone [n] MuteOverride: MuteOverride

値は次のとおりです。

n: マイク入力を識別する一意の ID。

範囲: 1..8

ミュートのオーバーライド:

Off/On

Off: ミュート設定を上書きしません。

On: ミュート設定を上書きします。

デフォルト値:

Off



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Audio Input Microphone [n] PhantomPower

適用対象: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

マイク入力でファンタム電源 (48 V +/- 1 V) を使用するかどうかを指定します。

使用方法:

xConfiguration Audio Input Microphone [n] PhantomPower: PhantomPower

値は次のとおりです。

n: マイク入力を識別する一意の ID。

範囲: 1..8 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

PhantomPower:

Off/On

Off: マイク入力のファンタム電源を無効にします。外部ミキサーなど、ファンタム電源を必要としない機器に接続する場合は、これを使用します。

On: マイク入力のファンタム電源を有効にします。Cisco テーブルマイクおよび Cisco シーリングマイクを含む、ファンタム電源を必要とするマイクに直接接続する場合、これを使用します。

デフォルト値:

On

xConfiguration Audio Input Microphone [n] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo

適用先: *CodecPro*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

マイクはビデオ入力コネクタのビデオソースと関連付けることができ、ビデオソースが表示されるかどうかに応じて、音声を再生またはミュートするかどうかを決定します。デフォルトでは、音声はミュートされていません。

使用方法:

xConfiguration Audio Input Microphone [n] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo: MuteOnInactiveVideo

値は次のとおりです。

n: マイク入力を識別する一意の ID。

範囲: 1..8

MuteOnInactiveVideo:

Off/On

Off: ビデオソースは関連付けられていません。

On: ビデオソースが関連付けられており、関連付けられたビデオソースが表示されていない場合、音声はミュートされます。

デフォルト値:

On



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Audio Input Microphone [n] VideoAssociation VideoInputSource

適用対象: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

ビデオ入力コネクタを選択して音声ソースを関連付けます。

使用方法:

xConfiguration Audio Input Microphone [n] VideoAssociation VideoInputSource:
VideoInputSource

値は次のとおりです。

n: マイク入力を識別する一意の ID。

範囲: 1..8

ビデオ入力ソース:

1/2/3/4/5/6 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

ビデオ入力コネクタを選択して音声ソースを関連付けます。

デフォルト値:

1

xConfiguration Audio Input MicrophoneMode

適用先: *DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

マイクモードが集中型の場合、マイクを組み合わせで音声感度をフォーカスできます。その結果、会議室のノイズが抑制され、デバイスの前に座っているユーザーの声も聞こえやすくなります。デバイスの前に座っていない人々の声が抑制されます。

マイク モードがワイドの場合、デバイスは他のデバイスと同様に動作します。あなたの隣に座っている人々の声が聞こえ、部屋からのノイズも多くなります。

自分だけが発言者の場合は、フォーカスモードを使用することをお勧めします。デバイスの前面に複数の発言者がある場合は、ワイド モードを使用します。

使用方法:

xConfiguration Audio Input MicrophoneMode: MicrophoneMode

値は次のとおりです。

マイクモード:

集中的な/ワイド

集中的な: 集中的な音声感度を設定し、デバイスの正面にないソースからの音声を抑制します。

広範囲モード: デフォルトのマイク動作で通常の音声感度です。

デフォルト値:

Focused [DeskPro/DeskLE]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration 音声入力 USBC [n] レベル

適用先: *DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

USB-C 音声レベルを設定します。

使用方法:

xConfiguration Audio Input USBC [n] Level: Level

値は次のとおりです。

n: USBC 入力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..1

レベル:

整数 (-24..0)

音声レベルです。-24 から 0 デシベルの範囲で指定します。

デフォルト値:

0

xConfiguration Audio Input USBC [n] Mode

適用先: *DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

USB-C 音声モードを設定します。

使用方法:

xConfiguration Audio Input USBC [n] Mode: Mode

値は次のとおりです。

n: USBC 入力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..1

Mode:

Off/On

On: USB-C からの音声を許可します。

Off: USB-C からの音声を一切許可しません。

デフォルト値:

On

xConfiguration 音声入力 WebView [n] モード

適用対象: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

WebView モードを設定します。

使用方法:

xConfiguration 音声入力 WebView [n] モード: モード

値は次のとおりです。

n: WebView 入力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..1

Mode:

Off/On

On: ウェブブラウザからの音声を許可します。

Off: ウェブブラウザからの音声の再生を許可しません。

デフォルト値:

On



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Audio KeyClickDetector Attenuate

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

デバイスは、キーボードからのクリック ノイズを検出し、マイクの信号を自動的に弱めることができます。ノイズが他の参加者を邪魔する可能性があるため、ミーティング参加者がキーボードで入力する際に便利です。

参加者がキーボード入力と発言を同時に行った場合でも、マイクの信号が弱まることはありません。Audio KeyClickDetector Enabled 設定を、On に設定する必要があります。

使用方法:

xConfiguration Audio KeyClickDetector Attenuate: Attenuate

値は次のとおりです。

減弱:

False/True

False: マイク信号の減衰は無効です。

True: キーボードからのクリック ノイズが検出されると、デバイスはマイクの信号を弱めます。音声または音声 + キーボードのクリックが検出された場合、マイク信号は弱められません。

デフォルト値:

True

xConfiguration Audio KeyClickDetector Enabled

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

デバイスは、キーボードからのクリック ノイズを検出し、マイクの信号を自動的に弱めることができます。ノイズが他の参加者を邪魔する可能性があるため、ミーティング参加者がキーボードで入力する際に便利です。マイク信号のアッテネーションを有効にするには、Audio KeyClickDetector Attenuate を On に設定します。

使用方法:

xConfiguration Audio KeyClickDetector 有効: 有効

値は次のとおりです。

Enabled:

False/True

False: キークリックの検出が無効になっています。

True: デバイスはキーボードのクリック ノイズを検出します。

デフォルト値:

False

xConfiguration Audio Microphones AGC

適用先: *RoomKit CodecPlus*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

マイクの自動ゲイン コントロール (AGC) を有効または無効にします。

使用方法:

xConfiguration Audio Microphones AGC: AGC

値は次のとおりです。

AGC:

Off/On

Off: AGC を無効にします。外部ミキサーや DSP など、マイク信号に AGC がすでに適用されている機器に接続する場合は、これを使用します。

On: 自動ゲインコントロールを有効にします。

デフォルト値:

On



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Audio Microphones NoiseRemoval Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

この構成は、デバイスのノイズ除去機能を On/Off にするために使用されます。

これが無効になっている場合、このオプションはユーザ インターフェイスに表示されず、xAPI 経由で設定することもできません。

使用方法:

xConfiguration 音声マイク ノイズ除去モード: モード

値は次のとおりです。

Mode:

無効/手動

デフォルト値:

手動

xConfiguration 音声マイクミュート有効

適用先: RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

デバイスでマイクのミュート動作を定義します。

使用方法:

xConfiguration Audio Microphones Mute Enabled: Enabled

値は次のとおりです。

Enabled:

True/InCallOnly

True: 音声のミュートはいつでも利用できます。通常、マイクのミュート LED は通話の外では点灯しませんが、API コマンドを使用してミュートすることができます。

InCallOnly: 音声のミュートは、デバイスが通話中の場合にのみ利用できます。アイドル中は、マイクをミュートすることができません。これは、外付け電話サービス/音声システムがデバイス経由で接続されていて、デバイスが通話中でないときに利用したい場合に便利です。InCallOnly に設定すると、音声システムが誤ってミュートされるのを防ぎます。

デフォルト値:

True

xConfiguration Audio Microphones PhantomPower

適用先: RoomKit CodecPlus Room55

必要なユーザーロール: 管理者

マイク入力でファンタム電源 (11 V +/- 1 V) を使用するかどうかを指定します。

使用方法:

xConfiguration Audio Microphones PhantomPower: PhantomPower

値は次のとおりです。

PhantomPower:

Off/On

Off: マイク入力のファンタム電源を無効にします。外部ミキサーなど、ファンタム電源を必要としない機器に接続する場合は、これを使用します。

On: マイク入力のファンタム電源を有効にします。Cisco テーブルマイクおよび Cisco シーリングマイクを含む、ファンタム電源を必要とするマイクに直接接続する場合、これを使用します。

デフォルト値:

On



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Audio Output ARC [n] Delay DelayMs

適用対象: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

リップ同期を取得するために、他の接続済みデバイス (例えば、テレビや外部スピーカーなど) の遅延を補償する追加の遅延を各 ARC 出力に設定することができます。ここで設定する遅延は、固定であるか、[音声出力 ARC [n] 遅延モード] 設定で定義されているように、外部モニタで測定または報告される遅延に関連するものです。

使用方法:

xConfiguration Audio Output ARC [n] Delay DelayMs: DelayMs

値は次のとおりです。

n: 音声 ARC 出力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..1

DelayMs:

整数 (0..290)

ミリ秒単位の遅延。

デフォルト値:

0

xConfiguration Audio Output ARC [n] Delay Mode

適用対象: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

Audio Output ARC [n] Delay DelayMs 設定で、音声 ARC 出力に追加の遅延を追加することができます。追加される遅延は、固定のミリ秒数、または外部モニタによって検出または報告された遅延に対するミリ秒数です。

使用方法:

xConfiguration Audio Output ARC [n] Delay Mode: Mode

値は次のとおりです。

n: 音声 ARC 出力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..1

Mode:

Fixed/RelativeToHDMI

固定: 出力に追加される遅延 (DelayMs) は、固定のミリ秒数になります。

RelativeToHDMI: 出力に追加される追加の遅延 (DelayMs) は、外部モニタで検出された遅延または報告された遅延に相対的になります。実際の遅延は、検出遅延 + DelayMs です。Audio Output Connectors ARC [n] DelayMs ステータスは、実際の遅延をレポートします。

デフォルト値:

RelativeToHDMI [CodecPro]

固定 [*Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Audio Output ARC [n] Mode

適用対象: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

HDMI [n] 入力コネクタで音声リターンチャンネル (ARC) を有効にするかどうかを選択します。クアッドカメラで音声を再生する場合は、ARC 出力が有効になっている必要があります。

Room 70 G2 では、クアッドカメラは統合型スピーカーシステムの一部です。ARC 出力は有効にしておくことを推奨します。統合型スピーカー全体を無効にする場合は、[音声出力] [内部スピーカーモード] 設定を使用します。

使用方法:

xConfiguration 音声出力 ARC [n] モード: モード

値は次のとおりです。

n: 音声 ARC 出力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..1

Mode:

Off/On

Off: HDMI 入力の ARC 出力を無効にします。

On: HDMI 入力に ARC 出力を有効にします。

デフォルト値:

On

xConfiguration Audio Output ConnectorSetup

適用対象: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

音声の入力と出力を手動でセットアップするか、お使いのカメラのタイプと接続されているスクリーンに基づいてビデオ会議デバイスに自動的に行わせるかを選択できます。

自動モードでは、音声入出力を手動で追加、更新、削除、または接続することはできません。そのため、次の API コマンド: xCommand Audio Setup *, xCommand Audio LocalInput *, xCommand Audio LocalOutput * には効果がありません。

手動モードから自動モードに切り替える場合: 既存の音声設定は消去され (xCommand 音声設定消去)、入力および出力グループは製品のデフォルト設定に従ってセットアップされます。音声出力 HDMI [n] sモードおよび音声出力 ARC [1] モードの設定は、デフォルト値に設定されています。Codec Pro の場合、自動遅延測定が有効になっています。

自動モードから手動モードに切り替える場合: HDMI および ARC 出力コネクタは既定のグループに接続されます。音声出力 HDMI [n] モードおよび音声出力 ARC [1] モードの設定は変更されません。Codec Pro の場合、遅延測定が停止されます。

使用方法:

xConfiguration Audio Output ConnectorSetup: ConnectorSetup

値は次のとおりです。

コネクタセットアップ:

自動/手動

自動: Code Pro の場合、ビデオ会議デバイスは、カメラを通して、または HDMI 出力の 1 つに接続されているスクリーンを通して、音声を再生します。ビデオ会議デバイスは、次のリストで最初に利用可能なデバイスで音声を再生することを選択します。

1. ビデオ会議デバイスのカメラ コントロール コネクタの 1 つに接続されたカメラ コントロール (イーサネット 2 または 3)、およびビデオ会議デバイスのカメラ入力 (HDMI 1 入力) に接続された HDMI を持つクアッドカメラ。さらに、[音声出力 ARC [1] モード] および [ビデオ入力コネクタ [1] CEC モード] 設定をOnにする必要があります。カメラで音声を再生するには、HDMI 1 入力の音声リターンチャンネル (ARC) が使用されます。

2. 音声出力 HDMI [1] モード設定がOnになっている場合、HDMI 1 出力に接続された画面。

3. 音声出力 HDMI [2] モード設定がOnになっている場合、HDMI 2 出力に接続された画面。

4. 音声出力 HDMI [3] モード設定がOnになっている場合、HDMI 3 出力に接続された画面。

クアッドカメラから音声が再生されると、ビデオ会議デバイスは画面とカメラの間の遅延を測定し、カメラの音声を画面のビデオと同期できるようにします (リップ同期)。遅延を測定するために、ビデオ会議デバイスは画面に信号を送信し、画面は音声リターンチャンネルを使用して信号をビデオ会議デバイスに送り返します。CEC (コンシューマー電子機器制御) をサポートし、ビデオ出力コネクタ [n] の CEC モードがOnに設定されている上記のリストの最初の画面が遅延測定に使用されます。

音声が画面を通して再生される場合、追加のリップシンクロの遅延は画面の責任です。ビデオ会議デバイスによって遅延が発生することはありません。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

Room 70 G2 では、ビデオ会議デバイスは、その統合スピーカーシステムを通して音声を再生します。ただし、統合型画面で、Audio Output ARC [1] Mode および Audio Output InternalSpeaker Mode が On で、Audio Output HDMI [n] Mode が On になっている必要があります。統合型スピーカーシステムとスクリーンの関係は既知であるため、自動遅延測定は必要ありません。

Manual: Audio Console アプリケーションまたは API (xCommand Audio Local Input * および xCommand Audio LocalOutput *)を使用して、音声の入力と出力を手動でセットアップする必要があります。

Room 70 G2 では、コネクタが音声コンソール アプリケーションまたは API (xCommand Audio LocalOutput *) を使用して明示的に追加されている場合、音声出力に外部スクリーンが使用される場合があります。この場合、内蔵スピーカーで再生される音声のステレオダウンミックスが外部スクリーンで再生されます。超音波信号は外部スクリーンまたは回線出力では再生されず、統合型スピーカーシステムを通してのみ再生されます。

デフォルト値:

自動

xConfiguration Audio Output Ethernet [n] Mode

適用対象: *RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

この設定は Room 70 Panorama には適用されません。

イーサネット接続を介した DNAM IV アンプへの音声出力を有効または無効にします。

これを Off にすると、外部スピーカーが接続されていない限り、Room Panorama の音声エクスペリエンスに直接影響し、システムがミュートになるのでご注意ください。

使用方法:

xConfiguration Audio Output Ethernet [n] Mode: Mode

値は次のとおりです。

n: 音声回線出力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..1

Mode:

Off/On

デフォルト値:

On



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Audio Output HDMI [n] Delay DelayMs

適用先: *CodecPro*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

リップ同期を得るために、他の接続済みデバイス（例えば、テレビや外部スピーカーなど）の遅延を補償する追加の遅延を各 HDMI 出力に設定することができます。ここで設定する遅延は、固定であるか、[音声出力 HDMI [n] 遅延モード] 設定で定義されているように、外部モニタで測定または報告される遅延に関連するものです。

使用方法:

xConfiguration 音声出力 HDMI [n] Delay DelayMs: DelayMs

値は次のとおりです。

n: 音声回線出力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..3

DelayMs:

整数 (0..290)

ミリ秒単位の遅延。

デフォルト値:

0

xConfiguration Audio Output HDMI [n] Delay Mode

適用先: *CodecPro*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

Audio Output HDMI [n] Delay DelayMs 設定で、音声 HDMI 出力に追加の遅延を追加することができます。追加される遅延は、固定のミリ秒数、または外部モニタによって検出または報告された遅延に対するミリ秒数です。

使用方法:

xConfiguration Audio Output HDMI [n] Delay Mode: Mode

値は次のとおりです。

n: 音声回線出力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..3

Mode:

Fixed/RelativeToHDMI

固定: 出力に追加される遅延 (DelayMs) は、固定のミリ秒数になります。

RelativeToHDMI: 出力に追加される追加の遅延 (DelayMs) は、外部モニタで検出された遅延または報告された遅延に相対的になります。実際の遅延は、検出遅延 + DelayMs です。Audio Output Connectors HDMI [n] DelayMs ステータスは、実際の遅延をレポートします。

デフォルト値:

混合



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Audio Output HDMI [n] Level

適用先: *Room70G2*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

HDMI 入力コネクタのゲインを設定します。ゲインは 1 dB 刻みで調整できます。

使用方法:

xConfiguration Audio Output HDMI [n] Level: Level

値は次のとおりです。

n: HDMI 出力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..3 [*Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

レベル:

整数 (-24..0)

範囲: 利得をデシベル (db) で選択します。

デフォルト値:

0

xConfiguration Audio Output HDMI [n] Mode

適用先: *CodecPlus CodecPro Room70G2*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

この HDMI 出力コネクタの音声チャンネルを有効にするかどうかを定義します。

使用方法:

xConfiguration Audio Output HDMI [n] Mode: Mode

値は次のとおりです。

n: HDMI 出力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..1 [*CodecPlus*]

範囲: 1..3 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

Mode:

Off/On

Off: コネクタは音声出力に使用されません。

On: コネクタを音声出力に使用できます。Codec Pro および Room 70 G2 の場合、Audio Output ConnectorSetup 設定に依存します。

デフォルト値:

Room 70 Dual G2: HDMI 1,2: On HDMI 3: Off
Room 70 Single G2: HDMI 1: On HDMI 2,3: Off [Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]
On [CodecPlus CodecPro]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Audio Output InternalSpeaker Mode

適用対象: *RoomKit CodecPlus Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

カメラの内蔵スピーカーを使用するかどうかを定義します。この設定を適用するには、Codec Plus が Quad Camera に接続されている必要があります。

Room 70 G2 では、統合型スピーカーで音声を再生するために、統合型モニタの音声出力 HDMI [n] モード設定を On に設定する必要があります。Room 70 G2 の場合は、[音声出力 ARC 1 モード] 設定も [On] にする必要があります。

Codec Plus を除くすべての製品で、内蔵スピーカーの使用を制限して超音波のみを再生することができます。

使用方法:

xConfiguration 音声出力 内部スピーカー モード: モード

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On/UltrasoundOnly [RoomKit Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

Off/On [CodecPlus]

Off: デバイスの内蔵スピーカーを無効にします。

On: デバイスの内蔵スピーカーを有効にします。

UltrasoundOnly: デバイスの内蔵スピーカーを超音波のみに対して有効にします。

デフォルト値:

On

xConfiguration Audio Output Line [n] Channel

適用対象: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

音声回線出力をモノラル信号またはマルチチャンネル信号の一部のどちらにするかを定義します。

使用方法:

xConfiguration Audio Output Line [n] Channel: Channel

値は次のとおりです。

n: 音声回線出力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..6

チャンネル:

左/モノラル/右

左: 音声回線出力信号はステレオ信号の左チャンネルです。

Mono: 音声回線出力信号はモノラル信号です。

右: 音声回線出力信号はステレオ信号の右チャンネルです。

デフォルト値:

行 [1, 3, 5]: 左 行 [2, 4, 6]: 右 [CodecPro Room70G2]

会議室パノラマ: 行 [1, 3, 5]: 左 行 [2, 4, 6]: 右

会議室 70 のパノラマ: 行 [1, 2]: モノラル 行 [3, 5]: 左 行 [4, 6]: 右 [RoomPanorama/Room70Panorama]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Audio Output Line [n] Delay DelayMs

適用対象: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

リップシンクロを得るために、各音声回線の出力に追加の遅延を設定することで、他の接続済みデバイス (例えば、テレビや外部スピーカーなど) の遅延を補償することができます。ここで設定する遅延は、固定であるか、または Audio Output Line [n] Delay Mode 設定で定義されているように、HDMI 出力の遅延に関連するものです。

使用方法:

xConfiguration Audio Output Line [n] Delay DelayMs: DelayMs

値は次のとおりです。

n: 音声回線出力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..6 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

DelayMs:

整数 (0..290)

ミリ秒単位の遅延。

デフォルト値:

0

xConfiguration Audio Output Line [n] Delay Mode

適用対象: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

音声回線出力に特別な遅延を追加することができます、これは Audio Output Line [n] Delay DelayMs 設定を使用します。追加される追加の遅延は、固定のミリ秒数、または HDMI 出力で検出された遅延 (通常は接続されたテレビによって導入される) に関連するミリ秒の数です。

使用方法:

xConfiguration 音声出力回線 [n] 遅延モード: モード

値は次のとおりです。

n: 音声回線出力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..6 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

Mode:

Fixed/RelativeToHDMI

固定: 出力に追加される遅延 (DelayMs) は、固定のミリ秒数になります。

RelativeToHDMI: 出力に追加される追加の遅延 (DelayMs) は、HDMI 出力で検出された遅延を基準にします。実際の遅延は HDMI-delay + DelayMs です。Audio Output Connectors Line [n] DelayMs ステータスは、実際の遅延をレポートします。

デフォルト値:

Fixed s[Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

RelativeToHDMI [*CodecPro*]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Audio Output Line [n] Equalizer ID

適用対象: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

出力ラインに接続されている音声ソースのイコライザ ID を選択します。

使用方法:

xConfiguration 音声出力回線 [n] イコライザー ID: ID

値は次のとおりです。

n: 音声回線出力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..6

ID:

整数 (1..8)

イコライザ ID を設定します。

デフォルト値:

1

xConfiguration 音声出力回線 [n] イコライザーモード

適用対象: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

ライン出力に接続されている音声ソースのイコライザーモードを定義します。

使用方法:

xConfiguration Audio Output Line [n] Equalizer Mode: Mode

値は次のとおりです。

n: 音声回線出力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..6

Mode:

Off/On

Off: イコライザを使用しません。

On: 音声ライン出力のイコライザーを有効にします。

デフォルト値:

Off

X 構成 音声出力回線 [n] レベル

適用対象: *CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

回線出力コネクタのゲインを設定します。ゲインは、接続されたデバイスの音声入力レベルに合うように調整する必要があります。ゲインは 1 dB 刻みで調整できます。

0 dB ゲインでの最大出力レベルは製品によって異なります: 8dbu (Room 70, Room 55 Dual), 18dBu (Codec Pro, Room 70 G2)。

例: Codec Pro に接続された音声デバイスの最大入力レベルが 10dBu である場合、ゲインを 10dBu - 18dbu = -8dB に設定します。

使用方法:

xConfiguration 音声出力回線 [n] レベル: レベル

値は次のとおりです。

n: 音声回線出力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..6 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

範囲: 1..1 [*Room70/Room55D*]

レベル:

整数 (-24..0)

範囲: 利得をデシベル (db) で選択します。

デフォルト値:

0 [*CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration 音声出力回線 [n] モード

適用対象: *RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

音声回線出力のモードを定義します。

使用方法:

xConfiguration Audio Output Line [n] Mode: Mode

値は次のとおりです。

n: 音声回線出力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..6 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

範囲: 1..1 [*RoomKit CodecPlus Room55 Room70/Room55D*]

Mode:

Off/On

Off: 音声回線出力を無効にします。

On: 音声回線出力を有効にします。

デフォルト値:

On

xConfiguration Audio Output Line [n] OutputType

適用先: *RoomKit CodecPlus Room55 Room70/Room55D*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

出力タイプは、接続されたデバイスと一致するように設定する必要があります。

使用方法:

xConfiguration Audio Output Line [n] OutputType: OutputType

値は次のとおりです。

n: 音声回線出力を識別する一意の ID です。

範囲: 1..1

出力タイプ:

LineOut/Loudspeaker/Microphone/Recorder/Subwoofer [RoomKit]

LineOut/Loudspeaker/Microphone/Recorder [CodecPlus Room55 Room70/Room55D]

ラウドスピーカー: ラウドスピーカーが回線出力に接続されている場合、[ラウドスピーカー]を使用します。このモードでは、コネクタの出力レベルはマスター音量コントロールに従い、出力信号にはすべてのシステムサウンド（着信音、webex Assistant など）が含まれます。

マイク: このモードでは、接続されたマイクに拾われた音声は回線出力に送信されます。システムサウンドと遠端ソースからのサウンドは含まれません。

レコーダー: レコーダーが回線出力に接続されている場合、[レコーダー]を使用します。このモードでは、出力レベルは固定され、システムサウンドは含まれません。ローカル プレゼンテーションソース、ローカル マイク、および遠端ソースからの音声が含まれます。

サブウーハー: サブウーハーが回線出力に接続されている場合に [サブウーハー]を使用します。このモードでは、低音は回線出力に送られ、残りの音声は内部スピーカーで再生されます。

LineOut: 他のデバイスで LineOut を使用してください。このモードでは、出力レベルは固定され、システムサウンドは含まれません。ローカルのプレゼンテーションソースと相手側のソースの音声が含まれます。

デフォルト値:

Loudspeaker [RoomKit CodecPlus Room55]

LineOut [Room70/Room55D]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingTone

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

着信通話に使用する着信音を定義します。

使用方法:

xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingTone: RingTone

値は次のとおりです。

呼び出し音:

Sunrise/Mischief/Ripples/Reflections/Vibes/Delight/Evolve/Playful/Ascent/Calculation/Mellow/Ringer

リストから着信音を選択します。

デフォルト値:

Sunrise [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE]

Waves [Boards]

xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingVolume

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

着信のリング音量を指定します。

使用方法:

xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingVolume: RingVolume

値は次のとおりです。

呼び出し音量:

整数 (0..100)

範囲: 値は 0 から 100 まで 5 のステップで進みます (-34.5 から 15 まで)。音量 0 = Off。

デフォルト値:

50 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE Boards]

xConfiguration Audio Ultrasound 最大音量

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

この設定は、Intelligent Proximity 機能に適用されます。超音波ペアリングメッセージの最大音量を設定します。

Audio Ultrasound MaxVolumeとProximity Modeの設定は、超音波ペアリング メッセージにのみ影響します。プレゼンスおよびモーション検出での超音波の使用に関する情報については、RoomAnalytics PeoplePresenceDetector および Standby WakeupOnMotionDetection 設定を参照してください。

使用方法:

xConfiguration Audio Ultrasound MaxVolume: MaxVolume

値は次のとおりです。

MaxVolume:

整数 (0..90) [CodecPlus CodecPro]

整数(0..70) [RoomKit RoomKitMini Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE Boards]

指定された範囲の値を選択してください。0 に設定すると、超音波ペアリングメッセージは発信されません。

デフォルト値:

70



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration 音声 USB モード

適用対象: *RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

USB コネクタの音声チャンネルを有効/無効にします。

使用方法:

xConfiguration Audio USB Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/SpeakerAndMicrophone

Off: 音声は流れませんが、シグナリングは有効のままです。これにより、USB デバイスをミュート/音量コントローラーとして使用できます。

SpeakerAndMicrophone: USB 音声デバイスの入力および出力チャンネルが接続されます。

デフォルト値:

スピーカーアンドマイク

Bookings configuration

xConfiguration Bookings ProtocolPriority

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者

ビデオデバイスは、Webex クラウドで提供されるサービスである Cloud Video Interop (CVI) ゲートウェイ経由で SIP を使用して、または Microsoft Teams ミーティング ウェブ アプリ (WebRTC) を実行することで、Microsoft Teams ミーティングに参加できます。

Microsoft Teams ミーティングへの参加はカレンダー サービスに依存し、Onプレミス サービスに登録されており、Webex Edge for Devicesにリンクされているデバイス、および Webex クラウド サービスに登録されているデバイスで利用できます。

使用方法:

xConfiguration Bookings ProtocolPriority: ProtocolPriority

値は次のとおりです。

ProtocolPriority:

自動/WebRTC

Auto: ミーティングの招待に CVI アドレスがある場合、デバイスは SIP/CVI 経由で Microsoft Teams ミーティングに参加します。そうでない場合、WebRTC を使用します。

WebRTC: デバイスは Microsoft Teams ミーティングに常に WebRTC を使用します。

デフォルト値:

自動



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

BYOD の設定

xConfiguration BYOD HidForwarding Enabled

適用先: *DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

ラップトップで外部のマウスまたはキーボード (有線 USB または USB ドングル) を使用する場合、ラップトップに直接接続する代わりに、ビデオ会議デバイスの USB ポートに接続することができます。

使用方法:

xConfiguration BYOD HidForwarding Enabled: Enabled

値は次のとおりです。

Enabled:
False/True
False: 外付けのマウスまたはキーボードは、ラップトップに直接接続する必要があります。

True: お使いのラップトップ用の外付けマウスまたはキーボードをビデオカイギデバイスに接続できます。

デフォルト値:

False

xConfiguration BYOD TouchForwarding Enabled

適用先: *DeskPro/DeskLE Boards*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

この設定を使用して、タッチ リダイレクト機能を有効または無効にします。タッチ リダイレクトを使用すると、ボードまたはビデオ デバイスのタッチ スクリーンからラップトップをコントロールできます。HDMI ケーブル (有線共有) と USB-C ケーブルを使用してラップトップをデバイスに接続する必要があります。デバイスからラップトップへUSB-C to USB-C ケーブルまたは USB-C to USB-A ケーブルを使用できます。

この機能は第 1 世代の Boards では利用できません(S シリーズではなく、Webex Board 55 および 70)。

使用方法:

xConfiguration BYOD TouchForwarding Enabled: Enabled

値は次のとおりです。

Enabled:
False/True
False: タッチ リダイレクトは無効です。

True: タッチリダイレクトが有効です。

デフォルト値:

True



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

CallHistory の構成

xConfiguration CallHistory モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

不在着信および応答のない通話（通話履歴）など、発信または着信の通話に関する情報を保存するかどうかを指定します。これにより、ユーザー インターフェイスの [最近] リストに通話が表示されるかどうかが決まります。

使用方法:

xConfiguration CallHistory Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: 新しいエントリは通話履歴に追加されません。

On: 新規エントリは通話履歴リストに保存されます。

デフォルト値:

On

カメラ設定

xConfiguration Cameras Background Enabled

適用先: *DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

カメラの背景機能を有効または無効にします。

カメラの背景機能を使用すると、実際の周囲の代わりに、仮想背景（画像や効果）をカメラ ビューの背景として表示できます。Cameras Background Set コマンドを有効にするには、この設定を有効にする必要があります。

使用方法:

xConfiguration Cameras Background Enabled: Enabled

値は次のとおりです。

Enabled:

False/True

True: カメラの背景機能を有効にします。

False: カメラの背景機能を無効にします。

デフォルト値:

True



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Cameras Background UserImagesAllowed

適用先: *DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者

ユーザーがミーティングまたは通話中に仮想背景としてカスタム画像を使用する機能を有効または無効にします。

この機能にアクセスできるようにするには、Cameras Background Enabled 構成を [有効(Enabled)] に設定する必要があります。

使用方法:

xConfiguration Cameras Background UserImagesAllowed: UserImagesAllowed

値は次のとおりです。

UserImagesAllowed:

False/True
True: 仮想背景としてのカスタム画像の使用を有効にします。

False: 仮想背景としてのカスタム画像の使用を無効にします。

デフォルト値:

False

xConfiguration Cameras Camera [n] AssignedSerialNumber

適用先: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

カメラ ID はカメラ [n] の中の番号 n です。既定では、カメラ ID はカメラに自動的に割り当てられます。カメラからビデオ会議デバイスに EDID 情報が渡されない場合、カメラ ID は再起動後に持続しません。これは、ビデオ会議デバイスが再起動されると、カメラが新しいカメラ ID を取得する可能性があることを意味します。

ビデオ会議デバイスが複数のカメラからの EDID 情報を受信しない構成に対応するには、Cameras Camera AssignedSerialNumber 設定を使用する必要があります。この設定では、カメラ ID をカメラのシリアル番号に関連付けることで、カメラ ID をカメラに手動で割り当てることができます。この設定は、ビデオ会議デバイスが工場出荷時設定にリセットされるまで持続します。

ビデオ会議デバイスが EDID 情報を受信しない一般的な状況として、3G-SDI を使用して Cisco TelePresence Precision 60 カメラを接続する場合、または EDID 情報を渡さない HDMI リピーターを使用する場合が挙げられます。

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera [n] AssignedSerialNumber: "AssignedSerialNumber"

値は次のとおりです。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲: 1..7 [*CodecPro*]

範囲: 1..3 [*CodecPlus Room70/Room55D*]

AssignedSerialNumber:

文字列 (0, 20)

カメラのシリアル番号です。

デフォルト値:

""



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Cameras Camera [n] Backlight DefaultMode

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

この設定は逆光補正を On または Off にします。逆光補正は、室内の人々の背後に光が多い場合に便利です。補正が行われない場合、人物が遠端で非常に暗く見える場合があります。

Cisco Quad Camera および Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama の統合型カメラには適用されません。これらのカメラは、会議室の照明条件に基づいて自動的に調整されます。

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera [n] Backlight DefaultMode: DefaultMode

値は次のとおりです。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲: 1..7 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

範囲: 1..3 [*CodecPlus Room70/Room55D*]

DefaultMode:

Off/On

Off: カメラの逆光補正をOffにします。

On: カメラの逆光補正をOnにします。

デフォルト値:

Off

xConfiguration Cameras Camera [n] Brightness Mode

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

カメラの明るさモードを定義します。

Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama の統合カメラには適用されません。これらのカメラは、会議室の照明条件に基づいて自動的に調整されます。

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera [n] Brightness Mode: Mode

値は次のとおりです。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲: 1..7 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

範囲: 1..3 [*CodecPlus Room70/Room55D*]

Mode:

自動/手動

自動: カメラの明るさはデバイスにより自動的に設定されます。

手動: カメラの明るさの手動コントロールを有効にします。明るさのレベルは Cameras Camera [n] Brightness DefaultLevel 設定を使用して設定します。

デフォルト値:

自動



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Cameras Camera Brightness Mode

適用先: *RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

カメラの輝度モードを定義します。

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera Brightness Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

自動/手動

自動: カメラの明るさはデバイスにより自動的に設定されます。

Manual: カメラの輝度レベルを手動でコントロールできるようにします。明るさのレベルは、[カメラ][カメラの明るさ] DefaultLevel 設定を使用して設定します。

デフォルト値:

自動

xConfiguration Cameras Camera [n] Brightness DefaultLevel

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

輝度レベルを定義します。Cameras Camera [n] Brightness Mode を [手動(Manual)] に設定する必要があります。

Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama の統合カメラには適用されません。これらのカメラは、会議室の照明条件に基づいて自動的に調整されます。

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera [n] Brightness DefaultLevel: DefaultLevel

値は次のとおりです。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲: 1..7 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

範囲: 1..3 [*CodecPlus Room70/Room55D*]

DefaultLevel:

整数 (1..31)

明るさのレベルです。

デフォルト値:

20



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Cameras Camera Brightness DefaultLevel

適用先: *RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

明るさのレベルを定義します。Cameras Camera Brightness Mode を [手動(Manual)] に設定する必要があります。

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera Brightness DefaultLevel: DefaultLevel

値は次のとおりです。

DefaultLevel:

整数 (1..31)

明るさのレベルです。

デフォルト値:

20

xConfiguration カメラ カメラ露出補正レベル

適用先: *DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

[露出補償レベル] を設定することで、カメラ画像の露出過剰または露出不足を調整します。自動露出は引き続き実行されますが、この設定によりターゲットの明るさが変更されます。

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera 露出補償レベル: レベル

値は次のとおりです。

レベル:

整数 (-3..3)

正の数を指定するとキャプチャされた画像の明るさが増します。負の数を指定すると暗くなります。

デフォルト値:

0

xConfiguration Cameras Camera [n] Flip

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

反転モード (垂直反転) を使えば、画像の上下を反転させることができます。反転は、自分のビューと相手側に送信されるビデオの両方に適用されます。

この機能は、Quad Camera、PTZ-12 カメラ、および Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama の統合型カメラではサポートされていません。

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera [n] Flip: Flip

値は次のとおりです。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲: 1..7 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

範囲: 1..3 [*CodecPlus Room70/Room55D*]

Flip:

Auto/Off/On [*CodecPro*]

Auto: カメラが上下逆さまに取り付けられていることを検出すると、画像が自動的に反転します。カメラが上下逆に取り付けられているかどうかを自動検出できない場合、画像は変更されません。

Off: 画面に画像を通常の方法で表示します。

On: 画像を上下反転して表示します。この設定は、カメラが上下逆に取り付けられている場合に使用されますが、取り付けられた向きを自動的に検出することはできません。

デフォルト値:

自動



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Cameras カメラ [n] フォーカス モード

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

カメラのフォーカス モードを定義します。

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera [n] Focus Mode: Mode

値は次のとおりです。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲: 1..7 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

範囲: 1..3 [*CodecPlus Room70/Room55D*]

Mode:

自動/自動制限/手動 [*CodecPlus*]

自動/手動 [*CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

Auto: オートフォーカスの動作は製品によって異なります。Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama の場合、コーデック付き Cisco Quad Camera (Codec Plus または Codec Pro) を使用する際、通話が接続されるか、視界が変わると、カメラは、シングルショットのオートフォーカスを行います。コーデック (Codec Plus または Codec Pro) で Cisco TelePresence Precision 60 カメラを使用する場合、カメラは連続的な自動フォーカスを行います。通話が接続されると、パン、チルト、またはズームの後、そして通常、カメラがシーンの変化を識別すると、自動フォーカスが実行されます。

AutoLimited: このモードは Codec Plus で Cisco TelePresence Precision 60 カメラを使用する場合にのみ適用されます。ほとんどの場合、このモードは自動フォーカスと同じように動作します。場合によっては、自動制限によりフォーカスハンチングが軽減されます。問題のあるシーンとして、例えば、細部が描かれていないペンキが塗ってある壁や一部に何も書かれていないホワイトボードなど、コントラストのない、またはコントラストが低い大きなエリアが挙げられます。オートフォーカスと比較して、このモードではバックグラウンド フォーカスの可能性がわずかに高くなります。

手動: 自動フォーカスをOffにして、カメラのフォーカスを手動で調整します。

デフォルト値:

自動

xConfiguration Cameras Camera [n] Gamma Mode

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

この設定により、ガンマ補正が有効になります。ガンマは、画像のピクセルとモニタの明るさの間の非線形関係を説明します。

Cisco Quad Camera および Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama の統合型カメラには適用されません。これらのカメラは、会議室の照明条件に基づいて自動的に調整されます。また、この機能は PTZ-12 カメラではサポートされていません。

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera [n] Gamma Mode: Mode

値は次のとおりです。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲: 1..7 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

範囲: 1..3 [*CodecPlus Room70/Room55D*]

Mode:

自動/手動

Auto: [自動] がデフォルトであり、推奨設定です。

Manual: 手動モードでは、ガンマレベル設定でガンマ値が変更されます。参照: カメラ カメラ [n] のガンマレベル。

デフォルト値:

自動



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Cameras Camera [n] ガンマレベル

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

[Gamma Level] を設定することで、どのγ補正テーブルを使用するかを選択することができます。この設定は、明るさの設定を変更しても満足のいく結果が得られないような、厳しい照明条件で役立ちます。カメラのカメラ [n] Gamma Mode を手動に設定する必要があります。

Cisco Quad Camera および Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama の統合型カメラには適用されません。これらのカメラは、会議室の照明条件に基づいて自動的に調整されます。また、この機能は PTZ-12 カメラではサポートされていません。

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera [n] Gamma Level: Level

値は次のとおりです。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲: 1..7 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

範囲: 1..3 [*CodecPlus Room70/Room55D*]

レベル:

整数 (0..7)

ガンマレベルを定義します。

デフォルト値:

0

xConfiguration Cameras Camera [n] Mirror

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

ミラーモード (水平反転) を使用すると、画面上のイメージをミラーリングすることができます。ミラーリングは、自分のビューと相手側に送信されるビデオの両方に適用されます。スピーカー トッキングが On の場合、ミラーリングは自動的に無効になります。

この設定は、Cisco Quad Camera および Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama の統合型カメラには適用されません。また、この機能は PTZ-12 カメラではサポートされていません。

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera [n] Mirror: Mirror

値は次のとおりです。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲: 1..7 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

範囲: 1..3 [*CodecPlus Room70/Room55D*]s

Mirror:

Auto/Off/On [*CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

Auto: カメラが上下逆に取り付けられていることを検出すると、画像が自動的に反転されます。カメラが上下逆に取り付けられているかどうかを自動検出できない場合、画像は変更されません。

Off: 他の人があなたを見るのと同じ画像を表示します。

On: ミラーに映し出された自分と同じ画像を表示します。

デフォルト値:

自動 [*CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Cameras Camera [n] Whitebalance Mode

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

カメラのホワイト バランス モードを定義します。

Cisco Quad Camera および Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama の統合型カメラには適用されません。これらのカメラは、会議室の照明条件に基づいて自動的に調整されます。

使用方法:

xConfiguration Cameras カメラ [n] ホワイトバランス モード: モード

値は次のとおりです。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲: 1..7 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

範囲: 1..3 [*CodecPlus Room70/Room55D*]

Mode:

自動/手動

Auto: カメラはビューに応じてホワイトバランスを継続的に調整します。

手動: カメラのホワイトバランスの手動コントロールを有効にします。ホワイトバランスレベルは、Cameras Camera [n] Whitebalance Level 設定を使用して設定します。

デフォルト値:

自動

xConfiguration Cameras Camera [n] Whitebalance Level

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

ホワイトバランスレベルを定義します。Cameras Camera [n] Whitebalance Mode を手動に設定する必要があります。

Cisco Quad Camera および Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama の統合型カメラには適用されません。これらのカメラは、会議室の照明条件に基づいて自動的に調整されます。また、ホワイトバランスレベルの設定は、ホワイトバランスモードが手動に設定されている場合、Sony ワンプッシュモードを使用している PTZ-12 カメラには影響しません。

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera [n] ホワイトバランス レベル: レベル

値は次のとおりです。

n: カメラを識別する一意の ID です。

範囲: 1..7 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

範囲: 1..3 [*CodecPlus Room70/Room55D*]

レベル: s

整数 (1..16)

ホワイトバランスのレベルです。

デフォルト値:

1



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Cameras Camera Framerate

適用対象: *RoomKit RoomKitMini Room55*

必要なユーザーロール: 管理者

デフォルトでは、カメラは毎秒 30 フレームを出力します。これにより、通常の帯域幅と照明条件で、クロースアップと概要の両方の画像で良好な品質を得ることができます。条件が良い場合は、カメラからの 60 フレーム/秒の出力が全体的な品質を向上させます。

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera Framerate: Framerate

値は次のとおりです。

フレームレート:

30/60

30: カメラは毎秒 30 フレームを出力します。

60: カメラは毎秒 60 フレームを出力します。

デフォルト値:

30

xConfiguration Cameras PowerLine Frequency

適用先: *RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

カメラが電源周波数のちらつき防止をサポートしている場合、カメラは電源からのちらつきノイズを補正することができます。このカメラの構成は、電源回線周波数に基づいて設定する必要があります。カメラが電源回線周波数の自動検出をサポートしている場合、構成で [自動] オプションを選択できます。

Cisco カメラはフリッカー防止と電源回線周波数の自動検出の両方に対応します。[自動] がデフォルト値であるため、自動検出をサポートしていないカメラを使用している場合は、この設定を変更する必要があります。

使用方法:

xConfiguration Cameras PowerLine Frequency: Frequency

値は次のとおりです。

Frequency:

50Hz/60Hz/自動

50Hz: 電源周波数が 50Hz の場合はこの値を使用します。

60Hz: 電源周波数が 60Hz の場合はこの値を使用します。

Auto: カメラによる電源周波数の自動検出を許可します。

デフォルト値:

自動



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Cameras PresenterTrack CameraPosition Pan

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

機能が有効になったときにプレゼンタのトラッキング カメラが移動するパン位置を定義します。Precision 60 および SpeakerTrack 60 カメラのみがプレゼンタのトラッキングをサポートします。

使用方法:

xConfiguration Cameras PresenterTrack CameraPosition Pan: Pan

値は次のとおりです。

Pan:

整数 (-65535..65535)

パンニングの位置です。

デフォルト値:

0

xConfiguration Cameras PresenterTrack CameraPosition Tilt

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

機能がアクティブになったときにプレゼンタのトラッキング カメラが移動するチルト位置を定義します。Precision 60 および SpeakerTrack 60 カメラのみがプレゼンタのトラッキングをサポートします。

使用方法:

xConfiguration Cameras PresenterTrack CameraPosition チルト: チルト

値は次のとおりです。

チルト:

整数 (-65535..65535)

チルトの位置です。

デフォルト値:

0

xConfiguration Cameras PresenterTrack CameraPosition Zoom

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

機能がアクティブになったときにプレゼンタのトラッキング カメラが移動するズーム位置を定義します。Precision 60 および SpeakerTrack 60 カメラのみがプレゼンタのトラッキングをサポートします。

使用方法:

xConfiguration Cameras PresenterTrack CameraPosition ズーム: ズーム

値は次のとおりです。

ズーム:

整数 (-65535..65535)

ズーム位置です。

デフォルト値:

0

xConfiguration Cameras PresenterTrack Connector

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

プレゼンタのトラッキング カメラが接続されるビデオ入力コネクタを定義します。Precision 60 および SpeakerTrack 60 カメラのみがプレゼンタのトラッキングをサポートします。

使用方法:

xConfiguration Cameras PresenterTrack Connector: Connector

値は次のとおりです。

Connector:

整数 (1..6) [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

整数 (1..3) [*CodecPlus Room70/Room55D*]

ビデオ入力コネクタです。

デフォルト値:

1 [*CodecPlus Room70/Room55D*]

1 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Cameras PresenterTrack Enabled

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

PresenterTrack 機能を使用するかどうかを定義します。Precision 60 および SpeakerTrack 60 カメラのみがプレゼンタのトラッキングをサポートします。

使用方法:

xConfiguration Cameras PresenterTrack Enabled: Enabled

値は次のとおりです。

Enabled:

False/True

False: PresenterTrack 機能が無効になっています。

True: PresenterTrack 機能が使用可能です。

デフォルト値:

False

xConfiguration カメラ PresenterTrack PresenterDetectedStatus

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

Briefing 会議室と教室シナリオ (会議室タイプ テンプレート) で、リモート プレゼンタ モードとローカル プレゼンタ モード間の自動切り替えを有効または無効にします。自動切り替えでは、PresenterTrack トリガー ゾーンで人が検出されるとデバイスがローカル プレゼンタ モードに切り替わり、ローカルのプレゼンタがステージを離れるとリモート プレゼンタ モードに戻ります。

この設定が有効な場合、新しい人がトリガー ゾーンに入ると、カメラの PresenterTrack PresenterDetected ステータスが更新されます。

Precision 60 および SpeakerTrack 60 カメラのみがプレゼンタのトラッキングをサポートします。Briefing Room は Codec Plus、Room 70、および Room 55 Dual ではサポートされていません。

使用方法:

xConfiguration Cameras PresenterTrack PresenterDetectedStatus:

PresenterDetectedStatus

値は次のとおりです。

PresenterDetectedStatus:

無効/有効

無効: モード間の自動切り替えは行われません。

有効: ローカルプレゼンタモードとリモートプレゼンタモード間の自動切り替え。

デフォルト値:

[有効(Enabled)]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Cameras PresenterTrack TriggerZone

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

プレゼンタのトラッキングを開始するために、人の顔を検出する必要がある領域に対応するトリガーゾーンを定義します。

"x1,y1,...xn,yn" の形式は x 座標と y 座標のペアの文字列です。x の範囲は (0,1920)、y の範囲は (0,1080) です。2 つの座標ペアは、長方形のトリガー ゾーンの左上角と右下角を定義します。3 つ以上の座標ペアが、多角形のトリガー ゾーンの頂点を定義します。

Precision 60 および SpeakerTrack 60 カメラのみがプレゼンタのトラッキングをサポートします。

使用方法:

xConfiguration Cameras PresenterTrack TriggerZone: "TriggerZone"

値は次のとおりです。

TriggerZone:

文字列 (0..255)

トリガーゾーンの座標です。

デフォルト値:

" "

xConfiguration Cameras SpeakerTrack Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

この設定は、スピーカートラッキングまたはベスト オーバービューをサポートするカメラを使用している場合にのみ適用されます。

Cisco Quad Camera: スピーカートラッキングは自動カメラ フレーミングを使用し、部屋にいる人の場所に基づいて最適なカメラ表示を選択します。クアッド カメラは、アクティブな発言者のクローズアップを見つけてキャプチャする音声トラッキング技術を使用します。

Cisco TelePresence SpeakerTrack 60 カメラ: デュアル カメラ アセンブリは 2 つのカメラで構成され、アクティブな発言者を見つけてクローズアップする音声トラッキング技術を使用します。発言者の変更が検出されると、ビデオ会議デバイスは 2 つのカメラ間で自動的に切り替え、常に最良のカメラ ビューを表示します。さまざまなモードの切り替えについては、[カメラ][スピーカートラック][TrackingMode] 設定を参照してください。

内蔵 Speakertrack カメラ搭載のビデオデバイス(Room Kit, Room 55, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama, Boards): 発言者追跡は、自動カメラフレーミングを使用して、室内の人がいる場所に基づいて最適なカメラビューを選択します。カメラは、現在の発言者を検出してそのクローズアップをキャプチャするオーディオトラッキング技術を使用します。

Best Overview をサポートするが、発言者追跡をしないカメラ付きビデオ会議デバイス(Room Kit Mini, Desk Pro, Desk Limited Edition): Best Overview は、自動カメラフレーミングを使用して、室内の人がいる場所に基づいて最適なカメラビューを選択します。

使用方法:

xConfiguration Cameras SpeakerTrack Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Auto/Off

Auto: 発言者のトラッキング (Room Kit Mini ではサポートされていません) およびベスト オーバービューが On になります。デバイスが室内にいる人を検出し、最適なカメラ フレームを自動的に選択します。ユーザーはタッチコントローラのカメラ コントロール パネルでこの機能をすぐに OnまたはOffに切り替えることができますが、この機能は各通話の後にOnに戻されるため、デバイスは次のユーザーのために準備されます。

Off: 発言者のトラッキング (Room Kit Mini, Desk Pro, Desk Limited Edition ではサポートされていません) およびベスト オーバービューが Off になります。Cisco TelePresence SpeakerTrack 60 カメラ アセンブリがある場合、2 台のカメラは個別のカメラとして動作します。

デフォルト値:

自動



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Cameras SpeakerTrack Closeup

適用対象: *RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Boards*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

この設定は、カメラの SpeakerTrack モードが [自動] に設定されている場合にのみ適用されます。クローズアップ機能がOnになっている場合、デバイスは人が話していることを検出し、その人をカバーするのに最適なフレームを選択します。これはクローズアップと呼ばれるもので、会議室にいるすべての人が含まれているとは限りません。常に会議室の全員が映るようにしたい場合は、クローズアップ機能をOffにできます。

使用方法:

xConfiguration Cameras SpeakerTrack Closeup: Closeup

値は次のとおりです。

クローズアップ:

Auto/Off/On

Auto: 動作はデバイス タイプによって異なります。Boards は室内のすべての人を常にカメラのフレーミングに保ち、他のデバイスは発言者にズームインします。

Off: デバイスは、会議室にいるすべての人をカメラのフレームに入れ続けます。

On: デバイスは発言者にズームインします。

デフォルト値:

自動

xConfiguration Cameras SpeakerTrack TrackingMode

適用先: *CodecPlus CodecPro*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

この設定は、Cisco TelePresence SpeakerTrack 60 カメラを使用し、Cameras SpeakerTrack Mode が [自動(Auto)] に設定されている場合のみ適用されます。

発言者トラッキング アルゴリズムは 2 つのモードでの変更に応じ、一方は他方より早く反応します。このモードでは、いつカメラ ビューが新しい発言者に切り替わるかを指定します。

使用方法:

xConfiguration Cameras SpeakerTrack TrackingMode: TrackingMode

値は次のとおりです。

TrackingMode:

自動/保守的

Auto: これは通常のトラッキングモードです。

保守的: カメラ ビューは通常のトラッキング モードよりも遅れて新しい発言者に変更されます。

デフォルト値:

自動



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration カメラ SpeakerTrack Connector 検出モード

適用先: *CodecPlus CodecPro*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

この設定は、Cisco TelePresence SpeakerTrack 60 カメラがビデオ会議端末に接続されている場合にのみ適用されます。

各カメラがどのビデオ入力に接続されているかを自動的に検出するか、または手動で構成するかを定義します。ビデオ会議デバイスがカメラからの EDID 情報を受信しない場合は、手動構成を選択してください。通常、これは、EDID 情報を渡さない HDMI リピーターを使用する場合です。

使用方法:

xConfiguration Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

自動/手動

Auto: カメラが接続されているビデオ入力を自動的に検出します。

手動: カメラが接続されるビデオ入力を手動で定義します。Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection CameraLeft および Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection CameraRight 設定を使用します。

デフォルト値:

自動

xConfiguration Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection CameraLeft

適用先: *CodecPlus CodecPro*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

SpeakerTrack 60 の左カメラが接続されるビデオ入力の番号を定義します。

この設定は、Cisco TelePresence SpeakerTrack 60 カメラがビデオ会議端末に接続されている場合にのみ適用されます。また、カメラ SpeakerTrack のコネクタ検出モードを手動に設定する必要があります。

使用方法:

xConfiguration Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection CameraLeft: CameraLeft

値は次のとおりです。

CameraLeft:

整数 (1..5) [*CodecPro*]

整数 (1..3) [*CodecPlus*]

有効なビデオ入力番号を設定してください。例えば、左カメラがビデオ入力 1 に接続されている場合、1 に設定します。

デフォルト値:

1



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection CameraRight

適用先: *CodecPlus CodecPro*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

SpeakerTrack 60 の右カメラが接続されるビデオ入力番号を設定します。

この設定は、Cisco TelePresence SpeakerTrack 60 カメラがビデオ会議端末に接続されている場合にのみ適用されます。また、カメラ SpeakerTrack のコネクタ検出モードを手動に設定する必要があります。

使用方法:

xConfiguration Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection CameraRight: CameraRight
値は次のとおりです。

CameraRight:*整数 (1..5) [CodecPro]**整数 (1..3) [CodecPlus]*

有効なビデオ入力番号を設定してください。例えば、右カメラがビデオ入力 2 に接続されている場合、2 に設定します。

デフォルト値:

2

xConfiguration Cameras SpeakerTrack Whiteboard Mode

適用対象: *RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

[Snap to Whiteboard] 機能は、発言者追跡機能を拡張するため、発言者追跡をサポートするカメラが必要です。プレゼンタがホワイトボードの横に立って、[ホワイトボードにスナップ] 機能が有効になっている場合、カメラはプレゼンタとホワイトボードの両方をキャプチャします。この機能が無効になっている場合は、プレゼンタのみがキャプチャされます。[Snap to Whiteboard] 機能は、タッチコントローラまたは Web インターフェイスからセットアップできます。

使用方法:

xConfiguration Cameras SpeakerTrack Whiteboard Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:*Off/On***Off:** [Snap to Whiteboard] 機能が無効になります。**On:** [Snap to Whiteboard] 機能が有効になります。

デフォルト値:

Off



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

会議設定

xConfiguration Conference AutoAnswer Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

自動応答モードを定義します。通話に応答するまでの秒数を待つ場合は [電話会議の自動応答の遅延] 設定を使用し、通話に応答されるときにマイクをミュートする場合は [電話会議の自動応答のミュート] 設定を使用します。

使用方法:

xConfiguration Conference AutoAnswer Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: タッチ コントローラーの [応答] をタップすると、着信に手動で応答できます。

On: デバイスは自動的に着信に応答します。ただし、すでに通話中である場合を除きます。通話中の場合でも、着信に手動で応答したり拒否したりすることができます。

デフォルト値:

Off

xConfiguration Conference AutoAnswer Mute

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

着信通話に自動的に応答する際にマイクをミュートにするかどうかを定義します。[自動応答モード] が On になっている必要があります。

使用方法:

xConfiguration Conference AutoAnswer Mute: Mute

値は次のとおりです。

ミュート:

Off/On

Off: 着信はミュートされません。

On: 自動応答時に着信通話をミュートにします。

デフォルト値:

Off

xConfiguration Conference AutoAnswer Delay

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

着信コールに対して、デバイスが自動的に応答するまでの待機時間 (秒) を定義します。[自動応答モード] が On になっている必要があります。

使用方法:

xConfiguration Conference AutoAnswer Delay: Delay

値は次のとおりです。

遅延:

整数 (0..50)

自動応答の遅延時間 (秒)。

デフォルト値:

0



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Conference DefaultCall Protocol

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

デバイスから発信するときに使用される Default Call Protocol を定義します。

使用方法:

xConfiguration Conference DefaultCall Protocol: Protocol

値は次のとおりです。

プロトコル:

自動/H320/H323/Sip/Spark

Auto: 利用可能なプロトコルに基づいて、通話プロトコルの自動選択を有効にします。複数のプロトコルが利用できる場合の優先順位は以下の通りです。1) SIP; 2) H323; 3) H320。デバイスが登録できない場合、自動選択は H323 を選択します。

H320: すべての通話は H.320 通話としてセットアップされます (Cisco TelePresence ISDN Link が使用される場合のみ)。

H323: すべての通話が H.323 通話としてセットアップされます。

Sip: すべての通話が SIP 通話としてセットアップされます。

Spark: Webex 登録済みデバイス用に予約されています。使用しないでください。

デフォルト値:

自動

xConfiguration Conference DefaultCall Rate

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

デバイスから発信する際に使用するデフォルト通話レートを定義します。

使用方法:

xConfiguration Conference DefaultCall Rate: Rate

値は次のとおりです。

Rate:

整数(64..6000) [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskPro/DeskLE]

整数(64..10000) [Boards]

整数(64..20000) [RoomPanorama/Room70Panorama]

デフォルトのコールレート (kbps) です。

デフォルト値:

6000 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskPro/DeskLE]

10000 [Boards]

16000 [RoomPanorama/Room70Panorama]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Conference DoNotDisturb DefaultTimeout

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

この設定は、着信通話が応答されず、不在着信として登録されるまでの期間など、着信拒否セッションのデフォルト期間を決定します。セッションは、ユーザインターフェイスを使用して早く終了することができます。

使用方法:

xConfiguration Conference DoNotDisturb DefaultTimeout: DefaultTimeout

値は次のとおりです。

DefaultTimeout:

整数 (1..1440)

分数 (最大 1440 分 = 24 時間)で、「邪魔しないで」セッションが自動的にタイムアウトします。

デフォルト値:

60

xConfiguration 会議暗号化モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

会議の暗号化モードを定義します。会議が開始されると、「暗号化On」または「暗号化Off」と表示された南京錠のアイコンが数秒間画面に表示されます。

メモ: デバイスに暗号化オプションキーがインストールされていない場合、暗号化モードは常にOffになります。

使用方法:

xConfiguration Conference Encryption Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On/ベストエフォート

Off: デバイスは暗号化を使用しません。

On: デバイスは暗号化された通話のみを許可します。

BestEffort: デバイスは可能な限り暗号化を使用します。

> ポイントツーポイント通話: 相手側のデバイスが暗号化 (AES-128) をサポートしている場合、通話は暗号化されます。そうでない場合、通話は暗号化されずに続行されます。

> MultiSite 通話: 暗号化された MultiSite 電話会議を使用するには、すべてのサイトが暗号化をサポートしている必要があります。そうでない場合、電話会議は暗号化されません。

デフォルト値:

ベストエフォート



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Conference FarEndControl Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

リモート側 (遠端) がビデオソースを選択し、ローカルカメラをコントロール (パン、チルト、ズーム) することを許可するかどうかを決定します。

使用方法:

xConfiguration Conference FarEndControl Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: 相手側はこちら側のビデオソースを選択したり、ローカルカメラをコントロール (パン、チルト、ズーム) することはできません。

On: 相手側はこちら側のビデオソースを選択したり、ローカルカメラを操作 (パン、チルト、ズーム) できるようになります。カメラの操作やビデオソースの選択は通常通り行えます。

デフォルト値:

On

xConfiguration Conference FarEndControl SignalCapability

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

遠端制御 (H.224) 信号機能モードを定義します。

使用方法:

xConfiguration Conference FarEndControl SignalCapability: SignalCapability

値は次のとおりです。

信号機能:

Off/On

Off: 遠端制御信号機能を無効にします。

On: 遠端制御信号機能を有効にします。

デフォルト値:

On

xConfiguration Conference FarEndMessage Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

コントロール システムまたはマクロで使用する、ポイントツーポイント コールの 2 つのデバイス間でのデータ送信を許可するかどうかを切り替えます。SIP 通話でのみ機能します。この設定により、xCommand Call FarEndMessage Send コマンドの使用が有効/無効になります。

使用方法:

xConfiguration Conference FarEndMessage Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: 2 つのデバイス間でメッセージを送信することはできません。

On: ポイントツーポイント通話の 2 つのデバイス間でメッセージを送信できます。

デフォルト値:

Off



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Conference MaxReceiveCallRate

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

通話の発信または受信時に使用する最大受信ビットレートを定義します。これは、各コールの最大ビットレートで、Conference MaxTotalReceiveCallRate 設定を使用して、すべての同時アクティブコールの集計最大値を設定します。

使用方法:

xConfiguration Conference MaxReceiveCallRate: MaxReceiveCallRate

値は次のとおりです。

MaxReceiveCallRate:

整数 (64..6000) [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskPro/DeskLE]

整数 (64..20000) [RoomPanorama/Room70Panorama]

整数 (64..10000) [Boards]

最大受信コールレート (kbps) です。

デフォルト値:

6000 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskPro/DeskLE]

10000 [Boards]

20000 [RoomPanorama/Room70Panorama]

10000 [ボード]

xConfiguration Conference MaxTransmitCallRate

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

通話の発信または受信時に使用する最大送信ビットレートを定義します。これは、各コールの最大ビットレートで、Conference MaxTotalTransmitCallRate 設定を使用して、すべての同時アクティブコールの集計最大値を設定します。

使用方法:

xConfiguration Conference MaxTransmitCallRate: MaxTransmitCallRate

値は次のとおりです。

MaxTransmitCallRate:

整数 (64..6000) [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskPro/DeskLE Boards]

整数 (64..20000) [RoomPanorama/Room70Panorama]

最大送信コールレート(kbps)です。

デフォルト値:

6000 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskPro/DeskLE Boards]

20000 [RoomPanorama/Room70Panorama]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Conference MaxTotalReceiveCallRate

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

この構成は、デバイスの組み込み MultiSite 機能 (オプション) を使用して、マルチポイント ビデオ会議を主催する場合に適用されます。

許容される全体の最大受信ビット レートを定義します。ビット レートは、任意の時点でのすべてのアクティブ コール間で公平に分配されます。これは、誰かが多拠点電話会議を退出または参加したとき、または通話が保留(中断)または再開したときに、個々の通話が適切に加速または減速されることを意味します。

各通話の最大受信ビット レートは、Conference MaxReceiveCallRate 設定で定義されます。

使用方法:

xConfiguration Conference MaxTotalReceiveCallRate: MaxTotalReceiveCallRate
値は次のとおりです。

MaxTotalReceiveCallRate:

整数 (64..6000) [RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D]

整数 (64..10000) [Boards]

整数 (64..15000) [CodecPro Room70G2 DeskPro/DeskLE]

整数 (64..20000) [RoomPanorama/Room70Panorama]

最大受信コールレート (kbps) です。

デフォルト値:

6000 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D]

10000 [Boards]

15000 [CodecPro Room70G2 DeskPro/DeskLE]

20000 [RoomPanorama/Room70Panorama]

xConfiguration Conference MaxTotalTransmitCallRate

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

この構成は、デバイスの組み込み MultiSite 機能 (オプション) を使用して、マルチポイント ビデオ会議を主催する場合に適用されます。

許容される全体の最大送信ビットレートを定義します。ビット レートは、任意の時点でのすべてのアクティブ コール間で公平に分配されます。これは、誰かが多拠点電話会議を退出または参加したとき、または通話が保留(中断)または再開したときに、個々の通話が適切に加速または減速されることを意味します。各コールの最大送信ビット レートは、Conference MaxTransmitCallRate 設定で定義されます。

使用方法:

xConfiguration Conference MaxTotalTransmitCallRate: MaxTotalTransmitCallRate
値は次のとおりです。

MaxTotalTransmitCallRate:

整数 (64..6000) [RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D Boards]

整数 (64..15000) [CodecPro Room70G2 DeskPro/DeskLE]

整数 (64..20000) [RoomPanorama/Room70Panorama]

最大送信コールレート (kbps) です。

デフォルト値:

6000 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D Boards]

15000 [CodecPro Room70G2 DeskPro/DeskLE]

20000 [RoomPanorama/Room70Panorama]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Conference MicUnmuteOnDisconnect Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

すべての通話が切断されたときに、マイクを自動的にミュート解除するかどうかを定義します。ミーティングルームまたは他の共有リソースで、これは次のユーザーのためにデバイスを準備するために行われる場合があります。

使用方法:

xConfiguration Conference MicUnmuteOnDisconnect Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: 通話中にミュートされた場合、通話が切断された後もマイクはミュートされたままになります。

On: 通話が切断された後でマイクをミュート解除します。

デフォルト値:

On

xConfiguration 会議マルチポイントモード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ポイントツーポイントのビデオコール 2 者だけが関与するコールを、より多くの参加者がいる多地点会議(アドホック会議)に拡張する方法を定義する。ローカル リソースのみに依存する組み込み MultiSite 機能、および集中型インフラストラクチャ (マルチポイント コントロール ユニット - MCU) に基づく異なるソリューションの両方が使用可能です。

MultiSite 機能はアップグレード オプションであり、すべてのデバイスで利用できるわけではありません。MultiSite オプションキーがデバイスにインストールされている必要があります。

Cisco TelePresence Video Communication Server (VCS) に登録されている場合、そのデバイスは MultiSite を使って他のビデオ会議端末に発信できます。Cisco Unified Communications Manager (CUCM) バージョン 8.6.2 以降に登録されている場合、デバイスは CUCM 会議ブリッジ、またはデバイス自体の組み込みの MultiSite 機能のいずれかを使用できます。どのオプションを使用するかは、CUCM によりセットアップされます。

いずれの場合も、デバイスが参加者を電話会議に追加することを許可する MCU に発信する場合、複数参加者の会議は MCU 経由でセットアップできます (直接リモート追加)。

使用方法:

xConfiguration 電話会議 マルチポイントモード: モード

値は次のとおりです。

Mode:

Auto/CUCMMediaResourceGroupList/MultiSite/Off

Auto: マルチポイント方法が自動的に選択されます。

MultiSite オプション キーがデバイスにインストールされ、別のビデオ デバイス (MCU ではない) に発信している場合、複数参加者会議は組み込みの MultiSite 機能を使用してセットアップされます。参加者を追加できるのは、MultiSite の主催者だけです。これにより、カスケード型の会議が防止されます。デバイスに MultiSite オプション キーがない場合、ビデオで複数のビデオデバイスに発信することはできません。音声のみの参加者を 1 名追加できます。

MultiSite オプションキーに関係なく、複数参加者の会議は、デバイスが参加者を電話会議に追加することを許可するMCUに発信する場合、MCU 経由でセットアップされる場合があります。

CUCMMediaResourceGroupList: 複数参加者の電話会議は、CUCM が設定した電話会議ブリッジによって主催されます。この設定は CUCM 環境の CUCM によってプロビジョニングされ、ユーザーが手動で設定するべきではありません。

MultiSite: MultiSite オプション キーがデバイスにインストールされている場合、複数参加者の電話会議は、組み込みの MultiSite 機能を使用してセットアップされます。デバイスに MultiSite オプション キーがない場合、ビデオで複数のデバイスに発信することはできません。音声のみのデバイスを 1 台追加できます。

Off: ビデオで複数のデバイスに発信することはできませんが、音声のみのデバイスを 1 台追加することはできます。デバイスが参加者を電話会議に追加することを許可する MCU に発信する



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

場合、複数参加者の電話会議は MCU 経由でセットアップされる可能性があります (直接リモート追加)。

デフォルト値:

自動

xConfiguration Conference MultiStream Mode

適用対象: *RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者

このデバイスは、ビデオ会議のマルチストリームをサポートします。

使用方法:

xConfiguration Conference MultiStream Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Auto/Off

Auto: 会議インフラストラクチャがこの機能をサポートしている場合、マルチストリームが使用されます。必要な最小バージョン: CMS 2.2, CUCM 11.5, VCS X8.7。

Off: マルチストリームは無効です。

デフォルト値:

自動

施設サービスの構成

xConfiguration FacilityService Service [n] Type

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

最大 5 つの異なる施設サービスを同時にサポートできます。この設定では、サービスの種類を選択できます。FacilityService Service [n] Name および the FacilityService Service [n] Number 設定が適切に設定されていないと、設備サービスは、利用できません。施設サービスはユーザ インターフェイスから利用できます。

使用方法:

xConfiguration FacilityService Service [n] Type: Type

値は次のとおりです。

n: サービスを識別する一意の ID です。

範囲: 1..5

タイプ:

ケータリング/コンシェルジュ/緊急/ヘルプデスク/セキュリティ/交通機関/その他

ケータリング: ケータリングサービスをご利用の場合は、このオプションを選択します。

コンシェルジュ: コンシェルジュ サービスを受けるにはこのオプションを選択します。

緊急: 緊急サービスを利用するにはこのオプションを選択します。

ヘルプデスク: ヘルプデスクサービスを受けるにはこのオプションを選択します。

セキュリティ: セキュリティサービスを利用するにはこのオプションを選択します。

交通機関: 交通機関サービスを利用する場合は、このオプションを選択します。

その他: 他のオプションに含まれないサービスを利用するには、このオプションを選択します。

デフォルト値:

ヘルプデスク



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration FacilityService Service [n] Name

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

施設サービスの名前を定義します。最大 5 つの異なる施設サービスがサポートされます。FacilityService Service [n] Name および the FacilityService Service [n] Number 設定が適切に設定されていないと、設備サービスは、利用できません。名前は、トップ バーのクエスチョン マーク アイコンをタップすると表示される施設のサービス呼び出しボタンに表示されます。施設サービスはユーザインターフェイスから利用できます。

使用方法:

xConfiguration FacilityService Service [n] Name: "Name"

値は次のとおりです。

n: サービスを識別する一意の ID です。

範囲: 1..5

名前:

文字列 (0, 1024)

施設サービスの名前です。

デフォルト値:

サービス 1「ライブサポート」その他のサービス f」

xConfiguration FacilityService Service [n] Number

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

施設サービスの番号 (URI または電話番号) を定義します。最大 5 つの異なる施設サービスがサポートされます。FacilityService Service [n] Name および the FacilityService Service [n] Number 設定が適切に設定されていないと、設備サービスは、利用できません。施設サービスはユーザインターフェイスから利用できます。

使用方法:

xConfiguration FacilityService Service [n] Number: "Number"

値は次のとおりです。

n: サービスを識別する一意の ID です。

範囲: 1..5

番号:

文字列 (0, 1024)

施設サービスの番号 (URI または電話番号) です。

デフォルト値:

""



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration FacilityService Service [n] CallType

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

各施設サービスのコールタイプを定義します。最大 5 つの異なる施設サービスがサポートされます。FacilityService Service [n] Name および the FacilityService Service [n] Number 設定が適切に設定されていないと、設備サービスは、利用できません。施設サービスはユーザ インターフェイスから利用できます。

使用方法:

xConfiguration FacilityService Service [n] CallType: CallType

値は次のとおりです。

n: サービスを識別する一意の ID です。

範囲: 1..5

CallType:

音声/ビデオ

音声: 音声通話の場合はこのオプションを選択します。

ビデオ: ビデオ コールの場合はこのオプションを選択します。

デフォルト値:

ビデオ

GPIO の設定

xConfiguration GPIO ピン [n] モード

適用対象: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

4 つの GPIO ピンは個別に構成されます。GPIO ピン [1..4] の状態で、実際に測定されたピンの状態 (低/高) を取得できます。

出力モードのピンのデフォルト状態は High (+12 V) です。

メモ: 出力モードに定義されたピンは、Low に強制的に設定できます。High に設定すると、回線をローにする外部デバイスに接続されていない場合にのみ、回線はハイになります。

使用方法:

xConfiguration GPIO ピン [n] モード: モード

値は次のとおりです。

n: GPIO ピン番号。

範囲: 1..4

Mode:

InputAcceptAllCalls/InputDisconnectAllCalls/InputMuteMicrophones/InputNoAction/OutputAllCallsEncrypted/OutputInCall/OutputManualState/OutputMicrophonesMuted/OutputPresentationOn/OutputStandbyActive

InputAcceptAllCalls: 着信時に PIN が High から Low に変化すると、通話が受け入れられます (Call Accept コマンドが自動的に発行されます)。

InputDisconnectAllCalls: 通話中に PIN が High から Low に遷移すると、通話が切断されます (Call Disconnect コマンドが自動的に発行されます)。

InputMuteMicrophones: 通話中にピンが High から Low に移行すると、マイクがミュートされます。通話中にピンが低から高に移行すると、マイクがミュート解除されます (Audio Mute および Audio Unmute のコマンドは自動的に発行されます)。

InputNoAction: ピン 状態はアクションをトリガーしません。ピンの状態は、[GPIO ピン [1..4] 状態] で読み取ることができます。

OutputAllCallsEncrypted: すべての通話が暗号化されるとPINがLowに設定され、一つ以上の通話が暗号化されていない場合、PINがHighに設定されます。

OutputInCall: 通話中は PIN を Low に設定し、通話中でないときは High に設定します。

OutputManualState: ピンの状態は、GPIO 手動状態設定 PinX コマンドによって、高または低に設定できます。これは、それぞれ +12 V または 0 V に設定されます。

OutputMicrophonesMuted: マイクがミュートされている場合、ピンは Low に設定され、ミュートされていない場合は High に設定されます。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

OutputPresentationOn: このピンは、プレゼンテーションがアクティブなときにローに設定され、アクティブでないときにハイに設定されます。

OutputStandbyActive: このピンは、デバイスがスタンバイモードの場合、ローに設定され、デバイスが非スタンバイモードの場合、ハイに設定されます。

デフォルト値:

InputNoAction

H323 の設定

xConfiguration H323 認証モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

H.323 プロファイルの認証モードを定義します。

使用方法:

xConfiguration H323 認証モード: モード

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: デバイスは H.323 ゲートキーパーに対して認証を試みませんが、通常の登録を試みます。

On: H.323 ゲートキーパーが認証を要求することを示している場合、デバイスはゲートキーパーに対して自身の認証を試みます。H323 認証ログイン名と H323 認証パスワード設定をデバイスとゲートキーパーの両方で定義する必要があります。

デフォルト値:

Off



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration H323 Authentication LoginName

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

デバイスは H.323 認証ログイン名と H.323 認証パスワードを認証のために H.323 ゲートキーパーに送信します。認証はデバイスから H.323 ゲートキーパーへの一方向の認証です。つまり、デバイスはゲートキーパーに対して認証されます。H.323 ゲートキーパーが認証が不要と表示した場合でも、デバイスは登録を試みます。H.323 認証モードを有効にする必要があります。

使用方法:

xConfiguration H323 Authentication LoginName: "LoginName"

値は次のとおりです。

ログイン名:

文字列 (0, 50)

認証ログイン名です。

デフォルト値:

""

xConfiguration H323 認証パスワード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

デバイスは H.323 認証ログイン名と H.323 認証パスワードを認証のために H.323 ゲートキーパーに送信します。認証はデバイスから H.323 ゲートキーパーへの一方向の認証です。つまり、デバイスはゲートキーパーに対して認証されます。H.323 ゲートキーパーが認証が不要と表示した場合でも、デバイスは登録を試みます。H.323 認証モードを有効にする必要があります。

使用方法:

xConfiguration H323 認証パスワード: "Password"

値は次のとおりです。

パスワード:

文字列 (0, 50)

認証パスワードです。

デフォルト値:

""

xConfiguration H323 通話設定モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

H.323 通話を確立するときに、ゲートキーパーまたは直接通話のどちらを使用するかを定義します。ダイレクト H.323 通話は、[H323 CallSetup モード] が [ゲートキーパー] に設定されている場合にも発信できます。

使用方法:

xConfiguration H323 CallSetup Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

ダイレクト/ゲートキーパー

直通: H.323 通話の発信は、IP アドレスに直接ダイヤルすることによってのみ可能です。

ゲートキーパー: デバイスはゲートキーパーを使用して H.323 通話を発信します。このオプションを選択する場合、H.323 ゲートキーパーアドレスも設定する必要があります。

デフォルト値:

Gatekeeper

xConfiguration H323 暗号化キーサイズ

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

Advanced Encryption Standard (AES) 暗号化キーを確立するときに使用される Diffie-Hellman キー交換方法の最小または最大のキーサイズを定義します。

使用方法:

xConfiguration H323 Encryption KeySize: KeySize

値は次のとおりです。

KeySize:

Max1024bit/Min1024bit/Min2048bit

Max1024bit: 最大サイズは 1024 bit です。

Min1024bit: 最小サイズは 1024 ビットです。

Min2048bit: 最小サイズは 2048 ビットです。

デフォルト値:

Min1024bit



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration H323 ゲートキーパーアドレス

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ゲートキーパーの IP アドレスを定義します。H323 CallSetup Mode を [ゲートキーパー] に設定する必要があります。

使用方法:

xConfiguration H323 ゲートキーパー アドレス: "Address"

値は次のとおりです。

Address:

文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

デフォルト値:

""

xConfiguration H323 H323Alias E164

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

H.323 エイリアス E.164 は、H.323 ゲートキーパーに実装されている番号計画に従って、デバイスのアドレスを定義します。E.164 エイリアスは電話番号に相当し、アクセスコードと組み合わせられることもあります。

使用方法:

xConfiguration H323 H323Alias E164: "E164"

値は次のとおりです。

E164:

文字列 (0, 30)

H.323 エイリアス E.164 アドレス。有効な文字は 0-9、*、# です。

デフォルト値:

""

xConfiguration H323 H323Alias ID

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

H.323 エイリアス ID を定義します。これは、H.323 ゲートキーパー上のデバイスのアドレス指定に使用され、コールリストに表示されます。

使用方法:

xConfiguration H323 H323Alias ID: "ID"

値は次のとおりです。

ID:

文字列 (0, 49)

H.323 エイリアス ID です。例: "firstname.lastname@company.com", "My H.323 エイリアス ID"

デフォルト値:

""



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration H323 NAT モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

H323 NAT モードは、デバイスがプライベートネットワーク上にあり、ゲートキーパーに登録されていない場合に使用します。その後、H323 NAT モードを使用して、パブリック ネットワーク上のデバイスに到達できます。

NAT は IPv6 ではサポートされていません。

メモ: ビデオ会議デバイスがゲートキーパーに登録されている場合、[H323 NAT モード] および [H323 NAT アドレス] の設定は無視されます。H323 NAT モードを使用するのではなく、ファイアウォールトランパサル機能を持つゲートキーパーを使用することを推奨します。

使用方法:

xConfiguration H323 NAT Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Auto/Off/On

Auto: 自動モードは、[H323 NAT アドレス] 設定で NAT アドレスを指定した場合にのみ機能します。

デバイスがゲートキーパーに登録されていない場合、デバイスのローカル アドレスがプライベートで、発信しているアドレス (リモート) がパブリックで、ローカル アドレスとリモート アドレスの両方が IPv4 の場合、NAT が On になります。そうでない場合、NAT は Off になります。

これは、外部デバイス (プライベート ネットワーク外) だけでなく、プライベート ネットワーク上のデバイスにも発信できることを意味します。プライベートネットワークの通話の場合、H323 NAT アドレスは使用されません (存在している必要があります)。パブリックネットワークへの発信では、H323 NAT アドレスが使用されます。

Off: NAT が Off になり、H323 NAT アドレス設定は無視されます。この場合、ゲートキーパーを使用しない限り、プライベート ネットワーク外にあるデバイスへの発信をセットアップすることはできません。

On: NAT は常に On になります。[H323 NAT アドレス] 設定で NAT アドレスを指定する必要があります。デバイスは、Q.931 および H.245 のプライベート IP アドレスの代わりに、常に H323 NAT アドレスをシグナリングします。H323 NAT アドレスが間違っているか、設定されていない場合、H.323 通話はセットアップできません。

デフォルト値:

Off

xConfiguration H323 NAT アドレス

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

NAT をサポートするルーターの外部/グローバル IP アドレスを定義します。このアドレスは、プライベートネットワーク外のデバイスへの通話を設定する際に公開されます。NAT アドレスが使用される場合、詳細については H323 NAT モード設定を参照してください。

ルーターでは、次のポートがビデオ会議デバイスの IP アドレスにルーティングされている必要があります。

* ポート 1720

* ポート 5555-6555

* ポート 2326-2487

使用方法:

xConfiguration H323 NAT Address: "Address"

値は次のとおりです。

Address:

文字列 (0, 64)

IPv4 アドレス。ほとんどの場合、パブリック IP アドレスで、RFC 1918 を参照してください。別のプライベート アドレスの場合もあります (例えば、より大きな会社のネットワーク)。

デフォルト値:

" "



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

HttpClient 設定

xConfiguration HttpClient Mode

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者

HTTP(S) リクエストとレスポンスを使った外部 HTTP(S) サーバーとの通信を許可または禁止します。

使用方法:

xConfiguration HttpClient Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: ビデオ会議デバイスは外部 HTTP(S) サーバーと通信できません。

On: ビデオ会議デバイスは外部 HTTP(S) サーバーと通信できます。

デフォルト値:

Off

xConfiguration HttpClient AllowHTTP

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者

[HttpClient モード] 設定は、外部 HTTP(S) サーバーとの通信を許可または禁止するために使用されます。モード設定では、HTTP と HTTPS は区別されません。HttpClient AllowHTTP 設定を使用し、HTTP の使用をさらに許可または禁止する必要があります。

使用方法:

xConfiguration HttpClient AllowHTTP: AllowHTTP

値は次のとおりです。

AllowHTTP:

False/True

False: ビデオ会議デバイスは HTTPS 経由でのみ通信できます。

True: ビデオ会議デバイスは HTTPS と HTTP の両方で通信できます。

デフォルト値:

True



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration HttpClient AllowInsecureHTTPS

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

サーバーの証明書を最初に確認することなく、HTTPS 経由でビデオ会議デバイスがサーバと通信することを許可するかどうかを選択できます。

デバイスで証明書の検証プロセスをスキップすることが許可されている場合でも、自動的にには行われません。証明書の検証なしでサーバとデータを交換するには、各 xCommand HttpClient コマンドで AllowInsecureHTTPS パラメータを明確に設定する必要があります。

使用方法:

xConfiguration HttpClient AllowInsecureHTTPS: AllowInsecureHTTPS

値は次のとおりです。

AllowInsecureHTTPS:

False/True

False: デバイスは、HTTPS サーバーが有効な証明書を持っていることを常に確認します。証明書の検証が失敗した場合、サーバとの通信は行われません。

True: デバイスは、サーバと通信する前に、証明書の検証プロセスをスキップできます。

デフォルト値:

False

xConfiguration HttpClient UseHttpProxy

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

UseHttpProxy 設定がいくつかあり、サービスが HTTP プロキシ経由で通信するかどうかを指定します。HttpClient UseHttpProxy 設定は、HttpClient コマンドを使用するマクロおよび任意の HTTP(S) リクエストに適用されます。

この設定を有効にするには、NetworkServices HTTP プロキシ設定を使用して、HTTP、HTTPS、および WebSocket トラフィック用のプロキシ サーバーをセットアップする必要があります。

使用方法:

xConfiguration HttpClient UseHttpProxy: UseHttpProxy

値は次のとおりです。

UseHttpProxy:

Off/On

Off: サーバとの直接通信をセットアップします (プロキシを使用しない)。

On: プロキシ経由の通信をセットアップします。

デフォルト値:

On



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

HttpFeedback 設定

xConfiguration HttpFeedback TlsVerify

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

この設定は、任意の HTTPS 通信のためにビデオ会議デバイスが HTTPS サーバーに接続する場合に適用されます (HttpClient の Post/Put/Patch/Get/Delete コマンドを参照してください)。電話帳、プロビジョニング、および外部ログサーバーについては、Phonebook Server 1 TlsVerify、Provisioning TlsVerify、および Logging External TlsVerify の設定を参照してください。

デバイスと HTTPS サーバ間の接続を確立する前に、デバイスはサーバーの証明書が信頼できる認証局 (CA) によって署名されているかどうかを確認します。CA 証明書は、事前にインストールされているか、ウェブ インターフェイスまたは API を使用して手動でアップロードされたデバイスの CA リストに含まれている必要があります。

通常、HTTPS 接続の最小 TLS (トランスポート層セキュリティ) バージョンは 1.1 です。このルールには 2 つの例外があります。1) 互換性の理由から、CUCM に登録されているデバイスの最小 TLS バージョンは 1.0 です。2) Webex クラウド サービスに登録されているデバイスは常にバージョン 1.2 を使用します。

メモ: CE9.8 以前のソフトウェア バージョンから CE9.9 (以降) にアップグレードされたデバイスの値は Off に設定されています。ただし、デバイスがアップグレード後に工場出荷時リセットされておらず、古い NetworkServices HTTPS VerifyServerCertificate 設定が明示的に On に設定されていなかった。

使用方法:

xConfiguration HttpFeedback TlsVerify: [TlsVerify](#)

値は次のとおりです。

[TlsVerify](#):

Off/On

Off: デバイスは HTTPS サーバーの証明書を確認しません。

On: デバイスは、HTTPS サーバーの証明書が信頼できるかどうかを確認します。そうでない場合、デバイスとサーバ間の接続は確立されません。

デフォルト値:

On

xConfiguration HttpFeedback UseHttpProxy

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

UseHttpProxy 設定がいくつかあり、サービスが HTTP プロキシ経由で通信するかどうかを指定します。HttpFeedback UseHttpProxy 設定は、ビデオ デバイスから送信されるフィードバックに適用されます。

この設定を有効にするには、NetworkServices HTTP プロキシ設定を使用して、HTTP、HTTPS、および WebSocket トラフィック用のプロキシ サーバーをセットアップする必要があります。

使用方法:

xConfiguration HttpFeedback UseHttpProxy: [UseHttpProxy](#)

値は次のとおりです。

[使用するHttpProxy](#):

Off/On

Off: サーバとの直接通信をセットアップします (プロキシを使用しない)。

On: プロキシ経由の通信をセットアップします。

デフォルト値:

On



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ロギングの設定

xConfiguration Logging CloudUpload Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

デバイスからのログを Webex クラウド サービスにアップロードできるかどうかを指定します。デバイス ログは、クラウドに送信される前に、個人を特定できる情報がフィルタリングされます。

有効にすると、ログのアップロードはデバイス自体または Control Hub から開始できます。デバイスのユーザー インターフェイスには [ログの送信] ボタンが表示され、Control Hub の [デバイス] ページには [ログの管理] セクションが表示されます。

デバイスは、Webex クラウド サービスに登録されているか、Onプレミス サービスに登録されており、デバイス用の Webex Edge にリンクされている必要があります。

使用方法:

xConfiguration Logging CloudUpload Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: デバイスからのログは Webex クラウドにアップロードできません。

On: デバイスからのログを Webex クラウドにアップロードできます。

デフォルト値:

Off

xConfiguration Logging External Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

リモート syslog サーバーにデバイスログを保存するかどうかを指定します。[ログモード] 設定が [Off] に設定されている場合、この設定は影響しません。

[ログ外部サーバアドレス] 設定で、リモートサーバーのアドレスを入力する必要があります。[ロギング外部サーバ ポート] 設定で別段の指定がない限り、標準の syslog ポートが使用されます。

使用方法:

xConfiguration Logging External Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: デバイスのログはリモート syslog サーバーに保存されません。

On: デバイスログはリモート syslog サーバーに保存されます。

デフォルト値:

Off

xConfiguration Logging External Protocol

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

リモートログサーバーに対して使用するプロトコルを指定します。TLS (トランスポート層セキュリティ) 上の syslog プロトコル、またはプレーンテキストの syslog プロトコルのいずれかを使用できます。Syslog プロトコルの詳細については、RFC 5424 を参照してください。

使用方法:

xConfiguration Logging External Protocol: Protocol

値は次のとおりです。

プロトコル:

Syslog/SyslogTLS

Syslog: プレーンテキスト形式の Syslog プロトコル。

SyslogTLS: TLS 上の Syslog プロトコル。

デフォルト値:

SyslogTLS



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Logging External Server Address

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

リモート syslog サーバーのアドレスを指定します。

使用方法:

xConfiguration Logging External Server Address: "Address"

値は次のとおりです。

Address:

文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

デフォルト値:

""

xConfiguration Logging External Server Port

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

リモート syslog サーバーがメッセージをリッスンするポートです。0 に設定すると、デバイスは標準の syslog ポートを使用します。標準の syslog ポートは、syslog が 514、TLS 経由の syslog が 6514 です。

使用方法:

xConfiguration Logging External Server Port: Port

値は次のとおりです。

ポート:

整数 (0..65535)

リモート syslog サーバーが使用しているポート番号。0 は、デバイスが標準の syslog ポートを使用することを意味します。

デフォルト値:

514

xConfiguration Logging External TlsVerify

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

この設定は、ビデオ会議デバイスがリモート syslog サーバーに接続するときに適用されます。これは、通常のロギング (ロギング エクスターナル モード設定を参照) と監査ロギング (セキュリティ監査ロギング モード設定を参照) の両方に適用されます。

デバイスと syslog サーバ間の接続を確立する前に、デバイスはサーバーの証明書が信頼できる認証局 (CA) によって署名されているかどうかを確認します。CA 証明書は、事前にインストールされているか、ウェブ インターフェイスまたは API を使用して手動でアップロードされたデバイスの CA リストに含まれている必要があります。

Syslog 接続の最小 TLS (トランスポート層セキュリティ) バージョンは 1.1 です。

使用方法:

xConfiguration Logging External TlsVerify: TlsVerify

値は次のとおりです。

TlsVerify:

Off/On

Off: デバイスは syslog サーバーの証明書を確認しません。

On: デバイスは、syslog サーバーの証明書が信頼できるかどうかを確認します。そうでない場合、デバイスとサーバ間の接続は確立されていません。

デフォルト値:

On



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Logging Internal Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

システムログをデバイスに保存するかどうかを指定します (ローカルファイル)。これらは、デバイスからログ バンドルをダウンロードするときに取得するファイルです。[ログモード] 設定が [Off] に設定されている場合、この設定は影響しません。

使用方法:

xConfiguration Logging Internal Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: システムログはデバイスに保存されません。

On: システムログはデバイスに保存されます。

デフォルト値:

On

マクロ 設定

xConfiguration マクロモード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

マクロを使用すると、ビデオ会議デバイスの一部を自動化する JavaScript コードのスニペットを記述して、動作をカスタマイズできます。マクロの使用はデフォルトでは無効になっていますが、マクロエディターを初めて開くとき、デバイスでマクロの使用を有効にするかどうかを確認するメッセージが表示されます。デバイスのマクロを手動で有効にするか、完全に無効にする場合は、この設定を使用します。マクロエディタ内でマクロの使用を無効にすることができます。ただし、端末がリセットされるたびにマクロが自動的に再度有効になるため、これによりマクロの実行が完全に無効になるわけではありません。

使用方法:

xConfiguration マクロ モード: モード

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: この端末でのマクロの使用を完全に無効にします。

On: このデバイスでマクロの使用を有効にします。

デフォルト値:

Off



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Macros AutoStart

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザーロール: 管理者

すべてのマクロは、マクロランタイムと呼ばれる、ビデオ会議デバイス上の単一のプロセスで実行されます。デフォルトで実行されているはずですが、手動で停止および開始することもできます。デバイスを再起動すると、自動開始が有効になっている場合、ランタイムが自動的に再開します。

使用方法:

xConfiguration Macros AutoStart: [AutoStart](#)

値は次のとおりです。

[AutoStart](#):

Off/On

Off: マクロランタイムは、装置の再起動後に自動的に開始されません。

On: マクロランタイムは、装置の再起動後に自動的に開始されます。

デフォルト値:

On

xConfiguration Macros UnresponsiveTimeout

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザーロール: 管理者

マクロは継続的に監視され、応答しないコードを検出します。マクロが応答しない場合、通常はプログラミング エラーのサインですが、システム リソースが制限されていることが原因の場合もあります。値を増やすと、マクロは終了せずにより長く実行できます。値を減らすと、不良なマクロがシステムリソースを消費しなくなります。

使用方法:

xConfiguration Macros UnresponsiveTimeout: [UnresponsiveTimeout](#)

値は次のとおりです。

[UnresponsiveTimeout](#):

整数 (0..65535)

無応答のマクロを終了するまでの秒数を設定します。値 0 は全体的にチェックを無効にします。

デフォルト値:

*5 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/
Room70Panorama DeskPro/DeskLE Boards]*

ネットワークの設定

xConfiguration ネットワーク [n] DNS DNSSEC モード

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザーロール: 管理者

ドメイン ネーム システム セキュリティ拡張機能 (DNSSEC) は、DNS の一連の拡張機能です。署名されたゾーンの DNS 応答を認証するために使用されます。未署名のゾーンは引き続き許可されます。

使用方法:

xConfiguration Network [n] DNS DNSSEC Mode: [Mode](#)

値は次のとおりです。

[n](#): ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

[Mode](#):

Off/On

Off: ドメインネームシステムのセキュリティ拡張機能を無効にします。

On: ドメインネームシステムのセキュリティ拡張機能を有効化します。

デフォルト値:

Off



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Network [n] DNS Domain Name

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

DNS ドメイン名は、非修飾名に追加される既定のドメイン名サフィックスです。

例: DNS ドメイン名が「company.com」で、ルックアップする名前が「MyVideoSystem」である場合、DNS ルックアップは「MyVideoSystem.company.com」になります。

使用方法:

xConfiguration Network [n] DNS ドメイン名: "Name"

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

名前:

文字列 (0, 64)

DNS ドメイン名です。

デフォルト値:

""

xConfiguration Network [n] DNS Server [m] Address

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

DNS サーバーのネットワークアドレスを定義します。最大 3 つのアドレスを指定することができます。ネットワークアドレスが不明な場合は、管理者またはインターネットサービスプロバイダに連絡してください。

使用方法:

xConfiguration Network [n] DNS Server [m] Address: "Address"

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

m: DNS サーバーを識別するためのインデックスです。最大で 3 つの DNS サーバーを指定できます。

範囲: 1..3

Address:

文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス。

デフォルト値:

""



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Network [n] IEEE8021X Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスは、イーサネット ネットワークに認証済みネットワーク アクセスを提供するために使用されるポートベースのネットワーク アクセス コントロールを使用して、802.1X LAN ネットワークに接続できます。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IEEE8021X モード: モード

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

Mode:

Off/On

Off: 802.1X 認証が無効です。

On: 802.1X 認証は有効です。

デフォルト値:

Off

xConfiguration ネットワーク [n] IEEE8021X TlsVerify

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

TLS が使用される場合、802.1x 接続のサーバ側の証明書の検証がローカル CA リスト中の証明書と照合されます。CA リストがビデオ会議デバイスにアップロードされている必要があります。これはウェブインターフェイスから実行できます。

この設定は Network [1] IEEE8021X Eap Tls が 有効 (On) の場合にのみ有効です。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IEEE8021X TlsVerify: TlsVerify

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

TlsVerify:

Off/On

Off: Offに設定すると、ローカル CA リストに対してサーバ側の X.509 証明書を検証せずに TLS 接続が許可されます。CA リストがデバイスにアップロードされていない場合、これは通常選択する必要があります。

On: Onに設定すると、サーバ側の X.509 証明書はすべての TLS 接続に対してローカル CA リストに対して検証されます。有効な証明書を持つサーバーのみが許可されます。

デフォルト値:

Off



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Network [n] IEEE8021X UseClientCertificate

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

802.1x 接続で秘密鍵/証明書を使った認証。認証用の X.509 証明書がビデオ会議端末にアップロードされている必要があります。これはウェブ インターフェイスから実行できます。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IEEE8021X UseClientCertificate: UseClientCertificate

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

UseClientCertificate:

Off/On

Off: Offに設定すると、クライアント側の認証は使用されません (サーバ側のみ)。

On: [On] に設定すると、クライアント (ビデオ会議デバイス) はサーバとの相互認証 TLS ハンドシェイクを実行します。

デフォルト値:

Off

xConfiguration Network [n] IEEE8021X アイデンティティ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

802.1X 認証のユーザ名を定義します。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IEEE8021X Identity: "Identity"

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

Identity:

文字列 (0, 64)

802.1X 認証のユーザ名です。

デフォルト値:

""

xConfiguration ネットワーク [n] IEEE8021X パスワード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

802.1X 認証のパスワードを定義します。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IEEE8021X Password: "Password"

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

パスワード:

文字列 (0, 50)

802.1X 認証のパスワードです。

デフォルト値:

""



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Network [n] IEEE8021X AnonymousIdentity

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

802.1X 匿名 ID 文字列は、EAP-PEAP および EAP-TTLS のような異なるトンネル ID をサポートする EAP (拡張認証プロトコル) タイプで非暗号化 ID として使用されます。設定すると、匿名 ID は最初の (暗号化されていない) EAP Identity Request で使用されます。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IEEE8021X AnonymousIdentity: "AnonymousIdentity"

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

匿名アイデンティティ:

文字列 (0, 64)

802.1X 匿名 ID 文字列です。

デフォルト値:

""

xConfiguration Network [n] IEEE8021X Eap Md5

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

Md5 (メッセージ ダイジェスト アルゴリズム 5) モードを定義します。これは共有シークレットに依存するチャレンジ ハンドシェイク認証プロトコルです。Md5 は弱いセキュリティレベルです。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IEEE8021X Eap Md5: Md5

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

Md5:

Off/On

Off: EAP-MD5 プロトコルが無効です。

On: EAP-MD5 プロトコルが有効です。

デフォルト値:

On



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Network [n] IEEE8021X Eap Ttls

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

TTLS (Tunneled Transport Layer Security) モードを定義します。クライアント証明書を必要とせずに LAN クライアントを認証します。Funk Software および Certicom により開発されました。通常、Agere Systems、Proxim、および Avaya でサポートされています。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IEEE8021X Eap Ttls: Ttls

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

Ttls:

Off/On

Off: EAP-TTLS プロトコルが無効です。

On: EAP-TTLS プロトコルが有効です。

デフォルト値:

On

xConfiguration Network [n] IEEE8021X Eap Tls

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

802.1x 接続での EAP-TLS (トランスポート層セキュリティ) の使用を有効または無効にします。RFC 5216 で定義されている EAP-TLS プロトコルは、最も安全な EAP 標準の 1 つと考えられています。LAN クライアントはクライアント証明書を使用して認証されます。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IEEE8021X Eap Tls: Tls

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

Tls:

Off/On

Off: EAP-TLS プロトコルが無効です。

On: EAP-TLS プロトコルが有効です。

デフォルト値:

On



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Network [n] IEEE8021X Eap Peap

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

Peap (保護された拡張認証プロトコル) モードを定義します。クライアント証明書を必要とせずに LAN クライアントを認証します。Microsoft, Cisco, および RSA Security により開発されました。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IEEE8021X Eap Peap: Peap

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

Peap:

Off/On

Off: EAP-PEAP プロトコルが無効です。

On: EAP-PEAP プロトコルが有効です。

デフォルト値:

On

xConfiguration Network [n] IPStack

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスがネットワーク インターフェイスで IPv4, IPv6, またはデュアル IP スタックを使用する必要があるかどうかを選択します。メモ: この設定の変更後、有効になるまでに最大 30 秒かかる場合があります。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IPStack: IPStack

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

IP スタック:

デュアル/IPv4/IPv6

デュアル: デュアルに設定すると、ネットワーク インターフェイスは両方の IP バージョンで同時に動作し、IPv4 と IPv6 アドレスを同時に持つことができます。

IPv4: IPv4 に設定すると、デバイスはネットワーク インターフェイスで IPv4 を使用します。

IPv6: IPv6 に設定すると、デバイスはネットワーク インターフェイスで IPv6 を使用します。

デフォルト値:

デュアル



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Network [n] IPv4 の割り当て

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスが IPv4 アドレス、サブネット マスク、およびゲートウェイ アドレスを取得する方法を定義します。DHCP 要求で使用するクライアント識別子は、製品によって異なります: MAC アドレス(Touch 10)、「01」の後に MAC アドレス(Room Kit, Room Kit Mini, Room 55, Room 70, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama, Boards, Codec Plus, Codec Pro)、そして RFC 4361 で指定されている DHCP 一意識別子(DUID)(Room Navigator を含むその他の製品)。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IPv4 Assignment: Assignment

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

割り当て:

静的/ DHCP

静的: アドレスは、ネットワーク IPv4 アドレス、ネットワーク IPv4 ゲートウェイ、およびネットワーク IPv4 サブネットマスク設定 (静的アドレス) を使用して手動で構成する必要があります。

DHCP: デバイスアドレスは DHCP サーバーにより自動的に割り当てられます。

デフォルト値:

DHCP

xConfiguration ネットワーク [n] IPv4 アドレス

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスの静的 IPv4 ネットワーク アドレスを定義します。[ネットワーク IPv4 割り当て] が [静的] に設定されている場合にのみ適用できます。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IPv4 アドレス: "Address"

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

Address:

文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス。

デフォルト値:

" "

xConfiguration ネットワーク [n] IPv4 ゲートウェイ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

IPv4 ネットワーク ゲートウェイ アドレスを定義します。[ネットワーク IPv4 割り当て] が [静的] に設定されている場合にのみ適用できます。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IPv4 Gateway: "Gateway"

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

ゲートウェイ:

文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス。

デフォルト値:

" "



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration ネットワーク [n] IPv4 サブネットマスク

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

IPv4 ネットワーク サブネット マスクを定義します。[ネットワーク IPv4 割り当て] が [静的] に設定されている場合にのみ適用できます。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IPv4 SubnetMask: "SubnetMask"

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

サブネットマスク:

文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス。

デフォルト値:

""

xConfiguration Network [n] IPv6 Assignment

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスが IPv6 アドレス、サブネット マスク、およびゲートウェイ アドレスを取得する方法を定義します。DHCP 要求で使用するクライアント識別子は、製品によって異なります: MAC アドレス(Touch 10)、「01」の後に MAC アドレス(Room Kit, Room Kit Mini, Room 55, Room 70, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama, Boards, Codec Plus, Codec Pro)、そして RFC 4361 で指定されている DHCP 一意識別子(DUID)(Room Navigator を含むその他の製品)。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IPv6 割り当て: 割り当て

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

割り当て:

静的/DHCPv6/自動設定

静的: デバイスとゲートウェイ IP アドレスは、[ネットワーク IPv6 アドレス] および [ネットワーク IPv6 ゲートウェイ] 設定を使用して、手動で構成する必要があります。NTP および DNS サーバアドレスなどのオプションは、手動で設定するか、または DHCPv6 サーバから取得する必要があります。ネットワーク IPv6 DHCPOptions 設定により、使用する方法が決まります。

DHCPv6: オプションを含むすべての IPv6 アドレスは DHCPv6 サーバから取得されます。詳細については、RFC 3315 を参照してください。ネットワーク IPv6 DHCPOptions 設定は無視されます。

Autoconf: IPv6 ネットワーク インターフェースの IPv6 ステートレス自動構成を有効にします。詳細については、RFC 4862 を参照してください。NTP および DNS サーバアドレスなどのオプションは、手動で設定するか、または DHCPv6 サーバから取得する必要があります。ネットワーク IPv6 DHCPOptions 設定により、使用する方法が決まります。

デフォルト値:

Autoconf



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Network [n] IPv6 Address

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスの静的 IPv6 ネットワーク アドレスを定義します。[ネットワーク IPv6 割り当て] が [静的] に設定されている場合にのみ適用できます。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IPv6 アドレス: "Address"

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

Address:

文字列 (0, 64)

ネットワークマスクを含む有効な IPv6 アドレス。例: 2001:DB8::/48

デフォルト値:

""

xConfiguration Network [n] IPv6 ゲートウェイ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

IPv6 ネットワーク ゲートウェイ アドレスを定義します。この設定は、[ネットワーク IPv6 割り当て] が [静的] に設定されている場合にのみ適用できます。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IPv6 Gateway: "Gateway"

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

ゲートウェイ:

文字列 (0, 64)

有効な IPv6 アドレス。

デフォルト値:

""

xConfiguration Network [n] IPv6 DHCPOptions

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

NTP および DNS サーバアドレスなどの DHCP オプションのセットを DHCPv6 サーバから取得します。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IPv6 DHCPOptions: DHCPOptions

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

DHCP オプション:

Off/On

Off: DHCPv6 サーバからの DHCP オプションの取得を無効にします。

On: DHCPv6 サーバから選択した DHCP オプションセットの取得を有効にします。

デフォルト値:

On



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Network [n] IPv6 InterfaceIdentifier

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスの IPv6 インターフェイス識別子を定義します。MAC または不透明性のいずれかを選択したインターフェイス識別子により、IPv6 アドレスの一部を生成するために使用される方法が決定されます。これは、リンクローカル IPv6 アドレスとステートレス アドレス自動設定 (SLAAC) アドレスの両方に適用されます。

アドレスには、デバイスが生成した 64 ビットのプレフィックスと 64 ビットのインターフェイス識別子が含まれます。MAC では、RFC-2373 で説明されているように、EUI-64 ベースのインターフェイス識別子が生成されます。

Opaque では、RFC-7217 で説明されているように、デバイスの初回起動時にランダムな 64 ビット インターフェイス識別子が生成され、これは永久に使用されるか、出荷時設定にリセットされるまで使用されます。

使用方法:

xConfiguration Network [n] IPv6 InterfaceIdentifier: InterfaceIdentifier

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

インターフェイス識別子:

MAC/Opaque

MAC: インタフェース識別子の方法として MAC を選択します。

オペーク: インターフェイス識別子の方法としてオペークを選択します。

デフォルト値:

MAC

xConfiguration Network [n] MTU

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

イーサネット MTU (最大転送ユニット) サイズを定義します。MTU サイズは、ネットワーク インフラストラクチャによってサポートされている必要があります。最小サイズは、IPv4 では 576、IPv6 では 1280 です。

使用方法:

xConfiguration ネットワーク [n] MTU: MTU

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

MTU:

整数 (576..1500)

MTU (バイト) の値を設定します。

デフォルト値:

1500



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Network [n] QoS Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

QoS (サービスの質) は、ネットワーク内の音声、ビデオ、その他のデータの優先順位を処理する方法です。QoS 設定がインフラストラクチャによってサポートされている必要があります。Diffserv (Differentiated Services) は、ネットワークトラフィックを分類および管理するための、シンプルでスケーラブルな粗粒度のメカニズムを指定するネットワーク アーキテクチャです。IP ネットワーク上の QoS 優先順位を提供します。

使用方法:

xConfiguration Network [n] QoS Mode: Mode

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

Mode:

Off/Diffserv

Off: QoS 方式は使用されません。

Diffserv: Network QoS Diffserv 音声、Network QoS Diffserv ビデオ、Network QoS Diffserv データ、Network QoS Diffserv シグナリング、Network QoS Diffserv ICMPv6 および Network QoS Diffserv NTP 設定は、パケットの優先順位付けに使用されます。

デフォルト値:

Diffserv

xConfiguration Network [n] QoS Diffserv Audio

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

この設定は、Network QoS Mode が Diffserv に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワークで音声パケットの優先順位を定義します。DiffServ RFC で推奨されているトラフィッククラスは、0から63までの10進数にマッピングされます。音声には EF を使用することを推奨します。EF は 10 進数で 46 と等しくなります。

ここで設定した優先順位は、ローカルネットワーク管理者が制御するネットワークからパケットが送信される際に上書きされる場合があります。

使用方法:

xConfiguration Network [n] QoS Diffserv Audio: Audio

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

音声:

整数 (0..63)

IP ネットワークにおける音声パケットの優先順位を設定します。0 は「ベストエフォート」を意味します。

デフォルト値:

46



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

x 構成 ネットワーク [n] QoS Diffserv ビデオ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

この設定は、Network QoS Mode が Diffserv に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワークでのビデオ パケットの優先順位を定義します。プレゼンテーション チャンネル (共有コンテンツ) のパケットもビデオ パケット カテゴリに含まれます。DiffServ RFC で推奨されているトラフィック クラスは、0から63までの10進数にマッピングされます。ビデオには AF41 を使用することを推奨します。AF41 は 10 進数値 34 に相当します。

ここで設定した優先順位は、ローカルネットワーク管理者が制御するネットワークからパケットが送信される際に上書きされる場合があります。

使用方法:

xConfiguration Network [n] QoS Diffserv Video: [Video](#)

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

ビデオ:

整数 (0..63)

IP ネットワークでのビデオパケットの優先順位を設定します。0 は「ベストエフォート」を意味します。

デフォルト値:

34

xConfiguration Network [n] QoS Diffserv Data

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

この設定は、Network QoS Mode が Diffserv に設定されている場合にのみ有効になります。

データパケットの優先順位を IP ネットワークで定義します。DiffServ RFC で推奨されているトラフィック クラスは、0 ~ 63 の 10 進数値にマップされます。データには AF41 を使用することをお勧めします。AF41 は 10 進数値 34 に相当します。

ここで設定した優先順位は、ローカルネットワーク管理者が制御するネットワークからパケットが送信される際に上書きされる場合があります。

使用方法:

xConfiguration Network [n] QoS Diffserv データ: [データ](#)

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

データ:

整数 (0..63)

IP ネットワークにおけるデータパケットの優先順位を設定します。0 は「ベストエフォート」を意味します。

デフォルト値:

34



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Network [n] QoS Diffserv Signalling

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

この設定は、Network QoS Mode が Diffserv に設定されている場合にのみ有効になります。

リアルタイム操作にとって重要（時間に敏感）であると見なされるシグナリング パケットが IP ネットワークで持つべき優先順位を定義します。DiffServ RFC で推奨されているトラフィック クラスは、0 ～ 63 の 10 進数値にマップされます。シグナリングには CS3 を使用することをお勧めします。CS3 は 10 進数値の 24 に相当します。

ここで設定した優先順位は、ローカルネットワーク管理者が制御するネットワークからパケットが送信される際に上書きされる場合があります。

使用方法:

xConfiguration Network [n] QoS Diffserv シグナリング: シグナリング

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

シグナリング:

整数 (0..63)

IP ネットワークにおけるシグナリングパケットの優先順位を設定します。0 は「ベストエフォート」を意味します。

デフォルト値:

24

xConfiguration Network [n] QoS Diffserv ICMPv6

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

この設定は、Network QoS Mode が Diffserv に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワークで ICMPv6 パケットの優先順位を定義します。DiffServ RFC で推奨されているトラフィック クラスは、063 の 10 進数でマッピングされます。ICMPv6 では 0 を使用することを推奨します。

ここで設定した優先順位は、ローカルネットワーク管理者が制御するネットワークからパケットが送信される際に上書きされる場合があります。

使用方法:

xConfiguration Network [n] QoS Diffserv ICMPv6: ICMPv6

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

ICMPv6:

整数 (0..63)

IP ネットワークでの ICMPv6 パケットの優先順位を設定します。0 は「ベストエフォート」を意味します。

デフォルト値:

0



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration ネットワーク [n] QoS Diffserv NTP

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

この設定は、Network QoS Mode が Diffserv に設定されている場合にのみ有効になります。
IP ネットワークで NTP パケットの優先順位を定義します。DiffServ RFC で推奨されているトラフィッククラスは、063 の 10 進数でマッピングされます。NTP では 0 を使用することを推奨します。
ここで設定した優先順位は、ローカルネットワーク管理者が制御するネットワークからパケットが送信される際に上書きされる場合があります。

使用方法:

xConfiguration Network [n] QoS Diffserv NTP: NTP

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

NTP:

整数 (0..63)

IP ネットワークにおける NTP パケットの優先順位を設定します。0 は「ベストエフォート」を意味します。

デフォルト値:

0

xConfiguration Network [n] RemoteAccess Allow

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

SSH/HTTP/HTTPS からデバイスへのリモート アクセスを許可する IP アドレス (IPv4/IPv6) を定義します。複数の IP アドレスは、空白で区切られます。
ネットワークマスク (IP 範囲) は <ip address>/N で指定します。ここで、N は 1-32 (IPv4 の場合)、N は 1-128 (IPv6 の場合) です。/N は最初の N ビットが設定されているネットワーク マスクを示すものです。したがって、192.168.0.0/24 は、192.168.0 で始まるアドレスに一致します。これらはアドレスの最初の 24 ビットだからです。

使用方法:

xConfiguration Network [n] RemoteAccess Allow: "Allow"

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

許可:

文字列 (0..255)

有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス。

デフォルト値:

" "



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration ネットワーク [n] 速度

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

イーサネットリンク速度を定義します。デフォルト値はネットワークとネゴシエートして速度を自動的に設定しますので、変更しないことをお勧めします。オートネゴシエーションを使用しない場合は、選択した速度がネットワーク インフラストラクチャで最も近いスイッチでサポートされていることを確認してください。

使用方法:

xConfiguration Network [n] Speed: Speed

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

速度:

Auto/10half/10full/100half/100full/1000full

Auto: リンク速度を自動ネゴシエートします。

10half: リンクを強制的に 10Mbps 半二重にします。

10full: リンクを強制的に 10 Mbps 全二重にします。

100half: リンクを強制的に 100 Mbps 半二重にします。

100full: リンクを強制的に 100 Mbps 全二重にします。

1000full: リンクを 1 Gbps 全二重に強制します。

デフォルト値:

自動

xConfiguration ネットワーク [n] VLAN 音声モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

VLAN 音声モードを定義します。プロビジョニングのインフラストラクチャとして Cisco UCM Cisco Unified Communications Manager がある場合、VLAN 音声モードは自動的に設定されます。自動モードは NetworkServices CDP Mode 設定がOffの場合は機能しないことに注意してください。

使用方法:

xConfiguration Network [n] VLAN Voice Mode: Mode

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

Mode:

Auto/Manual/Off

Auto: Cisco Discovery Protocol (CDP) が利用可能な場合、音声 VLAN に ID を割り当てます。CDP が利用できない場合、VLAN は有効になりません。

Manual: VLAN ID はネットワーク VLAN 音声 VlanId 設定を使用して手動で設定されます。CDP が利用できる場合、手動で設定した値は、CDP が割り当てた値で上書きされます。

Off: VLAN は有効ではありません。

デフォルト値:

自動



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Network [n] VLAN Voice VlanId

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

VLAN 音声 ID を定義します。この設定は、ネットワーク VLAN 音声モードが手動に設定されている場合にのみ有効になります。

使用方法:

xConfiguration Network [n] VLAN Voice VlanId: VlanId

値は次のとおりです。

n: ネットワークを識別するためのインデックスです。

範囲: 1..1

VLAN ID:

整数 (1..4094)

VLAN 音声 ID を設定します。

デフォルト値:

1

NetworkServices 構成

x 構成 ネットワークサービス CDP モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

CDP (Cisco Discovery Protocol) デーモンを有効または無効にします。CDP を有効にすると、デバイスは特定の統計とデバイス識別子を CDP 対応スイッチにレポートします。CDP が無効になっている場合、[ネットワーク VLAN 音声モード: 自動] 設定は機能しません。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices CDP Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: CDP デーモンが無効化されています。

On: CDP デーモンが有効になっています。

デフォルト値:

On

xConfiguration NetworkServices H323 Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

デバイスが H.323 通話の受発信を可能にするかどうかを定義します。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices H323 モード: モード

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: H.323 通話の受発信を無効にします。

On: H.323 通話の受発信を有効にします。

デフォルト値:

Off



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration NetworkServices HTTP モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

HTTP または HTTPS (HTTP Secure) プロトコルを使用したデバイスへのアクセスを許可するかどうかを定義します。デバイスの Web インターフェイスは HTTP または HTTPS を使用することに注意してください。この設定が Off になっている場合、ウェブインタフェースは使用できません。

追加のセキュリティ (ウェブサーバから返されるリクエストおよびページの暗号化と復号化) のため、HTTPS のみを許可すること。

メモ: デバイスがアップグレード後に工場出荷時リセットされていない限り、以前のソフトウェア バージョンから CE9.4 (またはそれ以降) にアップグレードされたデバイスのデフォルト値は HTTP+HTTPS です。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices HTTP モード: モード

値は次のとおりです。

Mode:

Off/HTTP+HTTPS/HTTPS

Off: HTTP または HTTPS 経由のデバイスへのアクセスは許可されません。

HTTP+HTTPS: HTTP および HTTPS の両方によるデバイスへのアクセスを許可します。

HTTPS: デバイスへのアクセスは HTTPS 経由で許可されますが、HTTP 経由では許可されません。

デフォルト値:

HTTPS (CE9.4 で HTTP+HTTPS から HTTPS に変更)

xConfiguration NetworkServices HTTP プロキシ ログイン名

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

これは HTTP プロキシに対する認証のための資格情報のユーザ名部分です。NetworkServices HTTP Proxy Mode が手動に設定されている必要があります。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices HTTP Proxy LoginName: "LoginName"

値は次のとおりです。

ログイン名:

文字列 (0, 80)

認証ログイン名です。

デフォルト値:

""

xConfiguration NetworkServices HTTP プロキシ パスワード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

これは HTTP プロキシに対する認証のための資格情報のパスワード部分です。NetworkServices HTTP Proxy Mode が手動に設定されている必要があります。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices HTTP Proxy Password: "Password"

値は次のとおりです。

パスワード:

文字列 (0, 64)

認証パスワードです。

デフォルト値:

""



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration NetworkServices HTTP Proxy Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

HTTP, HTTPS, および WebSocket トラフィックにプロキシ サーバを使用するように設定できます。HTTP プロキシは、手動でのセットアップ、自動構成 (PACUrl)、完全自動化 (WPAD)、または Off にすることができます。

NetworkServices HTTP Proxy Mode が Off になっていない場合、HttpClient UseHttpProxy、HttpFeedback UseHttpProxy、および WebEngine UseHttpProxy 設定で、どのサービスがプロキシを使用するかをさらに指定することができます。

NetworkServices HTTP Proxy Mode が Off になっていない場合、Cisco Webex クラウドとの通信は常にプロキシ経由になります。

プロキシモードに関係なく、デバイスはプロキシ経由で CUCM, MRA (Expressway 経由の CUCM) または TMS と通信することはありません。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices HTTP Proxy Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

手動/Off/PACUrl/WPAD

手動: [ネットワーク] [サービス] [HTTP プロキシ URL] 設定にプロキシ サーバーのアドレスを入力します。必要に応じて、HTTP プロキシのログイン名とパスワードを [ネットワーク] サービスの [HTTP プロキシのログイン名/パスワード] 設定に追加します。

Off: HTTP プロキシモードが Off になります。

PACUrl: HTTP プロキシは自動構成されます。PAC (プロキシ自動構成) スクリプトの URL を NetworkServices HTTP Proxy PACUrl 設定で入力する必要があります。

WPAD: WPAD (ウェブプロキシ自動検出) により、HTTP プロキシは完全に自動化され、自動構成されます。

デフォルト値:

Off

xConfiguration NetworkServices HTTP プロキシ URL

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

HTTP プロキシサーバーの URL を設定します。NetworkServices HTTP Proxy Mode が手動に設定されている必要があります。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices HTTP Proxy URL: "Url"

値は次のとおりです。

Url:

文字列 (0..255)

HTTP プロキシサーバーの URL。

デフォルト値:

""

xConfiguration NetworkServices HTTP プロキシ PACUrl

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

PAC (プロキシ自動構成) スクリプトの URL を設定します。NetworkServices HTTP Proxy Mode が PACUrl に設定されている必要があります。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices HTTP Proxy PACUrl: "PACUrl"

値は次のとおりです。

PACUrl:

文字列 (0..255)

PAC (プロキシ自動構成) スクリプトの URL。

デフォルト値:

""



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration NetworkServices HTTPS Server MinimumTLSVersion

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

HTTPS で許可される最も低いバージョンの TLS (トランスポート層セキュリティ) プロトコルを設定します。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices HTTPS Server MinimumTLSVersion: MinimumTLSVersion

値は次のとおりです。

MinimumTLSVersion:

TLSv1.1/TLSv1.2

TLSv1.1: TLS バージョン 1.1 以降のサポート。

TLSv1.2: TLS バージョン 1.2 以降のサポート。

デフォルト値:

TLSv1.1

xConfiguration NetworkServices HTTPS StrictTransportSecurity

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

HTTP Strict Transport Security ヘッダーを使用すると、ウェブサイトはブラウザに、HTTP を使用してサイトをロードするべきではなく、HTTP を使用してサイトにアクセスしようとするすべての試みを HTTPS リクエストに自動的に変換することを通知できます。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices HTTPS StrictTransportSecurity:

StrictTransportSecurity

値は次のとおりです。

StrictTransportSecurity:

Off/On

Off: HTTP のストリクトトランスポート セキュリティ機能が無効になります。

On: HTTP のストリクトトランスポートセキュリティ機能が有効です。

デフォルト値:

Off

xConfiguration NetworkServices HTTPS VerifyClientCertificate

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ビデオ会議デバイスが HTTPS クライアント(ウェブブラウザなど)に接続するとき、クライアントは、自身を識別するためにビデオ会議デバイスに証明書を提示するよう要求することができます。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices HTTPS VerifyClientCertificate:

VerifyClientCertificate

値は次のとおりです。

VerifyClientCertificate:

Off/On

Off: クライアント証明書を確認しません。

On: クライアントは、信頼できる認証局 (CA) によって署名された証明書を提示する必要があります。これには、信頼できる CA のリストが事前にデバイスにアップロードされている必要があります。

デフォルト値:

Off



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration NetworkServices NTP モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ネットワーク タイム プロトコル (NTP) は、デバイスの時刻と日付を基準タイム サーバーに同期させるために使用されます。タイム サーバーは時間の更新について定期的に照会されます。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices NTP Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Auto/Manual/Off

Auto: デバイスは時間の参照に NTP サーバーを使用します。既定では、サーバアドレスはネットワークの DHCP サーバから取得されます。DHCP サーバーが使用されない場合、または DHCP サーバーが NTP サーバアドレスを提供しない場合、ネットワークサービス NTP サーバ [n] アドレス設定で指定されている NTP サーバアドレスが使用されます。

手動: デバイスは、時間の参照に NetworkServices NTP Server [n] アドレス設定で指定されている NTP サーバーを使用します。

Off: デバイスは NTP サーバーを使用しません。NetworkServices NTP Server [n] アドレスの設定は無視されます。

デフォルト値:

自動

xConfiguration NetworkServices NTP サーバ [n] アドレス

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

NetworkServices NTP Mode が手動に設定されている場合、および NetworkServices NTP Mode が Auto に設定され、かつ DHCP サーバーがアドレスを提供しない場合に使用される NTP サーバーのアドレスです。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices NTP Server [n] Address: "Address"

値は次のとおりです。

n: NTP サーバーの一意の ID です。

範囲: 1..3

Address:

文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

デフォルト値:

"0.tandberg.pool.ntp.org"



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration NetworkServices NTP サーバ [n] キー

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

NTP 情報が信頼できるソースからのものであることを確認するために、ビデオ会議デバイスは NTP ソースが使用する ID/キー ペアを知っている必要があります。[NetworkServices NTP Server [n] Key] 設定を使用してキーを指定します。キーの先頭に「HEX:」を付けます。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices NTP Server [n] キー: "Key"

値は次のとおりです。

n: NTP サーバーの一意の ID です。

範囲: 1..3

キー:

文字列 (0, 2045)

NTP ソースが使用する ID/キー ペアの一部であるキー。

デフォルト値:

""

xConfiguration NetworkServices NTP サーバー [n] KeyId

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

NTP 情報が信頼できるソースからのものであることを確認するために、ビデオ会議デバイスは NTP ソースが使用する ID/キー ペアを知っている必要があります。ID に NetworkServices NTP Server [n] KeyId 設定を使用します。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices NTP Server [n] KeyId: "KeyId"

値は次のとおりです。

n: NTP サーバーの一意の ID です。

範囲: 1..3

キー_ID:

文字列 (0, 10)

NTP ソースが使用する ID/キー ペアの一部である ID。

デフォルト値:

""



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration NetworkServices NTP Server [n] KeyAlgorithn

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

NTP サーバが使用し、ビデオ会議デバイスが時間メッセージを認証するために使用する必要がある認証ハッシュ関数を選択します。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices NTP Server [n] KeyAlgorithn: KeyAlgorithn

値は次のとおりです。

n: NTP サーバーの一意の ID です。

範囲: 1..3

KeyAlgorithn:

なし/SHA1/SHA256

なし: NTP サーバーはハッシュ関数を使用しません。

SHA1: NTP サーバーは SHA-1 ハッシュ関数を使用します。

SHA256: NTP サーバーは SHA-256 ハッシュ関数 (SHA-2 ファミリーのハッシュ関数) を使用します。

デフォルト値:

""

X 構成 ネットワークサービス SIP モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

デバイスが SIP 通話の受発信を可能にするかどうかを定義します。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SIP Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: SIP 通話の受発信を無効にします。

On: SIP 通話の受発信を有効にします。

デフォルト値:

On

x 構成 ネットワークサービス SMTP モード

適用対象: RoomKitMini DeskPro/DeskLE Boards

必要なユーザーロール: 管理者

SMTP (シンプルメール転送プロトコル) を使用して、デバイスからメールサーバーにメールを送信してリレーすることができます。これは、ユーザーが組織内外のユーザーにメールでホワイトボードやプレゼンテーションを送信することを許可する場合に必要です。

デバイスが暗号化通信にセットアップされている場合 (NetworkServices SMTP セキュリティ設定を参照)、デバイスは SMTP サーバーの証明書が検証された接続のみを許可します。証明書の確認を無視するオプションはありません。

この設定は一般に Room Kit Mini では利用できません。Room Kit Mini が Samsung Flip (Webex on Flip) で使用される場合にのみ使用できます。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SMTP Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: SMTP (およびメール) サポートを無効にします。

On: メール送信の SMTP サポートを有効にします。

デフォルト値:

Off



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration NetworkServices SMTP サーバ

適用対象: *RoomKitMini DeskPro/DeskLE Boards*

必要なユーザーロール: 管理者

これは SMTP サーバのアドレスです。

この設定は一般に Room Kit Mini では利用できません。Room Kit Mini が Samsung Flip (Webex on Flip) で使用される場合にのみ使用できます。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SMTP サーバ: "Server"

値は次のとおりです。

サーバ:

文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

デフォルト値:

""

xConfiguration NetworkServices SMTP ポート

適用対象: *RoomKitMini DeskPro/DeskLE Boards*

必要なユーザーロール: 管理者

このポートは、デバイスから SMTP サーバへの送信メールに使用されます。

暗号化設定 (NetworkServices SMTP Security) および SMTP サーバの要件に基づいてポート番号を設定します。既定値を使用しないでください。

この設定は通常 Room Kit Mini では利用できません。Room Kit Mini が Samsung Flip で使用されている場合にのみ利用できます (Webex on Flip)。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SMTP Port: Port

値は次のとおりです。

ポート:

整数 (0..65535)

デバイスからのメールの送信に使用されるポート。

デフォルト値:

0

xConfiguration NetworkServices SMTP ユーザ名

適用対象: *RoomKitMini DeskPro/DeskLE Boards*

必要なユーザーロール: 管理者

これは、SMTP サーバでデバイスを認証するために使用される資格情報のユーザ名部分です。この設定は SMTP サーバにより要求される場合があります。

この設定は通常 Room Kit Mini では利用できません。Room Kit Mini が Samsung Flip で使用されている場合にのみ利用できます (Webex on Flip)。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SMTP Username: "Username"

値は次のとおりです。

ユーザ名:

文字列 (0, 80)

有効なユーザ名。

デフォルト値:

""

xConfiguration NetworkServices SMTP パスワード

適用対象: *RoomKitMini DeskPro/DeskLE Boards*

必要なユーザーロール: 管理者

これは、SMTP サーバでデバイスを認証するために使用される資格情報のパスワード部分です。この設定は SMTP サーバにより要求される場合があります。

この設定は通常 Room Kit Mini では利用できません。Room Kit Mini が Samsung Flip で使用されている場合にのみ利用できます (Webex on Flip)。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SMTP Password: "Password"

値は次のとおりです。

パスワード:

文字列 (0, 64)

有効なパスワード。

デフォルト値:

""



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration NetworkServices SMTP From

適用対象: *RoomKitMini DeskPro/DeskLE Boards*

必要なユーザーロール: 管理者

このデバイスからメールメッセージを送信する場合、これはメッセージの送信元のメールボックスの名前です。

この設定は通常 Room Kit Mini では利用できません。Room Kit Mini が Samsung Flip (Webex on Flip) で使用される場合にのみ利用できます (Webex on Flip)。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SMTP From: "From"

値は次のとおりです。

送信元

文字列 (0, 255)

SMTP サーバーの要件を満たすメールアドレス。

デフォルト値:

""

xConfiguration NetworkServices SMTP セキュリティ

適用対象: *RoomKitMini DeskPro/DeskLE Boards*

必要なユーザーロール: 管理者

デバイスと SMTP サーバ間の通信をセキュリティ保護するかどうか、またその保護方法を選択します。

この設定は一般に Room Kit Mini では利用できません。Room Kit Mini が Samsung Flip (Webex on Flip) で使用される場合にのみ使用できます。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SMTP Security: Security

値は次のとおりです。

セキュリティ:

None/StartTls/Tls

なし: 暗号化せずに SMTP サーバーに接続します。

StartTls: 最初に暗号化なしで SMTP サーバーに接続し、それから STARTTLS コマンドを送信して暗号化接続 (TLS) にアップグレードします。

Tls: TLS (トランスポート層セキュリティ) 経由で SMTP サーバーに接続します。

デフォルト値:

StartTls



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

x 構成 ネットワークサービス SNMP モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

SNMP (Simple Network Management Protocol) は、IP ネットワークに接続されたルーター、サーバ、スイッチなどのデバイスを監視および管理するために、ネットワーク管理システムによって使用されます。SNMP は管理対象デバイスの変数の形式で管理データを公開し、デバイスのステータスと構成を記述します。これらの変数は、管理アプリケーションによりリモートで照会することができ、場合によっては設定することができます。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SNMP Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/ReadOnly/ReadWrite

Off: SNMP ネットワークサービスを無効にします。

読み取り専用: SNMP ネットワークサービスをクエリに対してのみ有効にします。

読み取り/書き込み: クエリとコマンドの両方に対して SNMP ネットワークサービスを有効にします。

デフォルト値:

Off

xConfiguration NetworkServices SNMP CommunityName

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

SNMP コミュニティの名前を定義します。SNMP コミュニティ名は SNMP 要求の認証に使用されます。管理システムからの SNMP 要求に一致する(大文字と小文字を区別する)コミュニティ名が含まれていない場合、メッセージは破棄され、ビデオデバイスの SNMP エージェントは応答を送信しません。

Cisco TelePresence Management Suite (TMS) がある場合、同じ SNMP コミュニティが設定されていることを確認する必要があります。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SNMP CommunityName: "CommunityName"

値は次のとおりです。

CommunityName (コミュニティ名):

文字列 (0, 50)

SNMP コミュニティ名です。

デフォルト値:

""

xConfiguration ネットワークサービス SNMP システム連絡先

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

SNMP サーバーが使用できる連絡先情報を定義します。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SNMP SystemContact: "SystemContact"

値は次のとおりです。

システム連絡先:

文字列 (0, 50)

ビデオ デバイスの連絡先情報を示す文字列です。

デフォルト値:

""



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration NetworkServices SNMP SystemLocation

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

SNMP サーバが使用できるロケーション情報を定義します。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SNMP SystemLocation: "SystemLocation"

値は次のとおりです。

システムの場所:

文字列 (0, 50)

ビデオ会議デバイスの場所を示す文字列です。

デフォルト値:

" "

X 構成 ネットワークサービス SSH モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

SSH (または Secure Shell) プロトコルは、ビデオ会議デバイスとローカルコンピュータ間の安全な暗号化通信を提供します。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SSH Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: SSH プロトコルが無効です。

On: SSH プロトコルが有効です。

デフォルト値:

On

xConfiguration NetworkServices SSH HostKeyAlgorithm

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

SSH ホスト キーに使用される暗号アルゴリズムを選択します。選択肢は、2048 ビットのキーサイズを使用する RSA (リベスト-シャミア-アドルマン)、NIST 曲線 P-384 を使用する ECDSA (楕円曲線デジタル署名アルゴリズム)、および ed25519 署名スキーマを使用する EdDSA (Edwards-curve デジタル署名アルゴリズム) です。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SSH HostKeyAlgorithm: HostKeyAlgorithm

値は次のとおりです。

HostKeyAlgorithm:

ECDSA/RSA/ed25519

ECDSA: ECDSA アルゴリズム (nist-384p) を使用します。

RSA: RSA アルゴリズム (2048 ビット) を使用します。

ed25519: ed25519 アルゴリズムを使用します。

デフォルト値:

RSA



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration NetworkServices UPnP モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

UPnP(ユニバーサル プラグ アンド プレイ)を完全に無効にするか、ビデオ会議デバイスが On になったり再起動した後の短い期間だけ UPnP を有効にします。

デフォルトの動作では、ビデオ会議端末の電源を入れるか再起動すると UPnP が有効になります。UPnP は [NetworkServices UPnP タイムアウト] 設定で定義されたタイムアウト期間後に自動的に無効になります。

UPnP が有効な場合、デバイスはネットワーク上でプレゼンスをアダプタイズします。アダプタイズメントにより、タッチコントローラがビデオ会議デバイスを自動で検出できるようになるため、タッチコントローラをペアリングするために、デバイスの IP アドレスを手動入力する必要がなくなります。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices UPnP モード: モード

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: UPnP が無効です。ビデオ会議デバイスはプレゼンスをアダプタイズせず、デバイスにタッチコントローラをペアリングするために、デバイスの IP アドレスを手動で入力する必要があります。

On: UPnP が有効になっています。ビデオ会議デバイスは、タイムアウト期間が終了するまでプレゼンスをアダプタイズします。

デフォルト値:

On

xConfiguration NetworkServices Websocket

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

非セキュアおよびセキュア バージョン (ws および wss) の両方で、WebSocket プロトコルを介してデバイスの API と対話できます。WebSocket は HTTP に関連付けられているため、WebSocket を使用する前に、HTTP または HTTPS も有効にする必要があります (NetworkServices HTTP Mode 設定を参照してください)。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices Websocket: Websocket

値は次のとおりです。

Websocket:

FollowHTTPService/Off

FollowHTTPService: HTTP または HTTPS が有効な場合、WebSocket プロトコルを介した通信が許可されます。

Off: WebSocket プロトコルによる通信は許可されません。

デフォルト値:

Off

xConfiguration NetworkServices WelcomeText

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ユーザーが SSH 経由でデバイスにログインするときに表示する情報を選択します。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices WelcomeText: WelcomeText

値は次のとおりです。

WelcomeText:

Off/On

Off 時: ウェルカムテキスト: ログインに成功しました

On: ウェルカムテキスト: <system name>へようこそ、ソフトウェアバージョン、ソフトウェアのリリース日、ログインに成功しました。

デフォルト値:

On



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration NetworkServices Wifi Allowed

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

Wi-Fi アダプターが内蔵されているデバイスは、イーサネットまたは Wi-Fi 経由でネットワークに接続できます。イーサネットと Wi-Fi の両方がデフォルトで許可されており、ユーザーはユーザ インターフェイスからどちらを使用するかを選択できます。この設定により、管理者は Wi-Fi 構成を無効にして、ユーザ インターフェイスからセットアップできないようにすることができます。

デバイスは次の標準をサポートします: IEEE 802.11a, IEEE 802.11b, IEEE 802.11g, IEEE 802.11n, および IEEE 802.11ac。デバイスは、WPA-PSK (AES)、WPA2-PSK (AES)、EAP-TLS、EAP-TTLS、EAP-FAST、PEAP、EAP-MSCHAPv2、EAP-GTC、およびオープン ネットワーク(非セキュア)セキュリティプロトコルをサポートしています。

デバイス背面の定格ラベルにある PID (製品 ID) に NR (無線なし) の文字が含まれている場合、そのデバイスは Wi-Fi に対応していません。

使用方法:

xConfiguration NetworkServices Wifi Allowed: Allowed

値は次のとおりです。

許可:

False/True

False: Wi-Fi が使用できません。イーサネット経由でネットワークに接続する必要があります。

True: イーサネットと Wi-Fi の両方が許可されます。

デフォルト値:

True

周辺機器の設定

xConfiguration 周辺機器 InputDevice モード

適用対象: RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE

必要なユーザーロール: 管理者

USB キーボードや USB ドングル付きワイヤレスリモートコントロールなど、サードパーティの入力デバイスの使用を許可するかどうかを定義します。入力デバイスは USB キーボードとして通知する必要があります。キークリックに対する応答として取られるアクションは、お客様ご自身で定義および実装する必要があります。

使用方法:

xConfiguration Peripherals InputDevice Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: サードパーティの USB 入力デバイスは使用できません。

On: サードパーティの USB 入力デバイスを使用して、ビデオ会議デバイスの特定の機能をコントロールできます。

デフォルト値:

Off



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

タッチ コントローラー (Cisco Webex Room Navigator または Cisco Touch 10) をビデオ会議デバイスのユーザ インターフェイスとして使用するには、タッチ コントローラーがデバイスとペアリングされている必要があります。タッチ コントローラーがネットワーク (LAN) 経由でペアリングされる場合、これはリモート ペアリングと呼ばれます。リモートペアリングはデフォルトで許可されています。リモートペアリングを禁止するには、この設定を [Off] に切り替える必要があります。

Board 55/70 は Room Navigator をサポートしていません。

使用方法:

xConfiguration Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing: RemotePairing
値は次のとおりです。

RemotePairing:

Off/On

Off: タッチ コントローラーのリモート ペアリングは許可されません。

On: タッチコントローラのリモートペアリングが許可されます。

デフォルト値:

On

xConfiguration Peripherals Profile Cameras

適用先: RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/
Room70Panorama DeskPro/DeskLE

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

ビデオ会議デバイスに接続することが予想されるカメラの数を定義します。この情報は、デバイスの診断サービスによって使用されます。接続されているカメラの数がこの設定と一致しない場合、診断サービスは不整合として報告します。

使用方法:

xConfiguration 周辺機器プロファイル カメラ: カメラ

値は次のとおりです。

カメラ:

NotSet/Minimum1/0/1/2/3/4/5/6/7 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/
Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

0 [DeskPro/DeskLE]

NotSet: カメラチェックは実行されません。

最小1: 少なくとも 1 つのカメラをデバイスに接続する必要があります。

0-7: デバイスに接続されることが予想されるカメラの数を選択します。

デフォルト値:

Minimum1 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2
RoomPanorama/Room70Panorama]

0 [DeskPro/DeskLE]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Peripherals Profile ControlSystems

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

サードパーティの制御システム、例えば、Crestron または AMX をビデオ会議デバイスに接続するかどうかを定義します。この情報はビデオ会議デバイスの診断サービスで使用されます。接続されているコントロールシステムの数がこの設定と一致しない場合、診断サービスは不整合として報告します。サードパーティのコントロールシステムは、一つだけがサポートされていることに注意してください。

1 に設定すると、コントロールシステムは xCommand Peripherals Pair および HeartBeat コマンドを使用してビデオ会議デバイスにハートビートを送信する必要があります。これに失敗すると、ビデオ会議デバイスはコントロールシステムとの接続が失われたことを示す警告を表示します。

使用方法:

xConfiguration Peripherals Profile ControlSystems: [ControlSystems](#)

値は次のとおりです。

ControlSystems:

1/NotSet [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

NotSet [DeskPro/DeskLE Boards]

1: 1 つのサードパーティのコントロールシステムをデバイスに接続する必要があります。

NotSet: サードパーティのコントロールシステムのチェックは実行されません。

デフォルト値:

未設定

xConfiguration Peripherals Profile TouchPanels

適用先: *RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

デバイスに接続されることが予想される Cisco タッチ コントローラーの数を定義します。この情報は、デバイスの診断サービスによって使用されます。接続されているタッチ コントローラーの数がこの設定と一致しない場合、診断サービスは不整合として報告します。

使用方法:

xConfiguration 周辺機器プロファイル TouchPanels: [TouchPanels](#)

値は次のとおりです。

タッチ パネル:

NotSet/Minimum1/0/1/2/3/4/5 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

0 [DeskPro/DeskLE]

NotSet: タッチ コントローラー チェックは実行されません。

Minimum1: 少なくとも 1 つの Cisco タッチコントローラーがデバイスに接続されている必要があります。

0-5: デバイスに接続されると予想される Cisco タッチコントローラーの数を選択します。正式にサポートされている Cisco タッチコントローラーの数は、Desk Pro/Desk Limited Edition は 0、Room Panorama と Room 70 Panorama は 2 つ、その他の製品は 1 つです。

デフォルト値:

最小要件 1 *[RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]*

0 [DeskPro/DeskLE]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

電話帳の設定

xConfiguration 電話帳サーバ [n] ID

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者

外部電話帳の名前を定義します。

使用方法:

xConfiguration 電話帳サーバ [n] ID: "ID"

値は次のとおりです。

n: 電話帳サーバを識別する一意の ID です。

範囲: 1..1

ID:

文字列 (0, 64)

外部電話帳の名前です。

デフォルト値:

" "

xConfiguration Phonebook Server [n] ページネーション

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者

電話帳サーバがページネーション (ページング) に対応しているかどうかを設定します。ページネーションとは、サーバが連続した検索をサポートしていることを意味し、これらの検索はOffセットを基準に行うことができます。これにより、ユーザ インターフェイスは完全な検索結果を得るために必要なだけ連続して検索を実行できます。

ページネーションが無効の場合、デバイスは検索を 1 回行い、検索結果で最大 100 エントリを返します。それ以上の検索結果にスクロールすることはできません。

使用方法:

xConfiguration Phonebook Server [n] ページネーション: ページネーション

値は次のとおりです。

n: 電話帳サーバを識別する一意の ID です。

範囲: 1..1

ページネーション:

無効/有効

無効: 電話帳サーバはページネーションをサポートしていません。デバイスは単一検索を行い、検索結果の最大エントリ数は 100 です。

有効: 電話帳サーバはページネーションをサポートしています。

デフォルト値:

[有効(Enabled)]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Phonebook Server [n] TlsVerify

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

この設定は、ビデオ会議端末が HTTPS 経由で外部電話帳サーバに接続する場合に適用されます。

デバイスと HTTPS サーバ間の接続を確立する前に、デバイスはサーバの証明書が信頼できる認証局 (CA) によって署名されているかどうかを確認します。CA 証明書は、事前にインストールされているか、ウェブ インターフェイスまたは API を使用して手動でアップロードされたデバイスの CA リストに含まれている必要があります。

通常、HTTPS 接続の最小 TLS (トランスポート層セキュリティ) バージョンは 1.1 です。このルールには 2 つの例外があります。1) 互換性の理由から、CUCM に登録されているデバイスの最小 TLS バージョンは 1.0 です。2) Webex クラウド サービスに登録されているデバイスは常にバージョン 1.2 を使用します。

メモ: CE9.8 以前のソフトウェア バージョンから CE9.9 (以降) にアップグレードされたデバイスの値は Off に設定されています。ただし、デバイスがアップグレード後に工場出荷時リセットされておらず、古い NetworkServices HTTPS VerifyServerCertificate 設定が明示的に On に設定されていなかった。

使用方法:

xConfiguration 電話帳サーバ [n] TlsVerify: TlsVerify

値は次のとおりです。

TlsVerify:

Off/On

Off: デバイスは HTTPS サーバの証明書を確認しません。

On: デバイスは、HTTPS サーバの証明書が信頼できるかどうかを確認します。そうでない場合、デバイスとサーバ間の接続は確立されません。

デフォルト値:

On

xConfiguration 電話帳サーバ [n] タイプ

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

電話帳サーバの種類を選択します。

使用方法:

xConfiguration Phonebook Server [n] Type: Type

値は次のとおりです。

n: 電話帳サーバを識別する一意の ID です。

範囲: 1..1

タイプ:

Off/CUCM/Spark/TMS/VCS

Off: 電話帳を使用しません。

CUCM: 電話帳は Cisco Unified Communications Manager にあります。

Spark: 電話帳は Cisco Webex クラウドサービスにあります。

TMS: 電話帳は Cisco TelePresence Management Suite サーバ上にあります。

VCS: 電話帳は Cisco TelePresence Video Communication Server にあります。

デフォルト値:

Off



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration 電話帳サーバ [n] URL

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者

外部電話帳サーバのアドレス (URL) を定義します。

使用方法:

xConfiguration Phonebook Server [n] URL: "URL"

値は次のとおりです。

n: 電話帳サーバを識別する一意の ID です。

範囲: 1..1

URL:

文字列 (0..255)

電話帳サーバの有効なアドレス (URL) です。

デフォルト値:

""

プロビジョニングの構成

xConfiguration Provisioning Connectivity

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザー役割: ADMIN, USER

この設定は、デバイスがプロビジョニング サーバから内部または外部の構成を要求する必要があるかどうかを検出する方法を制御します。

使用方法:

xConfiguration Provisioning Connectivity: Connectivity

値は次のとおりです。

接続性:

内部/外部/自動

内部: 内部設定を要求します。

外部: 外部設定を要求します。

Auto: NAPTR クエリーを使用して、内部構成と外部構成のどちらを要求するかを自動的に検出します。NAPTR 応答に「e」フラグがある場合、外部設定が要求されます。そうでない場合、内部構成が要求されます。

デフォルト値:

自動



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Provisioning CUCM CallManagementRecords CallDiagnostics

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスが CUCM の通話管理レコードに入力される通話統計を CUCM に送信できるようにします。通話統計は、通話の終了時に CUCM に送信されます。

使用方法:

xConfiguration Provisioning CUCM CallManagementRecords CallDiagnostics:
[CallDiagnostics](#)

値は次のとおりです。

[CallDiagnostics](#):

無効/有効

有効: CUCM 通話管理レコードのサポートを有効にします。

無効: CUCM 通話管理レコードのサポートを無効にします。

デフォルト値:

[有効(Enabled)]

xConfiguration Provisioning ExternalManager Address

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

外部マネージャ/プロビジョニングシステムの IP アドレスまたは DNS 名を定義します。

外部マネージャのアドレス (およびパス) が構成されている場合、デバイスは起動時にこのアドレスにメッセージを送信します。外部マネージャ/プロビジョニングシステムはこのメッセージを受信すると、結果として設定/コマンドをユニットに返すことができます。

CUCM または TMS プロビジョニングを使用する場合、外部マネージャアドレスを自動的に提供するように DHCP サーバーをセットアップできます (TMS の場合は DHCP オプション 242、CUCM の場合は DHCP オプション 150)。[プロビジョニング外部マネージャアドレス] 設定で設定されたアドレスは、DHCP から提供されるアドレスを上書きします。

使用方法:

xConfiguration Provisioning ExternalManager Address: "[Address](#)"

値は次のとおりです。

[Address](#):

文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

デフォルト値:

""



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Provisioning ExternalManager AlternateAddress

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスが Cisco Unified Communication Manager (CUCM) によってプロビジョニングされ、冗長性のために代替 CUCM が利用できる場合にのみ適用されます。代替 CUCM のアドレスを定義します。メイン CUCM が利用できない場合、デバイスは代替 CUCM によってプロビジョニングされます。メイン CUCM が再び利用可能になると、デバイスはこの CUCM によってプロビジョニングされます。

使用方法:

xConfiguration Provisioning ExternalManager AlternateAddress: "AlternateAddress"
値は次のとおりです。

代替アドレス:

文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

デフォルト値:

""

xConfiguration Provisioning ExternalManager Protocol

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

外部マネージャ/プロビジョニングシステムにリクエストを送信する際に、HTTP (非セキュア通信) または HTTPS (セキュア通信) プロトコルのどちらを使用するかを定義します。

選択したプロトコルは NetworkServices HTTP Mode 設定で有効になっている必要があります。

使用方法:

xConfiguration Provisioning ExternalManager Protocol: "Protocol"
値は次のとおりです。

プロトコル:

HTTPS/HTTP

HTTPS: HTTPS 経由でリクエストを送信します。

HTTP: HTTP 経由でリクエストを送信します。

デフォルト値:

HTTP

xConfiguration Provisioning ExternalManager Path

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

外部マネージャ/プロビジョニングシステムへのパスを定義します。この設定は、複数の管理サービスが同一のサーバに存在する場合、つまり同一の外部マネージャアドレスを共有する場合に必要です。

使用方法:

xConfiguration Provisioning ExternalManager Path: "Path"

値は次のとおりです。

パス:

文字列 (0..255)

外部 Manager またはプロビジョニングシステムへの有効なパス。

デフォルト値:

""

xConfiguration Provisioning ExternalManager Domain

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

VCS プロビジョニングサーバーの SIP ドメインを定義します。

使用方法:

xConfiguration Provisioning ExternalManager Domain: "Domain"

値は次のとおりです。

ドメイン:

文字列 (0, 64)

有効なドメイン名。

デフォルト値:

""



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Provisioning Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

プロビジョニング システム (外部 Manager) を使用してデバイスを設定することができます。これにより、ビデオ会議ネットワーク管理者は多くのデバイスを同時に管理することができます。この設定では、使用するプロビジョニングシステムのタイプを選択します。プロビジョニングはOffに切り替えることもできます。詳細については、プロビジョニング システム プロバイダ/担当者に問い合わせてください。

使用方法:

xConfiguration プロビジョニング モード: モード

値は次のとおりです。

Mode:

Off/Auto/CUCM/Edge/Webex/WebexCalling/TMS/VCS

Off: デバイスはプロビジョニング システムによって構成されていません。

Auto: DHCP サーバーでのセットアップとして、プロビジョニングサーバーが自動的に選択されます。

CUCM: CUCM (Cisco Unified Communications Manager) からデバイスに設定をプッシュします。

Edge: CUCM (Cisco Unified Communications Manager) からデバイスに構成をプッシュします。デバイスは、Expressway インフラストラクチャ経由で CUCM に接続します。Expressway 経由で登録するには、暗号化オプションキーがデバイスにインストールされている必要があります。

Webex: Cisco Webex クラウド サービスからデバイスに構成をプッシュします。Webex クラウド サービスに登録するには、暗号化オプション キーがデバイスにインストールされている必要があります。

WebexCalling: このリリースでは利用できません。

TMS: TMS (Cisco TelePresence Management System) からデバイスに設定をプッシュします。

VCS: VCS (Cisco TelePresence Video Communication Server) からデバイスに設定をプッシュします。

デフォルト値:

自動

xConfiguration Provisioning LoginName

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

これはプロビジョニング サーバーでデバイスを認証するために使用される資格情報のユーザ名部分です。この設定は、プロビジョニングサーバーが必要な場合に使用する必要があります。

使用方法:

xConfiguration Provisioning LoginName: "LoginName"

値は次のとおりです。

ログイン名:

文字列 (0, 80)

有効なユーザ名。

デフォルト値:

""

xConfiguration プロビジョニングパスワード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

これはプロビジョニング サーバーでデバイスを認証するために使用される資格情報のパスワード部分です。この設定は、プロビジョニングサーバーが必要な場合に使用する必要があります。

使用方法:

xConfiguration プロビジョニング パスワード: "Password"

値は次のとおりです。

パスワード:

文字列 (0, 64)

有効なパスワード。

デフォルト値:

""



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Provisioning TlsVerify

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

この設定は、ビデオ会議デバイスが HTTPS 経由でプロビジョニング サーバに接続する場合に適用されます。

デバイスと HTTPS サーバ間の接続を確立する前に、デバイスはサーバーの証明書が信頼できる認証局 (CA) によって署名されているかどうかを確認します。CA 証明書は、事前にインストールされているか、ウェブ インターフェイスまたは API を使用して手動でアップロードされたデバイスの CA リストに含まれている必要があります。

通常、HTTPS 接続の最小 TLS (トランスポート層セキュリティ) バージョンは 1.1 です。このルールには 2 つの例外があります。1) 互換性の理由から、CUCM に登録されているデバイスの最小 TLS バージョンは 1.0 です。2) Webex クラウド サービスに登録されているデバイスは常にバージョン 1.2 を使用します。

メモ: CE9.8 以前のソフトウェア バージョンから CE9.9 (以降) にアップグレードされたデバイスの値は Off に設定されています。ただし、デバイスがアップグレード後に工場出荷時リセットされておらず、古い NetworkServices HTTPS VerifyServerCertificate 設定が明示的に On に設定されていなかった。

デバイスが Expressway (MRA または Edge と呼ばれる) 経由で Cisco Webex クラウド サービスまたは CUCM からプロビジョニングされている場合、この設定に関係なく、証明書の確認は常に実行されます。

使用方法:

xConfiguration プロビジョニング TlsVerify: [TlsVerify](#)

値は次のとおりです。

[TlsVerify](#):

Off/On

Off: デバイスは HTTPS サーバーの証明書を確認しません。

On: デバイスは、HTTPS サーバーの証明書が信頼できるかどうかを確認します。そうでない場合、デバイスとサーバ間の接続は確立されません。

デフォルト値:

On

xConfiguration Provisioning WebexEdge

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスが、特定の Webex クラウド サービスへのアクセスを許可するデバイス用の Webex Edge にリンクされているかどうかを定義します。

この設定は、Onプレミス サービスに登録されているデバイスにのみ適用されます。

使用方法:

xConfiguration Provisioning WebexEdge: [WebexEdge](#)

値は次のとおりです。

[WebexEdge](#):

Off/On

Off: デバイスはデバイス用の Webex Edge にリンクされていません。

On: デバイスはデバイス用の Webex Edge にリンクされています。

デフォルト値:

Off



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

Proximity の設定

xConfiguration Proximity AlternatePort Enabled

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

この設定は、NetworkServices HTTP Mode が HTTP+HTTPS または HTTPS に設定されている場合にのみ適用されます。

デフォルトでは、Proximity 接続は TCP ポート 443 を使用します。この設定を使用して、Proximity 接続をポート 65533 でも許可します。

使用方法:

xConfiguration Proximity AlternatePort Enabled: Enabled

値は次のとおりです。

Enabled:

False/True

False: 近接通信接続は常に TCP ポート 443 を使用します。

True: Proximity 接続は TCP ポート 443 または 65533 のいずれかを使用します。使用されるポートはクライアントにより異なります。

デフォルト値:

False

xConfiguration 近接通信モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

近接通信モード設定は、Webex クラウド サービスに登録されているデバイスには影響しません。クラウド登録済みデバイスが超音波ペアリング メッセージを送信しないようにするには、Audio Ultrasound MaxVolume を 0 に設定する必要があります。

Onプレミスで登録されているデバイスの場合、[近接モード] 設定によって、デバイスが超音波ペアリング メッセージを発信するかどうかが決定されます。デバイスが超音波ペアリング メッセージを発信すると、Cisco コラボレーション クライアントは、デバイスの近くにあることを検出できます。

クライアントを使用するには、少なくとも 1 つの Proximity サービスが有効になっている必要があります (Proximity サービス設定を参照)。通常、Cisco はすべての Proximity サービスを有効にすることを推奨します。

近接通信モードと音声超音波の最大音量設定は、超音波ペアリング メッセージにのみ影響します。すべての超音波放出を停止するには、RoomAnalytics PeoplePresenceDetector および Standby WakeupOnMotionDetection 設定もOffにする必要があります。

使用方法:

xConfiguration Proximity Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: Cisco コラボレーション クライアントはデバイスの近くにあることを検出できないため、Proximity サービスは使用できません。

On: Cisco コラボレーション クライアントは、デバイスが近くにあることを検出でき、有効になっている Proximity サービスを使用できます。

デフォルト値:

On [RoomKit RoomKitMini Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Boards]

Off [CodecPlus CodecPro DeskPro/DeskLE]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration 近接通信サービス通話制御

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

Cisco コラボレーション クライアントで基本的なコール制御機能を有効または無効にします。この設定が有効な場合、Cisco コラボレーションクライアントを使用して通話をコントロールできます (例えば、ダイヤル、ミュート、音量調整、電話を切る)。このサービスはモバイル端末 (iOS および Android) に対応しています。この設定を有効にするには、近接通信モードがOnになっている必要があります。

使用方法:

xConfiguration Proximity Services CallControl: CallControl

値は次のとおりです。

CallControl:

有効/無効

Enabled: Cisco コラボレーションクライアントからの通話コントロールが有効になっています。

無効: Cisco コラボレーションクライアントからの通話コントロールは無効になっています。

デフォルト値:

Disabled

xConfiguration Proximity Services ContentShare FromClients

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

Cisco コラボレーションクライアントからのコンテンツ共有を有効または無効にします。この設定が有効な場合、たとえば、ラップトップ画面を共有するなど、Cisco コラボレーション クライアントからのコンテンツをワイヤレスでデバイス上で共有できます。このサービスはラップトップ (OS X および Windows) でサポートされています。この設定を有効にするには、近接通信モードがOnになっている必要があります。

使用方法:

xConfiguration Proximity Services ContentShare FromClients: FromClients

値は次のとおりです。

FromClients:

有効/無効

Enabled: Cisco コラボレーションクライアントからのコンテンツ共有が有効になっています。

Disabled: Cisco コラボレーションクライアントからのコンテンツ共有が無効になっています。

デフォルト値:

[有効(Enabled)]

xConfiguration Proximity Services ContentShare ToClients

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

これはもう適用できません。

使用方法:

xConfiguration Proximity Services ContentShare ToClients: ToClients

値は次のとおりです。

送信先クライアント:

Disabled

デフォルト値:

Disabled



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

RoomAnalytics 設定

xConfiguration RoomAnalytics AmbientNoiseEstimation Interval

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

有効な場合に、周囲ノイズの推定が実行される間隔を設定します。xConfiguration RoomAnalytics AmbientNoiseEstimation Mode を使用して、周囲ノイズの推定を有効または無効にすることができます。

使用方法:

xConfiguration RoomAnalytics AmbientNoiseEstimation Interval: Interval

値は次のとおりです。

間隔:

整数 (10..60)

周囲のノイズの推定を実行する間隔を秒単位で設定します。

デフォルト値:

10

xConfiguration RoomAnalytics 周囲ノイズ推定モード

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

デバイスは、室内の静止した周囲ノイズ レベル (背景ノイズ レベル) を推定できます。結果は RoomAnalytics 周囲ノイズ レベル DBA ステータスで報告されます。新しい周囲ノイズレベルが検出されると、ステータスが更新されます。

使用方法:

xConfiguration RoomAnalytics AmbientNoiseEstimation Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

On: デバイスは、定常的な周囲のノイズ レベルを定期的に推定します。

Off: デバイスは、静止した周囲のノイズ レベルを推定しません。

デフォルト値:

Off

xConfiguration RoomAnalytics PeopleCountOutOfCall

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

顔検出機能を使用することで、デバイスは、室内の人数を検出できます。デフォルトでは、デバイスは通話中またはセルフビュー画像を表示しているときのみ人数をカウントします。

Codec Plus、Codec Pro: デバイスに Cisco Quad Camera が接続されている場合にのみ適用されます。

使用方法:

xConfiguration RoomAnalytics PeopleCountOutOfCall: PeopleCountOutOfCall

値は次のとおりです。

PeopleCountOutOfCall:

Off/On

Off デバイスは通話中またはセルフビューが On の場合にのみユーザーをカウントします。

On: デバイスがスタンバイモードでない限り、デバイスは人数をカウントします。これには、セルフビューが Off の場合でも、通話外も含まれます。

デフォルト値:

Off



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration RoomAnalytics PeoplePresenceDetector

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

デバイスには、ユーザーが室内に存在するかどうかを確認し、RoomAnalytics PeoplePresence ステータスで結果を報告する機能があります。この機能は超音波に基づいています。詳細については、ステータスの説明をお読みください。

この設定とスタンバイの WakeupOnMotionDetection 設定が Off になっている場合、プレゼンス検出の超音波信号は発信されません。音声超音波の最大音量と近接モードの設定は、在席状態検出に影響を与えません。

使用方法:

xConfiguration RoomAnalytics PeoplePresenceDetector: PeoplePresenceDetector

値は次のとおりです。

PeoplePresenceDetector:

Off/On

Off: 人の存在に関する情報は、デバイスの状態で報告されません。

On: 人のプレゼンスに関する情報は、デバイスの状態で報告されます。

デフォルト値:

Off

xConfiguration RoomAnalytics 残響時間間隔

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

RT60 が測定され、RoomAnalytics ステータスに報告される頻度を定義します。間隔の単位は秒です。

間隔を設定するには、RoomAnalytics の残響時間モード構成を有効にする必要があります。

使用方法:

xConfiguration RoomAnalytics ReverberationTime Interval: Interval

値は次のとおりです。

間隔:

整数 (60..3600)

秒単位での間隔。

デフォルト値:

1800

xConfiguration RoomAnalytics 残響時間モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

残響時間は、音が室内で「消えていく」またはディケイする速さの基準です。

これは、部屋の音響品質の認知と大きく関連しています。

Cisco Webex デバイスは、アコースティック エコー キャンセラから直接、残響時間、RT60 を測定することができます。

室内にノイズやインパルス信号を放出する必要がある従来の残響時間の測定とは対照的に、Cisco のデバイスは「サイレント測定」として、RT60 を測定します。

サイレント測定の動作のため、RT60 値は指標であり、ISO 3382-2 標準に従って厳密に正確ではありません。

測定では、125Hz から 4kHz までの各オクターブバンドに対して、RT60 値を測定します。

使用方法:

xConfiguration RoomAnalytics ReverberationTime Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

On: サイレント RT60 測定を有効にします。

Off: サイレント RT60 測定を無効にします。

デフォルト値:

Off



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

RoomCleanup の構成

xConfiguration RoomCleanup AutoRun ContentType WebData

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ウェブデータの日単位の会議室クリーンアップを有効または無効にします。[xConfiguration RoomCleanup AutoRun HourOfDay] を使用して時刻を設定します。

使用方法:

xConfiguration RoomCleanup AutoRun ContentType WebData: WebData

値は次のとおりです。

ウェブデータ:

日単位/Off

日単位: ウェブデータの日単位の消去を有効にします。

Off: ウェブデータの日単位のクリアを無効にします。

デフォルト値:

毎日

xConfiguration RoomCleanup AutoRun ContentType Whiteboards

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ホワイトボードの日単位の会議室クリーンアップを有効または無効にします。[xConfiguration RoomCleanup AutoRun HourOfDay] を使用して時刻を設定します。

使用方法:

xConfiguration RoomCleanup AutoRun ContentType Whiteboards: Whiteboards

値は次のとおりです。

ホワイトボード:

日単位/Off

毎日: ホワイトボードを毎日消去できます。

Off: ホワイトボードの日単位のクリアを無効にします。

デフォルト値:

毎日

xConfiguration RoomCleanup AutoRun HourOfDay

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

毎日、会議室のクリーンアップを実行する時間を設定します。

使用方法:

xConfiguration RoomCleanup AutoRun HourOfDay: HourOfDay

値は次のとおりです。

HourOfDay:

整数 (0..23)

会議室のクリーンアップが行われる一日の時間です。

デフォルト値:

0



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

RoomScheduler 設定

xConfiguration RoomScheduler Enabled

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

会議室のスケジュール機能を使用すると、会議室のタッチ コントローラーから直接会議室を予約できます。会議室がまだ利用可能な場合は、進行中のミーティングを延長することもできます。Webex Assistant (音声による仮想アシスタント) を使用して、ミーティングを予約または延長することもできます。

会議室のスケジュール機能を使用するには、デバイスが Webex クラウド サービスに登録されているか、デバイスの Webex Edge にリンクされている必要があります。さらに、会議室には予約可能なカレンダーサービスがセットアップされている必要があります。

会議室のスケジュール機能は、パーソナル モードのデバイスではサポートされていません。

使用方法:

xConfiguration RoomScheduler Enabled: 有効

値は次のとおりです。

Enabled:

False/True

False: 会議室のスケジュール機能は利用できません。

True: 上記の前提条件が満たされている場合、会議室のスケジュール機能を使用できます。

デフォルト値:

False

セキュリティ設定

xConfiguration セキュリティ監査ログモード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: AUDIT

監査ログを記録または転送する場所を定義します。監査ログは syslog サーバーに送信されます。[ログモード] 設定が [Off] に設定されている場合、この設定は影響しません。

外部または外部セキュアモードを使用している場合、[セキュリティ監査サーバアドレス] 設定で監査サーバのアドレスを入力する必要があります。

使用方法:

xConfiguration Security Audit Logging Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

外部/外部保護/内部/Off

外部: デバイスは監査ログを外部 syslog サーバーに送信します。Syslog サーバーは UDP をサポートしている必要があります。

外部セキュア: デバイスは、監査 CA リスト中の証明書によって検証される外部 syslog サーバーに、暗号化された監査ログを送信します。監査 CA リスト ファイルは、ウェブ インターフェイスを使用してデバイスにアップロードする必要があります。CA リスト中の証明書の Common_name パラメータは syslog サーバーの IP アドレスまたは DNS 名と一致しなければなりません。そしてセキュアな TCP サーバーはセキュアな (TLS) TCP Syslog メッセージをリッスンするようにセットアップする必要があります。

内部: デバイスは監査ログを内部ログに記録し、ログが一杯になるとローテーションします。

Off: 監査ログは実行されません。

デフォルト値:

内線



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Security Audit OnError Action

適用対象: すべての製品

必要なユーザロール: AUDIT

syslog サーバへの接続が失われた場合の動作を定義します。この設定は、Security Audit Logging Mode が ExternalSecure に設定されている場合にのみ関連します。

使用方法:

xConfiguration Security Audit OnError Action: Action

値は次のとおりです。

アクション:

停止/無視

停止: 停止状態が検出された場合、デバイスは再起動され、監査者だけが停止状態が解消されるまでユニットを操作することができます。停止状態から抜け出すと、監査ログが syslog サーバーに再スプールされます。停止条件は、ネットワーク遮断 (物理リンクなし)、syslog サーバーが動作していない (または syslog サーバへの不正なアドレスまたはポート)、TLS 認証失敗 (使用中の場合)、ローカルバックアップ (再スプール) ログが満杯です。

無視: デバイスは通常の動作を継続し、一杯になると内部ログをローテーションします。接続が回復すると、監査ログを再度 syslog サーバーに送信します。

デフォルト値:

無視

xConfiguration セキュリティ監査サーバアドレス

適用対象: すべての製品

必要なユーザロール: AUDIT

監査ログが送信される syslog サーバーの IP アドレスまたは DNS 名を設定します。この設定は、[セキュリティ監査ログモード] が [外部] または [外部セキュア] に設定されている場合にのみ関連します。

使用方法:

xConfiguration セキュリティ監査サーバアドレス: "Address"

値は次のとおりです。

Address:

文字列 (0..255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

デフォルト値:

""

xConfiguration セキュリティ監査サーバポート

適用対象: すべての製品

必要なユーザロール: AUDIT

監査ログは syslog サーバーに送信されます。デバイスが監査ログを送信する syslog サーバーのポートを定義します。この設定は、セキュリティ監査サーバーのポート割り当てが手動に設定されている場合にのみ関連します。

使用方法:

xConfiguration Security Audit Server Port: Port

値は次のとおりです。

ポート:

整数 (0..65535)

監査サーバポートを設定します。

デフォルト値:

514



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration セキュリティ監査サーバーのポート割り当て

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: AUDIT

監査ログは syslog サーバーに送信されます。外部 syslog サーバーのポート番号の割り当て方法を定義することができます。この設定は、Security Audit Logging Mode が External または ExternalSecure に設定されている場合にのみ関連します。セキュリティ監査サーバーのポート状況でどのポート番号が使用されているか確認できます。[セットアップ (Setup)] > [ステータス (Status)] に移動します。ウェブインターフェイス上の状況、または、コマンド回線インターフェイスを使用している場合は、コマンド `xStatus Security Audit Server Port` を実行します。

使用方法:

`xConfiguration Security Audit Server PortAssignment`: [PortAssignment](#)

値は次のとおりです。

ポート割り当て:

自動/手動

Auto: セキュリティ監査ログモードが外部に設定されている場合、UDP ポート番号 514 を使用します。セキュリティ監査ログモードが [外部セキュア] に設定されている場合、TCP ポート番号 6514 を使用します。

手動: [セキュリティ監査サーバポート] 設定で定義されたポート値を使用します。

デフォルト値:

自動

xConfiguration セキュリティ Fips モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

必要に応じて、デバイスを FIPS モード (連邦情報処理標準 (FIPS) パブリケーション 140-3、暗号モジュールのセキュリティ要件) で設定できます。FIPS モードでは、Remote Support ユーザーは応答できず、デバイスと HTTP プロキシの間のダイジェストアクセス認証はサポートされません。これは、ダイジェストアクセス認証は FIPS では許可されていない MD5 暗号ハッシュを使用しているためです。HTTP プロキシは Webex ソリューションでのみ使用されるため、この最後の制限は Webex 登録済みデバイスにのみ影響します。

HTTPS のみを許可し、FIPS モードでは SNMP または IEEE8021X を On にしないでください (デフォルト値を保持してください)。

この設定の変更を完全に有効にするには、デバイスを再起動する必要があります。

使用方法:

`xConfiguration Security Fips Mode`: モード

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: デバイスは FIPS モードではありません。

On: デバイスは FIPS モードです。

デフォルト値:

Off



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Security Session FailedLoginsLockoutTime

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ウェブまたは SSH セッションへのログインに失敗した後、デバイスがユーザーをロックアウトする時間を定義します。

この設定の変更を有効にするには、デバイスを再起動します。

使用方法:

xConfiguration Security Session FailedLoginsLockoutTime: FailedLoginsLockoutTime
値は次のとおりです。

FailedLoginsLockoutTime:

整数 (0..10000)

ロックアウト時間 (分) を設定します。

デフォルト値:

60

xConfiguration Security Session InactivityTimeout

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ウェブまたは SSH セッションから自動的にログアウトする前に、デバイスがユーザーの非アクティブ状態を受け入れる時間を定義します。

この設定の変更を有効にするには、デバイスを再起動します。

使用方法:

xConfiguration Security Session InactivityTimeout: InactivityTimeout
値は次のとおりです。

非アクティブ タイムアウト:

整数 (0..10000)

非アクティブ タイムアウト (分) を設定します。0 を指定すると、1 時間のタイムアウトになります。最大タイムアウト時間は 12 時間です。

デフォルト値:

0

xConfiguration Security Session MaxFailedLogins

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ウェブまたは SSH セッションで、ユーザあたりの最大失敗ログイン試行回数を定義します。ユーザーが最大試行回数を超えた場合、ユーザーはロックアウトされます。0 は失敗したログインに制限がないことを意味します。

この設定の変更を有効にするには、デバイスを再起動します。

使用方法:

xConfiguration Security Session MaxFailedLogins: MaxFailedLogins
値は次のとおりです。

MaxFailedLogins:

整数 (0..10)

ユーザあたりの最大失敗ログイン試行回数を設定します。

デフォルト値:

0

xConfiguration Security Session MaxSessionsPerUser

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ユーザあたりの同時セッションの最大数は 20 セッションです。

使用方法:

xConfiguration Security Session MaxSessionsPerUser: MaxSessionsPerUser
値は次のとおりです。

MaxSessionsPerUser:

整数 (1..20)

ユーザあたりの同時セッションの最大数を設定します。

デフォルト値:

20



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Security Session MaxTotalSessions

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

同時セッションの最大数は 20 セッションです。

使用方法:

xConfiguration セキュリティセッション MaxTotalSessions: MaxTotalSessions

値は次のとおりです。

MaxTotalSessions:

整数 (1..20)

同時セッションの最大合計数を設定します。

デフォルト値:

20

xConfiguration Security Session ShowLastLogon

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

SSH を使用してデバイスにログインすると、ログインに成功した最後のセッションの UserId、日時が表示されます。

使用方法:

xConfiguration Security Session ShowLastLogon: ShowLastLogon

値は次のとおりです。

ShowLastLogon:

Off/On

On: 最後のセッションに関する情報を表示します。

Off: 最後のセッションに関する情報を表示しません。

デフォルト値:

Off

シリアルポートの構成

xConfiguration SerialPort Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

シリアルポートを有効/無効にします。デバイスに複数のシリアルポートがある場合、この設定はすべてに適用されます。

この設定は、第 1 世代の Webex Board 55 および Webex Board 70 では利用できません。

使用方法:

xConfiguration SerialPort Mode: モード

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: シリアル通信が無効になっています。

On: シリアル通信が有効になっています。

デフォルト値:

On



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration SerialPort BaudRate

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

シリアルポートのボーレート (データ転送速度) を設定します。新しいボーレートは、デバイスの再起動後に有効になります。

シリアルポートの他の接続パラメータは以下の通りです。データビット: 8; パリティ: なし。ストップビット: 1; フロー制御: なし。

この設定は、専用メンテナンス ポート (micro USB) には影響しません。メンテナンスポートは常にデフォルトのボーレートを使用します。

この設定は、第 1 世代の Webex Board 55 および Webex Board 70 では利用できません。

使用方法:

xConfiguration SerialPort BaudRate: BaudRate

値は次のとおりです。

ボーレート:

115200 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro/DeskLE Boards]

9600/19200/38400/57600/115200 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

リストからボー レートを選択します (ビット/秒)。

デフォルト値:

115200 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE Boards]

xConfiguration SerialPort LoginRequired

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

シリアルポートへの接続時にログインを要求するかどうかを定義します。デバイスに複数のシリアルポートがある場合、この設定はすべてに適用されます。

この設定は、第 1 世代の Webex Board 55 および Webex Board 70 では利用できません。

使用方法:

xConfiguration SerialPort LoginRequired: LoginRequired

値は次のとおりです。

ログインが必要:

Off/On

Off: ユーザーはログインしなくてもシリアルポート経由でデバイスにアクセスできます。

On: シリアルポート経由でデバイスに接続する際にログインが必要になります。

デフォルト値:

On



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

SIP の設定

xConfiguration SIP ANAT

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ANAT (代替ネットワーク アドレス タイプ) は、RFC 4091 で指定されているように、複数のアドレスおよびアドレス タイプのメディア ネゴシエーションを有効にします。

使用方法:

xConfiguration SIP ANAT: ANAT

値は次のとおりです。

分析
Off/On
Off: ANAT を無効にします。

On: ANAT を有効にします。

デフォルト値:

Off

xConfiguration SIP 認証ユーザ名

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

これは SIP プロキシに対する認証に使用される資格情報のユーザ名部分です。

使用方法:

xConfiguration SIP Authentication UserName: "UserName"

値は次のとおりです。

ユーザ名
文字列 (0, 128)

有効なユーザ名。

デフォルト値:

" "

xConfiguration SIP 認証パスワード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

これは SIP プロキシに対する認証に使用される資格情報のパスワード部分です。

使用方法:

xConfiguration SIP 認証パスワード: "Password"

値は次のとおりです。

パスワード
文字列 (0, 128)

有効なパスワード。

デフォルト値:

" "

xConfiguration SIP DefaultTransport

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

LAN 経由で使用されるトランスポートプロトコルを選択します。

使用方法:

xConfiguration SIP DefaultTransport: DefaultTransport

値は次のとおりです。

DefaultTransport
Auto/TCP/Tls/UDP
TCP: デバイスは既定の転送方法として常に TCP を使用します。

UDP: デバイスは既定の転送方法として常に UDP を使用します。

Tls: デバイスは、既定のトランスポート方法として常に TLS を使用します。TLS 接続の場合、SIP CA リストをデバイスにアップロードできます。そのような CA リストがデバイスで利用できない場合、匿名の Diffie Hellman が使用されます。

Auto: デバイスは、TLS、TCP、UDP の順にトランスポート プロトコルを使用して接続を試みます。

デフォルト値:

自動



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration SIP DisplayName

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

構成すると、着信通話は SIP URI の代わりに表示名を報告します。

使用方法:

xConfiguration SIP DisplayName: "DisplayName"

値は次のとおりです。

表示名:

文字列 (0, 550)

名前は SIP URI の代わりに表示されます。

デフォルト値:

" "

xConfiguration SIP Ice DefaultCandidate

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ICE プロトコルは、どのメディア ルートを使用するかについて結論に達するまで、少し時間が必要です (呼び出しの最初の 5 秒まで)。この期間中に、デバイスのメディアは、この設定で定義されているとおり、既定の候補に送信されます。

使用方法:

xConfiguration SIP Ice DefaultCandidate: DefaultCandidate

値は次のとおりです。

DefaultCandidate:

Host/Rfx/Relay

主催者: デバイスのプライベート IP アドレスにメディアを送信します。

Rfx: TURN サーバから見えるデバイスのパブリック IP アドレスにメディアを送信します。

リレー: TURN サーバーに割り当てられた IP アドレスとポートにメディアを送信します。

デフォルト値:

ホスト

xConfiguration SIP Ice モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ICE (Interactive Connectivity Establishment, RFC 5245) は、デバイスが最適化されたメディア パスを検出するために使用できる NAT トラバーサル ソリューションです。このようにして、音声とビデオの最短ルートは常にデバイス間で確保されます。メディアパスのセットアップ時に、最初に STUN (NAT 用セッショントラバーサルユーティリティ) メッセージが交換されます。

使用方法:

xConfiguration SIP Ice Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Auto/Off/On

Auto: TURN サーバーが提供されている場合、ICE が有効になります。提供されていない場合、ICE は無効になります。

Off: ICE が無効です。

On: ICE が有効です。

デフォルト値:

自動



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration SIP ListenPort

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

SIP TCP/UDP ポートでの着信接続のリッスンをOnまたはOffにします。Offにすると、デバイスは SIP プロキシ (CUCM または VCS) 経由でのみ到達可能になります。セキュリティ対策として、デバイスが SIP プロキシに登録されている場合、SIP リッスンポートはOffにする必要があります。

使用方法:

xConfiguration SIP ListenPort: ListenPort

値は次のとおりです。

リッスンポート:

Auto/Off/On

Auto: デバイスが SIP プロキシに登録されている場合、SIP TCP/UDP ポートでの着信接続のリッスンは自動的にOffになります。それ以外の場合はOnになります。

Off: SIP TCP/UDP ポートでの着信接続のリッスンがOffになります。

On: SIP TCP/UDP ポートでの着信接続のリッスンがOnになります。

デフォルト値:

On [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

自動 [DeskPro/DeskLE Boards]

xConfiguration SIP MinimumTLSVersion

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

SIP で許可される最も低いバージョンの TLS (Transport Layer Security) プロトコルを設定します。

使用方法:

xConfiguration SIP MinimumTLSVersion: MinimumTLSVersion

値は次のとおりです。

MinimumTLSVersion:

TLSv1.0/TLSv1.1/TLSv1.2

TLSv1.0: TLS バージョン 1.0 以降に対応します。

TLSv1.1: TLS バージョン 1.1 以降に対応します。

TLSv1.2: TLS バージョン 1.2 以降に対応します。

デフォルト値:

TLSv1.0

xConfiguration SIP プロキシ [n] アドレス

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

[プロキシ アドレス] は発信プロキシ用に手動で設定されたアドレスです。完全修飾ドメイン名または IP アドレスを使用することができます。TCP および UDP の既定のポートは 5060 ですが、別のポートを提供することもできます。

使用方法:

xConfiguration SIP Proxy [n] アドレス: "Address"

値は次のとおりです。

n: プロキシを識別するインデックス (最大で 4 つのプロキシを定義できます)。

範囲: 1..4

Address:

文字列 (0..255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

デフォルト値:

" "



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration SIP TlsVerify

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

SIP TLS 経由で接続を確立する前に、デバイスはピアの証明書が信頼できる認証局 (CA) によって署名されているかどうかを確認します。CA は、ウェブ インターフェイスまたは API を使用してデバイスに手動でアップロードされる CA リストに含まれる必要があります。プリインストールされた証明書のリストは、SIP TLS 接続の証明書の検証には使用されません。

注: CE9.8 以前のソフトウェア バージョンから CE9.9 (以降) にアップグレードされたデバイスの値は Off に設定されています。ただし、デバイスがアップグレード後に工場出荷時リセットされておらず、設定が明示的に On に設定されていなかった場合が対象です。

SIP の [MinimumTLSVersion] 設定を使用して、許可する TLS バージョンを指定します。

使用方法:

xConfiguration SIP TlsVerify: TlsVerify

値は次のとおりです。

TlsVerify:

Off/On

Off: デバイスはピアの証明書を確認しません。SIP TLS 接続はとにかく確立されます。

On: デバイスは、ピアの証明書が信頼できるかどうかを確認します。そうでない場合、SIP TLS 接続は確立されていません。

デフォルト値:

On

xConfiguration SIP Turn Server

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

TURN (Traversal Using Relay NAT) サーバーのアドレスを定義します。これは、メディア リレーのフォールバックとして使用され、デバイス自体のパブリック IP アドレスを検出するためにも使用されます。

使用方法:

xConfiguration SIP Turn Server: "Server"

値は次のとおりです。

サーバ:

文字列 (0..255)

望ましい形式は DNS SRV レコードです (例: _turn._udp.<domain>), あるいは有効な IPv4 または IPv6 アドレスを指定することもできます。

デフォルト値:

""

xConfiguration SIP Turn UserName

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

TURN サーバーへのアクセスに必要なユーザ名を定義します。

使用方法:

xConfiguration SIP Turn UserName: "UserName"

値は次のとおりです。

ユーザ名:

文字列 (0, 128)

有効なユーザ名。

デフォルト値:

""



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration SIP Turn Password

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

TURN サーバへのアクセスに必要なパスワードを指定します。

使用方法:

xConfiguration SIP Turn Password: "Password"

値は次のとおりです。

パスワード:

文字列 (0, 128)

有効なパスワード。

デフォルト値:

" "

xConfiguration SIP URI

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

SIP URI (Uniform Resource Identifier) は、デバイスを識別するために使用されるアドレスです。URI は登録され、SIP サービスによって使用され、着信通話をデバイスにルーティングします。SIP URI 構文は RFC 3261 で定義されています。

使用方法:

xConfiguration SIP URI: 「URI」

値は次のとおりです。

URI:

文字列 (0..255)

SIP URI 構文に準拠したアドレス (URI)。

デフォルト値:

" "

スタンバイ構成

xConfiguration Standby BootAction

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

ビデオ会議デバイスを再起動した後のカメラの位置を定義します。

使用方法:

xConfiguration Standby BootAction: BootAction

値は次のとおりです。

BootAction:

None/DefaultCameraPosition/RestoreCameraPosition

なし: アクションはありません。

RestoreCameraPosition: ビデオ会議デバイスが再起動すると、カメラは再起動前の位置に戻ります。

DefaultCameraPosition: ビデオ会議デバイスの再起動時に、カメラが工場出荷時のデフォルト位置に移動します。

デフォルト値:

DefaultCameraPosition [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

RestoreCameraPosition [DeskPro/DeskLE Boards]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration スタンバイコントロール

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

デバイスをスタンバイ モードにするかどうかを定義します。

使用方法:

xConfiguration スタンバイ コントロール: コントロール

値は次のとおりです。

コントロール:

Off/On

Off: デバイスはスタンバイモードになりません。

On: スタンバイの遅延時間がタイムアウトすると、デバイスはスタンバイモードになります。

デフォルト値:

On

xConfiguration スタンバイ遅延

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

デバイスがスタンバイモードになるまでのアイドル モードの時間 (分) を定義します。スタンバイ コントロールを有効にする必要があります。

使用方法:

xConfiguration Standby Delay: Delay

値は次のとおりです。

遅延:

整数 (1..480)

スタンバイの遅延 (分) を設定します。

デフォルト値:

10 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/
Room70Panorama DeskPro/DeskLE]

4 [ボード]

xConfiguration スタンバイサイネージ音声

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

既定では、ウェブページに音声がある場合でも、デジタルサイネージモードではデバイスは音声を再生しません。この設定を使用して、デフォルトの動作を上書きすることができます。

使用方法:

xConfiguration スタンバイ サイネージ音声: 音声

値は次のとおりです。

音声:

Off/On

Off: デバイスはウェブページの音声を再生しません。

On: ウェブページに音声がある場合、デバイスは音声を再生します。音量はデバイスの音量設定に従います。

デフォルト値:

Off

xConfiguration スタンバイ サイネージ インタラクション モード

適用対象: RoomKitMini DeskPro/DeskLE Boards

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

既定では、ユーザはデジタルサイネージのウェブページを操作できません。この設定を使用して、ウェブページと対話する機能を有効にすることができます。

この通信モードは通常 Room Kit Mini では利用できません。Room Kit Mini が Samsung Flip で使用されている場合にのみ利用できます (Webex on Flip)。

使用方法:

xConfiguration Standby Signage InteractionMode: InteractionMode

値は次のとおりです。

対話モード:

インタラクティブ/非インタラクティブ

インタラクティブ: ウェブページと対話することができます。

非インタラクティブ: ウェブページの操作ができません。

デフォルト値:

非インタラクティブ



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Standby Signage Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

URL (Web ページ)からのコンテンツは、従来のハーフウェイクの背景画像と情報を置き換えることができます。この機能をデジタルサイネージと呼びます。デバイスにインタラクティブ画面がある場合、ユーザーはウェブページと対話できます。たとえば、リンクをクリックしたり、フォームにテキストを入力したりできます。

デジタル サイネージの使用は、デバイスが通常の方法でスタンバイ状態になることを妨げるものではありません。そのため、[スタンバイの遅延] 設定では、デバイスがスタンバイ状態になる前にデジタルサイネージが表示される時間を決定します。

使用方法:

xConfiguration Standby Signage Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: デジタル サイネージはデバイスで有効になっていません。

On: デジタルサイネージが有効になり、デバイスの [ハーフウェイク(half-wake)] モードが置き換えられます。ただし、WebEngine Mode 設定も On にする必要があります。

デフォルト値:

Off

xConfiguration Standby Signage RefreshInterval

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

この設定を使用して、ウェブページを定期的に更新することができます。これは、ウェブページを更新できない場合に便利です。インタラクティブモードでの更新間隔の設定はお勧めしません。

使用方法:

xConfiguration Standby Signage RefreshInterval: RefreshInterval

値は次のとおりです。

RefreshInterval:

整数 (0..1440)

各ウェブページの更新間隔の秒数。値 0 はウェブページが更新を強制されないことを意味します。

デフォルト値:

0

xConfiguration Standby Signage Url

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

画面 (デジタル サイネージ) に表示するウェブページの URL を設定します。URL の長さが 0 の場合、デバイスは通常の [ハーフウェイク(half-wake)] モードを保持します。URL が失敗した場合、デバイスは通常の [ハーフウェイク(half-wake)] モードを維持し、診断メッセージが発行されます。

使用方法:

xConfiguration Standby Signage Url: "Url"

値は次のとおりです。

Url:

文字列 (0, 2000)

ウェブページの URL です。

デフォルト値:

""

xConfiguration Standby StandbyAction

適用対象: RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2

RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

スタンバイモードに入るときのカメラの位置を定義します。

使用方法:

xConfiguration Standby StandbyAction: StandbyAction

値は次のとおりです。

StandbyAction:

None/PrivacyPosition

なし: アクションはありません。

PrivacyPosition: ビデオ会議デバイスがスタンバイ状態になると、プライバシー保護のためカメラが横向きになります。

デフォルト値:

PrivacyPosition



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Standby WakeupAction

適用対象: *Room70/Room55D* すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

スタンバイモードを終了するときのカメラの位置を定義します。

使用方法:

xConfiguration Standby WakeupAction: WakeupAction

値は次のとおりです。

WakeupAction:

None/RestoreCameraPosition/DefaultCameraPosition

なし: アクションはありません。

RestoreCameraPosition: ビデオ会議デバイスがスタンバイ状態から離れると、カメラはスタンバイ状態に入る前の位置に戻ります。

DefaultCameraPosition: ビデオ会議デバイスがスタンバイ状態から離れると、カメラは工場出荷時のデフォルト位置に移動します。

デフォルト値:

カメラ位置の復元

xConfiguration Standby WakeupOnMotionDetection

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

モーション検出による自動 ウェイク アップは、デバイスが人の入室を検知する機能です。この機能は超音波検出に基づいています。

この設定と RoomAnalytics PeoplePresenceDetector 設定の両方が Off になっている場合、モーション検出の超音波信号は発信されません。音声超音波の最大音量と近接モードの設定は、モーション検知に影響を与えません。

使用方法:

xConfiguration Standby WakeupOnMotionDetection: WakeupOnMotionDetection

値は次のとおりです。

WakeupOnMotionDetection:

Off/On

Off: モーション検知でウェイクアップは無効です。

On: 出席者が会議室に入ると、デバイスが自動的にスタンバイ状態から復帰します。

デフォルト値:

On [RoomKit RoomKitMini Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE Boards]

Off [CodecPlus CodecPro]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

SystemUnit 設定

xConfiguration SystemUnit Name

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

デバイス名を定義します。デバイスが SNMP エージェントとして機能している場合、デバイス名は DHCP リクエストでホスト名として送信されます。

使用方法:

xConfiguration SystemUnit Name: "Name"

値は次のとおりです。

名前:

文字列 (0, 50)

デバイス名を定義します。

デフォルト値:

" "

xConfiguration SystemUnit CrashReporting Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

デバイスがクラッシュした場合、デバイスは分析のために Cisco 自動クラッシュレポート ツール (ACR) にログを自動的に送信できます。ACR ツールは Cisco 社内でのみ使用され、顧客は利用できません。

使用方法:

xConfiguration SystemUnit CrashReporting Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: ログは ACR ツールに送信されません。

On: ログは自動的に ACR ツールに送信されます。

デフォルト値:

On [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE Boards]

xConfiguration SystemUnit CrashReporting Url

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

デバイスがクラッシュした場合、デバイスは分析のために Cisco 自動クラッシュレポート ツール (ACR) にログを自動的に送信できます。ACR ツールは Cisco 社内でのみ使用され、顧客は利用できません。

使用方法:

xConfiguration SystemUnit CrashReporting Url: "Url"

値は次のとおりです。

URL:

文字列 (0..255)

Cisco 自動クラッシュレポートツール (ACR) への URL。

デフォルト値:

"acr.cisco.com" [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE Boards]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration SystemUnit CustomDeviceId

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

SystemUnit CustomDeviceId は、ユニットに関するカスタム情報を保存する場所を提供します。これは、たとえば、プロビジョニング設定でデバイスを追跡するのに役立ちます。

使用方法:

xConfiguration SystemUnit CustomDeviceId: "CustomDeviceId"

値は次のとおりです。

CustomDeviceId:

文字列 (0..255)

デフォルト値:

" "

時間設定

xConfiguration Time TimeFormat

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザー役割: ADMIN, USER

時間形式を定義します。

使用方法:

xConfiguration Time TimeFormat: TimeFormat

値は次のとおりです。

時間形式:

24H/12H

24 時間: 時間形式を 24 時間に設定します。

12 時間: 時間形式を 12 時間 (AM/PM) に設定します。

デフォルト値:

24H

xConfiguration Time DateFormat

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザー役割: ADMIN, USER

日付形式を定義します。

使用方法:

xConfiguration Time DateFormat: DateFormat

値は次のとおりです。

日付形式:

DD_MM_YY/MM_DD_YY_YY_MM_DD

DD_MM_YY: 日付は 2010 年 1 月 30 日、表示: 10.01.30

MM_DD_YY: 2010 年 1 月 30 日の日付は、01.30.10 と表示されます

YY_MM_DD: 2010 年 1 月 30 日の日付は、10.01.30 と表示されます

デフォルト値:

DD_MM_YY



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration タイムゾーン

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

デバイスの地理的な場所のタイムゾーンを定義します。値のスペースの情報は、IANA タイムゾーン データベースとも呼ばれる tz データベースからのものです。

使用方法:

xConfiguration タイムゾーン: ゾーン

値は次のとおりです。

ゾーン:

アフリカ/アビジャン、アフリカ/アクラ、アフリカ/アディスアババ、アフリカ/アルジェ、アフリカ/アスマラ、アフリカ/アスメラ、アフリカ/バマコ、アフリカ/バンギ、アフリカ/バンジュル、アフリカ/ビサウ、アフリカ/ブランタイア、アフリカ/ブラザビル、アフリカ/ブジュンブラ、アフリカ/カイロ、アフリカ/カサブランカ、アフリカ/セウタ、アフリカ/コナクリ、アフリカ/ダカル、アフリカ/ダルエスサラーム、アフリカ/ジブチ、アフリカ/ドアラ、アフリカ/エルアイウン、アフリカ/フリータウン、アフリカ/ガボローネ、アフリカ/ハラレ、アフリカ/ヨハネスブルグ、アフリカ/ジュバ、アフリカ/カンパラ、アフリカ/ハルツーム、アフリカ/キガリ、アフリカ/キンシャサ、アフリカ/ラゴス、アフリカ/リブレビル、アフリカ/ロメ、アフリカ/ルアンダ、アフリカ/ルブンバシ、アフリカ/ルサカ、アフリカ/マラボ、アフリカ/マプト、アフリカ/マセル、アフリカ/ムババネ、アフリカ/モガディシュ、アフリカ/モンロビア、アフリカ/ナイロビ、アフリカ/ンジャメナ、アフリカ/ニアメ、アフリカ/ヌアクショット、アフリカ/ワガドゥグー、アフリカ/ボルトノボ、アフリカ/サントメ、アフリカ/トンブクトゥ、アフリカ/トリポリ、アフリカ/チュニス、アフリカ/ウィントフック、アメリカ/アダック、アメリカ/アンカレッジ、アメリカ/アンギラ、アメリカ/アンティグア、アメリカ/アラグアイナ、アメリカ/アルゼンチン/ブエノスアイレス、アメリカ/アルゼンチン/カタマルカ、アメリカ/アルゼンチン/コモドリバダビア、アメリカ/アルゼンチン/コルドバ、アメリカ/アルゼンチン/フファイ、アメリカ/アルゼンチン/ラリオハ、アメリカ/アルゼンチン/メンドーザ、アメリカ/アルゼンチン/リオ・ガレゴス、アメリカ/アルゼンチン/サルタ、アメリカ/アルゼンチン/サンフアン、アメリカ/アルゼンチン/サンルイス、アメリカ/アルゼンチン/トゥクマン、アメリカ/アルゼンチン/ウシュアイア、アメリカ/アルバ、アメリカ/アスンシオン、アメリカ/アティコカン、アメリカ/アトカ、アメリカ/バイーア、アメリカ/バイーア・デ・バンデラス、アメリカ/バルバドス、アメリカ/ベレン、アメリカ/ベリス、アメリカ/ブランサブロン、アメリカ/ボア・ヴィスタ、アメリカ/ボゴタ、アメリカ/ボイジー、アメリカ/ブエノスアイレス、アメリカ/カンボ・グランデ、アメリカ/カンクン、アメリカ/カラカス、アメリカ/カタマルカ、アメリカ/カイエンヌ、アメリカ/ケイマン、アメリカ/シカゴ、アメリカ/チワワ、アメリカ/コラルハーバー、アメリカ/コルドバ、アメリカ/コスタリカ、アメリカ/クレストン、アメリカ/クイアバ、アメリカ/キュラソー、アメリカ/デンマークシャウン、アメリカ/ドーンソン、アメリカ/ドーンソン・クリーク、アメリカ/デンバー、アメリカ/デトロイト、アメリカ/ドミニカ、アメリカ/エドモントン、アメリカ/エイルネベ、アメリカ/エルサルバドル、アメリカ/エンセナーダ、アメリカ/フォート・ネルソン、アメリカ/フォート・ウェイン、アメリカ/フォルタレザ、アメリカ/グレース・ベイ、アメリカ/ゴットホープ、アメリカ/グレース・ベイ、アメリカ/グランド・ターク、アメリカ/グレナダ、アメリカ/グアドループ、アメリカ/グアテマラ、アメリカ/グアヤキル、アメリカ/ガイアナ、アメリカ/ハリファックス、アメリカ/ハバナ、アメリカ/エルモシージョ、アメリカ/インディアン/インディアンボリス、アメリカ/インディアン/ノックス、アメリカ/インディアン/マレンゴ、アメリカ/インディアン/ピーターズバーグ、アメリカ/インディアン/テ

ル・シティ、アメリカ/インディアン/ビベイ、アメリカ/インディアン/ヴァンセンヌ、アメリカ/インディアン/ウィナマック、アメリカ/インディアンボリス、アメリカ/イヌヴィク、アメリカ/イカルイト、アメリカ/ジャマイカ、アメリカ/フファイ、アメリカ/ジュノー、アメリカ/ケンタッキー/ルイビル、アメリカ/ケンタッキー/モンティチェロ、アメリカ/ノックス・インディアン、アメリカ/クラレンダイク、アメリカ/ラバース、アメリカ/リマ、アメリカ/ロサンゼルス、アメリカ/ルイビル、アメリカ/ローワー・プリンスズ、アメリカ/マセオ、アメリカ/マナグア、アメリカ/マナウス、アメリカ/マリゴ、アメリカ/マルティニーク、アメリカ/マタモロス、アメリカ/マサラン、アメリカ/メンドーザ、アメリカ/メノミニ、アメリカ/メリダ、アメリカ/メタカトラ、アメリカ/メキシコシティ、アメリカ/ミクロン島、アメリカ/モンクトン、アメリカ/モンテレイ、アメリカ/モンテビデオ、アメリカ/モントリオール、アメリカ/モントセラト、アメリカ/ナッソー、アメリカ/ニューヨーク、アメリカ/ニビゴン川、アメリカ/ノーム、アメリカ/ノローニヤ、アメリカ/ノースダコタ/ビューラー、アメリカ/ノースダコタ/センター、アメリカ/ノースダコタ/ニューサレム、アメリカ/ヌーク、アメリカ/オヒナガ、アメリカ/パナマ、アメリカ/パンナータンク、アメリカ/パラマリボ、アメリカ/フェニックス、アメリカ/ボルトーブランス、アメリカ/ポートオブスベイン、アメリカ/ボルトアクレ、アメリカ/ボルトヴェリエ、アメリカ/プエルトリコ、アメリカ/プンタ・アレナス、アメリカ/レイニリーバー、アメリカ/ランキンインレット、アメリカ/レシフェ、アメリカ/レジーナ、アメリカ/レゾリュート、アメリカ/リオブランコ、アメリカ/ロザリオ、アメリカ/サンタイザベル、アメリカ/サンタレン、アメリカ/サンティアゴ、アメリカ/サントドミンゴ、アメリカ/サンパウロ、アメリカ/スコアビエンソ、アメリカ/シップロック山、アメリカ/シカ、アメリカ/セントバルテルミー島、アメリカ/セントジョンズ、アメリカ/セントキッツ、アメリカ/セントルシア、アメリカ/セントトーマス、アメリカ/セントビンセント、アメリカ/スウィフトカレント、アメリカ/テグシガルバ、アメリカ/チューレ、アメリカ/サンダーベイ、アメリカ/ティファナ、アメリカ/トロント、アメリカ/トルトラ、アメリカ/バンクーバー、アメリカ/ヴァージン、アメリカ/ホワイトホース、アメリカ/ウィニベグ、アメリカ/ヤクタット、アメリカ/イエローナイフ、南極/ケーシー、南極/デビス、南極/デュモン・デュルビル、南極/マッコリー、南極/モートン、南極/マクマード、南極/パーマー、南極/ロセラ基地、南極/南極点、南極/昭和基地、南極/トロール、南極/ボストーク、南極/ロングウェルビー、アジア/アデン、アジア/アルマトイ、アジア/アンマン、アジア/アナディリ、アジア/アクタウ、アジア/アクトベ、アジア/アシュガバード、アジア/アシハバード、アジア/アティラウ、アジア/バグダッド、アジア/バーレーン、アジア/バクー、アジア/バンコク、アジア/バルナウル、アジア/ベイルート、アジア/ビシュケク、アジア/ブルネイ、アジア/カルカッタ、アジア/チタ、アジア/チョイバルサン、アジア/重慶、アジア/コロombo、アジア/ダッカ、アジア/ダマスカス、アジア/ダカ、アジア/ディリ、アジア/ドバイ、アジア/ドゥシャンベ、アジア/ファマグスタ、アジア/ガザ、アジア/ハルビン、アジア/ヘブロン、アジア/ホーチミン、アジア/ホンコン、アジア/ホブト、アジア/イルクーツク、アジア/イスタンブール、アジア/ジャカルタ、アジア/ジャヤプラ、アジア/エルサレム、アジア/カブール、アジア/カムチャッカ、アジア/カラチ、アジア/カシュガル、アジア/カトマンズ、アジア/カトマンズ、アジア/ハンドウイガ、アジア/コルカタ、アジア/クラスノヤルスク、アジア/クアラランブール、アジア/クチン、アジア/クウェート、アジア/マカオ、アジア/マカオ、アジア/マダガスカル、アジア/マカサル、アジア/マニラ、アジア/マスカット、アジア/ニコシア、アジア/ヴォクズネット、アジア/ヴォシビルスク、アジア/オムスク、アジア/オラル、アジア/ブノンペン、アジア/ボンティアナク、アジア/平壤、アジア/カタール、アジア/コスタナイ、アジア/クジルオルダ、アジア/ラングーン、アジア/リヤド、アジア/サイゴン、アジア/サハリン、アジア/サマルカンド、アジア/ソウル、アジア/上海、アジア/シンガポール、アジア/スレドネコリムスク、アジア/台北、アジア/タシケン、アジア/トビリシ、アジア/テヘラン、アジア/テルアビブ、アジア/ティンブー、アジア/ティンブー、アジア/東京、アジア/トムスク、アジア/ウジュンパンダン、アジア/ウランバートル、アジア/ウランバートル、アジア/ウルムチ、アジア/ウスチネラ、アジア/ビエンチャン、アジア/ウラジオストク、アジア/ヤクーツク、アジア/ヤンゴン、アジア/エカテリブルク、アジア/エレバン、大西洋/アゾレ



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ス、大西洋/バミューダ、大西洋/カナリア、大西洋/ケープベルデ、大西洋/フェロー諸島、大西洋/フェロー諸島、大西洋/ヤンマイエン島、大西洋/マディラ島、大西洋/レイキャビク、大西洋/サウスジョージア島、大西洋/セントヘレナ島、大西洋/スタンリー、オーストラリア/ACT、オーストラリア/アデレード、オーストラリア/ブリスベン、オーストラリア/ブローケンヒル、オーストラリア/キャンベラ、オーストラリア/カリー、オーストラリア/ダーウィン、オーストラリア/ユークラ、オーストラリア/ホバート、オーストラリア/LHI、オーストラリア/リンデマン、オーストラリア/ロードハウ、オーストラリア/メルボルン、オーストラリア/NSW、オーストラリア/北部、オーストラリア/パース、オーストラリア/クイーンズランド州、オーストラリア/南部、オーストラリア/シドニー、オーストラリア/タスマニア、オーストラリア/ヴィクトリア、オーストラリア/西、オーストラリア/ヤンコウィナ、ブラジル/アクレ、ブラジル/デノローニャ、ブラジル/東、ブラジル/西、CET、CST6CDT、カナダ/大西洋、カナダ/中部、カナダ/東部、カナダ/山岳部、カナダ/ニューファンドラン、カナダ/太平洋沿岸部、カナダ/サスカチュワン、カナダ/ユーコン、チリ/大陸部、チリ/イースター島、キューバ、EET、EST、EST5EDT、エジプト、アイルランド、Etc/GMT、Etc/GMT+0、Etc/GMT+1、Etc/GMT+10、Etc/GMT+11、Etc/GMT+12、Etc/GMT+2、Etc/GMT+3、Etc/GMT+4、Etc/GMT+5、Etc/GMT+6、Etc/GMT+7、Etc/GMT+8、Etc/GMT+9、Etc/GMT-0、Etc/GMT-1、Etc/GMT-10、Etc/GMT-11、Etc/GMT-12、Etc/GMT-13、Etc/GMT-14、Etc/GMT-2、Etc/GMT-3、Etc/GMT-4、Etc/GMT-5、Etc/GMT-6、Etc/GMT-7、Etc/GMT-8、Etc/GMT-9、Etc/GMT0、Etc/グリニッジ、Etc/UCT、Etc/UTC、Etc/ユニバーサル、Etc/ズールー、ヨーロッパ/アムステルダム、ヨーロッパ/アンドラ、ヨーロッパ/アストラハン、ヨーロッパ/アテネ、ヨーロッパ/ベルファースト、ヨーロッパ/ベオグラード、ヨーロッパ/ベルリン、ヨーロッパ/ブラティスラヴァ、ヨーロッパ/ブリュッセル、ヨーロッパ/ブカレスト、ヨーロッパ/ブダペスト、ヨーロッパ/ビュージングゲン、ヨーロッパ/キシニョフ、ヨーロッパ/コペンハーゲン、ヨーロッパ/ダブリン、ヨーロッパ/ジブラルタル、ヨーロッパ/ガーンジー、ヨーロッパ/ヘルシンキ、ヨーロッパ/マン島、ヨーロッパ/イスタンブール、ヨーロッパ/ジャージー、ヨーロッパ/カリニングラード、ヨーロッパ/キエフ、ヨーロッパ/キロフ、ヨーロッパ/キエフ、ヨーロッパ/リスボン、ヨーロッパ/リュブリャナ、ヨーロッパ/ロンドン、ヨーロッパ/ルクセンブルク、ヨーロッパ/マドリード、ヨーロッパ/マルタ、ヨーロッパ/マリエハムン、ヨーロッパ/ミンスク、ヨーロッパ/モナコ、ヨーロッパ/モスクワ、ヨーロッパ/ニコシア、ヨーロッパ/オースロ、ヨーロッパ/パリ、ヨーロッパ/ポドゴリツァ、ヨーロッパ/ブラハ、ヨーロッパ/リガ、ヨーロッパ/ローマ、ヨーロッパ/サマラ、ヨーロッパ/サンマリノ、ヨーロッパ/サラエボ、ヨーロッパ/サラトフ、ヨーロッパ/シンフェロポリ、ヨーロッパ/スコピエ、ヨーロッパ/ソフィア、ヨーロッパ/ストックホルム、ヨーロッパ/タリン、ヨーロッパ/ティラナ、ヨーロッパ/ティラスポリ、ヨーロッパ/ウリヤノフスク、ヨーロッパ/ウジゴロド、ヨーロッパ/フアドゥーツ、ヨーロッパ/バチカン、ヨーロッパ/ウィーン、ヨーロッパ/ヴィリニウス、ヨーロッパ/ボルゴグラード、ヨーロッパ/フルシャフ、ヨーロッパ/ザグレブ、ヨーロッパ/ザボリージャ、ヨーロッパ/チューリッヒ、GB、GB/アイルランド、GMT、GMT+0、GMT-0、GMT0、グリニッジ、HST、香港、アイスランド、インド洋/アンタナナリボ、インド洋/チャゴス諸島、インド洋/クリスマス島、インド洋/ココス、インド洋/コモロ、インド洋/ケルゲレン諸島、インド洋/マヘー島、インド洋/モルディブ、インド洋/モーリシャス、インド洋/マヨット島、インド洋/レユニオン島、イラン、イスラエル、ジャマイカ、日本、クアジャリン、リビア、MET、MST、MST7MDT、メキシコ/バハノルテ、メキシコ/バハスル、メキシコ/中部、NZ、NZ-CHAT、ナウアホ、PRC、PST8PDT、太平洋/アピア、太平洋/オークランド、太平洋/ブーゲンビル、太平洋/チャタム、太平洋/チューク、太平洋/イースター、太平洋/エファテ、太平洋/エンダベリー、太平洋/ファカオフォ、太平洋/フィジー、太平洋/フナフティ、太平洋/ガラバゴス、太平洋/ガンビア、太平洋/ガダルカナル、太平洋/グアム、太平洋/ホノルル、太平洋/ジョンストン、太平洋/キリティマティ島、太平洋/コスラエ島、太平洋/クアジャリン、太平洋/マジュロ、太平洋/マルケサス諸島、太平洋/ミッドウェー諸島、太平洋/ナウル、太平洋/ニウエ島、太平洋/ノーフォーク島、太平洋/ヌメア、太平洋/パゴパゴ、太平洋/パラオ、太平洋/ピトケレン島、太平洋/ボンベイ、太平洋/ボナベ島、太平洋/ポー

トモレスビー、太平洋/ラロトンガ島、太平洋/サイパン、太平洋/サモア、太平洋/タヒチ島、太平洋/タラワ島、太平洋/トンガタブ、太平洋/トラック諸島、太平洋/ウェーク島、太平洋/フリーエフトゥーナ諸島、太平洋/ヤップ、ポーランド、ポルトガル、ROC、ROK、シンガポール、トルコ、UCT、米国/アラスカ、米国/アリゾナ、米国/アリゾナ、米国/中部、米国/東インディアナ、米国/東部、米国/ハワイ、米国/インディアナ/スターク、米国/ミシガン、米国/山岳部、米国/太平洋沿岸部、米国/サモア、UTC、ユニバーサル、W-SU、WET、ズールー
リストからタイムゾーンを選択します。

デフォルト値:

Etc/UTC



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ユーザーインターフェイス設定

xConfiguration UserInterface Accessibility IncomingCallNotification

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

視覚的に増幅された着信通知を有効にできます。画面とタッチ コントローラーが約 1 秒間隔 (1.75Hz) で赤/白に点滅し、聴覚障害者の方でも着信に気づきやすくなります。デバイスがすでに通話中の場合、進行中の通話を邪魔しないように、画面は点滅しません。代わりに、画面とタッチ パネルに通常の通知が表示されます。

使用方法:

xConfiguration UserInterface Accessibility IncomingCallNotification:
[IncomingCallNotification](#)

値は次のとおりです。

着信通話通知:

AmplifiedVisuals/Default

AmplifiedVisuals: デバイスが通話を受信したときに、画面とタッチ パネル上で増幅されたビジュアルを有効にします。

デフォルト: 画面とタッチ パネル上の通知のデフォルトのビヘイビアを有効にします。

デフォルト値:

デフォルト

xConfiguration UserInterface Assistant Mode

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザーロール: 管理者

Webex Assistant では、音声コマンドを使用してデバイスをコントロールすることができます。Webex Assistant はクラウド サービスであるため、デバイスは Webex クラウド サービスに登録されているか、または Onプレミス サービスに登録されており、デバイス用の Webex Edge にリンクされている必要があります。

この設定を使用して、デバイスの Webex Assistant を有効または無効にします。

使用方法:

xConfiguration UserInterface Assistant Mode: [Mode](#)

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: Webex Assistant はOffになっています。

On: インフラストラクチャでサポートされている場合、Webex Assistant を使用できます。

デフォルト値:

On

xConfiguration UserInterface Bookings Visibility Title

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

ミーティングの詳細をプライベートに設定します。「スケジュール済みミーティング」がミーティングのタイトルとして表示されます。

使用方法:

xConfiguration UserInterface Bookings Visibility Title: [Title](#)

値は次のとおりです。

タイトル:

自動/非表示

Auto: ミーティングのタイトルが公開され、ユーザ インターフェイスに表示されます。

Hidden: ミーティングのタイトルが非表示になり、「スケジュール済みミーティング」がユーザ インターフェイスに表示されます。

デフォルト値:

自動



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration UserInterface Branding AwakeBranding Colors

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

デバイスがブランディングのカスタマイズでセットアップされている場合、この設定は、デバイスが起動しているときに表示されるロゴの色に影響します。ロゴをフルカラーで表示するか、ロゴの不透明度を下げて背景や画面の他の要素に自然になじませるかを選択できます。

使用方法:

xConfiguration UserInterface Branding AwakeBranding Colors: [Colors](#)

値は次のとおりです。

色:

自動/ネイティブ

Auto: ロゴの不透明度が下げられます。

ネイティブ: ロゴはフルカラーになります。

デフォルト値:

自動

xConfiguration UserInterface ContactInfo Type

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ユーザインターフェイスに表示する連絡先情報のタイプを選択します。

使用方法:

xConfiguration UserInterface ContactInfo Type: [Type](#)

値は次のとおりです。

タイプ:

Auto/DisplayName/E164Alias/H320Number/H323Id/IPv4/IPv6/None/SipUri/SystemName

Auto: このビデオ会議デバイスに到達するために別のデバイスがダイヤルする必要があるアドレスを表示します。アドレスは、デフォルトの通話プロトコルとデバイス登録によって異なります。

なし: 連絡先情報を表示しません。

IPv4: デバイスの IPv4 アドレスを表示します。

IPv6: デバイスの IPv6 アドレスを表示します。

H323Id: デバイスの H.323 ID を表示します (H323Alias IDのH323設定を参照してください)。

H320Number: デバイスの H.320 番号を連絡先情報として表示します (Cisco TelePresence ISDN Link で使用される場合にのみサポートされます)。

E164Alias: デバイスの H.323 E164 エイリアスを連絡先情報として表示します (H323 H323Alias E164 設定を参照してください)。

SipUri: デバイスの SIP URI を表示します (SIP URI 設定を参照してください)。

SystemName: デバイスの名前を表示します ([システム名] 設定を参照してください)。

DisplayName: デバイスの表示名を表示します (SIP DisplayName 設定を参照してください)。

デフォルト値:

自動



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration UserInterface CustomMessage

適用先: *RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

カスタム メッセージは、アウェイク モード中に画面の左下側に表示することができます。

使用方法:

xConfiguration UserInterface CustomMessage: "CustomMessage"

値は次のとおりです。

CustomMessage:

文字列 (0, 128)

カスタムメッセージを追加します。カスタムメッセージを削除するには、空の文字列を追加します。

デフォルト値:

" "

xConfiguration UserInterface Diagnostics Notifications

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ユーザ インターフェイス上の診断通知を非表示または表示します。

使用方法:

xConfiguration UserInterface Diagnostics Notifications: Notifications

値は次のとおりです。

通知:

自動/非表示

Auto: 診断通知はユーザ インターフェイスに表示されます。

非表示: 診断通知はユーザ インターフェイスに表示されません。

デフォルト値:

自動

xConfiguration UserInterface KeyTones Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

テキストまたは数字を入力するときに、キーボードクリックサウンド効果 (キートーン) を鳴らすようにデバイスを構成できます。

使用方法:

xConfiguration UserInterface KeyTones Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: キートーンの効果音はありません。

On: キートーンの効果音がOnになります。

デフォルト値:

Off [DeskPro/DeskLE Boards]

On [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

xConfiguration ユーザインターフェイス機能 通話終了

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

ユーザ インターフェイスから既定の [通話の終了] ボタンを削除するかどうかを選択します。この設定はボタンのみを削除し、機能自体は削除しません。

使用方法:

xConfiguration UserInterface Features Call End: End

値は次のとおりです。

End:

自動/非表示

自動: ユーザ インターフェイスに既定のボタンを表示します。

非表示: ユーザ インターフェイスから既定のボタンを削除します。

デフォルト値:

自動



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration ユーザーインターフェイス機能 通話キーパッド

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

デフォルトの通話中キーパッド ボタンをユーザ インターフェイスから削除するかどうかを選択します。このボタンをクリックすると、DTMF 入力などに使用できるキーパッドが開きます。

使用方法:

xConfiguration UserInterface Features Call Keypad: [Keypad](#)

値は次のとおりです。

キーパッド:

自動/非表示

自動: ユーザ インターフェイスに既定のボタンを表示します。

非表示: ユーザ インターフェイスから既定のボタンを削除します。

デフォルト値:

自動

xConfiguration UserInterface Features Call JoinWebex

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

デフォルトの [Webex に参加] ボタンをユーザ インターフェイスから削除するかどうかを選択します。このボタンを使用すると、ユーザは Webex ミーティング番号のみを使用して Webex ミーティングにダイヤルインできます。ドメインは必要ありません。ただし、これを機能させるには、インフラストラクチャをセットアップして、通話が *@webex.com にルーティングされるようにする必要があります。

使用方法:

xConfiguration UserInterface Features Call JoinWebex: [JoinWebex](#)

値は次のとおりです。

JoinWebex:

自動/非表示

自動: ユーザ インターフェイスに既定のボタンを表示します。

非表示: ユーザ インターフェイスから既定のボタンを削除します。

デフォルト値:

自動

xConfiguration UserInterface Features Call MidCallControls

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

デフォルトの [保留]、[転送]、[再開] 通話ボタンをユーザ インターフェイスから削除するかどうかを選択します。この設定はボタンのみを非表示にし、機能自体は削除しません。

使用方法:

xConfiguration UserInterface Features Call MidCallControls: [MidCallControls](#)

値は次のとおりです。

通話コントロール:

自動/非表示

自動: ユーザ インターフェイスに既定のボタンを表示します。

Hidden: ユーザーインターフェイスからデフォルトボタンを削除します。

デフォルト値:

自動

xConfiguration UserInterface Features Call MusicMode

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

ユーザ インターフェイスにミュージック モードのトグル ボタンを表示するかどうかを選択します。

使用方法:

xConfiguration UserInterface Features Call MusicMode: [MusicMode](#)

値は次のとおりです。

MusicMode:

自動/非表示

自動: 進行中の通話でこの機能がサポートされている場合、ユーザ インターフェイスに音楽モードのトグル ボタンが表示されます。

非表示: ミュージック モードのトグル ボタンはユーザ インターフェイスに表示されません。

デフォルト値:

非表示



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration UserInterface Features Call Start

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

デフォルトの [発信(Call)] ボタン(ディレクトリ、お気に入り、最近の通話リストを含む)およびデフォルトの [通話中の参加者の追加(in-call Add participant)] ボタンを削除するかどうかを選択します。この設定はボタンのみを非表示にし、機能自体は削除しません。

使用方法:

xConfiguration UserInterface Features Call Start: Start

値は次のとおりです。

Start:

自動/非表示

自動: ユーザ インターフェイスに既定のボタンを表示します。

Hidden: ユーザーインターフェイスからデフォルトボタンを削除します。

デフォルト値:

自動

xConfiguration UserInterface Features Call VideoMute

適用対象: RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Boards

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

ユーザーインターフェイスのデフォルトの [ビデオを Off (Turn video off)] ボタンを表示するかどうかを選択します。

使用方法:

xConfiguration UserInterface Features Call VideoMute: VideoMute

値は次のとおりです。

VideoMute:

自動/非表示

自動: 進行中の通話でこの機能がサポートされている場合、ユーザ インターフェイスに [ビデオを Off にする] ボタンが表示されます。

Hidden: ユーザ インターフェイスに [ビデオを Off にする] ボタンが表示されません。

デフォルト値:

自動

xConfiguration UserInterface Features HideAll

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

ユーザ インターフェイスからすべての既定のボタンを削除するかどうかを選択します。この設定はボタンのみを非表示にし、機能自体は削除しません。

使用方法:

xConfiguration UserInterface Features HideAll: HideAll

値は次のとおりです。

すべて非表示:

False/True

False: ユーザ インターフェイスのすべての既定のボタンを表示します。

True: ユーザーインターフェイスからすべての既定のボタンを削除します。

デフォルト値:

False

xConfiguration UserInterface Features Share Start

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

通話中と通話外の両方で、コンテンツを共有およびプレビューするための既定のボタンやその他の UI 要素をユーザ インターフェイスから削除するかどうかを選択します。この設定はボタンと UI 要素のみを削除し、機能自体は削除しません。Cisco Proximity または Cisco Webex アプリを使用してコンテンツを共有することは可能です。

使用方法:

xConfiguration UserInterface Features Share Start: Start

値は次のとおりです。

Start:

自動/非表示

自動: ユーザ インターフェイスに既定のボタンと UI 要素を表示します。

非表示: デフォルトのボタンと UI 要素をユーザ インターフェイスから削除します。

デフォルト値:

自動



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration UserInterface Features Whiteboard Start

適用対象: *DeskPro/DeskLE Boards*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

デフォルトのホワイトボード ボタンをユーザ インターフェイスから削除するかどうかを選択します。この設定はボタンのみを削除し、機能自体はそのまま削除しません。この設定は Cisco Webex 登録済みデバイスにのみ適用されます。

使用方法:

xConfiguration UserInterface Features Whiteboard Start: Start

値は次のとおりです。

Start:

自動/非表示

自動: ユーザ インターフェイスに既定のボタンを表示します。

非表示: ユーザ インターフェイスから既定のボタンを削除します。

デフォルト値:

自動

xConfiguration UserInterface Language

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ユーザインターフェイスで使用する言語を選択します。言語がサポートされていない場合、既定の言語 (英語) が使用されます。

使用方法:

xConfiguration ユーザインタフェース言語: 言語

値は次のとおりです。

言語:

Arabic/Catalan/ChineseSimplified/ChineseTraditional/Czech/Danish/Dutch/English/EnglishUK/Finnish/French/FrenchCanadian/German/Hebrew/Hungarian/Italian/Japanese/Korean/Norwegian/Polish/Portuguese/PortugueseBrazilian/Russian/Spanish/SpanishLatin/Swedish/Turkish

リストから言語を選択します。

デフォルト値:

英語

xConfiguration UserInterface OSD EncryptionIndicator

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者

暗号化インジケータが画面に表示される時間を定義します。暗号化された通話のアイコンはロックされた南京錠です。

使用方法:

xConfiguration ユーザインターフェース OSD EncryptionIndicator: EncryptionIndicator

値は次のとおりです。

暗号化インジケータ:

Auto/AlwaysOn/AlwaysOff

自動: 通話が暗号化されている場合、「通話は暗号化されています」という通知が 5 秒間表示されます。その後、[暗号化インジケータ(encryption indicator)] アイコンが残りの通話に表示されます。通話が暗号化されていない場合、「通話は暗号化されていません」という通知が 5 秒間表示されます。暗号化インジケータアイコンは表示されません。

AlwaysOn: 「通話は暗号化されています」という通知が 5 秒間表示されます。その後、暗号化インジケータ アイコンが残りの通話に対して表示されます。

AlwaysOff: 暗号化インジケータは画面に表示されません。

デフォルト値:

自動



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration UserInterface OSD HalfwakeMessage

適用対象: *RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

デバイスがハーフ ウェイク状態の場合、カスタム メッセージをメイン画面の中央に表示できます。カスタムメッセージにより、デバイスの使用を開始するための手順が記載されている既定のメッセージが置き換えられます。カスタムメッセージを追加せずに、既定のメッセージを削除することもできます。

使用方法:

xConfiguration UserInterface OSD HalfwakeMessage: "HalfwakeMessage"

値は次のとおりです。

ハーフウェイクメッセージ:

文字列 (0, 128)

カスタムメッセージです。空の文字列: 既定のメッセージを復元します。スペースのみ: メッセージは一切表示されません。

デフォルト値:

" "

xConfiguration UserInterface OSD Mode

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者

クリーンなビデオ ストリームを出力するデバイスを設定できます。これはブロードキャストモードと呼ばれます。このモードでは、インジケータ、通知、および制御が削除されます。このモードは主に、視聴者にビデオを渡すだけのブロードキャストおよび録画サービスに適しています。

使用方法:

xConfiguration ユーザインタフェース OSD モード: モード

値は次のとおりです。

Mode:

自動/障害物なし

Auto: インジケータ、通知、コントロールがビデオ ストリームに含まれます (通常モード)。

表示物なし: インジケータ、通知、コントロールは、ビデオストリームから削除されます (ブロードキャスト モード)。名前ラベルは削除されません。

デフォルト値:

自動



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration UserInterface OSD Output

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

画面上の情報とインジケータ (OSD) をどのモニターに表示するかを定義します。

使用方法:

xConfiguration UserInterface OSD Output: Output

値は次のとおりです。

出力:

1 [Room55 DeskPro/DeskLE Boards]

Auto/1/2 [RoomKit CodecPlus Room70/Room55D]

Auto/1/2/3 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

自動 [RoomKitMini]

Auto: 内蔵画面を備えたデバイスの場合、画面上の情報とインジケータが内蔵画面に送信されます。デバイスに 2 つの統合画面がある場合、左側のモニターが使用されます。

統合型スクリーンなしのデバイスでは、モニターがビデオ出力に接続されると、デバイスがそれを検出し、最初に接続されたモニターに画面上の情報とインジケータを送信します。マルチモニター設定があり、デバイスの電源を入れる前にすべてのモニターが接続されている場合、画面上の情報とインジケータは、出力コネクタ 1 (HDMI 1) から始まる最も小さい番号のビデオ出力に送信されます。

1..n: デバイスは画面上の情報とインジケータを指定された出力先に送信します。N を選択して、画面上の情報とインジケータをデバイスの出力コネクタ n に送信します。

統合型スクリーンを持つデバイスでは、最も小さい番号が統合型スクリーンを示します。

デフォルト値:

1 [CodecPro Room55 Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/ DeskLE Boards]

Auto [RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room70/Room55D]

xConfiguration UserInterface Phonebook Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

この設定では、ユーザーがデバイスのユーザ インターフェイスからディレクトリおよびお気に入りリスト中の連絡先を追加または変更できるかどうかを決定します。

使用方法:

xConfiguration UserInterface Phonebook Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

ReadOnly/ReadWrite

読み取り専用: 発信する前に、[お気に入り] リストに連絡先を追加したり、[お気に入り] リストにある連絡先を編集したり、ディレクトリまたは [お気に入り] リストから連絡先を編集することはできません。

読み書き: 発信前に、連絡先を [お気に入り] リストに追加したり、[お気に入り] リストの連絡先を編集したり、ディレクトリまたはお気に入りリストの連絡先を編集したりすることができます。

デフォルト値:

ReadWrite

xConfiguration UserInterface Proximity Notifications

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

ユーザ インターフェイス上の近接通信通知の表示を構成します。

使用方法:

xConfiguration UserInterface Proximity Notifications: Notifications

値は次のとおりです。

通知:

Auto/Off/On

Auto: 近接通信通知をいつ表示するかをシステムに自動的に決定させます。

Off: 近接性の通知はユーザーインターフェースに表示されません。

On: プロキシミティ通知はユーザーインターフェースに表示されません。

デフォルト値:

自動



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration ユーザーインターフェイスセキュリティモード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

この設定により、重要なデバイス情報がユーザー インターフェイス (ドロップダウン メニューおよび [設定] パネル) に露出されることを防ぐことができます。たとえば、ビデオ会議デバイス、タッチ コントローラー、UCM/VCS レジストラの連絡先情報や IP アドレスなどです。[設定(Settings)] パネルに移動しても、このような情報は非表示にはなりません。

管理者権限がないユーザーが、連絡先情報、IP アドレス、MAC アドレス、シリアル番号、ソフトウェアのバージョンを完全に見られないようにするには、UserInterface SettingsMenu Mode を Locked に設定し、管理者権限が付与されているすべてのユーザーアカウントに対してパスフレーズを設定する必要があります。

使用方法:

xConfiguration UserInterface Security Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

ふつう/強い

Normal: IP アドレスおよびその他のデバイス情報がユーザーインターフェイスに表示されます。

Strong: 連絡先情報と IP アドレスはユーザーインターフェイス (ドロップダウンメニューおよび [設定(Settings)] パネル) には表示されません。

デフォルト値:

標準

xConfiguration ユーザーインターフェイス設定メニューモード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ユーザーインターフェイスの [設定(Settings)] パネル (画面上のタッチコントローラ) は、デバイスの管理者パスワードで保護できます。このパスワードが空欄の場合、誰でも [設定(Settings)] パネルの設定にアクセスできます。つまり、デバイスを工場出荷時の状態へのリセットできます。認証が有効な場合、認証が必要なすべての設定に南京錠のアイコンが表示されます。設定を選択すると、管理者のユーザー名とパスフレーズの入力が必要です。認証を必要としない設定には、南京錠のアイコンは表示されません。

使用方法:

xConfiguration UserInterface SettingsMenu Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

ロック/ロック解除

Locked: 管理者のユーザー名とパスフレーズによる認証が必要です。

ロック解除済み: 認証は必要ありません。

デフォルト値:

ロック解除済み



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration UserInterface SettingsMenu Visibility

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

デバイス名(または連絡先情報)および関連するドロップダウンメニューと [設定(Settings)] パネルをユーザーインターフェイスに表示するかどうかを選択します。

使用方法:

xConfiguration UserInterface SettingsMenu Visibility: Visibility

値は次のとおりです。

表示設定:

自動/非表示

自動: ユーザー インターフェイスのドロップダウン メニューと [設定] パネルにデバイス名を表示します。

非表示: ユーザー インターフェイスのドロップダウン メニューと [設定] パネルにデバイス名を表示しません。

デフォルト値:

自動

xConfiguration UserInterface SoundEffects Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー役割: ADMIN, USER

例えば、Proximity 経由でラップトップやモバイルが接続されたときに、効果音が鳴るようにデバイスを設定できます。

テキスト入力時のキーボードクリック音は、この設定の影響を受けません (ユーザーインターフェイスのキートンモードの設定を参照してください)。

使用方法:

xConfiguration UserInterface SoundEffects Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: 効果音がありません。

On: 効果音がOnになっています。

デフォルト値:

On

xConfiguration UserInterface UsbPromotion

適用対象: RoomKitMini

必要なユーザーロール: 管理者

ハーフウェイク画面に、デバイスを USB カメラとして使用できることを通知するテキストを表示するかどうかを選択します。

使用方法:

xConfiguration UserInterface UsbPromotion: UsbPromotion

値は次のとおりです。

USB プロモーション:

Off/On

Off: USB カメラ情報テキストは表示されません。

On: USB カメラ情報のテキストが表示されます。

デフォルト値:

Off



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration UserInterface WebcamOnlyMode

適用対象: *RoomKitMini*

必要なユーザーロール: 管理者

このデバイスはウェブカメラおよび通常のビデオ会議デバイスとして使用できます。オンプレミスまたはクラウド通話サービス (CUCM、VCS、Webex など) に登録されていない場合でも、ウェブカメラとして使用できます。

この設定では、ビデオ会議デバイスが登録されていない場合に、ユーザ インターフェイスをウェブカメラのみのシナリオに適合させるかどうかを決定します。

使用方法:

xConfiguration UserInterface WebcamOnlyMode: [WebcamOnlyMode](#)

値は次のとおりです。

[WebcamOnlyMode](#):

Auto/Off

自動: デバイスがコール サービスに登録されている場合、完全なユーザ インターフェイスが表示されます。デバイスが登録されていないため、発信に使用できない場合、無関係なユーザ インターフェイス要素は削除されます。

Off: デバイスは常にフル機能のユーザ インターフェイスを表示します。

デフォルト値:

自動

xConfiguration UserInterface Whiteboard ActivityIndicators

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者

アクティビティインジケータを使用すると、コール中にだれが描画し、注釈を付けているかを確認できます。

参加者のアバターまたはデバイスのイニシャルがホワイトボードを操作しているときに表示されるため、描画や注釈をしている人を追跡することができます。

クラウド登録済みデバイスにのみ適用されます。

使用方法:

xConfiguration UserInterface Whiteboard ActivityIndicators: [ActivityIndicators](#)

値は次のとおりです。

[アクティビティ インジケータ](#):

Off/On

On: アクティビティインジケータを有効にします。

Off: アクティビティインジケータを無効にします。

デフォルト値:

On



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

UserManagement 設定

xConfiguration UserManagement LDAP Admin Filter

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

LDAP フィルターは、どのユーザーに管理者権限を与えるかを決定するために使用されます。LDAP 管理者グループまたは LDAP 管理者フィルターのいずれかを常に設定する必要があります。LDAP 管理フィルターが優先されるため、ユーザ管理 LDAP 管理フィルターが設定されている場合、ユーザ管理 LDAP 管理グループ設定は無視されます。

使用方法:

xConfiguration UserManagement LDAP Admin フィルタ: 「フィルタ」

値は次のとおりです。

フィルタ:

文字列 (0, 1024)

この文字列の構文については LDAP 仕様を参照してください。例:

"(|(memberof=CN=admin group, OU=company groups, DC=company, DC=com)(sAMAccountName=username))"

デフォルト値:

""

xConfiguration UserManagement LDAP Admin Group

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

この AD (Active Directory) グループのメンバーには管理者アクセスが与えられます。この設定は、(メンバー:1.2.840.113556.1.4.1941:=<グループ名>) の短縮形です。

LDAP 管理者グループまたは LDAP 管理者フィルターのいずれかを常に設定する必要があります。LDAP 管理フィルターが優先されるため、ユーザ管理 LDAP 管理フィルターが設定されている場合、ユーザ管理 LDAP 管理グループ設定は無視されます。

使用方法:

xConfiguration UserManagement LDAP Admin Group: "Group"

値は次のとおりです。

グループ:

文字列 (0..255)

AD グループの識別名。例: "CN=管理者グループ,OU=会社グループ,DC=会社,DC=com"

デフォルト値:

""

xConfiguration ユーザ管理 LDAP 属性

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

指定されたユーザ名にマッピングするために使用される属性。設定されていない場合、sAMAccountName が使用されます。

使用方法:

xConfiguration UserManagement LDAP Attribute: "Attribute"

値は次のとおりです。

属性:

文字列 (0..255)

属性名です。

デフォルト値:

""



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration UserManagement LDAP BaseDN

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

検索を開始するエントリーの識別名 (ベース) です。

使用方法:

xConfiguration UserManagement LDAP BaseDN: "BaseDN"

値は次のとおりです。

ベース DN:

文字列 (0..255)

ベースを区別する名前です。例: "DC=company, DC=com"

デフォルト値:

" "

xConfiguration UserManagement LDAP Encryption

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

デバイスと LDAP サーバ間の通信をセキュリティ保護する方法を定義します。UserManagement LDAP Server Port 設定を使用してポート番号を上書きすることができます。

使用方法:

xConfiguration UserManagement LDAP Encryption: Encryption

値は次のとおりです。

暗号化:

LDAPS/なし/STARTTLS

LDAPS: TLS (トランスポートレイヤーセキュリティ) 上のポート 636 で LDAP サーバーに接続します。

なし: LDAP サーバーに暗号化なしでポート 389 に接続します。

STARTTLS: LDAP サーバーにポート 389 で接続し、STARTTLS コマンドを送信して暗号化接続 (TLS) にアップグレードします。

デフォルト値:

LDAPS

xConfiguration UserManagement LDAP MinimumTLSVersion

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

LDAP で許可される最も低いバージョンの TLS (Transport Layer Security) プロトコルを設定します。

使用方法:

xConfiguration UserManagement LDAP MinimumTLSVersion: MinimumTLSVersion

値は次のとおりです。

MinimumTLSVersion:

TLSv1.0/TLSv1.1/TLSv1.2

TLSv1.0: TLS バージョン 1.0 以降に対応します。

TLSv1.1: TLS バージョン 1.1 以降に対応します。

TLSv1.2: TLS バージョン 1.2 以降に対応します。

デフォルト値:

TLSv1.2



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration UserManagement LDAP Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

デバイスは、ユーザ名とパスワードを保存および検証するための中央の場所として LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) サーバーの使用をサポートしています。この設定を使用して、LDAP 認証を使用するかどうかを構成します。当社の実装は、Microsoft Active Directory (AD) サービスに対してテストされています。

LDAP モードをOnに切り替える場合、他の UserManagement LDAP 設定がセットアップに合うように構成されていることを確認してください。以下に例を示します。

例 1:

- ユーザ管理 LDAP モード: On
- ユーザ管理 LDAP アドレス: "192.0.2.20"
- UserManagement LDAP BaseDN: "DC=company, DC=com"
- UserManagement LDAP Admin Group: "CN=admin group, OU=company groups, DC=company, DC=com"

例 2:

- ユーザ管理 LDAP モード: On
- ユーザ管理 LDAP アドレス: "192.0.2.20"
- UserManagement LDAP BaseDN: "DC=company, DC=com"
- UserManagement LDAP Admin Filter: "(&(|(memberof=CN=admin group, OU=company groups, DC=company, DC=com)(sAMAccountName=username))"

使用方法:

xConfiguration UserManagement LDAP Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: LDAP 認証は許可されません。

On: LDAP 認証が許可されます。

デフォルト値:

Off

xConfiguration UserManagement LDAP Server Address

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

LDAP サーバーの IP アドレスまたはホスト名を設定します。

使用方法:

xConfiguration UserManagement LDAP Server Address: "Address"

値は次のとおりです。

Address:

文字列 (0..255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、またはホスト名。

デフォルト値:

""

xConfiguration UserManagement LDAP Server Port

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

LDAP サーバーに接続するポートを設定します。0 に設定すると、選択したプロトコルのデフォルトが使用されます (ユーザ管理 LDAP 暗号化設定を参照してください)。

使用方法:

xConfiguration UserManagement LDAP Server Port: Port

値は次のとおりです。

ポート:

整数 (0..65535)

LDAP サーバーのポート番号です。

デフォルト値:

0



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration UserManagement LDAP VerifyServerCertificate

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

デバイスが LDAP サーバーに接続するとき、サーバーは証明書を提示することによってデバイスに自身を識別します。この設定を使用して、デバイスがサーバ証明書を確認するかどうかを決定します。

使用方法:

xConfiguration UserManagement LDAP VerifyServerCertificate:
VerifyServerCertificate

値は次のとおりです。

VerifyServerCertificate:

Off/On

Off: デバイスは LDAP サーバーの証明書を確認しません。

On: デバイスは、LDAP サーバーの証明書が信頼できる認証局 (CA) によって署名されていることを確認する必要があります。CA は、事前にデバイスにアップロードされている信頼できる CA のリストにある必要があります。デバイスのウェブ インターフェイスを使用して、信頼できる CA のリストを管理します (詳細については、管理者ガイドを参照してください)。

デフォルト値:

On

xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumDigits

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ローカル ユーザーとしてデバイスにログインするとき、パスワードは UserManagement PasswordPolicy 設定によって設定されたルールに従う必要があります。これらの設定は、CE9.10 以前のソフトウェア パーティションで使用可能であった「systemtools securitysetting」コマンドに代わるものです。

新しいパスワードのルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワード変更から有効になります。

この設定では、パスワードに必要な数字の最小文字数 (0..9) を指定します。

使用方法:

xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumDigits:
MinimumDigits

値は次のとおりです。

最小桁数:

整数 (0..4)

数字の最小文字数。0 は制限なしを意味します。

デフォルト値:

0



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumLength

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ローカル ユーザーとしてデバイスにログインするとき、パスワードは UserManagement PasswordPolicy 設定によって設定されたルールに従う必要があります。これらの設定は、CE9.10 以前のソフトウェア パーティションで使用可能であった「systemtools securitysetting」コマンドに代わるものです。

新しいパスワードのルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワード変更から有効になります。

この設定では、パスワードの最小文字数を指定します。

使用方法:

xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumLength:
MinimumLength

値は次のとおりです。

最小の長さ:

整数 (0..256)

最小文字数です。0 は制限なしを意味します。

デフォルト値:

8

xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumLowercase

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ローカル ユーザーとしてデバイスにログインするとき、パスワードは UserManagement PasswordPolicy 設定によって設定されたルールに従う必要があります。これらの設定は、CE9.10 以前のソフトウェア パーティションで使用可能であった「systemtools securitysetting」コマンドに代わるものです。

新しいパスワードのルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワード変更から有効になります。

この設定では、パスワードに含まれる小文字の最小数を指定します。

使用方法:

xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumLowercase:
MinimumLowercase

値は次のとおりです。

最小小文字:

整数 (0..4)

最小限の小文字の数。0 は制限なしを意味します。

デフォルト値:

0



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumSpecial

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ローカル ユーザーとしてデバイスにログインするとき、パスワードは UserManagement PasswordPolicy 設定によって設定されたルールに従う必要があります。これらの設定は、CE9.10 以前のソフトウェア パーティションで使用可能であった「systemtools securitysetting」コマンドに代わるものです。

新しいパスワードのルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワード変更から有効になります。

この設定では、パスワードに使用する最小特殊文字数を指定します。

使用方法:

xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumSpecial:
MinimumSpecial

値は次のとおりです。

最小特殊

整数 (0..4)

最小特殊文字数。0 は制限なしを意味します。

デフォルト値:

0

xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumUppercase

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ローカル ユーザーとしてデバイスにログインするとき、パスワードは UserManagement PasswordPolicy 設定によって設定されたルールに従う必要があります。これらの設定は、CE9.10 以前のソフトウェア パーティションで使用可能であった「systemtools securitysetting」コマンドに代わるものです。

新しいパスワードのルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワード変更から有効になります。

この設定では、パスワードに含まれる大文字の最小数を指定します。

使用方法:

xConfiguration UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumUppercase:
MinimumUppercase

値は次のとおりです。

最小大文字

整数 (0..4)

最小限の大文字の数。0 は制限なしを意味します。

デフォルト値:

0



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration UserManagement PasswordPolicy MaxLifetime

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ローカル ユーザーとしてデバイスにログインするとき、パスワードは UserManagement PasswordPolicy 設定によって設定されたルールに従う必要があります。これらの設定は、CE9.10 以前のソフトウェア パーティションで使用可能であった「systemtools securitysetting」コマンドに代わるものです。

新しいパスワードのルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワード変更から有効になります。

この設定では、パスワードが無効になるまでの最大日数を指定します。

使用方法:

xConfiguration UserManagement PasswordPolicy MaxLifetime: MaxLifetime

値は次のとおりです。

MaxLifetime:

整数 (0..7300)

日数の最小値です。0 は制限なしを意味します。

デフォルト値:

0

xConfiguration UserManagement PasswordPolicy ReuseLimit

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ローカル ユーザーとしてデバイスにログインするとき、パスワードは UserManagement PasswordPolicy 設定によって設定されたルールに従う必要があります。これらの設定は、CE9.10 以前のソフトウェア パーティションで使用可能であった「systemtools securitysetting」コマンドに代わるものです。

新しいパスワードのルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワード変更から有効になります。

この設定では再使用の制限 (n) を指定します。これはユーザーが過去 n 回まで使用したパスワードに変更することができないことを意味します。

使用方法:

xConfiguration UserManagement PasswordPolicy ReuseLimit: ReuseLimit

値は次のとおりです。

ReuseLimit:

整数 (0..24)

パスワードに必要な最小数。0 は制限なしを意味します。

デフォルト値:

12



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ビデオの設定

xConfiguration ビデオ DefaultMainSource

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

通話のメイン ビデオのデフォルトの入力ソースを定義します。ビデオ会議端末の電源を入れるか再起動すると、このソースでメインのビデオが再生されます。ビデオ入力 SetMainVideoSource コマンドを使用して、デバイスの実行中に別のソースに変更します。

使用方法:

xConfiguration Video DefaultMainSource: DefaultMainSource

値は次のとおりです。

DefaultMainSource:

1/2/3/4/5/6 [CodecPro]

1/2/3/4 [Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

1 [RoomKitMini Boards]

1/2/3 [RoomKit CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro/DeskLE]

メインビデオの既定の入力です。

デフォルト値:

1

xConfiguration Video Input Connector [n] CameraControl CameraId

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

カメラ ID は、このビデオ入力に接続されているカメラの一意の識別子です。

複数のカメラを備えたデバイスの場合、xStatus Camera API コマンドを使用して、異なるカメラの ID を確認できます。

使用方法:

xConfiguration Video Input Connector [n] CameraControl CameraId: CameraId

値は次のとおりです。

n: ビデオ入力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲: 1..6 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 1..3 [CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro/DeskLE]

範囲: 1..2 [RoomKit RoomKitMini Boards]

カメラ ID:

1/2/3/4/5/6/7 [CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

1 [RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE Boards]

複数のカメラを持つデバイスでは、カメラの ID を選択します。1 台のカメラを装備するデバイスの場合、値は固定され、変更することはできません。

デフォルト値:

コネクタ n: n [CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

1 [RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE Boards]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Video Input Connector [n] CameraControl Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

このビデオ入力コネクタのカメラを制御可能にするかどうかを定義します。一部のコネクタは制御できません(利用できる値はOffだけです)。

使用方法:

xConfiguration Video Input Connector [n] CameraControl Mode: Mode

値は次のとおりです。

n: ビデオ入力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲: 1..6 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 1..3 [CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro/DeskLE]

範囲: 1..2 [RoomKit RoomKitMini Boards]

Mode:

Off/On [CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

コネクタ 1: Off/On コネクタ 2,3: Off [Room55 DeskPro/DeskLE]

コネクタ 1: Off/On コネクタ 2: Off [RoomKit RoomKitMini Boards]

Off: カメラコントロールを無効にします。

On: カメラコントロールを有効にします。

デフォルト値:

On [CodecPlus Room70/Room55D]

コネクタ 1,2,3,4,5: On コネクタ 6: Off [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

Connector 1: On Connector 2,3: Off [Room55 DeskPro/DeskLE]

Connector 1: On Connector 2: Off [RoomKit RoomKitMini Boards]

xConfiguration ビデオ入力コネクタ [n] CEC モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

ビデオ入力 (HDMI) がConsumer Electronics Control (CEC)に対応していること。この設定が有効な場合、接続されたデバイスに関する情報(例えば、デバイスタイプやデバイス名)は、接続されたデバイスも CEC をサポートしている場合に限り、ビデオ会議バースのステータス(Video Input Connector[n] ConnectedDevice CEC [n])で利用できます。

Cisco Quad Camera がある場合、そのコネクタの CEC を Off にしないでください。カメラのスピーカーから音声が聞こえなくなります。CEC は HDMI ARC (音声リターンチャンネル) に必要です。これはビデオ会議デバイスからカメラに音声を送信するために使用されるチャンネルです。

使用方法:

xConfiguration ビデオ入力コネクタ [n] CEC モード: モード

値は次のとおりです。

n: ビデオ入力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲: 1..5 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 1..3 [CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 2..3 [Room55 DeskPro/DeskLE]

範囲: 2..2 [RoomKit RoomKitMini Boards]

Mode:

Off/On [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE Boards]

コネクタ 1: On その他のコネクタ: Off/On [Room70/Room55D]

Off: CEC は無効になっています。

On: CEC が有効になっています。

デフォルト値:

On



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration ビデオ入力コネクタ [n] HDCP モード

適用先: *CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

ビデオ会議デバイスの HDMI 入力の 1 つは、HDCP で保護されたコンテンツ (高帯域幅デジタルコンテンツ保護、バージョン 1.4) をサポートするように構成できます。これにより、顧客は Google ChromeCast、AppleTV、HDTV デコーダーなどのデバイスを接続することで、ビデオ会議デバイスの画面を再利用できます。通話中は、このタイプのコンテンツを共有できません。

入力コネクタが HDCP をサポートするように構成されている場合、このタイプのコンテンツ用に予約されます。つまり、何が接続されているかに関係なく、通話中はこの特定のコネクタからコンテンツを共有することはできません。また、このソースのウェブ スナップショットを撮ることもできません。

保護されたコンテンツが表示される画面は HDCP をサポートしている必要があります。Codec Plus、Room 70 (Single および Dual)、Room 55 Dual の場合、保護されたコンテンツは常に出力コネクタ 1 に接続されている画面に表示されます。Codec Pro、Room 70 G2 (Single および Dual)、Room Panorama、Room 70 Panorama の場合、保護されたコンテンツは出力コネクタ 1 および 2 に接続されたスクリーンに表示されます。Room 55 の保護されたコンテンツは統合画面に表示されます。Room シリーズの端末の統合型スクリーンは HDCP に対応しています。

使用方法:

xConfiguration ビデオ入力コネクタ [n] HDCP モード: モード

値は次のとおりです。

n: ビデオ入力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲: 1..3 [*CodecPlus Room70/Room55D*]

範囲: 1..5 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

範囲: 2..3 [*Room55*]

Mode:

コネクタ 1,3: Off、コネクタ 2: Off/On [*CodecPlus Room70/Room55D*]

コネクタ 1,2,3,4: Off、コネクタ 5: Off/On [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

Connector 2: Off、Connector 3: Off/On [*Room55*]

Off: このビデオ入力コネクタでの HDCP 保護コンテンツのサポートを無効にします。

On: このビデオ入力コネクタ上で HDCP 保護コンテンツのサポートを有効にします。

デフォルト値:

Off

xConfiguration Video Input Connector [n] InputSourceType

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

どのタイプの入力ソースをビデオ入力に接続するかを選択します。

デバイスに統合型カメラがある場合、コネクタ 1 は統合型カメラを指します。

使用方法:

xConfiguration Video Input Connector [n] InputSourceType: InputSourceType

値は次のとおりです。

n: ビデオ入力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲: 1..6 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

範囲: 1..3 [*CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro/DeskLE*]

範囲: 1..2 [*RoomKit RoomKitMini Boards*]

InputSourceType:

PC/camera/document_camera/mediaplayer/whiteboard/other [*CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

コネクタ 1: camera コネクタ 2: PC/camera/document_camera/mediaplayer/whiteboard/other [*RoomKit RoomKitMini Boards*]

コネクタ 1: camera その他コネクタ: PC/camera/document_camera/mediaplayer/whiteboard/other [*Room55 DeskPro/DeskLE*]

PC: コンピュータがビデオ入力に接続されている場合にこれを使用します。

カメラ: カメラがビデオ入力に接続されている場合にこれを使用します。

document_camera: ドキュメントカメラがビデオ入力に接続されている場合にこれを使用します。

mediaplayer: メディアプレーヤーがビデオ入力に接続されている場合にこれを使用します。

whiteboard: ホワイトボードカメラがビデオ入力に接続されている場合にこれを使用します。

その他: その他のオプションが一致しない場合にこれを使用します。

デフォルト値:

コネクタ 1,2,6: カメラ コネクタ 3,4,5: PC [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

コネクタ 1: カメラ その他のコネクタ: PC [*CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro/DeskLE*]

コネクタ 1: カメラ コネクタ 2: PC [*RoomKit RoomKitMini Boards*]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Video Input Connector [n] Name

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

ビデオ入力コネクタの名前を定義します。

使用方法:

xConfiguration ビデオ入力コネクタ [n] 名前:「名前」

値は次のとおりです。

n: ビデオ入力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲: 1..6 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 1..3 [CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro/DeskLE]

範囲: 1..2 [RoomKit RoomKitMini Boards]

名前:

文字列 (0, 50)

ビデオ入力コネクタの名前です。

デフォルト値:

コネクタ 1: "Camera 1" コネクタ 2: "Camera 2" コネクタ 3: "PC 1 (HDMI)" コネクタ 4: "PC 2 (HDMI)" コネクタ 5: "PC 3 (HDMI)" コネクタ 6: "Camera 3 (SDI)" [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

コネクタ 1: "カメラ" コネクタ 2: "PC 1 (HDMI)" コネクタ 3: "PC 2 (HDMI)" [CodecPlus Room70/Room55D]

コネクタ 1: "Camera" コネクタ 2, 3: "" [Room55]

コネクタ 1: "Camera" コネクタ 2: "PC" [RoomKit RoomKitMini Boards]

コネクタ 1: "Camera" コネクタ 2: "PC (USB-C)" コネクタ 3: "PC (HDMI)" [DeskPro/DeskLE]

xConfiguration Video Input Connector [n] PreferredResolution

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

HDMI 経由で接続された入力ソースにビデオ会議デバイスがアダプタイズする画面解像度とリフレッシュレートの優先順位を定義します(ラップトップなど)。ソース側の解像度の選択ロジックは、ソースデバイス (例えば、ラップトップのディスプレイ構成ソフトウェア) によって手動で上書きされない限り、この解像度とリフレッシュレートを自動的に選択します。

1920_1080_60 より大きい形式では、より多くのデータを使用するため、少なくとも HDMI 1.4b データレートに認定されたプレゼンテーション ケーブル (またはアダプター) が必要になることに注意してください。

使用方法:

xConfiguration Video Input Connector [n] PreferredResolution: PreferredResolution

値は次のとおりです。

n: ビデオ入力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲: 1..5 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 2..3 [Room55 DeskPro/DeskLE]

範囲: 1..3 [CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 2..2 [RoomKit RoomKitMini Boards]

PreferredResolution:

コネクタ 1, 2: 1920_1080_60 コネクタ 3, 4, 5: 1920_1080_60/2560_1440_60/3840_2160_30 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

コネクタ 1: 1920_1080_60 コネクタ 2, 3: 1920_1080_60/2560_1440_60/3840_2160_30 [CodecPlus Room70/Room55D]

1920_1080_60/2560_1440_60/3840_2160_30 [RoomKit RoomKitMini Room55 Boards]

Desk Pro の場合: 1920_1080_60/2560_1440_60/3840_2160_30/3840_2160_60

For Desk Limited: 1920_1080_60 [DeskPro/DeskLE]

1920_1080_60: 解像度は 1920 x 1080、リフレッシュレートは 60Hz です。

2560_1440_60: 解像度は 2560 x 1440、リフレッシュレートは 60Hz です。

3840_2160_30: 解像度は 3840 x 2160、リフレッシュレートは 30Hz です。

3840_2160_60: 解像度は 3840 x 2160、リフレッシュレートは 60Hz です。

デフォルト値:

1920_1080_60 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

Desk Pro の場合: 3840_2160_60

Desk 限定版: 1920_1080_60 [DeskPro/DeskLE]

1920_1080_60 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D Boards]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Video Input Connector [n] PresentationSelection

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

プレゼンテーション ソースをビデオ入力に接続したときのビデオ会議デバイスの動作を定義します。デバイスがスタンバイモードの場合、プレゼンテーション ソースに接続するとスリープ解除されます。相手とプレゼンテーションを共有するには追加のアクション (ユーザーインターフェイスの [共有] を選択) が必要です。ただし、この設定が [自動共有] に設定されている場合を除きます。

複数のカメラを備えたデバイスの場合: 任意の入力ソースをプレゼンテーション ソースとして使用できます。通常、メイン カメラをプレゼンテーション ソースとして使用することはありません。

統合型カメラ付きデバイスの場合: 統合型カメラをプレゼンテーション ソースとして使用することはできません。

使用方法:

xConfiguration Video Input Connector [n] PresentationSelection:
PresentationSelection

値は次のとおりです。

n: ビデオ入力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲: 1..6 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 1..3 [CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 2..2 [RoomKit RoomKitMini Boards]

範囲: 2..3 [Room55 DeskPro/DeskLE]

PresentationSelection:

AutoShare/Desktop/Manual/OnConnect [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55
Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE Boards]

自動共有: 通話中、ケーブルに接続したとき、または他の方法でソースがアクティベートされたときに、ビデオ入力のコンテンツがローカル画面だけでなく自動的に相手側にも表示されます (例えば、接続されたコンピュータが復帰したときスリープモードから)。ユーザ インターフェイスで [共有] を選択する必要はありません。通話の発信または応答時にプレゼンテーションソースがすでに接続されている場合は、ユーザーインターフェイス上で [共有] を手動で選択する必要があります。

デスクトップ: ケーブルに接続されているとき、または別の方法でソースがアクティベートされたとき (接続されたコンピュータがスリープモードから復帰するときなど)、ビデオ入力のコンテンツが画面に表示されます。これはアイドル時と通話中の両方に適用されます。また、ビデオ入力のコンテンツは、通話を終了するときにアクティブな入力であった場合に限り、通話を終了しても画面に残ります。

手動: ビデオ入力のコンテンツは、ユーザー インターフェイスから [共有] を選択するまで、画面に表示されません。

OnConnect: ケーブルを接続したとき、またはソースが他の方法でアクティベートされたとき (接続されたコンピュータがスリープモードから復帰したときなど)、ビデオ入力のコンテンツが画面に

表示されます。それ以外の場合の動作は手動モードと同じです。

デフォルト値:

コネクタ 1, 2, 6: **手動** コネクタ 3, 4, 5: *OnConnect* [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

コネクタ 1: **手動** その他のコネクタ: *OnConnect* [CodecPlus Room70/Room55D]

デスクトップ [DeskPro/DeskLE]

OnConnect [RoomKit RoomKitMini Room55]

自動共有 [Boards]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration ビデオ入力コネクタ [n] 品質

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

ビデオをエンコードして送信する場合、高解像度と高フレームレートの間のトレードOffがあります。ビデオソースによっては、高解像度よりも高フレームレートの伝送の方が重要な場合があります。高フレームレートを優先するか、高解像度を優先するかを指定します。

デバイスで Quad Camera, SpeakerTrack 60 カメラ、または Precision 60 カメラが検出された場合、この設定は自動的に [Motion] に設定されます。ユーザーがこの設定を手動で変更した場合、再起動後またはカメラの再接続後に [モーション] に戻ります。

使用方法:

xConfiguration Video Input Connector [n] 品質: 品質

値は次のとおりです。

n: ビデオ入力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲: 1..6 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 1..3 [CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 2..2 [RoomKit RoomKitMini Boards]

範囲: 2..3 [Room55 DeskPro/DeskLE]

品質:

モーション/シャープネス

モーション: 可能な最高のフレームレートを提供します。より高いフレームレートが必要な場合、一般的には画像に動きがある場合に使用します。

Sharpness: 可能な最高の解像度を提供します。最高品質の詳細な画像やグラフィックスが必要な場合に使用します。

デフォルト値:

コネクタ 1、2、6: モーション コネクタ 3、4、5: 鮮明度 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

コネクタ 1: モーション コネクタ 2、3: 鮮明度 [CodecPlus Room70/Room55D]

鮮明度 [RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE Boards]

xConfiguration Video Input Connector [n] RGBQuantizationRange

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

ビデオ入力に接続されたデバイスは、CTA-861 で定義されている、RGB ビデオ量子化範囲のルールに従う必要があります。残念ながら、一部のデバイスは標準に準拠していないため、この構成を使用して設定を上書きし、任意のソースで完全な画像を取得できます。

使用方法:

xConfiguration Video Input Connector [n] RGBQuantizationRange:
RGBQuantizationRange

値は次のとおりです。

n: ビデオ入力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲: 1..5 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 2..3 [Room55 DeskPro/DeskLE]

範囲: 1..3 [CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 2..2 [RoomKit RoomKitMini Boards]

RGBQuantizationRange:

自動/フル/制限

Auto: CTA-861-F に準拠して、ビデオ形式に基づいて自動的に RGB 量子化範囲が選択されます。CE ビデオ形式は制限された量子化範囲レベルを使用します。IT ビデオ形式は完全な量子化範囲レベルを使用します。

フル: クOnタイズの範囲全体です。R、G、B の量子化範囲には、すべてのコード値 (0 - 255) が含まれます。これは CTA-861-F で定義されています。

制限付き: クOnタイズ範囲です。極端な (16 - 235) の一部のコード値を除外した R、G、B の量子化範囲。これは CTA-861-F で定義されています。

デフォルト値:

自動 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE Boards]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Video Input Connector [n] Visibility

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

ユーザーインターフェイスのメニューにあるビデオ入力コネクタの表示/非表示を定義します。

統合型カメラ付きデバイスの場合: コネクタ 1 はデバイスの統合型カメラであり、プレゼンテーションソースとしては利用できません。

使用方法:

xConfiguration Video Input Connector [n] Visibility: [Visibility](#)

値は次のとおりです。

n: ビデオ入力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲: 1..6 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 1..3 [CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro/DeskLE]

範囲: 1..2 [RoomKit RoomKitMini Boards]

表示設定:

Always/IfSignal/Never [CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

コネクタ 1: *Never* コネクタ 2: *Always/IfSignal/Never* [RoomKit RoomKitMini Boards]

コネクタ 1: *Never* その他コネクタ: *Always/IfSignal/Never* [DeskPro/DeskLE]

常時: ビデオ入力コネクタのメニュー選択は、常にユーザーインターフェイス上に表示されます。

信号がある場合: ビデオ入力コネクタのメニュー選択は、何かがビデオ入力に接続されている場合にのみ表示されます。

なし: 入力ソースはプレゼンテーションソースとして使用されることはなく、ユーザーインターフェイスに表示されません。

デフォルト値:

コネクタ 1: *Never* その他コネクタ: *IfSignal* [CodecPro Room70G2 DeskPro/DeskLE]

コネクタ 1: *Never* コネクタ 2: *Never* その他コネクタ: *IfSignal* [RoomPanorama/Room70Panorama]

コネクタ 1: *Never* その他コネクタ: *Always* [CodecPlus Room55 Room70/Room55D]

コネクタ 1: *Never* コネクタ 2: *Always* [RoomKit RoomKitMini]

コネクタ 1: *Never* コネクタ 2: *IfSignal* [Boards]

xConfiguration Video Monitors

適用対象: *RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

モニタの役割は、ビデオ出力コネクタ [n] MonitorRole 設定を使用して各画面に割り当てられます。モニタの役割は、この出力に接続されている画面に表示されるレイアウト (通話参加者とプレゼンテーション) を決定します。同じモニタの役割を持つ画面は、同じレイアウトになります。モニタの役割が異なる画面のレイアウトは異なります。

ビデオモニタ設定で設定されているモニタレイアウトモードは、あなたの会議室のセットアップで必要異なるレイアウトの数を反映するべきです。一部の画面はプレゼンテーション用に予約できます。

使用方法:

xConfiguration Video Monitors: [Monitors](#)

値は次のとおりです。

[Monitors](#):

Auto/Single/Dual/DualPresentationOnly [RoomKit CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro/DeskLE]

Auto/Single/Dual/DualPresentationOnly/TriplePresentationOnly/Triple [CodecPro Room70G2]

Auto/TriplePresentationOnly [RoomPanorama/Room70Panorama]

Auto: デバイスに接続されている画面の数が自動的に検出され、モニタの役割に応じて画面上のレイアウトが配信されます。

シングル: レイアウトはデバイスの画面に表示されます。デバイスに複数の画面がある場合、すべての画面で同じレイアウトが表示されます。

ダブル: レイアウトは、1 番目と 2 番目のモニタの役割の画面に分配されます。レイアウトにプレゼンテーションが含まれる場合、通話のすべての参加者は 1 番目のモニタの役割の画面に表示されます、プレゼンテーションは 2 番目の役割の画面に表示されます。

ダブルプレゼンテーションのみ: 通話のすべての参加者が、まずモニタの役割の画面に表示されます。プレゼンテーションがレイアウトの一部である場合、プレゼンテーションは 2 番目のモニタの役割で画面に表示されます。

Triple: レイアウトは、1 番目、2 番目、3 番目のモニタの役割の画面に分配されます。モニタの役割が 2 番目の画面が最初に使用され、次に 1 番目、最後に 3 番目が使用されます。レイアウトにプレゼンテーションが含まれる場合、通話のすべての参加者は 1 番目と 2 番目のモニタの役割の画面に表示されます、プレゼンテーションは 3 番目の役割の画面に表示されます。

TriplePresentationOnly: 通話のすべての参加者に、モニタの役割が First と Second の画面が分配されます。モニタの役割が Second の画面が最初に使用され、次に First が使用されます。レイアウトにプレゼンテーションが含まれる場合、プレゼンテーションはモニタの役割が Third の画面に表示されます。

デフォルト値:

Auto [RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration ビデオ出力コネクタ [n] CEC モード

適用対象: *RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

このビデオ出力 (HDMI) はコンシューマー向け電子機器操作コントロール (CEC) に対応しています。この設定が [On] の場合、ビデオ会議デバイスは CEC を使用して、デバイス自体がスタンバイ状態になったときに画面をスタンバイ状態にします。同様に、デバイス自体がスタンバイから復帰すると、デバイスは画面を起動します。

画面上のアクティブなビデオ入力は、ユーザーによって変更される場合があります。通話が開始されると、デバイスはアクティブなビデオ入力が画面上で別の入力に切り替えられたかどうかを検出します。デバイスは入力を元に戻し、その結果、デバイスはアクティブなビデオ入力ソースになります。デバイスがスタンバイ状態になったときに、デバイスがアクティブな入力ソースではない場合、画面はスタンバイに設定されません。

出力に接続されているスクリーンは CEC と互換性があり、CEC がスクリーンで有効になっていることが前提条件です。

CEC には、製造元によって異なるマーケティング名が使用されていることに注意してください。例えば、Anynet+ (Samsung)、Aquos Link (シャープ)、ブラビア同期 (Sony)、HDMI-CEC (日立)、クロリンク (パイオニア)、CE-Link および レグザリンク (東芝)、RIHD (オンキヨー)、HDAVI Control、EZ-Sync、VIERA Link (パナソニック)、イーजीリンク (Philips)、および NetCommand for HDMI (三菱) があります。

使用方法:

xConfiguration ビデオ出力コネクタ [n] CEC モード: モード

値は次のとおりです。

n: ビデオ出力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲: 1..3 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

範囲: 1..1 [*RoomKitMini*]

範囲: 2..2 [*Room55 DeskPro/DeskLE*]

範囲: 2..2 Room 70 Single 用、Room 70 Dual では利用できません [*Room70/Room55D*]

範囲: 1..2 [*RoomKit CodecPlus*]

Mode:

Off/On [*RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskPro/DeskLE*]

会議室のパノラマ: On;

会議室 70 のパノラマ: Off/On [*RoomPanorama/Room70Panorama*]

Off: CEC は無効になっています。

On: CEC が有効になっています。

デフォルト値:

On [*RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 DeskPro/DeskLE*]

Off [*Room70/Room55D Room70G2*]

会議室のパノラマ: 対応 Room 70 パノラマ: コネクタ 1: 非対応、コネクタ 2: 非対応、コネクタ 3: 対応 [*RoomPanorama/Room70Panorama*]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Video Output Connector [n] Location HorizontalOffset

適用対象: *RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

[HorizontalOffset] および [VerticalOffset] 設定は、各ビデオ出力に関連付けられます。これらの設定は、これらの出力に接続されているディスプレイの相対位置を示すために使用されます。

HorizontalOffset = "0" および VerticalOffset = "0" は、ディスプレイが水平方向および垂直方向の両方の中央に配置されることを示します。負の水平Offsetはモニタが中央より左に配置されることを示し、正の水平Offsetはモニタが中央より右に配置されることを示します。負の垂直Offsetはモニタが中心より下にあることを示し、正の垂直Offsetはモニタが中心より上にあることを示します。Offsetの大きさは、他のディスプレイと比較して、ディスプレイが中心からどれだけ離れているかを示します。

Room 55, Desk Pro および Desk 限定版の場合、統合画面コネクタ 1 には、HorizontalOffset = "0" および VerticalOffset = "0" (暗黙的、構成不可) があります。

例: 2 つの画面が並んでいます。左の画面はコネクタ 1、右の画面はコネクタ 2 です。次の設定が適用されます。

Video Output Connector 1 Location: HorizontalOffset = "0", VerticalOffset = "0"

Video Output Connector 2 Location: HorizontalOffset = "1", VerticalOffset = "0"

例: 上下に 2 つの画面があるとします。上の画面はコネクタ 1、下の画面はコネクタ 2 です。次の設定が適用されます。

Video Output Connector 1 Location: HorizontalOffset = "0", VerticalOffset = "0"

Video Output Connector 2 Location: HorizontalOffset = "0", VerticalOffset = "-1"

使用方法:

xConfiguration Video Output Connector [n] Location HorizontalOffset:
"HorizontalOffset"

値は次のとおりです。

n: ビデオ出力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲: 1..3 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 1..2 [RoomKit CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 2..2 [Room55 DeskPro/DeskLE]

水平Offset:

文字列 (1, 12)

文字列は、-100.0 から 100.0 まで(これらの数値を含む)の 10 進数を表します。C++ <string> ライブラリの std::stof 関数に準拠する入力文字列を受け付けます。これは、10 進数表記または E 記法を使用できることを意味します。例えば、"12", "12.0", "1.2e1", "1.2E1", "-0.12", "-12e-2" です。先頭の空白文字は切り捨てられ、小数点は "." です。

デフォルト値:

コネクタ 1: 「-1」 コネクタ 2: 「0」 コネクタ 3: 「1」 [CodecPro Room70G2]

コネクタ 1: 「0」コネクタ 2: 「1」コネクタ 3: 「0.5」 [RoomPanorama/Room70Panorama]

コネクタ 1: 「0」 コネクタ 2: 「1」 [RoomKit CodecPlus Room70/Room55D]

コネクタ 2: "1" [Room55 DeskPro/DeskLE]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Video Output Connector [n] Location VerticalOffset

適用対象: *RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

[HorizontalOffset] および [VerticalOffset] 設定は、各ビデオ出力に関連付けられます。これらの設定は、これらの出力に接続されているディスプレイの相対位置を示すために使用されます。

HorizontalOffset = "0" および VerticalOffset = "0" は、ディスプレイが水平方向および垂直方向の両方の中央に配置されることを示します。負の水平Offsetはモニタが中央より左に配置されることを示し、正の水平Offsetはモニタが中央より右に配置されることを示します。負の垂直Offsetはモニタが中心より下にあることを示し、正の垂直Offsetはモニタが中心より上にあることを示します。Offsetの大きさは、他のディスプレイと比較して、ディスプレイが中心からどれだけ離れているかを示します。

Room 55, Desk Pro, Desk 限定版の場合、統合画面コネクタ 1 は、HorizontalOffset = "0" および VerticalOffset = "0" (暗黙的、構成不可) になります。

例: 2 つの画面が並んでいます。左の画面はコネクタ 1、右の画面はコネクタ 2 です。次の設定が適用されます。

Video Output Connector 1 Location: HorizontalOffset = "0", VerticalOffset = "0"

Video Output Connector 2 Location: HorizontalOffset = "1", VerticalOffset = "0"

例: 上下に 2 つの画面があるとします。上の画面はコネクタ 1、下の画面はコネクタ 2 です。次の設定が適用されます。

Video Output Connector 1 Location: HorizontalOffset = "0", VerticalOffset = "0"

Video Output Connector 2 Location: HorizontalOffset = "0", VerticalOffset = "-1"

使用方法:

xConfiguration Video Output Connector [n] Location VerticalOffset:
"VerticalOffset"

値は次のとおりです。

n: ビデオ出力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲: 1..3 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 1..2 [RoomKit CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 2..2 [Room55 DeskPro/DeskLE]

垂直Offset:

文字列 (1, 12)

文字列は、-100.0 から 100.0 まで(これらの数値を含む)の 10 進数を表します。C++ <string> ライブラリの std::stof 関数に準拠する入力文字列を受け付けます。これは、10 進数表記または E 記法を使用できることを意味します。例えば、"12", "12.0", "1.2e1", "1.2E1", "-0.12", "-12e-2" です。先頭の空白文字は切り捨てられ、小数点は "." になります。

デフォルト値:

コネクタ n: "0" [RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskPro/DeskLE]

コネクタ 1, 2f0コネクタ 3f-1j [RoomPanorama/Room70Panorama]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Video Output Connector [n] MonitorRole

適用先: *RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

モニタの役割は、このビデオ出力に接続された画面にどのビデオストリームが表示されるかを示します。すべての出力に対する Video Monitors 設定と MonitorRole 設定は、各画面に表示されるレイアウト (ビデオ ストリーム) を定義します。

Room Kit Mini では 1 画面のみに対応するため、この設定は適用されません。

使用方法:

xConfiguration ビデオ出力コネクタ [n] MonitorRole: MonitorRole

値は次のとおりです。

n: ビデオ出力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲: 1..3 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 2..2 [Room55 DeskPro/DeskLE]

範囲: 1..2 [RoomKit CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 1..1 [RoomKitMini]

モニタ役割:

Auto/First/Second/PresentationOnly [RoomKit CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro/DeskLE]

自動/ファースト/セカンド/サード/プレゼンテーションのみ/レコーダー [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

Auto: スクリーンが接続されるとデバイスが検出され、ビデオモニタ設定に応じたモニタの役割 (第一、第二、第三) が自動的に割り当てられます。

第一/第二/第三: マルチスクリーン設定でのスクリーンの役割を定義します。単一画面のセットアップでは、第一、第二、第三の違いはありません。

PresentationOnly: アクティブな場合にプレゼンテーションビデオストリームを表示し、それ以外は表示しません。このモニタの役割を持つ画面/出力は、ビデオモニタ設定では無視されます。

レコーダー: ローカルメインビデオ (セルフビュー) を含むすべての参加者を表示します。アクティブな場合、プレゼンテーションも表示します。このモニタの役割を持つ画面/出力は、ビデオモニタ設定では無視されます。

デフォルト値:

自動 [RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE]

Dual: コネクタ 1,2:Auto, Single: コネクタ 1:Auto コネクタ 2:PresentationOnly [Room70/Room55D]

xConfiguration Video Output Connector [n] Resolution

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

接続された画面の解像度とリフレッシュレートを定義します。

1920_1200_60 より大きい形式では、高品質ディスプレイケーブルを使用する必要があります。動作を保証するためには、3840_2160_60 での使用に対して Cisco が事前に認定したディスプレイケーブルを使用するか、「Premium HDMI Certification」プログラムに合格したケーブルを使用してください。

一部の UHD テレビ/ディスプレイは、デフォルト設定として 3840_2160_30 (30Hz) のみをサポートし、3840_2160_60 (60Hz) をサポートしません。このような場合、対応する TV/ディスプレイの設定を再構成して、デバイスが接続されている HDMI 入力で 3840_2160_60 を許可する必要があります。

使用方法:

xConfiguration ビデオ出力コネクタ [n] 解像度: 解像度

値は次のとおりです。

n: ビデオ出力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲: 1..1 [RoomKitMini Boards]

範囲: 1..2 [RoomKit CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro/DeskLE]

範囲: 1..3 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

Resolution:

コネクタ 1,2: Auto/1920_1080_50/1920_1080_60/1920_1200_50/1920_1200_60/2560_1440_60/3840_2160_30/3840_2160_60 コネクタ 3: Auto/1920_1080_50/1920_1080_60/1920_1200_50/1920_1200_60/2560_1440_60/3840_2160_30 [CodecPro Room70G2]

コネクタ 1,2: Auto/1920_1080_50/1920_1080_60/1920_1200_50/1920_1200_60/2560_1440_60/3840_2160_30/3840_2160_60 コネクタ 3: 3840_2160_30 [RoomPanorama/Room70Panorama]

3840_2160_60 [Boards]

コネクタ 1: 3840_2160_60 コネクタ 2: Auto/1920_1080_50/1920_1080_60/1920_1200_50/1920_1200_60/2560_1440_60/3840_2160_30/3840_2160_60 [Room55 DeskPro/DeskLE]

Auto/1920_1080_50/1920_1080_60/1920_1200_50/1920_1200_60/2560_1440_60/3840_2160_30/3840_2160_60 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room70/Room55D]

Auto: デバイスは、接続されたモニタとのネゴシエーションに基づいて、自動的に最適な解像度を設定しようとします。

1280_720_50: 解像度は 1280 x 720、リフレッシュレートは 50Hz です。

1280_720_60: 解像度は 1280 x 720、リフレッシュレートは 60Hz です。

1920_1080_50: 解像度は 1920 x 1080、リフレッシュレートは 50Hz です。

1920_1080_60: 解像度は 1920 x 1080、リフレッシュレートは 60Hz です。

1920_1200_50: 解像度は 1920 x 1200、リフレッシュレートは 50Hz です。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

1920_1200_60: 解像度は 1920 x 1200、リフレッシュレートは 60Hz です。

2560_1440_60: 解像度は 2560 x 1440、リフレッシュレートは 60Hz です。

3840_2160_30: 解像度は 3840 x 2160、リフレッシュレートは 30Hz です。

3840_2160_60: 解像度は 3840 x 2160、リフレッシュレートは 60Hz です。

デフォルト値:

3840_2160_60 [DeskPro/DeskLE Boards]

コネクタ 1: 3840_2160_60 コネクタ 2: 自動 [Room55]

コネクタ n: Auto [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2]

コネクタ 1,2: Auto、コネクタ 3: 3840_2160_30 [RoomPanorama/Room70Panorama]

xConfiguration Video Output Connector [n] RGBQuantizationRange

適用先: RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

HDMI 出力に接続されたディスプレイは、CTA-861 で定義されている、RGB ビデオの量子化範囲のルールに従う必要があります。残念ながら、一部のディスプレイは標準に準拠していないため、この構成を使用して設定を上書きし、どのディスプレイでも完全な画像を得ることができます。ほとんどの HDMI ディスプレイは、完全な量子化範囲を想定しています。

使用方法:

xConfiguration Video Output Connector [n] RGBQuantizationRange:
RGBQuantizationRange

値は次のとおりです。

n: ビデオ出力コネクタを識別する一意の ID です。

範囲: 1..1 [RoomKitMini]

範囲: 1..2 [RoomKit CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 1..3 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 2..2 [Room55 DeskPro/DeskLE]

RGBQuantizationRange:

自動/フル/制限

Auto: ディスプレイ信号が EDID で「選択可能な RGB 量子化範囲」をサポートしている場合、AVI InfoFrame はフルレンジの信号を RGB 量子化範囲ビット (Q0、Q1) で送信します。それ以外の場合は、制限範囲は AVI InfoFrame で CE ビデオ形式の場合および フルレンジの IT ビデオ形式で通知されます。

フル: クオンタイズの範囲全体です。R、G、B の量子化範囲には、すべてのコード値 (0 - 255) が含まれます。これは CTA-861-F で定義されています。

制限付き: クオンタイズ範囲です。極端な (16 - 235) の一部のコード値を除外した R、G、B の量子化範囲。これは CTA-861-F で定義されています。

デフォルト値:

Full [RoomKit RoomKitMini CodecPro Room55 Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE]

コネクタ 1: 自動、コネクタ 2: フル [CodecPlus Room70/Room55D]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Video Output Webcam USBMode

適用対象: *RoomKitMini*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

ビデオに接続した時、またはストリーミングビデオを開始した時にUSB モード(例: 着信拒否)にするかどうかを指定します。

使用方法:

xConfiguration Video Output Webcam USBMode: USBMode

値は次のとおりです。

USB モード:

OnConnect/OnStreaming

OnConnect: ビデオに接続すると USB モードになります。

OnStreaming: ビデオのストリーミングを開始すると USB モードに切り替わります。

デフォルト値:

OnStreaming

xConfiguration Video Presentation DefaultSource

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

既定のプレゼンテーションソースとして使用するビデオ入力ソースを定義します。この設定は API およびサードパーティのユーザ インターフェイスで 사용되는場合があります。Cisco が提供するユーザ インターフェイスを使用する場合には関係ありません。

使用方法:

xConfiguration Video Presentation DefaultSource: DefaultSource

値は次のとおりです。

DefaultSource:

1/2/3/4/5 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

1/2/3 [CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro/DeskLE]

1/2 [RoomKit RoomKitMini Boards]

デフォルトのプレゼンテーション ソースとして使用するビデオ入力ソース。

デフォルト値:

3 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

2 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro/DeskLE Boards]

xConfiguration Video Presentation Priority

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者

プレゼンテーションチャンネルとメインビデオチャンネル間の帯域幅の配分方法を指定します。

使用方法:

xConfiguration Video Presentation Priority: Priority

値は次のとおりです。

優先順位:

Equal/High/Low [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskPro/DeskLE Boards]

Equal [RoomPanorama/Room70Panorama]

等しい: 利用可能な帯域幅は、プレゼンテーション チャンネルとメイン ビデオ チャンネルの間で均等に共有されます。

高:メイン ビデオ チャンネルを犠牲にして、利用可能な帯域幅のより大きな部分をプレゼンテーション チャンネルに割り当てます。

低:メイン ビデオ チャンネルにより大きな帯域幅が割り当てられますが、プレゼンテーション チャンネルの犠牲に。

デフォルト値:

等しい



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Video Selfview Default FullscreenMode

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

メイン ビデオ ソース (セルフビュー) を通話後にフルスクリーンで表示するか、または小さいピクチャーインピクチャー (PiP) として表示するかを定義します。この設定はセルフビューがOnになっている場合にのみ有効です ([ビデオのセルフビュー デフォルト モード] 設定を参照)。

Desk Pro および Desk Limited Edition の場合、ユーザーインターフェイスを使用して、全画面セルフビューを Off にすると、次にユーザーインターフェイスを使用して On にしたときに PiP として戻ります。

使用方法:

xConfiguration Video Selfview Default FullscreenMode: FullscreenMode

値は次のとおりです。

フルスクリーンモード:

Off/現在/On

Off: セルフビューは PiP として表示されます。

Current: セルフビュー画像のサイズは、通話を終了するときに変更されません。つまり、通話中に PiP だった場合は、通話後も PiP のままになります。通話中に全画面表示だった場合、通話後も全画面のままです。

On: セルフビュー画像がフルスクリーンで表示されます。

デフォルト値:

現在

xConfiguration Video Selfview Default Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

通話後、および通話中にビデオが Off になった後再び On になった後に、メインのビデオソース (セルフビュー) を画面に表示するかどうかを定義します。セルフビューウィンドウの位置とサイズは、それぞれ Video Selfview Default PIPPosition と Video Selfview Default FullscreenMode によって決定されます。

使用方法:

xConfiguration Video Selfview Default Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/現在/On

Off: セルフビューは、コールを離れると Off になります。また、コール中にビデオが On になった後も Off になります。

Current: セルフビューはそのままです。つまり、通話中に On になっていたセルフビューは、通話後も On のままです。通話中は Off になっていた場合、通話終了後も Off のままになります。通話中にビデオを On にした場合も同様です。

On: セルフビューは、終話時および全画面にビデオを On にした後に On になります。

デフォルト値:

現在



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Video Selfview Default OnMonitorRole

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

通話後にメイン ビデオ ソース (セルフビュー) を表示する画面/出力を定義します。この値は、[ビデオ出力コネクタ [n] MonitorRole] 設定で異なる出力に設定されたモニタの役割を反映します。

この設定は、自分の映像がフルスクリーンで表示されている場合と、ピクチャーインピクチャー (PiP) で表示されている場合の両方に適用されます。

使用方法:

xConfiguration Video Selfview Default OnMonitorRole: OnMonitorRole

値は次のとおりです。

OnMonitorRole:

Current/First/Second [RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro/DeskLE Boards]

Current/First/Second/Third [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

現在: 通話を退席するとき、セルフビュー画像は通話中と同じように出力されます。

First: セルフビュー画像は、First のモニタロールを持つ出力に表示されます。

Second: セルフビュー画像は、Second のモニタロールを持つ出力に表示されます。

Third: セルフビュー画像は、Third のモニタロールを持つ出力に表示されます。

デフォルト値:

Current [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE Boards]

xConfiguration Video Selfview Default PIPPosition

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

通話後のセルフビュー ピクチャーインピクチャー (PiP) の画面上の位置を定義します。この設定は、自分の映像がOnになっており ([ビデオの自分の映像のデフォルト モード] 設定を参照)、フルスクリーン表示がOffになっている ([ビデオの自分の映像のデフォルト フルスクリーンモード] 設定を参照) 場合にのみ有効です。

使用方法:

xConfiguration Video Selfview Default PIPPosition: PIPPosition

値は次のとおりです。

PIP の位置:

Current/UpperLeft/UpperCenter/UpperRight/CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight

現在: 通話を終了するとき、セルフ表示 PiP の位置は変更されないまま保持されます。

左上: セルフ ビュー PiP は画面の左上角に表示されます。

中央上: セルフ ビュー PiP が中央上部に表示されます。

右上: セルフビュー PiP は画面の右上角に表示されます。

CenterLeft: セルフビュー PiP が中央左の位置に表示されます。

CentreRight: セルフビュー PiP が中央右の位置に表示されます。

ローワーレフト: セルフビュー PiP は画面の左下隅に表示されます。

LowerRight: セルフビュー PiP が画面の右下隅に表示されます。

デフォルト値:

Current [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskPro/DeskLE]

下右 [RoomPanorama/Room70Panorama]

Current [Boards]



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Video Selfview OnCall Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

この設定は、コールを設定するとき、セルフ ビューを短時間 On にするために使用されます。Video Selfview OnCall Duration 設定は、セルフビューを On にする時間を決定します。これは一般的なセルフビューが Off になっている場合に適用されます。

使用方法:

xConfiguration Video Selfview OnCall Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: 通話のセットアップ中にセルフビューが自動的に表示されません。

On: 通話設定中にセルフビューが自動的に表示されます。

デフォルト値:

On [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/
Room70Panorama DeskPro/DeskLE]

Off [Boards]

xConfiguration Video Selfview OnCall Duration

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

この設定は、Video Selfview OnCall Mode が On に切り替わっても有効です。この場合、ここで設定した秒数が、セルフビューが表示されてから自動的にOffになるまでの時間を決定します。

使用方法:

xConfiguration Video Selfview OnCall Duration: Duration

値は次のとおりです。

継続時間:

整数 (1..60)

範囲: 自分の映像がOnである時間を選択します。有効な範囲は 1 から 60 秒です。

デフォルト値:

10

音声コントロールの構成

xConfiguration VoiceControl ウェイクワード モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

この設定を使用して、Webex Assistant によって使用されるウェイクワード (例、「OK Webex」) を有効または無効にします。Webex Assistant を使用すると、デバイスをハンズフリーで使用できます。また、ウェイクワードを使用すると、通話の発信やプレゼンテーションの開始などのタスクを開始できます。

[Webex Assistant] をOnに切り替えるには、[ユーザ インターフェイス アシスタント モード] 設定を使用します。

使用方法:

xConfiguration VoiceControl Wakeword Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: ウェイクワードの使用を無効にします。

On: ウェイクワードの使用を有効にします。

デフォルト値:

On



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

Web エンジンの構成

xConfiguration WebEngine MinimumTLSVersion

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

Web エンジンで許可される最も低いバージョンの TLS (トランスポート レイヤー セキュリティ) プロトコルを設定します。

使用方法:

xConfiguration WebEngine MinimumTLSVersion: MinimumTLSVersion

値は次のとおりです。

MinimumTLSVersion:

TLSv1.0/TLSv1.1/TLSv1.2

TLSv1.0: TLS バージョン 1.0 以降のサポート。

TLSv1.1: TLS バージョン 1.1 以降のサポート。

TLSv1.2: TLS バージョン 1.2 以降のサポート。

デフォルト値:

TLSv1.1

xConfiguration ウェブエンジンモード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ウェブ エンジンは、デジタル サイネージやウェブ アプリなど、デバイスのウェブ ビューを使用する機能の前提条件です。

使用方法:

xConfiguration WebEngine Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: ウェブエンジンは無効です。

On: ウェブエンジンが有効になります。

デフォルト値:

Off

xConfiguration WebEngine RemoteDebugging

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ウェブ ページで問題が発生した場合は、リモートデバッグをOnにすることをお勧めします。リモート デバッグを使用すると、Chrome 開発者コンソールにアクセスして、ウェブ ページの潜在的な問題を特定できます。有効にすると、画面の下部にバナーが表示され、モニタされる可能性があることをユーザーに警告します。ヘッダには、開発者コンソールを開くためにローカルの Chrome ブラウザに入力可能な URL も表示されます。

リモートデバッグは、使用後にOffにしてください。

使用方法:

xConfiguration WebEngine RemoteDebugging: RemoteDebugging

値は次のとおりです。

リモートデバッグ:

Off/On

Off: リモートデバッグがOffになります。

On: リモートデバッグがOnになっています。

デフォルト値:

Off



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration WebEngine UseHttpProxy

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザーロール: 管理者

UseHttpProxy 設定がいくつかあり、サービスが HTTP プロキシ経由で通信するかどうかを指定します。WebEngine の UseHttpProxy 設定は、デジタル サイネージ、API 駆動型ウェブ ビュー、ウェブ アプリなど、すべてのウェブ ビュー ベースの機能に適用されます。

この設定を有効にするには、NetworkServices HTTP プロキシ設定を使用して、HTTP、HTTPS、および WebSocket トラフィック用のプロキシ サーバーをセットアップする必要があります。

使用方法:

xConfiguration WebEngine UseHttpProxy: [UseHttpProxy](#)

値は次のとおりです。

[UseHttpProxy](#):

Off/On

Off: サーバとの直接通信をセットアップします (プロキシを使用しない)。

On: プロキシ経由の通信をセットアップします。

デフォルト値:

On

Webex の設定

xConfiguration Webex CloudProximity GuestShare

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザーロール: 管理者

この設定では、devices.webex.com でゲスト共有機能を Off にすることができます。

使用方法:

xConfiguration Webex CloudProximity GuestShare: [GuestShare](#)

値は次のとおりです。

[ゲスト共有](#):

Auto/Off

Auto: ゲスト共有を許可するかどうかをシステムが自動的に決定することを許可します。これは現在デフォルトで有効になっています。

Off: ゲスト共有機能をOffにします。

デフォルト値:

自動



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Webex CloudProximity Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

オンプレミス コール マネージャーに登録され、デバイス用の Webex Edge にリンクされたデバイスは、超音波、Wi-Fi 検出、ゲスト共有などのペアリング メカニズムを処理するために、オンプレミスとクラウド近接通信モードの両方をサポートします。この設定により、2 つの近接通信モードのどちらを使用するかを定義できます。

使用方法:

xConfiguration Webex CloudProximity Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: リンクされたデバイスはオンプレミス近接通信モードを使用します。

On: リンクされたデバイスはクラウド近接通信モードを使用します。

デフォルト値:

Off

xConfiguration Webex CloudUpgrades モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

Onプレミス サービスに登録されており、デバイス用の Webex Edge にリンクされているデバイスでは、ソフトウェアをOnプレミスのプロビジョニング サービスから、または Webex クラウド サービスからアップグレードするかどうかを選択できます (クラウド管理ソフトウェア アップグレード)。

クラウド管理型ソフトウェア アップグレードでは、新しい RoomOS ソフトウェア バージョンが利用可能になると、デバイスが自動的にアップグレードされます。これは、クラウドに登録されたデバイスがアップグレードされるのと同時に行われます。デバイスを手動でアップグレードする必要なく、最新の更新とバグ修正をより迅速に入手できます。

使用方法:

xConfiguration Webex CloudUpgrades モード: モード

値は次のとおりです。

Mode:

Off/On

Off: デバイス ソフトウェアはクラウドからアップグレードされません。CUCM などのOnプレミス プロビジョニングサービスを使用するか、手動アップグレードに依存する必要があります。

On: 新しいソフトウェア バージョンがクラウドで利用可能になると、デバイス ソフトウェアが自動的にアップグレードされます。

デフォルト値:

Off



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xConfiguration Webex Meetings 参加プロトコル

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

Onプレミス サービスに登録され、デバイス用 Webex Edge にリンクされているデバイスは、Webex ミーティングに発信するために Webex クラウド サービスを使用できます。Webex 経由で発信すると、高度なミュート、共同主催者、主催者の転送、顔認証など、Webex Meetings のネイティブな通話中機能のフルセットを利用できます。

Webex Meetings 通話ルーティングが使用されるのは以下のような場合です。[Webex に参加 (Join Webex)] ボタンを使用する場合、Webex Assistant を使用してパーソナル ミーティング ルーム (PMR) に参加する場合、通話ボタンまたはダイヤル API コマンドを URI で使用する場合、@webex.com、@*.webex.com、@meet.ciscospark.com のいずれかのドメイン。その他の呼び出しは既定のプロトコルを使用します。

また、ネイティブの Webex Meetings 通話ルーティングでは、デバイスでクラウド管理ソフトウェア アップグレードが有効になっており、Control Hub からの構成が有効になっていて、さらに [電話会議マルチポイント モード] が [自動] に設定されている必要があります。

Room Panorama および Room 70 Panorama は、CE 9.15.0 ではサポートされていません。

使用方法:

xConfiguration Webex Meetings JoinProtocol: [JoinProtocol](#)

値は次のとおりです。

参加プロトコル:

SIP/Webex

SIP: 通話プロトコルは SIP です。

Webex: 上記の要件が満たされている場合、通話プロトコルは Webex になります。それ以外の場合は SIP です。

デフォルト値:

SIP



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

第 4 章

xCommand コマンド



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand コマンドの説明

この章では、パラメータ付きのすべての xCommand タイプのコマンドの一覧が記載されています。

音声コマンド	201
xCommand Audio Diagnostics Advanced Run	202
xCommand Audio Diagnostics AecReverb Reset	202
xCommand Audio Diagnostics AecReverb Run	202
xCommand Audio Diagnostics MeasureDelay	203
xCommand Audio Equalizer List	203
xCommand Audio Equalizer Update	204
xCommand Audio LocalInput Add	205
xCommand Audio LocalInput AddConnector	206
xCommand Audio LocalInput Remove	206
xCommand Audio LocalInput RemoveConnector	207
xCommand Audio LocalInput Update	207
xCommand Audio LocalOutput Add	208
xCommand Audio LocalOutput AddConnector	209
xCommand Audio LocalOutput ConnectInput	210
xCommand Audio LocalOutput DisconnectInput	210
xCommand Audio LocalOutput Remove	211
xCommand Audio LocalOutput RemoveConnector	211
xCommand Audio LocalOutput Update	212
xCommand Audio LocalOutput UpdateInputGain	213
xCommand Audio Microphones MusicMode Start	213
xCommand Audio Microphones MusicMode Stop	213
xCommand Audio Microphones Mute	213
xCommand Audio Microphones NoiseRemoval Activate	214
xCommand Audio Microphones NoiseRemoval Deactivate	214
xCommand Audio Microphones ToggleMute	214
xCommand Audio Microphones Unmute	214
xCommand Audio RemoteOutput ConnectInput	215

xCommand Audio RemoteOutput DisconnectInput	215
xCommand Audio RemoteOutput UpdateInputGain	216
xCommand Audio Select	216
xCommand Audio Setup Clear	216
xCommand Audio Setup Reset	216
xCommand Audio Sound Play	217
xCommand Audio Sound Stop	217
xCommand Audio SpeakerCheck	217
xCommand Audio SoundsAndAlerts Ringtone List	217
xCommand Audio SoundsAndAlerts Ringtone Play	218
xCommand Audio SoundsAndAlerts Ringtone Stop	218
xCommand Audio Volume Decrease	218
xCommand Audio Volume Increase	219
xCommand Audio Volume Mute	219
xCommand Audio Volume Set	219
xCommand Audio Volume SetToDefault	220
xCommand Audio Volume ToggleMute	220
xCommand Audio Volume Unmute	220
xCommand Audio VuMeter Start	221
xCommand Audio VuMeter Stop	222
xCommand Audio VuMeter StopAll	222

ブッキングコマンド	223
xCommand Bookings Book	223
xCommand Bookings Clear	223
xCommand Bookings Delete	223
xCommand Bookings Get	224
xCommand Bookings List	224



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Bookings NotificationSnooze.....	225
xCommand Bookings Put.....	225

発信コマンド 226

xCommand Call Accept.....	226
xCommand Call Disconnect.....	226
xCommand Call DTMFSend.....	227
xCommand Call FarEndControl Camera Move.....	227
xCommand Call FarEndControl Camera Stop.....	228
xCommand Call FarEndControl RequestCapabilities.....	229
xCommand Call FarEndControl RoomPreset Activate.....	229
xCommand Call FarEndControl RoomPreset Store.....	230
xCommand Call FarEndControl Source Select.....	230
xCommand Call FarEndMessage Send.....	231
xCommand Call Forward.....	231
xCommand Call Hold.....	231
xCommand Call Ignore.....	232
xCommand Call Join.....	232
xCommand Call Reject.....	232
xCommand Call Resume.....	232
xCommand Call UnattendedTransfer.....	233

CallHistory コマンド 233

xCommand CallHistory AcknowledgeAllMissedCalls.....	233
xCommand CallHistory AcknowledgeMissedCall.....	233
xCommand CallHistory DeleteAll.....	234
xCommand CallHistory DeleteEntry.....	234
xCommand CallHistory Get.....	234
xCommand CallHistory Recents.....	235

カメラ コマンド 235

xCommand Camera PositionReset.....	235
xCommand Camera PositionSet.....	236
xCommand Camera Preset Activate.....	236
xCommand Camera Preset ActivateDefaultPosition.....	237

xCommand Camera Preset Edit.....	237
xCommand Camera Preset List.....	238
xCommand Camera Preset Remove.....	238
xCommand Camera Preset Show.....	238
xCommand Camera Preset Store.....	239
xCommand Camera Ramp.....	240
xCommand Camera TriggerAutofocus.....	240

Cameras コマンド 241

xCommand Cameras AutoFocus Diagnostics Start.....	241
xCommand Cameras AutoFocus Diagnostics Stop.....	241
xCommand Cameras Background Clear.....	241
xCommand Cameras Background Delete.....	241
xCommand Cameras Background Fetch.....	242
xCommand Cameras Background ForegroundParameters Reset.....	242
xCommand Cameras Background ForegroundParameters Set.....	242
xCommand Cameras Background Get.....	243
xCommand Cameras Background List.....	243
xCommand Cameras Background Set.....	243
xCommand Cameras Background Upload.....	244
xCommand Cameras PresenterTrack ClearPosition.....	244
xCommand Cameras PresenterTrack Set.....	244
xCommand Cameras PresenterTrack StorePosition.....	245
xCommand Cameras SpeakerTrack Activate.....	245
xCommand Cameras SpeakerTrack Deactivate.....	245
xCommand Cameras SpeakerTrack Diagnostics Start.....	245
xCommand Cameras SpeakerTrack Diagnostics Stop.....	245
xCommand Cameras SpeakerTrack ViewLimits Activate.....	246
xCommand Cameras SpeakerTrack ViewLimits Deactivate.....	246
xCommand Cameras SpeakerTrack ViewLimits StorePosition.....	246
xCommand Cameras SpeakerTrack Whiteboard ActivatePosition.....	246
xCommand Cameras SpeakerTrack Whiteboard AlignPosition.....	247
xCommand Cameras SpeakerTrack Whiteboard SetDistance.....	247
xCommand Cameras SpeakerTrack Whiteboard StorePosition.....	248



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

電話会議コマンド	248
xCommand Conference Call AuthenticationResponse	248
xCommand Conference DoNotDisturb Activate	249
xCommand Conference DoNotDisturb Deactivate	249
xCommand Conference Hand Lower	249
xCommand Conference Hand Raise	249
xCommand Conference LowerAllHands	250
xCommand Conference MeetingAssistant Start	250
xCommand Conference MeetingAssistant Stop	250
xCommand Conference Participant Admit	250
xCommand Conference Participant Disconnect	251
xCommand Conference Participant LowerHand	251
xCommand Conference Participant Mute	252
xCommand Conference ParticipantList Search	252
xCommand Conference Recording Pause	253
xCommand Conference Recording Resume	253
xCommand Conference Recording Start	253
xCommand Conference Recording Stop	253
xCommand Conference SpeakerLock Release	254
xCommand Conference SpeakerLock Set	254
xCommand Conference TransferHostAndLeave	254
診断コマンド	255
xCommand Diagnostics Run	255
ダイヤルコマンド	255
xCommand Dial	255
GPIO コマンド	256
xCommand GPIO ManualState Set	256
HttpClient コマンド	257
xCommand HttpClient Allow Hostname Add	257
xCommand HttpClient Allow Hostname Clear	257

xCommand HttpClient Allow Hostname List	257
xCommand HttpClient Allow Hostname Remove	257
xCommand HttpClient Delete	258
xCommand HttpClient Get	259
xCommand HttpClient Patch	260
xCommand HttpClient POST	261
xCommand HttpClient Put	262
HttpFeedback コマンド	263
xCommand HttpFeedback Deregister	263
xCommand HttpFeedback Enable	263
xCommand HttpFeedback Register	263
ロギング コマンド	264
xCommand Logging SendLogs	264
Macros コマンド	264
xCommand Macros Log Clear	264
xCommand Macros Log Get	264
xCommand Macros Macro Activate	265
xCommand Macros Macro Deactivate	265
xCommand Macros Macro Get	265
xCommand Macros Macro Remove	265
xCommand Macros Macro RemoveAll	266
xCommand Macros Macro Rename	266
xCommand Macros Macro Roles Set	266
xCommand Macros Macro Save	267
xCommand Macros Runtime Restart	267
xCommand Macros Runtime Start	267
xCommand Macros Runtime Status	267
xCommand Macros Runtime Stop	267
メッセージコマンド	268
xCommand Message Send	268



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

Network コマンド	268
xCommand Network SMTP VerifyConfig	268
xCommand Network Wifi Configure	269
xCommand Network Wifi Delete	269
xCommand ネットワーク Wi-Fi リスト	269
xCommand Network Wifi Scan Start	270
xCommand Network Wifi Scan Stop	270
 Peripherals コマンド	 270
xCommand Peripherals Connect	270
xCommand Peripherals HeartBeat	271
xCommand Peripherals List	271
xCommand Peripherals Pairing DeviceDiscovery Start	272
xCommand Peripherals Pairing Pair	272
xCommand Peripherals Pairing Unpair	272
xCommand Peripherals Purge	272
 電話帳のコマンド	 273
xCommand Phonebook Contact Add	273
xCommand Phonebook Contact Delete	273
xCommand Phonebook Contact Modify	274
xCommand Phonebook ContactMethod Add	274
xCommand Phonebook ContactMethod Delete	275
xCommand Phonebook ContactMethod Modify	275
xCommand Phonebook Folder Add	276
xCommand Phonebook Folder Delete	276
xCommand Phonebook Folder Modify	277
xCommand Phonebook Search	277
 Presentation コマンド	 279
xCommand Presentation Start	279
xCommand Presentation Stop	279

プロビジョニングコマンド	280
xCommand Provisioning CompleteUpgrade	280
xCommand Provisioning PostponeUpgrade	280
xCommand Provisioning CUCM ExtensionMobility Login	280
xCommand Provisioning CUCM ExtensionMobility Logout	280
xCommand Provisioning RoomType Activate	281
xCommand Provisioning Service Fetch	281
 Proximity コマンド	 282
xCommand Proximity Services Activate	282
xCommand Proximity Services Deactivate	282
 RoomCleanup コマンド	 283
xCommand RoomCleanup Cancel	283
xCommand RoomCleanup Run	283
 RoomPreset コマンド	 283
xCommand RoomPreset Activate	283
xCommand RoomPreset Clear	283
xCommand RoomPreset Store	284
 セキュリティコマンド	 284
xCommand Security Certificates CA Add	284
xCommand Security Certificates CA Delete	284
xCommand Security Certificates CA Show	285
xCommand Security Certificates Services Activate	285
xCommand Security Certificates Services Add	286
xCommand Security Certificates Services Deactivate	286
xCommand Security Certificates Services Delete	287
xCommand Security Certificates Services Show	287
xCommand Security Certificates ThirdParty Disable	288
xCommand Security Certificates ThirdParty Enable	288



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Security Certificates ThirdParty List	288
xCommand Security Certificates ThirdParty Show	288
xCommand セキュリティ証明書 Webex 表示	289
xCommand Security Persistency	289
xCommand Security Session Get	290
xCommand セキュリティセッションリスト	290
xCommand Security Session Terminate	290
待機コマンド	290
xCommand スタンバイ アクティベート	290
xCommand Standby Deactivate	290
xCommand Standby Halfwake	290
xCommand Standby ResetHalfwakeTimer	291
xCommand Standby ResetTimer	291
SystemUnit コマンド	291
xCommand SystemUnit Boot	291
xCommand SystemUnit FactoryReset	292
xCommand SystemUnit FirstTimeWizard Stop	292
xCommand SystemUnit Notifications RemoveAll	293
xCommand SystemUnit OptionKey Add	293
xCommand SystemUnit OptionKey List	293
xCommand SystemUnit OptionKey Remove	293
xCommand SystemUnit OptionKey RemoveAll	293
xCommand システム ユニット 製品 プラットフォーム セット	294
xCommand SystemUnit SignInBanner Clear	294
xCommand SystemUnit SignInBanner Get	294
xCommand SystemUnit SignInBanner Set	294
xCommand SystemUnit SoftReset	294
xCommand SystemUnit SoftwareUpgrade	295
xCommand SystemUnit WelcomeBanner Clear	295
xCommand SystemUnit WelcomeBanner Get	295
xCommand SystemUnit WelcomeBanner Set	295

時間コマンド	296
xCommand Time DateTime Get	296
xCommand Time DateTime Set	296
ユーザインタフェースコマンド	296
xCommand ユーザインタフェース ブランディング クリア	296
xCommand UserInterface Branding Delete	296
xCommand ユーザインタフェース ブランディング フェッチ	297
X コマンド ユーザインタフェース ブランディング 取得	298
xCommand ユーザインタフェースのブランディングが更新されました	298
xCommand UserInterface Branding Upload	299
xCommand ユーザインタフェース拡張機能の消去	299
xCommand UserInterface Extensions List	299
xCommand UserInterface Extensions Panel Clicked	300
xCommand UserInterface Extensions Panel Close	300
xCommand ユーザ インターフェイス拡張機能 パネルを開く	300
xCommand UserInterface Extensions Panel Remove	300
xCommand UserInterface Extensions Panel Save	301
xCommand UserInterface Extensions Panel Update	301
xCommand UserInterface Extensions Set	302
xCommand UserInterface Extensions Widget Action	302
xCommand UserInterface Extensions Widget SetValue	302
xCommand UserInterface Extensions Widget UnsetValue	302
xCommand UserInterface Message Alert Clear	303
xCommand UserInterface Message Alert Display	303
xCommand UserInterface Message Prompt Clear	303
xCommand UserInterface Message Prompt Display	304
xCommand UserInterface Message Prompt Response	304
xCommand UserInterface Message Rating Clear	305
xCommand UserInterface Message Rating Display	305
xCommand UserInterface Message Rating Response	306
xCommand ユーザインタフェースメッセージ Text Input クリア	306
xCommand UserInterface Message TextInput Display	307
xCommand UserInterface Message TextInput Response	308



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand UserInterface Message TextLine Clear	308
xCommand UserInterface Message TextLine Display	308
xCommand UserInterface Presentation ExternalSource Add.....	309
xCommand ユーザ インターフェイス プレゼンテーション 外部ソース リスト	309
xCommand UserInterface Presentation ExternalSource Remove	309
xCommand UserInterface Presentation ExternalSource RemoveAll	309
xCommand UserInterface Presentation ExternalSource Select.....	310
xCommand UserInterface Presentation ExternalSource State Set	310
xCommand UserInterface WallpaperBundle Clear	311
xCommand UserInterface WallpaperBundle List	311
xCommand UserInterface WallpaperBundle Set	311
xCommand UserInterface WebView Clear	311
xCommand UserInterface WebView Display	311
UserManagement コマンド	312
xCommand UserManagement RemoteSupportUser Create	312
xCommand UserManagement RemoteSupportUser Delete.....	312
xCommand UserManagement RemoteSupportUser DisablePermanently	312
xCommand ユーザ管理 RemoteSupportUser GetState	312
xCommand UserManagement User Add	313
xCommand UserManagement User Delete	313
xCommand UserManagement User Get	313
xCommand UserManagement ユーザリスト	314
xCommand UserManagement User Modify.....	314
xCommand UserManagement User Passphrase Change	315
xCommand UserManagement User Passphrase Set	315
xCommand UserManagement User Unblock	315
ビデオコマンド	316
xCommand Video ActiveSpeakerPIP Set.....	316
xCommand Video CEC Input KeyClick	316
xCommand Video CEC Output KeyClick.....	317
xCommand Video CEC Output SendActiveSourceRequest.....	317

xCommand Video CEC Output SendInactiveSourceRequest.....	317
xCommand Video Graphics Clear	318
xCommand Video Graphics Text Display	318
xCommand Video Input MainVideo Mute	319
xCommand Video Input MainVideo Unmute	319
xCommand ビデオ入力 SetMainVideoSource	319
xCommand Video Layout LayoutFamily Set	320
xCommand ビデオ マトリックスの割り当て	321
xCommand Video Matrix Reset.....	321
xCommand ビデオマトリックス切り替え	321
xCommand ビデオ マトリックス割り当て解除.....	322
xCommand Video Output Monitor Backlight Set	322
xCommand Video Output Monitor Color Select	322
xCommand ビデオ出力モニタのリセット	323
xCommand Video PresentationPIP Set.....	323
xCommand Video PresentationView Set	323
xCommand Video Selfview Set.....	324

Web エンジン コマンド	324
xCommand UserInterface WebEngine DeleteStorage.....	324

Webex コマンド	325
xCommand Webex Join	325
xCommand Webex 登録のキャンセル.....	325
xCommand Webex Registration ConvertToCloud.....	325
xCommand Webex Registration Logout	325
xCommand Webex Registration Start.....	326

WebRTC コマンド	326
xCommand WebRTC Provider Current Diagnostics Send	326



ソフトウェアのバージョン: RoomOS 10.3.2

対象製品:

- CodecPro
- CodecPlus
- Room70G2
- Room70/Room55D
- Room55
- RoomKit
- RoomKitMini
- RoomPanorama/Room70Panorama
- DeskPro/DeskLE
- Boards

音声コマンド

The xCommand Audio LocalInput, xCommand Audio LocalOutput, xCommand Audio RemoteOutput コマンドは、主に オーディオ コンソール アプリケーションによる内部使用を意図しており、これは現在 Codec Pro で利用できます。Audio Console は、音声チェーンのセットアップと構成を行うためのグラフィックインターフェイスを提供します。

音声チェーンは、仮想ローカル入力に割り当てられた物理入力コネクタで構成され、その入力コネクタは、仮想ローカル出力に接続され、その出力に物理出力コネクタが割り当てられます。上記のコマンドは、物理コネクタと仮想入出力間の論理接続、および仮想入力がゲイン、イコライゼーション、チャンネルミキシングなどを信号に課す方法を定義します。

発信が行われると、リモート（遠端からの）入力信号が自動的にすべてのローカル出力に追加されます。同様に、すべてのローカル入力は、自動で（遠端への）リモート出力ゲートに追加されます。

xCommand は再起動後は持続しないことに注意してください。そのため、音声チェーンの設定を永続化させるために、スタートアップ スクリプトにコマンドを含めるか、マクロ フレームワークを使用する必要があります。Audio Console を使用して音声チェーンをセットアップする場合、起動スクリプトが自動的に生成され、有効化されます。

起動スクリプト、マクロおよびオーディオ コンソールの詳細については、デバイスに関する「管理者ガイド」および「カスタマイズガイド」を参照してください。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Audio Diagnostics Advanced Run

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

このコマンドは、すべての音声出力コネクタにノイズ信号を順次送信し、出力とマイクの間の室内インパルス応答 (RIR) を測定します。RIR が検出された場合、検出されたマイク (入力) の数、検出された出力コネクタの数、および検出された出力と入力間の遅延がレポートされます。

例:

```
xCommand Audio Diagnostics Advanced Run Volume: 50 MeasurementLength: 1
```

```
Result returned ->
```

```
OK
```

```
*r AdvancedRunResult (status=OK):
```

```
*r AdvancedRunResult HdmiSpeakersDelay: "100 ms"
```

```
*r AdvancedRunResult NumHdmiSpeakersDetected: 2
```

```
*r AdvancedRunResult NumMicsDetected: 1
```

```
** end
```

使用方法:

```
xCommand Audio Diagnostics Advanced Run [Channel: Channel] [MeasurementLength: MeasurementLength] [Output: Output] [Volume: Volume]
```

値は次のとおりです。

チャンネル:

整数 (0..13)

選択した出力のチャンネル番号 (左から右へ)。

デフォルト値: 0

測定長さ:

整数 (1..100)

測定の長さを秒単位で示します。ノイズの多い環境では、測定継続時間が長いほど、信頼性が高く堅牢な結果が得られます。

デフォルト値: 3

出力:

HDMI/Line/Internal/Headset/All

テスト信号の送信先となる出力です。

HDMI: HDMI 出力に接続されたデバイスの室内インパルス応答(RIR)を測定します。

回線: 回線出力に接続されたデバイスの RIR を測定します(回線出力を持つビデオ会議デバイスでのみ利用可能)。

内部: 内蔵スピーカーの RIR を測定します(内蔵スピーカーを持つビデオ会議デバイスでのみ利用できます)。

Headset: ヘッドセットの RIR を測定します(ヘッドセットを持つビデオ会議デバイスでのみ利用できます)。

すべて: すべての出力の RIR を測定します。

既定値: すべて

音量:

整数 (0..50)

テスト信号の音量です。ノイズの多い環境では、音量が大きいほど信頼性の高い堅牢な結果が得られます。

デフォルト値: 20

xCommand Audio Diagnostics AecReverb Reset

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

音響エコー キャンセリングをリセットします。このコマンドは、会議室の音響処理を変更する場合に役立ちます。これまでの適応はすべて消去され、残響時間の新しい測定が行われます。通話中はこの操作はできません。

使用方法:

```
xCommand Audio Diagnostics AecReverb Reset
```

xCommand Audio Diagnostics AecReverb Run

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

このコマンドは音響エコーキャンセラを使用して、室内の推定残響時間を推定します。これは、エンドポイントの通常の操作を中断することなく、透過的に行われます。

使用方法:

```
xCommand Audio Diagnostics AecReverb Run
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Audio Diagnostics MeasureDelay

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

このコマンドは、ビデオ会議デバイスに接続されているデバイスの音声の遅延/レイテンシを測定します。一般的な使用例は、HDMI コネクタ経由でビデオ会議デバイスに接続された TV の遅延を測定することです。テレビの遅延が大きすぎる場合、ビデオコールのリアルタイム体験は大幅に低下します。遅延が 50 ms を超える場合、遅延が短い TV 設定を探すことをお勧めします。遅延を減らすことができる一般的な TV 設定は、[ゲームモード (Gaming Mode)] および [PC モード (PC Mode)] です。

このコマンドは出力と入力 (マイク) の間の遅延を測定します。つまり、外部の音響エコーキャンセラまたは音声ミキサーを使用している場合、このコマンドはこれらのデバイスの遅延も測定します。

使用方法:

```
xCommand Audio Diagnostics MeasureDelay [MeasurementLength: MeasurementLength]
[Output: Output] [Volume: Volume]
```

値は次のとおりです。

測定長さ:

整数 (1..100)

測定の長さを秒単位で示します。ノイズの多い環境では、測定継続時間が長いほど、信頼性が高く堅牢な結果が得られます。

デフォルト値: 6

出力:

HDMI/ライン/内部/ヘッドセット/すべて

HDMI: HDMI 出力に接続されたデバイスの遅延を測定します。

ライン: ライン出力に接続されたデバイスの遅延を測定します (ライン出力のあるビデオ会議デバイスでのみ利用可能)。

内部: 内蔵スピーカーの遅延を測定します (内蔵スピーカーを持つビデオ会議デバイスでのみ利用可能)。

ヘッドセット: ヘッドセットの遅延を測定します (ヘッドセットを持つビデオ会議デバイスでのみ利用可能)。

すべて: すべての出力の最大遅延を測定します。

既定値: HDMI

音量:

整数 (0..50)

テスト信号の音量です。ノイズの多い環境では、音量が大きいほど信頼性の高い堅牢な結果が得られます。

デフォルト値: 20

xCommand Audio Equalizer List

適用先: CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール: 管理者

このコマンドは、現在のイコライザーのパラメータを一覧表示します。EqualizerId が指定されていない場合、コマンドは 8 つのイコライザーすべてを一覧表示します。

使用方法:

```
xCommand Audio Equalizer List [EqualizerId: EqualizerId]
```

値は次のとおりです。

イコライザー ID:

整数 (1..8)

各 EqualizerId には、FilterType、Frequency、Gain、Q-value のパラメータを持つ 6 つの 2 次フィルターセクションがあります。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Audio Equalizer Update

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者

8 つの音声イコライザーがあります。それぞれに 6 つの調整可能なフィルターセクションがあります。各セクションは 2 次フィルターであり、選択したイコライザーを通過する信号を変更するように構成できます。このコマンドは、選択された EqualizerId とセクションのイコライザーパラメータを設定します。

使用方法:

```
xCommand Audio Equalizer Update [Enabled: Enabled] EqualizerId: EqualizerId
FilterType: FilterType Frequency: "Frequency" Gain: "Gain" Q: "Q" Section:
Section
```

値は次のとおりです。

Enabled:

False/True
True: セクションに設定された変更が信号に適用されます。

False: シグナルに変更は適用されません。

イコライザー ID:

整数 (1..8)

変更した設定が適用される一意のイコライザーです。

フィルタタイプ:

highpass/highshelf/lowpass/lowshelf/none/peaking

曲線の形状です。

ハイパス: 与えられた周波数以下の信号を弱めます。

highshelf: 指定された周波数以上の信号を増幅または減衰します。

lowpass: 与えられた周波数以上の信号を弱めます。

lowshelf: 与えられた周波数以下の信号を増幅または減衰します。

なし: 信号の直接パススルー ([有効化: False] と同じ)。

peaking: 指定された周波数の信号を増幅または減衰します。

頻度:

文字列 (0, 32)

フィルタが調整される周波数 (Hz) です。20~20,000 の範囲の数字です。

ゲイン:

文字列 (0, 32)

フィルタタイプに応じて、全体の曲線または選択された曲線部分に適用されるデシベル [db] のゲイン。-100~20 の数値です。

Q:

文字列 (0, 32)

フィルタの「シャープさ」を示します。値が小さいほど、曲線が滑らかになります。0.1~50 の数値です。

Section:

整数 (1..6)

各音声イコライザーには 6 つの調整可能なフィルターセクションがあります。各セクションは 2 次フィルターであり、選択したイコライザーを通過する信号を変更するように構成できます。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Audio LocalInput Add

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者

仮想ローカル入力を作成し、その識別子を生成します (InputId)。ローカル入力は入力コネクタのセットと関連付けられ、以下を指定することができます: ローカル入力の名前、関連付けられた入力コネクタからの信号の混合方法、自動ゲインコントロール (AGC) とミュートの使用、モノラルまたはステレオ信号を作成し、入力処理をバイパスするためにダイレクト モードを使用するかどうかを指定します。

ローカル入力モジュールの最大数は 8 です。制限を超えると、エラーメッセージが表示されます。

このコマンドは Audio Console による内部使用を想定しています。Audio Console を使用しない場合、再起動後も定義を永続させるために、スタートアップスクリプトにコマンドを手動で追加するか、マクロフレームワークを使用する必要があります。

使用方法:

```
xCommand Audio LocalInput Add [InputId: InputId] [Name: "Name"] [AGC: AGC]  
[Channels: Channels] [Direct: Direct] [MixerMode: MixerMode] [Mute: Mute]
```

値は次のとおりです。

InputId:

整数 (0..65534)

ローカル入力の一意の識別子です。InputID を指定しない場合、デバイスは自動的に一つを作成します。後の段階でローカル入力を参照する必要がある場合に備えて、自分で InputId を指定することをお勧めします。

名前:

文字列 (0, 255)

ローカル入力を説明する名前を選択します。名前を指定しない場合、文字列は空になります。

AGC:

On/Off

On: ゲインを連続的に調整して、一定のサウンドレベルを維持します (デフォルト)。

Off: 自動ゲインコントロールを行いません。

チャンネル:

整数 (1..2)

1: 入力信号をモノラル信号にミックスします(既定)。

2: 入力信号をステレオ信号にミックスします。

直通:

On/Off

On: 各入力コネクタの設定を無視して、アコースティック エコー キャンセリングやノイズ除去などの入力処理をバイパスします。入力処理をバイパスすることで、ローカル SR を実行するときに便利な音声入力の遅延が減少します。

Off: 各コネクタの構成に従って、すべての通常の入力処理が実行されます (デフォルト)。

ミキサーモード:

Auto/Fixed/GainShared

Auto: 1 つの入力信号が支配的である場合、他のコネクタの信号は、それぞれ 20 デシベルで減衰されます。

固定: 入力信号はすべて同じ重みをもつため、等しいゲインで混合されます (デフォルト)。

GainShared: 1 つまたはいくつかの入力信号が支配的である場合、残りの入力信号は、ミックスされた信号の総ゲインが常に同じままであるように、数 dB で減衰されます。

Auto および GainShared はマイク入力用です。回線および HDMI 入力には Fixed を推奨します。

ミュート:

On/Off

On: 入力信号のミックスをミュートします (デフォルト)。

Off: ミュートしません。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Audio LocalInput AddConnector

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者

入力 ID で指定されたローカル入力に入力コネクタを接続します。コネクタを一意に識別するために、コネクタのタイプと番号 (ConnectorType、ConnectorId) の両方を指定する必要があります。コネクタは 1 つのローカル入力にのみ接続できます。

xStatus 音声入力ローカル入力を実行して、すべてのローカル入力の概要を取得します。

このコマンドは Audio Console による内部使用を想定しています。Audio Console を使用しない場合、再起動後も定義を永続させるために、スタートアップスクリプトにコマンドを手動で追加するか、マクロフレームワークを使用する必要があります。

使用方法:

xCommand Audio LocalInput AddConnector InputId: InputId ConnectorType: ConnectorType ConnectorId: ConnectorId

値は次のとおりです。

InputId:

整数 (0..65534)

ローカル入力の一意の識別子です。これは、ローカル入力 xCommand Audio LocalInput Add コマンドで作成されたときに生成されました。

ConnectorType:

ARC/HDMI/Microphone/WebView [*CodecPro Room70G2*]

ARC/Ethernet/HDMI/Microphone/WebView [*RoomPanorama/Room70Panorama*]

コネクタタイプを選択します。

ARC: ARC 対応 HDMI (音声リターンチャンネル) は入力コネクタです。

Ethernet (Panorama のみ): イーサネットケーブル入力コネクタ。

HDMI: HDMI ケーブル入力コネクタ。

Microphone: マイク入力コネクタ。

WebView: WebView 入力コネクタ。

コネクタ ID:

HDMI コネクタの場合は整数(1..5)、ARC(Audio Return Channel)コネクタ付き HDMI の場合は整数(1..3)、マイクコネクタの場合は整数(1..8)、WebView コネクタの場合は整数(1..8)

コネクタを選択します。コネクタの番号は、コーデック コネクタ パネルに印刷されています。

xCommand Audio LocalInput Remove

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者

入力 ID で指定されたローカル入力を削除します。

xStatus 音声入力ローカル入力を実行して、すべてのローカル入力の概要を取得します。

このコマンドは Audio Console による内部使用を想定しています。Audio Console を使用しない場合、再起動後も定義を永続させるために、スタートアップスクリプトにコマンドを手動で追加するか、マクロフレームワークを使用する必要があります。

使用方法:

xCommand Audio LocalInput Remove InputId: InputId

値は次のとおりです。

InputId:

整数 (0..65534)

ローカル入力の一意の識別子です。これは、ローカル入力 xCommand Audio LocalInput Add コマンドで作成されたときに生成されました。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Audio LocalInput RemoveConnector

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者

入力 ID で指定されたローカル入力から入力コネクタを切り離します。コネクタを一意に識別するために、コネクタのタイプと番号 (ConnectorType, ConnectorId) の両方を入力する必要があります。

xStatus 音声入力ローカル入力を実行して、すべてのローカル入力の概要を取得します。

このコマンドは Audio Console による内部使用を想定しています。Audio Console を使用しない場合、再起動後も定義を永続させるために、スタートアップスクリプトにコマンドを手動で追加するか、マクロフレームワークを使用する必要があります。

使用方法:

```
xCommand Audio LocalInput RemoveConnector InputId: InputId ConnectorType: ConnectorType ConnectorId: ConnectorId
```

値は次のとおりです。

InputId:

整数 (0..65534)

ローカル入力の一意的識別子です。これは、ローカル入力 xCommand Audio LocalInput Add コマンドで作成されたときに生成されました。

ConnectorType:

ARC/HDMI/Microphone/WebView [CodecPro Room70G2]

ARC/Ethernet/HDMI/Microphone/WebView [RoomPanorama/Room70Panorama]

コネクタタイプを選択します。

ARC: ARC 対応 HDMI (音声リターンチャンネル) は入力コネクタです。

Ethernet (Panorama のみ): イーサネットケーブル入力コネクタ。

HDMI: HDMI ケーブル入力コネクタ。

マイク: マイク入力コネクタ。

WebView: WebView 入力コネクタ。

コネクタ ID:

HDMI コネクタの場合は整数(1..5)、ARC(Audio Return Channel)コネクタ付き HDMI の場合は整数(1..3)、マイクコネクタの場合は整数(1..8)、WebView コネクタの場合は整数(1..8)

コネクタを選択します。コネクタの番号は、コーデック コネクタ パネルに印刷されています。

xCommand Audio LocalInput Update

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者

入力 ID で指定されたローカル入力の設定を更新します。

xStatus 音声入力ローカル入力を実行して、すべてのローカル入力の概要を取得します。

このコマンドは Audio Console による内部使用を想定しています。Audio Console を使用しない場合、再起動後も定義を永続させるために、スタートアップスクリプトにコマンドを手動で追加するか、マクロフレームワークを使用する必要があります。

使用方法:

```
xCommand Audio LocalInput Update InputId: InputId [Name: "Name"] [AGC: AGC] [Channels: Channels] [Direct: Direct] [MixerMode: MixerMode] [Mute: Mute]
```

値は次のとおりです。

InputId:

整数 (0..65534)

ローカル入力の一意的識別子です。これは、ローカル入力 xCommand Audio LocalInput Add コマンドで作成されたときに生成されました。

名前:

文字列 (0, 255)

ローカル入力を説明する名前を選択します。

AGC:

On/Off

On: 一定のサウンドレベルを維持するために、ゲインを連続的に調整します。

Off: 自動ゲインコントロールを行いません。

チャンネル:

整数 (1..2)

1: 入力信号をモノラル信号にミックスします。

2: 入力信号をステレオ信号にミックスします。

直通:

On/Off

On: 接続されている各入力コネクタの設定に関係なく、アコースティックエコーキャンセリングやノイズ除去などの入力処理をバイパスします。入力処理をバイパスすることで、ローカル SR を実行するときに便利な音声入力の遅延が減少します。

Off: 各コネクタの構成に従って、すべての通常の入力処理が実行されます。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ミキサーモード:

Auto/Fixed/GainShared

Auto: 1 つの入力信号が支配的である場合、他のコネクタの信号は、それぞれ 20 デシベルで減衰されます。

Fixed: 入力信号はすべて同じ重みをもつため、等しいゲインで混合されます。

GainShared: 1 つまたはいくつかの入力信号が支配的である場合、残りの入力信号は、ミックスされた信号の総ゲインが常に同じままであるように、数 dB で減衰されます。

Auto および GainShared はマイク用です。回線および HDMI 入力には Fixed を推奨します。

ミュート:

On/Off

On: 入力信号のミックスをミュートします。

Off: ミュートしません。

xCommand Audio LocalOutput Add

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者

バーチャルローカル出力を作成し、識別子を生成します (OutputId)。ローカル出力はローカル入力とリモート入力信号の混合です。xCommand Audio LocalOutput ConnectInput コマンドを使用して、含めるローカル入力を指定します。デフォルトでは、リモート入力信号 (遠端から) は、通話時に自動的にこのローカル出力に追加されます。デフォルトの動作をオーバーライドする場合は、AutoconnectRemote パラメータを使用します。ローカル出力は、すべて同じ信号を受信する出力コネクタのセットと関連付けられます。

ローカル出力モジュールの最大数は 6 です。制限を超えると、エラーメッセージが表示されます。

このコマンドは Audio Console による内部使用を想定しています。Audio Console を使用しない場合、再起動後も定義を永続させるために、スタートアップスクリプトにコマンドを手動で追加するか、マクロフレームワークを使用する必要があります。

使用方法:

```
xCommand Audio LocalOutput Add [OutputId: OutputId] [Name: "Name"]
[AutoconnectRemote: AutoconnectRemote] [Loudspeaker: Loudspeaker] [Channels:
Channels] [VolumeControlled: VolumeControlled]
```

値は次のとおりです。

出力 ID:

整数 (0..65534)

ローカル出力の一意の識別子です。OutputId を指定しない場合、デバイスは自動的に一つを作成します。後の段階で出力モジュールを参照する必要がある場合に備えて、自分で OutputId を指定することをお勧めします。

デフォルト値: 0

名前:

文字列 (0, 255)

ローカル出力を説明する名前を選んでください。

既定値: ""

AutoconnectRemote:

On/Off

On: 通話中、リモート入力信号は自動的にローカル出力に追加されます。

Off: リモート入力信号はローカル出力に追加されません。

既定値: On

スピーカー:

On/Off



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

On: 少なくとも 1 つの関連コネクタがスピーカーに接続されている場合、On を選択します。これは、エコー キャンセラにこの信号を基準信号として使用するよう指示するため、重要です。

Off: ラウドスピーカーが関連するコネクタに接続されていない場合は Off を選択します。ローカル出力の 1 つだけにラウドスピーカーを接続する必要があることに注意してください。

既定値: Off

チャンネル:

整数 (1..2)

- 1: ローカルおよびリモートの入力信号をモノラル信号にミックスします。
- 2: ローカルおよびリモートの入力信号をミックスしてステレオ信号にします。

デフォルト値: 1

VolumeControlled:

On/Off

On: 音量は、ユーザーインターフェイスの音量コントロール、または xCommand Audio Volume コマンドで設定されたレベルに従って変化します。スピーカーがOnの場合、ここでの指定に関係なく、音量コントロールは強制的にOnになります。

Off: 音量は、ユーザーインターフェイスの音量コントロールや、xCommand Audio Volume コマンドの影響を受けません。

既定値: Off

xCommand Audio LocalOutput AddConnector

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者

出力 ID で指定されたローカル出力に出力コネクタを接続します。コネクタを一意に識別するために、コネクタのタイプと番号 (ConnectorType、ConnectorId) の両方を指定する必要があります。コネクタは 1 つのローカル出力にのみ接続できます。

xStatus 音声出力 LocalOutput を実行して、すべてのローカル出力の概要を取得します。

このコマンドは Audio Console による内部使用を想定しています。Audio Console を使用しない場合、再起動後も定義を永続させるために、スタートアップスクリプトにコマンドを手動で追加するか、マクロフレームワークを使用する必要があります。

使用方法:

xCommand Audio LocalOutput AddConnector OutputId: OutputId ConnectorType: ConnectorType ConnectorId: ConnectorId

値は次のとおりです。

出力 ID:

整数 (0..65534)

ローカル出力の一意的識別子です。これは、ローカル出力が xCommand Audio LocalOutput Add コマンドで作成されたときに生成されたものです。

ConnectorType:

ARC/HDMI/Line [*CodecPro*]

ARC/HDMI/InternalSpeaker/Line [*Room70G2*]

Room Panorama の場合、ARC/Ethernet/InternalSpeaker/Line;

Room 70 Panorama の場合: ARC/HDMI/InternalSpeaker/Line [*RoomPanorama/Room70Panorama*]

コネクタタイプを選択します。

コネクタ ID:

ARC: ARC (Audio Return Channel)コネクタ付き HDMI の場合は整数(1..1)、HDMI: HDMI コネクタの場合は整数(1..3)、Line: 回線出力コネクタの場合は整数(1..6); [*CodecPro*]

ARC: のARC (Audio Return Channel)コネクタ付き HDMI の場合は整数(1..1)、HDMI: HDMI コネクタの場合は整数(1..3)、InternalSpeaker: 内蔵スピーカー処理の場合は整数(1..1)、Line: 回線出力コネクタの場合は整数(1..6)[*Room70G2*]

Room Panorama: ARC: ARC (Audio Return Channel)コネクタ付き HDMI の場合は整数(1..1)、Ethernet: イーサネット経由の音声の場合は整数(1..1)、InternalSpeaker: 内蔵スピーカー処理の場合は整数(1..1)、Line: 回線出力コネクタの場合は整数(1..6)。

Room 70 Panorama: ARC: ARC (Audio Return Channel)コネクタ付き HDMI の場合は整数(1..1)、HDMI: HDMI コネクタの場合は整数(1..3)、InternalSpeaker: 内蔵スピーカー処理の場合は整数(1..1)、Line: 回線出力コネクタの場合は整数(1..6)。 [*RoomPanorama/Room70Panorama*]

コネクタを選択します。コネクタの番号は、コーデック コネクタ パネルに印刷されています。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Audio LocalOutput ConnectInput

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者

ID をパラメータとして指定することで、ローカルまたはリモートの入力をローカルの出力に接続します。ローカル入力は任意の数のローカル出力に接続できます。同様に、任意の数のローカル入力を各ローカル出力に接続することができます。通話が発信されると、リモート入力信号（遠端から）がすべてのローカル出力に自動的に追加され、通話が終了すると自動的に切断されることに注意してください。

xStatus Audio Output LocalOutput を実行してすべてのローカル出力の概要を取得し、xStatus Audio Input LocalInput を実行してすべてのローカル入力の概要を取得し、xStatus Audio Input RemoteInput を実行してリモート入力の詳細を確認します。

このコマンドは Audio Console による内部使用を想定しています。Audio Console を使用しない場合、再起動後も定義を永続させるために、スタートアップスクリプトにコマンドを手動で追加するか、マクロフレームワークを使用する必要があります。

使用方法:

```
xCommand Audio LocalOutput ConnectInput OutputId: OutputId InputId: InputId
[InputGain: InputGain]
```

値は次のとおりです。

出力 ID:

整数 (0..65534)

ローカル出力の一意の識別子です。これは、ローカル出力が xCommand Audio LocalOutput Add コマンドで作成されたときに生成されたものです。

InputId:

整数 (0..65534)

ローカルまたはリモートの入力の一意の識別子です。ローカル入力の ID は、ローカル入力が xCommand Audio Local Input Add コマンドで作成されたときに生成されます。リモート入力の ID は、発信時に自動的に生成されます。

入力ゲイン:

整数 (-54..15)

入力信号のゲインを設定します。ゲインは負の値になることもあります（減衰）。-54 dB の値は Off と同等です。

デフォルト値: 0

xCommand Audio LocalOutput DisconnectInput

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者

ローカルまたはリモート入力をローカル出力から切断します。コールが終了すると、リモート入力信号（遠端から）は自動的に切断されることに注意してください。

xStatus Audio Output LocalOutput を実行してすべてのローカル出力の概要を取得し、xStatus Audio Input LocalInput を実行してすべてのローカル入力の概要を取得し、xStatus Audio Input RemoteInput を実行してリモート入力の詳細を確認します。

このコマンドは Audio Console による内部使用を想定しています。Audio Console を使用しない場合、再起動後も定義を永続させるために、スタートアップスクリプトにコマンドを手動で追加するか、マクロフレームワークを使用する必要があります。

使用方法:

```
xCommand Audio LocalOutput DisconnectInput OutputId: OutputId InputId: InputId
```

値は次のとおりです。

出力 ID:

整数 (0..65534)

ローカル出力の一意の識別子です。これは、ローカル出力が xCommand Audio LocalOutput Add コマンドで作成されたときに生成されたものです。

InputId:

整数 (0..65534)

ローカルまたはリモートの入力の一意の識別子です。ローカル入力の ID は、ローカル入力が xCommand Audio Local Input Add コマンドで作成されたときに生成されます。リモート入力の ID は、発信時に自動的に生成されます。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Audio LocalOutput Remove

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者

出力 ID で指定されたローカル出力を削除します。

xStatus 音声出力 LocalOutput を実行して、すべてのローカル出力の概要を取得します。

このコマンドは Audio Console による内部使用を想定しています。Audio Console を使用しない場合、再起動後も定義を永続させるために、スタートアップスクリプトにコマンドを手動で追加するか、マクロフレームワークを使用する必要があります。

使用方法:

xCommand Audio LocalOutput Remove OutputId: OutputId

値は次のとおりです。

出力 ID:

整数 (0..65534)

ローカル出力の一意の識別子です。これは、ローカル出力が xCommand Audio LocalOutput Add コマンドで作成されたときに生成されたものです。

xCommand Audio LocalOutput RemoveConnector

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者

出力 ID で指定されたローカル出力から出力コネクタを切り離します。コネクタを一意に識別するために、コネクタのタイプと番号 (ConnectorType, ConnectorId) の両方を入力する必要があります。

xStatus 音声出力 LocalOutput を実行して、すべてのローカル出力の概要を取得します。

このコマンドは Audio Console による内部使用を想定しています。Audio Console を使用しない場合、再起動後も定義を永続させるために、スタートアップスクリプトにコマンドを手動で追加するか、マクロフレームワークを使用する必要があります。

使用方法:

xCommand Audio LocalOutput RemoveConnector OutputId: OutputId ConnectorType: ConnectorType ConnectorId: ConnectorId

値は次のとおりです。

出力 ID:

整数 (0..65534)

ローカル出力の一意の識別子です。これは、ローカル出力が xCommand Audio LocalOutput Add コマンドで作成されたときに生成されたものです。

ConnectorType:

ARC/HDMI/Line [*CodecPro*]

ARC/HDMI/InternalSpeaker/Line [*Room70G2*]

Room Panorama の場合、ARC/Ethernet/InternalSpeaker/Line;

Room 70 Panorama の場合: ARC/HDMI/InternalSpeaker/Line [*RoomPanorama/Room70Panorama*]

コネクタタイプを選択します。

コネクタ ID:

ARC: ARC (Audio Return Channel)コネクタ付き HDMI の場合は整数(1..1)、HDMI: HDMI コネクタの場合は整数(1..3)、Line: 回線出力コネクタの場合は整数(1..6); [*CodecPro*]

ARC: のARC (Audio Return Channel)コネクタ付き HDMI の場合は整数(1..1)、HDMI: HDMI コネクタの場合は整数(1..3)、InternalSpeaker: 内蔵スピーカー処理の場合は整数(1..1)、Line: 回線出力コネクタの場合は整数(1..6)[*Room70G2*]

Room Panorama: ARC: ARC (Audio Return Channel)コネクタ付き HDMI の場合は整数(1..1)、Ethernet: イーサネット経由の音声の場合は整数(1..1)、InternalSpeaker: 内蔵スピーカー処理の場合は整数(1..1)、Line: 回線出力コネクタの場合は整数(1..6)。

Room 70 Panorama: ARC: ARC (Audio Return Channel)コネクタ付き HDMI の場合は整数(1..1)、HDMI: HDMI コネクタの場合は整数(1..3)、InternalSpeaker: 内蔵スピーカー処理の場合は整数(1..1)、Line: 回線出力コネクタの場合は整数(1..6)。 [*RoomPanorama/Room70Panorama*]

コネクタを選択します。コネクタの番号は、コーデック コネクタ パネルに印刷されています。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Audio LocalOutput Update

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者

出力 ID で指定されたローカル出力の設定を更新します。

xStatus 音声出力 LocalOutput を実行して、すべてのローカル出力の概要を取得します。

このコマンドは Audio Console による内部使用を想定しています。Audio Console を使用しない場合、再起動後も定義を永続させるために、スタートアップスクリプトにコマンドを手動で追加するか、マクロフレームワークを使用する必要があります。

使用方法:

```
xCommand Audio LocalOutput Update OutputId: OutputId [Name: "Name"]
[AutoconnectRemote: AutoconnectRemote] [Loudspeaker: Loudspeaker] [Channels:
Channels] [VolumeControlled: VolumeControlled]
```

値は次のとおりです。

出力 ID:

整数 (0..65534)

ローカル出力の一意の識別子です。これは、ローカル出力が xCommand Audio LocalOutput Add コマンドで作成されたときに生成されたものです。

名前:

文字列 (0, 255)

ローカル出力を説明する名前を選択します。

AutoconnectRemote:

On/Off

On: 通話中、リモート入力信号は自動的にローカル出力に追加されます。

Off: リモート入力信号はローカル出力に追加されません。

スピーカー:

On/Off

On: 関連するコネクタの少なくとも 1 つがスピーカーに接続されている場合は [On] を選択します。これは、エコー キャンセラにこの信号を基準信号として使用するよう指示するため、重要です。

Off: ラウドスピーカーが関連するコネクタに接続されていない場合は Off を選択します。ローカル出力の 1 つだけにラウドスピーカーを接続する必要があることに注意してください。

チャンネル:

整数 (1..2)

1: ローカルおよびリモートの入力信号をモノラル信号にミックスします。

2: ローカルおよびリモートの入力信号をミックスしてステレオ信号にします。

音量制御:

On/Off

On: 音量は、ユーザ インターフェイスの音量コントロール、または xCommand Audio Volume コマンドで設定されたレベルに従って変化します。ラウドスピーカーが On の場合、ここでの指定に関係なく、ボリュームコントロールは強制的に On になります。

Off: 音量は、ユーザ インターフェイスの音量コントロールや、xCommand Audio Volume コマンドの影響を受けません。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Audio LocalOutput UpdateInputGain

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者

ローカル出力に接続されているローカルまたはリモート入力のゲインを更新します。通話が発信されると、リモート入力信号（遠端から）がすべてのローカル出力に自動的に追加され、通話が終了すると自動的に切断されることに注意してください。

xStatus Audio Output LocalOutput を実行してすべてのローカル出力の概要を取得し、xStatus Audio Input LocalInput を実行してすべてのローカル入力の概要を取得し、xStatus Audio Input RemoteInput を実行してリモート入力の詳細を確認します。

このコマンドは Audio Console による内部使用を想定しています。Audio Console を使用しない場合、再起動後も定義を永続させるために、スタートアップスクリプトにコマンドを手動で追加するか、マクロフレームワークを使用する必要があります。

使用方法:

```
xCommand Audio LocalOutput UpdateInputGain [InputGain: InputGain] InputId: InputId OutputId: OutputId
```

値は次のとおりです。

入力ゲイン:

整数 (-54..15)

入力信号のゲインを設定します。ゲインは負の値になることもあります (減衰)。-54 dB の値は Off と同等です。

デフォルト値: 0

InputId:

整数 (0..65534)

ローカルまたはリモートの入力の一意の識別子です。ローカル入力の ID は、ローカル入力がある xCommand Audio Local Input Add コマンドで作成されたときに生成されます。リモート入力の ID は、発信時に自動的に生成されます。

出力 ID:

整数 (0..65534)

ローカル出力の一意の識別子です。これは、ローカル出力がある xCommand Audio LocalOutput Add コマンドで作成されたときに生成されたものです。

xCommand Audio Microphones MusicMode Start

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

現在の通話でミュージックモードの使用を開始します。ミュージックモードを使用すると、音楽のダイナミックレンジが通過できます。ミュージックモードが使用されている場合、音量レベルの変動はそのまま送信され、ノイズフィルタリングは最小限に抑えられます。通話が終了すると、ミュージックモードは自動的に Off になります。

使用方法:

```
xCommand Audio Microphones MusicMode Start
```

xCommand Audio Microphones MusicMode Stop

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

現在の通話でのミュージックモードの使用を停止します。

使用方法:

```
xCommand Audio Microphones MusicMode Stop
```

xCommand Audio Microphones Mute

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

すべてのマイクをミュートします。

使用方法:

```
xCommand Audio Microphones Mute
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Audio Microphones NoiseRemoval Activate

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

デバイスのノイズ除去を有効にします。

これを有効にするには、xConfiguration Audio Microphones NoiseRemoval Mode を有効にして、デバイスのノイズ除去機能を有効にする必要があります。

使用方法:

```
xCommand Audio Microphones NoiseRemoval Activate
```

xCommand Audio Microphones NoiseRemoval Deactivate

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

デバイスのノイズ除去を無効にします。

使用方法:

```
xCommand Audio Microphones NoiseRemoval Deactivate
```

xCommand Audio Microphones ToggleMute

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

マイクのミュートとミュート解除を切り替えます。

使用方法:

```
xCommand Audio Microphones ToggleMute
```

xCommand Audio Microphones Unmute

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

すべてのマイクをミュート解除する。

使用方法:

```
xCommand Audio Microphones Unmute
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Audio RemoteOutput ConnectInput

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者

ID をパラメータとして指定することで、入力をリモート出力に接続します。入力は任意の数のリモート出力ゲートに接続でき、任意の数の入力は 1 つのリモート出力ゲートに接続できます。発信すると、すべてのローカル入力がすべてのリモート出力ゲートに自動的に追加され、通話が終了すると自動的に切断されることに注意してください。

xStatus 音声入力ローカル入力を実行して、すべてのローカル入力の概要を取得します。
このコマンドは Audio Console による内部使用を想定しています。通話中のみ有効です。

使用方法:

```
xCommand Audio RemoteOutput ConnectInput OutputId: OutputId InputId: InputId
[InputGain: InputGain]
```

値は次のとおりです。

出力 ID:

整数 (0..65534)

リモート出力の一意の識別子です。これは発信時に自動的に生成されたものです。

InputId:

整数 (0..65534)

入力の一意の識別子。これは、xCommand Audio Local Input Add コマンドで入力を作成されたとき、または通話がセットアップされたとき (リモート入力) に生成されました。

入力ゲイン:

整数 (-54..15)

入力信号のゲインを設定します。ゲインは負の値になることもあります (減衰)。-54 dB の値は Off と同等です。

デフォルト値: 0

xCommand Audio RemoteOutput DisconnectInput

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者

ID をパラメータとして指定することで、リモート出力から入力を切断します。通話が終了すると、リモート出力は自動的に削除されることに注意してください。

xStatus Audio Output RemoteOutput を実行してリモート出力の概要を取得し、xStatus Audio Input LocalInput を実行してすべてのローカル入力の概要を取得します。

このコマンドは Audio Console による内部使用を想定しています。通話中のみ有効です。

使用方法:

```
xCommand Audio RemoteOutput DisconnectInput OutputId: OutputId InputId: InputId
値は次のとおりです。
```

出力 ID:

整数 (0..65534)

リモート出力の一意の識別子です。これは発信時に自動的に生成されたものです。

InputId:

整数 (0..65534)

入力の一意の識別子。これは、xCommand Audio Local Input Add コマンドで入力を作成されたとき、または通話がセットアップされたとき (リモート入力) に生成されました。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Audio RemoteOutput UpdateInputGain

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者

リモート出力に接続されている入力のゲインを更新します。通話が終了すると、リモート出力は自動的に削除されることに注意してください。

xStatus Audio Output RemoteOutput を実行してリモート出力の概要を取得し、xStatus Audio Input LocalInput を実行してすべてのローカル入力の概要を取得します。

このコマンドは Audio Console による内部使用を想定しています。通話中のみ有効です。

使用方法:

xCommand Audio RemoteOutput UpdateInputGain [InputGain: InputGain] InputId: InputId OutputId: OutputId

値は次のとおりです。

入力ゲイン:

整数 (-54..15)

入力信号のゲインを設定します。ゲインは負の値になることもあります (減衰)。-54 dB の値は Off と同等です。

デフォルト値: 0

InputId:

整数 (0..65534)

入力の一意の識別子。これは、xCommand Audio Local Input Add コマンドで入力を作成されたとき、または通話がセットアップされたとき (リモート入力) に生成されました。

出力 ID:

整数 (0..65534)

リモート出力の一意の識別子です。これは発信時に自動的に生成されたものです。

xCommand Audio Select

適用先: *RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

使用する音声デバイスのタイプを選択します (内蔵スピーカーとマイク、ヘッドセット、またはハンドセット)。

使用方法:

xCommand Audio Select Device: Device

値は次のとおりです。

デバイス:

Internal/HeadsetBluetooth/HeadsetAnalog/HeadsetUSB/HandsetUSB

内蔵スピーカーとマイク (内蔵)、Bluetooth® ヘッドセット (Desk Pro および Desk 限定版のみ)、アナログ ヘッドセット (Desk Pro および Desk 限定版のみ)、USB ヘッドセット、USB ハンドセットのいずれを使用するかを選択します。

xCommand Audio Setup Clear

適用対象: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者

すべてのローカル入力とローカル出力を削除します。

使用方法:

xCommand Audio Setup Clear

xCommand Audio Setup Reset

適用対象: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者

このコマンドは、ビデオ会議デバイスの音声設定をリセットします (音声コンソール アプリケーションまたは API コマンドを使用して設定)。すべてのローカル入力とローカル出力を削除し、コネクタとグループをデフォルト値に戻し、再起動後と同じように音声設定を再構築します。

使用方法:

xCommand Audio Setup Reset



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Audio Sound Play

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

指定されたオーディオサウンドを再生します。

使用方法:

xCommand Audio Sound Play [Loop: Loop] Sound: Sound

値は次のとおりです。

ループ:

Off/On

音声の再生をループさせるかどうかを指定します。既定では、音声はループします。このパラメータの設定に関係なく、Audio Sound Stop コマンドが発行されるまで、一部のサウンド (ビジー、コールウェイティング、ダイヤル、呼び出し中、SpecialInfo) が再生され続けます。

既定値: Off

サウンド:

Alert/Announcement/Binding/Bump/Busy/CallDisconnect/CallInitiate/CallWaiting/Dial/KeyInput/KeyInputDelete/KeyTone/Nav/NavBack/Notification/OK/Pairing/PresentationConnect/Ringing/SignIn/SpecialInfo/StartListening/TelephoneCall/VideoCall/VolumeAdjust/WakeUp

再生する着信音を選択します。

xCommand Audio Sound Stop

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

音声の再生を停止します。

使用方法:

xCommand Audio Sound Stop

xCommand Audio SpeakerCheck

適用対象: Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

すべての内蔵スピーカーが正しく接続されていることを確認するためのテストを実行します。テスト音が各スピーカーから左から順に発せられます。スピーカーが正しい順序で再生されない場合、正しい順序を得るために、スピーカーケーブルを再接続してください。すべてのスピーカーはテストシーケンスの一部であり、テストシーケンスが正しく再生されることを確認するには、デバイスと同じ会議室にいます必要があります。

デバイスは接続されたマイクを使用してテスト信号をリッスンし、テストの結果が API で返されます。

使用方法:

xCommand Audio SpeakerCheck [MeasurementLength: MeasurementLength] [Volume: Volume]

値は次のとおりです。

測定長さ:

整数 (1..5)

各スピーカーのテスト信号の継続時間 (秒)。

デフォルト値: 1

音量:

整数 (1..30)

信号レベルをテストします。

デフォルト値: 1

xCommand Audio SoundsAndAlerts Ringtone List

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

利用可能なすべての着信音を一覧表示します。xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingTone 設定を使用して、着信音を選択します。

使用方法:

xCommand Audio SoundsAndAlerts Ringtone List



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Audio SoundsAndAlerts Ringtone Play

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

いずれかの着信音を再生します。xCommand Audio SoundsAndAlerts Ringtone List コマンドを使用して、利用可能な着信音のリストを取得します。

使用方法:

xCommand Audio SoundsAndAlerts Ringtone Play [Loop: Loop] RingTone: "RingTone"
値は次のとおりです。

ループ:

On/Off

選択した着信音をループで繰り返します。音声をOffにするには、Audio SoundsAndAlerts Ringtone Stop xCommand を使用します。

既定値: Off

呼び出し音:

文字列 (1, 100)

着信音の名前です。

xCommand Audio SoundsAndAlerts Ringtone Stop

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

選択した着信音の再生を停止します。着信音の再生を再び開始するには、Audio SoundsAndAlerts Ringtone Play xCommand を使用します。

使用方法:

xCommand Audio SoundsAndAlerts Ringtone Stop

xCommand Audio Volume Decrease

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ビデオ会議デバイスの音量を下げます。既定では、音量は 5 段階で小さくなります (各段階は 0.5db です)。デフォルトの動作を上書きする場合は、[ステップ] パラメータを使用します。

Desk Pro、Desk Limited Edition、Room Kit、Room Kit Mini、および Room 55 には、内蔵スピーカー、ヘッドセット、およびハンドセットの複数の音声ユニットがあります。このコマンドは一度に 1 つのユニットにしか作用しません。オプションの Device パラメータを使用して、どのオーディオデバイスをアドレス指定するかを指定することができます。ユニットを指定しない場合、最後に選択されたユニットが選択されます (xStatus Audio SelectedDevice を参照)。xCommand Audio Select も参照してください。

使用方法:

xCommand Audio Volume Decrease [Device: Device] [Steps: Steps]

値は次のとおりです。

端末: [RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE]

Internal/HeadsetBluetooth/HeadsetAnalog/HeadsetUSB/HandsetUSB [DeskPro/DeskLE]

内蔵/ヘッドセット USB/ハンドセット USB [RoomKit RoomKitMini Room55]

内蔵スピーカー、Bluetooth ヘッドセット (Desk Pro および Desk 限定版のみ)、アナログ ヘッドセット (Desk Pro および Desk 限定版のみ)、USB ヘッドセット、または USB ハンドセットの音量を下げるかどうかを選択します。

手順:

整数 (1..10)

音量を下げるステップ数を選択します。各段階は 0.5dB です。

デフォルト値: 5



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Audio Volume Increase

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ビデオ会議端末の音量を上げてください。デフォルトでは、音量は 5 段階ずつ大きくなります (各段階は 0.5dB です)。デフォルトの動作を上書きする場合は、[ステップ] パラメータを使用します。

Desk Pro, Desk Limited Edition, Room Kit, Room Kit Mini, および Room 55 には、内蔵スピーカー、ヘッドセット、およびハンドセットの複数の音声ユニットがあります。このコマンドは一度に 1 つのユニットにしか作用しません。オプションの Device パラメータを使用して、どのオーディオデバイスをアドレス指定するかを指定することができます。ユニットを指定しない場合、最後に選択されたユニットが選択されます (xStatus Audio SelectedDevice を参照)。xCommand の音声選択も参照してください。

使用方法:

```
xCommand Audio Volume Increase [Device: Device] [Steps: Steps]
```

値は次のとおりです。

端末: [RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE]

Internal/HeadsetBluetooth/HeadsetAnalog/HeadsetUSB/HandsetUSB [DeskPro/DeskLE]

内蔵/ヘッドセット USB/ハンドセット USB [RoomKit RoomKitMini Room55]

内蔵スピーカー、Bluetooth ヘッドセット (Desk Pro および Desk Limited Edition のみ)、アナログヘッドセット (Desk Pro および Desk Limited Edition のみ)、USB ヘッドセット、または USB ハンドセットのいずれかの音量を大きくするかどうかを選択します。

手順:

整数 (1..10)

音量を上げるための段階数を選択します。各段階は 0.5dB です。

デフォルト値: 5

xCommand Audio Volume Mute

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ビデオ会議端末の音量をミュートにします。

Desk Pro, Desk Limited Edition, Room Kit, Room Kit Mini, および Room 55 には、内蔵スピーカー、ヘッドセット、およびハンドセットの複数の音声ユニットがあります。このコマンドは選択した audio ユニットにのみ影響します。詳細については、xStatus Audio SelectedDevice および xCommand Audio Select コマンドを参照してください。

使用方法:

```
xCommand Audio Volume Mute
```

xCommand Audio Volume Set

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ビデオ会議デバイスの音量を指定の音量に設定します。

Desk Pro, Desk Limited Edition, Room Kit, Room Kit Mini, および Room 55 には、内蔵スピーカー、ヘッドセット、およびハンドセットの複数の音声ユニットがあります。このコマンドは一度に 1 つのユニットにしか作用しません。オプションの Device パラメータを使用して、アドレス指定するユニットを指定できます。ユニットを指定しない場合、最後に選択されたユニットが選択されます (xStatus Audio SelectedDevice を参照)。xCommand Audio Select も参照してください。

使用方法:

```
xCommand Audio Volume Set [Device: Device] Level: Level
```

値は次のとおりです。

端末: [RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE]

Internal/HeadsetBluetooth/HeadsetAnalog/HeadsetUSB/HandsetUSB [DeskPro/DeskLE]

内蔵/ヘッドセット USB/ハンドセット USB [RoomKit RoomKitMini Room55]

内蔵スピーカー、Bluetooth ヘッドセット (Desk Pro および Desk Limited Edition のみ)、アナログヘッドセット (Desk Pro および Desk Limited Edition のみ)、USB ヘッドセット、または USB ハンドセットのいずれの音量を設定するかを選択します。

レベル:

整数 (0..100)

ゲインレベルを選択します。70 は 0 デシベルゲインに等しく、100 は 15 デシベルゲインに等しくなります。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Audio Volume SetToDefault

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

音量を xConfiguration Audio DefaultVolume 設定で定義されているデフォルトレベルに設定します。Desk Pro, Desk Limited Edition, Room Kit, Room Kit Mini, および Room 55 には、内蔵スピーカー、ヘッドセット、およびハンドセットなどの複数の音声機器があります。このコマンドは一度に 1 つのユニットにしか作用しません。オプションの Device パラメータを使用して、どのオーディオデバイスをアドレス指定するかを指定することができます。ユニットを指定しない場合、最後に選択されたユニットが選択されます (xStatus Audio SelectedDevice を参照)。xCommand の音声選択も参照してください。

使用方法:

xCommand Audio Volume SetToDefault [Device: Device]

値は次のとおりです。

Device: [RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE]

Internal/HeadsetUSB/HandsetUSB [RoomKit RoomKitMini Room55]

Internal/HeadsetBluetooth/HeadsetAnalog/HeadsetUSB/HandsetUSB [DeskPro/DeskLE]

内蔵スピーカー、Bluetooth ヘッドセット (Desk Pro および Desk Limited Edition のみ)、アナログヘッドセット (Desk Pro および Desk Limited Edition のみ)、USB ヘッドセット、または USB ハンドセットのいずれの音量を設定するかを選択します。

xCommand Audio Volume ToggleMute

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

スピーカーのミュートとミュート解除を切り替えます。

使用方法:

xCommand Audio Volume ToggleMute

xCommand Audio Volume Unmute

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ミュート後、デバイスの音量を再度Onにします。

使用方法:

xCommand Audio Volume Unmute



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Audio VuMeter Start

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

VU メーターを開始して、指定されたコネクタの音声信号レベルを表示します。コネクタを一意に識別するために、コネクタのタイプと番号 (ConnectorType, ConnectorId) の両方を指定する必要があります。VU メーターは 20 kHz 未満の周波数の入力レベルを測定します。

使用方法:

```
xCommand Audio VuMeter Start ConnectorId: ConnectorId ConnectorType:
ConnectorType [IncludePairingQuality: IncludePairingQuality] [IntervalMs:
IntervalMs] [Source: Source]
```

値は次のとおりです。

コネクタ ID:

マイクの場合は整数(1..8)、HDMI の場合は整数(1..5) [CodecPro Room70G2]

Room Panorama: マイクの場合は整数(1..8)、HDMI の場合は整数(1..5)、イーサネットの場合は整数(1..24)

Room 70 Panorama: マイクの場合は整数(1..8)、HDMI の場合は整数(1..5) [RoomPanorama/Room70Panorama]

マイクの場合は整数(1..2)、HDMI の場合は整数(1..1) [RoomKit CodecPlus Room55 Room70/Room55D]

マイクの場合は整数(1..1)、HDMI の場合は整数(1..1) [RoomKitMini DeskPro/DeskLE Boards]

コネクタ番号を選択します。

ConnectorType が Microphone の場合、以下に注意してください。デバイスにマイクが内蔵されている場合、そのマイクは Microphone [1] になります。

入力コネクタに接続された外部マイクは、Microphone [2] から始まります。

ConnectorType:

HDMI/Microphone [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2]

HDMI/Microphone/MicArray [DeskPro/DeskLE Boards]

Room Panorama の場合: Ethernet/HDMI/Microphone

Room 70 パノラマ: HDMI/ マイク [RoomPanorama/Room70Panorama]

コネクタタイプを選択します。

IncludePairingQuality:

Off/On

デバイスはペアリング品質を測定できます (値 0 から 100)。同じ部屋に他の超音波源がない場合、この値は高くなりますが、同じ部屋に他の超音波源がある場合、値は低くなります。ペアリング品質を監視するには、デバイスのウェブ インターフェイスにログインし、[セットアップ(Setup)] > [周辺機器(Peripherals)] > [マイク(Microphones)] の順に選択し、[ペアリングレートを表示 (Show Pairing Rate)] チェックボックスをオンにします。または、xFeedback および xEvents

コマンドを使用して値を監視します。このガイドの API の紹介セクションで、xFeedback および xEvents コマンドの詳細を参照してください。

既定値: Off

IntervalMs:

10..1000

VuMeter 値の更新間隔をミリ秒で指定します。値は 10 ms ステップで指定できます。

デフォルト値: 100

ソース:

AfterAEC/BeforeAEC

VU メーターの「Source」パラメータは、エンドポイントのスピーカーシステムが再生する音に VU メーターが反応するかどうかを決定します。デフォルトでは、VU メーターは AEC 処理の前にソース信号を取得します。つまり、ローカルのプレゼンテーション音声トラックやリモート参加者の声など、スピーカーから再生される音に反応します。

AEC 処理後にソースが抽出される場合、VU メーターはエンドポイントのスピーカー システムから再生される音声には反応しません。

デフォルト値: BeforeAEC



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Audio VuMeter Stop

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

指定されたコネクタの VU メーターを停止します。コネクタを一意に識別するために、コネクタのタイプと番号 (ConnectorType、ConnectorId) の両方を指定する必要があります。

使用方法:

xCommand Audio VuMeter Stop ConnectorId: ConnectorId ConnectorType: ConnectorType

値は次のとおりです。

コネクタ ID:

マイクの場合は整数(1..8)、HDMI の場合は整数(1..5) [CodecPro Room70G2]

Room Panorama: マイクの場合は整数(1..8)、HDMI の場合は整数(1..5)、イーサネットの場合は整数(1..24)

Room 70 Panorama: マイクの場合は整数(1..8)、HDMI の場合は整数(1..5) [RoomPanorama/Room70Panorama]

マイクの場合は整数(1..2)、HDMI の場合は整数(1..1) [RoomKit CodecPlus Room55 Room70/Room55D]

マイクの場合は整数(1..1)、HDMI の場合は整数(1..1) [RoomKitMini DeskPro/DeskLE Boards]

コネクタ番号を選択します。

ConnectorType が Microphone の場合、以下に注意してください。デバイスにマイクが内蔵されている場合、そのマイクは Microphone [1] になります。入力コネクタに接続された外部マイクは、Microphone [2] から始まります。

ConnectorType:

HDMI/ マイク [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2]

イーサネット/HDMI/ マイク [RoomPanorama/Room70Panorama]

HDMI/Microphone/MicArray [DeskPro/DeskLE Boards]

コネクタタイプを選択します。

xCommand Audio VuMeter StopAll

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

すべての VU メーターを停止します。

使用方法:

xCommand Audio VuMeter StopAll



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ブッキングコマンド

xCommand Bookings Book

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

指定された期間でミーティングルームを予約します。開始時刻と継続時間を指定しない場合、会議室は現在から 30 分間予約されます。

このコマンドは、会議室のスケジュール機能をサポートするデバイスでのみ利用できます。「会議室スケジュールが有効」設定を参照してください。

使用方法:

```
xCommand Bookings Book [BookingRequestUUID: "BookingRequestUUID"] [Duration: Duration] [StartTime: "StartTime"] [Title: "Title"]
```

値は次のとおりです。

BookingRequestUUID:

文字列 (1, 128)

予約リクエストの一意の識別子です。このパラメータが省略された場合、ブッキングリクエスト識別子が自動的に割り当てられます。

継続時間:

整数 (0..1440)

ミーティングの所要時間 (分単位) です。

デフォルト値: 30

開始時刻:

文字列 (1, 128)

ミーティングの開始時刻は次の UTC 形式です: YYYY-MM-DDThh:mm:ssZ。例: 2021-01-24T01:29:00Z。

件名:

文字列 (1, 128)

カレンダー予約のタイトルまたは件名フィールド。また、今日のブッキングリストの画面にも表示されます。

xCommand Bookings Clear

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

現在保存されているブッキングのリストを消去します。

使用方法:

```
xCommand Bookings Clear
```

xCommand Bookings Delete

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

Id パラメーター (meeting id) で識別されるミーティングを削除します。その後、その会議室は新規の予約に利用できるようになります。

このコマンドは、会議室のスケジュール機能をサポートするデバイスでのみ利用できます。「会議室スケジュールが有効」設定を参照してください。

使用方法:

```
xCommand Bookings Delete Id: "Id"
```

値は次のとおりです。

ID:

文字列 (1, 128)

一意のミーティング識別子です。これは、カレンダー サービス バックエンドによってミーティングに割り当てられます。ミーティング ID は Bookings List コマンドにより返されます。これは、Bookings Book コマンドを発行するときに提供されるブッキングリクエスト識別子 (BookingRequestUUID) とは異なることに注意してください。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Bookings Get

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

特定の ID のブッキング情報を取得します。

使用方法:

xCommand Bookings Get Id: "Id"

値は次のとおりです。

Id:

文字列 (1, 128)

一意のミーティング識別子です。これは、カレンダー サービス バックエンドによってミーティングに割り当てられます。ミーティング ID は Bookings List コマンドにより返されます。これは、Bookings Book コマンドを発行するときに提供されるブッキングリクエスト識別子 (BookingRequestUUID) とは異なることに注意してください。

xCommand Bookings List

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスに保存されているブッキングを一覧表示します。管理システムからブッキング詳細のリストを受信します。すべてのパラメータはオプションであり、検索結果を制限するために使用できます。

パラメータが設定されていない場合、過去、現在、および将来のブッキングがすべて一覧表示されます。昨日以前の予約を表示しないようにするには、DayOffset = 0 を使用します。

使用方法:

xCommand Bookings List [Days: Days] [DayOffset: DayOffset] [Limit: Limit] [Offset: Offset]

値は次のとおりです。

Days:

整数 (1..365)

ブッキングを取得するための過去の日数。

DayOffset:

整数 (0..365)

検索を開始する日 (今日: 0、明日: 1、...)。

デフォルト値: 0

制限:

整数 (1..65534)

表示する予約の最大数。

Offset セット:

整数 (0..65534)

この検索のための予約のオフセット数。

デフォルト値: 0



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Bookings NotificationSnooze

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

このデバイスに保存されているブックイングの通知をスヌーズに設定します。

使用方法:

```
xCommand Bookings NotificationSnooze [Id: "Id"] [SecondsToSnooze: SecondsToSnooze]
```

値は次のとおりです。

ID:

文字列 (0, 128)

通知のスヌーズ設定の ID です。

スヌーズまでの秒数:

整数 (1..3600)

スヌーズの継続時間 (秒)。

デフォルト値: 300

xCommand Bookings Put

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

このコマンドは、Webex クラウド サービスに登録されているか、Onプレミス サービスに登録されており、デバイス用の Webex Edge にリンクされているデバイスに適用されます。

メモ: この API には特別な利用規約があります。「API について - 利用規約」を参照してください。

保存されているブックイングのリストを置換します。これは複数行のコマンドで、ペイロードとして保存されたブックイングの詳細を含みます。ミーティング情報は JSON 形式で提供されます。

次に例を示します。

```
{
  "予約": [
    {
      "Id": "1",
      "Number": "number@example.com",
      "開催者": {
        "Name": "John Doe"
      },
      "Protocol": "SIP",
      "Time": {
        "Duration": 60,
        "EndTimeBuffer": 50,
        "StartTime": "2024-06-04T08:40:42.300000000Z"
      },
      "Title": "Booking Title"
    }
  ]
}
```

JSON 構造は以下のフィールドをサポートします。

```
{
  { "Id", "id" },
  { "MeetingId", "MyMeeting" },
  { "Agenda", "MyAgenda" },
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

```
{ "Title", "MyBookingTitle" },
{ "Privacy", "Private/Public" },
{ "Protocol", "SIP/H323/ISDN/IP/Spark" },
{ "MetalInfo", "...." },
{ "Time", {
  { "StartTime", "2020-06-10T09:31:42Z"},
  { "Duration", 60 },
  { "StartTimeBuffer", 300 },
  { "EndTimeBuffer", 0 },
}},
{ "開催者", {
  { "Name", "John Doe" },
  { "Email", "johndoe@example.com" },
  { "Id", "" },
}},
{ "Number", "number@example.com" },
{ "CallType", "音声/ビデオ" },
{ "暗号化", "On/Off" }
}
```

必須のフィールドは、Id、タイトル、番号、プロトコル、主催者/名前、タイム/開始時間、タイム/継続時間です。
StartTime: UTC/Zulu 時間のミーティングの開始時刻。

所要時間: 分単位のミーティングの所要時間です。

StartTimeBuffer: ユーザーがミーティングに参加できる、ミーティング開始時刻の前の秒数。

EndTimeBuffer: ミーティングが継続できる、スケジュールされた時間 (StartTime + Duration) より長い秒数。

番号: ダイアルされる番号です。

使用方法:

```
xCommand Bookings Put
```

発信コマンド

xCommand Call Accept

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

着信に応答します。CallId が指定されていない場合、すべての着信通話が受け入れられます。

使用方法:

```
xCommand Call Accept [CallId: CallId]
```

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (0..65534)

xCommand Dial コマンドが実行されると、CallID が返されます。通話中に、xStatus Call コマンドを実行して、CallId を確認できます。

デフォルト値: 0

xCommand Call Disconnect

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

通話を切断します。

使用方法:

```
xCommand Call Disconnect [CallId: CallId]
```

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (0..65534)

xCommand Dial コマンドが実行されると、CallID が返されます。通話中に、xStatus Call コマンドを実行して、CallId を確認できます。

デフォルト値: 0



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Call DTMFSend

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

DTMF トーンを相手に送信します。

使用方法:

```
xCommand Call DTMFSend [CallId: CallId] DTMFString: "DTMFString"
[Feedback:Feedback]
```

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (0..65534)

xCommand Dial コマンドが実行されると、CallID が返されます。通話中に、xStatus Call コマンドを実行して、CallId を確認できます。

デフォルト値: -1

DTMFString:

文字列 (0, 32)

DTMF 文字列を入力します。

フィードバック:

Audible/Silent

通話中にキーが入力されたときにフィードバックとして提供される音を消音するか、聞こえるようにします

(パスワードを入力するときに聴こえるような音)。

デフォルト値: Audible

xCommand Call FarEndControl Camera Move

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

相手側カメラ (リモート カメラ) を移動します。

このコマンドは、通話に参加しているデバイスから発行でき、同じ通話内の別のデバイスのカメラを制御するために使用できます。

Speakertrack は相手側のカメラで無効にする必要があります。

Move コマンドが発行されると、Stop コマンド(参照: xCommand FarEndControl Camera Stop)が発行されるまで、遠端カメラは指定された方向に動き続けます。

Onプレミスと CMS の場合、このコマンドはアクティブな発言者のカメラにアクセスします。

クラウドの場合、このコマンドは指定された参加者のカメラにアクセスします。

追加の制約として、クラウドベースのパーソナル モード デバイスのカメラをコントロールすることはできません。これはプライバシー上の理由からです (ホーム オフィスなど)。

使用方法:

```
xCommand Call FarEndControl Camera Move [CallId: CallId] [ParticipantId:
"ParticipantId"] Value: Value
```

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (0..65534)

CallId は、アクティブな通話を識別するために使用される一意の番号です。

通話に参加しているデバイスの 1 つから xStatus Call を実行することで、通話中に callId を取得できます。

デフォルト値: -1

参加者 ID:

文字列 (0..255)

(クラウドのみ) ParticipantId は、通話の参加者に対応するために使用される一意の番号です。

Onプレミスまたは CMS では常にアクティブな発言者のカメラをコントロールしているため、ParticipantId は無視されます。

通話に 2 人の参加者しかいない場合、ParticipantId は暗黙的に示されていますので、必要ありません。

通話の参加者の ParticipantIds を確認するには、xCommand の電話会議参加者リスト検索を実行します。

参加者のリストをスキャンし、「ParticipantId」サブフィールドを使用します。

通話中に、xCommand CallFarEndControl RequestCapabilities を実行して、遠端カメラコントロールがサポートされているかどうかを確認できます。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

値

左/右/上/下/ズームイン/ズームアウト
カメラの移動方法のアクションを選択します。

xCommand Call FarEndControl Camera Stop

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

xCommand FarEndControl Camera Move が発行された後に、相手側のカメラを停止します。
このコマンドは、通話に参加しているデバイスから発行でき、同じ通話内の別のデバイスのカメラを制御するために使用できます。
Speakertrack は相手側のカメラで無効にする必要があります。
Onプレミスと CMS の場合、このコマンドはアクティブな発言者のカメラにアクセスします。
クラウドの場合、このコマンドは指定された参加者のカメラにアクセスします。
追加の制約として、クラウドベースのパーソナル モード デバイスのカメラをコントロールすることはできません。これはプライバシー上の理由からです (ホーム オフィスなど)。

使用方法:

```
xCommand Call FarEndControl Camera Stop [CallId: CallId] [ParticipantId: "ParticipantId"]
```

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (0..65534)

CallId は、アクティブな通話を識別するために使用される一意の番号です。

通話に参加しているデバイスの 1 つから xStatus Call を実行することで、通話中に callId を取得できます。

デフォルト値: -1

参加者 ID:

文字列 (0..255)

(クラウドのみ) ParticipantId は、通話の参加者に対応するために使用される一意の番号です。

Onプレミスまたは CMS では常にアクティブな発言者のカメラをコントロールしているため、ParticipantId は無視されます。

通話に 2 人の参加者しかいない場合、ParticipantId は暗黙的に示されていますので、必要ありません。

通話の参加者の ParticipantIds を確認するには、xCommand Conference ParticipantList Search を実行します。

参加者のリストをスキャンし、「ParticipantId」サブフィールドを使用します。

通話中に、xCommand Call FarEndControl RequestCapabilities を実行して、遠端カメラコントロールがサポートされているかどうかを確認できます。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Call FarEndControl RequestCapabilities

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

要求を送信して、相手側カメラのリモート コントロール機能を確認します。

このコマンドは、通話に参加しているデバイスから発行でき、同じ通話内の別のデバイスのカメラを制御するために使用できます。

Onプレミスと CMS の場合、このコマンドはアクティブな発言者のカメラにアクセスします。

クラウドの場合、このコマンドは指定された参加者のカメラにアクセスします。

追加の制約として、クラウドベースのパーソナル モード デバイスのカメラをコントロールすることはできません。これはプライバシー上の理由からです (ホームオフィスなど)。

使用方法:

```
xCommand Call FarEndControl RequestCapabilities [CallId: CallId] [ParticipantId: "ParticipantId"]
```

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (0..65534)

CallId は、アクティブな通話を識別するために使用される一意の番号です。

通話に参加しているデバイスの 1 つから xStatus Call を実行することで、通話中に callId を取得できます。

デフォルト値: -1

参加者 ID:

文字列 (0..255)

(クラウドのみ) ParticipantId は、通話の参加者に対応するために使用される一意の番号です。

Onプレミスまたは CMS では常にアクティブな発言者のカメラをコントロールしているため、ParticipantId は無視されます。

通話に 2 人の参加者しかいない場合、ParticipantId は暗黙的に示されていますので、必要ありません。

通話の参加者の ParticipantIds を確認するには、xCommand Conference ParticipantList Search を実行します。

参加者のリストをスキャンし、「ParticipantId」サブフィールドを使用します。

通話中に、xCommand CallFarEndControl RequestCapabilities を実行して、遠端カメラコントロールがサポートされているかどうかを確認できます。

xCommand Call FarEndControl RoomPreset Activate

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

通話中に、このコマンドを使用して、相手側のデバイスでプリセットをアクティブにします。プリセットには、相手側デバイスのカメラ位置と入力ビデオ スイッチャー設定が含まれます。

プリセットは、相手側のデバイスでローカルに xCommand Preset Store コマンドを使用するか、リモートデバイスから xCommand FarEndControl Preset Store コマンドを使用して、事前に相手側のデバイスに保存しておく必要があります。

注: 遠端デバイスの xConfiguration Conference FarEndControl Mode 設定は、FarEndControl コマンドが機能するためにOnに切り替える必要があります。

使用方法:

```
xCommand Call FarEndControl RoomPreset Activate [CallId: CallId] [ParticipantId: "ParticipantId"] PresetId: PresetId
```

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (0..65534)

CallId は、マルチポイント コールの場合にのみ、遠端デバイスを識別するために必要です。

xCommand Dial コマンドを発行すると、CallId が返されます。通話中に、xStatus Call コマンドを実行して、CallId を確認できます。

デフォルト値: -1

参加者 ID:

文字列 (0..255)

(クラウドのみ) ParticipantId は、通話の参加者に対応するために使用される一意の番号です。

Onプレミスまたは CMS では常にアクティブな発言者のカメラをコントロールしているため、ParticipantId は無視されます。

通話に 2 人の参加者しかいない場合、ParticipantId は暗黙的に示されていますので、必要ありません。

通話の参加者の ParticipantIds を確認するには、xCommand Conference ParticipantList Search を実行します。

参加者のリストをスキャンし、「ParticipantId」サブフィールドを使用します。

通話中に、xCommand CallFarEndControl RequestCapabilities を実行して、遠端カメラコントロールがサポートされているかどうかを確認できます。

プリセット ID:

整数 (1..15)

遠端デバイスに保存されているプリセットの ID です。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Call FarEndControl RoomPreset Store

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

通話中にこのコマンドを使用すると、プリセットを相手側のデバイスに保存できます。プリセットには、相手側デバイスのカメラ位置と入力ビデオ スイッチャー設定が含まれます。注: 遠端デバイスの xConfiguration Conference FarEndControl Mode 設定は、FarEndControl コマンドが機能するために On に切り替える必要があります。

使用方法:

```
xCommand Call FarEndControl RoomPreset Store [CallId: CallId] [ParticipantId: "ParticipantId"] PresetId: PresetId
```

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (0..65534)

CallId は、マルチポイント コールの場合にのみ、遠端デバイスを識別するために必要です。xCommand Dial コマンドを発行すると、CallId が返されます。通話中に、xStatus Call コマンドを実行して、CallId を確認できます。

デフォルト値: -1

参加者 ID:

文字列 (0..255)

(クラウドのみ) ParticipantId は、通話の参加者に対応するために使用される一意の番号です。Onプレミスまたは CMS では常にアクティブな発言者のカメラをコントロールしているため、ParticipantId は無視されます。

通話に 2 人の参加者しかいない場合、ParticipantId は暗黙的に示されていますので、必要ありません。

通話の参加者の ParticipantIds を確認するには、xCommand Conference ParticipantList Search を実行します。

参加者のリストをスキャンし、「ParticipantId」サブフィールドを使用します。

通話中に、xCommand CallFarEndControl RequestCapabilities を実行して、遠端カメラコントロールがサポートされているかどうかを確認できます。

プリセット ID:

整数 (1..15)

遠端デバイスに保存されているプリセットの ID です。

xCommand Call FarEndControl Source Select

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

相手側デバイスのメイン ソースとして使用するビデオ入力ソースを選択します。

このコマンドは、通話に参加しているデバイスから発行でき、同じ通話内の別のデバイスのソースを選択するために使用できます。

Onプレミスおよび CMS の場合、このコマンドによりアクティブな発言者のソースが選択されます。

クラウドの場合、このコマンドにより指定した参加者のソースが選択されます。

追加の制約として、クラウドベースのパーソナルモードデバイスのソースをコントロールすることはできません。これはプライバシー上の理由からです (ホームオフィスなど)。

使用方法:

```
xCommand Call FarEndControl Source Select [CallId: CallId] SourceId: SourceId [ParticipantId: "ParticipantId"] PresetId: PresetId
```

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (0..65534)

CallId は、マルチポイント コールの場合にのみ、遠端デバイスを識別するために必要です。

xCommand Dial コマンドを発行すると、CallId が返されます。通話に参加しているデバイスの 1 つから xStatus Call を実行することで、通話中に callId を取得できます。

デフォルト値: -1

ソース ID:

整数 (0..15)

相手側のビデオ入力ソースを選択します。

参加者 ID:

文字列 (0..255)

(クラウドのみ) ParticipantId は、通話の参加者に対応するために使用される一意の番号です。

Onプレミスまたは CMS では常に発言者のデバイスをコントロールしているため、ParticipantId は無視されます。

通話に 2 人の参加者しかいない場合、ParticipantId は暗黙的に示されていますので、必要ありません。

通話の参加者の ParticipantIds を確認するには、xCommand Conference ParticipantList Search を実行します。

参加者のリストをスキャンし、「ParticipantId」サブフィールドを使用します。

通話中に、xCommand CallFarEndControl RequestCapabilities を実行して、遠端カメラコントロールがサポートされているかどうかを確認できます。

プリセット ID:

整数 (1..15)

遠端デバイスに保存されているプリセットの ID です。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Call FarEndMessage Send

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN,USER

ポイントツーポイント通話で 2 つのコーデック間でデータを送信し、コントロールシステムまたはマクロで使います。SIP 通話でのみ機能します。Conference FarEndMessage モードが On に設定されている必要があります。

使用方法:

xCommand Call FarEndMessage Send Text: "Text" Type: "Type" [CallId: CallId]

値は次のとおりです。

テキスト:

文字列 (1, 1450)

遠端に送信するメッセージを入力します。

タイプ:

文字列 (0, 255)

遠端に送信するメッセージタイプを入力します。

CallId:

整数 (0..65534)

xCommand Dial コマンドが実行されると、CallID が返されます。通話中に、xStatus Call コマンドを実行して、CallId を確認できます。

xCommand Call Forward

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN,USER

着信を転送する番号または URI を指定します。表示名はローカルでの転送先の参照名です。すべてのコールを転送するようにデバイスを構成すると、ローカル参照と一緒にメッセージが画面に表示されます。

使用方法:

xCommand Call Forward DisplayName: "DisplayName" Number: "Number"

値は次のとおりです。

表示名:

文字列 (0, 255)

転送先へのローカル参照。

番号:

文字列 (0, 255)

着信を転送する先のディレクトリ番号または URI。

xCommand Call Hold

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN,USER

通話を保留にします。

使用方法:

xCommand Call Hold [CallId: CallId] [Reason: Reason]

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (0..65534)

xCommand Dial コマンドが実行されると、CallID が返されます。通話中に、xStatus Call コマンドを実行して、CallId を確認できます。

デフォルト値: 0

理由:

電話会議/転送/その他

内部使用のみ。

既定値: その他



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Call Ignore

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

着信通話の着信音をOffにします。通話には応答できます。

使用方法:

xCommand Call Ignore CallId: CallId

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (0..65534)

xCommand Dial コマンドが実行されると、CallID が返されます。通話中に、xStatus Call コマンドを実行して、CallId を確認できます。

xCommand Call Join

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

内部使用のみ。

使用方法:

xCommand Call Join [CallId: CallId]

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (0..65534)

同じコマンドで 1 から 10 個の CallId パラメータを持つことができます。

xCommand Call Reject

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

着信コールを拒否します。コール ID が指定されていない場合、すべての着信が拒否されます。

使用方法:

xCommand Call Reject [CallId: CallId]

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (0..65534)

xCommand Dial コマンドが実行されると、CallID が返されます。通話中に、xStatus Call コマンドを実行して、CallId を確認できます。

デフォルト値: 0

xCommand Call Resume

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

保留中の通話を再開します。

使用方法:

xCommand Call Resume [CallId: CallId]

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (0..65534)

xCommand Dial コマンドが実行されると、CallID が返されます。通話中に、xStatus Call コマンドを実行して、CallId を確認できます。

デフォルト値: 0



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Call UnattendedTransfer

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

進行中の通話を別の参加者に転送します。SIP 通話のみに完全に対応します。

使用方法:

xCommand Call UnattendedTransfer CallId: CallId Number: "Number"

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (0..65534)

xCommand Dial コマンドが実行されると、CallId が返されます。通話中に、xStatus Call コマンドを実行して、CallId を確認できます。

番号:

文字列 (0, 255)

コールが転送された番号。

CallHistory コマンド

xCommand CallHistory AcknowledgeAllMissedCalls

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

すべての不在着信に対して、タッチコントローラの不在着信インジケータをOffにします。

使用方法:

xCommand CallHistory AcknowledgeAllMissedCalls

xCommand CallHistory AcknowledgeMissedCall

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

指定された通話でタッチコントローラの不在着信インジケータをOffにします。

使用方法:

xCommand CallHistory AcknowledgeMissedCall CallHistoryId: CallHistoryId
[AcknowledgeConsecutiveDuplicates: AcknowledgeConsecutiveDuplicates]

値は次のとおりです。

CallHistoryId:

整数 (1..2147483647)

問題の通話の CallHistoryId。xCommand CallHistory Get を実行して ID 番号を取得します。

AcknowledgeConsecutiveDuplicates:

False/True

重複情報を含む周囲の通話をすべて含めたり、除外したりできます。

デフォルト値: False



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand CallHistory DeleteAll

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

以前の通話に関するすべての情報を削除します。

使用方法:

```
xCommand CallHistory DeleteAll [Filter: Filter]
```

値は次のとおりです。

フィルタ:
All/Missed/Placed/Received

削除する通話をフィルタリングできます。

既定値: すべて

xCommand CallHistory DeleteEntry

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

指定された通話に関するすべての情報を削除します。

使用方法:

```
xCommand CallHistory DeleteEntry CallHistoryId: CallHistoryId  
[DeleteConsecutiveDuplicates: DeleteConsecutiveDuplicates]
```

値は次のとおりです。

CallHistoryId:
整数 (1..2147483647)

問題の通話の CallHistoryId。xCommand CallHistory Get を実行して ID 番号を取得します。

DeleteConsecutiveDuplicates:
False/True

重複する情報を含む周辺通話を削除するかどうか選択できます。

デフォルト値: False

xCommand CallHistory Get

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスで行われた以前の通話に関するすべての情報を取得します。

使用方法:

```
xCommand CallHistory Get [Filter: Filter] [Offset: Offset] [Limit: Limit]  
[DetailLevel: DetailLevel] [SearchString: "SearchString"] [CallHistoryId:  
CallHistoryId]
```

値は次のとおりです。

フィルタ:
*All/Missed/AnsweredElsewhere/Forwarded/Placed/Pmr/NoAnswer/Received/Rejected/
UnacknowledgedMissed*

取得する通話をフィルタリングできます。Pmr はパーソナル会議室を指します。

既定値: すべて

Offset:
整数 (0..65534)

開始する通話を設定します。

デフォルト値: 0

Limit:
整数 (0..65534)

出力される通話の量を定義します。

デフォルト値: 65534

DetailLevel:
Basic/Full

これらの通話に関する情報の詳細レベルを設定します。

デフォルト値: Basic

検索文字列:
文字列 (0, 255)

指定した表示名またはコールバック番号に適用するコマンドを設定できます。

既定値: ""

CallHistoryId:
整数 (1..2147483647)

問題の通話の CallHistoryId。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand CallHistory Recents

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスで行われた以前の通話に関する集約情報を取得します。

使用方法:

xCommand CallHistory Recents [Filter: Filter] [Offset: Offset] [Limit: Limit] [DetailLevel: DetailLevel] [SearchString: "SearchString"] [Order: Order]

値は次のとおりです。

フィルタ:

All/Missed/AnsweredElsewhere/Forwarded/Placed/Pmr/NoAnswer/Received/Rejected/UnacknowledgedMissed

取得する通話をフィルタリングできます。Pmr はパーソナル会議室を指します。

既定値: すべて

Offset セット:

整数 (0..65534)

開始する通話を設定します。

デフォルト値: 0

Limit:

整数 (0..65534)

出力される通話の量を定義します。

デフォルト値: 65534

DetailLevel:

Basic/Full

これらの通話に関する情報の詳細レベルを設定します。

デフォルト値: Basic

検索文字列:

文字列 (0, 255)

指定した表示名またはコールバック番号に適用するコマンドを設定できます。

既定値: ""

Order:

OccurrenceTime/OccurrenceFrequency

前回の通話を表示する順序を定義します。

デフォルト値: OccurrenceTime

カメラ コマンド

xCommand Camera PositionReset

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

カメラの位置をデフォルトの位置にリセットします。

使用方法:

xCommand Camera PositionReset [Axis: Axis] CameraId: CameraId

値は次のとおりです。

軸:

すべて/フォーカス/パンチルト/ズーム

リセットする機能を選択します。指定しない場合、すべてがリセットされます。

既定値: すべて

カメラ ID:

整数 (1..1) [*DeskPro/DeskLE*]

整数 (1..7) [*CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

リセットするカメラ プリセットの ID です。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Camera PositionSet

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

カメラの位置を設定します。パン、チルト、ズーム、ロールの値の組み合わせが不可能な場合、カメラが自動的に値を有効な組み合わせに調整します。

使用方法:

```
xCommand Camera PositionSet CameraId: CameraId [Focus: Focus] [Lens: Lens] [Pan: Pan] [Roll: Roll] [Tilt: Tilt] [Zoom: Zoom]
```

値は次のとおりです。

カメラ ID:

整数 (1..1) [RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE Boards]

整数 (1..7) [CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

リセットするカメラ プリセットの ID です。

フォーカス:

整数 (0..65535)

カメラを近くまたは遠くにフォーカスします。

レンズ:

ワイド/中央/左/右

カメラのレンズ位置を設定します。このパラメーターは、Quad Camera および Room 55 Dual, Room 70, Room 70G2, Room 70 Panorama, Room Panorama の統合カメラにのみ適用されます。

Pan:

整数 (-17000..17000)

カメラを左右に動かします。単位は 1/100 度で、つまり、100 は 1 度に対応します。正の値を指定するとカメラは左に移動し、負の値を指定するとカメラは右に移動します。左と右は、カメラの背面から部屋を見たときを指します。これは、部屋からカメラのレンズを見た場合の反対側です。

ロール: [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

整数 (-300..300)

カメラ ビューを回転します。数値が正の場合、観察画像は反時計回りに、負の場合は時計回りに回転します。単位は 1/100 度で、つまり、100 は 1 度に対応します。

チルト:

整数 (-9000..9000)

カメラを上下に移動します。単位は 1/100 度で、つまり、100 は 1 度に対応します。正の値を指定するとカメラがチルトアップし、負の値を指定するとカメラがチルトダウンします。

ズーム:

整数 (0..11800)

ズームインまたはズームアウトします。単位は HFOV (水平視野) で 1/100 度で、100 は 1 度に相当します。値が小さいほどズームが最大になり、値が大きいほどズームが最小になります (最大視野)。

xCommand Camera Preset Activate

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

保存されているカメラプリセットの 1 つを有効にします。このコマンドは話者トラッキングには影響しません。スピーカートラッキングがOnの場合、プリセットの位置から継続します。

xCommand Camera Preset コマンドは個々のカメラに適用されることに注意してください。

使用方法:

```
xCommand Camera Preset Activate PresetId: PresetId
```

値は次のとおりです。

プリセット ID:

整数 (1..35)

アクティベートするカメラ プリセットの ID です。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Camera Preset ActivateDefaultPosition

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

カメラを既定の位置に設定します(定義されている場合)。デフォルトの位置は xCommand Camera Preset Store または xCommand Camera Preset Edit で定義されます。カメラごとに定義できる既定の位置は 1 つだけです。このコマンドは話者トラッキングには影響しません。話者トラッキングがOnの場合、プリセットの位置から継続します。

使用方法:

xCommand Camera Preset ActivateDefaultPosition [CameraId: CameraId]

値は次のとおりです。

カメラ ID:

整数 (1..1) [RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE Boards]

整数 (1..7) [CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

アクティベートするカメラ プリセットの ID です。CameraId が指定されていない場合、すべてのカメラはそれぞれのデフォルトの位置に設定されます (定義されている場合)。

xCommand Camera Preset Edit

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

保存されたカメラプリセットを編集します。カメラ プリセットの名前と xCommand Camera Preset List コマンドで返されるリスト内の位置を変更することができます。このプリセットを関連するカメラのデフォルトの位置にするかどうかを変更できます。

xCommand Camera Preset コマンドは個々のカメラに適用されることに注意してください。

使用方法:

xCommand Camera Preset Edit PresetId: PresetId [ListPosition: ListPosition]
[Name: "Name"] [DefaultPrositon: DefaultPrositon]

値は次のとおりです。

プリセット ID:

整数 (1..35)

編集するカメラ プリセットの ID です。

ListPosition:

整数 (1..35)

xCommand Camera Preset List コマンドによって返されるリスト内の位置です。

名前:

文字列 (0, 255)

カメラ プリセットの名前です。これは、xCommand Camera Preset List コマンドによって返されるリストで使用されます。

DefaultPrositon:

False/True

このプリセットを関連するカメラのデフォルトの位置にするかどうかを定義します。各カメラにはデフォルトの位置を 1 つしか設定できないため、設定すると、古いデフォルト プリセットは自動的に非デフォルトとしてマークされることに注意してください。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Camera Preset List

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

利用可能なカメラプリセットに関する情報を一覧表示します。

xCommand Camera Preset コマンドは個々のカメラに適用されることに注意してください。

使用方法:

```
xCommand Camera Preset List [CameraId: CameraId] [DefaultPosition: DefaultPosition]
```

値は次のとおりです。

カメラ ID:

整数 (1..1) [RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE Boards]

整数 (1..7) [CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

指定したカメラのプリセットのみを一覧表示します。

DefaultPosition:

False/True

デフォルトの位置のみ、またはデフォルト以外の位置のみを一覧表示します。

xCommand Camera Preset Remove

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

カメラプリセットを削除します。

xCommand Camera Preset コマンドは個々のカメラに適用されることに注意してください。

使用方法:

```
xCommand Camera Preset Remove PresetId: PresetId
```

値は次のとおりです。

プリセット ID:

整数 (1..35)

削除するカメラ プリセットの ID です。

xCommand Camera Preset Show

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

要求された PresetId のプリセット詳細を表示します。

使用方法:

```
xCommand Camera Preset Show PresetId: PresetId
```

値は次のとおりです。

プリセット ID:

整数 (1..35)

表示したいカメラプリセットの ID です。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Camera Preset Store

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

選択したカメラの現在の位置 (パンとチルト)、ズーム、フォーカスを保存します。カメラは CameraId パラメータで識別されます。

xCommand Camera Preset コマンドは個々のカメラに適用されることに注意してください。

xCommand Camera Preset コマンドは、カメラ位置の完全なセットで作業するのではなく、カメラごとに個別に複数のカメラ位置を処理する場合に役立ちます。個別のカメラ プリセットは、相手側コントロールでは利用できません。

使用方法:

```
xCommand Camera Preset Store [PresetId: PresetId] CameraId: CameraId
[ListPosition: ListPosition] [Name: "Name"] [TakeSnapshot: TakeSnapshot]
[DefaultProosition: DefaultProosition]
```

値は次のとおりです。

プリセット ID:

整数 (1..35)

このカメラ プリセットの ID です。明示的に設定されていない場合、コーデックが自動的にプリセット ID を割り当てます。

カメラ ID:

整数 (1..1) [RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE Boards]

整数 (1..7) [CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

プリセット位置を保存するカメラを選択します。

ListPosition:

整数 (1..35)

xCommand Camera Preset List コマンドによって返されるリスト内の新しいカメラ プリセットの位置です。

名前:

文字列 (0, 255)

新しいカメラ プリセットの名前です。これは、xCommand Camera Preset List コマンドによって返されるリストで使用されます。

TakeSnapshot:

False/True

プレビューのスナップショットを許可または禁止します。

DefaultProosition:

False/True

このプリセットに関連するカメラのデフォルト位置とすることを定義します。各カメラは 1 つのデフォルト位置のみ保持できることに注意してください。設定すると、古いデフォルトプリセットは非デフォルトとして自動的にマークされます。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Camera Ramp

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

指定された方向にカメラを移動します。カメラは、停止コマンドが発行されるまで、指定された速度で移動します。デジタイズ チェーンでは、アドレス指定するカメラの CameraId を知っている必要があります。パンとチルトは同時に操作できますが、他の組み合わせはできないことに注意してください。後者の場合、最初に指定された操作だけが実行されます。たとえば、ズームとパンの両方を同時に実行しようとすると、ズームのみが実行されます。

メモ: カメラを停止するには、停止コマンドを実行する必要があります。次の例を参照してください。

使用方法:

xCommand Camera Ramp CameraId: CameraId [Pan: Pan] [PanSpeed: PanSpeed] [Tilt: Tilt] [TiltSpeed: TiltSpeed] [Zoom: Zoom] [ZoomSpeed: ZoomSpeed] [Focus: Focus]

値は次のとおりです。

カメラ ID:

整数 (1..7) [CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

整数 (1..1) [RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE Boards]

カメラを選択します。

Pan:

左/右/停止

カメラを左または右に移動させ、その後で停止させます。

PanSpeed:

整数 (1..24)

パン速度を設定します。

チルト:

下/上/停止

カメラを上下に動かし、その後で停止します。

傾斜速度:

整数 (1..24)

チルト速度を設定します。

ズーム:

In/Out/Stop

カメラをズームインまたはズームアウトして、[停止] を選択します。

ズーム速度:

整数 (1..15)

ズーム速度を設定します。

フォーカス:

Far/Near/Stop

カメラを Far または Near にフォーカスし、その後で Stop します。

xCommand Camera TriggerAutofocus

適用対象: CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

オートフォーカス機能をトリガーします。カメラはオートフォーカス機能をサポートしている必要があります。カメラがデジタイズ チェーン接続されている場合、CameraId はチェーン内の場所によって指定されます。

使用方法:

xCommand Camera TriggerAutofocus CameraId: CameraId

値は次のとおりです。

カメラ ID:

整数 (1..7) [CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

整数 (1..1) [DeskPro/DeskLE]

自動フォーカスするカメラを選択します。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

Cameras コマンド

xCommand Cameras AutoFocus Diagnostics Start

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

オートフォーカスの診断を開始します。

使用方法:

xCommand Cameras AutoFocus Diagnostics Start CameraId: CameraId

値は次のとおりです。

カメラ ID:

1..7

診断するカメラを選択します。

xCommand Cameras AutoFocus Diagnostics Stop

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

オートフォーカスの診断を停止します。

使用方法:

xCommand Cameras AutoFocus Diagnostics Stop CameraId: CameraId

値は次のとおりです。

カメラ ID:

1..7

診断するカメラを選択します。

xCommand Cameras Background Clear

適用先: *DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

ユーザーがインストールしたすべての背景画像を削除します。

使用方法:

xCommand Cameras Background Clear

xCommand Cameras Background Delete

適用先: *DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

ユーザーが指定したカメラの背景画像を削除します。

使用方法:

xCommand Cameras Background Delete Image: Image

値は次のとおりです。

画像:

ユーザ 1/ユーザ 2/ユーザ 3

User1、User2、および User3 は、アップロードされたイメージをインストールできるスロットです。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Cameras Background Fetch

適用先: *DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

指定された URL から画像をアップロードし、選択された user1-3 スロットにインストールされます。

使用方法:

```
xCommand Cameras Background Fetch [Checksum: "Checksum"] [ChecksumType: ChecksumType] Image: Image Url: "Url"
```

値は次のとおりです。

チェックサム:

文字列 (0, 128)

画像ファイルのチェックサムです。

チェックサムタイプ:

SHA512

指定されたチェックサムのタイプです。

デフォルト値: SHA512

画像:

ユーザ 1/ユーザ 2/ユーザ 3

ユーザ 1、ユーザ 2、およびユーザ 3 は、アップロードされたイメージをインストールできるスロットです。

URL:

文字列 (8, 2048)

画像の URL です。

xCommand Cameras Background ForegroundParameters Reset

適用先: *DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

イマーシブ共有モードで使用されます。前景画像のサイズ、位置、不透明度を、フルサイズ、中央揃え、不透明に設定します。

このコマンドは、HDMI または USB-C 入力をセルフビュー画像の仮想背景として使用している場合のみ関連します。

使用方法:

```
xCommand Cameras Background ForegroundParameters Reset
```

xCommand Cameras Background ForegroundParameters Set

適用先: *DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

イマーシブ共有モードで使用されます。前景の画像のサイズ、位置、不透明度を設定します。

共有された画像の構図を設定して、前面または背面のいずれかでフル カメラのビデオを表示することもできます。

このコマンドは、HDMI または USB-C 入力をセルフビュー画像の仮想背景として使用している場合のみ関連します。

使用方法:

```
xCommand Cameras Background ForegroundParameters Set [Composition: Composition] [Opacity: Opacity] [Scale: Scale] [X: X] [Y: Y]
```

値は次のとおりです。

Composition:

ブレンド/CameraPip/VideoPip

ブレンド: PC 入力の前面にカメラ入力の前景部分をレンダリングします。これは、背景が透明なフローティングパーソンが、プレゼンテーションビデオの上に配置された典型的なビューです。PC 入力はフルスクリーンでレンダリングされ、X、Y、スケール パラメータはカメラ入力の位置をコントロールします。

CameraPip: カメラ入力を PC 入力の前面にピクチャーインピクチャーとしてレンダリングします。これにより、プレゼンテーション ビデオ上に配置された長方形として、背景を含むカメラ画像全体が表示されます。PC 入力はフルスクリーンでレンダリングされ、X、Y、スケールパラメータはカメラ入力の位置をコントロールします。

VideoPip: PC 入力をカメラ入力の前面にピクチャーインピクチャーとしてレンダリングします。これにより、背景を含むフルカメラビュー上に配置された長方形にプレゼンテーションビデオが表示されます。カメラ入力はフルスクリーンでレンダリングされ、X、Y、スケールパラメータは PC 入力の位置をコントロールします。

Opacity:

整数 (0..100)

前景の画像の不透明度です。100 は画像が不透明であることを意味し、値が低いほど画像を通して背景がより多く見えるようになります。0 は背景のみが見えることを意味します。

スケール:

整数 (1..100)

背景に対する前景画像のサイズをパーセント単位で示します。100 はフルサイズで、1 はセルフビュー画像なしです。

X:



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

整数 (0..10000)

前面画像の中心の水平位置です。0 は左端、5000 は中央、10000 は右端です。

Y:

整数 (0..10000)

前面画像の中心の (垂直方向の) 位置です。0 が上端、5000 が中央、10000 が下端となります。

xCommand Cameras Background Get

適用先: *DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

指定されたスロット位置にあるユーザーがアップロードした画像の画像データを取得します。
対象となるユーザーはユーザーインターフェース(例えば、settings.webex.com)で、これにより、
ユーザーの画像のサムネイルまたは大きなバージョンを表示することが可能になります。

使用方法:

xCommand Cameras Background Get Image: *Image* [Size: *Size*]

値は次のとおりです。

画像:

ユーザ 1/ユーザ 2/ユーザ 3

ユーザ 1、ユーザ 2、およびユーザ 3 は、アップロードされたイメージをインストールできる
スロットです。

サイズ:

Large/Thumbnail

表示する画像のサイズです。

既定値: 大

xCommand Cameras Background List

適用先: *DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

各ユーザー背景画像スロット User1、User2、User3 のインストール済み/未インストールを表示します。

使用方法:

xCommand Cameras Background List

xCommand Cameras Background Set

適用先: *DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

カメラの背景設定を指定します。このコマンドを有効にするには、Cameras Background Enabled 構成
を True にする必要があります。

使用方法:

xCommand Cameras Background Set [Image: *Image*] [Mode: *Mode*]

値は次のとおりです。

画像:

Image1/Image2/Image3/Image4/Image5/Image6/Image7/User1/User2/User3

背景として使用する画像です。画像を表示するには、[モード] パラメータが [画像] に設定されて
いる必要があります。

Image1, Image2, Image3, Image4, Image5, Image6, Image7: Pre-installed images.

User1、User2、および User3: ユーザーがアップロードした画像。

Mode:

Disabled/Blur/BlurMonochrome/DepthOfField/Hdmi/Monochrome/Image/UsbC

背景画像のモードです。オプションには以下が含まれます。

無効: カメラ ビューの背景をマスクする画像や効果はありません。

ぼかし: 背景をぼかします。

BlurMonochrome: ぼかしとモノクロ (色なしのぼかし) の組み合わせ。

DepthOfField: ぼかしの 1 つで、ぼかしが少ない。

Hdmi: HDMI 入力がライブ背景を提供しています。

単色: 画像をグレースケールで表示します。

Image: 画像が背景を提供します。

UsbC: USB-C はライブバックグラウンドを提供します。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Cameras Background Upload

適用先: *DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

画像データをアップロードし、選択した user1-3 のスロットに画像をインストールします。

アップロードされるコンテンツは、base64 エンコード形式の画像データです。

これは複数行のコマンドです。

Use:

xCommand Cameras Background Upload <enter>

Encoded image text <enter>

. <enter>

使用方法:

xCommand Cameras Background Upload Image: Image

値は次のとおりです。

画像:

ユーザ 1/ユーザ 2/ユーザ 3

ユーザ 1、ユーザ 2、およびユーザ 3 は、アップロードされたイメージをインストールできるスロットです。

xCommand Cameras PresenterTrack ClearPosition

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

ステージのオーバービュー画像用に保存されたプレゼンタトラッキングカメラの位置を消去します。PresenterTrack 機能は、カメラの位置がクリアされた後も機能しますが、カメラはアクティベーション時に定義済みの位置を表示しません。

Codec Pro の場合: この設定は Precision 60 カメラまたは SpeakerTrack 60 カメラを使用している場合にのみ適用されます。

使用方法:

xCommand Cameras PresenterTrack ClearPosition

xCommand Cameras PresenterTrack Set

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

プレゼンタトラッキングモードを設定します。

このコマンドは、PresenterTrack 機能が有効な場合にのみ有効になります。デバイスのウェブ インターフェイスにログインし、[カメラ PresenterTrack 有効] 設定を使用して機能を有効または無効にします。

Codec Pro の場合: この設定は Precision 60 カメラまたは SpeakerTrack 60 カメラを使用している場合にのみ適用されます。

使用方法:

xCommand Cameras PresenterTrack Set Mode: Mode

値は次のとおりです。

Mode:

Off/フォロー/診断/バックグラウンド/セットアップ/持続

Off: プレゼンタのトラッキングをOffにします。

Follow: プレゼンタのトラッキングをOnにします。これは、この機能がタッチ ユーザ インターフェイスから有効になっている場合のデフォルト モードです。カメラが別のプリセットに移動したとき、別のカメラが選択されたとき、またはスタンバイがアクティブになったとき、プレゼンタのトラッキングは自動的にOffになります。

診断: プレゼンタのトラッキングのトラブルシューティングを行うため、またはデバイス画面で何が起こっているのかを正確に確認するために、診断モードをOnにします。診断モードでは、画面にいくつかのアクティビティが表示されます。画面に概要画像が表示され、以下にリストされている長方形/正方形が表示されます。

* 赤: トリガー ゾーン。

* 黄色: プレゼンタのトリミングされた画像。顔がトラッキングされている場合にのみ表示されます。

* 緑: 顔が検出され、追跡されていることを示します。

* 緑色の点滅(塗りつぶし): 顔の正確な検出を示します。追跡対象の人物が有効な顔読み取りを取得できない場合、四角は赤になります。

* 赤色の点滅(塗りつぶし): 顔の誤検出を示します。数秒後にトラッキングが停止します。

* 青: 顔が検出されましたが、追跡されません。

Background: この設定はコーデックの内部スクリプトによって使用されます。画像のトリミングなしでプレゼンタのトラッキングをOnにします。

セットアップ: この設定は、PresenterTrack 機能をセットアップするときに、デバイス画面にトリガー ゾーンを表示するために、コーデックのウェブ インターフェイスによって使用されます。

Persistent: この設定はコーデックの内部スクリプトによって使用されます。永続モードでのプレゼンタのトラッキングをOnにします。カメラが別のプリセットに移動すると、永続モードは自動的にOffになります。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Cameras PresenterTrack StorePosition

適用対象: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

ステージの概要画像用に、プレゼンタのトラッキングカメラの現在の位置を保存します。この機能を有効にすると、プレゼンタのトラッキング カメラはこの位置に移動します。

Codec Pro の場合: この設定は Precision 60 カメラまたは SpeakerTrack 60 カメラを使用している場合にのみ適用されます。

使用方法:

```
xCommand Cameras PresenterTrack StorePosition
```

xCommand Cameras SpeakerTrack Activate

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN,USER

Activate SpeakerTrack または Best Overview モード。xConfiguration Cameras SpeakerTrack Mode が Auto (デフォルト) に設定されている必要があります。

このコマンドは、スピーカートラッキングまたはベスト オーバービューをサポートするカメラを搭載したデバイスにのみ適用されます。

使用方法:

```
xCommand Cameras SpeakerTrack Activate
```

xCommand Cameras SpeakerTrack Deactivate

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN,USER

Deactivate SpeakerTrack または Best Overview モード。

このコマンドは、スピーカートラッキングまたはベスト オーバービューをサポートするカメラを搭載したデバイスにのみ適用されます。

使用方法:

```
xCommand Cameras SpeakerTrack Deactivate
```

xCommand Cameras SpeakerTrack Diagnostics Start

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

カメラのトラッキングの診断を開始します。

このコマンドは、スピーカートラッキングまたはベスト オーバービューをサポートするカメラを搭載したデバイスにのみ適用されます。

トラッキング パラメータは SpeakerTrack 60 カメラにのみ適用されます。

使用方法:

```
xCommand Cameras SpeakerTrack Diagnostics Start [Tracking: Tracking]
```

値は次のとおりです。

トラッキング:

On/Off

On: 両方のカメラの診断を同時に表示します。このモードでは、トラッキングは、SpeakerTrack の標準動作と同じく、会議室で話している人によって決定されます。

Off: 一度に 1 つのカメラの診断を表示します。診断は 15 秒間隔で 1 つのカメラから別のカメラに切り替わり、カメラ関連の診断はアクティブなカメラに対して表示されます。両方のカメラが広角位置に固定されます。一度に 1 台のカメラからのトラッキング診断を表示したい場合は、トラッキングの使用をOffにします。

既定値: On

xCommand Cameras SpeakerTrack Diagnostics Stop

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

カメラのトラッキングの診断を停止します。

使用方法:

```
xCommand Cameras SpeakerTrack Diagnostics Stop
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Cameras SpeakerTrack ViewLimits Activate

適用対象: *RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Boards*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

話者トラッキングの制限された最大カメラビューの使用を開始します (Cameras SpeakerTrack ViewLimits StorePosition コマンドを参照してください)。手動カメラコントロールでは、カメラの全範囲が常に利用できます。これを有効にするには、xConfiguration Cameras SpeakerTrack ViewLimits Allowed を True に設定する必要があります。

使用方法:

```
xCommand Cameras SpeakerTrack ViewLimits Activate
```

xCommand Cameras SpeakerTrack ViewLimits Deactivate

適用対象: *RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Boards*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

話者トラッキングの制限された最大カメラビューの使用を停止します (Cameras SpeakerTrack ViewLimits StorePosition コマンドを参照してください)。代わりに、完全にズームアウトされたカメラビューが使用されます。

使用方法:

```
xCommand Cameras SpeakerTrack ViewLimits Deactivate
```

xCommand Cameras SpeakerTrack ViewLimits StorePosition

適用対象: *RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Boards*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

スピーカートラッキングの最大ビュー (会議室の概要) として現在のカメラビューを保存します。このようにして、デフォルトの最大ビューを制限して、会議室の一部を除外できます。制限を設定しない場合、話者トラッキングの最大のビューは完全にズームアウトされたカメラ ビューになります。

使用方法:

```
xCommand Cameras SpeakerTrack ViewLimits StorePosition
```

xCommand Cameras SpeakerTrack Whiteboard ActivatePosition

適用対象: *RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

xCommand Cameras SpeakerTrack Whiteboard StorePosition で保存された位置に、指定されたカメラを移動します。

使用方法:

```
xCommand Cameras SpeakerTrack Whiteboard ActivatePosition CameraId: CameraId  
[WhiteboardId: WhiteboardId]
```

値は次のとおりです。

カメラ ID:

整数 (1..1) [RoomKit Room55 Room70/Room55D]

整数 (1..2) [CodecPlus]

整数 (1..7) [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

配置するカメラの ID です。

ホワイトボード ID:

整数 (1..8)

[Snap-to-Whiteboard] 機能で使用されるカメラ位置の ID セットです。現在、id 1 のみ使用できます。

デフォルト値: 1



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Cameras SpeakerTrack Whiteboard AlignPosition

適用対象: *RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

SpeakerTrack 60 カメラを備えた Codec Pro にのみ適用できます。他の製品には適用されません。2 番目のカメラの位置を 1 番目のカメラの保存された位置に合わせます。ホワイトボードまでの距離も設定する必要があります。

使用方法:

xCommand Cameras SpeakerTrack Whiteboard AlignPosition CameraId: CameraId
Distance: Distance

値は次のとおりです。

CameraId: [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

整数 (1..7)

位置決めされているカメラの ID です。

距離: [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

整数 (300..1500)

ホワイトボードまでの距離を cm で指定します。この機能をシームレスに動作させるには、正確な測定を使用してください。

xCommand Cameras SpeakerTrack Whiteboard SetDistance

適用対象: *RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

カメラとホワイトボードの距離を設定します。この情報は、カメラがホワイトボードを自動的にフレーム表示するために必要です。

使用方法:

xCommand Cameras SpeakerTrack Whiteboard SetDistance Distance: Distance
[WhiteboardId: WhiteboardId]

値は次のとおりです。

距離:

整数 (0..65534)

ホワイトボードまでの距離を cm で指定します。この機能をシームレスに動作させるには、正確な測定を使用してください。

ホワイトボード ID:

整数 (1..8)

[Snap-to-Whiteboard] 機能で使用されるカメラ位置の ID セットです。現在、id 1 のみ使用できます。

デフォルト値: 1



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Cameras SpeakerTrack Whiteboard StorePosition

適用対象: *RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

指定したカメラの位置を Snap to Whiteboard 位置として保存します。画像をフレーム内に収めて、発言者のためにホワイトボード周辺にスペースを確保します。ホワイトボード スナップ機能を使用するには、xConfiguration Cameras SpeakerTrack ホワイトボード モードで有効に、xConfiguration Cameras SpeakerTrack Mode でトラッキングを有効にする必要があります。

メモ: SpeakerTrack 60 カメラを備えた Codec Pro では、両方のカメラに対してホワイトボードにスナップする位置を保存する必要があります。

使用方法:

xCommand Cameras SpeakerTrack Whiteboard StorePosition CameraId: CameraId
[WhiteboardId: WhiteboardId]

値は次のとおりです。

カメラ ID:

整数 (1..1) [*RoomKit Room55 Room70/Room55D*]

整数 (1..2) [*CodecPlus*]

整数 (1..7) [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

位置決めされているカメラの ID です。

ホワイトボード ID:

整数 (1..8)

ポジションに id 番号を与えることができます。現在使用できる ID は 1 だけです。

デフォルト値: 1

電話会議コマンド

xCommand Conference Call AuthenticationResponse

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

このコマンドは Cisco Webex 登録済みデバイスでのみ利用できます。このコマンドは、Conference Call[n] AuthenticationRequest ステータスに基づいて、認証リクエストに応答します。

使用方法:

xCommand Conference Call AuthenticationResponse [CallId: CallId]
ParticipantRole: ParticipantRole [Pin: "Pin"]

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (1..65534)

通話の一意の識別子です。通話中に、xStatus Call コマンドを実行して、CallId を確認できます。

デフォルト値: 0

参加者ロール:

共同主催者/ゲスト/主催者/パネリスト/プレゼンタ

共同主催者: 共同主催者として参加します。共同主催者には、ミーティングを管理するための権限があります。

Guest: ゲストとして参加します。ゲストに特別な権限はありません。

Host: 主催者として参加します。主催者にはミーティングを管理するための権限があります。

Panelist: パネリストとして参加します。Webex Events では、パネリストはプレゼンテーションに参加できます。ビデオを共有するには、イベント出席者をパネリストに昇格させる必要があります。

Presenter: プレゼンタとして参加します。プレゼンタは、画面またはアプリケーションを共有することができます。

Pin:

文字列 (0, 32)

PIN コード。PIN の最後に '#' を付けて入力する必要があります。Conference Call[n] AuthenticationRequest ステータスが PIN コードが必要であることを示している場合に主催者、パネリスト、またはゲストとして参加する場合、PIN コードを入力する必要があります。

既定値: ""



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Conference DoNotDisturb Activate

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

このコマンドは、着信拒否モードをOnにします。タイムアウトパラメータを使用すると、いつOffに戻すかを制御できます。着信拒否モードがOnになっている場合、すべての着信が拒否され、不在着信として登録されます。発信側はビジー信号を受信します。

使用方法:

xCommand Conference DoNotDisturb Activate [Timeout: Timeout]

値は次のとおりです。

タイムアウト:

整数 (1..1440)

着信拒否がOffになるまでの時間を分単位で設定します。設定されていない場合、1440 分(24 時間)後に [着信拒否(Do Not Disturb)] がタイムアウトになります。

xCommand Conference DoNotDisturb Deactivate

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

着信拒否モードをOffにします。着信拒否モードがOffになっていると、着信は通常通りにつながります。

使用方法:

xCommand Conference DoNotDisturb Deactivate

xCommand Conference Hand Lower

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

手を下げます。挙手機能を使用して、質問やコメントがあることを主催者に知らせます。挙手は 2 名を超えるミーティングで利用できます。Webex Spaces から開始されたミーティングでは利用できません。

使用方法:

xCommand Conference Hand Lower CallId: CallId

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (0..65534)

通話の一意の識別子です。通話中に、xStatus Call コマンドを実行して、CallId を確認できます。

xCommand Conference Hand Raise

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

手を上げます。挙手機能を使用して、質問やコメントがあることを主催者に知らせます。挙手は 2 名を超えるミーティングで利用できます。Webex Spaces から開始されたミーティングでは利用できません。

使用方法:

xCommand Conference Hand Raise CallId: CallId

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (0..65534)

通話の一意の識別子です。通話中に、xStatus Call コマンドを実行して、CallId を確認できます。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Conference LowerAllHands

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

会議参加者全員の手を下げます。

使用方法:

```
xCommand Conference LowerAllHands [CallId: CallId]
```

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (0..65534)

通話の一意の識別子です。通話中に、xStatus Call コマンドを実行して、CallId を確認できます。

xCommand Conference MeetingAssistant Start

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

このバージョンでは適用できません。

使用方法:

```
xCommand Conference MeetingAssistant Start
```

xCommand Conference MeetingAssistant Stop

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

このバージョンでは適用できません。

使用方法:

```
xCommand Conference MeetingAssistant Stop
```

xCommand Conference Participant Admit

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

通話またはミーティングに参加を待っている参加者を許可または入室させます。このコマンドは Cisco Webex 登録済みデバイスでのみ利用できます。

承認待ちの参加者は、会議参加者リスト検索コマンド (*r ParticipantListSearchResult Participant [n] Status = "waiting") の結果で「待機中」の状態になります。

使用方法:

```
xCommand Conference Participant Admit CallId: CallId ParticipantId: "ParticipantId"
```

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (0..65534)

通話の一意の識別子です。通話中に、xStatus Call コマンドを実行して、CallId を確認できます。

参加者 ID:

文字列 (0, 255)

通話の参加者を表す一意識別子です。通話の参加者の ParticipantId を確認するには、xCommand Conference ParticipantList Search を実行できます。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Conference Participant Disconnect

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

参加者を通話またはミーティングから切断します。ミーティングの Conference Call[n] Capabilities ParticipantDisconnect ステータスが Available の場合にのみ、参加者との接続を切断できます。

使用方法:

xCommand Conference Participant Disconnect CallId: CallId ParticipantId: "ParticipantId"

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (0..65534)

通話の一意の識別子です。通話中に、xStatus Call コマンドを実行して、CallId を確認できます。

参加者 ID:

文字列 (0, 255)

通話の参加者を表す一意識別子です。通話の参加者の ParticipantId を確認するには、xCommand Conference ParticipantList Search を実行できます。

xCommand Conference Participant LowerHand

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

会議参加者の手を下げます。

使用方法:

xCommand Conference Participant LowerHand CallId: CallId ParticipantId: "ParticipantId"

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (0..65534)

通話の一意の識別子です。通話中に、xStatus Call コマンドを実行して、CallId を確認できます。

参加者 ID:

文字列 (0..255)

通話の参加者を表す一意識別子です。通話の参加者の ParticipantId を確認するには、xCommand Conference ParticipantList Search を実行できます。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Conference Participant Mute

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

通話またはミーティングの参加者を消音します。参加者を消音にできるのは、Conference Call[n] Capabilities ParticipantMute ステータスが Available の場合のみです。

使用方法:

```
xCommand Conference Participant Mute AudioMute: AudioMute CallId: CallId
ParticipantId: "ParticipantId"
```

値は次のとおりです。

音声ミュート:

On/Off

参加者の希望のミュート状態を示します。

CallId:

整数 (0..65534)

通話の一意の識別子です。通話中に、xStatus Call コマンドを実行して、CallId を確認できます。

参加者 ID:

文字列 (0, 255)

通話の参加者を表す一意識別子です。通話の参加者の ParticipantId を確認するには、xCommand Conference ParticipantList Search を実行できます。

xCommand Conference ParticipantList Search

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

通話またはミーティングの参加者リストを検索します。Conference Call[n] Capabilities ParticipantList が Available の場合のみに検索できる参加者リストがあります。

使用方法:

```
xCommand Conference ParticipantList Search [CallId: CallId] [Limit: Limit]
[Offset: Offset] [SearchString: "SearchString"]
```

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (0..65534)

通話の一意の識別子です。通話中に、xStatus Call コマンドを実行して、CallId を確認できます。

デフォルト値: 0

制限:

整数 (0..65534)

結果セット中のレコード (参加者) の数をこの数に制限します。たとえば、制限が 10 に設定されている場合、合計検索結果の数が多い場合でも、結果セットには 10 エントリのみが含まれます。

デフォルト値: 200

Offセット:

整数 (0..65534)

検索でこのOffセットから始まるレコードを取得します。

デフォルト値: 0

検索文字列:

文字列 (0,255)

URI または DisplayName です。検索で通話のすべての参加者が返されるようにする場合は、このパラメータを空のままにします。

既定値: ""



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Conference Recording Pause

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ミーティングの録画を一時停止するかどうかを定義します。ミーティングの録画時に、録画を一時停止したい場合は、この設定を使用できます。Conference Recording Resume コマンドを使用して、録画を再開できます。

使用方法:

xCommand Conference Recording Pause [CallId: CallId]

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (1..65534)

リモート参加者の CallID を指定します。

xCommand Conference Recording Resume

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ミーティングの録画を再開するかどうかを設定します。ミーティングの録画時に、以前に一時停止した録画を再開したい場合は、この設定を使用できます。

使用方法:

xCommand Conference Recording Resume [CallId: CallId]

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (1..65534)

リモート参加者の CallID を特定します。

xCommand Conference Recording Start

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ミーティングを録画するかどうかを設定します。ミーティングへの参加後、録画を開始する場合はこの設定を使用できます。録画コマンドは、インフラストラクチャ (Cisco ミーティングサーバ) が録画をサポートしている場合にのみ利用できます。

使用方法:

xCommand Conference Recording Start [CallId: CallId]

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (1..65534)

リモート参加者の CallID を特定します。

xCommand Conference Recording Stop

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ミーティングの録画を停止するかどうかを設定します。ミーティングの録音時に、この設定を使用して録音を停止できます。

使用方法:

xCommand Conference Recording Stop [CallId: CallId]

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (1..65534)

リモート参加者の CallID を特定します。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Conference SpeakerLock Release

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

xCommand Conference SpeakerLock Set でロックされたスピーカーセットを解除します。デフォルトの音声切り替えが再度Onにされました。

使用方法:

xCommand Conference SpeakerLock Release

xCommand Conference SpeakerLock Set

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

スピーカーの 1 つを主要なスピーカーの位置に手動でロックします。これにより、デフォルトの音声切り替えが上書きされます。

使用方法:

xCommand Conference SpeakerLock Set Target: Target [CallId: CallId]

値は次のとおりです。

ターゲット:

ローカル/リモート

ローカルまたはリモートの参加者を識別します。

CallId:

整数 (0..65534)

リモート参加者の CallID を特定します。ターゲットが「リモート」に設定されている場合にのみ関連します。

デフォルト値: 0

xCommand Conference TransferHostAndLeave

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

自分が主催しているミーティングから退席するが、他の参加者によるミーティングの継続を許可する。新しい主催者が自動的に割り当てられる

使用方法:

xCommand Conference TransferHostAndLeave [CallId: CallId]

値は次のとおりです。

CallId:

整数 (1..65534)

通話の一意の識別子です。通話中に、xStatus Call コマンドを実行して、CallId を確認できます。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

診断コマンド

xCommand Diagnostics Run

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

このコマンドは、デバイス上で自己診断コマンドを実行します。

使用方法:

```
xCommand Diagnostics Run [ResultSet: ResultSet]
```

値は次のとおりです。

結果セット:

警告/すべて/なし

診断結果をフィルタリングして、アラート、すべて、またはなしにすることができます。設定されていない場合、結果にはすべての結果が表示されます。

既定値: 警告

ダイヤルコマンド

xCommand Dial

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

デバイスからダイヤルアウトします。他の一部のコマンドに必要な CallId および ConferencId に戻する情報を返します。

使用方法:

```
xCommand Dial Number: "Number" [Protocol: Protocol] [CallRate: CallRate]  
[CallType: CallType] [BookingId: "BookingId"] [Appearance: Appearance]  
[DisplayName: "DisplayName"] [TrackingData: "TrackingData"]
```

値は次のとおりです。

番号:

文字列 (0, 255)

番号またはアドレスを入力します。

プロトコル:

H320/H323/Sip/Spark

通話プロトコルを選択します。

通話速度:

整数 (64..6000) [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskPro/
DeskLE]

整数 (64..20000) [RoomPanorama/Room70Panorama]

整数 (64..10000) [ボード]

コールレートを設定します。

CallType:

音声/ビデオ/自動

通話タイプ (音声またはビデオ) を選択します。[自動] を選択すると、デバイスはコール タイプを自動的に検出します。

BookingId:

文字列 (0, 255)

外部の予約システム (例えば、TMS、CTS-MAN) が、発信したコールをミーティングの予約システムの内部識別子と照合するために、独自の参照に使用できる任意の識別子。任意の文字列を使用できます。例: GUID。ブッキング ID は、通話の通話ログ、通話イベントなどで提供されます。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

既定値: ""

Appearance:

整数 (1..999999999)

適用できません。内部使用のみ。

表示名:

文字列 (0, 255)

リモート参加者の表示名です。

既定値: ""

トラッキングデータ:

文字列 (0, 255)

通話にタグを追加し、通話履歴で識別できるようにします。

デフォルト値:

GPIO コマンド

xCommand GPIO ManualState Set

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

OutputManualState モードに設定された GPIO ピンの状態を設定します (xConfiguration GPIO Pin [1..4] Mode を参照)。

使用方法:

xCommand GPIO ManualState Set [Pin1: Pin1] [Pin2: Pin2] [Pin3: Pin3] [Pin4: Pin4]

値は次のとおりです。

PIN1:

高/低

PIN2:

高/低

PIN3:

高/低

Pin4:

高/低



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

HttpClient コマンド

xCommand HttpClient Allow Hostname Add

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

許可されたサーバー (ホスト) のリストに HTTP(S) サーバーを追加します。

HttpClient Allow Hostname コマンドを使えば、最大 10 名の許可されたホストのリストをセットアップし、管理することができます。リストが空でない限り、リスト内のサーバーにのみHTTP(S)要求を送信できます。リストに対するチェックは、セキュアではない (HTTP) およびセキュア (HTTPS) のデータ転送を使用する場合の両方で実行されます。

使用方法:

xCommand HttpClient Allow Hostname Add Expression: "Expression"

値は次のとおりです。

式:

文字列 (2, 200)

HTTP(S) サーバーのホスト名または IP アドレスに一致する規則的な式。

xCommand HttpClient Allow Hostname Clear

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

許可されたサーバー (ホスト) のリストからすべての HTTP(S) サーバーを削除し、リストを空にします。

使用方法:

xCommand HttpClient Allow Hostname Clear

xCommand HttpClient Allow Hostname List

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

許可された HTTP(S) サーバー (ホスト) のリストを返します。

HttpClient Allow Hostname コマンドを使えば、最大 10 名の許可されたホストのリストをセットアップし、管理することができます。リストが空でない限り、リスト内のサーバーにのみHTTP(S)要求を送信できます。リストに対するチェックは、セキュアではない (HTTP) およびセキュア (HTTPS) のデータ転送を使用する場合の両方で実行されます。

使用方法:

xCommand HttpClient Allow Hostname List

xCommand HttpClient Allow Hostname Remove

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

許可されたサーバー (ホスト) のリストから HTTP(S) サーバーを削除します。HttpClient Allow Hostname List コマンドを使ってリスト中の各エントリの識別子を確認します。

使用方法:

xCommand HttpClient Allow Hostname Remove Id: Id

値は次のとおりです。

ID:

整数 (0..9)

リストから削除したい HTTP(S) サーバーの識別子。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand HttpClient Delete

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

Url パラメータで指定されたサーバーに HTTP(S) Delete 要求を送信します。AllowInsecureHTTPS パラメータを使用して、HTTPS 経由でデータを送信する前にサーバーの証明書を検証するかどうかを指定できます。xConfiguration HttpClient AllowInsecureHTTPS が On に設定されていない限り、このパラメータは効果がありません。このコマンドは、サーバから返されたデータ (HTTP ヘッダーと本文) と共に HTTP ステータス コードを返します。

使用方法:

```
xCommand HttpClient Delete [AllowInsecureHTTPS: AllowInsecureHTTPS] [Header:
"Header"] [ResponseSizeLimit: ResponseSizeLimit] [ResultBody: ResultBody]
[Timeout: Timeout] Url: "Url"
```

値は次のとおりです。

AllowInsecureHTTPS:

False/True

True に設定すると、デバイスは証明書の検証プロセスをスキップし、サーバーにデータを送信します。False に設定すると、サーバ証明書が確認され、証明書の検証が失敗した場合、データはサーバーに送信されません。

デフォルト値: False

ヘッダー:

文字列 (0, 1536)

HTTP ヘッダー フィールド。1 つのコマンドに最大で 15 個のヘッダーパラメータを追加でき、それぞれが 1 つの HTTP ヘッダーフィールドを保持します。

応答サイズの制限:

整数 (1..100000)

このリクエストに対するレスポンスの最大ペイロードサイズ (バイト) です。レスポンスのペイロードがこの最大サイズより大きい場合、コマンドはエラー ステータスを返し、最大ファイルサイズを超過していることを示すメッセージを返します。ただし、このエラーはサーバー側への影響はなく、サーバーは要求を受信し、適切に処理します。

デフォルト値: 100000

結果のボディ:

なし/プレーンテキスト/Base64

なし: HTTP 応答の本文 (ある場合) はコマンドの結果に含まれません。

PlainText: HTTP 応答の本文はプレーンテキストとしてコマンドの結果に含まれます。応答に印刷不可能な文字が含まれている場合、コマンドはステータスエラーを返し、印刷できないデータが検出された、というメッセージを返します。

Base64: HTTP 応答の本文は、コマンドの結果に含まれる前に Base64 エンコードされます。

既定値: なし

タイムアウト:

整数 (1..30)

秒単位のタイムアウト期間。この期間中にリクエストが完了しなかった場合、API はエラーを返します。

デフォルト値: 30

URL:

文字列 (8, 2048)

リクエストが送信される URL: <Protocol> + <Host name or IP address of an HTTP(S) server> + <Path>。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand HttpClient Get

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

Url パラメータで指定されたサーバーに HTTP(S) Get 要求を送信します。AllowInsecureHTTPS パラメータを使用して、HTTPS 経由でデータを送信する前にサーバーの証明書を検証するかどうかを指定できます。xConfiguration HttpClient AllowInsecureHTTPS が On に設定されていない限り、このパラメータは効果がありません。このコマンドは、サーバから返されたデータ (HTTP ヘッダーと本文) と共に HTTP ステータス コードを返します。

使用方法:

```
xCommand HttpClient Get [AllowInsecureHTTPS: AllowInsecureHTTPS] [Header: "Header"] [ResponseSizeLimit: ResponseSizeLimit] [ResultBody: ResultBody] [Timeout: Timeout] Url: "Url"
```

値は次のとおりです。

AllowInsecureHTTPS:

False/True

True に設定すると、デバイスは証明書の検証プロセスをスキップし、サーバーにデータを送信します。False に設定すると、サーバ証明書が確認され、証明書の検証が失敗した場合、データはサーバーに送信されません。

デフォルト値: False

ヘッダー:

文字列 (0, 1536)

HTTP ヘッダー フィールド。1 つのコマンドに最大で 15 個のヘッダーパラメータを追加でき、それぞれが 1 つの HTTP ヘッダーフィールドを保持します。

応答サイズの制限:

整数 (1..100000)

このリクエストに対するレスポンスの最大ペイロードサイズ (バイト) です。レスポンスのペイロードがこの最大サイズより大きい場合、コマンドはエラー ステータスを返し、最大ファイルサイズを超過していることを示すメッセージを返します。ただし、このエラーはサーバー側への影響はなく、サーバーは要求を受信し、適切に処理します。

デフォルト値: 100000

結果のボディ:

なし/プレーンテキスト/Base64

なし: HTTP 応答の本文 (ある場合) はコマンドの結果に含まれません。

PlainText: HTTP 応答の本文はプレーンテキストとしてコマンドの結果に含まれます。応答に印刷不可能な文字が含まれている場合、コマンドはステータスエラーを返し、印刷できないデータが検出された、というメッセージを返します。

Base64: HTTP 応答の本文は、コマンドの結果に含まれる前に Base64 エンコードされます。

既定値: なし

タイムアウト:

整数 (1..30)

秒単位のタイムアウト期間。この期間中にリクエストが完了しなかった場合、API はエラーを返します。

デフォルト値: 30

URL:

文字列 (8, 2048)

リクエストが送信される URL: <Protocol> + <Host name or IP address of an HTTP(S) server> + <Path>。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand HttpClient Patch

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

Url パラメータで指定されたサーバーに HTTP(S) Patch 要求を送信します。これは複数行のコマンドのため、ペイロード (データ) はパラメータの後に続きます。AllowInsecureHTTPS パラメータを使用して、HTTPS 経由でデータを送信する前にサーバーの証明書を検証するかどうかを指定できます。xConfiguration HttpClient AllowInsecureHTTPS が On に設定されていない限り、このパラメータは効果がありません。このコマンドは、サーバから返されたデータ (HTTP ヘッダーと本文) と共に HTTP ステータス コードを返します。

使用方法:

```
xCommand HttpClient Patch [AllowInsecureHTTPS: AllowInsecureHTTPS] [Header:
"Header"] [ResponseSizeLimit: ResponseSizeLimit] [ResultBody: ResultBody]
[Timeout: Timeout] Url: "Url"
```

値は次のとおりです。

AllowInsecureHTTPS:

False/True

True に設定すると、デバイスは証明書の検証プロセスをスキップし、サーバーにデータを送信します。False に設定すると、サーバ証明書が確認され、証明書の検証が失敗した場合、データはサーバーに送信されません。

デフォルト値: False

ヘッダー:

文字列 (0, 1536)

HTTP ヘッダー フィールド。1 つのコマンドに最大で 15 個のヘッダーパラメータを追加でき、それぞれが 1 つの HTTP ヘッダーフィールドを保持します。

応答サイズの制限:

整数 (1..100000)

このリクエストに対するレスポンスの最大ペイロードサイズ (バイト) です。レスポンスのペイロードがこの最大サイズより大きい場合、コマンドはエラー ステータスを返し、最大ファイルサイズを超過していることを示すメッセージを返します。ただし、このエラーはサーバー側への影響はなく、サーバーは要求を受信し、適切に処理します。

デフォルト値: 100000

結果のボディ:

なし/プレーンテキスト/Base64

なし: HTTP 応答の本文 (ある場合) はコマンドの結果に含まれません。

PlainText: HTTP 応答の本文はプレーンテキストとしてコマンドの結果に含まれます。応答に印字不可能な文字が含まれている場合、コマンドはステータスエラーを返し、印刷できないデータが検出された、というメッセージを返します。

Base64: HTTP 応答の本文は、コマンドの結果に含まれる前に Base64 エンコードされます。

既定値: なし

タイムアウト:

整数 (1..30)

秒単位のタイムアウト期間。この期間中にリクエストが完了しなかった場合、API はエラーを返します。

デフォルト値: 30

URL:

文字列 (8, 2048)

リクエストが送信される URL: <Protocol> + <Host name or IP address of an HTTP(S) server> + <Path>。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand HttpClient POST

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

Url パラメータで指定されたサーバーに HTTP(S) Post 要求を送信します。

AllowInsecureHTTPS パラメータを使用して、HTTPS 経由でデータを送信する前にサーバーの証明書を検証するかどうかを指定できます。xConfiguration HttpClient AllowInsecureHTTPS が On に設定されていない限り、このパラメータは効果がありません。

これは複数行のコマンドのため、ペイロード (データ) はパラメータの後に続きます。

使用方法:

```
xCommand HttpClient Post [AllowInsecureHTTPS: AllowInsecureHTTPS] [Header:
"Header"] [ResponseSizeLimit: ResponseSizeLimit] [ResultBody: ResultBody]
[Timeout: Timeout] Url: "Url"
```

値は次のとおりです。

AllowInsecureHTTPS:

False/True

True に設定すると、デバイスは証明書の検証プロセスをスキップし、サーバーにデータを送信します。False に設定すると、サーバ証明書が確認され、証明書の検証が失敗した場合、データはサーバーに送信されません。

デフォルト値: False

ヘッダー:

文字列 (0, 1536)

HTTP ヘッダー フィールド。1 つのコマンドに最大で 15 個のヘッダーパラメータを追加でき、それぞれが 1 つの HTTP ヘッダーフィールドを保持します。

応答サイズの制限:

整数 (1..100000)

このリクエストに対するレスポンスの最大ペイロードサイズ (バイト) です。レスポンスのペイロードがこの最大サイズより大きい場合、コマンドはエラー ステータスを返し、最大ファイルサイズを超過していることを示すメッセージを返します。ただし、このエラーはサーバー側への影響はなく、サーバーは要求を受信し、適切に処理します。

デフォルト値: 100000

結果のボディ:

なし/プレーンテキスト/Base64

なし: HTTP 応答の本文 (ある場合) はコマンドの結果に含まれません。

PlainText: HTTP 応答の本文はプレーンテキストとしてコマンドの結果に含まれます。応答に印字不可能な文字が含まれている場合、コマンドはステータスエラーを返し、印刷できないデータが検出された、というメッセージを返します。

Base64: HTTP 応答の本文は、コマンドの結果に含まれる前に Base64 エンコードされます。

既定値: なし

タイムアウト:

整数 (1..30)

秒単位のタイムアウト期間。この期間中にリクエストが完了しなかった場合、API はエラーを返します。

デフォルト値: 30

URL:

文字列 (8, 2048)

リクエストが送信される URL: <Protocol> + <Host name or IP address of an HTTP(S) server> + <Path>。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand HttpClient Put

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

Url パラメータで指定されたサーバーに HTTP(S) Put 要求を送信します。

AllowInsecureHTTPS パラメータを使用して、HTTPS 経由でデータを送信する前にサーバーの証明書を検証するかどうかを指定できます。xConfiguration HttpClient AllowInsecureHTTPS が On に設定されていない限り、このパラメータは効果がありません。

これは複数行のコマンドのため、ペイロード (データ) はパラメータの後に続きます。

使用方法:

```
xCommand HttpClient Put [AllowInsecureHTTPS: AllowInsecureHTTPS] [Header:
"Header"] [ResponseSizeLimit: ResponseSizeLimit] [ResultBody: ResultBody]
[Timeout: Timeout] Url: "Url"
```

値は次のとおりです。

AllowInsecureHTTPS:

False/True

True に設定すると、デバイスは証明書の検証プロセスをスキップし、サーバーにデータを送信します。False に設定すると、サーバ証明書が確認され、証明書の検証が失敗した場合、データはサーバーに送信されません。

デフォルト値: False

ヘッダー:

文字列 (0, 1536)

HTTP ヘッダー フィールド。1 つのコマンドに最大で 15 個のヘッダーパラメータを追加でき、それぞれが 1 つの HTTP ヘッダーフィールドを保持します。

応答サイズの制限:

整数 (1..100000)

このリクエストに対するレスポンスの最大ペイロードサイズ (バイト) です。レスポンスのペイロードがこの最大サイズより大きい場合、コマンドはエラー ステータスを返し、最大ファイルサイズを超過していることを示すメッセージを返します。ただし、このエラーはサーバー側への影響はなく、サーバーは要求を受信し、適切に処理します。

デフォルト値: 100000

結果のボディ:

なし/プレーンテキスト/Base64

なし: HTTP 応答の本文 (ある場合) はコマンドの結果に含まれません。

PlainText: HTTP 応答の本文はプレーンテキストとしてコマンドの結果に含まれます。応答に印字不可能な文字が含まれている場合、コマンドはステータスエラーを返し、印刷できないデータが検出された、というメッセージを返します。

Base64: HTTP 応答の本文は、コマンドの結果に含まれる前に Base64 エンコードされます。

既定値: なし

タイムアウト:

整数 (1..30)

秒単位のタイムアウト期間。この期間中にリクエストが完了しなかった場合、API はエラーを返します。

デフォルト値: 30

URL:

文字列 (8, 2048)

リクエストが送信される URL: <Protocol> + <Host name or IP address of an HTTP(S) server> + <Path>。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

HttpFeedback コマンド

xCommand HttpFeedback Deregister

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

HTTP(S) 経由で HTTP フィードバックを登録解除します。

使用方法:

```
xCommand HttpFeedback Deregister FeedbackSlot: FeedbackSlot
```

値は次のとおりです。

フィードバックスロット:

整数 (1..4)

xCommand HttpFeedback Register コマンドを使用して、登録されたフィードバックスロットの登録を解除します。

xCommand HttpFeedback Enable

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

以前に登録したフィードバックスロットが失敗して非アクティブになった後に、再度有効にします。

使用方法:

```
xCommand HttpFeedback Enable FeedbackSlot: FeedbackSlot
```

値は次のとおりです。

フィードバックスロット:

整数 (1..4)

有効にするフィードバックスロットを指定します。

xCommand HttpFeedback Register

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

デバイスを HTTP(S) サーバーに登録して、HTTP(S) 経由で特定の URL に XML フィードバックを返します。

使用方法:

```
xCommand HttpFeedback Register FeedbackSlot: FeedbackSlot [Format: Format]
ServerUrl: "ServerUrl" [Expression: "Expression"]
```

値は次のとおりです。

フィードバックスロット:

整数 (1..4)

コーデックは HTTP フィードバックを要求するサーバーの 4 スロットまでを登録できます。それらの一つに登録を設定します。

注: Cisco TelePresence Management Suite (TMS) が使用されている環境でのフィードバックスロット 3 の使用は避けてください。TMS はこのフィードバックスロットを使って式を登録するためです。

形式:

XML/JSON

HTTP サーバからのフィードバックの形式を XML または JSON に設定します。

既定値: XML

サーバ URL:

文字列 (1, 2048)

コーデックが HTTP フィードバック メッセージを送信する先の HTTP サーバーの URL です。

式:

文字列 (1, 255)

XPath 式は、ステータス、設定、またはイベント XML ドキュメントのどの部分を監視するかを指定します。同じコマンドで 0 から 15 個の XPath 式を使用することができます。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ロギング コマンド

xCommand Logging SendLogs

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

Cisco Webex クラウドにログを送信します。これらのログは、デバイスの問題を診断し、修正するのに役立ちます。

このコマンドはログ ID を返します。管理者または TAC エンジニアは、この ID を使用してログを識別し、ダウンロードできます。

コマンドが機能するには、デバイスが Webex クラウド サービスに登録されているか、または OnPremis サービスに登録されており、デバイス用の Webex Edge にリンクされている必要があります。

さらに、デバイス用 Webex Edge にリンクされているデバイスでは、xConfiguration Logging CloudUpload Mode を On に設定する必要があります。

使用方法:

```
xCommand Logging SendLogs
```

Macros コマンド

xCommand Macros Log Clear

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

マクロ ログを消去します。

使用方法:

```
xCommand Macros Log Clear
```

xCommand Macros Log Get

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

実行中のすべてのマクロとランタイム自体のログを表示します。

使用方法:

```
xCommand Macros Log Get [Offset: Offset]
```

値は次のとおりです。

Offセット:

整数 (0..65534)

指定されたOffセットと同等またはそれ以上のOffセットを持つ行を表示します。

デフォルト値: 0



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Macros Macro Activate

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

このデバイスで作成されたマクロを有効にします。

使用方法:

xCommand Macros Macro Activate Name: "Name"

値は次のとおりです。

名前:

文字列 (0, 255)

アクティブにするマクロの名前を指定します。

xCommand Macros Macro Deactivate

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

この端末で実行中のマクロを無効にします。

使用方法:

xCommand Macros Macro Deactivate Name: "Name"

値は次のとおりです。

名前:

文字列 (0, 255)

無効にするマクロの名前です。

xCommand Macros Macro Get

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

このデバイスで作成されたマクロの詳細を表示します。

使用方法:

xCommand Macros Macro Get [Content: Content] [Name: "Name"]

値は次のとおりです。

コンテンツ:

False/True

指定したマクロのコンテンツを表示するかどうかを指定します。

デフォルト値: False

名前:

文字列 (0, 255)

マクロの名前です。

xCommand Macros Macro Remove

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

このデバイスで作成されたマクロを削除します。

使用方法:

xCommand Macros Macro Remove Name: "Name"

値は次のとおりです。

名前:

文字列 (0, 255)

削除されるマクロの名前です。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Macros Macro RemoveAll

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

このデバイスで作成されたすべてのマクロを削除します。

使用方法:

```
xCommand Macros Macro RemoveAll
```

xCommand Macros Macro Rename

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

このデバイスで作成されたマクロの名前を変更します。

使用方法:

```
xCommand Macros Macro Rename Name: "Name" NewName: "NewName" [Overwrite: Overwrite]
```

値は次のとおりです。

名前:

文字列 (0, 255)

名前が変更されるマクロの名前です。

新しい名前:

文字列 (0, 255)

マクロの新しい名前です。

上書き:

False/True

既存のコンテンツを上書きするかどうかを指定します。

デフォルト値: False

xCommand Macros Macro Roles Set

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

マクロの役割を設定します。

使用方法:

```
xCommand Macros Macro Roles Set Name: "Name" [Role: Role]
```

値は次のとおりです。

名前:

文字列 (0, 255)

設定されているマクロの名前です。

役割:

Admin/Audit/User/Integrator/RoomControl

このマクロに設定されている役割です。

デフォルト値: Admin



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Macros Macro Save

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

マクロの詳細を保存します。これは複数行のコマンドです。

使用方法:

```
xCommand Macros Macro Save Name: "Name" [Overwrite: Overwrite] [Transpile: Transpile]
```

値は次のとおりです。

名前:

文字列 (0, 255)

保存するマクロの名前です。

上書き:

False/True

既存のコンテンツを上書きするかどうかを指定します。

デフォルト値: True

トランスパイル:

False/True

現在の JavaScript 言語機能を EcmaScript 5.0/5.1 に変換します。

デフォルト値: True

xCommand Macros Runtime Restart

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

このデバイスにセットアップされたすべてのマクロを再起動します。

使用方法:

```
xCommand Macros Runtime Restart
```

xCommand Macros Runtime Start

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

このデバイスでセットアップされたすべてのマクロを開始します。

使用方法:

```
xCommand Macros Runtime Start
```

xCommand Macros Runtime Status

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

このデバイス上のマクロ ランタイムの現在の状況を示します。

使用方法:

```
xCommand Macros Runtime Status
```

xCommand Macros Runtime Stop

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

このデバイスでセットアップされたすべてのマクロを停止します。

使用方法:

```
xCommand Macros Runtime Stop
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

メッセージコマンド

xCommand Message Send

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

待機中のクライアントにテキストを送信するメッセージ送信イベントをトリガーします。

使用方法:

xCommand Message Send Text: "Text"

値は次のとおりです。

テキスト:

文字列 (0, 255)

メッセージに含まれるテキストです。

Network コマンド

xCommand Network SMTP VerifyConfig

適用対象: *RoomKitMini DeskPro/DeskLE Boards*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

SMTP サーバーがインスタンスで設定されているかどうかを確認します。

使用方法:

xCommand Network SMTP VerifyConfig



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Network Wifi Configure

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

特定の Wi-Fi ネットワークに接続するようにデバイスを設定します。
これは、Wi-Fi がデバイスで有効になっている場合にのみ利用できます。
これを行うには、イーサネットケーブルを抜く必要があります。
その後、Wi-Fi 経由でターミナルに接続する必要があります。

使用方法:

```
xCommand Network Wifi Configure [AllowMissingCA: AllowMissingCA]  
[AnonymousIdentity: "AnonymousIdentity"] [Identity: "Identity"] [Password:  
"Password"] SSID: "SSID" Type: Type
```

値は次のとおりです。

AllowMissingCA:

False/True

証明書認証 (CA) がないウェブ接続を許可するためのポリシー。

False: 許可されない、**True**: 許可される

AnonymousIdentity:

文字列 (0, 255)

該当する場合、匿名アイデンティティ。

Identity:

文字列 (0, 255)

該当する場合、Wi-Fi 接続のユーザ名。

パスワード:

文字列 (0, 255)

該当する場合、Wi-Fi 接続のパスワード。

SSID:

文字列 (0, 255)

Wi-Fi 接続の SSID。

タイプ:

*Open/Wpa-psk/Wpa2-psk/Wpa-eap/Wpa-eap-fast/Wpa-eap-peap/Wpa-eap-tls/
Wpa-eap-ttls*

Wi-Fi 接続の暗号化タイプです。

サポート対象: オープンネットワーク(非セキュア)、WPA-PSK (AES)、WPA2-PSK (AES)、
EAP-TLS、EAP-TTLS、EAP-FAST、PEAP、EAP-MSCHAPv2、EAP-GTC

xCommand Network Wifi Delete

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

指定した Wi-Fi ネットワーク接続をデバイスから削除します。このコマンドは、Wi-Fi サービスが On になっていて、イーサネットが切断されている場合にのみ利用できます。

使用方法:

```
xCommand Network Wifi Delete SSID: "SSID"
```

値は次のとおりです。

SSID:

文字列 (0, 255)

Wi-Fi 接続の SSID。

xCommand ネットワーク Wi-Fi リスト

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

現在の Wi-Fi 接続の詳細を表示します。このコマンドは、Wi-Fi サービスが On になっていて、イーサネットが切断されている場合にのみ利用できます。

使用方法:

```
xCommand ネットワーク Wi-Fi リスト
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Network Wifi Scan Start

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN,USER

利用可能な Wi-Fi ネットワークをスキャンします。

使用方法:

xCommand Network Wifi Scan Start [Duration: Duration]

値は次のとおりです。

Duration:

整数 (1..30)

Wi-Fi スキャンの期間 (秒)。

デフォルト値: 10

xCommand Network Wifi Scan Stop

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN,USER

進行中の Wi-Fi スキャンを停止します。

使用方法:

xCommand Network Wifi Scan Stop

Peripherals コマンド

xCommand Peripherals Connect

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

コントロール システムやタッチ パネルなど、デバイスに接続されている周辺機器を登録します。登録された周辺機器は、ウェブインタフェース上の [設定 (Configuration)] > [周辺機器 (Peripherals)] に表示されます。

周辺機器がコーデックに初めて接続するとき、または周辺機器のソフトウェア バージョンが変更されたとき、このコマンドを使用する必要があります。接続されているデバイスの一覧は、コマンド xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] Status で確認できます。

使用方法:

xCommand Peripherals Connect [HardwareInfo: "HardwareInfo"] ID: "ID" [Name: "Name"] [NetworkAddress: "NetworkAddress"] [SerialNumber: "SerialNumber"] [SoftwareInfo: "SoftwareInfo"] タイプ: タイプ

値は次のとおりです。

ハードウェア情報:

文字列 (0, 100)

デバイスのハードウェア番号です。

既定値: ""

ID:

文字列 (1, 100)

接続しているデバイスの一意の ID で、通常は MAC アドレスです。

名前:

文字列 (0, 100)

デバイスの名前を定義します。

既定値: ""

ネットワークアドレス:

文字列 (0, 100)

接続しているデバイスのネットワーク アドレスです。

既定値: ""

シリアル番号:

文字列 (0, 100)



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

デバイスのシリアル番号です。

既定値: ""

ソフトウェア情報

文字列 (0, 100)

デバイスで実行されているソフトウェアのバージョンです。

既定値: ""

タイプ

AudioAmplifier/AudioMicrophone/Byod/ControlSystem/Other/RoomScheduler/TouchPanel

周辺機器のタイプを定義します。

xCommand Peripherals HeartBeat

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

周辺機器が接続済みデバイスとして登録されている場合、ハートビートをコーデックに送信して、まだ接続されていることをコーデックに知らせるように設定できます。

これにより、デバイスは xStatus Peripherals ConnectedDevice リストに維持されます。周辺機器がハートビートを送信するように設定されていない場合、そのデバイスはしばらくするとリストから消えます。

メモ: カメラには適用されません。

使用方法:

xCommand Peripherals HeartBeat ID: "ID" [Timeout: Timeout]

値は次のとおりです。

ID:

文字列 (1, 100)

接続しているデバイスの一意の ID で、通常は MAC アドレスです。

タイムアウト:

整数 (1..65535)

デバイスがハートビートを送信する期間を設定します。

デフォルト値: 60

xCommand Peripherals List

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール

現在および過去に接続されたすべての周辺機器を一覧表示します。

使用方法:

xCommand Peripherals List [Connected: Connected] [Type: Type]

値は次のとおりです。

接続済み:

False/True

現在接続されているデバイスに検索を限定します。

タイプ:

All/AudioAmplifier/AudioMicrophone/ControlSystem/ISDNLink/Other/TouchPanel

デバイス タイプで検索を制限します。

既定値: すべて



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Peripherals Pairing DeviceDiscovery Start

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

デバイス検出を開始して同じネットワーク内の ISDN リンクを検出します。

使用方法:

```
xCommand Peripherals Pairing DeviceDiscovery Start [AutoPairing: AutoPairing]
[DeviceType: DeviceType] [Timeout: Timeout]
```

値は次のとおりです。

自動ペアリング:

On/Off

検出されたデバイスをビデオ会議デバイスに自動的にペアリングするように選択できます。

既定値: Off

デバイスタイプ:

ISDNLink

ISDN リンクのみを検索します。

タイムアウト:

整数 (3..60)

検索の最大時間を 3 から 60 秒の間で設定します。

デフォルト値: 10

xCommand Peripherals Pairing Pair

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ISDN Link をビデオ会議デバイスにペアリングします。

使用方法:

```
xCommand Peripherals Pairing Pair MacAddress: "MacAddress"
```

値は次のとおりです。

MacAddress:

文字列 (1, 1450)

ビデオ会議デバイスとペアリングする ISDN Link の MAC アドレスを入力します。

xCommand Peripherals Pairing Unpair

適用対象: すべての製品

必要なユーザー役割: ADMIN, USER

ビデオ会議デバイスと ISDN Link が接続されている場合、ペアリングを解除します。

使用方法:

```
xCommand Peripherals Pairing Unpair MacAddress: "MacAddress"
```

値は次のとおりです。

MacAddress:

文字列 (1, 100)

ビデオ会議デバイスとのペアリングを解除する ISDN Link の MAC アドレスを入力します。

xCommand Peripherals Purge

適用対象: すべての製品

必要なユーザー役割: ADMIN, USER

接続が失われた場合、ISDN Link からビデオ会議デバイスとのペアリングを強制解除します。メモ: ISDN Link を別のビデオ会議デバイスとペアリングできるようにするには、ISDN Link とのペアリングを解除する必要があります。

使用方法:

```
xCommand Peripherals Purge ID: "ID"
```

値は次のとおりです。

ID:

文字列 (1, 100)

"xx:xx:xx:xx:xx:xx"の形式での ISDN Link の Mac アドレス。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

電話帳のコマンド

xCommand Phonebook Contact Add

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ローカル電話帳に新しい連絡先を追加します。このコマンドは、ContactId を返します。これは、連絡先を特定する一意の文字で、通常、flocalContactId-n形式です。

xCommand Phonebook ContactMethod Add コマンドを使用すると複数の連絡方法を連絡先に追加できます。最初の連絡方法のみがタッチ コントローラーの [お気に入り] リストに表示されることに注意してください。他の UI ではすべての連絡方法を使用できます。

使用方法:

xCommand Phonebook Contact Add Name: "Name" [Number: "Number"] [CallRate: "CallRate"] [CallType: "CallType"] [Device: "Device"] [FolderId: "FolderId"] [ImageURL: "ImageURL"] [Protocol: Protocol] [Tag: Tag] [Title: "Title"]

値は次のとおりです。

名前:

文字列 (0, 255)

連絡先の名前です。

番号:

文字列 (0, 255)

連絡先の電話番号またはアドレスです。

通話速度:

整数 (0..6000)

コール レートを設定します。

CallType:

音声/ビデオ/自動

通話タイプ (音声またはビデオ) を選択します。[自動] を選択すると、デバイスはコール タイプを自動的に検出します。

デバイス:

モバイル/その他/電話/ビデオ

デバイス タイプを選択します。

FolderId:

文字列 (0, 255)

連絡先を保存するフォルダの一意の識別子です。識別子は xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、xCommand Phonebook Folder Add コマンドがフォルダを作成するために発行されたときにも返されます。

イメージ URL:

文字列 (0, 255)

現在使用されていません。

プロトコル:

自動/H320/H323/SIP/Spark

自動、Spark、SIP、H323 または H320 プロトコルを選択します。

タグ:

タグなし/お気に入り

連絡先に [お気に入り] のタグを付けるか、すでにタグ付けされている連絡先のタグを解除します。

件名:

文字列 (0, 255)

連絡先の肩書き。

xCommand Phonebook Contact Delete

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ローカル電話帳から既存の連絡先を削除します。

使用方法:

xCommand Phonebook Contact Delete ContactId: "ContactId"

値は次のとおりです。

ContactId:

文字列 (0, 255)

連絡先の一意の識別子です。識別子は xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、xCommand Phonebook Contact Add コマンドが連絡先を作成するために発行されたときにも返されます。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Phonebook Contact Modify

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ローカル電話帳の既存の連絡先の詳細を変更します。このコマンドを使用して変更できるパラメータは、Name、FolderId、ImageUrl、および Title です。Number、Protocol、CallRate、CallType、および Device のパラメータを変更するには、xCommand Phonebook ContactMethod Modify コマンドを使用する必要があります。

使用方法:

```
xCommand Phonebook Contact Modify ContactId: "ContactId" [Name: "Name"]
[FolderId: "FolderId"] [ImageUrl: "ImageUrl"] [Tag: "Tag"] [Title: "Title"]
```

値は次のとおりです。

ContactId:

文字列 (0, 255)

変更する連絡先の一意の識別子です。識別子は xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、xCommand Phonebook Contact Add コマンドが連絡先を作成するために発行されたときにも返されます。

名前:

文字列 (0, 255)

連絡先の名前です。

FolderId:

文字列 (0, 255)

フォルダの一意の識別子です。識別子は xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、xCommand Phonebook Folder Add コマンドが発行されたときにも返されます。

イメージ URL:

文字列 (0, 255)

現在使用されていません。

タグ:

タグなし/お気に入り

連絡先に [お気に入り] のタグを付けるか、すでにタグ付けされている連絡先のタグを解除します。

件名:

文字列 (0, 255)

連絡先のタイトルです。

xCommand Phonebook ContactMethod Add

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ローカル電話帳にある既存の連絡先の連絡先情報を追加します。このコマンドは ContactMethodId を返します。これは連絡方法を識別する一意の文字列です。通常、形式は「n」です。

複数の連絡方法を連絡先に追加することができます。最初の連絡方法のみが、デバイスのユーザ インターフェイスの [お気に入り] リストに表示されることに注意してください。xCommand Phonebook Contact Add コマンドを発行して連絡先を作成するときに、最初の連絡方法が作成されている可能性があります。すべての連絡方法が API およびウェブ インターフェイスで利用できます。

使用方法:

```
xCommand Phonebook ContactMethod Add ContactId: "ContactId" [CallRate: CallRate]
[CallType: CallType] [Device: Device] Number: "Number" [Protocol: Protocol]
```

値は次のとおりです。

ContactId:

文字列 (0, 255)

連絡方法を追加する連絡先の一意の識別子。識別子は xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、xCommand Phonebook Contact Add コマンドが連絡先を作成するために発行されたときにも返されます。

通話速度:

整数 (0..6000)

コール レートを設定します。

CallType:

音声/ビデオ/自動

通話タイプ (音声またはビデオ) を選択します。[自動] を選択すると、デバイスはコール タイプを自動的に検出します。

既定値: 自動

デバイス:

モバイル/その他/電話/ビデオ

発信先のデバイスのタイプを設定します。

番号:

文字列 (0, 255)

連絡先の電話番号またはアドレスです。

プロトコル:

自動/H320/H323/SIP/Spark

プロトコルを選択します。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Phonebook ContactMethod Delete

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ローカル電話帳の既存の連絡先から連絡方法を削除します。

使用方法:

xCommand Phonebook ContactMethod Delete ContactId: "ContactId" ContactMethodId: "ContactMethodId"

値は次のとおりです。

ContactId:

文字列 (0, 255)

変更する連絡先の一意の識別子です。識別子は xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、xCommand Phonebook Contact Add コマンドが連絡先を作成するために発行されたときにも返されます。

ContactMethodId:

文字列 (0, 255)

削除する連絡方法の一意の識別子です。識別子は xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、連絡方法を作成するために xCommand Phonebook ContactMethod Add コマンドが発行された場合にも返されます。

xCommand Phonebook ContactMethod Modify

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ローカル電話帳中の既存の連絡先の連絡方法の詳細を変更します。

使用方法:

xCommand Phonebook ContactMethod Modify ContactId: "ContactId" ContactMethodId: "ContactMethodId" [Device: Device] [Number: "Number"] [Protocol: Protocol] [CallRate: CallRate] [CallType: CallType]

値は次のとおりです。

ContactId:

文字列 (0, 255)

連絡先の一意の識別子です。識別子は xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、xCommand Phonebook Contact Add コマンドが連絡先を作成するために発行されたときにも返されます。

ContactMethodId:

文字列 (0, 255)

変更する連絡方法の一意の識別子です。識別子は xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、連絡方法を作成するために xCommand Phonebook ContactMethod Add または xCommand Phonebook Contact Add コマンドが発行された場合にも返されます。

デバイス:

モバイル/その他/電話/ビデオ

発信先デバイスの種類を設定します。

番号:

文字列 (0, 255)

連絡先の電話番号またはアドレスです。

プロトコル:

自動/H320/H323/SIP/Spark

プロトコルを選択します。

通話速度:

整数 (0..6000)

コール レートを設定します。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

CallType:

音声/ビデオ/自動

通話タイプ (音声またはビデオ) を選択します。[自動] を選択すると、デバイスはコール タイプを自動的に検出します。

既定値: 自動

xCommand Phonebook Folder Add

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

電話帳のエントリはフォルダに保存できます。ローカル電話帳にフォルダを追加するには、このコマンドを使用します。このコマンドは FolderId を返します。これはフォルダを識別する一意の文字列です。通常、形式は「localGroupId-n」です。

使用方法:

xCommand Phonebook Folder Add Name: "Name" [ParentFolderId: "ParentFolderId"]

値は次のとおりです。

名前:

文字列 (0, 255)

フォルダの名前。

親フォルダ ID:

文字列 (0, 255)

親フォルダの一意の識別子です。識別子は xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、xCommand Phonebook Folder Add コマンドが親フォルダを作成するために発行されたときにも返されます。

xCommand Phonebook Folder Delete

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ローカル電話帳から既存のフォルダを削除します。

使用方法:

xCommand Phonebook Folder Delete FolderId: "FolderId"

値は次のとおりです。

FolderId:

文字列 (0, 255)

フォルダの一意の識別子です。識別子は xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、xCommand Phonebook Folder Add コマンドがフォルダを作成するために発行されたときにも返されます。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Phonebook Folder Modify

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

既存の電話帳フォルダを変更します。

使用方法:

```
xCommand Phonebook Folder Modify FolderId: "FolderId" [Name: "Name"]
[ParentFolderId: "ParentFolderId"]
```

値は次のとおりです。

FolderId:

文字列 (0, 255)

フォルダの一意の識別子です。識別子は xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、xCommand Phonebook Folder Add コマンドがフォルダを作成するために発行されたときにも返されます。

名前:

文字列 (0, 255)

連絡先の名前です。

親フォルダ ID:

文字列 (0, 255)

親フォルダの一意の識別子です。識別子は xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、xCommand Phonebook Folder Add コマンドが親フォルダを作成するために発行されたときにも返されます。

xCommand Phonebook Search

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

検索コマンドを使用すると、ローカル電話帳と会社の電話帳の両方を検索できます。検索は ResultSet を返します。

ローカル電話帳の検索結果には、常にフォルダと連絡先の総数 TotalRows が含まれます。会社の電話帳を検索する場合、フォルダと連絡先の総数が含まれない場合があります。含まれているかどうかは、バックエンドの企業電話帳サービス (CUCM, VCS, TMS など) とそのバージョンによって異なります。

使用方法:

```
xCommand Phonebook Search [PhonebookId: "PhonebookId"] [PhonebookType:
PhonebookType] [SearchString: "SearchString"] [SearchField: SearchField]
[SearchFilter: SearchFilter] [ContactType: ContactType] [Offset: Offset]
[FolderId: "FolderId"] [Limit: Limit] [ContactMethodLimit: ContactMethodLimit]
[Recursive: Recursive] [Tag: Tag]
```

値は次のとおりです。

電話帳 ID:

文字列 (0, 255)

検索対象の電話帳サーバーの識別子です。xConfiguration 電話帳サーバ ID 設定を参照してください。

電話帳タイプ:

Corporate/Local

ローカル電話帳または会社電話帳のどちらから検索するかを指定します。

既定値: ローカル

検索文字列:

文字列 (0, 255)

この文字列を含むエントリを検索します (この文字列で始まる必要はありません)。FolderId が指定されていない場合、すべてのフォルダ/電話帳ディレクトリが検索されます。

検索フィールド:

名前/番号

現在使用されていません。

検索フィルタ:

All/People/Pmr/Rooms

Cisco Webex 登録済みデバイスでのみ利用できます。表示する結果のタイプを選択して、検索結果をフィルタリングします。

すべて: すべてのディレクトリを検索します。Cisco Webex 登録済みデバイスで利用できます。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

People: 結果をフィルタリングして、人々のみを含めます。Cisco Webex 登録済みデバイスで利用できます。

Pmr: 結果をフィルタリングして、パーソナル会議室のみを含めます。フルクラウドおよびデバイス用 Webex Edg(クラウド対応)および Cisco Webex 登録済みデバイスで利用できます。

会議室: 結果をフィルタリングして会議室のみを含めます。Cisco Webex 登録済みデバイスで利用できます。

連絡先の種類

任意/フォルダ/連絡先

すべての連絡先タイプを検索します。または検索をフォルダや個々の連絡先に限定します。

既定値: 任意

Offセット:

整数 (0..65534)

検索でこのOffセットから始まるレコードを取得します。デフォルト値は 0 です。ページングをサポートするために、リミットと共にオフセットが使用されます。

デフォルト値: 0

FolderId:

文字列 (0, 255)

指定したフォルダのみを検索します。FolderId (文字列) は、フォルダを含む検索結果の ResultSet にリストされます。

制限

整数 (0..65534)

結果セット中のレコード数をこの数に制限します。例えば、制限が 10 に設定されている場合、たとえ合計ヒット数が多くても、ResultSet には 10 エントリ (連絡先とフォルダ) しか含まれません。最大数は 1000 です。

デフォルト値: 50

ContactMethod 制限:

整数 (0..10)

結果セット中のレコード数をこの数に制限します。例えば、制限が 2 に設定されている場合、たとえ合計ヒット数が多い場合でも、ResultSet には 2 つのエントリしか含まれません。

デフォルト値: 0

再帰:

False/True

このパラメータは、ローカル電話帳を検索する場合にのみ効果があります。この設定では、ローカル電話帳の検索を指定された FolderId に限定するか、またはそのサブフォルダを再帰的に検索するかを決定します。指定しない場合、検索は再帰的に行われます。

パラメータを指定せずにコマンドを実行すると、ローカル電話帳内のすべてのフォルダ、連絡先、連絡方法が返されます。

デフォルト値: True

タグ:

タグなし/お気に入り

検索対象を、お気に入りのタグが付けられている連絡先、またはタグが付いていない連絡先に限定します。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

Presentation コマンド

xCommand Presentation Start

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

選択したプレゼンテーションソースからメディアストリームを開きます。

同じコマンドに複数の ConnectorId または PresentationSource パラメータを追加することで、複数のプレゼンテーション ソースを単一のプレゼンテーション ビデオ ストリームに組み合わせることができます (異なる入力ソースの最大数はビデオ会議デバイスのタイプによって異なります)。コマンドで書き込む順番により、画面に表示されるソースの順番が決まります。同じコマンドで識別子の種類を混在させることはできません。ConnectorId または PresentationSource のいずれかを使用します。

使用方法:

```
xCommand Presentation Start [ConnectorId: ConnectorId] [Instance: Instance]
[Layout: Layout] [PresentationSource: PresentationSource] [SendingMode:
SendingMode]
```

値は次のとおりです。

コネクタ ID:

整数 (1..6) [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

整数 (1..3) [CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro/DeskLE]

整数 (1..2) [RoomKit RoomKitMini Boards]

プレゼンテーションに使用するビデオ入力ソースを選択します。connectorId により識別されます。

インスタンス:

新規 1/2/3/4/5/6

複数のプレゼンテーションをインスタンスとして同時に実行することができます。インスタンス番号は自動的に設定されるか、ユーザーが指定することができます。この番号を使用して、特定のプレゼンテーションを停止することができます。

レイアウト:

Equal/Prominent

ストリームが複数の入力ソースで構成される場合、プレゼンテーションのレイアウトを選択します。**Equal:** プレゼンテーションは同じサイズの画像で表示されます。画面には最大で 4 つの画像を表示できます。

Prominent: 最初のプレゼンテーションが大きな画像で表示され、次のプレゼンテーションソースが小さな画像で下に表示されます。

デフォルト値: Equal

プレゼンテーションソース:

None/1/2/3/4/5/6 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

整数 (1..2) [Boards]

None/1/2 [RoomKit RoomKitMini]

None/1/2/3 [CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro/DeskLE]

プレゼンテーションで使用するビデオ入力ソースを選択します。ソース番号で識別されます。None の値は、黒のフレームが挿入されることを意味します。None は、同じコマンドに複数の PresentationSource パラメータがある場合のみ使用します。

送信モード:

LocalRemote/LocalOnly

プレゼンテーションをローカルまたはリモートのどちらで表示するかを選択します。

LocalRemote: プレゼンテーションがローカルとリモートの両方で表示されます。

LocalOnly: プレゼンテーションはローカルで表示されます。

デフォルト値: LocalRemote

xCommand Presentation Stop

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

プレゼンテーションソースからのメディアストリームを停止します。

使用方法:

```
xCommand Presentation Stop [インスタンス: インスタンス] [PresentationSource:
PresentationSource]
```

値は次のとおりです。

インスタンス:

1/2/3/4/5/6

複数のプレゼンテーションを実行している場合、どのプレゼンテーションインスタンスを停止するかを指定します。インスタンス番号は、プレゼンテーションの開始時に決定されます。

プレゼンテーションソース:

整数 (1..6) [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

整数 (1..3) [CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro/DeskLE]

整数 (1..2) [RoomKit RoomKitMini Boards]

ソース番号により識別される、停止するローカルプレゼンテーションを選択します。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

プロビジョニングコマンド

xCommand Provisioning CompleteUpgrade

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN,USER

それが設定される前にインストールしたい場合、ソフトウェアアップグレードのインストールを開始します。

使用方法:

```
xCommand Provisioning CompleteUpgrade
```

xCommand Provisioning PostponeUpgrade

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN,USER

ソフトウェアアップグレードのインストールを延期します。

使用方法:

```
xCommand Provisioning PostponeUpgrade [Reason: "Reason"] SecondsToPostpone:  
SecondsToPostpone
```

値は次のとおりです。

理由:

文字列 (0, 255)

アップグレードが延期された理由に関する情報を提供します。

延期までの秒数:

整数 (0..65534)

アップグレードを延期する期間を設定します。値の単位は秒です。

xCommand Provisioning CUCM ExtensionMobility Login

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN,USER

エクステンション モビリティ サービスのログイン コマンド。ユーザー名 (UserId) と PIN コード (Pin) を使用して、エクステンション モビリティ サービスにログインします。ユーザ名と PIN コードは CUCM でセットアップされます。CUCM はユーザーの複数のプロフィールもサポートします。

複数のプロフィールを持つユーザーが、ユーザ名と PIN コードのみでログイン コマンドを送信する場合、CUCM は使用可能なプロフィールのリストをデバイスに送信します。次に、デバイスは対応する ExtensionMobilityProfileSelection Profile イベントを作成し、ユーザー名と PIN コードに加えて、Profile パラメータを含む新しいログインコマンドを送信できるようにします。

使用方法:

```
xCommand Provisioning CUCM ExtensionMobility Login UserId: "UserId" Pin: "Pin"  
[Profile: "Profile"]
```

値は次のとおりです。

ユーザ ID:

文字列 (1, 255)

CUCM でセットアップされた有効なユーザ名。

Pin:

文字列 (1, 255)

CUCM でセットアップされたユーザーの有効な PIN コード。

プロフィール:

文字列 (1, 255)

CUCM でセットアップされた、ユーザーの有効なプロフィール。このパラメータは、ユーザーが複数のプロフィールを持っている場合にのみ適用されます。

xCommand Provisioning CUCM ExtensionMobility Logout

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN,USER

このコマンドを実行すると、Extension Mobility プロファイルからログアウトします。

使用方法:

```
xCommand Provisioning CUCM ExtensionMobility Logout
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Provisioning RoomType Activate

適用対象: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

ウェブインターフェイスから設定された room type テンプレートを有効にします。

使用方法:

xCommand Provisioning RoomType Activate Name: Name

値は次のとおりです。

名前:

Briefing/Classroom/Standard

ブリーフィング: ブリーフィング ルーム テンプレートを有効にします。

クラスルーム: クラスルームテンプレートを有効にします。

標準: 会議室テンプレートをOffにします。

xCommand Provisioning Service Fetch

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者

デバイスのカスタム要素を詳述するカスタマイズ テンプレートを追加または更新します。カスタム要素の例: ブランディング画像、マクロ、お気に入り、サインインバナー、室内コントロールパネルです。

使用方法:

xCommand Provisioning Service Fetch [Checksum: "Checksum"] [ChecksumType: ChecksumType] [Mode: Mode] [Origin: Origin] URL: "URL"

値は次のとおりです。

チェックサム:

文字列 (0, 128)

チェックサムは、ダウンロードされたカスタマイズ テンプレートの整合性を確認するために使用されます。HTTP を使用する場合、チェックサムを追加することが必須です。HTTPS を使用する場合、未署名の証明書、またはデバイスの CA リストにない自己署名証明書 (信頼されていない) を提示するサーバからテンプレートをダウンロードする場合にのみ、チェックサムを追加することが必須です。

チェックサムタイプ:

SHA512

チェックサムの計算に使用されるアルゴリズム。

デフォルト値: SHA512

Mode:

追加/置換

モードが [追加] に設定されている場合、アップロードされたファイルにリストされているすべてのアイテムが既存のカスタマイズテンプレートに追加されます。モードが [置換] に設定されている場合、アップロードされた新しいカスタマイズテンプレートが、以前にアップロードされたテンプレートと比較されます。新しいファイルに存在しないアイテムは削除されます。どちらの場合も、同じ名前を持つアイテムは上書きされます。

既定値: 追加

発信元:

その他/プロビジョニング

カスタマイズテンプレートをプロビジョニングまたは他の目的のどちらに使用するかを指定します。値が Provisioning の場合、テンプレートの構成 (xConfiguration) は無視され、プロビジョニングシステム (CUCM または TMS) は通常のように構成を設定できます。CUCM は常に、このパラメータが Provisioning に設定されているかのように動作します。

一部の構成は 1 つのデバイスに固有である場合があり、これらの構成を複数のデバイスにプロビジョニングすると、到達できないデバイスになる可能性があることに注意してください。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

既定値: その他

URL:

文字列 (0, 2048)

カスタマイズテンプレートの URL です。

Proximity コマンド

xCommand Proximity Services Activate

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

xCommand Proximity Services Deactivate で非アクティブ化した Proximity サービスを再アクティブ化します。

使用方法:

`xCommand Proximity Services Activate`

xCommand Proximity Services Deactivate

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

このコマンドは、デバイスのすべてのプロキシミティサービスを非アクティブ化します。プロキシミティサービスを再有効化するには、xCommand Proximity Services Activate コマンドを使用します。

使用方法:

`xCommand Proximity Services Deactivate`



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

RoomCleanup コマンド

xCommand RoomCleanup Cancel

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

日単位の会議室クリーンアップのスケジュールをキャンセルします。

使用方法:

```
xCommand RoomCleanup Cancel
```

xCommand RoomCleanup Run

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

必要に応じて、指定されたタイプのデータのクリーンアップを実行します。

使用方法:

```
xCommand RoomCleanup Run [ContentType: ContentType] [Delay: Delay]
```

値は次のとおりです。

ContentType:

Whiteboards/WebData

削除するデータのタイプです。

ホワイトボード: デバイスのすべてのホワイトボードを削除します。

WebData: デバイス上のすべてのウェブ閲覧データを削除します。

デフォルト値: 0

遅延
整数 (0..60)

クリーンアップが開始されるまでの遅延時間 (秒) です。

デフォルト値: 0

RoomPreset コマンド

xCommand RoomPreset Activate

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ローカルに保存されているプリセットの 1 つを有効にします。

すべてのビデオ入力ソースに関する情報、すべてのカメラのパン、チルト、ズーム、フォーカスの値は、同じプリセットに含まれていることに注意してください。対照的に、xCommand Camera Preset コマンドは個々のカメラにのみ適用されます。

使用方法:

```
xCommand RoomPreset Activate PresetId: PresetId
```

値は次のとおりです。

プリセット ID:

整数 (1..15)

有効にするプリセットの ID です。

xCommand RoomPreset Clear

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

プリセットを削除する。

すべてのビデオ入力ソースに関する情報、すべてのカメラのパン、チルト、ズーム、フォーカスの値は、同じプリセットに含まれていることに注意してください。対照的に、xCommand Camera Preset コマンドは個々のカメラにのみ適用されます。

使用方法:

```
xCommand RoomPreset Clear PresetId: PresetId
```

値は次のとおりです。

プリセット ID:

整数 (1..15)

削除するプリセットの ID です。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand RoomPreset Store

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

すべてのビデオ入力ソースのコネクタ選択と、すべてのカメラの現在の位置 (パンとチルト)、ズーム、フォーカスの値を保存します。

すべてのビデオ入力ソースに関する情報、すべてのカメラのパン、チルト、ズーム、フォーカスの値は、同じプリセットに含まれていることに注意してください。デバイスは 15 個のビデオ入力プリセットを保持することができます。これらのプリセットは、遠端コントロールに使用できます。つまり、xCommand の [FarEndControl] [プリセットの有効化] コマンドの PresetId パラメータで参照されます。対照的に、xCommand Camera Preset コマンドは個々のカメラにのみ適用されます。これらのプリセットは、相手側コントロールでは利用できません。

使用方法:

xCommand RoomPreset Store [Description: "Description"] PresetId: PresetId Type: Type

値は次のとおりです。

説明:

文字列 (0, 255)

カメラプリセットの説明を入力します。

プリセット ID:

整数 (1..15)

このプリセットの ID です。

タイプ:

すべて/カメラ

適用なし プリセットがカメラの位置にのみ影響するようにする場合は、[カメラ] を選択することをお勧めします。

セキュリティコマンド

xCommand Security Certificates CA Add

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

CA セキュリティ証明書をこのデバイスにアップロードします。これは複数行のコマンドです。

使用方法:

xCommand Security Certificates CA Add

xCommand Security Certificates CA Delete

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

このデバイスから CA セキュリティ証明書を削除します。

使用方法:

xCommand Security Certificates CA Delete Fingerprint: "Fingerprint"

値は次のとおりです。

指紋:

文字列 (0, 128)

削除される証明書の一意の識別子です。xCommand Security Certificates CA Show を実行することで指紋 ID を取得できます。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Security Certificates CA Show

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

このデバイスの CA セキュリティ証明書の詳細を表示します。

使用方法:

xCommand Security Certificates CA Show [Format: Format]

値は次のとおりです。

形式

PEM/テキスト

表示される証明書の形式、PEM (Privacy Enhanced Mail) またはプレーンテキストを指定します。

既定値: テキスト

xCommand Security Certificates Services Activate

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

このデバイスでセキュリティ証明書を有効にします。

使用方法:

xCommand Security Certificates Services Activate Fingerprint: "Fingerprint"

Purpose: Purpose

値は次のとおりです。

指紋

文字列 (0, 128)

有効になっている証明書の一意の識別子 (ID) です。xCommand Security Certificates Services Show を実行することで指紋 ID を取得できます。

目的

802.1X/Audit/HTTPS/HttpClient/Pairing/SIP/WebexIdentity)

この証明書の目的。

802.1X: 802.1X セキュリティ認証を適用します。

Audit: 外部監査ログを行います。

HTTPS: HTTPS セキュリティ認証を適用します。

HttpClient: xcommand HttpClient API を使用する際に Mutual TLS 認証と一緒に使用します。

ペアリング: エンドポイントに直接接続されていないタッチ デバイスのペアリング用。

SIP: SIP セキュリティ認証を適用するためのもの。

WebexIdentity: Cisco Webex クラウドのエンドツーエンド暗号化シナリオでデバイスを識別します。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Security Certificates Services Add

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

セキュリティ証明書をこのデバイスにアップロードします。これは複数行のコマンドです。

使用方法:

```
xCommand Security Certificates Services Add [PrivateKeyPassword:
"PrivateKeyPassword"]
```

値は次のとおりです。

秘密鍵パスワード:

文字列 (0, 128)

パスワードのプライベートキーの詳細を保存します。

既定値: ""

xCommand Security Certificates Services Deactivate

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

このデバイスのセキュリティ証明書を無効にします。

使用方法:

```
xCommand Security Certificates Services Deactivate Fingerprint: "Fingerprint"
Purpose: Purpose
```

値は次のとおりです。

指紋:

文字列 (0, 128)

無効化する証明書の一意の識別子です。xCommand Security Certificates Services Show を実行することで指紋 ID を取得できます。

目的:

802.1X/Audit/HTTPS/HttpClient/Pairing/SIP/WebexIdentity)

この証明書の目的。

802.1X: 802.1X セキュリティ認証を適用します。

Audit: 外部監査ログを行います。

HTTPS: HTTPS セキュリティ認証を適用します。

HttpClient: xcommand HttpClient API を使用する際に Mutual TLS 認証と一緒に使用します。

Pairing: エンドポイントに直接接続されていないタッチデバイスのペアリングします。

SIP: SIP セキュリティ認証を適用するためのもの。

WebexIdentity: Cisco Webex クラウドのエンドツーエンド暗号化シナリオでデバイスを識別します。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Security Certificates Services Delete

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

このデバイスからセキュリティ証明書を削除します。

使用方法:

xCommand Security Certificates Services Delete Fingerprint: "Fingerprint"

値は次のとおりです。

指紋:

文字列 (0, 128)

削除される証明書の一意の識別子です。xCommand Security Certificates Services Show を実行することで指紋 ID を取得できます。

xCommand Security Certificates Services Show

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

このデバイスのセキュリティ証明書の詳細を表示します。

使用方法:

xCommand Security Certificates Services Show [Filter: Filter]

[FingerprintAlgorithm: FingerprintAlgorithm] [Format: Format]

値は次のとおりです。

フィルタ:

802.1X/Audit/HTTPS/HttpClient/Pairing/SIP/WebexIdentity

選択したサービスに従って結果をフィルタリングします。

802.1X: 802.1X セキュリティ認証を適用します。

Audit: 外部監査ログを行います。

HTTPS: HTTPS セキュリティ認証を適用します。

HttpClient: xcommand HttpClient API を使用する際に Mutual TLS 認証と一緒に使用します。

Pairing: エンドポイントに直接接続されていないタッチデバイスのペアリングします。

SIP: SIP セキュリティ認証を適用するためのもの。

WebexIdentity: Cisco Webex クラウドのエンドツーエンド暗号化シナリオでデバイスを識別します。

指紋アルゴリズム:

SHA-1/SHA-256

証明書の指紋を生成するときに使用するハッシュ関数を指定します。

SHA-1: SHA-1 ハッシュ関数を使用します。

SHA-256: SHA-256 ハッシュ関数 (SHA-2 ハッシュ関数ファミリー) が使用されます。

デフォルト値: SHA-1

形式:

PEM/テキスト

表示される証明書の形式、PEM (Privacy Enhanced Mail) またはプレーンテキストを指定します。

既定値: テキスト



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Security Certificates ThirdParty Disable

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

SMTP および HttpClient で使用されるバンドル証明書を無効にします。

このルート証明書で署名された証明書を提供するサーバーは、証明書を無効にすると拒否されます。

使用方法:

xCommand Security Certificates ThirdParty Disable Fingerprint: "Fingerprint"

値は次のとおりです。

指紋

文字列 (0, 128)

無効にする証明書の一意の識別子です。xCommand Security Certificates Services Show を実行することで指紋 ID を取得できます。

xCommand Security Certificates ThirdParty Enable

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

SMTP および HttpClient で使用されるバンドル証明書を有効にします。

使用方法:

xCommand Security Certificates ThirdParty Enable Fingerprint: "Fingerprint"

値は次のとおりです。

指紋

文字列 (0, 128)

有効になっている証明書の一意の識別子です。xCommand Security Certificates Services Show を実行することで指紋 ID を取得できます。

xCommand Security Certificates ThirdParty List

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

バンドルされているすべての証明書とその状態を一覧表示します。

使用方法:

xCommand Security Certificates ThirdParty List

xCommand Security Certificates ThirdParty Show

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

単一のサードパーティ証明書を表示します。

使用方法:

xCommand Security Certificates ThirdParty Show Fingerprint: "Fingerprint"
[Format: Format]

値は次のとおりです。

指紋

文字列 (0, 128)

表示する証明書の一意の識別子です。xCommand Security Certificates Services Show を実行することで指紋 ID を取得できます。

形式

PEM/テキスト

表示される証明書の形式、PEM (Privacy Enhanced Mail) またはプレーンテキストを指定します。

既定値: テキスト



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand セキュリティ証明書 Webex 表示

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

このコマンドは、Cisco Webex クラウド サービスに登録されているデバイスにのみ適用されます。

Cisco Webex クラウドで使用するサーバーとサービスの証明書を確認する、信頼できる CA 証明書のリストを表示します。

使用方法:

xCommand Security Certificates Webex Show [Filter: Filter] [Format: Format]

値は次のとおりです。

フィルタ:

Cisco/Non-Cisco/TLS-proxy

Cisco: サーバおよび Cisco が提供するサービスとの通信時に使用される CA 証明書のリストを表示します。

Non-Cisco: サーバおよび Cisco 以外が提供するサービスとの通信時に使用される CA 証明書の一覧を表示します。

TLS プロキシ: 発信トラフィックの TLS 検査プロキシを使用するときに必要な追加の CA 証明書のリストを表示します。

形式:

PEM/テキスト

表示される証明書の形式、PEM (Privacy Enhanced Mail) またはプレーンテキストを指定します。

既定値: テキスト

xCommand Security Persistency

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

次の機能で永続的または非永続的模式を設定します。非永続モードでは、指定された機能によって収集された情報は、デバイスの再起動後は保持されません。永続モードがデフォルトです。このコマンドはデバイスを再起動します。

使用方法:

xCommand Security Persistency Configurations: Configurations CallHistory: CallHistory InternalLogging: InternalLogging LocalPhonebook: LocalPhonebook DHCP: DHCP ConfirmAndReboot: ConfirmAndReboot

値は次のとおりです。

構成:

非永続/永続

非永続モードでは、デバイスの再起動時に、すべての構成がデフォルトに設定されます。

CallHistory:

非永続/永続

非永続モードでは、デバイスの再起動時に通話履歴が削除されます。

内部ロギング:

非永続/永続

非永続モードでは、デバイスの再起動時にイベントログが削除されます。

ローカル電話帳:

非永続/永続

非永続モードでは、デバイスの再起動時にローカル電話帳が削除されます。

DHCP:

非永続/永続

非永続モードでは、デバイスの再起動時にすべての IP 関連情報が削除されます。

ConfirmAndReboot:

対応

デバイスを再起動します。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Security Session Get

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、監査、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

現在のセッションの詳細を表示します。

使用方法:

```
xCommand Security Session Get
```

xCommand セキュリティセッションリスト

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

アクティブなセッションを一覧表示します。

使用方法:

```
xCommand Security Session List
```

xCommand Security Session Terminate

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

セッションを終了します。

使用方法:

```
xCommand Security Session Terminate SessionId: "SessionId"
```

値は次のとおりです。

セッション ID:

文字列 (0, 32)

セッション ID の番号。

待機コマンド

xCommand スタンバイ アクティベート

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

デバイスをスタンバイモードに設定します。スタンバイモードにすると、ビデオ出力がOffになり、カメラがスリープモードになります。

使用方法:

```
xCommand スタンバイ アクティベート
```

xCommand Standby Deactivate

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

デバイスのスタンバイモードを終了します。

使用方法:

```
xCommand Standby Deactivate
```

xCommand Standby Halfwake

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

デバイスを「ハーフウェイク」状態に設定します。この状態は、ユーザーがリモートを取るか、タッチデバイスをタップして開始するように UI から通知します。

使用方法:

```
xCommand Standby Halfwake
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Standby ResetHalfwakeTimer

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

一時的なハーフウェイクタイマー遅延を設定します。タイマーのリセット時にデバイスがハーフウェイクモードの場合、デバイスはハーフウェイクモードから出ます。アイドル状態が指定の遅延時間続くと、デバイスはハーフウェイク モードになります。

使用方法:

xCommand Standby ResetHalfwakeTimer Delay: Delay

値は次のとおりです。

遅延

整数 (1..480)

遅延を分単位で設定します。

xCommand Standby ResetTimer

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

スタンバイ遅延タイマーをリセットするか、一時的なスタンバイ遅延を設定します。タイマーが設定されているときにデバイスがスタンバイモードの場合、デバイスはカウントダウンを開始する前にスタンバイモードを終了します。

Delay を指定しない場合、スタンバイ遅延タイマーがリセットされ、Standby Delay 設定 (xConfiguration Standby Delay) で指定された時間が経過した後、デバイスはスタンバイ状態になります。Delay を指定する場合、アイドル状態が指定時間続くと、デバイスはスタンバイ状態になります。次回、スタンバイの遅延は再び Standby Delay 設定で構成されます。

使用方法:

xCommand Standby ResetTimer [Delay: Delay]

値は次のとおりです。

遅延

整数 (1..480)

遅延を分単位で設定します。

SystemUnit コマンド

xCommand SystemUnit Boot

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

デバイスをリブートします。

使用方法:

xCommand SystemUnit Boot [Action: Action] [Force: Force]

値は次のとおりです。

アクション:

再起動/シャットダウン

デフォルトでは、デバイスは再起動します。[シャットダウン] を選択すると、デバイスは再起動しなくなります。

既定値: 再起動

強制:

False/True

デフォルトでは、デバイスが使用されているかどうかに関係なく、デバイスはすぐに再起動します。[False] を選択すると、使用されていない場合 (アイドル、スタンバイ、ハーフウェイク モードなど) にのみデバイスが再起動されます。

デフォルト値: True



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand SystemUnit FactoryReset

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

コーデックを工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。通話ログが削除され、すべてのデバイスパラメータがデフォルト値にリセットされます。コーデックにアップロードされたすべてのファイルが削除されます。オプション キーは影響を受けません。デバイスを工場出荷時設定にリセットするとき、どの設定とファイルを保持するかを選択するために、パラメータ `Keep` を使用します。

デフォルトでは、工場出荷時設定へのリセット後にデバイスが再起動しますが、別の `TrailingAction` を選択することで、他の動作を強制することができます。

使用方法:

`xCommand SystemUnit FactoryReset Confirm: Confirm [Keep: Keep] [TrailingAction: TrailingAction]`

値は次のとおりです。

Confirm:

対応

選択を確認するために含めます。

保存:

`Certificates/HTTP/LocalSetup/Network/Provisioning/SerialPort/Webex`

デバイスを出荷時設定にリセットするときに保持する構成とファイルを選択します。同じコマンドで最大 7 つの `CallId` パラメータを持つことができます。

証明書:

クライアントおよび CA 証明書。

HTTP:

`xConfiguration NetworkServices HTTP モード`

`xConfiguration NetworkServices HTTPS Server MinimumTLSVersion`

`xConfiguration NetworkServices HTTPS StrictTransportSecurity`

`xConfiguration NetworkServices HTTPS VerifyClientCertificate`

`xConfiguration NetworkServices HTTPS VerifyServerCertificate`

LocalSetup:

`xConfiguration Audio DefaultVolume`

`xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingVolume`

`xConfiguration Time Zone`

`xConfiguration UserInterface Language`

`xConfiguration Video Output Connector OverscanLevel`

`xCommand Camera Preset Store`

Network:

`xConfiguration Network 1`

`xConfiguration NetworkServices Wifi Allowed`

`xConfiguration NetworkServices Wifi Enabled`

Provisioning:

`xConfiguration Provisioning Mode`

SerialPort:

`xConfiguration SerialPort Mode`

`xConfiguration SerialPort BaudRate`

`xConfiguration SerialPort LoginRequired`

Spark:

`xConfiguration Spark ServiceOverrides GdsBaseUrl`

`xConfiguration Spark ServiceOverrides U2CBaseUrl`

`xConfiguration Spark ServiceOverrides WdmBaseUrl`

トレーリングアクション:

`NoAction/Restart/Shutdown`

`Shutdown` または `NoAction` を選択して、デフォルトの動作 (再起動) を上書きします。

既定値: 再起動

xCommand SystemUnit FirstTimeWizard Stop

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

デバイスを初めて起動したときに表示されるウィザードを停止し、それなしでデバイスをセットアップできるようにします。デバイスが工場出荷時のデフォルト設定にリセットされている場合にのみ、ウィザードが再度表示されます。

使用方法:

`xCommand SystemUnit FirstTimeWizard Stop`



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand SystemUnit Notifications RemoveAll

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

xStatus SystemUnit 通知 Text/Type で報告されるシステム通知のリストを消去します。

使用方法:

```
xCommand SystemUnit Notifications RemoveAll
```

xCommand SystemUnit OptionKey Add

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

追加機能をサポートするオプション キーを追加します。

使用方法:

```
xCommand SystemUnit OptionKey Add Key: "Key"
```

値は次のとおりです。

キー:

文字列 (16, 24)

Onにするオプションのために受け取ったキー。

xCommand SystemUnit OptionKey List

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

すべてのオプションキーを一覧表示する。

使用方法:

```
xCommand SystemUnit OptionKey List
```

xCommand SystemUnit OptionKey Remove

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

指定されたオプションキーを削除します。

使用方法:

```
xCommand SystemUnit OptionKey Remove Type: Type
```

値は次のとおりです。

タイプ:

DeveloperPreview/Encryption/MultiSite/RemoteMonitoring

xCommand SystemUnit OptionKey RemoveAll

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

すべてのオプションキーを削除します。

使用方法:

```
xCommand SystemUnit OptionKey RemoveAll Confirm: Confirm
```

値は次のとおりです。

Confirm:

対応



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand システム ユニット 製品 プラットフォーム セット

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者

デバイスの製品プラットフォームを選択します。このコマンドは通常、デバイスが修理に出された後、製品プラットフォームが実際の製品と一致しない場合に使用されます。慎重に使用してください。

使用方法:

```
xCommand SystemUnit ProductPlatform Set Platform: Platform
```

値は次のとおりです。

プラットフォーム:

ROOM70D/ROOM70S [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

ROOM55D/ROOM70S/ROOM70D [CodecPlus Room70/Room55D]

ROOM55D:作業台は Room 55 Dual に設定されています。

ROOM70S: Codec Plus および Room 70 では、プラットフォームは Room 70 Single に設定されます。Codec Pro および Room 70 G2 の場合、プラットフォームは Room 70 Single G2 に設定されます。

ROOM70D: Codec Plus および Room 70 では、プラットフォームは Room 70 Dual に設定されます。Codec Pro および Room 70 G2 の場合、プラットフォームは Room 70 Dual G2 に設定されます。

xCommand SystemUnit SignInBanner Clear

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者

xCommand SystemUnit SignInBanner Set でログインバナーセットを消去します。

使用方法:

```
xCommand SystemUnit SignInBanner Clear
```

xCommand SystemUnit SignInBanner Get

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザー役割: ADMIN, USER

xCommand SystemUnit SignInBanner Set で設定されたカスタムメッセージを取得します。

使用方法:

```
xCommand SystemUnit SignInBanner Get
```

xCommand SystemUnit SignInBanner Set

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者

デバイスのユーザーインターフェイスにカスタムメッセージを含むサインインバナーを設定します。これは複数行のコマンドです。

Use:

```
xCommand SystemUnit SignInBanner Set <enter>
```

バナーテキスト<enter>

. <enter>

使用方法:

```
xCommand SystemUnit SignInBanner Set
```

xCommand SystemUnit SoftReset

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザー役割: ADMIN, USER

ほとんどのパラメータをデフォルト値にリセットします。これには、カメラの位置、言語、音量など、会議室のセットアップに関連するパラメータは含まれていません。

使用方法:

```
xCommand SystemUnit SoftReset Confirm: Confirm
```

値は次のとおりです。

確認:

対応



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand SystemUnit SoftwareUpgrade

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

指定の URL からソフトウェアを取得してソフトウェアのアップグレードを開始します。

使用方法:

xCommand SystemUnit SoftwareUpgrade URL: "URL" [Forced: Forced]

値は次のとおりです。

URL:

文字列 (0, 255)

ソフトウェアパッケージの場所の URL です。

Forced:

False/True

ユーザーに更新を承認または延期する機会を与えずに、デバイスにソフトウェア アップグレードをすぐに受け入れるように強制できます。

デフォルト値: True

xCommand SystemUnit WelcomeBanner Clear

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

xCommand SystemUnit WelcomeBanner Set で設定したウェルカムバナーを消去します。

使用方法:

xCommand SystemUnit WelcomeBanner Clear

xCommand SystemUnit WelcomeBanner Get

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、監査、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

xCommand SystemUnit WelcomeBanner Set でカスタム メッセージ セットを取得します。

使用方法:

xCommand SystemUnit WelcomeBanner Get

xCommand SystemUnit WelcomeBanner Set

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

デバイスのウェブ インターフェイスまたはコマンド 回線 インターフェイスにログインした後にユーザーに表示されるウェルカム バナーをセットアップします。バナーには、ユーザーが開始するために必要な情報や、設定を変更する際に知っておく必要がある事項などの情報を含めることができます。これは複数行のコマンドです。

Use:

xCommand SystemUnit WelcomeBanner Set <enter>

Banner text <enter>

. <enter>

使用方法:

xCommand SystemUnit WelcomeBanner Set



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

時間コマンド

xCommand Time DateTime Get

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN,USER

デバイスから日時を読み取ります。

使用方法:

```
xCommand Time DateTime Get
```

xCommand Time DateTime Set

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN,USER

NTP (Network Time Protocol) で利用できない場合、デバイスの日付と時刻を設定します。

使用方法:

```
xCommand Time DateTime Set [Year: Year] [Month: Month] [Day: Day] [Hour: Hour]
[Minute: Minute] [Second: Second]
```

値は次のとおりです。

年:

整数 (2015..2037)

月:

整数 (1..12)

Day:

整数 (1..31)

時間:

整数 (0..23)

分:

整数 (0..59)

Second:

整数 (0..59)

ユーザインタフェースコマンド

xCommand ユーザインターフェイス ブランディング クリア

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

カスタム壁紙、ブランド背景画像、ロゴファイルをデバイスから削除します。

使用方法:

```
xCommand UserInterface Branding Clear
```

xCommand UserInterface Branding Delete

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

Type パラメーターで指定された画像ファイルをデバイスから削除します。

使用方法:

```
xCommand UserInterface Branding Delete Type: Type
```

値は次のとおりです。

タイプ:

バックグラウンド/ブランディング/ハーフウェイクバックグラウンド/ハーフウェイクブランディング [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE]

Branding/HalfwakeBackground/HalfwakeBranding [Boards]

背景: カスタム壁紙を削除します。

ブランディング: デバイスがアクティブなときに表示されるロゴを削除します。

HalfwakeBackground: デバイスがハーフウェイク状態の際に、背景として表示されるブランド画像を削除します。

ハーフウェイクブランディング: デバイスがハーフウェイク状態のときに表示されるロゴを削除します。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand ユーザインタフェース ブランディング フェッチ

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

URL から画像ファイルを取得し、そのファイルをデバイスに保存します。サポートされている画像形式は、BMP、GIF、JPEG、および PNG です。画像サイズは最大 1,600 万ピクセル、ファイルサイズは最大 4 MB です。

Type パラメータで画像の種類を指定します。背景画像の場合、関連する機能 (カスタム壁紙または背景とロゴを使用したブランディング) が自動的に適用されます。

このコマンドは HTTP 要求を発行するため、HTTP 要求カウントに含まれます。同時要求の最大数には制限があります。

使用方法:

```
xCommand UserInterface Branding Fetch [Checksum: "Checksum"] [ChecksumType: ChecksumType] [CustomId: "CustomId"] Type: Type URL: "URL"
```

値は次のとおりです。

チェックサム:

文字列 (0, 128)

取得する画像ファイルのチェックサムを指定します。チェックサムは、ダウンロードされた画像ファイルの整合性を保証するために使用されます。HTTP を使用する場合、チェックサムを追加することが必須です。HTTPS を使用する場合、未署名の証明書、またはデバイスの CA リストにない自己署名証明書 (信頼されていない) を提示するサーバからテンプレートをダウンロードする場合にのみ、チェックサムを追加することが必須です。

チェックサムタイプ:

SHA512

チェックサムの計算に使用されるアルゴリズムを指定します。

既定値: SHA512

CustomId:

文字列 (0, 128)

この画像のカスタム識別子を指定します。xStatus UserInterface Branding CustomId を使用することで、使用される画像の CustomId を取得できます。

タイプ:

バックグラウンド/ブランディング/ハーフウェイクバックグラウンド/ハーフウェイクブランディング [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE]

ブランディング/ハーフウェイクバックグラウンド/ハーフウェイクブランディング [ボード]

この画像の使用タイプを指定します。

背景: カスタム壁紙として使用できる背景画像を取得します。

ブランディング: デバイスがアクティブなときに表示されるロゴを取得します。

ハーフウェイクバックグラウンド: デバイスがハーフウェイク状態のときに、背景として表示できるブランド画像を取得します。

ハーフウェイクブランディング: デバイスがハーフウェイク状態のときに表示できるロゴを取得します。

URL:

文字列 (5, 250)

画像ファイルの URL を指定します。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

X コマンド ユーザインターフェイス ブランディング 取得

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

このコマンドは、Type パラメータで指定された画像ファイルがデバイスに保存されている場合に、その画像ファイルを返します。ファイルは Base64 エンコードされています。最初にアップロードされたファイルの形式に関係なく、形式は背景画像が JPG、ロゴが PNG になります。

背景画像は 3 つのサイズで保存されます。1 つはメイン画面用、1 つはタッチコントローラー用、もう 1 つはウェブインターフェイスのイラスト用です。[サイズ] パラメータを使用して、取得するサイズを選択します。ロゴには 1 つのサイズしかありません。

使用方法:

```
xCommand UserInterface Branding Get [Size: Size] Type: Type
```

値は次のとおりです。

サイズ:

大/小/サムネイル

大: メイン画面に表示される画像のサイズです。

小: タッチ コントローラーに表示される画像のサイズです。

サムネイル: ウェブインタフェースのイラストで使用する画像のサイズです。

既定値: 大

タイプ:

バックグラウンド/ブランディング/ハーフウェイクバックグラウンド/ハーフウェイクブランディング [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE]

Branding/HalfwakeBackground/HalfwakeBranding [Boards]

背景: カスタム壁紙を戻します。

ブランディング: デバイスがアクティブなときに表示されるロゴを返します。

HalfwakeBackground: デバイスがハーフウェイク状態の際に、背景として表示されるブランド画像を返します。

HalfwakeBranding: デバイスがハーフウェイク状態のときに表示されるロゴを返します。

xCommand ユーザインタフェースのブランディングが更新されました

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

このコマンドにより、新しい画像ファイルがデバイスにアップロードされ、使用の準備ができたことを通知するイベントが作成されます。Type パラメータは、画像の種類を識別します。

使用方法:

```
xCommand UserInterface Branding Updated Type: Type
```

値は次のとおりです。

タイプ:

Background/Branding/HalfwakeBackground/HalfwakeBranding [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE]

Branding/HalfwakeBackground/HalfwakeBranding [Boards]

背景: カスタム壁紙として使用できる新しい背景画像が用意されています。

ブランディング: デバイスがアクティブなときに表示できる新しいロゴが使用できるようになりました。

HalfwakeBackground: デバイスがハーフウェイク状態の際に背景として表示できる新しいブランド画像が使用できる状態です。

HalfwakeBranding: ハーフウェイク状態のデバイスが使用できるようになったときに表示できる新しいロゴ。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand UserInterface Branding Upload

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

画像ファイルをデバイスにアップロードします。サポートしている画像形式は、BMP、GIF、JPEG、および PNG で、最大画像サイズは 16 メガピクセルです。ファイルは Base64 でエンコードされている必要があり、ファイルサイズは最大 4 MB です。

Type パラメータは、画像の用途を指定します。背景画像の場合、関連する機能 (カスタム壁紙または背景とロゴを使用したブランディング) が自動的に適用されます。

これは複数行のコマンドです。

使用方法:

```
xCommand UserInterface Branding Upload [CustomId: "CustomId"] Type: Type
```

値は次のとおりです。

CustomId:

文字列 (0, 128)

この画像のカスタム識別子を指定します。xStatus UserInterface Branding CustomId を使用することで、使用される画像の CustomId を取得できます。

タイプ:

Background/Branding/HalfwakeBackground/HalfwakeBranding [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE]

Branding/HalfwakeBackground/HalfwakeBranding [Boards]

背景: カスタム壁紙として使用できる背景画像をアップロードします。

ブランディング: デバイスがアクティブなときに表示されるロゴをアップロードします。

HalfwakeBackground: デバイスがハーフウェイク状態の際に、背景として表示できるブランド画像をアップロードします。

HalfwakeBranding: デバイスがハーフウェイク状態の際に、表示できるロゴをアップロードします。

xCommand ユーザーインターフェイス拡張機能の消去

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール

デバイスからユーザ インターフェイス拡張機能 (ウェブ アプリ、カスタム ボタン、パネル、ウィジェット) を削除します。ActivityType を指定しない場合、すべての拡張機能が削除されます。

使用方法:

```
xCommand UserInterface Extensions Clear [ActivityType: ActivityType]
```

値は次のとおりです。

アクティビティの種類:

カスタム [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

カスタム/ウェブアプリ [DeskPro/DeskLE Boards]

カスタム: カスタムボタン、パネル、ウィジェットは削除されます。ウェブ アプリへの影響はありません。

WebApp: ウェブアプリが削除されます。カスタムボタン、パネルおよびウィジェットには影響しません。

xCommand UserInterface Extensions List

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: インテグレータ、ルーム管理、ユーザー

デバイス上に存在するユーザ インターフェイス拡張機能 (ウェブ アプリ、カスタム ボタン、パネル、ウィジェット) を一覧表示します。ActivityType を指定しない場合、すべての拡張機能が一覧表示されます。

使用方法:

```
xCommand UserInterface Extensions List [ActivityType: ActivityType]
```

値は次のとおりです。

アクティビティの種類:

カスタム [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

カスタム/ウェブアプリ [DeskPro/DeskLE Boards]

カスタム: カスタムボタン、パネル、ウィジェットが一覧表示されます。ウェブ アプリは含まれていません。

WebApp: ウェブアプリが一覧表示されます。カスタムボタン、パネル、ウィジェットは含まれません。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand UserInterface Extensions Panel Clicked

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

ユーザーがカスタムパネルをクリックした際に、イベントを作成します。

使用方法:

xCommand UserInterface Extensions Panel Clicked PanelId: "PanelId"

値は次のとおりです。

パネル ID:

文字列 (0, 255)

カスタムパネルの一意の識別子です。

xCommand UserInterface Extensions Panel Close

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

開いているカスタムパネルを閉じます。

使用方法:

xCommand UserInterface Extensions Panel Close

xCommand ユーザ インターフェイス拡張機能 パネルを開く

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

指定された PanelId のカスタムパネルを開きます。パネルに複数のページがある場合、PageId パラメータを含めることで、どのページを開くかを指定できます。

使用方法:

xCommand UserInterface Extensions Panel Open PanelId: "PanelId" [PageId: "PageId"]

値は次のとおりです。

パネル ID:

文字列 (0, 255)

カスタムパネルの一意の識別子です。

ページ ID:

文字列 (0, 255)

カスタムパネル上のページの一意の識別子です。

xCommand UserInterface Extensions Panel Remove

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール

このデバイスのユーザインターフェイスからカスタムパネルを削除します。

使用方法:

xCommand UserInterface Extensions Panel Remove PanelId: "PanelId"

値は次のとおりです。

パネル ID:

文字列 (0, 255)

カスタムパネルの一意の識別子です。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand UserInterface Extensions Panel Save

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール

現在の構成にカスタムパネルを追加します。パネルが構成に追加されますが、同じパネル ID のパネルがすでに存在する場合は上書きされます。これは複数行のコマンドです。

使用方法:

xCommand UserInterface Extensions Panel Save PanelId: "PanelId"

値は次のとおりです。

パネル ID:

文字列 (1, 255)

カスタムパネルの一意の識別子です。

xCommand UserInterface Extensions Panel Update

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

指定された PanelId のカスタム パネルを更新します。成功した変更はエンドポイントですぐに表示されます。

使用方法:

xCommand UserInterface Extensions Panel Update PanelId: "PanelId" [Name: "Name"] [Color: "Color"] [Icon: Icon] [IconId: "IconId"] [Visibility: Visibility]

値は次のとおりです。

パネル ID:

文字列 (0, 255)

カスタムパネルの一意の識別子です。

名前:

文字列 (0, 255)

カスタムパネルの新しい名前です。

色:

文字列 (0, 255)

指定されたパネルボタンの色は 16 進数で指定されます (例: #4287f5)。

アイコン:

Briefing/Camera/Concierge/Custom/Disc/Handset/Help/Helpdesk/Home/Hvac/Info/Input/Language/Laptop/Lightbulb/Media/Microphone/Power/Proximity/Record/Spark/Tv/Webex/General

利用可能なオプションのリストから選択されたアイコンをボタンに表示します。

カスタムアイコンがアップロードされると、[カスタム] オプションが使用されます。

IconId:

文字列 (0, 255)

カスタムアップロードアイコンの一意の識別子です。

表示設定:

自動/非表示

ボタンの可視性です。

自動: ボタンは設定に応じて表示されます ([常に]、[通話外のみ]、[通話中のみ])。

非表示: ボタンは常に非表示になります。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand UserInterface Extensions Set

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール

デバイスのユーザーインターフェイス拡張機能 (ウィジェット) で選択した設定スキームを設定します。UserInterface Extensions ステータスツリーを更新します。これは複数行のコマンドです。

使用方法:

```
xCommand UserInterface Extensions Set ConfigId: "ConfigId"
```

値は次のとおりです。

ConfigId:

文字列 (0, 40)

構成の一意の識別子です。

xCommand UserInterface Extensions Widget Action

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

指定されたウィジェットのアクションを設定します。UserInterface Extensions ステータスツリーを更新します。

使用方法:

```
xCommand UserInterface Extensions Widget Action [Type: "Type"] [Value: "Value"]  
WidgetId: "WidgetId"
```

値は次のとおりです。

タイプ:

文字列 (0, 255)

設定されているウィジェットのタイプです。

値:

文字列 (0, 255)

ウィジェットの値です。値の範囲はウィジェットのタイプによって異なります。

ウィジェット ID:

文字列 (0, 255)

ウィジェットの一意の識別子です。

xCommand UserInterface Extensions Widget SetValue

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール

指定されたウィジェットの値を設定します。UserInterface Extensions ステータスツリーを更新します。値が範囲外の場合、エラーを返します。

使用方法:

```
xCommand UserInterface Extensions Widget SetValue Value: "Value" WidgetId:  
"WidgetId"
```

値は次のとおりです。

値:

文字列 (0, 255)

ウィジェットの値です。値の範囲はウィジェットのタイプによって異なります。

ウィジェット ID:

文字列 (0, 255)

ウィジェットの一意の識別子です。

xCommand UserInterface Extensions Widget UnsetValue

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール

指定されたウィジェットの値を空にします。ユーザーインターフェイス拡張機能の状況ツリーを更新し、ユーザーインターフェイスにこのウィジェットが選択されていないことを通知します。

使用方法:

```
xCommand UserInterface Extensions Widget UnsetValue WidgetId: "WidgetId"
```

値は次のとおりです。

ウィジェット ID:

文字列 (0, 255)

ウィジェットの一意の識別子です。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand UserInterface Message Alert Clear

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

[ユーザインターフェイスのメッセージ警告表示] コマンドを使用して表示されたメッセージを削除します。これは、[継続時間] パラメータが設定されていない場合に必要です。

使用方法:

```
xCommand UserInterface Message Alert Clear
```

xCommand UserInterface Message Alert Display

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール

画面にメッセージを表示します。オプションで、メッセージを指定した期間表示させ続けることができます。Duration が設定されていない場合、UserInterface Message Alert Clear コマンドをコマンドの後に入力する必要があります。

使用方法:

```
xCommand UserInterface Message Alert Display [Title: "Title"] Text: "Text"
[Duration: Duration]
```

値は次のとおりです。

件名:

文字列 (0, 255)

メッセージのタイトルを入力します。

既定値: ""

テキスト:

文字列 (0, 255)

表示するメッセージです。<p>および
 HTML タグは通常通り改行します。その他のタグはプレーンテキストとして表示されます。

Duration:

整数 (0..3600)

メッセージが画面に表示される時間 (秒) です。0 に設定すると、ユーザインタフェースメッセージアラート消去コマンドが送信されるまで、メッセージが表示されます。

デフォルト値: 0

xCommand UserInterface Message Prompt Clear

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

UserInterface Message Prompt Display コマンドを使って表示されていたウィンドウを削除します。これは、[継続時間] パラメータが設定されていない場合に必要です。

xFeedback コマンドを使用して、ユーザからのフィードバックを監視します。xFeedback コマンドの詳細については、このガイドの API の紹介のセクションを参照してください。

使用方法:

```
xCommand UserInterface Message Prompt Clear [FeedbackId: "FeedbackId"]
```

値は次のとおりです。

フィードバック ID:

文字列 (0, 255)

FeedbackId は UserInterface Message Prompt Display コマンドにより与えられる FeedbackId と一致します。

既定値: ""



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand UserInterface Message Prompt Display

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール

タイトル、テキスト、およびユーザーからの応答のための最大 5 つのオプションを含む小さなウィンドウを画面に表示します。メッセージは、ユーザーが応答するまで、またはデバイスが UserInterface Message Prompt Clear コマンドを受信するまで、画面に表示されます。

xFeedback コマンドを使用して、ユーザからのフィードバックを監視します。xFeedback コマンドの詳細については、このガイドの API の紹介のセクションを参照してください。

使用方法:

```
xCommand UserInterface Message Prompt Display [Title: "Title"] Text: "Text"
[FeedbackId: "FeedbackId"] [Duration: Duration] [Option.1: "Option.1"] [Option.2:
"Option.2"] [Option.3: "Option.3"] [Option.4: "Option.4"] [Option.5: "Option.5"]
```

値は次のとおりです。

件名:

文字列 (0, 255)

メッセージのタイトルを入力します。

テキスト:

文字列 (0, 255)

表示されるテキスト行を入力します。<p>および
 HTML タグは通常通り改行します。その他のタグはプレーンテキストとして表示されます。

フィードバック ID:

文字列 (0, 255)

フィードバックを識別するには、FeedbackId を入力します。

Duration:

整数 (0..3600)

メッセージウィンドウが画面に表示される時間 (秒) です。0 (ゼロ) に設定すると、メッセージウィンドウは、UserInterface Message Prompt Clear コマンドが送信されるまで表示されます。

デフォルト値: 0

オプション 1:

文字列 (0, 255)

フィードバックオプション 1 に表示されるテキストです。

オプション 2:

文字列 (0, 255)

フィードバックオプション 2 に表示されるテキストです。

オプション 3:

文字列 (0, 255)

フィードバックオプション 3 に表示されるテキストです。

オプション 4:

文字列 (0, 255)

フィードバックオプション 4 に表示されるテキストです。

Option.5:

文字列 (0, 255)

フィードバックオプション 5 に表示されるテキストです。

xCommand UserInterface Message Prompt Response

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

ユーザインタフェースメッセージプロンプト表示コマンドに応答します。このコマンドは、ユーザーがユーザインターフェイスのオプションを選択したときに実行されます。

xFeedback コマンドを使用して、ユーザからのフィードバックを監視します。xFeedback コマンドの詳細については、このガイドの API の紹介のセクションを参照してください。

使用方法:

```
xCommand ユーザインターフェイス メッセージ プロンプト応答 [FeedbackId: "FeedbackId"]
OptionId: OptionId
```

値は次のとおりです。

フィードバック ID:

文字列 (0, 255)

FeedbackId は UserInterface Message Prompt Display コマンドにより与えられる FeedbackId と一致します。

既定値: ""

OptionId:

整数 (1..5)

OptionId は、UserInterface Message Prompt Display コマンドで可能な応答として与えられる OptionId に対応します。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand UserInterface Message Rating Clear

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

UserInterface Message Rating Display コマンドを使って表示されていたメッセージを削除します。これは、Duration パラメータが設定されていない場合に必要です。

使用方法:

xCommand UserInterface Message Rating Clear [FeedbackId: "FeedbackId"]

値は次のとおりです。

フィードバック ID:

文字列 (0, 255)

FeedbackId は UserInterface Message Rating Display コマンドにより与えられる FeedbackId と一致します。FeedbackId が指定されていない場合、すべての [ユーザ インターフェイス メッセージ レーティング] ウィンドウが閉じられます。

既定値: ""

xCommand UserInterface Message Rating Display

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

タイトルとテキストを含む小さなウィンドウを画面に表示します。ユーザーが選択するための評価スターが提供されます。メッセージは、ユーザーが応答するか、ユーザ インターフェイス メッセージ レーティング クリア コマンドをデバイスが受信するまで、画面に表示されます。

xFeedback コマンドを使用して、ユーザからのフィードバックを監視します。xFeedback コマンドの詳細については、このガイドの API の紹介のセクションを参照してください。

使用方法:

xCommand UserInterface Message Rating Display [Title: "Title"] Text: "Text" [FeedbackId: "FeedbackId"] [Duration: Duration] [SubmitReceiptText: "SubmitReceiptText"] [SubmitReceiptTitle: "SubmitReceiptTitle"]

値は次のとおりです。

件名:

文字列 (0, 40)

評価表示ウィンドウでタイトルとして表示されるテキストです。Text パラメータで指定されたテキストより上、そして大きなフォントでこのテキストが表示されます。タイトルにテキストが指定されていない場合は、タイトルが省略され、評価の表示ウィンドウが小さく表示されます。

テキスト:

文字列 (0, 128)

表示されるテキスト行を入力します。<p>および
 HTML タグは通常通り改行します。その他のタグはプレーンテキストとして表示されます。

フィードバック ID:

文字列 (0, 255)

フィードバックを識別するには、FeedbackId を入力します。

Duration:

整数 (0..3600)

メッセージウィンドウが画面に表示される時間 (秒) です。空の場合、または 0 に設定されている場合、メッセージウィンドウは、[メッセージレーティングの消去] コマンドが送信されるまで表示されます。

デフォルト値: 0

SubmitReceiptText:

文字列 (0, 128)

ユーザーが評価を行った後にメッセージの本文として表示されるテキスト(「ありがとうございました」など)。このテキストは、Text パラメータで指定された元のテキストを置換し、メッセージが消える前に 1 秒間表示されます。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

SubmitReceiptTitle:

文字列 (0, 40)

ユーザーが評価を行った後にメッセージのタイトルとして表示されるテキスト(例えば、「ありがとうございました」)。このテキストは、Title パラメータで指定された元のタイトルを置換します。Title パラメータが指定されていない場合、これは無視されます。

xCommand UserInterface Message Rating Response

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

ユーザインターフェイスメッセージ評価表示コマンドに応答します。このコマンドは、ユーザーがユーザインターフェイスのオプションを選択したときに実行されます。

xFeedback コマンドを使用して、ユーザからのフィードバックを監視します。xFeedback コマンドの詳細については、このガイドの API の紹介のセクションを参照してください。

使用方法:

```
xCommand UserInterface Message Rating Response [FeedbackId: "FeedbackId"]
Rating: Rating
```

値は次のとおりです。

フィードバック ID:

文字列 (0, 255)

FeedbackId は UserInterface Message Rating Display コマンドにより与えられる FeedbackId と一致します。

既定値: ""

評価:

整数 (1..5)

Rating は、UserInterface Message Rating Display ウィンドウで可能な応答として与えられるレーティングに対応します。1 は左端です。

xCommand ユーザインタフェースメッセージ Text Input クリア

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

UserInterface Message TextInput Display コマンドで表示されたテキスト入力メッセージを削除します。これは、[継続時間] パラメータが設定されていない場合に必要です。

xFeedback コマンドを使用して、ユーザからのフィードバックを監視します。xFeedback コマンドの詳細については、このガイドの API の紹介のセクションを参照してください。

使用方法:

```
xCommand UserInterface Message TextInput Clear [FeedbackId: "FeedbackId"]
```

値は次のとおりです。

フィードバック ID:

文字列 (0, 255)

FeedbackId は UserInterface Message TextInput Display コマンドにより与えられる FeedbackId と一致します。

既定値: ""



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand UserInterface Message TextInput Display

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール

ユーザーが応答するための入力ダイアログボックスを表示します。これは、タッチベースのユーザ インターフェイスを備えたデバイスでのみサポートされています。メッセージは、ユーザーが応答するまで、またはデバイスが UserInterface Message TextInput Clear コマンドを受信するまで、画面に表示されます。

xFeedback コマンドを使用して、ユーザからのフィードバックを監視します。xFeedback コマンドの詳細については、このガイドの API の紹介のセクションを参照してください。

使用方法:

```
xCommand UserInterface Message TextInput Display [Duration: Duration]
[FeedbackId: "FeedbackId"] [InputText: "InputText"] [InputType: InputType]
[KeyboardState: KeyboardState] [Placeholder: "Placeholder"] [SubmitText:
"SubmitText"] Text: "Text" [Title: "Title"]
```

値は次のとおりです。

Duration:

整数 (0..3600)

メッセージが画面に表示される時間 (秒) です。0 (ゼロ) に設定すると、メッセージウィンドウは、UserInterface Message TextInput Clear コマンドが送信されるまで表示されます。

デフォルト値: 0

フィードバック ID:

文字列 (0, 255)

フィードバックを識別するには、FeedbackId を入力します。

InputText:

文字列 (0, 255)

ダイアログボックスが開いた時に、テキスト入力フィールドにあらかじめ入力されているテキストです。応答を送信する前に、このテキストを編集することも、削除して自由なテキストを入力することもできます。

このパラメータが含まれていない場合、ダイアログボックスが開いたときに、プレースホルダパラメータのコンテンツがテキスト入力フィールドに表示されます。

既定値: ""

入力タイプ:

SingleLine/Numeric/Password/PIN

表示されるテキスト入力ダイアログボックスのタイプです。これはまた、表示されるキーボードレイアウトを決定します。

デフォルト値: SingleLine

キーボードの状態:

Open/Closed

テキスト入力メッセージが表示されたときに、デバイスのキーボードを開くかどうかを指定します。

デフォルト値: Open

プレースホルダ:

文字列 (0, 255)

入力を開始するまでテキスト入力フィールドに表示されるプレースホルダーテキストです。InputText パラメータが含まれている場合、Placeholder パラメータの効果はありません。

既定値: ""

送信テキスト:

文字列 (0, 32)

[送信] ボタン上に表示されるテキストです。

既定値: "OK"

テキスト:

文字列 (0, 128)

ユーザーに表示するメッセージです。<p>および
 HTML タグは通常通り改行します。その他のタグはプレーンテキストとして表示されます。

件名:

文字列 (0, 40)

入力ダイアログボックスのタイトルです。

既定値: ""



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand UserInterface Message TextInput Response

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

ユーザインタフェースメッセージテキスト入力表示コマンドに応答してください。このコマンドは、ユーザーがユーザインタフェースのテキスト入力フィールドに入力した回答を送信したときに実行されます。

xFeedback コマンドを使用して、ユーザからのフィードバックを監視します。xFeedback コマンドの詳細については、このガイドの API の紹介のセクションを参照してください。

使用方法:

```
xCommand UserInterface Message TextInput Response [FeedbackId: "FeedbackId"]
Text: "Text"
```

値は次のとおりです。

フィードバック ID:

文字列 (0, 255)

フィードバックを識別するには、FeedbackId を入力します。

テキスト:

文字列 (0, 255)

ユーザーに表示するメッセージです。

xCommand UserInterface Message TextLine Clear

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

UserInterface Message TextLine Display コマンドで表示されたテキストラインを削除します。これは、[継続時間] パラメータが設定されていない場合に必要です。

使用方法:

```
xCommand UserInterface Message TextLine Clear
```

xCommand UserInterface Message TextLine Display

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール

画面にテキスト行を表示します。オプションで、テキスト行を指定した場所に、指定した時間配置することができます。Duration が設定されていない場合、UserInterface Message TextLine Clear コマンドをコマンドの後に入力する必要があります。

使用方法:

```
xCommand UserInterface Message TextLine Display Text: "Text" [X: X] [Y: Y]
[Duration: Duration]
```

値は次のとおりです。

テキスト:

文字列 (0, 140)

表示されるテキスト行です。<p>および
 HTML タグは通常通り改行します。その他のタグはプレーンテキストとして表示されます。

X:

整数 (1..10000)

画面上の X 座標 (水平) を入力します。X=0 は左上角にあります。

デフォルト値: 0

Y:

整数 (1..10000)

画面上の Y 座標 (垂直) を入力します。Y=0 は左上角にあります。

デフォルト値: 0

Duration:

整数 (0..3600)

テキスト行が画面に表示される時間の長さ (秒) です。0 (ゼロ) に設定すると、テキスト行は、ユーザインタフェースメッセージテキスト行消去コマンドが送信されるまで表示されます。

デフォルト値: 0



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand UserInterface Presentation ExternalSource Add

適用先: RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール

外部スイッチ経由でデバイスに接続されている入力ソースを確認し、セットアップします。

使用方法:

xCommand UserInterface Presentation ExternalSource Add ConnectorId: ConnectorId SourceIdentifier: "SourceIdentifier" Name: "Name" Type: Type

値は次のとおりです。

コネクタ ID:

整数 (0..5)

外部スイッチが接続されているデバイスコネクタの ID。

ソース識別子:

文字列 (0, 40)

入力ソースを識別する一意の文字列。識別子は、この特定の入力ソースをアドレス指定するときに、他のコマンドおよびイベントによって使用されます。

名前:

文字列 (0, 40)

入力ソースの名前です。この名前はユーザインターフェイス上に表示されます。

タイプ:

camera/desktop/document_camera/mediaplayer/PC/whiteboard/other

入力ソースのタイプです。タイプによって、ユーザ インターフェイスに表示されるアイコンが決まります。

xCommand ユーザ インターフェイス プレゼンテーション 外部ソース リスト

適用先: RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール

外部入力ソースの現在のリストを返します。

使用方法:

xCommand UserInterface Presentation ExternalSource List

xCommand UserInterface Presentation ExternalSource Remove

適用先: RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール

外部入力ソースのリストから入力ソース (SourceIdentifier で指定) を削除します。

使用方法:

xCommand UserInterface Presentation ExternalSource Remove SourceIdentifier: "SourceIdentifier"

値は次のとおりです。

SourceIdentifier:

文字列 (0, 40)

この入力ソースを識別する一意の文字列です。これは、ソースが UserInterface Presentation ExternalSource Add コマンドで作成されたときに定義されたものです。

xCommand UserInterface Presentation ExternalSource RemoveAll

適用先: RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール

外部入力ソースのリストからすべての入力ソースを削除します。

使用方法:

xCommand UserInterface Presentation ExternalSource RemoveAll



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand UserInterface Presentation ExternalSource Select

適用先: RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

入力ソース (SourceIdentifier で指定) が対応可能な状態の場合に、入力ソースの表示を開始します (UserInterface Presentation ExternalSource State Set コマンドを参照)。入力ソースは、ユーザーインターフェイスのシェアトレイで「表示中」として表示されます。

使用方法:

```
xCommand UserInterface Presentation ExternalSource Select SourceIdentifier:
"SourceIdentifier"
```

値は次のとおりです。

ソース識別子:

文字列 (0, 40)

この入力ソースを識別する一意の文字列です。これは、ソースが UserInterface Presentation ExternalSource Add コマンドで作成されたときに定義されたものです。

xCommand UserInterface Presentation ExternalSource State Set

適用先: RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール

入力ソース (SourceIdentifier で指定) の状態を設定または変更します。

使用方法:

```
xCommand UserInterface Presentation ExternalSource State Set SourceIdentifier:
"SourceIdentifier" State: State [ErrorReason: "ErrorReason"]
```

値は次のとおりです。

ソース識別子:

文字列 (0, 40)

この入力ソースを識別する一意の文字列です。これは、ソースが UserInterface Presentation ExternalSource Add コマンドで作成されたときに定義されたものです。

状態:

Hidden/Ready/NotReady/Error

準備完了: 誰かが選択すると入力ソースが表示されます (ユーザインタフェース上でタップするか、UserInterface プレゼンテーション外部ソース選択コマンドが発行されたとき)。

NotReady: 入力ソースの準備ができていないため、選択することができません。

Error: 入力ソースの状態がエラー状態です。ErrorReason パラメータを使用すると、失敗の理由をユーザーに通知できます。

非表示: 入力ソースは共有トレイのユーザインタフェースに表示されません。

エラー理由:

文字列 (0, 80)

State パラメータが Error に設定されている場合、この文字列はユーザインタフェースの共有トレイに表示されます。

既定値: ""



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand UserInterface WallpaperBundle Clear

適用対象: *RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者

マルチスクリーンの背景画像を消去します。

使用方法:

```
xCommand UserInterface WallpaperBundle Clear
```

xCommand UserInterface WallpaperBundle List

適用対象: *RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者

マルチスクリーン背景画像が組み込まれたデバイスでは、このコマンドで背景画像を一覧表示できます。

使用方法:

```
xCommand UserInterface WallpaperBundle List
```

xCommand UserInterface WallpaperBundle Set

適用対象: *RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者

マルチスクリーン背景画像が内蔵されているデバイスでは、このコマンドで背景画像を選択できます。

使用方法:

```
xCommand UserInterface WallpaperBundle Set Name: "Name"
```

値は次のとおりです。

名前:

文字列 (0, 255)

ユーザインターフェイスの壁紙バンドルリストコマンドで表示されるマルチスクリーンの背景画像の名前です。

xCommand UserInterface WebView Clear

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

現在のウェブビューを閉じる。

使用方法:

```
xCommand ユーザーインターフェイス ウェブビュー クリア
```

xCommand UserInterface WebView Display

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

ウェブビューを開き、URL で指定されたウェブページを表示します。

使用方法:

```
xCommand UserInterface WebView Display [Header: "Header"] [Options: "Options"]  
[Title: "Title"] Url: "Url"
```

値は次のとおりです。

ヘッダー:

文字列 (0, 8192)

HTTP ヘッダー フィールド。1 つのコマンドに最大 15 個のヘッダーパラメータを追加でき、それぞれが 1 つの HTTP ヘッダーフィールドを保持します。

オプション:

文字列 (0, 255)

この値は、UI 拡張機能エディターによる内部使用を意図しています。

件名:

文字列 (0, 255)

ウェブページのタイトルです。

URL:

文字列 (0, 2000)

ウェブページの URL です。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

UserManagement コマンド

xCommand UserManagement RemoteSupportUser Create

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

Technical Assistance Center (TAC) がトラブルシューティングのためにデバイスにアクセスするために使用できるリモート サポート ユーザ パスフレーズを作成します。

使用方法:

```
xCommand UserManagement RemoteSupportUser Create [ExpiryDays: ExpiryDays]
```

値は次のとおりです。

有効期限日:

整数 (1..31)

パスフレーズの有効期間を定義します。デフォルトは 7 日間です。

xCommand UserManagement RemoteSupportUser Delete

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

xCommand UserManagement RemoteSupportUser Create コマンドで作成したリモートサポートユーザーを削除します。

使用方法:

```
xCommand UserManagement RemoteSupportUser Delete
```

xCommand UserManagement RemoteSupportUser DisablePermanently

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

新しいリモートサポートユーザーの作成を無効にします。リモートサポートユーザーを再び有効にするには、デバイスを出荷時設定にリセットする必要があります。

使用方法:

```
xCommand UserManagement RemoteSupportUser DisablePermanently Confirm: Confirm
```

値は次のとおりです。

確認:

対応

xCommand ユーザ管理 RemoteSupportUser GetState

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

生成されたリモートサポートユーザーの状態を取得します (存在する場合)。

使用方法:

```
xCommand UserManagement RemoteSupportUser GetState
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand UserManagement User Add

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

このデバイスに新しいユーザーを追加します。

使用方法:

```
xCommand UserManagement User Add [Active: Active] [ClientCertificateDN: "ClientCertificateDN"] Passphrase: "Passphrase" [PassphraseChangeRequired: "PassphraseChangeRequired"] [Role: Role] [ShellLogin: ShellLogin] Username: "Username" [YourPassphrase: "YourPassphrase"]
```

値は次のとおりです。

アクティブ:

False/True

これがアクティブユーザかどうかを指定します。

ClientCertificateDN:

文字列 (0, 255)

ユーザ名とパスワードの代わりにクライアント証明書を使ってログインするユーザーを識別します。

パスフレーズ:

文字列 (0, 255)

ユーザのパスフレーズを指定します。

パスフレーズ変更が必要:

False/True

ユーザのパスフレーズの変更が必要かどうかを指定します。

役割:

Admin/Audit/Integrator/RoomControl/User

ユーザのロールを設定します。

Shell ログイン:

False/True

ユーザーがシェルログインを持つ必要があるかどうかを指定します。

ユーザ名:

文字列 (0, 127)

ユーザのユーザ名を指定します。

パスフレーズ:

文字列 (0, 255)

ユーザのパスフレーズ。

xCommand UserManagement User Delete

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

このデバイスからユーザーを削除します。

使用方法:

```
xCommand UserManagement User Delete Username: "Username" [YourPassphrase: "YourPassphrase"]
```

値は次のとおりです。

ユーザ名:

文字列 (0, 127)

削除するユーザのユーザ名を指定します。

パスフレーズ:

文字列 (0, 255)

削除されるユーザのパスフレーズ。

xCommand UserManagement User Get

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

このデバイスのユーザの詳細を表示します。

使用方法:

```
xCommand UserManagement User Get [ClientCertificateDN: "ClientCertificateDN"] [Username: "Username"]
```

値は次のとおりです。

ClientCertificateDN:

文字列 (0, 255)

ユーザ名とパスワードの代わりにクライアント証明書を使ってログインするユーザーを識別します。

ユーザ名:

文字列 (0, 127)

ユーザ名を指定して特定のユーザーの詳細を表示します。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand UserManagement ユーザリスト

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

このデバイス上のユーザーのリストを表示します。

使用方法:

```
xCommand UserManagement User List [Limit: Limit] [Offset: Offset]
```

値は次のとおりです。

制限:

整数 (0..65536)

表示される結果の数を制限します。

デフォルト値: 0

Offset セット:

整数 (0..65536)

指定されたOffsetと同等またはそれ以上のOffsetを持つ行を表示します。

デフォルト値: 0

xCommand UserManagement User Modify

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

特定のユーザーの詳細を変更します。

使用方法:

```
xCommand UserManagement User Modify [Active: Active] [AddRole: AddRole]
[ClientCertificateDN: "ClientCertificateDN"] [PassphraseChangeRequired:
PassphraseChangeRequired] [RemoveRole: RemoveRole] [ShellLogin: ShellLogin]
Username: "Username" [YourPassphrase: "YourPassphrase"]
```

値は次のとおりです。

アクティブ:

False/True

これがアクティブユーザかどうかを指定します。

AddRole:

Admin/Audit/Integrator/RoomControl/User

指定したユーザーに新しいロールを追加します。

ClientCertificateDN:

文字列 (0, 255)

クライアント証明書を使ってユーザー名とパスワードの代わりにログインするユーザーを識別します。

パスワード変更が必要:

False/True

ユーザのパスワードの変更が必要かどうかを指定します。

RemoveRole:

Admin/Audit/Integrator/RoomControl/User

指定されたユーザからロールを削除します。

Shell ログイン:

False/True

ユーザーがシェルログインを持つ必要があるかどうかを指定します。

ユーザ名:

文字列 (0, 127)

ユーザのユーザ名を指定します。

パスワード:

文字列 (0, 255)

ユーザのパスワード。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand UserManagement User Passphrase Change

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、監査、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

ログイン時に使用したユーザのパスフレーズを変更します。管理者としてログインしている場合、これにより管理者パスフレーズが変更されます。

使用方法:

```
xCommand UserManagement User Passphrase Change NewPassphrase: "NewPassphrase"
OldPassphrase: "OldPassphrase"
```

値は次のとおりです。

新規パスフレーズ:

文字列 (0, 255)

古いパスフレーズ:

文字列 (0, 255)

xCommand UserManagement User Passphrase Set

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

指定されたユーザのユーザパスフレーズを設定します。ユーザパスフレーズを設定するには、管理者としてログインしている必要があります。

使用方法:

```
xCommand UserManagement User Passphrase Set NewPassphrase: "NewPassphrase"
Username: "Username" [YourPassphrase: "YourPassphrase"]
```

値は次のとおりです。

新規パスフレーズ:

文字列 (0, 255)

ユーザ名:

文字列 (0, 127)

パスフレーズ:

文字列 (0, 255)

xCommand UserManagement User Unblock

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

ログインに何回も失敗したためにブロックされたユーザーのブロックを解除します。

使用方法:

```
xCommand UserManagement User Unblock Username: "Username" [YourPassphrase:
"YourPassphrase"]
```

値は次のとおりです。

ユーザ名:

文字列 (0, 127)

パスフレーズ:

文字列 (0, 255)



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ビデオコマンド

xCommand Video ActiveSpeakerPIP Set

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

アクティブスピーカーの PiP (ピクチャーインピクチャー) の位置を設定します。

使用方法:

xCommand Video ActiveSpeakerPIP Set Position: Position

値は次のとおりです。

Position:

CenterLeft/CenterRight/DockCenterLeft/DockLowerLeft/LowerLeft/LowerRight/
UpperCenter/UpperLeft/UpperRight

定義済みの位置の 1 つを選択します。

xCommand Video CEC Input KeyClick

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

入力デバイスからのリモートコントロールキークリックイベントを模倣します。

使用方法:

xCommand Video CEC Input KeyClick ConnectorId: ConnectorId [Key: Key]
[LogicalAddress: LogicalAddress] [NamedKey: NamedKey]

値は次のとおりです。

コネクタ ID:

整数 (1..5) [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

整数 (1..3) [RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro/DeskLE]

整数 (2..2) [ボード]

コネクタの一意の識別子。

キー:

整数 (0..255)

CEC は、リモートコントロールで押されたかのように、デバイスの論理アドレスに送信されるキーのキーコードを指定します。

論理アドレス:

整数 (0..15)

接続されたデバイスの論理アドレス。

NamedKey:

上/下/右/左/OK/戻る/停止/再生

デバイスの論理アドレスに送信され、リモートコントロールで押されたかのようなキーの名前。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Video CEC Output KeyClick

適用先: RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

このデバイスからのリモート コントロール キー クリック イベントを模倣します。

使用方法:

xCommand Video CEC Output KeyClick ConnectorId: ConnectorId [Key: Key]
LogicalAddress: LogicalAddress [NamedKey: NamedKey]

値は次のとおりです。

コネクタ ID:

整数 (1..3)

コネクタの一意の識別子。

キー:

整数 (0..255)

CEC は、リモートコントロールで押されたかのように、デバイスの論理アドレスに送信されるキーのキー コードを指定します。

論理アドレス:

整数 (0..15)

接続されたデバイスの論理アドレス。

NamedKey:

上/下/右/左/OK/戻る/停止/再生

リモート コントロールで押されたかのように、デバイスの論理アドレスに送信されるキーの名前。

xCommand Video CEC Output SendActiveSourceRequest

適用先: RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

指定された出力コネクタに接続されたスクリーン(デバイス)のアクティブソースになるためのビデオ会議デバイスからの要求です。

使用方法:

xCommand Video CEC 出力 SendActiveSourceRequest [ConnectorId: ConnectorId]

値は次のとおりです。

コネクタ ID:

整数 (1..1) [RoomKitMini]

整数(1..3) [RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE]

コネクタの一意の識別子。

xCommand Video CEC Output SendInactiveSourceRequest

適用対象: RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

指定された出力コネクタに接続されているスクリーン(デバイス)のアクティブ ソースを停止するためのビデオ会議デバイスからのリクエストです。要求にどのように応答するかは、画面が決定します。アクティブなソースに自身を設定することも、他のソースをアクティブにすることも、何も行わないこともできます。

使用方法:

xCommand Video CEC 出力 SendInactiveSourceRequest [ConnectorId: ConnectorId]

値は次のとおりです。

コネクタ ID:

整数 (1..1) [RoomKitMini]

整数(1..3) [RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE]

コネクタの一意の識別子。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Video Graphics Clear

適用先: *RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

[ビデオグラフィックステキスト表示] コマンドを使ってメインビデオストリーム、プレゼンテーションストリーム、またはローカル出力に追加されたテキスト文字列を削除する。これらすべての場所からテキスト文字列を削除したくない場合は、複数のターゲット パラメータを使用して、サブセットを選択できます。

使用方法:

xCommand ビデオ グラフィックス クリア [レイヤー: レイヤー] [ターゲット: ターゲット]

値は次のとおりです。

レイヤー:

整数 (1..3)

このバージョンでは適用できません。

ターゲット:

LocalOutput/MainSource/PresentationSource

テキスト文字列を削除する場所を指定します。ローカル出力、メインビデオストリーム、またはプレゼンテーションストリームから選択します。

xCommand Video Graphics Text Display

適用先: *RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

メインビデオストリーム、プレゼンテーションストリーム、およびローカル出力に追加される文字列を作成します。これらすべての場所にテキスト文字列を追加しない場合は、複数のターゲット パラメータを使用して、サブセットを選択できます。

使用方法:

xCommand Video Graphics Text Display [Date: Date] [Duration: Duration] [Target: Target] [Text: "Text"] [Time: Time]

値は次のとおりです。

日付:

On/Off

テキスト文字列に日付を含めるかどうかを指定します。

Duration:

整数 (0..3600)

このバージョンでは適用できません。

ターゲット:

LocalOutput/MainSource/PresentationSource

テキスト文字列を追加する場所を指定します。ローカル出力、メインビデオストリーム、またはプレゼンテーションストリームから選択します。

テキスト:

文字列 (0, 1024)

テキスト文字列に含めるカスタムテキストを指定します。

時間:

On/Off

テキスト文字列に時刻を含めるかどうかを指定します。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Video Input MainVideo Mute

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

デバイスからのビデオの送信を停止します。セルフビューも Off になります。このコマンドはプレゼンテーションチャンネルには影響しません。

使用方法:

```
xCommand Video Input MainVideo Mute
```

xCommand Video Input MainVideo Unmute

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

もし以前に Video Input MainVideo Mute コマンド (または利用可能な場合はユーザーインターフェイスの [ビデオをOffにする (Turn off video)] ボタン) を使用してOffにした場合、デバイスからのビデオ送信を開始します。セルフビューも利用できます。

使用方法:

```
xCommand Video Input MainVideo Unmute
```

xCommand ビデオ入力 SetMainVideoSource

適用先: RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

どの入力ソースをメインビデオソースにするかを設定します。入力ソースは、接続されている物理コネクタ ConnectorId または論理ソース識別子 SourceId のいずれかで識別できます。

同じコマンドに複数の ConnectorId または SourceId を追加することで、複数の入力ソースを単一のメインビデオストリームに組み合わせることができます (異なる入力ソースの最大数はビデオ会議デバイスのタイプによって異なります)。同じコマンドで識別子の種類を混在させることはできません。ConnectorId または SourceId のいずれかを使用します。

使用方法:

```
xCommand Video Input SetMainVideoSource [ConnectorId: ConnectorId] [Layout: Layout] [PiPPosition: PiPPosition] [PiPSize: PiPSize] [SourceId: SourceId]
```

値は次のとおりです。

コネクタ ID:

整数 (1..n)

コネクタの識別子 (ID) です。コネクタ [n] の ID は n です。ID を見つけるために xStatus Video Input Connector の API コマンドを実行します。

レイアウト:

Equal/PiP/Prominent

メインビデオソースが複数の入力ソースで構成されている場合に、メインビデオソースのレイアウトを設定します。

Equal: 入力ソースは同じサイズの画像で表示されます。画面には最大で 4 つの画像を表示できます。

PIP: 入力ソースの 1 つをピクチャーインピクチャーとして表示します (2 つの入力ソースを合成する場合にのみ利用できます)。

Prominent: 最初の入力ソースが大きな画像で表示され、次の入力ソースが小さな画像で下に表示されます。

PIP の位置:

LowerLeft/LowerRight/UpperLeft/UpperRight

メインビデオソースが複数の入力ソースで構成されている場合、メインビデオソースの PIP の位置を選択します。

PIP サイズ:

自動/大

メインビデオソースが複数の入力ソースで構成されている場合、メインビデオソースの PIP サイズを選択します。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ソース ID:

整数 (1..n)

入力ソースの識別子 (ID) です。入力ソース [n] の ID は n です。ID を見つけるために、次の API コマンド `xStatus Video Input Source` を実行します。

xCommand Video Layout LayoutFamily Set

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ローカルで使用するビデオレイアウトファミリーを選択します。この設定は、デバイスの組み込み MultiSite 機能 (オプション) を使用してマルチポイント ビデオ会議を主催する場合にのみ適用されます。

使用方法:

```
xCommand Video Layout LayoutFamily Set [CustomLayoutName: "CustomLayoutName"]
[LayoutFamily: LayoutFamily] [Target: Target]
```

値は次のとおりです。

カスタムレイアウト名:

文字列 (1, 128)

カスタムレイアウトを使用するには、このパラメータとレイアウト名を指定します。

レイアウト ファミリ:

`auto/custom/equal/overlay/prominent/prominent_l/single`

レイアウトファミリーを選択します。

Auto: デバイスが提供するレイアウト データベースで指定されているデフォルトのレイアウト ファミリが、ローカル レイアウトとして使用されます。

カスタム: カスタムで保存したレイアウトの名前です。

Equal: グリッドレイアウトファミリーがローカルレイアウトとして使用されます。参加者はグリッド内に同じサイズのビデオで表示されます。共有コンテンツがある場合は、グリッドの横に表示されます。

オーバーレイ: オーバーレイレイアウトファミリーがローカルレイアウトとして使用されます。発言者はフルスクリーンで表示され、他の参加者は下部に重ねられたサムネイルで表示されます。コンテンツがある場合は、フルスクリーンでアクティブな発言者がサムネイルとして上に重ねて表示されます。アクティブな発言者間のトランジションは音声による自動切り替えです。

Prominent: Stack レイアウトファミリーがローカルレイアウトとして使用されます。発言者や共有コンテンツは大きな画像で表示され、他の参加者は上部に小さな画像で表示されます。アクティブな発言者間のトランジションは音声による自動切り替えです。

Prominent_L: Prominent レイアウトファミリーがローカルレイアウトとして使用されます。アクティブな発言者は画面の左上部分に表示され、他の参加者は画面下部と右の横に表示されます。

単一: フォーカス レイアウト ファミリーがローカル レイアウトとして使用されます。アクティブな発言者、または存在する場合はプレゼンテーションがフルスクリーンで表示されます。他の参加者は表示されません。アクティブな発言者間のトランジションは音声による自動切り替えです。

ターゲット:

ローカル/リモート

ターゲットをローカル レイアウト (現在のデバイスのユーザーに表示) またはリモート レイアウト (遠端の参加者に表示) のどちらかを選択します。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand ビデオ マトリックスの割り当て

適用対象: *RoomKit CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

ビデオ マトリックス コマンドは、xCommand ビデオ レイアウト コマンドのスマート オーバーレイであり、単純なビデオ合成を容易にします。

使用方法:

```
xCommand Video Matrix Assign [Layout: Layout] [Mode: Mode] Output: Output
[RemoteMain: RemoteMain] [SourceId: SourceId]
```

値は次のとおりです。

レイアウト:

Equal/Prominent

ビデオ構成に使用するレイアウトを選択します。

等しい: すべてのソースが出力時に同じサイズの画像で表示されます。

目立つ: 最初のソースが大きな画像として表示され、次のソースが小さい画像として下に表示されます。

Mode:

追加/置換

そのフルスクリーン出力上で既存のソースを置き換えるか、追加するかを選択します。Add を使用すると、レイアウトエンジンが自動的に複数のソースを再構成します。Replace がデフォルト値です。

出力:

整数 (1..2) [RoomKit CodecPlus]

整数 (1..3) [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

このレイアウトに使用する出力を選択します。

RemoteMain:

整数 (1..4)

リモートサイトをレイアウトに追加します。

ソース ID:

整数 (1..6) [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

整数 (1..4) [RoomKit CodecPlus]

入力ソースの識別子 (ID) です。入力ソース [n] の ID は n です。ID を見つけるために、次の API コマンド xStatus Video Input Source を実行します。1 つのコマンドで最大 4 つの SourceId を使用できます。

xCommand Video Matrix Reset

適用対象: *RoomKit CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

出力のコンテンツをデフォルトのレイアウトにリセットします。

xCommand Video Matrix コマンドは xCommand Video Layout コマンドのスマートなオーバーレイで、簡単なビデオ合成を容易にします。

使用方法:

```
xCommand Video Matrix Reset [Output: Output]
```

値は次のとおりです。

出力:

整数 (1..2) [RoomKit CodecPlus]

整数 (1..3) [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

リセットしたい出力を選択します。

xCommand ビデオマトリックス切り替え

適用対象: *RoomKit CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

2 つの出力間で xCommand Video Matrix Assign で定義されたコンテンツを切り替えます。

xCommand Video Matrix コマンドは xCommand Video Layout コマンドのスマートなオーバーレイで、簡単なビデオ合成を容易にします。

使用方法:

```
xCommand Video Matrix Swap OutputA: OutputA OutputB: OutputB
```

値は次のとおりです。

OutputA:

整数 (1..2) [RoomKit CodecPlus]

整数 (1..3) [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

スワップ元の出力です。

出力 B:

整数 (1..2) [RoomKit CodecPlus]

整数 (1..3) [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

切り替える先の出力です。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand ビデオ マトリックス割り当て解除

適用対象: *RoomKit CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

出力からソースを削除します。xCommand Video Matrix Assign、と同様に、レイアウトエンジンは残りのソースを自動的に再構成します。

xCommand Video Matrix コマンドは xCommand Video Layout コマンドのスマートなオーバーレイで、簡単なビデオ合成を容易にします。

使用方法:

```
xCommand Video Matrix Unassign Output: Output [RemoteMain: RemoteMain]  
[SourceId: SourceId]
```

値は次のとおりです。

出力:

整数 (1..2) [*RoomKit CodecPlus*]

整数 (1..3) [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

ソースを取り除く出力を選択します。

RemoteMain:

整数 (1..4)

レイアウトからリモートサイトを削除します。

ソース ID:

整数 (1..2) [*RoomKit*]

整数 (1..3) [*CodecPlus*]

整数 (1..6) [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

入力ソースの識別子 (ID) です。入力ソース [n] の ID は n です。ID を見つけるために、次の API コマンド xStatus Video Input Source を実行します。

xCommand Video Output Monitor Backlight Set

適用対象: *Room70/Room55D Room70G2 DeskPro/DeskLE Boards*

必要なユーザーロール: 管理者

モニタのバックライトを調整します。

使用方法:

```
xCommand Video Output Monitor Backlight Set Position: Position Value: Value
```

値は次のとおりです。

位置: [*Room70/Room55D Room70G2*]

左/右

左側または右側の統合画面のどちらにコマンドを適用するかを選択します。このパラメータは、2つの統合画面を持つデバイス (デュアルスクリーンデバイス) にのみ存在します。

値:

整数 (0..100)

レベルを選択します。

xCommand Video Output Monitor Color Select

適用先: *Room70/Room55D Room70G2*

必要なユーザーロール: 管理者

モニタの色温度を調整します。

使用方法:

```
xCommand Video Output Monitor Color Select Position: Position Value: Value
```

値は次のとおりです。

Position:

左/右

左側または右側の統合画面のどちらにコマンドを適用するかを選択します。このパラメータは、2つの統合画面を持つデバイス (デュアルスクリーンデバイス) にのみ存在します。

値:

4900K/5500K/6500K/7200K/9300K/10500K/12000K



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand ビデオ出力モニタのリセット

適用対象: *Room70/Room55D Room70G2 Boards*

必要なユーザーロール: 管理者

モニタ設定をリセットする。

使用方法:

xCommand Video Output Monitor Reset Position: Position

値は次のとおりです。

位置: *[Room70/Room55D Room70G2]*

左/右

左側または右側の統合画面のどちらにコマンドを適用するかを選択します。このパラメータは、2つの統合画面を持つデバイス（デュアルスクリーンデバイス）にのみ存在します。

xCommand Video PresentationPIP Set

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザー役割: ADMIN, USER

プレゼンテーション PiP (ピクチャーインピクチャー) の位置を設定します。

使用方法:

xCommand Video PresentationPIP Set Position: Position

値は次のとおりです。

Position:

CenterLeft/CenterRight/DockCenterLeft/DockLowerLeft/LowerLeft/LowerRight/UpperCenter/UpperLeft/UpperRight

定義済みの位置の 1 つを選択します。

xCommand Video PresentationView Set

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザー役割: ADMIN, USER

プレゼンテーション表示モードを設定する

使用方法:

xCommand Video PresentationView Set View: View

値は次のとおりです。

表示:

デフォルト/最大化/最小化

コーデックのデフォルト設定でプレゼンテーションを表示する場合は、[デフォルト] を選択します。プレゼンテーションをフルスクリーンで表示する場合は、[最大化] を選択します。選択画面上の小さな画像でプレゼンテーションを表示する場合は、[最小化 (Minimized)]。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Video Selfview Set

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

自分の表示のOn/Offを設定し、そのサイズと位置を指定します。このパラメータが指定されていない場合、現在の値が使用されます。

使用方法:

```
xCommand Video Selfview Set [Mode: Mode] [FullscreenMode: FullscreenMode]
[PIPPosition: PIPPosition] [OnMonitorRole: OnMonitorRole]
```

値は次のとおりです。

Mode:

On/Off

セルフビューが On または Off に設定されています。

フルスクリーンモード:

On/Off

自分の映像を全画面で表示するか、ピクチャーインピクチャーで表示するかを選択します。

PIP の位置:

CenterLeft/CenterRight/DockCenterLeft/DockLowerLeft/LowerLeft/LowerRight/

UpperCenter/UpperLeft/UpperRight

自分のビュー画像を配置する位置を選択します。

OnMonitorRole:

First/Second/Third

この役割のモニタ上にセルフビューを表示します。

Web エンジン コマンド

xCommand UserInterface WebEngine DeleteStorage

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

デジタル サイネージやウェブ アプリなどのウェブ表示タイプのセッション データを削除します。

使用方法:

```
xCommand UserInterface WebEngine DeleteStorage [Type: Type]
```

値は次のとおりです。

タイプ:

All/Signage/WebApps

All: すべてのウェブビュータイプのセッションデータを削除します。

サイネージ: デジタル サイネージに関連するセッション データを削除します。

WebApps: デジタル サイネージを除くすべてのウェブ ビューに関連するセッション データを削除します。

既定値: すべて



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

Webex コマンド

xCommand Webex Join

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

ミーティング番号で指定された Webex ミーティングに参加します。

通話履歴で通話を識別するために、表示名やタグなどのオプションの情報を追加します。

使用方法:

xCommand Webex 参加 [DisplayName: "DisplayName"] 番号: "Number" [TrackingData: "TrackingData"]

値は次のとおりです。

表示名:

文字列 (0, 255)

リモート参加者の表示名です。

番号:

文字列 (0, 255)

ミーティング番号、ミーティングリンク、ビデオアドレス、またはパーソナル会議室 ID。

トラッキングデータ:

文字列 (0, 255)

通話履歴の通話番号と共に保存されるタグまたはラベル。

xCommand Webex 登録のキャンセル

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

Cisco Webex へのデバイス登録をキャンセルします。

このコマンドは、xCommand Webex Registration Start を使用して登録が開始された後の短期間のみ機能します。

使用方法:

xCommand Webex 登録のキャンセル

xCommand Webex Registration ConvertToCloud

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

Cisco Webex クラウド サービスで管理されるようにデバイスを変換します。

これは、デバイス用の Webex Edge にリンクされたシステムでのみ利用できます。通話とディレクトリのための Onプレミス サービスへの現在のすべての接続は、クラウド データ ソースに置き換えられます。

Onプレミスに戻すには、デバイスを出荷時設定にリセットする必要があります。

使用方法:

xCommand Webex Registration ConvertToCloud Confirm: Confirm

値は次のとおりです。

確認:

対応

Yes と入力します。大文字と小文字は区別されません。コマンドを実行することを確認するためです。それ以外の文字を入力するとリクエストがキャンセルされます。

xCommand Webex Registration Logout

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者

このリリースには適用されません。

使用方法:

xCommand Webex Registration Logout



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xCommand Webex Registration Start

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

Control Hub で作成されたアクティベーション コードを入力し、ローカル ユーザとインテグレーションを保持するかどうかを選択して、Cisco Webex クラウド サービスへのデバイスの登録を開始します。

登録が正常に完了するか、失敗したかを確認するメッセージが表示されます。

使用方法:

```
xCommand Webex Registration Start [AccountLinkMode: AccountLinkMode]
ActivationCode: "ActivationCode" SecurityAction: SecurityAction
```

値は次のとおりです。

アカウントリンクモード:

非同期

このリリースには適用されません。

ActivationCode:

文字列 (0, 128)

制御ハブで作成されたこのデバイスのアクティベーション コード。

セキュリティアクション:

Harden/NoAction

強化: このデバイス用に作成されたすべてのローカルユーザを非アクティブ化し、マクロを非アクティブ化します。

NoAction: どのような設定でも削除しません。既存の統合を保持する場合は「NoAction」を使用してください。

WebRTC コマンド

xCommand WebRTC Provider Current Diagnostics Send

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

Microsoft Teams ミーティングウェブアプリ (WebRTC) から WebRTC プロバイダーに診断を送信します。WebRTC は、Onプレミス サービスに登録されており、デバイス用の Webex Edge にリンクされているデバイス、および Webex クラウド サービスに登録されているデバイスでのみ利用できます。

使用方法:

```
xCommand WebRTC Provider Current Diagnostics Send
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

第 5 章

xStatus コマンド



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus コマンドの説明

この章では、すべての xStatus コマンドと応答を確認できます。ステータスタイプのコマンドは、システムとシステムプロセスに関する情報を返します。すべての情報または一部のみを照会することができます。

Audio ステータス	335
xStatus Audio Devices Bluetooth ActiveProfile	335
xStatus Audio Devices HandsetUSB ConnectionStatus	335
xStatus Audio Devices HandsetUSB Cradle	336
xStatus Audio Devices HeadsetAnalog Connection Status	336
xStatus Audio Devices HeadsetUSB ConnectionStatus	336
xStatus 音声デバイス ヘッドセット USB 説明	336
xStatus Audio Devices HeadsetUSB Manufacturer	337
xStatus Audio Input Connectors HDMI [n] Mute	337
xStatus Audio Input Connectors Line [n] Mute	337
xStatus Audio Input Connectors Microphone [n] ConnectionStatus	337
xStatus Audio Input Connectors Microphone [n] EcReferenceDelay	338
xStatus 音声入力コネクタ マイク [n] ミュート	338
xStatus Audio Input Connectors USBC [n] Mute	338
xStatus 音声入力キークリックの減弱	338
xStatus 音声入力キークリックが検出されました	339
xStatus Audio Input KeyClick Enabled	339
xStatus Audio Input LocalInput [n] AGC	339
xStatus 音声入力ローカル入力 [n] チャンネル	339
xStatus Audio Input LocalInput [n] Connector [n]	340
xStatus Audio Input LocalInput [n] Direct	340
xStatus Audio Input LocalInput [n] MixerMode	340
xStatus Audio Input LocalInput [n] Mute	340
xStatus Audio Input LocalInput [n] Name	341
xStatus Audio Input RemoteInput [n] CallId	341
xStatus Audio Microphones MusicMode	341
xStatus Audio Microphones Mute	341
xStatus Audio Output Connectors ARC [n] DelayMs	342

xStatus 音声出力コネクタ ARC [n] モード	342
xStatus Audio Output Connectors HDMI [n] DelayMs	342
xStatus 音声出力コネクタ HDMI [n] モード	342
xStatus Audio Output Connectors InternalSpeaker [n] DelayMs	343
xStatus 音声出力コネクタ 内部スピーカー [n] モード	343
xStatus Audio Output Connectors Line [n] ConnectionStatus	343
xStatus 音声出力コネクタ 回線 [n] DelayMs	343
xStatus Audio Output LocalOutput [n] AutoconnectRemote	344
xStatus Audio Output LocalOutput [n] Channels	344
xStatus Audio Output LocalOutput [n] Connector [n]	344
xStatus 音声出力 LocalOutput [n] 入力 [n] ゲイン	344
xStatus Audio Output LocalOutput [n] Loudspeaker	345
xStatus Audio Output LocalOutput [n] Name	345
xStatus 音声出力ローカル出力 [n] ボリュームコントロール	345
xStatus Audio Output MeasuredHdmiArcDelay	345
xStatus Audio Output MeasuredHdmiDelay	346
xStatus Audio Output MeasuredHdmiCecDelay	346
xStatus 音声出力 リモート出力 [n] CallId	346
xStatus Audio Output RemoteOutput [n] Input [n] Gain	346
xStatus Audio SelectedDevice	347
xStatus 音声の音量	347
xStatus Audio VolumeHandsetUsb	347
xStatus Audio VolumeHeadsetAnalog	347
xStatus Audio VolumeHeadsetUsb	348
xStatus Audio VolumeInternal	348
xStatus Audio VolumeMute	348



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

Bookings ステータス	349
xStatus 現在の予約 ID.....	349
コールステータス	349
xStatus 通話 [n] AnswerState.....	349
xStatus Call [n] AttendedTransferFrom.....	349
xStatus Call [n] CallbackNumber.....	350
xStatus Call [n] CallType.....	350
xStatus Call [n] DeviceType.....	350
xStatus Call [n] Direction.....	350
xStatus Call [n] DisplayName.....	351
xStatus Call [n] Duration.....	351
xStatus Call [n] 暗号化タイプ.....	351
xStatus Call [n] FacilityServiceId.....	351
xStatus Call [n] HoldReason.....	352
xStatus Call [n] Ice.....	352
xStatus Call [n] PlacedOnHold.....	352
xStatus Call [n] プロトコル.....	352
xStatus Call [n] ReceiveCallRate.....	353
xStatus Call [n] RemoteNumber.....	353
xStatus Call [n] Status.....	353
xStatus Call [n] TransmitCallRate.....	353
Cameras ステータス	354
xStatus Cameras Background Image.....	354
xStatus Cameras Background Mode.....	354
xStatus Cameras Camera [n] Capabilities Options.....	354
xStatus カメラ カメラ [n] 接続済み.....	355
xStatus Cameras Camera [n] DetectedConnector.....	355
xStatus カメラ カメラ [n] 反転.....	355
xStatus カメラ カメラ [n] フレームレート.....	355
xStatus Cameras Camera [n] HardwareID.....	355
xStatus Cameras Camera [n] LightingConditions.....	356
xStatus Cameras Camera [n] MacAddress.....	356
xStatus Cameras Camera [n] Manufacturer.....	356

xStatus Cameras Camera [n] Model.....	356
xStatus Cameras Camera [n] Position Focus.....	357
xStatus Cameras Camera [n] Position Lens.....	357
xStatus Cameras Camera [n] Position Pan.....	357
xStatus Cameras Camera [n] Position Roll.....	357
xStatus Cameras Camera [n] Position Tilt.....	358
xStatus Cameras Camera [n] Position Zoom.....	358
xStatus Cameras Camera [n] SerialNumber.....	358
xStatus Cameras Camera [n] SoftwareID.....	358
xStatus Cameras PresenterTrack Availability.....	359
xStatus Cameras PresenterTrack PresenterDetected.....	359
xStatus Cameras PresenterTrack Status.....	359
xStatus カメラ SpeakerTrack ActiveConnector.....	359
xStatus Cameras SpeakerTrack Availability.....	360
xStatus Cameras SpeakerTrack Status.....	360
xStatus Cameras SpeakerTrack ViewLimits Pan.....	360
xStatus Cameras SpeakerTrack ViewLimits Status.....	360
xStatus Cameras SpeakerTrack ViewLimits Tilt.....	361
xStatus Cameras SpeakerTrack ViewLimits Zoom.....	361

機能の状況	361
xStatus Capabilities Conference MaxActiveCalls.....	361
xStatus Capabilities Conference MaxAudioCalls.....	361
xStatus Capabilities Conference MaxCalls.....	362
xStatus Capabilities Conference MaxVideoCalls.....	362

会議ステータス	362
xStatus Conference ActiveSpeaker CallId.....	362
xStatus Conference Call [n] AuthenticationRequest.....	362
xStatus Conference Call [n] BookingId.....	363
xStatus Conference Call [n] Capabilities FarendMessage Mode.....	363
xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC Mode.....	363
xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC NumberOfPresets.....	363
xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC NumberOfSources.....	363
xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC Source [n] Name.....	364



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC Source [n] Options	364
xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC Source [n] SourceId	364
xStatus Conference Call [n] Capabilities Hold	364
xStatus Conference Call [n] Capabilities IxChannel Status	364
xStatus Conference Call [n] Capabilities MeetingAssistant Start	365
xStatus Conference Call [n] Capabilities MeetingAssistant Stop	365
xStatus Conference Call [n] Capabilities ParticipantDisconnect	365
xStatus Conference Call [n] Capabilities ParticipantList	365
xStatus Conference Call [n] Capabilities ParticipantMute	365
xStatus Conference Call [n] Capabilities Presentation	366
xStatus Conference Call [n] Capabilities Recording Start	366
xStatus Conference Call [n] Capabilities SelfMute	366
xStatus Conference Call [n] EventCenter Mode	366
xStatus Conference Call [n] Manufacturer	367
xStatus Conference Call [n] MeetingAssistantEnabled	367
xStatus Conference Call [n] MicrophonesMuted	367
xStatus 電話会議 [n] の録画	367
xStatus Conference Call [n] Sip SessionId	367
xStatus Conference Call [n] SoftwareId	368
xStatus Conference Call [n] Streamed	368
xStatus Conference Call [n] Transcoded	368
xStatus Conference DoNotDisturb	368
xStatus 電話会議 [n] モード	369
xStatus Conference Multipoint Mode	369
xStatus 会議プレゼンテーション通話 ID	370
xStatus Conference Presentation LocalInstance [n] SendingMode	370
xStatus 電話会議プレゼンテーションローカルインスタンス [n] ソース	370
xStatus 電話会議プレゼンテーションモード	370
xStatus Conference SelectedCallProtocol	371
xStatus 会議発言者ロック通話 ID	371
xStatus 会議発言者ロックモード	371
Diagnostics ステータス	372
xStatus 診断メッセージ [n] の説明	372

xStatus 診断メッセージ [n] レベル	372
xStatus Diagnostics Message [n] References	372
xStatus 診断メッセージ [n] タイプ	373

GPIO ステータス	374
xStatus GPIO Pin [n] State	374

H320 ステータス	374
xStatus H320 Gateway Address	374
xStatus H320 ゲートウェイ ID	374
xStatus H320 ゲートウェイモード	375
xStatus H320 Gateway Number	375
xStatus H320 Gateway Reason	375
xStatus H320 Gateway Status	375

H323 ステータス	376
xStatus H323 ゲートキーパーアドレス	376
xStatus H323 ゲートキーパーポート	376
xStatus H323 Gatekeeper Reason	376
xStatus H323 Gatekeeper Status	376
xStatus H323 Mode Reason	377
xStatus H323 モードステータス	377

HttpFeedback status	377
xStatus HttpFeedback [n] 式 [n]	377
xStatus HttpFeedback [n] 形式	377
xStatus HttpFeedback [n] Status	378
xStatus HttpFeedback [n] URL	378

メディアチャネルの状況	378
xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] Audio Channels	378
xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] Audio ChannelRole	378
xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] Audio Mute	379
xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] Audio Protocol	379
xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] Direction	380



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] Encryption	380
xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] NetStat Bytes	380
xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] NetStat ChannelRate	380
xStatus Media Channels コール [n] チャンネル [n] NetStat ジッタ	381
xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] NetStat LastIntervalLost	381
xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] NetStat LastIntervalReceived	381
xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] NetStat Loss	381
xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] NetStat MaxJitter	382
xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] NetStat Packets	382
xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] ParticipantId	382
xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] Type	382
xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] Video ChannelRole	383
xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] Video FrameRate	383
xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] Video Protocol	383
xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] Video ResolutionX	383
xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] Video ResolutionY	384
xStatus MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Audio Channels	384
xStatus メディアチャンネル DirectShare [n] チャンネル [n] 音声プロトコル	384
xStatus Media Channels DirectShare [n] チャンネル [n] 暗号化	385
xStatus MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Netstat Bytes	385
xStatus MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Netstat ChannelRate	385
xStatus MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Netstat Jitter	385
xStatus MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Netstat LastIntervalLost	386
xStatus MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Netstat LastIntervalReceived	386
xStatus MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Netstat LastIntervalReceived	386
xStatus MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Netstat Loss	386
xStatus MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Netstat MaxJitter	387
xStatus MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Netstat Packets	387
xStatus MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Video FrameRate	387
xStatus メディアチャンネル DirectShare [n] チャンネル [n] ビデオ プロトコル	388
xStatus MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Video ResolutionX	388
xStatus MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Video ResolutionY	388
ネットワーク ステータス	389
xStatus ネットワーク [n] CDP アドレス	389

xStatus Network [n] CDP 機能	389
xStatus Network [n] CDP DeviceId	389
xStatus Network [n] CDP Duplex	389
xStatus Network [n] CDP Platform	390
xStatus Network [n] CDP PortID	390
xStatus Network [n] CDP PrimaryMgmtAddress	390
xStatus ネットワーク [n] CDP SysName	390
xStatus ネットワーク [n] CDP SysObjectID	391
xStatus ネットワーク [n] CDP バージョン	391
xStatus ネットワーク [n] CDP VoIPApplianceVlanID	391
xStatus Network [n] CDP VTPMgmtDomain	391
xStatus Network [n] DNS ドメイン名	392
xStatus ネットワーク [n] DNS サーバ [n] アドレス	392
xStatus ネットワーク [n] イーサネット MacAddress	392
xStatus Network [n] イーサネット速度	392
xStatus ネットワーク [n] IPv4 アドレス	393
xStatus Network [n] IPv4 ゲートウェイ	393
xStatus Network [n] IPv4 SubnetMask	393
xStatus Network [n] IPv6 Address	393
xStatus Network [n] IPv6 ゲートウェイ	394
xStatus Network [n] IPv6 LinkLocalAddress	394
xStatus ネットワーク [n] VLAN 音声 VLAN ID	394
xStatus ネットワーク [n] Wi-Fi BSSID	394
xStatus ネットワーク [n] Wi-Fi チャンネル	395
xStatus Network [n] Wifi Frequency	395
xStatus Network [n] Wifi InterfaceEnabled	395
xStatus Network [n] Wifi InterfaceReason	395
xStatus Network [n] Wifi MacAddress	396
xStatus Network [n] Wifi Phase2Method	396
xStatus Network [n] Wifi RawSSID	396
xStatus Network [n] Wifi Reason	396
xStatus ネットワーク [n] Wi-Fi 地域	397
xStatus ネットワーク [n] Wi-Fi RSSI	397
xStatus Network [n] Wifi ScanResult [n] Flags	397



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Network [n] Wifi ScanResult [n] RawSSID	397
xStatus Network [n] Wifi ScanResult [n] SignalLevel	398
xStatus ネットワーク [n] Wi-Fi スキャン結果 [n] SSID	398
xStatus ネットワーク [n] Wi-Fi 速度	398
xStatus Network [n] Wifi SSID	398
xStatus Network [n] Wifi Status	399
xStatus ネットワーク [n] Wi-Fi タイプ	399

NetworkServices status 399

xStatus NetworkServices NTP CurrentAddress	399
xStatus NetworkServices NTP サーバ [n] アドレス	399
xStatus NetworkServices NTP Status	400
xStatus NetworkServices UPnP Status	400

周辺機器の状況 400

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] HardwareInfo	400
xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] ID	400
xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] Name	401
xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] NetworkAddress	401
xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] RoomAnalytics AirQuality Index	401
xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] RoomAnalytics AmbientTemperature	401
xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] RoomAnalytics RelativeHumidity	402
xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] SerialNumber	402
xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] SoftwareInfo	402
xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] Status	402
xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] Type	403
xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] UpgradeFailureReason	403
xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] UpgradeStatus	403
xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] UpgradeURL	403

プロビジョニングステータス 404

xStatus プロビジョニング CUCM カスタマイズ チェックサム	404
xStatus Provisioning CUCM ExtensionMobility Enabled	404
xStatus Provisioning CUCM ExtensionMobility LastLoggedInUserId	404
xStatus Provisioning CUCM ExtensionMobility LoggedIn	404

xStatus Provisioning RoomType	405
xStatus Provisioning Software Current CompletedAt	405
xStatus プロビジョニングソフトウェアの現在の URL	405
xStatus Provisioning Software Current VersionId	405
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus LastChange	406
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Message	406
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Phase	406
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus SessionId	406
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Status	407
xStatus プロビジョニングソフトウェアのアップグレード状況	407
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus URL	407
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus VersionId	407
xStatus プロビジョニング状況	408

近接通信の状況 408

xStatus 近接通信サービスの可用性	408

RoomAnalytics のステータス 409

xStatus RoomAnalytics 周囲雑音レベル A	409
xStatus RoomAnalytics AmbientTemperature	409
xStatus RoomAnalytics Engagement CloseProximity	409
xStatus RoomAnalytics PeopleCount 現在	410
xStatus RoomAnalytics PeoplePresence	410
xStatus RoomAnalytics 音声レベル A	410
xStatus RoomAnalytics の相対湿度	410

RoomPreset ステータス 411

xStatus RoomPreset [n] Defined	411
xStatus RoomPreset [n] Description	411
xStatus RoomPreset [n] Type	411

セキュリティ状況 412

xStatus Security Persistency CallHistory	412
xStatus セキュリティ永続性の設定	412
xStatus Security Persistency DHCP	412



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Security Persistency InternalLogging.....	412
xStatus Security Persistency LocalPhonebook	413
SIP ステータス	413
xStatus SIP AlternateURI エイリアス [n] URI.....	413
xStatus SIP AlternateURI プライマリ [n] URI.....	413
xStatus SIP 認証.....	414
xStatus SIP CallForward DisplayName.....	414
xStatus SIP コール転送モード.....	414
xStatus SIP CallForward URI	414
xStatus SIP Mailbox MessagesWaiting	415
xStatus SIP メールボックス URI	415
xStatus SIP プロキシ [n] アドレス	415
xStatus SIP Proxy [n] Status	415
xStatus SIP Registration [n] Authentication	416
xStatus SIP 登録 [n] の理由	416
xStatus SIP 登録 [n] 状況	416
xStatus SIP 登録 [n] URI.....	416
xStatus SIP セキュア	417
xStatus SIP 確認済み	417
スタンバイ ステータス	417
xStatus スタンバイ状態.....	417
SystemUnit ステータス	418
xStatus SystemUnit Hardware HasWiFi	418
xStatus SystemUnit Hardware Module CompatibilityLevel	418
xStatus SystemUnit Hardware Module SerialNumber	418
xStatus SystemUnit Hardware Monitoring Fan [n] Status.....	418
xStatus SystemUnit Hardware Monitoring Temperature Status	419
xStatus SystemUnit ハードウェア USBC [n] 接続済み	419
xStatus SystemUnit 通知 通知 [n] テキスト	419
xStatus SystemUnit Notifications Notification [n] Type	419
xStatus システムユニット製品 ID	420
xStatus SystemUnit ProductPlatform.....	420
xStatus SystemUnit ProductType.....	421

xStatus システムユニットソフトウェアの表示名	421
xStatus SystemUnit Software Name.....	421
xStatus SystemUnit Software OptionKeys Encryption	421
xStatus SystemUnit Software OptionKeys MultiSite	422
xStatus SystemUnit Software OptionKeys RemoteMonitoring	422
xStatus SystemUnit Software ReleaseDate	422
xStatus SystemUnit Software Version	422
xStatus SystemUnit State CameraLid	423
xStatus SystemUnit State NumberOfActiveCalls.....	423
xStatus SystemUnit State NumberOfInProgressCalls	423
xStatus SystemUnit State NumberOfSuspendedCalls	423
xStatus システムユニットの稼働時間	424
Time status	424
xStatus Time SystemTime.....	424
ユーザインターフェースの状況.....	425
xStatus UserInterface ContactInfo ContactMethod [n] Number	425
xStatus UserInterface ContactInfo Name	425
xStatus UserInterface Extensions Widget [n] Value	425
xStatus UserInterface Extensions Widget [n] WidgetId	426
xStatus UserInterface Features Call End	426
xStatus UserInterface Features Call JoinWebex.....	426
xStatus ユーザインターフェイス機能 呼び出し キーパッド.....	426
xStatus UserInterface Features MidCallControls	427
xStatus UserInterface Features Call Start.....	427
xStatus ユーザインタフェース機能 共有 開始.....	427
xStatus ユーザインタフェース機能 ホワイトボード 開始	427
xStatus ユーザインタフェース OSD 出力	428
xStatus UserInterface SettingsMenu Visibility	428
ビデオのステータス.....	428
xStatus ビデオ アクティブスピーカー PIP 位置	428
xStatus Video Input Connector [n] Connected.....	428
xStatus Video Input Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] DeviceType	429
xStatus Video Input Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] LogicalAddress.....	429



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Video Input Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] Name	429
xStatus Video Input Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] PowerStatus	429
xStatus Video Input Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] VendorId	430
xStatus ビデオ入力コネクタ [n]SignalState.....	430
xStatus Video Input Connector [n] SourceId	430
xStatus ビデオ入力コネクタ [n] タイプ	430
xStatus ビデオ入力 DirectShare [n] ピアアドレス	431
xStatus ビデオ入力 DirectShare [n] Peer PeripheralId	431
xStatus ビデオ入力 DirectShare [n] タイプ	431
xStatus Video Input MainVideoMute	431
xStatus Video Input MainVideoSource	432
xStatus ビデオ入力ソース [n] ConnectorId.....	432
xStatus Video Input Source [n] FormatStatus	432
xStatus Video Input Source [n] FormatType	432
xStatus Video Input Source [n] MediaChannelId.....	433
xStatus Video Input Source [n] Resolution Height.....	433
xStatus Video Input Source [n] Resolution RefreshRate	433
xStatus ビデオ入力ソース [n] 解像度 幅	433
xStatus Video Layout LayoutFamily Local.....	434
xStatus Video Layout LayoutFamily Remote.....	434
xStatus ビデオモニタ	434
xStatus Video Output Connector [n] Connected.....	434
xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] DeviceType	435
xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] LogicalAddress.....	435
xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] Name	435
xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] PowerStatus	435
xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] VendorId	436
xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice Name	436
xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice PreferredFormat	436
xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice ScreenSize	436
xStatus Video Output Connector [n] Connected.....	437
xStatus ビデオ出力コネクタ [n] モニタロール	437
xStatus ビデオ出力コネクタ [n] 解像度 高さ	437
xStatus Video Output Connector [n] Resolution RefreshRate	437

xStatus Video Output Connector [n] Resolution Width	438
xStatus ビデオ出力コネクタ [n] タイプ	438
xStatus Video Output Monitor [n] Backlight.....	438
xStatus Video Output Monitor [n] Calibrated.....	438
xStatus Video Output Monitor [n] ColorTemperature Selected	439
xStatus Video Output Monitor [n] Configured	439
xStatus ビデオ出力モニタ [n] ファームウェアバージョン	439
xStatus Video Output Monitor [n] IpAddress	439
xStatus ビデオ出力モニタ [n] 製造元	440
xStatus ビデオ出力モニタ [n] MDC ID	440
xStatus Video Output Monitor [n] MDC Port.....	440
xStatus Video Output Monitor [n] ModelName.....	440
xStatus Video Output Monitor [n] Position.....	441
xStatus ビデオ出力モニタ [n] シリアル番号	441
xStatus ビデオ出力モニタ [n] 温度.....	441
xStatus Video Presentation PIPPosition.....	441
xStatus Video Selfview FullscreenMode.....	442
xStatus Video Selfview Mode	442
xStatus Video Selfview OnMonitorRole	442
xStatus Video Selfview PIPPosition	442

WebEngine ステータス	443
xStatus WebEngine Features Signage.....	443
xStatus ウェブエンジンの機能	443

Webex 状況	443
xStatus Webex DeveloperId.....	443
xStatus Webex Meetings 参加プロトコル	443
xStatus Webex サービス Proximity GuestToken.....	444
xStatus Webex Status	444



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ソフトウェアバージョン: RoomOS 10.3.2

対象製品:

- CodecPro
- CodecPlus
- Room70G2
- Room70/Room55D
- Room55
- RoomKit
- RoomKitMini
- RoomPanorama/Room70Panorama
- DeskPro/DeskLE
- ボード

Audio ステータス

xStatus Audio Devices Bluetooth ActiveProfile

適用先: *DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

現在使用中の Bluetooth ヘッドセットのプロファイルを表示します。

返される結果の値スペース:

なし/HFP/A2DP

HFP (ハンズフリープロファイル)、A2DP (高度音声配信プロファイル)、または None、使用されているプロファイルがありません。

例:

```
xStatus 音声デバイス Bluetooth ActiveProfile
*s 音声デバイス Bluetooth ActiveProfile: なし
** end
```

xStatus Audio Devices HandsetUSB ConnectionStatus

適用先: *RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

USB ハンドセットが接続されているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

接続済み/未接続

例:

```
xStatus Audio Devices HandsetUSB ConnectionStatus
*s 接続済み
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Audio Devices HandsetUSB Cradle

適用先: *RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

USB ハンドセットが受話器を置いた状態か受話器を取った状態かを表示します。

返される結果の値スペース:

OnHook/OffHook

例:

```
xStatus Audio Devices HandsetUSB Cradle
*s OnHook
** end
```

xStatus Audio Devices HeadsetAnalog Connection Status

適用先: *DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

アナログ ヘッドセットが接続されているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

接続済み/未接続

例:

```
xStatus Audio Devices HeadsetAnalog Connection Status
*s 接続済み
** end
```

xStatus Audio Devices HeadsetUSB ConnectionStatus

適用先: *RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

USB ヘッドセットが接続されているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

接続済み/未接続

例:

```
xStatus Audio Devices HeadsetUSB ConnectionStatus
*s 接続済み
** end
```

xStatus 音声デバイス ヘッドセット USB 説明

適用先: *RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

接続されている USB ヘッドセットの説明を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Audio Devices HeadsetUSB Description
*s HeadsetUSB Description: "USB ヘッドセットの説明。"
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Audio Devices HeadsetUSB Manufacturer

適用先: *RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

USB ヘッドセットの製造元が表示されます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Audio Devices HeadsetUSB Manufacturer
*s HeadsetUSB Manufacturer: "CompanyName"
** end
```

xStatus Audio Input Connectors HDMI [n] Mute

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

HDMI 入力コネクタの音声チャンネルがミュートになっているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Audio Input Connectors HDMI 1 Mute
*s Audio Input Connectors HDMI 1 Mute: Off
** end
```

xStatus Audio Input Connectors Line [n] Mute

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

回線入力コネクタの音声ミュートされているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Audio Input Connectors Line 1 Mute
*s Audio Input Connectors Line 1 Mute: Off
** end
```

xStatus Audio Input Connectors Microphone [n] ConnectionStatus

適用先: *RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

マイクがマイク入力コネクタで検出されるかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

接続済み/未接続/不明

接続済み: マイクは接続されています。

NotConnected: 何も接続されていません。

不明: ビデオ会議端末はマイクが接続されているかどうかを検出できません。

例:

```
xStatus Audio Input Connectors Microphone ConnectionStatus
*s 音声入力コネクタ マイク 1 接続状態: 未接続
*s Audio Input Connectors Microphone 2 ConnectionStatus: Connected
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Audio Input Connectors Microphone [n] EcReferenceDelay

適用対象: *RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Boards*

必要なユーザ役割: ADMIN,USER

各スピーカーからマイクへのパスで検出された遅延を返します。結果はミリ秒単位です。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Audio Input Connectors Microphone 1 EcReferenceDelay
*s Audio Input Connectors Microphone 1 EcReferenceDelay: 120
** end
```

xStatus 音声入力コネクタ マイク [n] ミュート

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN,USER

マイク入力コネクタの音声ミュートされているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Audio Input Connectors Microphone 1 Mute
*s Audio Input Connectors Microphone 1 Mute: Off
** end
```

xStatus Audio Input Connectors USBC [n] Mute

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN,USER

USB-C 入力コネクタの音声チャンネルがミュートになっているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Audio Input Connectors USBC 1 Mute
*s Audio Input Connectors USBC 1 Mute: Off
** end
```

xStatus 音声入力キークリックの減弱

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN,USER

キーボードのタイピングによって検出されたマイク信号など、デバイスがクリック ノイズを自動的に軽減しているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

False/True

True: マイク信号の減衰が On になります。

False: マイク信号の減衰は Off になっています。

例:

```
xStatus Audio Input KeyClick Attenuate
*s Audio Input KeyClick Attenuate: True
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus 音声入力キークリックが検出されました

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスが検出した音声信号の減弱を表示します。キーボードからのクリック ノイズが検出されると、デバイスはマイクの信号を弱めます。音声または無音を検出された場合、マイクの信号は弱められません。

返される結果の値スペース:

キークリック/音声/無音

KeyClick: キークリックのみが検出されます。

音声: 音声を検出されています。

無音: 音声信号が検出されていません。

例:

```
xStatus Audio Input KeyClick Detected
*s Audio Input KeyClick Detected: KeyClick
** end
```

xStatus Audio Input KeyClick Enabled

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

マイク信号の減衰の検出が有効かどうかを示します。

返される結果の値スペース:

True/False

True: マイク信号の検出が On になります。

False: マイク信号の検出は Off になっています。

例:

```
xStatus Audio Input KeyClick Enabled
*s Audio Input KeyClick Enabled: On
** end
```

xStatus Audio Input LocalInput [n] AGC

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ローカル入力に AGC (自動ゲインコントロール) モードであることを示します。

入力のアイデンティティ [n] をを見つけるために、コマンド xStatus 音声入力ローカル入力を実行できます。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Audio Input LocalInput 1 AGC
*s Audio Input LocalInput 1 AGC: "On"
** end
```

xStatus 音声入力ローカル入力 [n] チャンネル

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ローカル入力チャンネルがモノラル信号 (1) またはステレオ信号 (2) にミックスされるかどうかを示します。

入力のアイデンティティ [n] をを見つけるために、コマンド xStatus 音声入力ローカル入力を実行できます。

返される結果の値スペース:

1..2

例:

```
xStatus Audio Input LocalInput 1 Channels
*s Audio Input LocalInput 1 Channels: 1
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Audio Input LocalInput [n] Connector [n]

適用対象: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ローカル入力に接続されているコネクタを一覧表示します。

入力のアイデンティティ [n] を見つけるために、コマンド xStatus 音声入力ローカル入力を実行できます。

返される結果の値スペース:

Microphone.1/./Microphone.4/Line.1/Line.2/HDMI.2

例:

xStatus 音声入力ローカル入力 1 コネクタ

*s Audio Input LocalInput 1 Connector: "Microphone.1"

** end

xStatus Audio Input LocalInput [n] Direct

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

アコースティック エコー キャンセリングやノイズ除去などの入力処理がこのローカル入力でバイパスされるかどうかを示します。入力処理をバイパスすることで、ローカル音響補強を実行するときに便利な音声入力の遅延が減少します。入力のアイデンティティ [n] を見つけるために、コマンド xStatus 音声入力ローカル入力を実行できます。

返される結果の値スペース:

Off/On

Off: 各コネクタの構成に従って、すべての通常の入力処理が実行されます。

On: 接続されている各入力コネクタの設定に関係なく、アコースティックエコーキャンセリングやノイズ除去などの入力処理をバイパスします。

例:

xStatus Audio Input LocalInput 1 Direct

*s Audio Input LocalInput 1 Direct: "Off"

** end

xStatus Audio Input LocalInput [n] MixerMode

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ローカル入力コネクタがどのようにミックスされているかを示します。入力のアイデンティティ [n] を見つけるために、コマンド xStatus 音声入力ローカル入力を実行できます。

返される結果の値スペース:

Auto/Fixed/GainShared

Auto: 最も強い発言者を持つマイクがアクティブになり、その他のマイクは大幅に減衰されます。

固定: 入力コネクタの信号は、等しいゲインでミックスされます。

GainShared: マイクには、ミックスされる前に、最も強い発言者を基準にして正規化されたゲインファクターが与えられます。

例:

xStatus 音声入力 ローカル入力 1 ミキサーモード

*s Audio Input LocalInput 1 MixerMode: "Auto"

** end

xStatus Audio Input LocalInput [n] Mute

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ローカル入力のミュートモードを表示します。ローカル入力は複数の入力コネクタの組み合わせです。入力のアイデンティティ [n] を見つけるために、コマンド xStatus 音声入力ローカル入力を実行できます。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

xStatus Audio Input LocalInput 1 Mute

*s Audio Input LocalInput 1 Mute: "Off"

** end



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Audio Input LocalInput [n] Name

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ローカル入力の名前を表示します。ローカル入力は複数の入力コネクタの組み合わせです。入力のアイデンティティ [n] を見つけるために、コマンド xStatus 音声入力ローカル入力を実行できます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Audio Input LocalInput 1 Name
*s 音声入力ローカル入力 1 名前: "マイク"
** end
```

xStatus Audio Input RemoteInput [n] CallId

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

リモート音声入力の CallId を表示します。

入力のアイデンティティ [n] を見つけるために、コマンド xStatus Audio Input RemoteInput を実行できます。

返される結果の値スペース:

0..65534

例:

```
xStatus Audio Input RemoteInput 8 CallId
*s Audio Input RemoteInput 8 CallId: 28
** end
```

xStatus Audio Microphones MusicMode

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ミュージックモードがOnかOffかを表示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Audio Microphones MusicMode
*s Audio Microphones MusicMode: Off
** end
```

xStatus Audio Microphones Mute

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

マイクがミュートされているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Audio Microphones Mute
*s Audio Microphones Mute: Off
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Audio Output Connectors ARC [n] DelayMs

適用先: *CodecPlus CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

ARC 出力の遅延を表示します。

返される結果の値スペース:

整数

ミリ秒単位の遅延。

例:

```
xStatus Audio Output Connectors ARC 1 DelayMs
*s Audio Output Connectors ARC 1 DelayMs: 60
** end
```

xStatus 音声出力コネクタ ARC [n] モード

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

ARC 出力コネクタの音声チャンネルが有効か無効かを示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus 音声出力コネクタ ARC 1 モード
*s Audio Output Connectors ARC 1 Mode: Off
** end
```

xStatus Audio Output Connectors HDMI [n] DelayMs

適用対象: *RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

HDMI 出力の遅延を表示します。

返される結果の値スペース:

整数

ミリ秒単位の遅延。

例:

```
xStatus Audio Output Connectors HDMI 1 DelayMs
*s Audio Output Connectors HDMI 1 DelayMs: 60
** end
```

xStatus 音声出力コネクタ HDMI [n] モード

適用対象: *RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

HDMI 出力コネクタの音声チャンネルが有効か無効か、またはコネクタが接続されたビデオディスプレイの音声遅延を測定するために使用されているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

On/Off/DelayMeasurement

On: HDMI 出力コネクタの音声チャンネルは有効です。

Off: HDMI 出力コネクタの音声チャンネルは無効です。

DelayMeasurement: コネクタは、接続されたビデオディスプレイの音声遅延を測定するために使用されています。

例:

```
xStatus Audio Output Connectors HDMI 1 Mode
*s Audio Output Connectors HDMI 1 Mode: On
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Audio Output Connectors InternalSpeaker [n] DelayMs

適用対象: *RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

内蔵スピーカーの遅延を表示します。

返される結果の値スペース:

整数

ミリ秒単位の遅延。

例:

```
xStatus Audio Output Connectors InternalSpeaker 1 DelayMS
*s Audio Output Connectors InternalSpeaker 1 DelayMs: 0
** end
```

xStatus 音声出力コネクタ 内部スピーカー [n] モード

適用対象: *RoomKitMini CodecPlus CodecPro*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

デバイスの統合型スピーカーが有効になっているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Audio Output Connectors InternalSpeaker 1 Mode
*s Audio Output Connectors InternalSpeaker 1 Mode: On
** end
```

xStatus Audio Output Connectors Line [n] ConnectionStatus

適用対象: *RoomKit CodecPlus Room55 Room70/Room55D Boards*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

音声出力回線が接続されているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

接続済み/未接続/不明

接続済み: デバイスは接続済みです。

NotConnected: 何も接続されていません。

Unknown: デバイスは何が接続されているか検出できません。

例:

```
xStatus Audio Output Connectors Line 1 ConnectionStatus
*s Audio Output Connectors Line 1 ConnectionStatus: Connected
** end
```

xStatus 音声出力コネクタ 回線 [n] DelayMs

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

遅延をミリ秒単位で表示します。

返される結果の値スペース:

整数 (0..290)

例:

```
xStatus Audio Output Connectors Line 1 DelayMs
*s Audio Output Connectors Line 1 DelayMs: 60
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Audio Output LocalOutput [n] AutoconnectRemote

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

リモート入力信号 (遠端から) が自動的にこのローカル出力に追加されるかどうかを示します。これは、[音声ローカル出力接続入力] コマンドを使用して、いつでも手動で追加できます。

返される結果の値スペース:

On/Off

On: 通話中、リモート入力信号はすべてのローカル出力に自動的に追加されます。

Off: リモート入力信号はローカル出力に自動的に追加されません。

例:

```
xStatus Audio Output LocalOutput 4 AutoconnectRemote
*s Audio Output LocalOutput 4 AutoconnectRemote: "On"
** end
```

xStatus Audio Output LocalOutput [n] Channels

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ローカル出力チャンネルがモノラル信号 (1) またはステレオ信号 (2) にミックスされるかどうかを示します。

出力のアイデンティティ [n] を見つけるために、コマンド xStatus Audio Output LocalOutput を実行できます。

返される結果の値スペース:

1..2

例:

```
xStatus Audio Output LocalOutput 4 Channels
*s Audio Output LocalOutput 4 Channels: "1"
** end
```

xStatus Audio Output LocalOutput [n] Connector [n]

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ローカル出力に接続されているコネクタを一覧表示します。

出力のアイデンティティ [n] を見つけるために、コマンド xStatus Audio Output LocalOutput を実行できます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus 音声出力 ローカル出力 4 コネクタ
*s Audio Output LocalOutput 4 Connector: "Line.1"
** end
```

xStatus 音声出力 LocalOutput [n] 入力 [n] ゲイン

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

入力がローカル出力に接続されている場合、入力のゲイン (dB) を表示します。

入出力のアイデンティティ [n] を見つけるために、コマンド xStatus Audio Output LocalOutput を実行できます。

返される結果の値スペース:

-54..15

範囲は -54 dBから15 dBです。-54 デシベルは Off です。

例:

```
xStatus 音声出力 ローカル出力 4 入力 2 ゲイン
*s Audio Output LocalOutput 4 Input 2 Gain: 0
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Audio Output LocalOutput [n] Loudspeaker

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ローカル出力に Loudspeaker モードを表示します。ローカル出力に接続されている 1 つまたは複数の出力コネクタがラウドスピーカーに接続されている場合、この信号はエコーキャンセラへの参照信号であり、Loudspeaker は On に設定されている必要があります。

出力のアイデンティティ [n] をを見つけるために、コマンド xStatus Audio Output LocalOutput を実行できます。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Audio Output LocalOutput 4 Loudspeaker
*s Audio Output LocalOutput 4 Loudspeaker: "Off"
** end
```

xStatus Audio Output LocalOutput [n] Name

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ローカル出力の名前を表示します。

出力のアイデンティティ [n] をを見つけるために、コマンド xStatus Audio Output LocalOutput を実行できます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Audio Output LocalOutput 4 Name
*s Audio Output LocalOutput 4 Name: "MyLocalOutput1"
** end
```

xStatus 音声出力ローカル出力 [n] ボリュームコントロール

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

この出力の音量がどこからコントロールされているかを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

Off: この出力の音量はグローバル音声コントロールにより制御されます。

On: この出力の音量は、xCommand Audio Volume Set で定義されたレベルになります。

例:

```
xStatus Audio Output LocalOutput 5 VolumeControlled
*s 音声出力ローカル出力 5 音量コントロール: "On"
** end
```

xStatus Audio Output MeasuredHdmiArcDelay

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

HDMI コネクタに接続されたデバイスの測定された音声遅延を示します。この遅延は HDMI 音声リターン チャネルを通じて測定され、音声とビデオ間の良好なリップシンクロを確保します。

返される結果の値スペース:

整数

ミリ秒単位で測定された音声遅延。

例:

```
xStatus Audio Output MeasuredHdmiArcDelay
*s Audio Output MeasuredHdmiArcDelay: 85
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Audio Output MeasuredHdmiDelay

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

HDMI コネクタに接続されたデバイスの測定された音声遅延を示します。この遅延は、HDMI 出力からマイクの 1 つまでが測定されます。

返される結果の値スペース:

整数

ミリ秒単位で測定された音声遅延。

例:

```
xStatus Audio Output MeasuredHdmiDelay
*s Audio Output MeasuredHdmiDelay: 134
** end
```

xStatus Audio Output MeasuredHdmiCecDelay

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

HDMI コネクタに接続されたデバイスの報告されたビデオ遅延を示します。この遅延は、コンシューマー エレクトロニクス コントロール (CEC) プロトコルを通じて報告され、音声とビデオ間の良好なリップシンクロを確保します。

返される結果の値スペース:

整数

ミリ秒単位で測定された音声遅延。

例:

```
xStatus Audio Output ReportedHdmiCecDelay
*s Audio Output ReportedHdmiCecDelay: 39
** end
```

xStatus 音声出力 リモート出力 [n] CallId

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

リモート音声出力の CallId を表示します。

出力のアイデンティティ [n] を見つけるために、コマンド xStatus Audio Output RemoteOutput を実行できます。

返される結果の値スペース:

1..65534

例:

```
xStatus Audio Output RemoteOutput 9 CallId
*s 音声出力 RemoteOutput 9 CallId: 28
** end
```

xStatus Audio Output RemoteOutput [n] Input [n] Gain

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

入力のリモート出力に接続されている場合、入力のゲイン (dB) を表示します。範囲は -54 dB から 15 dB です。-54 デシベルは Off です。

入出力のアイデンティティ [n] を見つけるために、コマンド xStatus Audio Output RemoteOutput を実行できます。

返される結果の値スペース:

-54..15

例:

```
xStatus Audio Output RemoteOutput 9 Input 1 Gain
*s Audio Output RemoteOutput 9 Input 1 Gain: 0
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Audio SelectedDevice

適用先: *RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

選択されている音声デバイスを表示します。Bluetooth ヘッドセットまたはアナログ ヘッドセットをサポートしているのは、Desk Pro および Desk Limited Edition だけです。

返される結果の値スペース:

Internal/HeadsetUSB/HeadsetAnalog/HeadsetBluetooth/HandsetUSB

例:

```
xStatus Audio SelectedDevice
*s Audio SelectedDevice: Internal
** end
```

xStatus 音声の音量

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

スピーカー出力の音量レベル (デシベル) を表示します。

返される結果の値スペース:

0..100

例:

```
xStatus Audio Volume
*s Audio Volume: 70
** end
```

xStatus Audio VolumeHandsetUsb

適用先: *RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

USB ハンドセットの音量レベルを表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Audio VolumeHandsetUsb
*s 6
** end
```

xStatus Audio VolumeHeadsetAnalog

適用先: *RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

アナログヘッドセットの音量レベルを表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Audio VolumeHeadsetAnalog
*s 6
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Audio VolumeHeadsetUsb

適用先: *DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

USB ヘッドセットの音量レベルを表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Audio VolumeHeadsetUsb
*s 6
** end
```

xStatus Audio VolumeInternal

適用先: *RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

内部音量レベルを表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Audio VolumeInternal
*s 6
** end
```

xStatus Audio VolumeMute

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスの音量がミュートに設定されているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

Off/On

例:

```
xStatus Audio VolumeMute
*s Audio VolumeMute: Off
** end
```




はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

Bookings ステータス

xStatus 現在の予約 ID

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

進行中のブッキングイベントの ID (もしあれば) です。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Bookings Current Id
*s Bookings Current Id: "123"
** end
```

コールステータス

xStatus 通話 [n] AnswerState

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

通話が応答されたか、無視されたか、デバイスにより自動的に応答されたかを示します。

返される結果の値スペース:

未応答/無視/自動応答/応答済み

例:

```
xStatus 通話応答状態
*s Call 5 AnswerState: Answered
** end
```

xStatus Call [n] AttendedTransferFrom

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

現在の通話の転送元の通話の CallId を示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Call 1 AttendedTransferFrom
*s Call 1 AttendedTransferFrom: 1234
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Call [n] CallbackNumber

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

コールバックのコールプロトコルを含む、着信または発信コールのリモート（遠端）番号または URI を表示します。通話中に xStatus Call コマンドを実行して、通話 ID を確認することができます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Call 27 CallbackNumber
*s Call 27 CallbackNumber: "h323:firstname.lastname@company.com"
** end
```

xStatus Call [n] CallType

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

着信または発信の通話タイプを表示します。通話中に xStatus Call コマンドを実行して、通話 ID を確認することができます。

返される結果の値スペース:

Video/Audio/AudioCanEscalate/ForwardAllCall/Unknown

例:

```
xStatus Call 27 CallType
*s Call 27 CallType: Video
** end
```

xStatus Call [n] DeviceType

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

通話が接続される場所を示します。

返される結果の値スペース:

エンドポイント/MCU

Endpoint: 別のデバイスへのポイントツーポイント通話です。

MCU: 通話はネットワーク内のマルチポイント電話会議ユニット (MCU) 宛てであるか、デバイスでホストされている MultiSite 通話です。

例:

```
xStatus Call DeviceType
*s Call 4 DeviceType: Endpoint
** end
```

xStatus Call [n] Direction

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

通話開始の方向を示します。通話中に xStatus Call コマンドを実行して、通話 ID を確認することができます。

返される結果の値スペース:

着信/発信

例:

```
xStatus Call 27 Direction
*s コール 27 の方向: 発信
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Call [n] DisplayName

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

通話の着信または発信におけるリモート (遠端) 参加者の名前を表示します。通話中に xStatus Call コマンドを実行して、通話 ID を確認することができます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Call 27 DisplayName
*s Call 27 DisplayName: "firstname.lastname@company.com"
** end
```

xStatus Call [n] Duration

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

コールの継続時間を示します (秒単位)。xStatus Call コマンドを実行して、コール ID を見つけることができます。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Call 27 Duration
*s Call 27 Duration: 2354
** end
```

xStatus Call [n] 暗号化タイプ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

通話の暗号化タイプを表示します。xStatus Call コマンドを実行して、コール ID を見つけることができます。

返される結果の値スペース:

なし/Aes-128

例:

```
xStatus Call 27 暗号化タイプ
*s Call 27 Encryption Type: "None"
** end
```

xStatus Call [n] FacilityServiceId

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

施設のサービスに発信するときは、施設のサービス ID が表示されます。それ以外の場合は、値 0 が返されます。

返される結果の値スペース:

0..5

例:

```
xStatus Call FacilityServiceId
*s Call 3 FacilityServiceId: 1
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Call [n] HoldReason

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

現在の発信通話が保留になっている理由を示します。

返される結果の値スペース:

Conference/Transfer/None

Conference: 通話が電話会議に統合される間、保留中。

Transfer: 通話が転送される間、保留中。

None: その他すべての場合。

例:

```
xStatus コール 2 の保留理由
*s コール 2 の保留理由: なし
** end
```

xStatus Call [n] Ice

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ICE は、ICE ネゴシエーションを通じて直接ネットワーク パスが見つかった場合に、通話の両側がメディア (ビデオと音声) を直接送信できるようにする機能です。このステータスはネゴシエーションの結果を反映します。

返される結果の値スペース:

無効/成功/失敗

無効: ICE が無効になっています。

Passed: ダイレクトネットワークパスが見つかり、使用されています。

Failed: 直接のネットワークパスが見つかりません。メディアは中間コンポーネントを経由する可能性が高いです。

例:

```
xStatus Call 2 Ice
*s Call 2 Ice: Passed
** end
```

xStatus Call [n] PlacedOnHold

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

通話の保留に置かれた状態を示します。xStatus Call コマンドを実行して、コール ID を見つけることができます。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus Call 27 PlacedOnHold
*s Call 27 PlacedOnHold: False
** end
```

xStatus Call [n] プロトコル

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

着信または発信の通話プロトコルを表示します。通話中に xStatus Call コマンドを実行して、通話 ID を確認することができます。

返される結果の値スペース:

H320/H323/SIP/Spark/不明/WebRTC

例:

```
xStatus Call 27 プロトコル
*s コール 27 プロトコル: "h323"
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Call [n] ReceiveCallRate

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

コールの受信帯域幅をキロビット/秒 (kbps) で表示します。xStatus Call コマンドを実行して、コール ID を見つけることができます。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Call 27 ReceiveCallRate
*s Call 27 ReceiveCallRate: 4000
** end
```

xStatus Call [n] RemoteNumber

適用対象: すべての製品

必要なユーザー役割: ADMIN, USER

着信または発信通話のリモート (遠端) 番号または URI を表示します。通話中に xStatus Call コマンドを実行して、通話 ID を確認することができます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Call 27 RemoteNumber
*s Call 27 RemoteNumber: "5585232"
** end
```

xStatus Call [n] Status

適用対象: すべての製品

必要なユーザー役割: ADMIN, USER

通話の状況を表示します。通話中に xStatus Call コマンドを実行して、通話 ID を確認することができます。

返される結果の値スペース:

Idle/Dialling/Ringing/Connecting/Connected/Disconnecting/OnHold/EarlyMedia/Preserved/RemotePreserved

例:

```
xStatus Call 27 Status
*s Call 27 Status: Connected
** end
```

xStatus Call [n] TransmitCallRate

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

コールの送信帯域幅をキロビット/秒 (kbps) で表示します。xStatus Call コマンドを実行して、コール ID を見つけることができます。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Call 27 TransmitCallRate
*s Call 27 TransmitCallRate: 768
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

Cameras ステータス

xStatus Cameras Background Image

適用先: *DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

3 つの事前インストールされた画像のセットのうち、背景画像として選択されているものが表示されます。

返される結果の値スペース:

Image1/Image2/Image3/Image4/Image5/Image6/Image7/User1/User2/User3

Image1～Image7: プレインストールされたイメージのスロット。

User1～User3: アップロードされた画像をインストールできるスロット。

例:

```
xStatus Cameras Background Image
*s Cameras Background Image: Image3
** end
```

xStatus Cameras Background Mode

適用先: *DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

カメラ ビューの背景をマスクする画像または効果が選択されているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

Disabled/Blur/BlurMonochrome/DepthOfField/Hdmi/Monochrome/Image/UsbC
無効: 背景画像や効果は表示されません。

Blur: 背景がぼかされます。

BlurMonochrome: ぼかしと単色 (色なしのぼかし) の組み合わせです。

DepthOfField: ぼかしの 1 つで、ぼかしが少ない。

Hdmi: HDMI 入力がライブ背景を提供しています。

単色: 画像をグレースケールで表示します。

Image: 画像が背景を提供します。

UsbC: USB-C はライブバックグラウンドを提供します。

例:

```
xStatus カメラバックグラウンドモード
*s Cameras Background Mode: Image
** end
```

xStatus Cameras Camera [n] Capabilities Options

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー、会議室コントロール

カメラの機能を表示します (ptzf = パン、チルト、ズーム、フォーカス)。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 Capabilities Options
*s Camera 1 Capabilities Options: "ptzf"
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus カメラ カメラ [n] 接続済み

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

カメラが接続されているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 Connected
*s Camera 1 Connected: True
** end
```

xStatus Cameras Camera [n] DetectedConnector

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

カメラが接続を検出したコネクタ番号を示します。接続が検出されない場合は 0 を表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 DetectedConnector
*s Cameras Camera 1 DetectedConnector: 1
** end
```

xStatus カメラ カメラ [n] 反転

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

画像が上下反転しているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

Off/On

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 Flip
*s Camera 1 Flip: "Off"
** end
```

xStatus カメラ カメラ [n] フレームレート

適用先: *RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

返される結果の値スペース:

整数

xStatus Cameras Camera [n] HardwareID

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー、会議室コントロール

カメラのハードウェア ID を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 HardwareID
*s Camera 1 HardwareID: "50000000"
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Cameras Camera [n] LightingConditions

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

カメラが会議室の照明をどのように認識しているかを示します。

返される結果の値スペース:

不明/良好/暗い/逆光

不明: カメラの電源がOffになっているか、またはこの機能に対応していません。

良好: 照明は良好なレベルです。

Dark: 照明が低すぎます。

Backlight: 画像にはバックライトが強く出ています。

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 LightingConditions
*s カメラ 1 照明条件: 良好
** end
```

xStatus Cameras Camera [n] MacAddress

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE Boards*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー、会議室コントロール

カメラの MAC (メディア アクセス コントロール) アドレスを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 MacAddress
*s Camera 1 MacAddress: ""
** end
```

xStatus Cameras Camera [n] Manufacturer

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー、会議室コントロール

カメラの製造元を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 Manufacturer
*s カメラ 1 製造元: "Cisco"
** end
```

xStatus Cameras Camera [n] Model

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー、会議室コントロール

カメラのモデルを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 Model
*s カメラ 1 モデル: "Precision 40"
** end
```




はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Cameras Camera [n] Position Focus

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー、会議室コントロール

カメラの現在のフォーカス位置を表示します。値の範囲はカメラのタイプによって異なります。

返される結果の値スペース:

0..65535

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 Position Focus
*s Camera 1 Position Focus: 4597
** end
```

xStatus Cameras Camera [n] Position Lens

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー、会議室コントロール

カメラの現在のレンズ位置を示します。

返される結果の値スペース:

デフォルト/ワイド/センター/左/右

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 Position Lens
*s Cameras Camera 1 Position Lens: Center
** end
```

xStatus Cameras Camera [n] Position Pan

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー、会議室コントロール

カメラの現在のパン (左右に移動) 位置を表示します。値の範囲はカメラのタイプによって異なります。

返される結果の値スペース:

-10000..10000

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 Position Pan
*s Camera 1 Position Pan: 412
** end
```

xStatus Cameras Camera [n] Position Roll

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー、会議室コントロール

カメラ ビューの現在の回転 (ロール) を表示します。値が正の場合は観察画像が反時計回りに、負の場合は時計回りに回転します。単位は 1/100 度で、300 は 3 度に対応します。

返される結果の値スペース:

-300..300

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 Position Roll
*s Camera 1 Position Roll: 20
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Cameras Camera [n] Position Tilt

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー、会議室コントロール

カメラの現在のチルト (上下に移動) 位置を表示します。値の範囲はカメラのタイプによって異なります。

返される結果の値スペース:

```
-2500..2500
```

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 Position Tilt
*s Camera 1 Position Tilt: 106
** end
```

xStatus Cameras Camera [n] Position Zoom

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー、会議室コントロール

カメラの現在のズームインおよびズームアウト位置を表示します。値の範囲はカメラのタイプによって異なります。

返される結果の値スペース:

```
0..11800
```

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 Position Zoom
*s Camera 1 Position Zoom: 828
** end
```

xStatus Cameras Camera [n] SerialNumber

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE Boards*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー、会議室コントロール

カメラのシリアル番号を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 SerialNumber
*s カメラ 1 のシリアル番号: "B1AB26B00010"
** end
```

xStatus Cameras Camera [n] SoftwareID

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE Boards*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー、会議室コントロール

カメラのソフトウェアの識別情報を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 SoftwareID
*s Camera 1 SoftwareID: "S01718-4.0FINAL [ID:40063] 2014-10-20"
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Cameras PresenterTrack Availability

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

プレゼンタのトラッキングが使用可能かどうかを示します。

返される結果の値スペース:

Off/対応不可/対応可能

Off: プレゼンタのトラッキングが無効です。

利用不可: プレゼンタのトラッキングが正しく設定されていないか、カメラが切断されているか、またはマルチサイトまたはマルチストリームの通話が進行中です。

Available: プレゼンタトラッキングが利用できます。

例:

```
xStatus Cameras PresenterTrack Availability
*s Cameras PresenterTrack Availability: Available
** end
```

xStatus Cameras PresenterTrack PresenterDetected

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

プレゼンタトラッキングが現在使用中かどうかを示します。

返される結果の値スペース:

False/True

例:

```
xStatus Cameras PresenterTrack PresenterDetected
*s Cameras PresenterTrack PresenterDetected: False
** end
```

xStatus Cameras PresenterTrack Status

適用対象: *CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

プレゼンタトラッキングの現在の状況を返します。

返される結果の値スペース:

Off/Follow/Diagnostic/Background/Setup/Persistent

Off: 実行されていません。

フォロー: トラッキングは進行中で、正常に機能しています

診断: 診断モード中。このモードはトラブルシューティングに使用されます。

バックグラウンド: PresenterTrack カメラがメイン カメラとして選択されていない場合、アルゴリズムが実行されています。これは Briefing 会議室のセットアップで使用され、異なるカメラ間の自動切り替えを有効にします。

セットアップ: SpeakerTrack カメラを設定するためのウェブ ウィザードがアクティブになっています。

Persistent: カメラがアクティブで、メインカメラとして選択されています。

例:

```
xStatus Cameras PresenterTrack Status
*s Cameras PresenterTrack Status: Off
** end
```

xStatus カメラ SpeakerTrack ActiveConnector

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー、会議室コントロール

スピーカートラッキングをサポートするカメラが接続されているコネクタの番号を示します。それが SpeakerTrack 60 カメラである場合、現在 SpeakerTrack アルゴリズムによって選択されているのはカメラのコネクタ番号です。

このステータスは Room Kit Mini, Desk Pro, Desk Limited Edition, Boards には適用されません。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Cameras SpeakerTrack ActiveConnector
*s Cameras SpeakerTrack ActiveConnector: 1
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Cameras SpeakerTrack Availability

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー、会議室コントロール

製品は話者トラッキングベスト オーバービューを含む場合もあれば、ベスト オーバービュー機能のみに対応する場合もあります。この状況は、その機能が利用可能かどうかを示します。

返される結果の値スペース:

Off/Unavailable/Available

Off: 発言者トラッキング/ベストオーバービューは、コマンド xConfiguration Cameras SpeakerTrack Mode: Off になります

利用不可: 話者トラッキング/ベストオーバービュー用ハードウェアが見つかりません。

利用可能: 話者トラッキング/ベストオーバービュー用のハードウェアが見つかり、ユーザインターフェイスからこの機能をOnまたはOffにできます。

例:

```
xStatus Cameras SpeakerTrack Availability
*s Cameras SpeakerTrack Availability: Available
** end
```

xStatus Cameras SpeakerTrack Status

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー、会議室コントロール

製品は話者トラッキングベスト オーバービューを含む場合もあれば、ベスト オーバービュー機能のみに対応する場合もあります。このステータスは、その機能がアクティブかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

アクティブ/非アクティブ

アクティブ: 話者トラッキング/ベストオーバービューがアクティブです。

Inactive: スピーカートラッキング/ベストオーバービューが非アクティブです。

例:

```
xStatus Cameras SpeakerTrack Status
*s Cameras SpeakerTrack Status: Active
** end
```

xStatus Cameras SpeakerTrack ViewLimits Pan

適用対象: RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Boards

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー、会議室コントロール

Cameras SpeakerTrack ViewLimits StorePosition コマンドで設定されたカメラ ビューの制限された最大値に対するパン値を返します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Cameras SpeakerTrack ViewLimits Pan
*s Cameras SpeakerTrack ViewLimits Pan: -88
** end
```

xStatus Cameras SpeakerTrack ViewLimits Status

適用対象: RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Boards

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー、会議室コントロール

制限された最大カメラビューが話者トラッキングに使用されているかどうかを示します (Cameras SpeakerTrack ViewLimits StorePosition コマンドを参照してください)。

返される結果の値スペース:

アクティブ/非アクティブ

Active: 制限された最大ビューが使用されています。

Inactive: 制限された最大ビューは使用されていないため、完全にズームアウトされたカメラビューになります。

例:

```
xStatus Cameras SpeakerTrack ViewLimits Status
*s Cameras SpeakerTrack ViewLimits Status: Active
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Cameras SpeakerTrack ViewLimits Tilt

適用対象: *RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Boards*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー、会議室コントロール

Cameras SpeakerTrack ViewLimits StorePosition コマンドで設定されたカメラビューの制限された最大値に対するチルト値を返します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Cameras SpeakerTrack ViewLimits Tilt
*s Cameras SpeakerTrack ViewLimits Tilt: -425
** end
```

xStatus Cameras SpeakerTrack ViewLimits Zoom

適用対象: *RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Boards*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー、会議室コントロール

Cameras SpeakerTrack ViewLimits StorePosition コマンドで設定された制限された最大カメラ ビューのズーム値を返します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Cameras SpeakerTrack ViewLimits Zoom
*s Cameras SpeakerTrack ViewLimits Zoom: 5121
** end
```

機能の状況

xStatus Capabilities Conference MaxActiveCalls

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

同時アクティブ コールの最大数を表示します。保留/転送に設定されている通話は、アクティブとしてカウントされません。

返される結果の値スペース:

0..5

例:

```
xStatus Capabilities Conference MaxNumberOfActiveCalls
*s Capabilities Conference MaxNumberOfActiveCalls: 3
** end
```

xStatus Capabilities Conference MaxAudioCalls

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

サポートされている同時音声コールの最大数を示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Capabilities Conference MaxAudioCalls
*s Capabilities Conference MaxAudioCalls: 3
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Capabilities Conference MaxCalls

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

最大同時通話数を表示します。

返される結果の値スペース:

0..5

例:

```
xStatus Capabilities Conference MaxCalls
*s Capabilities Conference MaxCalls: 3
** end
```

xStatus Capabilities Conference MaxVideoCalls

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

サポートされている同時ビデオ コールの最大数を表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Capabilities Conference MaxVideoCalls
*s Capabilities Conference MaxVideoCalls: 3
** end
```

会議ステータス

xStatus Conference ActiveSpeaker CallId

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

現在アクティブな発言者の CallId を表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Conference ActiveSpeaker CallId
*s Conference ActiveSpeaker CallId: 3
** end
```

xStatus Conference Call [n] AuthenticationRequest

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

このステータスは Cisco Webex 登録済みデバイスにのみ関連します。このステータスが「なし」以外の値を持つ場合、デバイスは認証応答を待っています。Conference Call AuthenticationResponse コマンドを使用して応答を提供します。

返される結果の値スペース:

None/HostPinOrGuest/HostPinOrGuestPin/PanelistPin

なし: デバイスは認証応答を待機していません (認証要求なし)。

HostPinOrGuest: 主催者 PIN を指定するか、PIN を指定せずにゲストとして参加します。

HostPinOrGuestPin: 主催者 PIN またはゲスト PIN のいずれかを指定する必要があります。

パネリスト PIN: Event Center イベントにパネリストとして参加するためのパネリスト PIN を入力する必要があります。

例:

```
xStatus Conference Call 2 AuthenticationRequest
*s Conference Call 2 AuthenticationRequest: None
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Conference Call [n] BookingId

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

コンファレンスコールの予約 ID を表示します (割り当てられている場合)。ブッキング ID は、通話または電話会議を簡単に識別するために使用できます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Conference Call 2 BookingId
*s Conference Call 2 BookingId: "MyConference"
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities FarendMessage Mode

適用対象: すべての製品

このリリースには適用されません。

xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

自分が遠端サイトの入力ソースをコントロールする権限を持っているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

On: 遠端の入力ソースコントロールが許可されます。

Off: 遠端の入力ソースコントロールは許可されません。

例:

```
xStatus Conference Call 2 Capabilities FECC Mode
*s Conference Call 2 Capabilities FECC Mode: On
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC NumberOfPresets

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

遠端サイトの入力ソースで利用できるプリセットの数を表示します。

返される結果の値スペース:

1..15

例:

```
xStatus Conference Call 2 Capabilities FECC NumberOfPresets
*s Conference Call 2 Capabilities FECC NumberOfPresets: 15
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC NumberOfSources

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

遠端サイトで接続できる入力ソースの数を表示します。

返される結果の値スペース:

1..5

例:

```
xStatus Conference Call 2 Capabilities FECC NumberOfSources
*s Conference Call 2 Capabilities FECC NumberOfSources: 5
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC Source [n] Name

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

遠端サイトで接続できる入力ソースの名前を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Conference Call 2 Capabilities FECC Source 1 Name
*s Conference Call 2 Capabilities FECC Source 1 Name: "Main camera"
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC Source [n] Options

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

遠隔地で接続できる入力ソースで利用できるオプションを表示します (カメラの場合: p=パン、t=チルト、z=ズーム、f=フォーカス)。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Conference Call 2 Capabilities FECC Source 1 Options
*s Conference Call 2 Capabilities FECC Source 1 Options: "ptz"
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC Source [n] SourceId

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

遠端サイトで接続できる入力ソースの ID を表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Conference Call 2 Capabilities FECC Source 1 SourceId
*s Conference Call 2 Capabilities FECC Source 1 SourceId: 6
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities Hold

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

遠端サイトを保留状態にできるかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus Conference Call 2 Capabilities Hold
*s Conference Call 2 Capabilities Hold: True
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities lxChannel Status

適用対象: すべての製品

このリリースには適用されません。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Conference Call [n] Capabilities MeetingAssistant Start

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

このバージョンでは適用できません。

返される結果の値スペース:

利用可能/利用不可

xStatus Conference Call [n] Capabilities MeetingAssistant Stop

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

このバージョンでは適用できません。

返される結果の値スペース:

利用可能/利用不可

xStatus Conference Call [n] Capabilities ParticipantDisconnect

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

この通話の参加者を切断できるかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

利用可能/利用不可

例:

```
xStatus Conference Call 2 Capabilities ParticipantDisconnect
*s Conference Call 2 Capabilities ParticipantDisconnect: Available
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities ParticipantList

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

この通話で参加者リストを表示できるかどうか、またはリストが同期中かどうかを示します。

返される結果の値スペース:

利用可能/同期中/利用できません

例:

```
xStatus Conference Call 2 Capabilities ParticipantList
*s Conference Call 2 Capabilities ParticipantList: Available
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities ParticipantMute

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

別のデバイス (ミーティング参加者) のサーバーのミュート状態を変更できるかどうかを示します。デバイスがサーバ上でミュートになると、それ自体が自動的にミュートになります。デバイスがサーバ上でミュート解除されると、「音声のミュートを解除してください」という通知を受け取ります。プライバシー上の理由から、デバイスはローカルでミュート解除されるまで、常にミュートされたままになります。

返される結果の値スペース:

利用可能/利用不可

利用可能: サーバ上で別のデバイスのミュート状態を変更することができます。

Unavailable: サーバー上の別のデバイスのミュート状態を変更することはできません。

例:

```
xStatus Conference Call 2 Capabilities ParticipantMute
*s Conference Call 2 Capabilities ParticipantMute: Available
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Conference Call [n] Capabilities Presentation

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

会議の他の参加者のプレゼンテーション機能の一覧を表示します。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus Conference Call 2 Capabilities Presentation
*s Conference Call 2 Capabilities Presentation: True
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities Recording Start

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

この通話で録音を開始できるかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

利用可能/利用不可

例:

```
xStatus Conference Call 2 Capabilities Recording Start
*s Conference Call 2 Capabilities Recording Start: Unavailable
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities SelfMute

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

サーバ上で自分のミュート状態を変更できるかどうかを示します。このステータスは CMS が主催するミーティングにのみ関連します。

返される結果の値スペース:

利用可能/利用不可

利用可能: サーバ上で自分のミュート状態を変更できます。

利用できません: サーバ上で自分のミュート状態を変更することはできません。

例:

```
xStatus Conference Call 2 Capabilities SelfMute
*s Conference Call 2 Capabilities SelfMute: Unavailable
** end
```

xStatus Conference Call [n] EventCenter Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

この通話で練習セッションモードが使用されているかどうかを示します。このステータスは、クラウド登録済みデバイスでのみ利用できます。

返される結果の値スペース:

Normal/PracticeSession

例:

```
xStatus Conference Call 2 EventCenter Mode
*s Conference Call 2 EventCenter Mode: Normal
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Conference Call [n] Manufacturer

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

相手側のデバイスの製造元を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Conference Call 2 Manufacturer
*s Conference Call 2 Manufacturer: "Cisco"
** end
```

xStatus Conference Call [n] MeetingAssistantEnabled

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

このバージョンでは適用できません。

返される結果の値スペース:

False/True

xStatus Conference Call [n] MicrophonesMuted

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

電話会議の他の参加者の音声ミュートステータスを一覧表示します。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus Conference Call 2 MicrophonesMuted
*s Conference Call 2 MicrophonesMuted: True
** end
```

xStatus 電話会議 [n] の録画

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

返される結果の値スペース:

None/Recording/Paused

通話が録音されているかどうかを表示します。

None: 録音は利用できません。

Recording: 録音は進行中です。

Paused: 録音は一時停止中です。

例:

```
xStatus Conference Call 2 Recording
*s Conference Call 2 Recording: None
** end
```

xStatus Conference Call [n] Sip SessionId

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

返される結果の値スペース:

文字列

SIP SessionId を表示します。これは、ミーティングの特定のコール レッグを識別するために使用される CUCM 識別子です。

例:

```
xStatus Conference Call 2 Sip SessionId
*s Conference Call 2 Sip SessionId: "8833d0863ac15b0083ce5aa417eb6609;remote=b3a9603e7aef6f2e6a818c815307c4f1"
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Conference Call [n] SoftwareID

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

遠隔地のデバイスで実行されているソフトウェアの ID を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Conference Call 2 SoftwareID
*s Conference Call 2 SoftwareID: "CE8"
** end
```

xStatus Conference Call [n] Streamed

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

会議がライブ配信されているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

False/True

例:

```
xStatus Conference Call 2 Streamed
*s Conference Call 2 Streamed: False
** end
```

xStatus Conference Call [n] Transcoded

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

通話がトランスコードされているかどうかを示します。通話がトランスコードされている場合、True とレポートされます。

返される結果の値スペース:

False/True

例:

```
xStatus Conference Call 2 Transcoded
*s Conference Call 2 Transcoded: False
** end
```

xStatus Conference DoNotDisturb

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

DoNotDisturb モードがOnになっているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

アクティブ/非アクティブ

例:

```
xStatus Conference DoNotDisturb
*s Conference DoNotDisturb: Inactive
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus 電話会議 [n] モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスが CUCM のプライベート回線または共有回線のどちらとして設定されているかを示します。

返される結果の値スペース:

Shared/Private

例:

```
xStatus Conference Line Mode
*s Conference Line 1 Mode: Private
** end
```

xStatus Conference Multipoint Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

マルチポイントステータスは、電話会議マルチポイントモード設定および MultiSite オプションキーによって異なります。MultiSite オプションキーがないデバイスは、電話会議マルチポイントモード設定に関係なく、MultiSite 電話会議を主催できません。

返される結果の値スペース:

CUCMMediaResourceGroupList/MultiSite/Off/Spark

Off: デバイスが参加者を電話会議に追加することを許可する MCU に発信する場合、複数参加者の会議は MCU 経由でセットアップできます (直接リモート追加)。すべての製品は、音声のみで 1 台の追加デバイスに発信できます。MultiSite オプションキーがないデバイスで、Conference Multipoint Mode が MultiSite に設定されている場合、音声のみでデバイスを 1 台追加する動作が適用されます。

MultiSite: Conference Multipoint Mode が MultiSite に設定されている場合、複数参加者の会議は常に組み込みの MultiSite 機能を使用してセットアップされます。Conference Multipoint Mode が Auto に設定されている場合、組み込みの MultiSite 機能は、他のビデオデバイスに発信する場合にのみ、複数の参加者の会議に使用されます。デバイスが参加者を電話会議に追加することを許可する MCU に発信する場合、複数参加者の会議は MCU 経由でセットアップされます (直接リモート追加)。

CUCMMediaResourceGroupList: 複数参加者の会議は、CUCM で設定された会議ブリッジによって主催されます (アドホック会議)。

Spark: 複数参加者による電話会議は、Cisco Webex クラウド サービスを通じてセットアップされます。

例:

```
xStatus Conference Multipoint Mode
*s Conference Multipoint Mode: "CUCMMediaResourceGroupList"
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus 会議プレゼンテーション通話 ID

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー、会議室コントロール

プレゼンテーションを送信するデバイスの識別子を示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Conference Presentation CallId
*s Conference Presentation CallId: 0
** end
```

xStatus Conference Presentation LocalInstance [n] SendingMode

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

プレゼンテーションソースがローカルまたはリモートの参加者と共有されているかどうかを示します。すべて独自のインスタンスを持つ複数のローカル プレゼンテーションが存在する場合があります。

返される結果の値スペース:

LocalOnly/LocalRemote/Off

例:

```
xStatus Conference Presentation LocalInstance 1 SendingMode
*s Conference Presentation LocalInstance 1 SendingMode: LocalOnly
** end
```

xStatus 電話会議プレゼンテーションローカルインスタンス [n] ソース

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

現在のプレゼンテーションの SourceId を表示します。すべて独自のインスタンスを持つ複数のローカル プレゼンテーションが存在する場合があります。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Conference Presentation LocalInstance 1 Source
*s Conference Presentation LocalInstance 1 Source: 1
** end
```

xStatus 電話会議プレゼンテーションモード

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

セカンダリビデオストリームの状況を示します。

返される結果の値スペース:

Off/送信/受信

例:

```
xStatus Conference Presentation Mode
*s Conference Presentation Mode: Off
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Conference SelectedCallProtocol

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デフォルトとして使用される通話プロトコルを示します。

返される結果の値スペース:

H320/H323/SIP/Spark

例:

```
xStatus Conference SelectedCallProtocol
*s Conference SelectedCallProtocol: SIP
** end
```

xStatus 会議発言者ロック通話 ID

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

電話会議で発言者としてロックされている参加者の CallId を示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Conference SpeakerLock CallId
*s Conference SpeakerLock CallId: 0
** end
```

xStatus 会議発言者ロックモード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

スピーカーのロックが有効かどうかを示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Conference SpeakerLock Mode
*s Conference SpeakerLock Mode: Off
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

Diagnostics ステータス

xStatus 診断メッセージ [n] の説明

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

現在の診断アラートの説明を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

xStatus 診断メッセージの説明

*s DiagnosticsResult Message 1 の説明:「IP 構成が不完全です」

** end

xStatus 診断メッセージ [n] レベル

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

診断メッセージの重要度を示します。

返される結果の値スペース:

Error/Warning/Critical

エラー: デバイスにエラーがあります。デバイスは引き続き使用できますが、いくつかの制限があります。

警告:問題が検出されました。正確な問題を示すより具体的なレポートが続きます。

重大: 警告レベルは重大です。デバイスは使用できません。

例:

xStatus Diagnostics Message 4 Level

*s Diagnostics Message 4 Level: Warning

** end

xStatus Diagnostics Message [n] References

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

診断アラートに関する追加情報です (ある場合)。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

xStatus Diagnostics Message 10 References

*s 診断メッセージ 10 参照:「delay=190」

** end



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus 診断メッセージ [n] タイプ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスの最新の診断結果に関する情報を表示します。

返される結果の値スペース:

ANATOnVCS/AbnormalCallTermination/AmplifierDetection/AmplifierFanStatus/
AudioInternalSpeakerDisabled/AudioPairingInterference/AudioPairingNoise/
AudioPairingRate/AudioPairingSNR/AudioPairingTokenDecode/CAPFOperationState/
CTLInstallation/CUCMAAndCloudConfigurability/CUCMVendorConfigurationFile/
CallProtocolDualStackConfig/CallProtocolIPStackPlatformCompatibility/
CallProtocolInvalidCloudProv/CallProtocolVcsProvisioningCompatibility/
CameraDetected/CameraId/CameraPairing/CameraSerial/CameraSoftwareVersion/
CameraStatus/CamerasDetected/CaptivePortalDetected/CertificateExpiry/
CloudConfigurationWriteback/CompanionModelIncompatibilityLocal/
CompanionModelIncompatibilityRemote/ConfigurationFile/ContactInfoMismatch/
ControlSystemConnection/CurrentNetworkQuality/DefaultCallProtocolRegistered/
DeveloperPreview/DigitalMicrophoneStatus/ECReferenceDelay/
EmbeddedWebViewFailedToLoad/EmbeddedWebViewTerminatedUnexpectedly/
EthernetDuplexMatches/FanStatus/FirstTimeWizardNotCompleted/H320GatewayStatus/
H323GatekeeperStatus/HTTPFeedbackFailed/HTTPSMODESecurity/
HasActiveCallProtocol/HasValidReleaseKey/HdmiCecModeNoSound/IPv4Assignment/
IPv6Assignment/IPv6Mtu/ISDNLinkCompatibility/ISDNLinkIpStack/ITLInstallation/
InvalidSIPTransportConfig/IpCameraStatus/KioskMode/LockDown/LowBattery/
MacrosRuntimeStatus/MediaBlockingDetected/MediaPortRangeNegative/
MediaPortRangeOdd/MediaPortRangeOverlap/MediaPortRangeTooSmall/
MediaPortRangeValueSpace/MicrophoneMuteOverride/MicrophoneOverloaded/
MicrophonePower/MicrophoneReinforcement/MicrophonesConnected/MissingDisplay/
MissingThirdDisplay/MonitorDelay/MonitorFirmwareVersion/NTPStatus/NetLinkStatus/
NetSpeedAutoNegotiated/NetworkQuality/NetworkSwitch/OSDVideoOutput/
OutputConnectorLocations/PillLoggingMode/PanoramaCameraHdmi/PanoramaView/
PeripheralSoftwareUpgrade/PeripheralSoftwareVersion/PlatformSanity/
PresentationSourceSelection/PresenterTrack/ProvModeWebexAndWebexEdgeEnabled/
ProvisioningDeveloperOptions/ProvisioningModeAndStatus/ProvisioningStatus/
RoomControl/SIPEncryption/SIPListenPortAndRegistration/SIPProfileRegistration/
SIPProfileType/SelectedVideoInputSourceConnected/SignageFailedToLoad/
SignageTerminatedUnexpectedly/SipPceAndAnatConflict/SipOrH323ButNotBothEnabled/
SoftwareUpgrade/SoftwareUpgradeKeepsFailing/SpeakerTrackEthernetConnection/
SpeakerTrackFrontPanelMountedCorrectly/SpeakerTrackMicrophoneConnection/
SpeakerTrackVideoInputs/TCPMediaFallback/TLSVerifyRequiredCerts/TemperatureCheck/
TouchPanelConnection/UltrasoundConfigSettings/UltrasoundSpeakerAvailability/
ValidPasswords/VideoFromInternalCamera/VideoInputSignalQuality/VideoInputStability/

VideoPortRangeNegative/VideoPortRangeOdd/VideoPortRangeTooSmall/
VideoPortRangeValueSpace/WebRTCCalling/WebexAccountPlusWebexEdgeEnabled/
WebexActivationRequired/WebexAudioProximityConnectivity/WebexConnectivity/
WebexEdgeAccountPendingCloudRegistration/WebexEdgeAccountPlusProvModeWebex/
WebexLyraConnectivity/WebexMustUpgradeCeSoftware/WebexNotificationConnectivity/
WebexOffline/WebexShouldUpgradeCeSoftware/WifiCARRequired/WirelessConnectionStatus

例:

```
xStatus Diagnostics Message Type
*s Diagnostics Message 1 Type: CamerasDetected
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

GPIO ステータス

xStatus GPIO Pin [n] State

適用先: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

4 つの GPIO ピンのそれぞれの現在の状態を表示します。

返される結果の値スペース:

High/Low

High: +12V、デフォルト状態。

Low: 0V、有効時。

例:

```
xStatus GPIO ピン 1 の状態
*s GPIO Pin 1 State: High
** end
```

H320 ステータス

xStatus H320 Gateway Address

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ビデオ会議デバイスがペアリングされている場合、ISDN ゲートウェイの IPv4 アドレスを返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus H320 Gateway Address
*s H320 Gateway Address: ""
** end
```

xStatus H320 ゲートウェイ ID

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ビデオ会議デバイスが ISDN Link とペアリングされている場合、H320 ゲートウェイの一意の ID を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus H320 ゲートウェイ ID
*s H320 ゲートウェイ ID: "00:50:60:0B:EF:11"
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus H320 ゲートウェイモード

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ビデオ会議デバイスが ISDN Link とペアリングされている場合、ISDN ゲートウェイが設定されている通話のタイプに関する情報を返します。

返される結果の値スペース:

BRI/External/G703/PRI/Unknown

例:

```
xStatus H320 Gateway Mode
*s H320 Gateway Mode: Unknown
** end
```

xStatus H320 Gateway Number

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ビデオ会議デバイスがペアリングされている場合、ISDN ゲートウェイの IPv6 アドレスを返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus H320 ゲートウェイ番号
*s H320 ゲートウェイ番号: ""
** end
```

xStatus H320 Gateway Reason

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

拒否されたゲートウェイ登録の理由を示します。ビデオ会議デバイスが ISDN リンクに接続されている場合にのみ利用できます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus H320 Gateway Reason
*s H320 Gateway Reason: ""
** end
```

xStatus H320 Gateway Status

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ビデオ会議デバイスが ISDN Link でペアリングされている場合、H320 ゲートウェイの状態を返します。

返される結果の値スペース:

Error/Inactive/OK/OKWithWarning/Warning/NoConnection

例:

```
xStatus H320 ゲートウェイの状態
*s H320 ゲートウェイの状態: エラー
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

H323 ステータス

xStatus H323 ゲートキーパーアドレス

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスが登録されているゲートキーパーの IP アドレスを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus H323 ゲートキーパーアドレス
*s H323 ゲートキーパーアドレス: "192.0.1.20"
** end
```

xStatus H323 ゲートキーパーポート

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ゲートキーパーで ゲートキーパーに接続する際に使用されるポートを表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus H323 Gatekeeper Port
*s H323 Gatekeeper Port: 1719
** end
```

xStatus H323 Gatekeeper Reason

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

Shows the reason for rejected registration.

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus H323 Gatekeeper Reason
*s H323 Gatekeeper Reason: ""
** end
```

xStatus H323 Gatekeeper Status

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ゲートキーパーの登録状況を表示します。

返される結果の値スペース:

*Required/Discovering/Discovered/Authenticating/Authenticated/Registering/Registered/
Inactive/Rejected*

例:

```
xStatus H323 Gatekeeper Status
*s H323 ゲートキーパー ステータス: 登録済み
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus H323 Mode Reason

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

H.323 設定と xStatus H323 Mode Status の間で競合があるかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

"": H.323 が On に設定され、H.323 モード設定と他のデバイス設定との間に競合がない場合。
「SIP が有効」: H.323 モードが On に設定され、SIP がこの 2 つを同時にサポートしていないデバイスで有効になっている場合。
「利用できません」: デバイスが H.323 をサポートしていない場合。

例:

```
xStatus H323 Mode Reason
*s H323 Mode Reason: ""
** end
```

xStatus H323 モードステータス

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

H.323 登録の状況を表示します。

返される結果の値スペース:

有効/無効

有効: 登録が有効になっています。
Disabled: SIP が有効になっているため、登録は無効になっています。

例:

```
xStatus H323 モードステータス
*s H323 モードステータス:「無効」
** end
```

HttpFeedback status

xStatus HttpFeedback [n] 式 [n]

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

HTTP サーバーからのフィードバックを表示します。最大 4 スロットのサーバーが HTTP フィードバックを要求し、各 URL に対して最大 15 式を指定できます。詳細については、xCommand の HttpFeedback コマンドを参照してください。

返される結果の値スペース:

文字列

xStatus HttpFeedback [n] 形式

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

HTTP サーバーからの HTTP フィードバックの形式を示します。

返される結果の値スペース:

XML/JSON

例:

```
xStatus HttpFeedback 1 Format
*s HttpFeedback 1 Format: XML
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus HttpFeedback [n] Status

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

HTTP サーバーに送信されたフィードバックのステータスを示します。

返される結果の値スペース:

OK/失敗

OK: フィードバックが正常に送信されたことを示します。

失敗: フィードバックが正常に送信されなかったことを示します。

例:

```
xStatus HttpFeedback 1 Status
*s HttpFeedback 1 Status: OK
** end
```

xStatus HttpFeedback [n] URL

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

HTTP サーバーの URL (Uniform Resource Locator) を表示します。URL で指定された最大 3 つの HTTP サーバーが存在できます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus HttpFeedback 1 URL
*s HttpFeedback 1 URL: "http://tms.company.com/tms/public/feedback/code.aspx"
** end
```

メディアチャネルの状況

xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] Audio Channels

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

着信または発信音声チャネルの数を表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 Channel 327 Audio Channels
*s MediaChannels Call 27 Channel 327 Audio Channels: 1
** end
```

xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] Audio ChannelRole

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

着信または発信音声チャネルの役割を表示します。

返される結果の値スペース:

メイン/プレゼンテーション

Main: メインビデオの音声は着信または発信音声チャネルを通じて送信されます。

Presentation: プレゼンテーションの音声は着信または発信音声チャネルを通じて送信されます。

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 Channel 327 Audio ChannelRole
*s MediaChannels Call 27 Channel 327 Audio ChannelRole: Main
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] Audio Mute

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

着信音声の音声ミュートのステータス。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 Channel 327 Audio Mute
*s MediaChannels Call 27 Channel 327 Audio Mute: False
** end
```

xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] Audio Protocol

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

着信または発信音声の音声アルゴリズムを表示します。

返される結果の値スペース:

AACLD/G711A/G711Mu/G722/G7221/G7221C/G723_1/G728/G729/G729A/G729AB/Off/Opus

AACLD: AAC-LD は、MPEG-4 低遅延音声コーダーの音声圧縮形式です。

G711A: G.711 A-law アルゴリズムは、音声圧縮の ITU-T 標準です。

G711Mu: G.711 Mu-law アルゴリズムは、音声圧縮の ITU-T 標準です。

G722: G.722 アルゴリズムは、音声圧縮の ITU-T 標準です。

G7221: G.722.1 アルゴリズムは、音声圧縮の ITU-T 標準です。

G7221C: G.722.1 附属書 C アルゴリズムは、音声圧縮の ITU-T 標準です。

G723_1: G.723.1 アルゴリズムは、音声圧縮の ITU-T 標準です。

G728: G.728 アルゴリズムは、音声圧縮の ITU-T 標準です。

G729: G.729 アルゴリズムは、音声圧縮の ITU-T 標準です。

G729A: G.729 附属書 A アルゴリズムは、音声圧縮の ITU-T 標準です。

G729AB: G.729 附属書 A および B アルゴリズムは、音声圧縮の ITU-T 標準です。

Off: 音声なし。

Opus: Opus は、著作権使用料がかからない音声圧縮の IETF 標準です。

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 Channel 327 Audio Protocol
*s MediaChannels Call 27 Channel 327 Audio Protocol: AACLD
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] Direction

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

通話の方向を示します。

返される結果の値スペース:

Incoming/Outgoing

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 Channel 327 Direction
*s MediaChannels Call 27 Channel 327 Direction: Incoming
** end
```

xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] Encryption

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

着信または発信通話の音声またはビデオの暗号化の状態を示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 Channel 327 Encryption
*s MediaChannels Call 27 Channel 327 Encryption: On
** end
```

xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] NetStat Bytes

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

着信または発信チャンネルの音声、ビデオ、またはデータのバイト数を示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 Channel 327 NetStat Bytes
*s MediaChannels Call 27 Channel 327 NetStat Bytes: 496640
** end
```

xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] NetStat ChannelRate

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

着信または発信チャンネルの音声、ビデオ、またはデータの帯域幅を表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 Channel 327 NetStat ChannelRate
*s MediaChannels Call 27 Channel 327 NetStat ChannelRate: 128000
** end
```




はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Media Channels コール [n] チャンネル [n] NetStat ジッター

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

RFC 3550 で指定されているように、着信または発信チャンネルの現時点での音声、ビデオ、またはデータのジッターを示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 Channel 327 NetStat Jitter
*s MediaChannels Call 27 Channel 327 NetStat Jitter: 2
** end
```

xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] NetStat LastIntervalLost

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

最後の時間内に着信または発信チャンネル上で失われた音声、ビデオ、またはデータのパケット数を示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 Channel 327 NetStat LastIntervalLost
*s MediaChannels Call 27 Channel 327 NetStat LastIntervalLost: 0
** end
```

xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] NetStat LastIntervalReceived

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

直近の間隔で着信または発信チャンネル上で受信した音声、ビデオ、またはデータのパケット数を示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 Channel 327 NetStat LastIntervalReceived
*s MediaChannels Call 27 Channel 327 NetStat LastIntervalReceived: 289
** end
```

xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] NetStat Loss

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

着信または発信チャンネルで失われた音声、ビデオ、またはデータのパケット数を示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 Channel 327 NetStat Loss
*s MediaChannels Call 27 Channel 327 NetStat Loss: 0
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] NetStat MaxJitter

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

最後の間隔 (約 5 秒) 中に測定された音声、ビデオ、またはデータの最大ジッターを示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 Channel 327 NetStat MaxJitter
*s MediaChannels Call 27 Channel 327 NetStat MaxJitter: 2
** end
```

xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] NetStat Packets

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

着信または発信チャンネルで送受信された音声、ビデオ、またはデータのパケット数を示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 Channel 327 NetStat Packets
*s MediaChannels Call 27 Channel 327 NetStat Packets: 1551
** end
```

xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] ParticipantId

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

入力音声またはビデオチャンネルのアクティブコントロール参加者の ID を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 Channel 327 ParticipantId
*s MediaChannels Call 27 Channel 327 ParticipantId: ""
** end
```

xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] Type

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

着信または発信チャンネルのメディア タイプを表示します。

返される結果の値スペース:

音声/ビデオ/データ

音声: 着信または発信チャンネルのメディアタイプは音声です。

ビデオ: 着信または発信チャンネルのメディアタイプはビデオです。

データ: 着信または発信チャンネルのメディアタイプはデータです。

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 Channel 327 Type
*s MediaChannels Call 27 Channel 327 Type: Audio
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] Video ChannelRole

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

着信または発信ビデオチャンネルの役割を示します。

返される結果の値スペース:

メイン/プレゼンテーション

Main: メインビデオは着信または発信のビデオチャンネル上にあります。

Presentation: プレゼンテーションは着信または発信のビデオチャンネル上にあります。

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 Channel 327 Video ChannelRole
*s MediaChannels Call 27 Channel 327 Video ChannelRole: Main
** end
```

xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] Video FrameRate

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

着信または発信ビデオチャンネルのフレームレートを表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 Channel 327 Video FrameRate
*s MediaChannels Call 27 Channel 327 Video FrameRate: 30
** end
```

xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] Video Protocol

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

着信または発信ビデオチャンネルのビデオアルゴリズムを表示します。

返される結果の値スペース:

H261/H263/H263p/H263pp/H264/HEVC/JPEG/MP4V/Off

H261: H.261 アルゴリズムは、ビデオ圧縮の ITU-T 標準です。

H263: H.263 アルゴリズムは、ビデオ圧縮の ITU-T 標準です。

H263p: H.263p (H.263+) アルゴリズムは、ビデオ圧縮の ITU-T 標準です。

H263pp: H.263pp (H.263++) アルゴリズムは、ビデオ圧縮の ITU-T 標準です。

H264: H.264 アルゴリズム (MPEG-4 AVC) は、ビデオ圧縮の ITU-T および ISO/IEC 標準です。

HEVC: HEVC (H.265) アルゴリズム (MPEG-H パート 2) は、ビデオ圧縮の ITU-T および ISO/IEC 標準です。

JPEG: JPEG アルゴリズムは、ビデオ圧縮の ISO/IEC 標準です。

MP4V: MP4V 形式はビデオ圧縮用の ISO/IEC ファイル形式です。

Off: ビデオなし。

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 Channel 327 Video Protocol
*s MediaChannels Call 27 Channel 327 Video Protocol: H264
** end
```

xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] Video ResolutionX

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

入力または出力されるビデオの幅 (X 方向の解像度) を示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 Channel 327 Video ResolutionX
*s MediaChannels Call 27 Channel 327 Video ResolutionX: 1920
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus MediaChannels Call [n] Channel [n] Video ResolutionY

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

着信または発信ビデオの高さ (Y 方向の解像度) を示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus MediaChannels Call 27 Channel 327 Video ResolutionY
*s MediaChannels Call 27 Channel 327 Video ResolutionY: 1080
** end
```

xStatus MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Audio Channels

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

問題のチャンネルで受信した音声チャンネル (なし、モノラル、ステレオ) の数を示します。

返される結果の値スペース:

整数

0: なし
1: モノラル
2: ステレオ

例:

```
xStatus MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 Audio Channels
*s MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 Audio Channels: 1
** end
```

xStatus メディアチャネル DirectShare [n] チャネル [n] 音声プロトコル

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

アクティブな着信共有セッションで使用される音声コーデックを表示します。

返される結果の値スペース:

AACLC/AACLD/AMR/CiscoPCM16/L16-768/ComfortNoise/G711A/G711Mu/G722/G7221/G7221C/G723_1/G728/G729/G729A/G729AB/Off/Opus/Raw

サポートされている音声標準は通話でサポートされているものと本質的に同じですが、クライアントは通常 Opus (または AAC) のみを使用します。

AACLD: AAC-LD は、MPEG-4 低遅延音声コーダーの音声圧縮形式です。

G711A: G.711 A-law アルゴリズムは、音声圧縮の ITU-T 標準です。

G711Mu: G.711 Mu-law アルゴリズムは、音声圧縮の ITU-T 標準です。

G722: G.722 アルゴリズムは、音声圧縮の ITU-T 標準です。

G7221: G.722.1 アルゴリズムは、音声圧縮の ITU-T 標準です。

G7221C: G.722.1 附属書 C アルゴリズムは、音声圧縮の ITU-T 標準です。

G723_1: G.723.1 アルゴリズムは、音声圧縮の ITU-T 標準です。

G728: G.728 アルゴリズムは、音声圧縮の ITU-T 標準です。

G729: G.729 アルゴリズムは、音声圧縮の ITU-T 標準です。

G729A: G.729 附属書 A アルゴリズムは、音声圧縮の ITU-T 標準です。

G729AB: G.729 附属書 A および B アルゴリズムは、音声圧縮の ITU-T 標準です。

Off: 音声なし。

Opus: Opus は、著作権使用料がかからない音声圧縮の IETF 標準です。

例:

```
xStatus MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 Audio Protocol
*s MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 Audio Protocol: AACLD
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Media Channels DirectShare [n] チャンネル [n] 暗号化

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

該当する着信音声/ビデオチャンネルの暗号化の状況を示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 Encryption
*s MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 Encryption: On
** end
```

xStatus MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Netstat Bytes

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

問題のチャンネルで受信した累積バイト数を示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 NetStat Bytes
*s MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 NetStat Bytes: 496640
** end
```

xStatus MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Netstat ChannelRate

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

問題のチャンネルの現在の受信音声/ビデオ帯域幅を表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 NetStat ChannelRate
*s MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 NetStat ChannelRate: 128000
** end
```

xStatus MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Netstat Jitter

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

RFC 3550 で指定されているように、着信チャンネルで受信した音声/ビデオについて現在測定されているジッターを示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 NetStat Jitter
*s MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 NetStat Jitter: 2
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Netstat LastIntervalLost

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

問題の着信チャンネルで最後の間隔で失われた音声/ビデオ パケットの数を示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 NetStat LastIntervalLost
*s MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 NetStat LastIntervalLost: 0
** end
```

xStatus MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Netstat LastIntervalReceived

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

問題のチャンネルで、直近の間隔で受信した音声/ビデオパケットの数を示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 NetStat LastIntervalReceived
*s MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 NetStat LastIntervalReceived: 289
** end
```

xStatus MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Netstat LastIntervalReceived

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

問題のチャンネルで、直近の間隔で受信した音声/ビデオパケットの数を示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 NetStat LastIntervalReceived
*s MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 NetStat LastIntervalReceived: 289
** end
```

xStatus MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Netstat Loss

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

当該チャンネルで失われた音声/ビデオのパケット数を表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 NetStat Loss
*s MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 NetStat Loss: 0
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Netstat MaxJitter

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

最後の時間間隔 (約 5 秒) に問題のチャンネルで測定された最大ジッターを示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 NetStat MaxJitter
*s MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 NetStat MaxJitter: 2
** end
```

xStatus MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Netstat Packets

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

問題のチャンネルで受信したパケットの合計数を表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 NetStat Packets
*s MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 NetStat Packets: 1551
** end
```

xStatus MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Video FrameRate

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

当該チャンネルの受信フレームレートを表示します。メモ: ビデオチャンネルにのみ適用できます。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 Video FrameRate
*s MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 Video FrameRate: 30
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus メディアチャンネル DirectShare [n] チャンネル [n] ビデオ プロトコル

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

当該チャンネルで使用されたビデオコーデックを表示します。

返される結果の値スペース:

H261/H263/H263p/H263pp/H264/HEVC/AV1/JPEG/MP4V/Off/Raw/RDP

サポートされているビデオ標準は、通話でサポートされているものと本質的に同じですが、クライアントは通常 H264 のみを使用します。

H261: H.261 アルゴリズムは、ビデオ圧縮の ITU-T 標準です。

H263: H.263 アルゴリズムは、ビデオ圧縮の ITU-T 標準です。

H263p: H.263p (H.263+) アルゴリズムは、ビデオ圧縮の ITU-T 標準です。

H263pp: H.263pp (H.263++) アルゴリズムは、ビデオ圧縮の ITU-T 標準です。

H264: H.264 アルゴリズム (MPEG-4 AVC) は、ビデオ圧縮の ITU-T および ISO/IEC 標準です。

HEVC: HEVC (H.265) アルゴリズム (MPEG-H パート 2) は、ビデオ圧縮の ITU-T および ISO/IEC 標準です。

JPEG: JPEG アルゴリズムは、ビデオ圧縮の ISO/IEC 標準です。

MP4V: MP4V 形式はビデオ圧縮用の ISO/IEC ファイル形式です。

Off: ビデオなし。

例:

```
xStatus MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 Video Protocol
*s MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 Video Protocol: H264
** end
```

xStatus MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Video ResolutionX

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

受信したビデオストリームの幅 (x 方向の解像度) を示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus メディアチャンネル DirectShare 27 Channel 327 ビデオ解像度 X
*s メディア チャンネル DirectShare 27 Channel 327 ビデオ解像度 X: 1920
** end
```

xStatus MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Video ResolutionY

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

受信したビデオストリームの高さ (Y 方向の解像度) を示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 Video ResolutionY
*s MediaChannels DirectShare 27 Channel 327 Video ResolutionY: 1080
** end
```




はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ネットワーク ステータス

xStatus ネットワーク [n] CDP アドレス

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

受信デバイスと送信デバイスの両方の最初のネットワーク アドレスを返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP アドレス
*s ネットワーク 1 CDP アドレス: "192.0.1.20"
** end
```

xStatus Network [n] CDP 機能

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスタイプの形式でスイッチの機能性能を説明します。詳細については、CDP プロトコルのドキュメントを参照してください。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP 機能
*s ネットワーク 1 CDP 機能: "0x0029"
** end
```

xStatus Network [n] CDP DeviceId

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

文字列の形式でスイッチの名前を識別します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP DeviceId
*s ネットワーク 1 CDP DeviceId: "123456.company.com"
** end
```

xStatus Network [n] CDP Duplex

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

CDP ブロードキャスト インターフェイスのステータス (デュプレックス設定) を示します。隣接するネットワーク要素間の接続の問題を診断するために、ネットワーク オペレータによって使用されます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP Duplex
*s ネットワーク 1 CDP 二重:「フル」
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Network [n] CDP Platform

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスに接続されているスイッチのハードウェア プラットフォーム名を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP Platform
*s Network 1 CDP Platform: "cisco WS-C3750X-48P"
** end
```

xStatus Network [n] CDP PortID

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスが接続されているポートのスイッチが使用する ID を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP PortID
*s Network 1 CDP PortID: "GigabitEthernet1/0/23"
** end
```

xStatus Network [n] CDP PrimaryMgmtAddress

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスが接続されているスイッチの構成と監視に使用される管理アドレスを返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP PrimaryMgmtAddress
*s Network 1 CDP PrimaryMgmtAddress: "10.1.1.2"
** end
```

xStatus ネットワーク [n] CDP SysName

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスが接続されているスイッチで構成されている SysName を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP SysName
*s ネットワーク 1 CDP SysName: ""
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus ネットワーク [n] CDP SysObjectID

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスが接続されているスイッチで構成されている SysObjectID を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP SysObjectID
*s ネットワーク 1 CDP SysObjectID: ""
** end
```

xStatus ネットワーク [n] CDP バージョン

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

スイッチが実行しているソフトウェア リリース バージョンに関する情報を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 CDP バージョン
*s Network 1 CDP Version: "Cisco IOS Software, C3560CX Software (C3560CX-
UNIVERSALK9-M), Version 15.2(3)E, RELEASE SOFTWARE (fc4)*Technical Support:
http://www.cisco.com/techsupport*Copyright (c) 1986-2014 by Cisco Systems,
Inc.*Compiled Sun 07-Dec-14 13:15 by prod_rel_team"
** end
```

xStatus ネットワーク [n] CDP VoIPApplianceVlanID

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスからスイッチへの VoIP トラフィックに使用される VLAN を識別します。詳細については、IEEE 802.1Q プロトコルのドキュメントを参照してください。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP VoIPApplianceVlanID
*s ネットワーク 1 CDP VoIPApplianceVlanID: "300"
** end
```

xStatus Network [n] CDP VTPMgmtDomain

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

スイッチの設定済み VTP 管理ドメイン名文字列を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP VTPMgmtDomain
*s Network 1 CDP VTPMgmtDomain: "anyplace"
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Network [n] DNS ドメイン名

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ドメイン名を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 DNS Domain Name
*s ネットワーク 1 DNS ドメイン名: "www.example.com www.example.int"
** end
```

xStatus ネットワーク [n] DNS サーバ [n] アドレス

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

DNS サーバーの IP アドレスを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus ネットワーク 1 DNS サーバ 1. アドレス
*s ネットワーク 1 DNS サーバ 1 アドレス: "192.0.2.60"
** end
```

xStatus ネットワーク [n] イーサネット MacAddress

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

イーサネットインタフェースの MAC (Media Access Control) アドレスを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 Ethernet MacAddress
*s Network 1 Ethernet MacAddress: "00:50:60:02:FD:C7"
** end
```

xStatus Network [n] イーサネット速度

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

イーサネット速度を Mbps で示します。速度はフルデュプレックスまたはハーフデュプレックスにすることができます。

返される結果の値スペース:

10 ハーフ/10 フル/100 ハーフ/100 フル/1000 フル

例:

```
xStatus Network 1 Ethernet Speed
*s Network 1 Ethernet Speed: "100full"
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus ネットワーク [n] IPv4 アドレス

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

このデバイスを一意に識別する IPv4 アドレスを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus ネットワーク 1 IPv4 アドレス
*s ネットワーク 1 IPv4 アドレス: "192.0.2.149"
** end
```

xStatus Network [n] IPv4 ゲートウェイ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

IPv4 ゲートウェイのアドレスを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 IPv4 Gateway
*s Network 1 IPv4 Gateway: "192.0.2.10"
** end
```

xStatus Network [n] IPv4 SubnetMask

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

IPv4 アドレスが属するサブネットを決定するサブネットマスクを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 IPv4 SubnetMask
*s Network 1 IPv4 SubnetMask: "255.255.255.0"
** end
```

xStatus Network [n] IPv6 Address

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

このデバイスを一意に識別する IPv6 アドレスを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus ネットワーク 1 IPv6 アドレス
*s ネットワーク 1 IPv6 アドレス: ""
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Network [n] IPv6 ゲートウェイ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

IPv6 ゲートウェイのアドレスを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus ネットワーク 1 IPv6 ゲートウェイ
*s ネットワーク 1 IPv6 ゲートウェイ: ""
** end
```

xStatus Network [n] IPv6 LinkLocalAddress

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

プライマリユーザインターフェイスに表示される IPv6 リンクローカルアドレスを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 IPv6 LinkLocalAddress
*s Network 1 IPv6 LinkLocalAddress: "2001:DB8:0000:0000:0000:0000:0000:0001"
** end
```

xStatus ネットワーク [n] VLAN 音声 VLAN ID

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

フィードバックは VLAN 音声 ID を示します。

返される結果の値スペース:

Off/1..4094

Off: VLAN 音声モードは有効ではありません。

1..4094: VLAN 音声 ID

例:

```
xStatus ネットワーク 1 VLAN 音声 VlanId
*s Network 1 VLAN Voice VlanId: "Off"
** end
```

xStatus ネットワーク [n] Wi-Fi BSSID

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

Wi-Fi 接続に使用される基本サービス セット識別子 (BSSID) を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus ネットワーク 1 Wifi BSSID
*s ネットワーク 1 Wifi BSSID: "xx:xx:xx:xx:xx:xx"
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus ネットワーク [n] Wi-Fi チャンネル

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

Wi-Fi 接続で使用されるチャンネルを表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Network 1 Wifi Channel
*s Network 1 Wifi Channel: 13
** end
```

xStatus Network [n] Wifi Frequency

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

Wi-Fi チャンネルの周波数を表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Network 1 Wifi frequency
*s Network 1 Wifi Frequency: nnnn
** end
```

xStatus Network [n] Wifi InterfaceEnabled

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

Wi-Fi が有効になっているか (On)、否か (Off) を示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Network Wifi InterfaceEnabled
*s Network 1 Wifi InterfaceEnabled: Off
** end
```

xStatus Network [n] Wifi InterfaceReason

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

Wi-Fi インターフェイスが有効または無効である理由を説明します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network Wifi InterfaceReason
*s Network 1 Wifi InterfaceReason: "wlan=Down, config=true"
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Network [n] Wifi MacAddress

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

Wi-Fi 接続に使用される MacAddress を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 Wifi MacAddress
*s Network 1 Wifi MacAddress: "xx:xx:xx:xx:xx:xx"
** end
```

xStatus Network [n] Wifi Phase2Method

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

該当する場合、Wi-Fi 接続に使用されるフェーズ 2 メソッドが表示されます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 Wifi Phase2Method
*s Network 1 Wifi Phase2Method: ""
** end
```

xStatus Network [n] Wifi RawSSID

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

Wi-Fi 接続の生の SSID を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 Wifi RawSSID
*s Network 1 Wifi RawSSID: "Aurora"
** end
```

xStatus Network [n] Wifi Reason

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

該当する場合、Wi-Fi 接続に定義された理由を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus ネットワーク 1 Wi-Fi 理由
*s ネットワーク 1 Wi-Fi 理由: ""
** end
```




はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus ネットワーク [n] Wi-Fi 地域

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

Wi-Fi 接続の地域を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

地域コードです。デバイスがアクセス ポイントから地域コードを受信しない場合、値は「00」になります。

例:

```
xStatus Network 1 Wi-Fi 地域
*s ネットワーク 1 Wi-Fi 地域:「米国」
** end
```

xStatus ネットワーク [n] Wi-Fi RSSI

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

Wi-Fi 接続で使用される受信信号強度インジケータ (RSSI) を示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Network 1 Wifi RSSI
*s ネットワーク 1 Wifi RSSI:-62
** end
```

xStatus Network [n] Wifi ScanResult [n] Flags

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

スキャン結果で見つからなかったすべてのフラグを返します。

この結果を得るには、スキャン(例: Network Wifi Scan Start)を実行する必要があります。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 Wifi ScanResult 1 Flags
*s Network 1 Wifi ScanResult 1 Flags: "[ESS]"
** end
```

xStatus Network [n] Wifi ScanResult [n] RawSSID

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

スキャン結果で見つかったすべての RawSSID 値を返します。

この結果を得るには、スキャン(例: Network Wifi Scan Start)を実行する必要があります。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 Wifi ScanResult 1 RawSSID
*s Network 1 Wifi ScanResult 1 RawSSID: "Aurora"
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Network [n] Wifi ScanResult [n] SignalLevel

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN,USER

スキャン結果で見つかったすべての SignalLevel 値を返します。

結果を得るには、スキャンを実行する必要があります (例、「Network Wifi Scan Start」)。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Network 1 Wifi ScanResult 1 SignalLevel
*s Network 1 Wifi ScanResult 1 SignalLevel: -61
** end
```

xStatus ネットワーク [n] Wi-Fi スキャン結果 [n] SSID

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN,USER

スキャン結果から見つかったすべての SSID 値を返します。

結果を得るには、スキャンを実行する必要があります (例、「Network Wifi Scan Start」)。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus ネットワーク 1 Wifi ScanResult 1 SSID
*s ネットワーク 1 Wi-Fi ScanResult 1 SSID: "Aurora"
** end
```

xStatus ネットワーク [n] Wi-Fi 速度

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN,USER

Wi-Fi 接続の送信速度 (アップリンク) を表示します。

返される結果の値スペース:

整数

Mbps 単位の数値。

例:

```
xStatus Network 1 Wifi Speed
*s Network 1 Wifi Speed: 39
** end
```

xStatus Network [n] Wifi SSID

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN,USER

Wi-Fi 接続のサーバ セット識別子 (SSID) を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 Wifi SSID
*s ネットワーク 1 Wi-Fi SSID: "Aurora"
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Network [n] Wifi Status

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN,USER

Wi-Fi ネットワーク接続のステータスを表示します。

返される結果の値スペース:

Associating/Connected/Disconnected/AuthFailed/Failed/Other

関連付け中- Wi-Fi ネットワークへの接続を試みています。

Connected: デバイスが、Wi-Fi ネットワークに接続されていません。

切断-デバイスが Wi-Fi ネットワークに接続されていません。

AuthFailed: Wi-Fi ネットワーク接続時に認証に失敗しました。

Failed: 認証の失敗以外の理由で、デバイスが、Wi-Fi ネットワークに接続できませんでした。

Other: その他シナリオ。

例:

```
xStatus Network 1 Wifi Status
*s Network 1 Wifi Status: Connected
** end
```

xStatus ネットワーク [n] Wi-Fi タイプ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN,USER

Wi-Fi ネットワーク接続の暗号化タイプを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus ネットワーク 1 Wi-Fi タイプ
*s Network 1 Wifi Type: "Wpa2-psk"
** end
```

NetworkServices status

xStatus NetworkServices NTP CurrentAddress

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN,USER

現在使用中の NTP サーバーのアドレスを返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus NetworkServices NTP CurrentAddress
*s NetworkServices NTP CurrentAddress: "123.254.15.121"
** end
```

xStatus NetworkServices NTP サーバ [n] アドレス

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN,USER

デバイスが使用している NTP サーバーのアドレスを返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus NetworkServices NTP アドレス
*s NetworkServices NTP アドレス: "12.104.193.12 64.104.222.16 144.254.15.121"
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus NetworkServices NTP Status

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

NTP サーバと同期しているデバイスのステータスを返します。

返される結果の値スペース:

Discarded/Synced/NotSynced/Unknown/Off

破棄済み: NTP 結果は破棄されました。

同期済み: デバイスは NTP サーバと同期しています。

NotSynced: デバイスは NTP サーバと同期されていません。

不明: 同期の状態が不明です。

Off: NTP サーバとの同期がありません。

例:

```
xStatus NetworkServices NTP ステータス
*s NetworkServices NTP 状況: 同期済み
** end
```

xStatus NetworkServices UPnP Status

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

UPnP サービスがネットワーク上でデバイスの存在をアドバタイズしているかどうかをレポートします。アドバタイズメントは、タッチ コントローラーがデバイスを自動的に検出することを許可するため、タッチ コントローラーをペアリングするために、デバイスの IP アドレスを手動で入力する必要はありません。

返される結果の値スペース:

実行中/停止

Running: デバイスのプレゼンスはネットワーク上で公開されています。

Stopped: デバイスのプレゼンスはネットワーク上で公開されません。

例:

```
xStatus NetworkServices UPnP Status
*s NetworkServices UPnP Status: Running
** end
```

周辺機器の状況

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] HardwareInfo

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

接続されているデバイスのハードウェア情報を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1007 HardwareInfo
*s Peripherals ConnectedDevice 1007 HardwareInfo: "1122330-0"
** end
```

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] ID

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

接続されたデバイスの MAC アドレスを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1007 ID
*s Peripherals ConnectedDevice 1007 ID: "00:10:20:20:be:21"
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] Name

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

接続されている端末の製品名を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1007 Name
*s Peripherals ConnectedDevice 1007 Name: "Cisco TelePresence Touch"
** end
```

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] NetworkAddress

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

接続されているデバイスのネットワークアドレスを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1004 NetworkAddress
*s Peripherals ConnectedDevice 1004 NetworkAddress: "192.168.24.190"
** end
```

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] RoomAnalytics AirQuality Index

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

指定されたデバイス ID で Room Navigator により報告される空気質指数を表示します。

値は、ドイツ連邦環境局 (UBA) の定義によるものです。

返される結果の値スペース:

文字列

0-1.9: 清潔な衛生的な空気。

2.0-2.9: 良好な空気の質。換気を推奨します。

3.0-3.9: 快適性に関する顕著な懸念事項。12 か月以上の露出はお勧めできません。換気が必要です。

4.0-4.9: 快適性に関する大きな問題。1 か月以上の露出はお勧めできません。可能な場合は換気してください。換気を高める。

5.0 以上: 認められない条件。

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1007 RoomAnalytics AirQuality Index
*s Peripherals ConnectedDevice 1007 RoomAnalytics AirQuality Index: "1.3"
** end
```

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] RoomAnalytics AmbientTemperature

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

指定されたデバイス ID の Room Navigator 一によって報告された周囲温度を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1007 RoomAnalytics AmbientTemperature
*s Peripherals ConnectedDevice 1007 RoomAnalytics AmbientTemperature: "20.7"
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] RoomAnalytics RelativeHumidity

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

指定されたデバイス ID で Room Navigator ーによって報告される相対湿度を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1007 RoomAnalytics RelativeHumidity
*s Peripherals ConnectedDevice 1007 RoomAnalytics RelativeHumidity: 26
** end
```

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] SerialNumber

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

タッチ コントローラーなど、接続されている周辺機器のシリアル番号を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1001 SerialNumber
*s Peripherals ConnectedDevice 1001 SerialNumber: "ABC123..."
** end
```

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] SoftwareInfo

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

接続されたデバイスで実行されているソフトウェア バージョンの情報を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1007 SoftwareInfo
*s Peripherals ConnectedDevice 1007 SoftwareInfo: "TI7.2.0"
** end
```

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] Status

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

ビデオ会議デバイスに現在接続されている周辺機器を表示します。

返される結果の値スペース:

Connected/ResponseTimedOut

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1001 Status
*s Peripherals ConnectedDevice 1001 Status: Connected
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] Type

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

ビデオ会議端末に接続されている周辺機器のタイプを示します。

注: Precision 60 および Quad カメラは、Camera という値を返します。SpeakerTrack 60 カメラは SpeakerTracker の値を返します。Cisco ヘッドセットが認識された場合のみ、ヘッドセットの値が返されます。

返される結果の値スペース:

AudioAmplifier/AudioMicrophone/Byod/Camera/ControlSystem/Headset/InputDevice/ISDNLink/Other/RoomScheduler/SpeakerTrack/TouchPanel

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1001 Type
*s Peripherals ConnectedDevice 1001 Type: TouchPanel
** end
```

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] UpgradeFailureReason

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

接続されたデバイスがアップグレード中に故障したことを示し、理由を提供します。

返される結果の値スペース:

文字列
アップグレード失敗の理由を説明します。

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1001 UpgradeFailureReason
*s Peripherals ConnectedDevice 1001 UpgradeFailureReason: ""
** end
```

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] UpgradeStatus

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

現在接続されている周辺機器の前のソフトウェアアップグレードの状況を表示します。

返される結果の値スペース:

Downloading/Failed/Installing/InstallationReady/None/Succeeded/Rebooting/Retrying/Aborted/Paused

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1001 UpgradeStatus
*s Peripherals ConnectedDevice 1001 UpgradeStatus: なし
** end
```

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] UpgradeURL

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

接続されたデバイスのアップグレード URL を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列
完全な URL を指定します。

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1001 UpgradeURL
*s Peripherals ConnectedDevice 1001 UpgradeURL: ""
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

プロビジョニングステータス

xStatus プロビジョニング CUCM カスタマイズ チェックサム

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

カスタマイズ テンプレート (バックアップ ファイル) を使用して、複数のデバイスにカスタム要素をプロビジョニングできます。このステータスは、デバイスにアップロードされた最後のカスタマイズ テンプレートのチェックサムを報告します。xCommand Provisioning Service Fetch コマンドも参照してください。

返される結果の値スペース:

文字列

カスタマイズテンプレートのチェックサムです。

例:

```
xStatus Provisioning CUCM Customization Checksum
*s Provisioning CUCM Customization Checksum: "633e163e2694b89ce37103b2448c36a..."
** end
```

xStatus Provisioning CUCM ExtensionMobility Enabled

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

CUCM 登録済みデバイスでエクステンション モビリティが有効になっているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus Provisioning CUCM ExtensionMobility Enabled
*s Provisioning CUCM ExtensionMobility Enabled: False
** end
```

xStatus Provisioning CUCM ExtensionMobility LastLoggedInUserId

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスに最後にログインしたユーザ ID を返します。CUCM エクステンション モビリティが有効で、CUCM がデバイスの最後にログインしたユーザを記憶するように設定されている場合にのみ使用されます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Provisioning CUCM ExtensionMobility LastLoggedInUserId
*s Provisioning CUCM ExtensionMobility LastLoggedInUserId: "User 1"
** end
```

xStatus Provisioning CUCM ExtensionMobility LoggedIn

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

誰かがエクステンション モビリティにログインしているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus Provisioning CUCM ExtensionMobility LoggedIn
*s Provisioning CUCM ExtensionMobility LoggedIn: False
** end
```




はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Provisioning RoomType

適用先: *CodecPlus CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

このデバイスに設定されたルームタイプの設定を指定します。

返される結果の値スペース:

Briefing/Classroom/Standard

Briefing: このデバイスはブリーフィングルームのセットアップを使用しています。

Classroom: このデバイスはクラスルームセットアップを使用しています。

標準: このデバイスはデフォルトの会議室設定を使用しています。

例:

```
xStatus Provisioning RoomType
*s Provisioning RoomType: Briefing
** end
```

xStatus Provisioning Software Current CompletedAt

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

現在のソフトウェアアップグレードが完了した日時を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software Current CompletedAt
*s Provisioning Software Current CompletedAt: "2011-06-07T07:20:03Z"
** end
```

xStatus プロビジョニングソフトウェアの現在の URL

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

現在のソフトウェアのアップロード元の URL を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software Current URL
*s Provisioning Software Current URL: "http://.../s52020ce8_0_0.pkg"
** end
```

xStatus Provisioning Software Current VersionId

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

現在のソフトウェアのバージョン ID を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software Current VersionId
*s Provisioning Software Current VersionId: "s52020ce8_0_0.pkg"
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus LastChange

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

最新のソフトウェアアップグレードの日時を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus LastChange
*s Provisioning Software UpgradeStatus LastChange: "2011-06-07T07:20:03Z"
** end
```

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Message

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ソフトウェアアップグレードに関するシステムメッセージを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Message
*s Provisioning Software UpgradeStatus Message: ""
** end
```

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Phase

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ソフトウェアアップグレードのフェーズを表示します。

返される結果の値スペース:

None/AboutToInstallUpgrade/DownloadDone/DownloadPaused/DownloadPending/Downloading/Installing/InstallingPeripherals/Postponed/UpgradingPeripherals

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Phase
*s Provisioning Software UpgradeStatus Phase: None
** end
```

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus SessionId

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ソフトウェアアップグレードのセッション ID を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus SessionId
*s Provisioning Software UpgradeStatus SessionId: ""
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Status

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ソフトウェアアップグレードの状況を表示します。

返される結果の値スペース:

None/InProgress/Failed/InstallationFailed/Succeeded

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Status
*s Provisioning Software UpgradeStatus Status: None
** end
```

xStatus プロビジョニングソフトウェアのアップグレード状況

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ソフトウェアのアップグレードが必要な緊急度を示します。

返される結果の値スペース:

Low/Medium/Critical

ソフトウェアアップグレードの緊急度を指定します。

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Urgency
*s Provisioning Software UpgradeStatus Urgency: Low
** end
```

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus URL

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

新しいソフトウェアが現在アップロードおよびインストールされている URL を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus URL
*s Provisioning Software UpgradeStatus URL: "http://.../s52020ce8_0_0.pkg"
** end
```

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus VersionId

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

現在アップロードおよびインストールされているソフトウェアのバージョン ID を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus VersionId
*s Provisioning Software UpgradeStatus VersionId: "s52010ce8_0_0.pkg"
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus プロビジョニング状況

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

プロビジョニングの状況を表示します。

返される結果の値スペース:

Failed/AuthenticationFailed/Provisioned/Idle/NeedConfig/ConfigError

失敗: プロビジョニングに失敗しました。

AuthenticationFailed: 認証に失敗しました。

プロビジョニング済み: デバイスはプロビジョニングされています。

Idle: プロビジョニングはアクティブではありません。

NeedConfig: デバイスを設定する必要があります。

ConfigError: 構成中にエラーが発生しました。

例:

```
xStatus Provisioning Status
*s Provisioning Status: Provisioned
** end
```

近接通信の状況

xStatus 近接通信サービスの可用性

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

近接通信サービスがデバイスで利用可能かどうかを示します。

返される結果の値スペース:

Available, Deactivated, Disabled

Available: Proximity モードは xConfiguration Proximity Mode のコマンドで有効になっており、1 つ以上の Proximity Services は xConfiguration Proximity Services コマンドで有効になっています。

Deactivated: Proximity サービスが xCommand Proximity Services Deactivate コマンドで非アクティブ化されています。

Disabled: Proximity モードは xConfiguration Proximity Mode で無効にされたか、またはどのサービスも xConfiguration Proximity Services コマンドでは有効にされていません。

例:

```
xStatus Proximity Services Availability
*s Proximity Services Availability: Disabled
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

RoomAnalytics のステータス

xStatus RoomAnalytics 周囲雑音レベル A

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

会議室の静止環境ノイズ レベルを推定するようにデバイスをセットアップできます (RoomAnalytics AmbientNoise 推定モード設定を参照してください)。結果はこのステータスで報告されます。

値は A 重み付きデシベル値 (dBA) です。この値は相対的な値でしかなく、絶対的な SPL (音圧レベル) の値ではありません。特に、デバイスが感度を把握していないサードパーティ製マイクには向きません。

返される結果の値スペース:

整数

静止した周囲のノイズ レベル (dBA 単位)。

例:

```
xStatus RoomAnalytics AmbientNoise Level A
*s RoomAnalytics AmbientNoise Level A: 30
** end
```

xStatus RoomAnalytics AmbientTemperature

適用先: DeskPro/DeskLE

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスの周囲温度を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus RoomAnalytics AmbientTemperature
*s RoomAnalytics AmbientTemperature: "20.7"
** end
```

xStatus RoomAnalytics Engagement CloseProximity

適用対象: RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE Boards

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

デバイスは、近くに人の存在を検出できます。

このステータスは、カメラが稼働しているかどうかによります。これを使用するには、設定 "RoomAnalytics PeopleCountOutOfCall" を On にすることをお勧めします。

これにより、カメラが定期的に On になり、CloseProximity が更新されます。

有効になっていない場合、ステータスは会話中または自己表示が On の場合にのみ更新されます。

返される結果の値スペース:

False/True

False: カメラが起動していない場合、または True の条件が満たされない場合、ステータスは False になります。

True: 少なくとも 1 人がこれらの条件を満たす場合、ステータスは True になります。

- カメラとの距離が 1 メートル未満
- カメラに向かって顔が向いています
- 比較的静かに立っている

ユーザーがカメラから 1.5 メートル以上離れるか、カメラ ビューから離れると、ステータスが True から False に戻ります。

例:

```
xStatus RoomAnalytics エンゲージメント
*s RoomAnalytics Engagement CloseProximity: False
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus RoomAnalytics PeopleCount 現在

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

顔検出を使用して会議室にいる人数を表示します。信頼できる平均値を得るには、通話の継続時間が少なくとも 2 分必要です。カメラを向けていない人はカウントされません。顔を検出できるオブジェクトや画像が会議室にある場合、これらはカウントされる可能性があります。デバイスは、会議室にいた人の記録を保持しません。検出された顔の平均数のみを記録します。デバイスがスタンバイ状態の場合、またはこの機能がOffになっている場合は、-1 が返されます。

Codec Plus では、このステータスは Cisco Quad Camera がある場合にのみ適用されます。Codec Pro については、このステータスは Cisco Quad Camera または SpeakerTrack 60 カメラがある場合にのみ適用されます。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus RoomAnalytics PeopleCount Current
*s RoomAnalytics PeopleCount Current: 2
** end
```

xStatus RoomAnalytics PeoplePresence

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

会議室に出席者がいるかどうかを表示します。この機能は超音波に基づいています。デバイスは、室内に誰がいたかは記録せず、室内に人が居るかどうかのみを記録します。

誰かが部屋に入るとすぐにステータスが更新されます。空室になったあとは、ステータスが変更されるまで最大 2 分かかる場合があります。

返される結果の値スペース:

はい/いいえ/不明

例:

```
xStatus RoomAnalytics PeoplePresence
*s RoomAnalytics PeoplePresence: いいえ
** end
```

xStatus RoomAnalytics 音声レベル A

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

RoomAnalytics の AmbientNoiseEstimation Mode 設定が On の場合、デバイスは周囲のノイズだけでなく、会議室の音量も測定します。結果は 10 秒ごとにこのステータスで報告されます。

値はデシベル (dBA) で表した A 加重平均サウンド レベルです。この値は相対的な値でしかなく、絶対的な SPL (音圧レベル) の値ではありません。特に、デバイスが感度を把握していないサードパーティ製マイクには向きません。

返される結果の値スペース:

整数

平均サウンド レベル (dBA)。

例:

```
xStatus RoomAnalytics サウンド レベル A
*s RoomAnalytics サウンド レベル A: 33
** end
```

xStatus RoomAnalytics の相対湿度

適用先: DeskPro/DeskLE

必要なユーザー役割: ADMIN、USER

デバイスの相対湿度を表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus RoomAnalytics RelativeHumidity
*s RoomAnalytics RelativeHumidity: 26
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

RoomPreset ステータス

xStatus RoomPreset [n] Defined

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

カメラ プリセットがこの位置に保存されているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus RoomPreset 1 Defined
*s RoomPreset 1 の定義: True
** end
```

xStatus RoomPreset [n] Description

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

特定のプリセットに設定されている名前を一覧表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus RoomPreset 1 Description
*s RoomPreset 1 Description: "ズームイン"
** end
```

xStatus RoomPreset [n] Type

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

カメラ プリセットのタイプを表示します。

返される結果の値スペース:

All/Camera

例:

```
xStatus RoomPreset 1 Type
*s RoomPreset 1 Type: All
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

セキュリティ状況

xStatus Security Persistency CallHistory

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

通話履歴ログが永続的または非永続的モードのどちらに設定されているかを示します。永続が既定のモードです。

返される結果の値スペース:

非永続/永続

例:

```
xStatus Security Persistency CallHistory
*s Security Persistency CallHistory: Persistent
** end
```

xStatus セキュリティ永続性の設定

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

すべてのデバイスの構成が永続的または非永続的モードのどちらに設定されているかを示します。Persistent がデフォルトのモードです。

返される結果の値スペース:

非永続/永続

例:

```
xStatus Security Persistency Configurations
*s Security Persistency Configurations: Persistent
** end
```

xStatus Security Persistency DHCP

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

DHCP ロギングが永続的または非永続的モードのどちらに設定されているかを示します。Persistent がデフォルトのモードです。

返される結果の値スペース:

非永続/永続

例:

```
xStatus Security Persistency DHCP
*s Security Persistency DHCP: Persistent
** end
```

xStatus Security Persistency InternalLogging

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

内部ログが永続的または非永続的モードのどちらに設定されているかを示します。永続が既定のモードです。

返される結果の値スペース:

非永続/永続

例:

```
xStatus Security Persistency InternalLogging
*s Security Persistency InternalLogging: Persistent
** end
```




はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Security Persistency LocalPhonebook

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ローカル電話帳が永続的または非永続的モードのどちらに設定されているかを示します。永続が既定のモードです。

返される結果の値スペース:

非永続/永続

例:

```
xStatus Security Persistency LocalPhonebook
*s Security Persistency LocalPhonebook: Persistent
** end
```

SIP ステータス

xStatus SIP AlternateURI エイリアス [n] URI

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SIP AlternateURI エイリアス
*s SIP AlternateURI エイリアス URI: ""
** end
```

xStatus SIP AlternateURI プライマリ [n] URI

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SIP AlternateURI プライマリ
*s SIP AlternateURI プライマリ URI: ""
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus SIP 認証

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

SIP プロキシサーバへの登録時に使用される認証メカニズムを示します。

返される結果の値スペース:

ダイジェスト/Off

ダイジェスト: RFC 2069 で指定されているダイジェスト アクセス認証方法を使用します。

Off: 認証メカニズムは使用されません。

例:

```
xStatus SIP 認証
*s SIP 認証: Off
** end
```

xStatus SIP CallForward DisplayName

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

転送された通話のユーザーインターフェイスに表示される URI を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SIP CallForward DisplayName
*s SIP CallForward DisplayName: ""
** end
```

xStatus SIP コール転送モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

SIP のコール転送モードがOnまたはOffのどちらに設定されているかを示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus SIP CallForward Mode
*s SIP CallForward Mode: Off
** end
```

xStatus SIP CallForward URI

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

着信の転送モードがOnのときに、着信の転送先アドレスを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SIP CallForward URI
*s SIP CallForward URI: ""
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus SIP Mailbox MessagesWaiting

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

メールボックスにある新しいメッセージの数を示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus SIP Mailbox MessagesWaiting
*s SIP Mailbox MessagesWaiting: 0
** end
```

xStatus SIP メールボックス URI

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

SIP メールボックスの URI を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SIP メールボックス URI
*s SIP メールボックス URI:「12345678」
** end
```

xStatus SIP プロキシ [n] アドレス

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスが通信する SIP プロキシのアドレスを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SIP プロキシ 1 アドレス
*s SIP プロキシ 1 アドレス: "192.0.2.50"
** end
```

xStatus SIP Proxy [n] Status

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスと SIP プロキシ サーバ間の通信のステータスを表示します。

返される結果の値スペース:

Active/AuthenticationFailed/DNSFailed/Off/Timeout/UnableTCP/UnableTLS/Unknown

アクティブ: デバイスと SIP プロキシ間の通信はアクティブです。

DNSFailed: DNS サーバーとの通信の確立に失敗しました。

Off: デバイスと SIP プロキシ間の通信はありません。

タイムアウト: SIP プロキシとの通信の確立の試行がタイムアウトになりました。

UnableTCP: デバイスはトランスポート方法として TCP を使用できません。

UnableTLS: デバイスはトランスポート方法として TLS を使用できません。

不明: 通信の状況は不明です。

認証失敗: ユーザ名またはパスワードが間違っています。

例:

```
xStatus SIP プロキシ 1 のステータス
*s SIP プロキシ 1 の状態: アクティブ
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus SIP Registration [n] Authentication

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

SIP プロキシサーバへの登録時に使用される認証メカニズムを示します。

返される結果の値スペース:

ダイジェスト/Off

ダイジェスト: RFC 2069 で指定されているダイジェスト アクセス認証方法を使用します。

Off: 認証メカニズムは使用されません。

例:

```
xStatus SIP Registration 1 Authentication
*s SIP Registration 1 Authentication: Off
** end
```

xStatus SIP 登録 [n] の理由

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

SIP 登録が失敗した理由を説明するメッセージを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SIP 登録 1 の理由
*s SIP Registration 1 Reason: "404 Not Found"
** end
```

xStatus SIP 登録 [n] 状況

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

SIP プロキシサーバへの登録状況を表示します。

返される結果の値スペース:

登録解除/失敗/無効/登録済み/登録中

登録解除: デバイスは SIP プロキシから登録解除の処理中です。

失敗: デバイスは SIP プロキシへの登録に失敗しました。

非アクティブ: デバイスはどの SIP プロキシにも登録されていません。

登録済み: デバイスは SIP プロキシに登録されています。

登録中: デバイスは SIP プロキシへの登録の処理中です。

例:

```
xStatus SIP Registration 1 Status
*s SIP Registration 1 Status: Registered
** end
```

xStatus SIP 登録 [n] URI

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

SIP プロキシサーバへの登録に使用される URI を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SIP Registration 1 URI
*s SIP Registration 1 URI: "firstname.lastname@company.com"
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus SIP セキュア

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

SIP プロキシサーバーのシグナリングの暗号化ステータスを表示します。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus SIP Secure
*s SIP Secure: True
** end
```

xStatus SIP 確認済み

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスが登録しようとするサーバーの SSL 証明書が、デバイスの信頼できる CA リストに含まれているかどうかを示します。サーバーは通常、Cisco VCS または CUCM です。

返される結果の値スペース:

True/False

True: サーバーの SIP 証明書がデバイスの信頼できる CA リストに対してチェックされ、有効であることがわかります。さらに、サーバーの完全修飾ドメイン名が有効な証明書と一致します。

False: SIP 証明書の検証に失敗したか、ドメイン名が一致しなかったため、TLS 接続はセットアップされませんでした。TLS が使用されていない場合 (xConfiguration SIP DefaultTransport が TLS に設定されていない場合)、または証明書検証が Off になっている場合 (SIP TlsVerify: Off) でも、ステータスは False を返します。この設定は製品のウェブインターフェースからアクセスできます。

例:

```
xStatus SIP 確認済み
*s SIP Verified: False
** end
```

スタンバイ ステータス

xStatus スタンバイ状態

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

デバイスがスタンバイ モードかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

Standby/EnteringStandby/Halfwake/Off

スタンバイ: デバイスはスタンバイ状態です。

EnteringStandby: デバイスはスタンバイ状態に入っています。

Halfwake: デバイスはスタンバイですが、モーションまたはアプリとペアリングされている Proximity が人を検知するとユーザー、にあいさつをします。

Off: デバイスはスタンバイ状態ではありません。

例:

```
xStatus スタンバイ状態
*s Standby State: Off
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

SystemUnit ステータス

xStatus SystemUnit Hardware HasWiFi

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスにワイヤレス インターネット (Wi-Fi) 機能があるかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

False/True

例:

```
xStatus SystemUnit Hardware HasWiFi
*s SystemUnit Hardware HasWiFi: True
** end
```

xStatus SystemUnit Hardware Module CompatibilityLevel

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスには異なる互換性レベルがあります。お使いの製品に必要な互換性レベルと最小ソフトウェアバージョンについては、リリースノートを確認してください。

返される結果の値スペース:

文字列

デバイスの互換性レベルを表示します。

例:

```
xStatus SystemUnit ハードウェアモジュール互換性レベル
*s SystemUnit Hardware Module CompatibilityLevel: 1
** end
```

xStatus SystemUnit Hardware Module SerialNumber

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスのハードウェア モジュールのシリアル番号を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Hardware MainBoard SerialNumber
*s SystemUnit Hardware MainBoard SerialNumber: "FOC99999999"
** end
```

xStatus SystemUnit Hardware Monitoring Fan [n] Status

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

フィードバックは指定されたファンの速度 (rpm) を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Hardware Monitoring Fan 1 Status
*s SystemUnit Hardware Monitoring Fan 1 Status: "locked on 1096 rpm"
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus SystemUnit Hardware Monitoring Temperature Status

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

現在の温度警告レベルを表示します。動作時の温度は通常より高いため、「High」は温度傾向に注意を喚起することを意味します。「Critical」レベルでは、デバイスはプロセスとプロセッサをシャットダウンして、デバイスの損傷を防ぎます。動作時の温度が高くないように、デバイスが換気された環境で動作していることを確認してください。

返される結果の値スペース:

Unknown, Normal, High, Critical

例:

```
xStatus SystemUnit Hardware Monitoring Temperature Status
*s SystemUnit ハードウェア温度監視状況: 正常
** end
```

xStatus SystemUnit ハードウェア USB-C [n] 接続済み

適用先: *DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

指定した USB-C ポートの接続状況を表示します。

返される結果の値スペース:

False/True

例:

```
xStatus SystemUnit Hardware USB-C 1 Connected
*s SystemUnit Hardware USB-C 1 Connected: False
** end
```

xStatus SystemUnit 通知 通知 [n] テキスト

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

重要なシステム通知に関連するテキストを一覧表示します。ソフトウェアのアップグレードによりデバイスが再起動された場合や、工場出荷時の状態へのリセットが実行された場合などに、通知が送信されます。

xCommand SystemUnit Notifications RemoveAll コマンドを発行することで、すべての通知をリストから削除できます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Notifications Notification 1 Text
*s SystemUnit Notifications Notification 1 Text: "OK"
** end
```

xStatus SystemUnit Notifications Notification [n] Type

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

システム通知タイプを一覧表示します。ソフトウェアのアップグレードによりデバイスが再起動された場合や、工場出荷時の状態へのリセットが実行された場合などに、通知が送信されます。

xCommand SystemUnit Notifications RemoveAll コマンドを発行することで、すべての通知をリストから削除できます。

返される結果の値スペース:

SoftwareUpgradeOK/SoftwareUpgradeFailed/RebootRequired/Other

SoftwareUpgradeOK: この値はソフトウェアのアップグレードが成功した後に返されます。

SoftwareUpgradeFailed: この値はソフトウェアアップグレードの試みが失敗した後に返されます。

RebootRequired: 再起動が必要な場合にこの値が返されます。

その他: この値はその他の通知に対して返されます。

例:

```
xStatus SystemUnit Notifications Notification 1 Type
*s SystemUnit Notifications Notification 1 Type: SoftwareUpgradeOK
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus システムユニット製品 ID

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

製品の特性を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

```
"Cisco Webex Board 55": Cisco Webex Board 55
「Cisco Webex Board 55S」: Cisco Webex Board 55S (第 2 世代/S シリーズ)
"Cisco Webex Board 70": Cisco Webex Board 70
「Cisco Webex Board 70S」: Cisco Webex Board 70S (第 2 世代/S シリーズ)
"Cisco Webex Board 85S": Cisco Webex Board 85S
"Cisco Webex Codec Plus": Cisco Webex Codec Plus
"Cisco Webex Codec Pro": Cisco Webex Codec Pro
"Cisco Webex Desk Limited Edition": Cisco Webex Desk Limited Edition
"Cisco Webex Desk Pro": Cisco Webex Desk Pro
"Cisco Webex Room Kit": Cisco Webex Room Kit
"Cisco Webex Room Kit Mini": Cisco Webex Room Kit Mini
"Cisco Webex Room 55": Cisco Webex Room 55
"Cisco Webex Room 55 Dual": Cisco Webex Room 55 Dual(Codec Plus に基づく)
"Cisco Webex Room 70 Dual": Cisco Webex Room 70 Dual(Codec Plus に基づく)
"Cisco Webex Room 70 Dual G2": Cisco Webex Room 70 Dual G2(Codec Pro に基づく)
"Cisco Webex Room 70 Single": Cisco Webex Room 70 Single (Codec Plus ベース)
"Cisco Webex Room 70 Single G2": Cisco Webex Room 70 Single G2 (Codec Pro ベース)
"Cisco Webex Room 70 Panorama": Cisco Webex Room 70 Panorama
"Cisco Webex Room Panorama": Cisco Webex Room Panorama
"Cisco Webex Room USB": Cisco Webex Room USB
```

例:

```
xStatus SystemUnit ProductId
*s SystemUnit ProductId: "Cisco Webex Room Panorama"
** end
```

xStatus SystemUnit ProductPlatform

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

製品プラットフォームを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

```
"Board 55": Cisco Webex Board 55
"Board 55S": Cisco Webex Board 55S(第 2 世代/S シリーズ)
"Board 70": Cisco Webex Board 70
"Board 70S": Cisco Webex Board 70S(第 2 世代/S シリーズ)
"Board 85S": Cisco Webex Board 85S
"Codec Plus": Cisco Webex Codec Plus
"Codec Pro": Cisco Webex Codec Pro
"Desk Limited Edition": Cisco Webex Desk Limited Edition
"Desk Pro": Cisco Webex Desk Pro
"Room Kit": Cisco Webex Room Kit
「Room Kit Mini」: Cisco Webex Room Kit Mini
"Room 55": Cisco Webex Room 55
"Room 55D": Cisco Webex Room 55 Dual(Codec Plus に基づく)
「Room 70D」: Cisco Webex Room 70 Dual (Codec Plus ベース)
「Room 70D G2」: Cisco Webex Room 70 Dual G2 (Codec Pro ベース)
「Room 70S」: Cisco Webex Room 70 Single (Codec Plus ベース)
「Room 70S G2」: Cisco Webex Room 70 Single G2 (Codec Pro ベース)
"Room 70 Panorama": Cisco Webex Room 70 Panorama
"Room Panorama": Cisco Webex Room Panorama
"Room USB": Cisco Webex Room USB
```

例:

```
xStatus SystemUnit ProductPlatform
*s SystemUnit ProductPlatform: "Room 70 Panorama"
** end
```




はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus SystemUnit ProductType

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

製品の種類を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit ProductType
*s SystemUnit ProductType: "Cisco Codec"
** end
```

xStatus システムユニットソフトウェアの表示名

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

UI に表示されるとおり、デバイスにインストールされているソフトウェアの名前を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Software DisplayName
*s SystemUnit Software DisplayName: "Display Name"
** end
```

xStatus SystemUnit Software Name

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスにインストールされているソフトウェアの名前を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Software Name
*s SystemUnit Software Name: "s53200"
** end
```

xStatus SystemUnit Software OptionKeys Encryption

適用対象: RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 ボード

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスにオプション キーまたは暗号化機能をサポートするソフトウェアがインストールされているかどうかが表示されます。

返される結果の値スペース:

False/True

例:

```
xStatus SystemUnit Software OptionKeys Encryption
*s SystemUnit Software OptionKeys Encryption: "true"
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus SystemUnit Software OptionKeys MultiSite

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

MultiSite 機能をサポートするオプション キーがデバイスにインストールされているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

False/True/NotApplicable

例:

```
xStatus SystemUnit ソフトウェア OptionKeys MultiSite
*s SystemUnit Software OptionKeys MultiSite: "true"
** end
```

xStatus SystemUnit Software OptionKeys RemoteMonitoring

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスにリモート モニタリング オプション キーがインストールされているかどうかを示します。リモートモニタリングオプションキーにより、ウェブインターフェースおよびリモートでペアリングされたタッチコントローラーからのスナップショットが有効になります。

返される結果の値スペース:

False/True

例:

```
xStatus SystemUnit Software OptionKeys RemoteMonitoring
*s SystemUnit Software OptionKeys RemoteMonitoring: "true"
** end
```

xStatus SystemUnit Software ReleaseDate

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスにインストールされているソフトウェアのリリース日を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Software ReleaseDate
*s SystemUnit Software ReleaseDate: "2015-05-05"
** end
```

xStatus SystemUnit Software Version

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスにインストールされているソフトウェアのバージョンを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Software Version
*s SystemUnit ソフトウェアバージョン: "CE8.0.0"
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus SystemUnit State CameraLid

適用先: *DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

カメラカバーの位置を表示します(例: 閉じられているか、外されているか)。

返される結果の値スペース:

Closed/Open
Closed: カメラのカバーは閉じています。

Open: カメラのカバーが開いています。

例:

```
xStatus SystemUnit State CameraLid
*s SystemUnit State CameraLid: Closed
** end
```

xStatus SystemUnit State NumberOfActiveCalls

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

アクティブな通話数を表示します。

返される結果の値スペース:

0..5

例:

```
xStatus SystemUnit State NumberOfActiveCalls
*s SystemUnit State NumberOfActiveCalls: 0
** end
```

xStatus SystemUnit State NumberOfInProgressCalls

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

進行中の通話の数を示します。

返される結果の値スペース:

0..5

例:

```
xStatus SystemUnit State NumberOfInProgressCalls
*s SystemUnit State NumberOfInProgressCalls: 0
** end
```

xStatus SystemUnit State NumberOfSuspendedCalls

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザー役割: ADMIN, USER

中断された通話の数を示します。

返される結果の値スペース:

0..5

例:

```
xStatus SystemUnit State NumberOfSuspendedCalls
*s SystemUnit State NumberOfSuspendedCalls: 0
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus システムユニットの稼働時間

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスが最後に再起動されてからの秒数を示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus SystemUnit Uptime
*s SystemUnit Uptime: 597095
** end
```

Time status

xStatus Time SystemTime

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

デバイスに設定されている日時を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Time SystemTime
*s システム時刻: "2014-04-25T10:04:03Z"
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ユーザインターフェースの状況

xStatus UserInterface ContactInfo ContactMethod [n] Number

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスのアクティブな連絡先情報を返します。このアドレスはこのデバイスに到達するために使用されます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus UserInterface ContactInfo ContactMethod Number
*s UserInterface ContactInfo ContactMethod 1 Number: "12345678"
** end
```

xStatus UserInterface ContactInfo Name

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスのアクティブな連絡先名を返します。結果は、デバイスが登録されているプロトコルによって異なります。自動的に設定された連絡先名は、コマンド xConfiguration UserInterface ContactInfo Type で上書きされた可能性があります。これにより、連絡先の不一致に関する診断警告が表示されます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus UserInterface ContactInfo Name
*s UserInterface ContactInfo Name: "MySystem"
** end
```

xStatus UserInterface Extensions Widget [n] Value

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

ウィジェットの値を返します。ウィジェットは、ユーザーインターフェイスに追加されるルーム内のコントロールなどのカスタムパネルで使用されます。値の範囲はウィジェット タイプによって異なります。UserInterface Extensions Widget SetValue コマンドで値が設定されるまで、値は空の文字列です。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
UserInterface Extensions Value
*s UserInterface Extensions Widget 1 Value: "on"
*s UserInterface Extensions Widget 2 Value: "255"
*s UserInterface Extensions Widget 3 Value: "Blinds"
*s UserInterface Extensions Widget 4 Value: "inactive"
*s UserInterface Extensions Widget 5 Value: "2"
*s UserInterface Extensions Widget 6 Value: "Projector is ready"
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus UserInterface Extensions Widget [n] WidgetId

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、会議室コントロール、ユーザー

ウィジェットの一意の識別子を返します。ウィジェットは、ユーザーインターフェイスに追加されるルーム内のコントロールなどのカスタムパネルで使用されます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
UserInterface Extensions WidgetId
*s UserInterface Extensions Widget 1 WidgetId: "togglebutton"
*s UserInterface Extensions Widget 2 WidgetId: "slider"
*s ユーザ インターフェイス拡張機能 Widget 3 WidgetId: "spinner"
*s ユーザ インターフェイス拡張機能 Widget 4 WidgetId: "button"
*s ユーザ インターフェイス拡張機能 Widget 5 WidgetId: "groupbutton"
*s ユーザ インターフェイス拡張機能 Widget 6 WidgetId: "textfield"
** end
```

xStatus UserInterface Features Call End

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

このステータスは、デフォルトの [終話(End call)] ボタンが、ユーザーインターフェイスから削除されているかどうかを報告します。

返される結果の値スペース:

表示/非表示

表示: 既定のボタンはユーザ インターフェイスにあります。

Hidden: デフォルトのボタンがユーザーインターフェイスから削除されます。

例:

```
xStatus UserInterface Features Call End
*s UserInterface Features Call End: Visible
** end
```

xStatus UserInterface Features Call JoinWebex

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

このステータスは、デフォルトの [Webex に参加(Join Webex)] ボタンが、ユーザーインターフェイスから削除されているかどうかを報告します。

返される結果の値スペース:

表示/非表示

Visible: デフォルトのボタンが、ユーザーインターフェイスで表示されます。

Hidden: デフォルトのボタンがユーザーインターフェイスから削除されます

xStatus ユーザインターフェイス機能 呼び出し キーパッド

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

このステータスは、デフォルトの [キーパッド(Keypad)] ボタンが、ユーザーインターフェイスから削除されているかどうかを報告します

返される結果の値スペース:

表示/非表示

Visible: デフォルトのボタンが、ユーザーインターフェイスで表示されます。

Hidden: デフォルトのボタンがユーザーインターフェイスから削除されます。

例:

```
xStatus UserInterface Features Call Keypad
*s UserInterface Features Call Keypad: Visible
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus UserInterface Features MidCallControls

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

このステータスは、デフォルトの [保留]、[転送]、[再開] の通話ボタンがユーザ インターフェイスから削除されているかどうかをレポートします。

返される結果の値スペース:

表示/非表示

表示: 既定のボタンはユーザ インターフェイスにあります。

Hidden: デフォルトのボタンがユーザーインターフェイスから削除されます。

例:

```
xStatus UserInterface Features MidCallControls
*s UserInterface Features MidCallControls: Visible
** end
```

xStatus UserInterface Features Call Start

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

このステータスは、[通話(Call)] ボタンと [参加者を追加(Add participant)] ボタンが、ユーザーインターフェイスから削除されているかどうかを報告します。

返される結果の値スペース:

表示/非表示

Visible: デフォルトのボタンが、ユーザーインターフェイスで表示されます。

Hidden: デフォルトのボタンがユーザーインターフェイスから削除されます。

例:

```
xStatus UserInterface Features Call Start
*s UserInterface Features Call Start: Visible
** end
```

xStatus ユーザインタフェース機能 共有 開始

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

このステータスは、通話中と通話外の両方で、コンテンツを共有およびプレビューするための既定のボタンおよびその他の UI 要素がユーザーインターフェイスから削除されているかどうかをレポートします。

返される結果の値スペース:

表示/非表示

表示: 既定のボタンはユーザー インターフェイスにあります。

Hidden: デフォルトのボタンがユーザーインターフェイスから削除されます。

例:

```
xStatus UserInterface Features Share Start
*s UserInterface Features Share Start: Visible
** end
```

xStatus ユーザインタフェース機能 ホワイトボード 開始

適用対象: RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro DeskPro/DeskLE Boards

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

このステータスは、既定の [ホワイトボード (Whiteboard)] ボタンがユーザーインターフェイスから削除されているかどうかをレポートします。

返される結果の値スペース:

表示/非表示

表示: 既定のボタンはユーザー インターフェイスにあります。

非表示: デフォルトのボタンがユーザー インターフェイスから削除されます。

例:

```
xStatus UserInterface Features Whiteboard Start
*s UserInterface Features Whiteboard Start: Visible
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus ユーザインタフェース OSD 出力

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

Onスクリーン情報とインジケータ (OSD) が表示されるモニタを示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus ユーザインタフェース OSD 出力
*s ユーザインタフェース OSD 出力: 1
** end
```

xStatus UserInterface SettingsMenu Visibility

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ

このステータスは、ユーザーインターフェイスの左上にあるデバイス名(または連絡先情報)および関連するドロップダウンメニュー、[設定(Settings)] パネルがユーザーインターフェイスに表示されているかどうかを報告します。

返される結果の値スペース:

表示/非表示

表示: デバイス名とドロップダウン メニューと [設定] パネルは、ユーザー インターフェイスの左上隅に表示されます。

Hidden: ドロップダウンメニューと [設定(Settings)] パネルでデバイス名が表示されません。

例:

```
xStatus UserInterface SettingsMenu Visibility
*s UserInterface SettingsMenu Visibility: Visible
** end
```

ビデオのステータス

xStatus ビデオ アクティブスピーカー PIP 位置

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

画面上のアクティブな発言者の画像の位置を示します。

返される結果の値スペース:

CenterLeft/CenterRight/DockCenterLeft/DockLowerLeft/LowerLeft/LowerRight/UpperCenter/UpperLeft/UpperRight

例:

```
xStatus Video ActiveSpeaker PIPPosition
*s Video PIP ActiveSpeaker Position: UpperCenter
** end
```

xStatus Video Input Connector [n] Connected

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

指定コネクタの接続状況を示します。すべての接続を検出できるわけではありません。

返される結果の値スペース:

False/True/Unknown

例:

```
xStatus Video Input Connector 1 Connected
*s Video Input Connector 1 Connected: True
** end
```




はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Video Input Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] DeviceType

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

接続されている入力デバイスのタイプを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Video Input Connector 2 ConnectedDevice CEC 5 DeviceType
*s Video Input Connector 2 ConnectedDevice CEC 5 DeviceType: "Playback"
** end
```

xStatus Video Input Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] LogicalAddress

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

接続されている入力デバイスの CEC 論理アドレスを表示します。アドレスは 0 に固定されています。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Video Input Connector 1 ConnectedDevice CEC 1 LogicalAddress
*s Video Input Connector 1 ConnectedDevice CEC 1 LogicalAddress: 0
** end
```

xStatus Video Input Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] Name

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

接続されている入力デバイスの名前を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Video Input Connector 2 ConnectedDevice CEC 5 Name
*s Video Input Connector 2 ConnectedDevice CEC 5 Name: "Device-2"
** end
```

xStatus Video Input Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] PowerStatus

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

HDMI 入力に接続された CEC 対応デバイスの状態を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Video Input Connector 2 ConnectedDevice CEC 5 PowerStatus
*s Video Input Connector 2 ConnectedDevice CEC 5 PowerStatus: "Standby"
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Video Input Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] VendorId

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

接続された入力デバイスのベンダー ID を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Video Input Connector 2 ConnectedDevice CEC 5 VendorId
*s Video Input Connector 2 ConnectedDevice CEC 5 VendorId: "20576"
** end
```

xStatus ビデオ入力コネクタ [n]SignalState

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

指定された入力の信号状態を表示します。

返される結果の値スペース:

NotFound/OK/Unknown/Unstable/Unsupported

NotFound: 信号は検出されません。

不明: 不明な信号形式です。

OK: 信号が検出され、信号形式がサポートされています。

不安定: 不安定な信号が検出されました。

未対応: 信号が検出されましたが、この信号形式はサポートされていません。

例:

```
xStatus ビデオ入力コネクタ 1 の信号状態
*s ビデオ入力コネクタ 1 の信号状態: OK
*s ビデオ入力コネクタ 2 の信号状態: OK
*s Video Input Connector 3 SignalState: NotFound
** end
```

xStatus Video Input Connector [n] SourceId

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

コネクタが関連付けられている入力ソースの識別子を表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Video Input Connector 1 SourceId
*s Video Input Connector 1 SourceId: 1
** end
```

xStatus ビデオ入力コネクタ [n] タイプ

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

コネクタ タイプを示します。

返される結果の値スペース:

Camera/Composite/DVI/3G-SDI/HD-SDI/HDMI/USB/Unknown/VGA/YC/YPbPr/USBC-DP

例:

```
xStatus ビデオ入力コネクタ 1 タイプ
*s Video Input Connector 1 Type: HDMI
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus ビデオ入力 DirectShare [n] ピアアドレス

適用対象: *RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskPro/DeskLE Boards*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

接続された直接共有ピアの IP アドレスを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Video Input DirectShare 27 Peer Address
*s Video Input DirectShare 27 Peer Address: xxx.xxx.xx.xx
** end
```

xStatus ビデオ入力 DirectShare [n] Peer PeripheralID

適用対象: *RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskPro/DeskLE Boards*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

問題の直接共有ピアの一意の識別子を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Video Input DirectShare 27 Peer PeripheralID
*s Video Input DirectShare 27 Peer PeripheralID: byod-5
** end
```

xStatus ビデオ入力 DirectShare [n] タイプ

適用対象: *RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskPro/DeskLE Boards*

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

直接共有ピアのタイプを表示します (現在は「Proximity」のみに制限されています)。

返される結果の値スペース:

プロキシミティ

近接通信: 近接通信接続による共有。

例:

```
xStatus ビデオ入力 DirectShare 27 タイプ
*s ビデオ入力 DirectShare 27 タイプ: 近接通信
** end
```

xStatus Video Input MainVideoMute

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

Video Input MainVideo Mute コマンドを使用して、メインビデオの送信が停止されたかどうかを示します (または利用可能な場合、ユーザーインタフェース上の [ビデオをOffにする (Turn video off)] ボタン)。

返される結果の値スペース:

On/Off

On: ビデオが停止されています。

Off: ビデオは停止していません。

例:

```
xStatus Video Input MainVideoMute
*s Video Input MainVideoMute: Off
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Video Input MainVideoSource

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN,USER

メインソースとして現在使用されているローカルビデオ入力を返します。メインソースが複数のローカル入力で構成されている場合、値 `Composed` が返されます。既定のメイン ビデオ ソースは、`xConfiguration Video DefaultMainSource` コマンドで設定します。`xCommand Video Input SetMainVideoSource` を使用して変更することができます。

返される結果の値スペース:

`1/2/3/4/5/6/Composed`

例:

```
xStatus ビデオ入力 MainVideoSource
*s ビデオ入力 MainVideoSource: 1
** end
```

xStatus ビデオ入力ソース [n] ConnectorId

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

入力ソースに関連付けられているコネクタの識別子を表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Video Input Source 1 ConnectorId
*s Video Input Source 1 ConnectorId: 1
** end
```

xStatus Video Input Source [n] FormatStatus

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

ビデオ入力ソースの解像度形式の状態を示します。

返される結果の値スペース:

`Ok/OutOfRange/NotFound/インターレース/エラー/不明`

例:

```
xStatus Video Input Source 1 FormatStatus
*s Video Input Source 1 Resolution FormatStatus: Ok
** end
```

xStatus Video Input Source [n] FormatType

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

ビデオ入力ソースの解像度形式タイプを表示します。

返される結果の値スペース:

`Unknown/AnalogCVTBlanking/AnalogCVTReducedBlanking/AnalogGTFDefault/AnalogGTFSecondary/AnalogDiscreteTiming/AnalogDMTBlanking/AnalogCEABlanking/Digital`

例:

```
xStatus Video Input Source 1 FormatType
*s Video Input Source 1 Resolution FormatType: Digital
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Video Input Source [n] MediaChannelId

適用対象: すべての製品

必要なユーザー役割: ADMIN, USER

社内専用。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Video Input Source MediaChannelId
*s Video Input Source 1 MediaChannelId: 2
*s Video Input Source 2 MediaChannelId: 3
** end
```

xStatus Video Input Source [n] Resolution Height

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

ビデオ入力ソースの解像度の高さをピクセル単位で示します。

返される結果の値スペース:

0..3000

例:

```
xStatus Video Input Source 1 Resolution Height
*s Video Input Source 1 Resolution Height: 1080
** end
```

xStatus Video Input Source [n] Resolution RefreshRate

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

ビデオ入力ソースのリフレッシュレートの解像度 (Hz) を表示します。

返される結果の値スペース:

0..300

例:

```
xStatus Video Input Source 1 Resolution RefreshRate
*s Video Input Source 1 Resolution RefreshRate: 50
** end
```

xStatus ビデオ入力ソース [n] 解像度 幅

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

ビデオ入力ソースの解像度の幅をピクセル単位で示します。

返される結果の値スペース:

0..4000

例:

```
xStatus Video Input Source 1 Resolution Width
*s Video Input Source 1 Resolution Width: 1920
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Video Layout LayoutFamily Local

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ローカル画面レイアウトファミリーを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Video Layout LayoutFamily Local
*s Video Layout LayoutFamily Local: "equal"
** end
```

xStatus Video Layout LayoutFamily Remote

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

リモート画面レイアウトファミリーを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Video Layout LayoutFamily Remote
*s Video Layout LayoutFamily Remote: "equal"
** end
```

xStatus ビデオモニタ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

モニタのレイアウトモードを返します。

返される結果の値スペース:

Single/Dual/DualPresentationOnly/Triple/TriplePresentationOnly

シングル: すべてのモニタで同じレイアウトが表示されます。

Dual: レイアウトが 2 台のモニタに分布されます。

DualPresentationOnly: 通話のすべての参加者が最初のモニタに表示され、プレゼンテーション (ある場合) が 2 番目のモニタに表示されます。

Triple: レイアウトが 3 台のモニタに分布されます。

TriplePresentationOnly: 通話のすべての参加者が第 1 と第 2 のモニタに表示され、プレゼンテーション (ある場合) が第 3 のモニタに表示されます。

例:

```
xStatus Video Monitors
*s Video Monitors: Single
** end
```

xStatus Video Output Connector [n] Connected

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

デバイス (ディスプレイなど) が出力コネクタに接続されているかどうかを示します。ディスプレイがスタンバイモードになると、ビデオ会議デバイスがディスプレイを検出できない場合があります。ディスプレイが物理的に接続されている場合でも、コネクタ ステータスは False/Unknown を返します。

返される結果の値スペース:

True/False

True: デバイスはビデオ出力コネクタに接続されています。

False: ビデオ出力コネクタに何も接続されていません。

例:

```
xStatus ビデオ出力コネクタ 1 接続済み
*s Video Output Connector 1 Connected: True
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] DeviceType

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

ビデオ会議デバイスが検出した、HDMI 出力に接続された CEC 対応デバイスのタイプを示します。
この情報は、HDMI 出力に接続されたデバイスの CEC 機能が On に設定され、ビデオ会議デバイスの xConfiguration Video Output Connector [n] CEC モードが On に設定されている場合にのみ利用できます。

返される結果の値スペース:

不明/TV/予約済み/レコーダー/チューナ/再生/音声

例:

```
xStatus ビデオ出力コネクタ 1 ConnectedDevice CEC DeviceType
*s Video Output Connector 1 ConnectedDevice CEC DeviceType: TV
** end
```

xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] LogicalAddress

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

デバイスの CEC 論理アドレスを表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 ConnectedDevice CEC 1 LogicalAddress
*s Video Output Connector 1 ConnectedDevice CEC 1 LogicalAddress: 4
** end
```

xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] Name

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

接続されたデバイスの名前を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 ConnectedDevice CEC Name
*s Video Output Connector 1 ConnectedDevice CEC 1 Name: "LG SIGNAGE TV"
** end
```

xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] PowerStatus

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

HDMI 出力に接続された CEC 対応デバイスの状態を示します。

この情報は、HDMI 出力に接続されたデバイスの CEC 機能が On に設定され、ビデオ会議デバイスの xConfiguration Video Output Connector CEC Mode が On に設定されている場合にのみ利用できます。

返される結果の値スペース:

Unknown/Ok/In progress/Failed to power on/Failed to standby

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 ConnectedDevice CEC PowerStatus
*s Video Output Connector 1 ConnectedDevice CEC PowerStatus: Ok
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] VendorId

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

接続されたデバイスのベンダー ID を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 ConnectedDevice CEC VendorId
*s Video Output Connector 1 ConnectedDevice CEC 1 VendorId: "57489"
** end
```

xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice Name

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

モニタの EDID での定義に従って、HDMI ポートに接続されたモニタの名前を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 ConnectedDevice Name
*s Video Output Connector 1 ConnectedDevice Name: "G2420HDBL"
** end
```

xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice PreferredFormat

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

モニタの EDID での定義に従って、HDMI ポートに接続されたモニタの優先入力形式を表示します。これは、ビデオ会議デバイスが送信する形式である必要はありません。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 ConnectedDevice PreferredFormat
*s Video Output Connector 1 ConnectedDevice PreferredFormat: "1920x1080@60Hz"
** end
```

xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice ScreenSize

適用対象: すべての製品

必要なユーザー役割: ADMIN, USER

接続されているデバイスの画面サイズをインチで示します。この情報が利用できない場合、既定値として 0 が設定されます。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 ConnectedDevice ScreenSize
*s Video Output Connector 1 ConnectedDevice ScreenSize: 55
** end
```




はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Video Output Connector [n] Connected

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

デバイス (ディスプレイなど) が出力コネクタに接続されているかどうかを示します。ディスプレイがスタンバイモードになると、ビデオ会議デバイスがディスプレイを検出できない場合があります。ディスプレイが物理的に接続されている場合でも、コネクタ ステータスは False/Unknown を返します。

返される結果の値スペース:

True/False

True: デバイスはビデオ出力コネクタに接続されています。

False: ビデオ出力コネクタに何も接続されていません。

例:

```
xStatus ビデオ出力コネクタ 1 接続済み
*s Video Output Connector 1 Connected: True
** end
```

xStatus ビデオ出力コネクタ [n] モニタロール

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ビデオ出力コネクタに接続されたデバイスにどのビデオストリームが表示されるかを示します。

返される結果の値スペース:

First/Second/Third/PresentationOnly/Recorder

1 番目/2 番目/3 番目: 複数モニタ設定でのモニタの役割。単一画面のセットアップでは、First、Second、Third の違いはありません。

PresentationOnly: アクティブな場合、プレゼンテーションビデオストリームを表示します。

レコーダー: ローカルのメインビデオを含むすべての参加者を表示します。アクティブな場合、プレゼンテーションも表示します。

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 MonitorRole
*s Video Output Connector 1 MonitorRole: First
** end
```

xStatus ビデオ出力コネクタ [n] 解像度 高さ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ビデオ出力コネクタの解像度の高さをピクセル単位で示します。

返される結果の値スペース:

120..3000

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 Resolution Height
*s Video Output Connector 1 Resolution Height: 1080
** en
```

xStatus Video Output Connector [n] Resolution RefreshRate

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ビデオ出力コネクタの解像度のリフレッシュレート (Hz) を表示します。

返される結果の値スペース:

1..300

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 Resolution RefreshRate
*s Video Output Connector 1 Resolution RefreshRate: 60
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Video Output Connector [n] Resolution Width

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ビデオ出力コネクタの解像度の幅をピクセル単位で示します。

返される結果の値スペース:

176..4000

例:

```
xStatus ビデオ出力コネクタ 1 の解像度の幅
*s Video Output Connector 1 Resolution Width: 1920
** end
```

xStatus ビデオ出力コネクタ [n] タイプ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

コネクタのタイプを表示します。

返される結果の値スペース:

HDMI/DVI

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 Type
*s Video Output Connector 1 Type: HDMI
** end
```

xStatus Video Output Monitor [n] Backlight

適用対象: Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE Boards

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

xCommand の [ビデオ出力] [モニタ バックライト セット] で設定されているモニタのバックライトレベルを返します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Video Output Monitor 1 Backlight
*s Video Output Monitor 1 Backlight: 80
** end
```

xStatus Video Output Monitor [n] Calibrated

適用対象: RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ディスプレイの調整状況を表示します。

返される結果の値スペース:

True/False

True: ディスプレイは調整されています。

False: ディスプレイは調整されていません。

例:

```
xStatus ビデオ出力 モニタ 1 調整済み
*s Video Output Monitor 1 Calibrated: True
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Video Output Monitor [n] ColorTemperature Selected

適用対象: *Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

xCommand Video Output Monitor Color Select で設定されているモニタの色温度を返します。

返される結果の値スペース:

4900/5500/6500/7200/9300/10500/12000/ユーザ

例:

```
xStatus Video Output Monitor 1 ColorTemperature Selected
*s Video Output Monitor 1 ColorTemperature Selected: 6500
** end
```

xStatus Video Output Monitor [n] Configured

適用対象: *RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ディスプレイの設定状況を表示します。

返される結果の値スペース:

True/False

True: 表示は設定済みです。

False: ディスプレイは設定されていません。

例:

```
xStatus Video Output Monitor 1 Configured
*s Video Output Monitor 1 Configured: True
** end
```

xStatus ビデオ出力モニタ [n] ファームウェアバージョン

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

モニタのファームウェア バージョンを表示します。このステータスフィールドは、サポートされている LG モニタに接続している場合にのみ表示されます。

返される結果の値スペース:

文字列

モニタのファームウェア バージョンです。

例:

```
xStatus Video Output Monitor 1 FirmwareVersion
*s Video Output Monitor 1 FirmwareVersion: ""
** end
```

xStatus Video Output Monitor [n] IpAddress

適用対象: *RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ディスプレイの IP アドレスが表示されます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Video Output Monitor 1 IpAddress
*s Video Output Monitor 1 IpAddress: "xxxxxxxxxx"
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus ビデオ出力モニタ [n] 製造元

適用対象: *RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ディスプレイの製造元を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Video Output Monitor 1 Manufacturer
*s ビデオ出力モニタ 1 の製造元: "CompanyName"
** end
```

xStatus ビデオ出力モニタ [n] MDC ID

適用対象: *RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ディスプレイの MDC Id を表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Video Output Monitor 1 MDC Id
*s Video Output Monitor 1 MDC Id: xxxxxxxx
** end
```

xStatus Video Output Monitor [n] MDC Port

適用対象: *RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ディスプレイの MDC ポートを表示します。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus ビデオ出力 モニタ 1 MDC ポート
*s ビデオ出力 モニタ 1 MDC ポート: xxxxxxxx
** end
```

xStatus Video Output Monitor [n] ModelName

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

モニタのモデル名を表示します。このステータスフィールドは、サポートされている LG モニタに接続している場合にのみ表示されます。

返される結果の値スペース:

文字列

モニタのモデル名です。

例:

```
xStatus Video Output Monitor 1 ModelName
*s Video Output Monitor 1 ModelName: ""
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Video Output Monitor [n] Position

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

モニタの設置場所が右側か左側かを示します。デュアル スクリーン デバイスにのみ適用されます。

返される結果の値スペース:

左/右

例:

```
xStatus ビデオ出力モニタ 1 位置
*s ビデオ出力 モニタ 1 の位置: 左
** end
```

xStatus ビデオ出力モニタ [n] シリアル番号

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

モニタのシリアル番号を表示します。このステータスフィールドは、サポートされている LG モニタに接続している場合にのみ表示されます。

返される結果の値スペース:

文字列

モニタのシリアル番号です。

例:

```
xStatus Video Output Monitor 1 SerialNumber
*s Video Output Monitor 1 SerialNumber: ""
** end
```

xStatus ビデオ出力モニタ [n] 温度

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

モニタの温度を表示します。このステータスフィールドは、サポートされている LG モニタに接続している場合にのみ表示されます。

返される結果の値スペース:

標準/高

正常: モニタの温度は正常です。

High: モニタの温度が高すぎます。

例:

```
xStatus ビデオ出力モニタ 1 の温度
*s Video Output Monitor 1 Temperature: Normal
** end
```

xStatus Video Presentation PIPPosition

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

画面上のプレゼンテーション画像の位置を示します。

返される結果の値スペース:

CenterLeft/CenterRight/DockCenterLeft/DockLowerLeft/LowerLeft/LowerRight/UpperCenter/UpperLeft/UpperRight

例:

```
xStatus Video Presentation PIPPosition
*s Video PIP Presentation Position: CenterLeft
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Video Selfview FullscreenMode

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

セルフビューがフルスクリーンモードで設定されているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Video Selfview FullscreenMode
*s Video Selfview FullscreenMode: Off
** end
```

xStatus Video Selfview Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

セルフビューモードが設定されているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Video Selfview Mode
*s Video Selfview Mode: Off
** end
```

xStatus Video Selfview OnMonitorRole

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

ある場合、どのモニタにセルフビューが含まれているかを示します。

返される結果の値スペース:

First/Second/Third

例:

```
xStatus Video Selfview OnMonitorRole
*s Video Selfview OnMonitorRole: First
** end
```

xStatus Video Selfview PIPPosition

適用対象: すべての製品

必要なユーザーロール: 管理者、インテグレータ、ユーザー

画面上のセルフビュー画像の位置を示します。

返される結果の値スペース:

CenterLeft/CenterRight/DockCenterLeft/DockLowerLeft/LowerLeft/LowerRight/UpperCenter/UpperLeft/UpperRight

例:

```
xStatus Video Selfview PIPPosition
*s Video Selfview PIPPosition: LowerRight
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

WebEngine ステータス

xStatus WebEngine Features Signage

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デジタル サイネージ機能が有効になっているかどうかを示します。ウェブエンジンモードとスタンバイサイネージモードの両方の設定がOnの場合にのみ、有効 (On) になります。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus WebEngine Features Signage
*s WebEngine Features Signage: On
** end
```

xStatus ウェブエンジンの機能

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

ウェブ エンジンが有効かどうかを示します。[ウェブエンジン モード] 設定が [On] の場合、有効 (On) になります。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus WebEngine Features WebEngine
*s WebEngine Features WebEngine: On
** end
```

Webex 状況

xStatus Webex DeveloperId

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

この ID は、developer.webex.com でクラウド xAPI 呼び出しをデバイスに送信できます。Cloud xAPI を使用すると、Webex クラウド サービスまたはOnプレミス サービスに登録されていて、デバイス用の Webex Edge にリンクされているデバイスにコマンドとステータス要求を送信できます。ほとんどの xAPI リクエストでは、このステータスを使用して取得できる deviceId が必要です。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Webex DeveloperId
*s *s Webex DeveloperId: "*****"
** end
```

xStatus Webex Meetings 参加プロトコル

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスが通話用の Webex クラウド サービスを使用して Webex Meetings に参加できるかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

SIP/Webex

SIP: デバイスは、通話に常にOnプレミス インフラストラクチャを使用します。通話プロトコルは SIP です。

Webex: すべての要件が満たされている場合、デバイスは通話に Webex クラウド サービスを使用します (Webex Meetings の JoinProtocol 設定を参照してください)。それ以外の場合、通話プロトコルは SIP になります。

例:

```
xStatus Webex Meetings JoinProtocol
*s Webex Meetings JoinProtocol: SIP
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

xStatus Webex サービス Proximity GuestToken

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

devices.webex.com と共に使用できる端末固有のコードを提供します。コードは定期的に変更されることに注意してください。

このステータスは、クラウド登録済みデバイスでのみ利用できます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Webex サービス Proximity GuestToken
*s Webex Services Proximity GuestToken: "6K2-WEC-7UZ"
** end
```

xStatus Webex Status

適用対象: すべての製品

必要なユーザ役割: ADMIN, USER

デバイスと Cisco Webex クラウド サービス間の接続のステータスを報告します。クラウドサービスが稼働中の場合、ステータスは登録済みレポートします。デバイスが CUCM または VCS などの Onプレミスサービスに登録されている場合、ステータスは無効をレポートします。

返される結果の値スペース:

無効/エラー/登録済み/登録中/停止

例:

```
xStatus Webex Status
*s Webex Status: Disabled
** end
```




はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

第 6 章

付録



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

サポートされているコマンドの表

この表には、CE10.3 を実行しているデバイスでサポートされている構成、コマンド、ステータスの完全なリストが記載されています。

設定.....	447
コマンド	465
ステータス.....	479

テーブルに関する情報

1. どのデバイスが設定、ステータス、またはコマンドをサポートするか

すべてのタイプのデバイスでサポートされているエントリもあれば、より小さなサブセットにのみ存在するエントリもあります。

対象となるデバイスは次のとおりです。

- Desk シリーズ: Desk Pro
- Room シリーズ: Codec Pro, Codec Plus, Room Kit, Room Kit Mini, Room 55, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Room Panorama, Room 70 Panorama
- Webex Boards: 55, 55S, 70, 70S, 85S

2. どのコールサービスが設定、ステータス、またはコマンドをサポートするか

API で使用できる設定、コマンド、およびステータスの一部は、Onプレミスの登録済みデバイスにのみ適用されます。上記は、Webex に登録されているデバイスには適用されません。これらのアイテムは「Onプレミスのみ」とマークされています。

適用できない構成、コマンドおよびステータスの中には、H.323、H.320、SIP、NTP、CUCM、LDAP、Proximity、および遠端カメラ制御に関連するすべてのものが含まれます。

3. 各構成、ステータス、またはコマンドへのアクセス方法

構成: デバイスのウェブインタフェースからすべての構成にアクセスすることができます。サブセットはデバイスの API の一部でもあります。

コマンド: デバイスの API からのみコマンドを発行できます。

ステータス: デバイスの API から、一覧表示されたステータスをリクエストすることができます。デバイスのウェブインターフェイスから他のステータスにアクセスできます。

4. 構成、ステータス、またはコマンドを使用するために必要なユーザーの役割

1 つのユーザーアカウントに、1 つまたは複数の以下のユーザーロールを割り当てることができます。

- 管理者 (A)
- ルーム管理 (R)
- 監査 (Au)
- ユーザー (U)
- インテグレータ (I)



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

設定

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたはAPI	ユーザーロール
Audio DefaultVolume	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
音声入力 ARC [n] モード	-	-	-	X	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
音声入力 HDMI [n] レベル	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	ウェブ、API	A I
音声入力 HDMI [n] モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	ウェブ、API	A I
Audio Input HDMI [n] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo	-	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	ウェブ、API	A I
音声入力 マイク [n] チャンネル	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
音声入力 マイク [n] EchoControl モード	-	X	-	X	X	X	X	X	X	-	-	ウェブ、API	A I
Audio Input Microphone [n] EchoControl Dereverberation	-	X	-	X	X	X	X	X	X	-	-	ウェブ、API	A I
Audio Input Microphone [n] EchoControl NoiseReduction	-	X	-	X	X	X	X	X	X	-	-	ウェブ、API	A I
音声入力 マイク [n] イコライザー ID	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
音声入力 マイク [n] イコライザー モード	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
音声入力マイク [n] レベル	-	X	-	X	X	X	X	X	X	-	-	ウェブ、API	A I
音声入力マイク [n] モード	-	X	-	X	X	X	X	X	X	-	-	ウェブ、API	A I
音声入力マイク [n] のミュートオーバーライド	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
音声入力 マイク [n] ファントム電源	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
Audio Input Microphone [n] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo	-	-	-	-	X	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A I
Audio Input Microphone [n] VideoAssociation VideoInputSource	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
Audio Input MicrophoneMode	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A I
音声入力 USBC [n] レベル	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A I
音声入力 USBC [n] モード	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A I
音声入力 WebView[n] モード	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
Audio KeyClickDetector Attenuate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
音声 KeyClickDetector が有効	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
オーディオマイクロフォン AGC	-	X	-	X	-	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A I U
音声マイクのノイズ除去モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレーター R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

設定

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたは API	ユーザーロール
ミュートが有効な音声マイク	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	ウェブ、API	A I
Audio Microphones PhantomPower	-	X	-	X	-	-	-	-	X	-	-	ウェブ、API	A
Audio Output ARC [n] Delay DelayMs	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
音声出力 ARC [n] 遅延モード	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
Audio Output ARC [n] Mode	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
Audio Output ConnectorSetup	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
音声出力 イーサネット [n] モード	-	-	-	-	-	-	-	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
Audio Output HDMI [n] Delay DelayMs	-	-	-	-	X	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A I
音声出力 HDMI [n] 遅延モード	-	-	-	-	X	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A I
音声出力 HDMI [n] レベル	-	-	-	-	-	-	X	-	-	-	-	ウェブ、API	A I
音声出力 HDMI [n] モード	-	-	-	X	X	-	X	-	-	-	-	ウェブ、API	A I
Audio Output InternalSpeaker Mode	-	X	-	X	-	X	X	X	X	-	-	ウェブ、API	A I
Audio Output Line [n] Channel	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
音声出力回線 [n] の遅延 DelayMs	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
音声出力回線 [n] 遅延モード	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
音声出力回線 [n] イコライザ ID	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
音声出力回線 [n] イコライザモード	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
音声出力回線 [n] レベル	-	-	-	-	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
Audio Output Line [n] Mode	-	X	-	X	X	X	X	X	X	-	-	ウェブ、API	A I
Audio Output Line [n] OutputType	-	X	-	X	-	X	-	-	X	-	-	ウェブ、API	A I
音声、サウンドとアラートの着信音	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	あいう
音声 サウンドとアラート リング音量	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
Audio Ultrasound Mode	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A I
Audio Ultrasound MaxVolume	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
音声 USB モード	X	X	X	-	-	-	-	-	X	-	-	ウェブ、API	A I

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

設定

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたはAPI	ユーザーロール
Bluetooth 許可	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A
Bluetooth 対応	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A
ブッキング プロトコル優先	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
BYOD HidForwarding Enabled	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A I
BYOD タッチ転送が有効	X	-	-	-	-	-	-	-	-	X	-	ウェブ、API	A I
CallHistory Mode	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
Cameras Background Enabled	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A U
Cameras Background UserImagesAllowed	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A
Cameras Camera [n] AssignedSerialNumber	-	-	-	X	X	X	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A I
Cameras Camera [n] Backlight DefaultMode	-	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
カメラ カメラ [n] 明るさアルゴリズム	-	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	Web	A I
Cameras Camera [n] Brightness Mode	-	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
Cameras Camera Brightness Mode	X	X	X	-	-	-	-	-	X	-	-	ウェブ、API	A I
Cameras Camera [n] Brightness DefaultLevel	-	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
Cameras Camera Brightness DefaultLevel	X	X	X	-	-	-	-	-	X	-	-	ウェブ、API	A I
カメラ カメラの露出補正レベル	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A I
Cameras Camera [n] Flip	-	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
カメラ カメラ [n] フォーカス モード	-	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
カメラ カメラ [n] ガンマモード	-	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
カメラ カメラ [n] のガンマレベル	-	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
Cameras Camera [n] Mirror	-	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
Cameras Camera [n] MotorMoveDetection	-	-	-	-	X	-	-	-	-	-	-	Web	A I
カメラ カメラ [n] ホワイトバランスモード	-	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
カメラ カメラ [n] ホワイトバランスレベル	-	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
Cameras Camera Framerate	-	X	X	-	-	-	-	-	X	-	-	ウェブ、API	A

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

設定

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたはAPI	ユーザーロール
カメラの電源周波数	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	ウェブ、API	A I
Cameras PresenterTrack CameraPosition Pan	-	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
Cameras PresenterTrack CameraPosition Tilt	-	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
Cameras PresenterTrack CameraPosition Zoom	-	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
カメラ PresenterTrack コネクタ	-	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
Cameras PresenterTrack Enabled	-	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
Cameras PresenterTrack PresenterDetectedStatus	-	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
Cameras PresenterTrack TriggerZone	-	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
Cameras SpeakerTrack Mode	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
Cameras SpeakerTrack Closeup	-	X	-	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	あいう
カメラ SpeakerTrack トラッキングモード	-	-	-	X	X	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A I
Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection Mode	-	-	-	X	X	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A I
Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection CameraLeft	-	-	-	X	X	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A I
Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection CameraRight	-	-	-	X	X	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A I
Cameras SpeakerTrack Whiteboard Mode	-	X	-	X	X	X	X	X	X	-	-	ウェブ、API	あいう
Conference ActiveControl Mode	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
Conference AutoAnswer Mode	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
Conference AutoAnswer Mute	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
電話会議自動応答の待ち時間	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
Conference CallProtocolIPStack	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
会議 DefaultCall プロトコル	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
Conference DefaultCall Rate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
電話会議 DoNotDisturbのデフォルトタイムアウト	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
会議の暗号化モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
Conference FarEndControl Mode	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

設定

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたはAPI	ユーザーロール
電話会議の相手先コントロール信号機能	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
Conference FarEndMessage Mode	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
Conference MaxReceiveCallRate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
Conference MaxTransmitCallRate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
Conference MaxTotalReceiveCallRate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
Conference MaxTotalTransmitCallRate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
Conference MicUnmuteOnDisconnect Mode	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
Conference Multipoint Mode	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
Conference MultiStream Mode	-	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	ウェブ、API	A
Conference IncomingMultisiteCall Mode	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
Conference Presentation OnPlacedOnHold	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
Conference Presentation RelayQuality	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
FacilityService Service [n] Type	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
FacilityService Service [n] Name	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
FacilityService Service [n] Number	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
FacilityService Service [n] CallType	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
GPIO ピン [n] モード	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I
H323 認証モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
H323 Authentication LoginName	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
H323 認証パスワード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
H323 通話セットアップ モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
H323 暗号化キーサイズ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
H323 ゲートキーパーアドレス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
H323 H323Alias E164	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
H323 H323Alias ID	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

設定

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたはAPI	ユーザーロール
H323 NAT モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
H323 NAT アドレス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
H323 ポート割り当て	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	Web	A
HttpClient モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
HttpClient AllowHTTP	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
HttpClient AllowInsecureHTTPS	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
HttpClient UseHttpProxy	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
HttpFeedback TlsVerify	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
HttpFeedback UseHttpProxy	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
Logging CloudUpload Mode	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
Logging Debug Wifi	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
Logging External Mode	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
Logging External Protocol	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
Logging External Server Address	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
Logging External Server Port	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
Logging External TlsVerify	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
ロギング内部モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
ログモード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
マクロモード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
マクロの自動開始	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
マクロ無応答タイムアウト	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
Macros XAPI Transport	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
ネットワーク [n] DNS DNSSEC モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
ネットワーク [n] DNS ドメイン名	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] DNS サーバ [m] アドレス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

設定

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたは API	ユーザーロール
ネットワーク [n] IEEE8021X モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] IEEE8021X TlsVerify	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] IEEE8021X UseClientCertificate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] IEEE8021X アイデンティティ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] IEEE8021X パスワード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] IEEE8021X AnonymousIdentity	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] IEEE8021X Eap Md5	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Network [n] IEEE8021X Eap Tls	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] IEEE8021X Eap Tls	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] IEEE8021X Eap Peap	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] IPStack	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] IPv4 の割り当て	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] IPv4 アドレス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] IPv4 ゲートウェイ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] IPv4 サブネットマスク	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] IPv6 の割り当て	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] IPv6 アドレス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] IPv6 ゲートウェイ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Network [n] IPv6 DHCPOptions	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] IPv6 インターフェイス識別子	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] MTU	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] QoS モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] QoS Diffserv 音声	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] QoS Diffserv ビデオ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] QoS Diffserv データ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

設定

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたはAPI	ユーザーロール
ネットワーク [n] QoS Diffserv シグナリング	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] QoS Diffserv ICMPv6	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] QoS Diffserv NTP	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Network [n] RemoteAccess Allow	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] 速度	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
ネットワーク [n] トラフィック制御モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A U
ネットワーク [n] VLAN 音声モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] VLAN 音声 VlanId	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワークサービス CDP モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
ネットワークサービス H323 モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
ネットワークサービス HTTP モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
NetworkServices HTTP Proxy LoginName	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
NetworkServices HTTP プロキシ パスワード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
NetworkServices HTTP プロキシ モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
NetworkServices HTTP プロキシ URL	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
NetworkServices HTTP プロキシ PACUrl	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワークサービス HTTPS OCSP モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
ネットワークサービス HTTPS OCSP URL	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
NetworkServices HTTPS Server MinimumTLSVersion	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
NetworkServices HTTPS StrictTransportSecurity	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
NetworkServices HTTPS VerifyClientCertificate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
ネットワークサービス NTP モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
NetworkServices NTP サーバ [n] アドレス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
NetworkServices NTP サーバ [n] キー	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
NetworkServices NTP Server [n] KeyId	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

設定

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたはAPI	ユーザーロール
NetworkServices NTP Server [n] KeyAlgorithn	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
ネットワークサービス SIP モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
ネットワークサービス SMTP モード	X	-	X	-	-	-	-	-	-	X	-	ウェブ、API	A
ネットワークサービス SMTP サーバ	X	-	X	-	-	-	-	-	-	X	-	ウェブ、API	A
ネットワークサービス SMTP ポート	X	-	X	-	-	-	-	-	-	X	-	ウェブ、API	A
NetworkServices SMTP ユーザ名	X	-	X	-	-	-	-	-	-	X	-	ウェブ、API	A
NetworkServices SMTP パスワード	X	-	X	-	-	-	-	-	-	X	-	ウェブ、API	A
ネットワークサービス SMTP 送信元	X	-	X	-	-	-	-	-	-	X	-	ウェブ、API	A
NetworkServices SMTP セキュリティ	X	-	X	-	-	-	-	-	-	X	-	ウェブ、API	A
ネットワークサービス SNMP モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
NetworkServices SNMP CommunityName	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
ネットワークサービス SNMP システム連絡先	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
NetworkServices SNMP SystemLocation	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
ネットワークサービス SSH モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
ネットワーク サービス SSH ホストキーアルゴリズム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
NetworkServices SSH AllowPublicKey	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
ネットワークサービス UPnP モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
ネットワークサービス UPnP タイムアウト	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
ネットワークサービス ウェブソケット	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
ネットワークサービスのウェルカムテキスト	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
NetworkServices Wifi Allowed	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
NetworkServices WifiCloud A_MPDU	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
ネットワークサービス Wi-Fi が有効	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A U
NetworkServices XMLAPI モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
周辺機器 InputDevice モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	ウェブ、API	A

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

設定

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたはAPI	ユーザーロール
Peripherals Pairing CiscoTouchPanels EmcResilience	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	Web	A
周辺機器 ペアリング CiscoTouchPanels リモートペアリング	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
Peripherals Profile Cameras	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	ウェブ、API	A I
Peripherals Profile Cameras	-	-	-	-	-	-	-	-	-	X	-	Web	A I
周辺機器プロファイルコントロールシステム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
周辺機器プロファイル ネットワークスイッチ	-	-	-	-	-	-	-	X	-	-	-	Web	A I
周辺機器 プロファイル タッチパネル	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	ウェブ、API	A I
電話帳サーバ [n] ID	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
電話帳サーバ [n] ページネーション	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
Phonebook Server [n] TlsVerify	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
電話帳サーバ [n] タイプ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
電話帳サーバ [n] URL	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
Provisioning Connectivity	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
CUCM CallManagementRecords CallDiagnostics のプロビジョニング	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Provisioning ExternalManager Address	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
Provisioning ExternalManager AlternateAddress	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
Provisioning ExternalManager Protocol	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
Provisioning ExternalManager Path	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
外部マネージャドメインをプロビジョニングしています	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
プロビジョニング モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
プロビジョニングログイン名	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
プロビジョニングパスワード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
Provisioning TlsVerify	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Provisioning WebexEdge	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Proximity AlternatePort Enabled	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

設定

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたはAPI	ユーザーロール
近接通信モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
Proximity Services CallControl	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Proximity Services ContentShare FromClients	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Proximity Services ContentShare ToClients	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
RoomAnalytics AmbientNoiseEstimation Interval	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
RoomAnalytics 周囲ノイズ推定モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
RoomAnalytics PeopleCountOutOfCall	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
RoomAnalytics PeoplePresenceDetector	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
RoomAnalytics 残響時間間隔	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
RoomAnalytics 残響時間モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
RoomCleanup AutoRun ContentType WebData	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
RoomCleanup AutoRun ContentType Whiteboards	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
RoomCleanup AutoRun HourOfDay	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
RoomReset コントロール	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
RoomScheduler が有効になりました	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
RTP ポート範囲の開始	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
RTP Ports Range Stop	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
RTP ビデオポート範囲の開始	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
RTP ビデオポート範囲の停止	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
セキュリティ監査ログモード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	au
Security Audit OnError Action	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	au
セキュリティ監査サーバアドレス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	Au
セキュリティ監査サーバポート	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	Au
セキュリティ監査サーバのポート割り当て	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	Au
セキュリティ Fips モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

設定

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたはAPI	ユーザーロール
Security Session FailedLoginsLockoutTime	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
Security Session InactivityTimeout	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
Security Session MaxFailedLogins	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
セキュリティセッション MaxSessionsPerUser	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
Security Session MaxTotalSessions	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
Security Session ShowLastLogon	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
シリアルポートモード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
SerialPort ボーレート	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
SerialPort LoginRequired	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
SIP ANAT	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
SIP 認証ユーザ名	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
SIP 認証パスワード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
SIP DefaultTransport	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
SIP 表示名	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
SIP Ice DefaultCandidate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
SIP Ice モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
SIP 回線	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	Web	A
SIP リッスンポート	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
SIP メールボックス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	Web	A
SIP MinimumTLSVersion	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
SIP PreferredIPSignaling	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	Web	A
SIP プロキシ [n] アドレス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
SIP TlsVerify	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
SIP Turn DiscoverMode	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	Web	A
SIP Turn DropRflx	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	Web	A

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

設定	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたはAPI	ユーザーロール
SIP ターンサーバ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
SIP Turn UserName	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
SIP Turn Password	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
SIP の種類	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	Web	A
SIP URI	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
Standby BootAction	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
Standby Control	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
Standby Delay	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
スタンバイ サイネージの音声	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
スタンバイ サイネージ インタラクション モード	X	-	X	-	-	-	-	-	-	X	-	ウェブ、API	A I
スタンバイ サイネージ モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
Standby Signage RefreshInterval	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
スタンバイ サイネージ URL	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
Standby StandbyAction	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	ウェブ、API	A I
Standby WakeupAction	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
Standby WakeupOnMotionDetection	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
SystemUnit Name	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
SystemUnit CrashReporting Advanced	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
システムユニットクラッシュレポートモード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
SystemUnit CrashReporting Url	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
SystemUnit CustomDeviceId	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
Time TimeFormat	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Time DateFormat	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
タイムゾーン (Time zone)	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
UserInteraction RaiseHand CMS	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	Web	A U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

設定

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたはAPI	ユーザーロール
UserInterface Accessibility IncomingCallNotification	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
ユーザ インターフェイス アシスタント モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
UserInterface Assistant ProactiveMeetingJoin	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
UserInterface Bookings Visibility Title	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
ユーザ インターフェイス ブランディングのAwakeブランディング カラー	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
UserInterface ContactInfo Type	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
UserInterface CustomMessage	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	ウェブ、API	A I
UserInterface Diagnostics Notifications	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
ユーザ インターフェイス キートン モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
UserInterface Features Call End	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
UserInterface Features Call Keypad	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
ユーザーインターフェイス機能コール JoinWebex	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
UserInterface Features Call MidCallControls	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
UserInterface Features Call MusicMode	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
UserInterface Features Call Start	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
UserInterface Features Call VideoMute	-	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
UserInterface Features HideAll	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
UserInterface Features Share Start	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
UserInterface Features Whiteboard Start	X	-	-	-	-	-	-	-	-	X	-	ウェブ、API	A I
UserInterface Language	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
UserInterface NameAndSiteLabels Mode	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
UserInterface OSD EncryptionIndicator	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
UserInterface OSD HalfwakeMessage	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	ウェブ、API	A I
UserInterface OSD Mode	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
UserInterface OSD Output	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

設定

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたは API	ユーザーロール
ユーザインターフェイス電話帳モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
UserInterface Proximity Notifications	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
ユーザインターフェイス QtVirtualKeyboard	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A I U
ユーザインターフェイスセキュリティモード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
UserInterface SettingsMenu Mode	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
UserInterface SettingsMenu Visibility	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
ユーザ インターフェイス サウンド効果モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ユーザインターフェイスの壁紙	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	あいう
UserInterface UsbPromotion	-	-	X	-	-	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A
UserInterface WebcamOnlyMode	-	-	X	-	-	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A
ユーザ インターフェイス ホワイトボード アクティビティインジケータ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
UserInterface Whiteboard DefaultTheme	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
ユーザ管理 LDAP 管理フィルター	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
ユーザ管理 LDAP 管理グループ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
ユーザ管理 LDAP 属性	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
ユーザ管理 LDAP ベース DN	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
ユーザ管理 LDAP 暗号化	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
ユーザ管理 LDAP 最小 TLS バージョン	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
ユーザ管理 LDAP モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
ユーザ管理 LDAP サーバアドレス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
ユーザ管理 LDAP サーバポート	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
UserManagement LDAP VerifyServerCertificate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumDigits	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumLength	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumLowercase	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

設定

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたはAPI	ユーザーロール
UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumSpecial	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
ユーザ管理パスワードポリシー複雑度 最小大文字	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
UserManagement PasswordPolicy MaxLifetime	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
ユーザ管理パスワードポリシー再利用制限	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
Video ActiveSpeaker DefaultPIPPosition	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A I
ビデオ DefaultLayoutFamily Local	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
Video DefaultLayoutFamily LocalContent	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
Video DefaultLayoutFamily Remote	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
Video DefaultMainSource	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Video Input Connector [n] CameraControl Cameramd	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
ビデオ入力コネクタ [n] CameraControl モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
ビデオ入力コネクタ [n] CEC モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
ビデオ入力コネクタ [n] HDCP モード	-	-	-	X	X	X	X	X	X	-	-	ウェブ、API	A I
Video Input Connector [n] InputSourceType	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
ビデオ入力コネクタ [n] 名	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
ビデオ入力コネクタ [n] オプティマルデフィニション プロファイル	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A I
Video Input Connector [n] OptimalDefinition Threshold60fps	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
ビデオ入力コネクタ [n] 優先解像度	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
Video Input Connector [n] PresentationSelection	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
ビデオ入力コネクタ [n] 品質	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
Video Input Connector [n] RGBQuantizationRange	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
ビデオ入力コネクタ [n] の可視性	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
Video Monitors	X	X	-	X	X	X	X	X	X	-	-	ウェブ、API	A I
ビデオ出力コネクタ [n] の明るさ	X	-	-	-	-	-	-	-	X	-	-	Web	A U
Video Output Connector [n] BrightnessMode	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	Web	A U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

設定

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたはAPI	ユーザーロール
ビデオ出力コネクタ [n] CEC モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	ウェブ、API	A I
Video Output Connector [n] Location HorizontalOffset	X	X	-	X	X	X	X	X	X	-	-	ウェブ、API	A I
Video Output Connector [n] Location VerticalOffset	X	X	-	X	X	X	X	X	X	-	-	ウェブ、API	A I
Video Output Connector [n] MonitorRole	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	ウェブ、API	A I
ビデオ出力コネクタ [n] 解像度	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
Video Output Connector [n] RGBQuantizationRange	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	ウェブ、API	A I
ビデオ出力ウェブカメラ USB モード	-	-	X	-	-	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A I
ビデオ出力コネクタ [n] ホワイトバランスレベル	X	-	-	-	-	-	-	-	X	-	-	Web	A U
Video Presentation DefaultPIPPosition	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A I
ビデオプレゼンテーション デフォルトソース	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ビデオプレゼンテーションの優先順位	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
ビデオ 自分の映像のデフォルト フルスクリーン モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
ビデオのセルフビューのデフォルト モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
Video Selfview Default OnMonitorRole	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
ビデオセルフビューのデフォルト PIP 位置	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
ビデオセルフビュー通話中モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
Video Selfview OnCall Duration	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
音声コントロール ウェイクワード モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
WebEngine Features WebGL	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
WebEngine Features SipUrlHandler	X	X	-	-	-	-	-	-	-	X	-	Web	A
WebEngine MinimumTLSVersion	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
ウェブ エンジン モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
WebEngine RemoteDebugging	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
ウェブ エンジン UseHttpProxy	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A
Webex CloudProximity GuestShare	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

設定

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたは API	ユーザーロール
Webex CloudProximity モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
Webex CloudUpgrades モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
Webex Meetings 参加プロトコル	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A
WebRTC EndCallTimeout	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	Web	A
WebRTC インタラクション モード	X	-	X	-	-	-	-	-	-	X	-	Web	A

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

コマンド

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S, 70/70S-g1, 85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたは API	ユーザーロール
音声診断の高度な実行	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
音声診断 AecReverb リセット	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Audio Diagnostics AecReverb Run	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Audio Diagnostics MeasureDelay	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Audio Equalizer List	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	API	A
音声イコライザーの更新	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	API	A
Audio LocalInput Add	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	API	A
Audio LocalInput AddConnector	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	API	A
Audio LocalInput Remove	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	API	A
Audio LocalInput RemoveConnector	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	API	A
Audio LocalInput Update	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	API	A
音声ローカル出力の追加	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	API	A
Audio LocalOutput AddConnector	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	API	A
Audio LocalOutput ConnectInput	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	API	A
Audio LocalOutput DisconnectInput	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	API	A
Audio LocalOutput Remove	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	API	A
Audio LocalOutput RemoveConnector	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	API	A
Audio LocalOutput Update	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	API	A
Audio LocalOutput UpdateInputGain	X	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	API	A
Audio Microphones MusicMode Start	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	あいう
Audio Microphones MusicMode Stop	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	あいう
Audio Microphones Mute	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	あいう
Audio Microphones NoiseRemoval Activate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I U
Audio Microphones NoiseRemoval Deactivate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I U
Audio Microphones ToggleMute	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

コマンド

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S, 70/70S-g1, 85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたは API	ユーザーロール
Audio Microphones Unmute	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I U
Audio RemoteOutput ConnectInput	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	API	A
Audio RemoteOutput DisconnectInput	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	API	A
Audio RemoteOutput UpdateInputGain	X	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	API	A
音声選択	X	X	X	-	-	-	-	-	X	-	-	API	A U
音声設定の消去	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	API	A
音声設定のリセット	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	API	A
Audio Sound Play	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	あいう
Audio Sound Stop	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	あいう
Audio SpeakerCheck	-	-	-	-	-	X	X	X	-	-	-	API	あいう
Audio SoundsAndAlerts Ringtone List	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	あいう
Audio SoundsAndAlerts Ringtone Play	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	あいう
Audio SoundsAndAlerts Ringtone Stop	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I U
Audio Volume Decrease	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Audio Volume Increase	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Audio Volume Mute	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
音声の音量設定	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
音声の音量を既定に設定	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Audio Volume ToggleMute	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
音声の音量 ミュート解除	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Audio VuMeter Start	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Audio VuMeter Stop	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Audio VuMeter StopAll	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

コマンド

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S, 70/70S-g1, 85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたは API	ユーザーロール
Bookings Book	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Bookings Clear	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
ブッキングの削除	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
予約の取得	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
ブッキングリスト	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Bookings Notification Snooze	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Bookings Put	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
Call Accept	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Call Disconnect	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I U
DTMF Send を呼び出す	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Call FarEndControl Camera Move	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Call FarEndControl Camera Stop	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Call FarEndControl RequestCapabilities	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Call FarEndControl RoomPreset Activate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Call FarEndControl RoomPreset Store	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
通話先端末コントロール ソースの選択	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Call FarEndMessage Send	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	API	A U
通話転送	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	API	A U
通話保留	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	API	A U
Call Ignore	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
通話に参加	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
[コール拒否(Call Reject)]	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
通話再開	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	API	A U
Call Unattended Transfer	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	API	A U
CallHistory AcknowledgeAllMissedCalls	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

コマンド

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたは API	ユーザーロール
CallHistory AcknowledgeMissedCall	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
CallHistory DeleteAll	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
CallHistory DeleteEntry	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
CallHistory Get	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
CallHistory Recents	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
カメラ位置リセット	X	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	API	A I U
Camera PositionSet	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	あいう
Camera Preset Activate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Camera Preset ActivateDefaultPosition	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
カメラ プリセットの編集	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
カメラ プリセット リスト	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
カメラ プリセットの削除	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
カメラ プリセットの表示	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
カメラ プリセットの保存	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Camera Ramp	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I U
カメラのトリガーオートフォーカス	X	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	API	A U
カメラの AutoFocus 診断の開始	-	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	API	A I
Cameras AutoFocus Diagnostics Stop	-	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	API	A I
Cameras Background Clear	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	API	A I U
Cameras Background Delete	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	API	A I U
Cameras Background Fetch	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	API	A I U
Cameras Background ForegroundParameters Reset	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	API	A I U
Cameras Background ForegroundParameters Set	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	API	A I U
Cameras Background Get	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	API	A I U
Cameras Background List	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	API	A I U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

コマンド

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S, 70/70S-g1, 85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたは API	ユーザーロール
Cameras Background Set	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	API	A I U
Cameras Background Upload	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	API	あいう
Cameras PresenterTrack ClearPosition	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	API	A I U
Cameras PresenterTrack Set	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	API	A I U
Cameras PresenterTrack StorePosition	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	API	A I U
Cameras SpeakerTrack Activate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Cameras SpeakerTrack Deactivate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
カメラ SpeakerTrack 診断の開始	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	あいう
Cameras SpeakerTrack Diagnostics Stop	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I U
Cameras SpeakerTrack ViewLimits Activate	-	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I
Cameras SpeakerTrack ViewLimits Deactivate	-	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I
Cameras SpeakerTrack ViewLimits StorePosition	-	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I
Cameras SpeakerTrack Whiteboard ActivatePosition	-	X	-	X	X	X	X	X	X	-	-	API	A U
Cameras SpeakerTrack Whiteboard AlignPosition	-	X	-	X	X	X	X	X	X	-	-	API	A U
カメラ SpeakerTrack ホワイトボードの設定距離	-	X	-	X	X	X	X	X	X	-	-	API	A U
カメラ SpeakerTrack ホワイトボードの保存位置	-	X	-	X	X	X	X	X	X	-	-	API	A U
電話会議認証応答	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Conference DoNotDisturb Activate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	あいう
Conference DoNotDisturb Deactivate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I U
Conference Hand Lower	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Conference Hand Raise	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Conference LowerAllHands	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Conference MeetingAssistant Start	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Conference MeetingAssistant Stop	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Conference Participant Admit	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

コマンド

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたは API	ユーザーロール
Conference Participant Disconnect	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Conference Participant LowerHand	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Conference Participant Mute	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
電話会議参加者リスト検索	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Conference Recording Pause	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Conference Recording Resume	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Conference Recording Start	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Conference Recording Stop	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
電話会議の発言者ロックの解除	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	API	A U
電話会議の発言者ロックの設定	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	API	A U
Conference TransferHostAndLeave	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
診断の実行	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
ダイヤル	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I U
GPIO ManualState Set	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	API	A U
HttpClient Allow Hostname Add	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
HttpClient Allow Hostname Clear	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
HttpClient 許可ホスト名リスト	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
HttpClient Allow Hostname Remove	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
HttpClient の削除	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
HttpClient の取得	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
HttpClient Patch	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
HttpClient Post	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
HttpClient Put	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
HTTP フィードバック登録解除	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
HTTP フィードバックの有効化	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

コマンド

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S, 70/70S-g1, 85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたは API	ユーザーロール
HttpFeedback Register	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
Logging SendLogs	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
マクロ ログの消去	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
マクロ ログの取得	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
Macros Macro Activate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
Macros Macro Deactivate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
Macros Macro Get	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
Macros Macro Remove	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
Macros Macro RemoveAll	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
Macros Macro Rename	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
Macros Macro Roles Set	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
マクロ マクロの保存	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
Macros Runtime Restart	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
Macros Runtime Start	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
Macros Runtime Status	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
Macros Runtime Stop	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
メッセージの送信	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I
Network SMTP VerifyConfig	X	-	X	-	-	-	-	-	-	X	-	API	A U
ネットワーク Wi-Fi 設定	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
ネットワーク Wi-Fi の削除	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
ネットワーク Wi-Fi リスト	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
ネットワーク Wi-Fi スキャンの開始	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
ネットワーク Wi-Fi スキャンの停止	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
周辺機器の接続	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I R U
Peripherals HeartBeat	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I R U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

コマンド

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S, 70/70S-g1, 85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたは API	ユーザーロール
周辺機器リスト	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I R
周辺機器 ペアリング デバイス検出の開始	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
Peripherals Pairing Pair	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
周辺機器 ペアリング ペアリング解除	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
周辺機器の消去	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
電話帳の連絡先の追加	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
電話帳の連絡先の削除	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
電話帳の連絡先の変更	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Phonebook ContactMethod Add	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Phonebook ContactMethod Delete	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Phonebook ContactMethod Modify	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
電話帳フォルダの追加	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
電話帳フォルダの削除	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
電話帳フォルダの変更	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
電話帳検索	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
プレゼンテーションの開始	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
プレゼンテーションの停止	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Provisioning CompleteUpgrade	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Provisioning PostponeUpgrade	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Provisioning CUCM ExtensionMobility Login	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	API	A U
Provisioning CUCM ExtensionMobility Logout	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	API	A U
Provisioning RoomType Activate	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	API	A I
プロビジョニング サービスの取得	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
Proximity Services Activate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Proximity Services Deactivate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

コマンド

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S, 70/70S-g1, 85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたは API	ユーザーロール
会議室クリーンアップのキャンセル	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
会議室クリーンアップの実行	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
RoomPreset を有効にする	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
RoomPreset Clear	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
RoomPreset Store	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
セキュリティ証明書 CA の追加	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
セキュリティ証明書 CA の削除	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
セキュリティ証明書 CA 表示	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Security Certificates Services Activate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
セキュリティ証明書サービスの追加	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
Security Certificates Services Deactivate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
Security Certificates Services Delete	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
Security Certificates Services Show	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Security Certificates ThirdParty Disable	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
Security Certificates ThirdParty Enable	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
Security Certificates ThirdParty List	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
Security Certificates ThirdParty Show	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
セキュリティ証明書 Webex 表示	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
セキュリティの持続性	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	API	A
セキュリティセッション取得	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A Au I R U
セキュリティセッションリスト	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
セキュリティセッションの終了	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
Standby Activate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	あいう
Standby Deactivate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	あいう
Standby Halfwake	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

コマンド

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S, 70/70S-g1, 85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたは API	ユーザーロール
Standby ResetHalfwakeTimer	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
スタンバイ タイマーのリセット	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
SystemUnit Boot	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I U
SystemUnit FactoryReset	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
SystemUnit FirstTimeWizard を停止	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I U
SystemUnit Notifications RemoveAll	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
SystemUnit OptionKey の追加	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
SystemUnit OptionKey List	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
SystemUnit OptionKey Remove	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
SystemUnit OptionKey RemoveAll	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
SystemUnit ProductPlatform Set	-	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	API	A
SystemUnit SignInBanner Clear	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
SystemUnit SignInBanner Get	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
SystemUnit SignInBanner Set	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
SystemUnit ソフトリセット	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
SystemUnit SoftwareUpgrade	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
SystemUnit WelcomeBanner Clear	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
SystemUnit WelcomeBanner Get	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A Au I R U
SystemUnit WelcomeBanner Set	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
Time DateTime Get	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
時間 日時 設定	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
ユーザ インターフェイス ブランディング クリア	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I
ユーザ インターフェイス ブランディングの削除	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I U
ユーザ インターフェイス ブランディングの取得	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I U
ユーザインターフェイス ブランディング 取得	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

コマンド

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S, 70/70S-g1, 85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたは API	ユーザ ロール
更新されたユーザ インターフェイス ブランディング	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I U
ユーザ インターフェイス ブランディングのアップロード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	あいう
UserInterface Extensions Clear	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I R
UserInterface Extensions List	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	I R U
ユーザ インターフェイス拡張パネルがクリックされました	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I R U
UserInterface Extensions Panel Close	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I R U
UserInterface Extensions Panel Open	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I R U
UserInterface Extensions Panel Remove	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I R
UserInterface Extensions Panel Save	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I R
ユーザ インターフェイス拡張機能パネルの更新	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I R U
ユーザ インターフェイス拡張機能セット	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I R
ユーザ インターフェイス拡張機能ウィジェット アクション	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I R U
UserInterface Extensions Widget SetValue	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I R
UserInterface Extensions Widget UnsetValue	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I R
UserInterface Message Alert Clear	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I R U
ユーザ インターフェイス メッセージ警告の表示	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I R
ユーザ インターフェイス メッセージ プロンプトの消去	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I R U
UserInterface Message Prompt Display	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I R
UserInterface Message Prompt Response	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I R U
UserInterface Message Rating Clear	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I R U
UserInterface Message Rating Display	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I R U
UserInterface Message Rating Response	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I R U
UserInterface Message TextInput Clear	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I R U
UserInterface Message TextInput Display	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I R
UserInterface Message TextInput Response	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I R U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

コマンド

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたは API	ユーザーロール
UserInterface Message TextLine Clear	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I R U
ユーザインターフェイス メッセージ テキスト行の表示	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I R
UserInterface Presentation ExternalSource Add	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	API	A I R
UserInterface Presentation ExternalSource List	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	API	A I R
UserInterface Presentation ExternalSource Remove	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	API	A I R
UserInterface Presentation ExternalSource RemoveAll	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	API	A I R
UserInterface Presentation ExternalSource Select	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	API	A I R U
UserInterface Presentation ExternalSource State Set	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	API	A I R
UserInterface WallpaperBundle Clear	-	-	-	-	-	-	-	X	-	-	-	API	A
ユーザインターフェイス壁紙バンドル リスト	-	-	-	-	-	-	-	X	-	-	-	API	A
UserInterface WallpaperBundle Set	-	-	-	-	-	-	-	X	-	-	-	API	A
UserInterface WebView Clear	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	あいう
UserInterface WebView Display	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	あいう
ユーザ管理 リモートサポートユーザ作成	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
ユーザ管理 リモートサポートユーザーの削除	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
UserManagement RemoteSupportUser DisablePermanently	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
UserManagement RemoteSupportUser GetState	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
UserManagement User Add	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
UserManagement User Delete	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
UserManagement User Get	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
UserManagement User List	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
UserManagement User Modify	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
UserManagement User Passphrase Change	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A A u I R U
UserManagement User Passphrase Set	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
UserManagement User Unblock	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

コマンド

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S, 70/70S-g1, 85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたは API	ユーザーロール
Video ActiveSpeakerPIP Set	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
ビデオ CEC 入力キークリック	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I
Video CEC Output KeyClick	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	API	A I
ビデオ CEC 出力 SendActiveSourceRequest	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	API	A I
Video CEC Output SendInactiveSourceRequest	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	API	A I
Video Graphics Clear	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	-	API	A I U
Video Graphics Text Display	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	-	API	A I U
ビデオ入力 メインビデオ ミュート	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	あいう
ビデオ入力 メインビデオ ミュート解除	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	あいう
Video Input SetMainVideoSource	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	API	A I U
ビデオ レイアウト レイアウトファミリ セット	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
ビデオ マトリックスの割り当て	-	X	-	X	X	X	X	X	-	-	-	API	A I U
ビデオ マトリックスのリセット	-	X	-	X	X	X	X	X	-	-	-	API	A I U
Video Matrix Swap	-	X	-	X	X	X	X	X	-	-	-	API	A I U
ビデオ マトリックスの割り当て解除	-	X	-	X	X	X	X	X	-	-	-	API	A I U
Video Output Monitor Backlight Set	X	-	-	-	-	X	X	-	-	X	-	API	A
Video Output Monitor Color Select	-	-	-	-	-	X	X	-	-	-	-	API	A
ビデオ出力モニタのリセット	-	-	-	-	-	X	X	-	-	X	-	API	A
Video PresentationPIP Set	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Video PresentationView Set	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Video Selfview Set	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
UserInterface WebEngine DeleteStorage	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
Webex 参加	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I U
Webex 登録のキャンセル	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
Webex Registration ConvertToCloud	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	API	A

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

コマンド

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブインターフェイスまたは API	ユーザーロール
Webex Registration Logout	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A
Webex 登録の開始	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A U
WebRTC Provider Current Diagnostics Send	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	API	A I U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレーター R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ステータス

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブ インターフェイスまたは API	ユーザーロール
Audio Devices Bluetooth ActiveProfile	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A U
Audio Devices HandsetUSB ConnectionStatus	X	X	X	-	-	-	-	-	X	-	-	ウェブ、API	A U
Audio Devices HandsetUSB Cradle	X	X	X	-	-	-	-	-	X	-	-	ウェブ、API	A U
音声デバイス ヘッドセットアナログ接続状況	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A U
Audio Devices HeadsetUSB ConnectionStatus	X	X	X	-	-	-	-	-	X	-	-	ウェブ、API	A U
Audio Devices HeadsetUSB Description	X	X	X	-	-	-	-	-	X	-	-	ウェブ、API	A U
Audio Devices HeadsetUSB Manufacturer	X	X	X	-	-	-	-	-	X	-	-	ウェブ、API	A U
Audio Input Connectors HDMI [n] Mute	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
音声入力コネクタ 回線 [n] ミュート	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Audio Input Connectors Microphone [n] ConnectionStatus	-	X	X	X	-	X	-	-	X	-	-	ウェブ、API	A I U
Audio Input Connectors Microphone [n] EcReferenceDelay	-	X	X	X	X	X	X	X	-	X	-	ウェブ、API	A U
Audio Input Connectors Microphone [n] Mute	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Audio Input Connectors USBC [n] Mute	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Audio Input KeyClick Attenuate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Audio Input KeyClick Detected	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Audio Input KeyClick Enabled	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
音声入力ローカル入力 [n] AGC	X	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A U
音声入力ローカル入力 [n] チャンネル	X	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A U
音声入力ローカル入力 [n] コネクタ [n]	X	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A U
Audio Input LocalInput [n] Direct	X	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A U
Audio Input LocalInput [n] MixerMode	X	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A U
音声入力ローカル入力 [n] ミュート	X	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A U
音声入力ローカル入力 [n] 名	X	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A U
Audio Input RemoteInput [n] CallId	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Audio Microphones MusicMode	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ステータス

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブ インターフェイスまたは API	ユーザーロール
Audio Microphones Mute	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
Audio Output Connectors ARC [n] DelayMs	-	-	-	X	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I U
Audio Output Connectors ARC [n] Mode	-	-	-	X	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I U
Audio Output Connectors HDMI [n] DelayMs	-	X	X	X	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I U
音声出力コネクタ HDMI [n] モード	-	X	X	X	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I U
Audio Output Connectors InternalSpeaker [n] DelayMs	-	X	X	X	X	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A I U
Audio Output Connectors InternalSpeaker [n] Mode	-	-	X	X	X	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A I U
Audio Output Connectors Line [n] ConnectionStatus	-	X	-	X	-	X	-	-	X	X	-	ウェブ、API	あいう
Audio Output Connectors Line [n] DelayMs	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	あいう
Audio Output LocalOutput [n] AutoconnectRemote	X	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A U
音声出力 ローカル出力 [n] チャンネル	X	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A U
Audio Output LocalOutput [n] Connector [n]	X	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A U
Audio Output LocalOutput [n] Input [n] Gain	X	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A U
音声出力ローカル出力 [n] スピーカー	X	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A U
Audio Output LocalOutput [n] Name	X	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A U
音声出力ローカル出力 [n] ボリュームコントロール	X	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A U
Audio Output MeasuredHdmiArcDelay	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
Audio Output MeasuredHdmiDelay	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
Audio Output MeasuredHdmiCecDelay	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	あいう
Audio Output RemoteOutput [n] CallId	X	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A U
Audio Output RemoteOutput [n] Input [n] Gain	X	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A U
Audio SelectedDevice	X	X	X	-	-	-	-	-	X	-	-	ウェブ、API	A U
Audio Volume	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
Audio VolumeHandsetUsb	X	X	X	-	-	-	-	-	X	-	-	ウェブ、API	A U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレーター R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ステータス

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブ インターフェイスまたは API	ユーザーロール
Audio VolumeHeadsetAnalog	X	X	X	-	-	-	-	-	X	-	-	ウェブ、API	A U
Audio VolumeHeadsetUsb	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A U
Audio VolumeInternal	X	X	X	-	-	-	-	-	X	-	-	ウェブ、API	A U
Audio VolumeMute	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ブッキングの現在の ID	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Call [n] AnswerState	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Call [n] AttendedTransferFrom	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
[n] CallbackNumber に発信します	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Call [n] CallType	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Call [n] DeviceType	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Call [n] Direction	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Call [n] DisplayName	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
[n] 通話の継続時間	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Call [n] Encryption Type	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Call [n] FacilityServiceId	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A I U
Call [n] HoldReason	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
Call [n] Ice	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Call [n] PlacedOnHold	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Call [n] Protocol	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Call [n] ReceiveCallRate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	あいう
Call [n] RemoteNumber	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
コール [n] の状況	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Call [n] TransmitCallRate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
Cameras Background Image	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A I R U
Cameras Background Mode	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A I R U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ステータス

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S, 70/70S-g1, 85S	Onプレミスのみ	ウェブ インターフェイスまたは API	ユーザーロール
Cameras Camera [n] Capabilities Options	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIR U
Cameras Camera [n] Connected	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIR U
Cameras Camera [n] DetectedConnector	X	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	AIR U
Cameras Camera [n] Flip	X	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	AIR U
カメラ カメラ [n] フレームレート	X	X	X	-	-	-	-	-	X	-	-	ウェブ、API	AIR U
Cameras Camera [n] HardwareID	X	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	AIR U
Cameras Camera [n] LightingConditions	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIR U
Cameras Camera [n] MacAddress	X	-	-	X	X	X	X	X	-	X	-	ウェブ、API	AIR U
カメラ カメラ [n] 製造元	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIR U
Cameras Camera [n] Model	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIR U
Cameras Camera [n] Position Focus	X	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	AIR U
Cameras Camera [n] Position Lens	-	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	AIR U
Cameras Camera [n] Position Pan	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIR U
Cameras Camera [n] Position Roll	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	AIR U
Cameras Camera [n] Position Tilt	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIR U
Cameras Camera [n] Position Zoom	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIR U
カメラ カメラ [n] シリアル番号	X	-	-	X	X	X	X	X	-	X	-	ウェブ、API	AIR U
Cameras Camera [n] SoftwareID	X	-	-	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIR U
カメラ PresenterTrack の可用性	-	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	AIR U
Cameras PresenterTrack PresenterDetected	-	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	AIR U
Cameras PresenterTrack Status	-	-	-	X	X	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	AIR U
Cameras SpeakerTrack ActiveConnector	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIR U
Cameras SpeakerTrack Availability	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIR U
Cameras SpeakerTrack Status	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIR U
Cameras SpeakerTrack ViewLimits Pan	-	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIR U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ステータス

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブ インターフェイスまたは API	ユーザーロール
Cameras SpeakerTrack ViewLimits Status	-	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIRU
Cameras SpeakerTrack ViewLimits Tilt	-	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIRU
Cameras SpeakerTrack ViewLimits Zoom	-	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIRU
Capabilities Conference MaxActiveCalls	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AU
Capabilities Conference MaxAudioCalls	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AU
Capabilities Conference MaxCalls	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AU
Capabilities Conference MaxVideoCalls	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AU
Conference ActiveSpeaker CallId	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	AU
Conference Call [n] AuthenticationRequest	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	あいう
Conference Call [n] BookingId	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AU
Conference Call [n] Capabilities FarendMessage Mode	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	
Conference Call [n] Capabilities FECC Mode	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	AU
Conference Call [n] Capabilities FECC NumberOfPresets	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	AU
Conference Call [n] Capabilities FECC NumberOfSources	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	AU
Conference Call [n] Capabilities FECC Source [n] Name	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AU
電話会議 [n] 機能 FECC ソース [n] オプション	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	AU
Conference Call [n] Capabilities FECC Source [n] SourceId	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	AU
Conference Call [n] Capabilities Hold	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AU
Conference Call [n] Capabilities IxChannel Status	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	
Conference Call [n] Capabilities MeetingAssistant Start	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AU
Conference Call [n] Capabilities MeetingAssistant Stop	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AU
Conference Call [n] Capabilities ParticipantDisconnect	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AU
Conference Call [n] Capabilities ParticipantList	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AU
Conference Call [n] Capabilities ParticipantMute	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AU
Conference Call [n] Capabilities Presentation	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AU

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ステータス

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S, 70/70S-g1, 85S	Onプレミスのみ	ウェブ インターフェイスまたは API	ユーザーロール
Conference Call [n] Capabilities Recording Start	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Conference Call [n] Capabilities SelfMute	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Conference Call [n] EventCenter Mode	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Conference Call [n] Manufacturer	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Conference Call [n] MeetingAssistantEnabled	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Conference Call [n] MicrophonesMuted	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Conference Call [n] Recording	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Conference Call [n] Sip SessionId	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Conference Call [n] SoftwareID	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Conference Call [n] Streamed	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Conference Call [n] Transcoded	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Conference DoNotDisturb	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
電話会議回線 [n] モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
Conference Multipoint Mode	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Conference Presentation CallId	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I R U
Conference Presentation LocalInstance [n] SendingMode	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I R U
Conference Presentation LocalInstance [n] Source	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I R U
Conference Presentation Mode	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I R U
Conference SelectedCallProtocol	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
電話会議発言者ロック通話 ID	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Conference SpeakerLock Mode	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
診断メッセージ [n] の説明	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
診断メッセージ [n] レベル	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Diagnostics Message [n] References	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
診断メッセージ [n] タイプ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ステータス

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブ インターフェイスまたは API	ユーザーロール
GPIO ピン [n] の状態	-	-	-	-	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A I U
H320 ゲートウェイアドレス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
H320 ゲートウェイ ID	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
H320 ゲートウェイモード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
H320 ゲートウェイ番号	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
H320 Gateway Reason	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
H320 ゲートウェイステータス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
H323 ゲートキーパーアドレス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
H323 ゲートキーパーポート	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
H323 Gatekeeper Reason	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
H323 ゲートキーパーの状況	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
H323 Mode Reason	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
H323 モード ステータス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
HttpFeedback [n] Expression [n]	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
HttpFeedback [n] Format	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
HttpFeedback [n] Status	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
HttpFeedback [n] URL	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels Call [n] Channel [n] Audio Channels	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels Call [n] Channel [n] Audio ChannelRole	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels Call [n] Channel [n] Audio Mute	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels Call [n] Channel [n] Audio Protocol	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels Call [n] Channel [n] Direction	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels Call [n] Channel [n] Encryption	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels Call [n] Channel [n] NetStat Bytes	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels Call [n] Channel [n] NetStat ChannelRate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ステータス

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブ インターフェイスまたは API	ユーザーロール
MediaChannels Call [n] Channel [n] NetStat Jitter	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels Call [n] Channel [n] NetStat LastIntervalLost	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels Call [n] Channel [n] NetStat LastIntervalReceived	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels Call [n] Channel [n] NetStat Loss	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels Call [n] Channel [n] NetStat MaxJitter	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels Call [n] Channel [n] NetStat Packets	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels Call [n] Channel [n] ParticipantId	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels Call [n] Channel [n] Type	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels Call [n] Channel [n] Video ChannelRole	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels Call [n] Channel [n] Video FrameRate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels Call [n] Channel [n] Video Protocol	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels Call [n] Channel [n] Video ResolutionX	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels Call [n] Channel [n] Video ResolutionY	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Audio Channels	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Audio Protocol	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Encryption	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Netstat Bytes	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Netstat ChannelRate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Netstat Jitter	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Netstat LastIntervalLost	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Netstat LastIntervalReceived	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Netstat LastIntervalReceived	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Netstat Loss	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Netstat MaxJitter	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Netstat Packets	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレーター R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ステータス

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブ インターフェイスまたは API	ユーザーロール
MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Video FrameRate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Video Protocol	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
MediaChannels DirectShare [n] Channel [n] Video ResolutionX	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
メディアチャネル DirectShare [n] チャネル [n] ビデオ解像度 Y	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] CDP アドレス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Network [n] CDP Capabilities	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] CDP DeviceId	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Network [n] CDP Duplex	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] CDP プラットフォーム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] CDP ポート ID	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Network [n] CDP PrimaryMgmtAddress	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] CDP SysName	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] CDP SysObjectID	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] CDP バージョン	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] CDP VoIPApplianceVlanID	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] CDP VTPMgmtDomain	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] DNS ドメイン名	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] DNS サーバ [n] アドレス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] イーサネット Mac アドレス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Network [n] Ethernet Speed	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] IPv4 アドレス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] IPv4 ゲートウェイ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] IPv4 サブネットマスク	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] IPv6 アドレス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] IPv6 ゲートウェイ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ステータス

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブ インターフェイスまたは API	ユーザーロール
Network [n] IPv6 LinkLocalAddress	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] VLAN 音声 VlanId	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] Wi-Fi BSSID	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] Wi-Fi チャンネル	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] Wi-Fi 周波数	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Network [n] Wifi InterfaceEnabled	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Network [n] Wifi InterfaceReason	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] Wifi Mac アドレス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Network [n] Wifi Phase2Method	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Network [n] Wifi RawSSID	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Network [n] Wifi Reason	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] Wi-Fi 地域	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Network [n] Wifi RSSI	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Network [n] Wifi ScanResult [n] Flags	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Network [n] Wifi ScanResult [n] RawSSID	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Network [n] Wifi ScanResult [n] SignalLevel	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] Wi-Fi スキャン結果 [n] SSID	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] Wi-Fi 速度	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] Wi-Fi SSID	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ネットワーク [n] Wi-Fi 状況	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Network [n] Wifi Type	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
NetworkServices NTP CurrentAddress	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
NetworkServices NTP サーバ [n] アドレス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
NetworkServices NTP 状況	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
NetworkServices UPnP Status	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレーター R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ステータス

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブ インターフェイスまたは API	ユーザーロール
Peripherals ConnectedDevice [n] ハードウェア情報	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIR U
Peripherals ConnectedDevice [n] ID	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIR U
Peripherals ConnectedDevice [n] Name	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIR U
Peripherals ConnectedDevice [n] NetworkAddress	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIR U
Peripherals ConnectedDevice [n] RoomAnalytics AirQuality Index	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIR U
Peripherals ConnectedDevice [n] RoomAnalytics AmbientTemperature	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIR U
Peripherals ConnectedDevice [n] RoomAnalytics RelativeHumidity	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIR U
Peripherals ConnectedDevice [n] SerialNumber	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIR U
Peripherals ConnectedDevice [n] SoftwareInfo	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIR U
Peripherals ConnectedDevice [n] Status	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIR U
Peripherals ConnectedDevice [n] Type	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIR U
Peripherals ConnectedDevice [n] UpgradeFailureReason	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIR U
Peripherals ConnectedDevice [n] UpgradeStatus	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIR U
Peripherals ConnectedDevice [n] UpgradeURL	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	AIR U
CUCM カスタマイズチェックサムのプロビジョニング	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Provisioning CUCM ExtensionMobility Enabled	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
Provisioning CUCM ExtensionMobility LastLoggedInUserId	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
Provisioning CUCM ExtensionMobility LoggedIn	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
Provisioning RoomType	-	-	-	X	X	-	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A U
Provisioning Software Current CompletedAt	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
プロビジョニングソフトウェアの現在の URL	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
プロビジョニングソフトウェアの現行バージョン ID	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Provisioning Software UpgradeStatus LastChange	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Provisioning Software UpgradeStatus Message	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
プロビジョニングソフトウェアのアップグレード状況のフェーズ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレーター R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ステータス

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブ インターフェイスまたは API	ユーザーロール
Provisioning Software UpgradeStatus SessionId	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Provisioning Software UpgradeStatus Status	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Provisioning Software UpgradeStatus Urgency	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Provisioning Software UpgradeStatus URL	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Provisioning Software UpgradeStatus VersionId	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
プロビジョニングのステータス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
近接通信サービスの可用性	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
RoomAnalytics AmbientNoise Level A	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
RoomAnalytics AmbientTemperature	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A U
RoomAnalytics Engagement CloseProximity	X	X	X	-	-	-	-	-	X	X	-	ウェブ、API	A I U
RoomAnalytics PeopleCount Current	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
RoomAnalytics PeoplePresence	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
RoomAnalytics Sound Level A	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
RoomAnalytics RelativeHumidity	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A U
RoomPreset [n] が定義されました	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
RoomPreset [n] の説明	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
RoomPreset [n] タイプ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Security Persistency CallHistory	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
セキュリティ持続性の構成	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
Security Persistency DHCP	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
Security Persistency InternalLogging	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
Security Persistency LocalPhonebook	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
SIP AlternateURI エイリアス [n] URI	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
SIP AlternateURI Primary [n] URI	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
[XCP認証(SIP Authentication)]	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ステータス

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブ インターフェイスまたは API	ユーザーロール
SIP CallForward DisplayName	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
SIP CallForward Mode	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
SIP CallForward URI	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
SIP Mailbox MessagesWaiting	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
SIP メールボックス URI	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
SIP プロキシ [n] アドレス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
SIP Proxy [n] Status	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
SIP 登録 [n] 認証	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
SIP 登録 [n] の理由	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
SIP 登録 [n] 状況	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
SIP 登録 [n] URI	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
SIP Secure	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
SIP Verified	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	ウェブ、API	A U
スタンバイ状態	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I R U
SystemUnit Hardware HasWiFi	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
SystemUnit ハードウェアモジュール互換性レベル	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
SystemUnit ハードウェアモジュールのシリアル番号	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
SystemUnit ハードウェア監視ファン [n] の状況	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
SystemUnit Hardware Monitoring Temperature Status	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
SystemUnit ハードウェア USB C [n] が接続されました	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A U
SystemUnit Notifications Notification [n] Text	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
SystemUnit Notifications Notification [n] Type	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
SystemUnit ProductId	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
SystemUnit ProductPlatform	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
SystemUnit ProductType	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ステータス

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブ インターフェイスまたは API	ユーザーロール
システム単位ソフトウェアの表示名	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
SystemUnit ソフトウェア名	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
SystemUnit Software OptionKeys Encryption	-	X	X	X	X	X	X	-	X	X	-	ウェブ、API	A U
SystemUnit Software OptionKeys MultiSite	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
SystemUnit Software OptionKeys RemoteMonitoring	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
SystemUnit Software ReleaseDate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
SystemUnit Software Version	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
SystemUnit State CameraLid	X	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ウェブ、API	A U
SystemUnit State NumberOfActiveCalls	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I R U
SystemUnit State NumberOfInProgressCalls	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I R U
SystemUnit State NumberOfSuspendedCalls	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
システムユニットの稼働時間	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
時刻 システム時間	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	あいう
UserInterface ContactInfo ContactMethod [n] Number	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
UserInterface ContactInfo Name	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ユーザ インターフェイス拡張機能ウィジェット [n] 値	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I R U
UserInterface Extensions Widget [n] WidgetId	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I R U
UserInterface Features Call End	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
ユーザーインターフェイス機能コール JoinWebex	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
UserInterface Features Call Keypad	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
UserInterface Features MidCallControls	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
UserInterface Features Call Start	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
UserInterface Features Share Start	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
UserInterface Features Whiteboard Start	X	X	X	X	X	-	-	-	-	X	-	ウェブ、API	A I
ユーザインターフェイスの OSD 出力	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ステータス

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブ インターフェイスまたは API	ユーザーロール
UserInterface SettingsMenu Visibility	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I
Video ActiveSpeaker PIPPosition	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
ビデオ入力コネクタ [n] が接続されました	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
Video Input Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] DeviceType	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
Video Input Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] LogicalAddress	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
Video Input Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] Name	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
Video Input Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] PowerStatus	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	あいう
Video Input Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] VendorId	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	あいう
Video Input Connector [n] SignalState	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
Video Input Connector [n] SourceId	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
Video Input Connector [n] Type	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
ビデオ入力 DirectShare [n] ピア アドレス	X	X	X	X	X	X	X	-	X	X	-	ウェブ、API	あいう
Video Input DirectShare [n] Peer PeripheralID	X	X	X	X	X	X	X	-	X	X	-	ウェブ、API	あいう
ビデオ入力 DirectShare [n] タイプ	X	X	X	X	X	X	X	-	X	X	-	ウェブ、API	A I U
ビデオ入力 メインビデオミュート	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
Video Input MainVideoSource	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Video Input Source [n] ConnectorId	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	あいう
Video Input Source [n] FormatStatus	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
Video Input Source [n] FormatType	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	あいう
Video Input Source [n] MediaChannelId	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ビデオ入力ソース [n] 解像度 高さ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
Video Input Source [n] Resolution RefreshRate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
Video Input Source [n] Resolution Width	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
Video Layout LayoutFamily Local	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Video Layout LayoutFamily Remote	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ステータス

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブ インターフェイスまたは API	ユーザーロール
Video Monitors	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Video Output Connector [n] Connected	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
Video Output Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] DeviceType	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	あいう
Video Output Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] LogicalAddress	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	あいう
Video Output Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] Name	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
Video Output Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] PowerStatus	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
Video Output Connector [n] ConnectedDevice CEC [n] VendorId	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
Video Output Connector [n] ConnectedDevice Name	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	あいう
Video Output Connector [n] ConnectedDevice PreferredFormat	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	あいう
Video Output Connector [n] ConnectedDevice ScreenSize	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Video Output Connector [n] Connected	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
Video Output Connector [n] MonitorRole	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Video Output Connector [n] Resolution Height	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Video Output Connector [n] Resolution RefreshRate	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ビデオ出力コネクタ [n] 解像度の幅	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ビデオ出力コネクタ [n] タイプ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Video Output Monitor [n] Backlight	X	-	-	-	-	X	X	X	-	X	-	ウェブ、API	A U
Video Output Monitor [n] Calibrated	-	-	-	-	-	-	-	X	-	-	-	ウェブ、API	A U
ビデオ出力用モニタ [n] 色温度が選択されています	-	-	-	-	-	X	X	X	-	-	-	ウェブ、API	A U
ビデオ出力モニタ [n] が設定されました	-	-	-	-	-	-	-	X	-	-	-	ウェブ、API	A U
ビデオ出力モニタ [n] ファームウェアバージョン	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Video Output Monitor [n] IpAddress	-	-	-	-	-	-	-	X	-	-	-	ウェブ、API	A U
ビデオ出力モニタ [n] の製造元	-	-	-	-	-	-	-	X	-	-	-	ウェブ、API	A U
ビデオ出力モニタ [n] MDC ID	-	-	-	-	-	-	-	X	-	-	-	ウェブ、API	A U
ビデオ出力 モニタ [n] MDC ポート	-	-	-	-	-	-	-	X	-	-	-	ウェブ、API	A U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

ステータス

	Desk Pro / Desk LE	Room Kit	Room Kit Mini	Codec Plus	Codec Pro	Room 70 / Room 55 Dual	Room 70 G2	Room Panorama / Room 70 Panorama	Room 55	Board 55 / 55S、70/70S-g1、85S	Onプレミスのみ	ウェブ インターフェイスまたは API	ユーザーロール
Video Output Monitor [n] ModelName	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Video Output Monitor [n] Position	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ビデオ出力モニタ [n] のシリアル番号	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ビデオ出力モニタ [n] 温度	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Video Presentation PIPPosition	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
ビデオ セルフビュー フルスクリーン モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
ビデオのセルフビュー モード	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
Video Selfview OnMonitorRole	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
Video Selfview PIPPosition	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A I U
WebEngine Features Signage	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
WebEngine Features WebEngine	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Webex 開発者 ID	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Webex Meetings 参加プロトコル	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Webex サービス Proximity GuestToken	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U
Webex 稼働状況	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	-	ウェブ、API	A U

X: サポートあり - : サポートなし

A: 管理者 Au: 監査 I: インテグレータ R: ルーム管理 U: ユーザー



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

起動スクリプト

1 つまたは複数のスタートアップスクリプトをデバイスに追加できます。スタートアップスクリプトには、デバイスがブートするたびに、スタートアップ手順の一部として実行されるコマンド (xCommand) と構成 (xConfiguration) が含まれます。xCommand SystemUnit Boot などの一部のコマンドや構成はスタートアップスクリプトに入れることができません。

デバイスのウェブ インターフェイスを使用して、スタートアップ スクリプトを作成および管理します。

ウェブインタフェースとスタートアップスクリプトの詳細は、ご使用の製品の [管理者ガイド](#) を参照してください。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

SystemTools コマンド

メモ: systemtools コマンドはデバイスの管理コントロールに使用され、コマンドラインインタフェースからのみ利用できます。Systemtoolsは、デバイスのプログラムに使用しないでください。

山括弧内の必須のパラメータ: <text>

角括弧内のオプションパラメータ: [text]

サポートされているコマンドの概要を取得するには、"systemtools ?" と入力します。

例:

```
systemtools ?
rootsettings
selectsw
whoami
ライセンス
network
ntp
pki
ps
セキュリティステータス
sudo
idefixversion
ペアリング
touch
```

コマンドの使用方法を確認するには、コマンドの後に疑問符を追加します。

例:

```
systemtools network ?
usage: network ping <hostname> | traceroute
<hostname> | netstat | addr | ifconfig | ifstats
<ifname>
```

systemtools idfixversion(Desk Pro 用ではありません)

接続された Touch コントローラーのソフトウェア バージョンを返します。TC7.3 以前にダウングレードするときに使用されます。

systemtools license list

デバイスのすべてのライセンスを一覧表示します。

systemtools license show <name>

名前で定義されたライセンスファイルのコンテンツを表示します。

<name>: ライセンスファイルの名前。

systemtools network ping <hostname>

ネットワークデバッグコマンド。

<hostname>: ホストの IP アドレスまたは URL。

systemtools network traceroute <hostname>

ネットワークデバッグコマンド。

<hostname>: ホストの IP アドレスまたは URL。

systemtools network netstat

ネットワークデバッグコマンド。

systemtools network addr

デバイスの IP アドレスを表示します。

systemtools network ifconfig

ネットワークデバッグコマンド。

systemtools network ifstats <ifname>

ネットワークデバッグコマンド。ネットワークインターフェイスの統計を表示します。

<ifname>: インターフェイスの名前。

システムツール ntp

NTP 状況を表示します。

systemtools pairing unpair

リモートでペアリングされた Touch コントローラとの関連付けを削除します。

systemtools pki list

デバイス証明書と CA リストを一覧表示します (存在する場合)。

systemtools pki delete <cert-name>

存在する場合、デバイス証明書と CA リストを削除します。

<cert-name>: 証明書の名前。

systemtools ps

実行中のすべてのプロセスを一覧表示します。

systemtools rootsettings

ルートアクセスはリリースソフトウェアでは利用できなくなりました。代わりにリモートサポートアカウントを使用してください。

systemtools securitystatus

デバイスのセキュリティ ステータスを表示します。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

systemtools selectsw

利用可能なソフトウェアイメージから使用するものを選択します。
ソフトウェア イメージを変更すると、デバイスが再起動されます。

引数なし: 利用可能なソフトウェアイメージのバージョンをリストし、どれがアクティブであるかを表示します。

イメージ名: この名前のソフトウェアに切り替えます。

systemtools sudo on

現在のセッションのユーザ役割を、指定されたユーザの役割に変更します。

<username>: sudo ユーザーの名前。

<password>: sudo ユーザーのパスワード。

systemtools sudo off

ログインユーザのユーザ役割に戻ります。

systemtools touch start*(Desk Pro および Boards のみ)*

タッチパネルをテストするためのデバッグコマンドです。

systemtools touch stop*(Desk Pro および Boards のみ)*

タッチパネルをテストするためのデバッグコマンドです。

systemtools touch forever*(Desk Pro および Boards のみ)*

タッチパネルをテストするためのデバッグコマンドです。

systemtools whoami

ログインしたユーザの名前と ID、およびこのユーザが保持しているユーザ役割を一覧表示します。



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

切断原因タイプ

通話が切断されると、以下のパラメータがログに記録されます。切断原因タイプは切断イベント (xEvent) で使用されます。

CauseValue	Proprietary. [CauseType] および [CauseCode] の使用を推奨します。
CauseType	通話が切断された理由を示します。値の範囲: { OtherLocal, LocalDisconnect, UnknownRemoteSite, LocalBusy, LocalReject, InsufficientSecurity, OtherRemote, RemoteDisconnect, RemoteBusy, RemoteRejected, RemoteNoAnswer, CallForwarded, NetworkRejected }
CauseString	原因コードの説明です。
原因コード	切断原因コードは SIP および Q.850 で定義されています。
CauseOrigin	SIP, Q.850, 内部。

例:

```
xEvent DisconnectEvent

*e CallDisconnect CauseValue: 1
  CauseType: "LocalDisconnect"
  CauseString: ""
  OrigCallDirection: "outgoing"
  RemoteURI: "firstname.lastname@company.com"
  CallId: 89
  原因コード: 0
  CauseOrigin: SIP
** end
```



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

Cisco Web サイトのユーザドキュメント

Cisco Collaboration 製品のユーザマニュアルは、
[▶ https://www.cisco.com/go/telepresence/docs](https://www.cisco.com/go/telepresence/docs) から入手できます。

製品シリーズを選択します。

- ▶ [Cisco Webex Board シリーズ](#)
- ▶ [Cisco Webex Desk シリーズ](#)
- ▶ [Cisco Webex Room シリーズ](#)

API ガイドを検索するには、リファレンスガイド > コマンドリファレンスの順に選択します。

インストールとアップグレード

インストールおよびアップグレードのガイド

- ・ [インストールガイド](#): 製品のインストール方法
- ・ [スタートアップガイド](#): デバイスを稼働するための初期設定
- ・ [RCSI ガイド](#): 規制コンプライアンスおよび安全性情報

管理および運用 [英語]

管理と運用ガイド

- ・ [管理者ガイド](#): 製品の管理に必要な情報
- ・ [CUCM での TelePresence エンドポイント導入ガイド](#): Cisco Unified Communications Manager (CUCM) で製品を使い始めるためのタスク

エンドユーザガイド

- ・ [ユーザガイド](#): 製品の使用方法
- ・ [クイックリファレンス ガイド](#): 製品の使用方法

リファレンスガイド

コマンド リファレンス

- ・ [API リファレンスガイド](#): アプリケーションプログラミングインターフェイス (API) のリファレンスガイド

テクニカル リファレンス

- ・ [CAD ドローイング](#): 寸法付きの 2D CAD ドローイング

設定

設定ガイド

- ・ [カスタマイズガイド](#): ユーザーインターフェイスのカスタマイズ方法、デバイスの API を使用した室内コントロールのプログラム方法、マクロの作成方法、オーディオコンソールを使用した高度な音声セットアップ構成方法、その他のカスタマイズ。

デザイン

設計ガイド

- ・ [ビデオ会議室のガイドライン](#): 会議室の設計とベストプラクティスに関する一般的なガイドライン
- ・ [ビデオ会議音響環境ガイドライン](#): 音声品質を向上させるためにやるべきこと

ソフトウェアのダウンロード、リリース、および一般情報

リリースノート

- ・ [リリース ノートと延期の通知](#)

ライセンス情報

- ・ [オープンソースライセンス](#): この製品で使用されるオープンソースソフトウェアのライセンスと注意事項



はじめに

API について

xConfiguration

xコマンド

xStatus

付録

知的財産権

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている式、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

Cisco が採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティングシステムの UCB(University of California, Berkeley)のパブリックドメイン パージョンとして、UCB が開発したプログラムを採用したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。CISCO およびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、CISCO およびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性が CISCO またはその供給者に知られていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

定型 このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。 定型 マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワークボロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

すべての印刷されたコピーおよび複製されたソフトコピーは管理外のコピーと見なされ、元のオンラインバージョンを参照して最新版を確認する必要があります。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。アドレス、電話番号、FAX 番号の一覧は Cisco ウェブサイト www.cisco.com/go/offices に記載されています。

Cisco および Cisco ロゴは、シスコまたはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Cisco の商標一覧は www.cisco.com/go/trademarks をご覧ください。記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。「パートナー」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1110R)

Cisco の連絡先

当社のウェブサイトでは、世界中の Cisco 連絡先の概要をご覧いただけます。

リンク: ▶ <https://www.cisco.com/go/offices>

本社

Cisco Systems, Inc.

170 West Tasman Dr.

San Jose, CA 95134 USA